仙台市文化財調査報告書第 467 集

西台畑遺跡第13次調査

―仙台市あすと長町26街区・集合住宅建設に伴う発掘調査報告書―

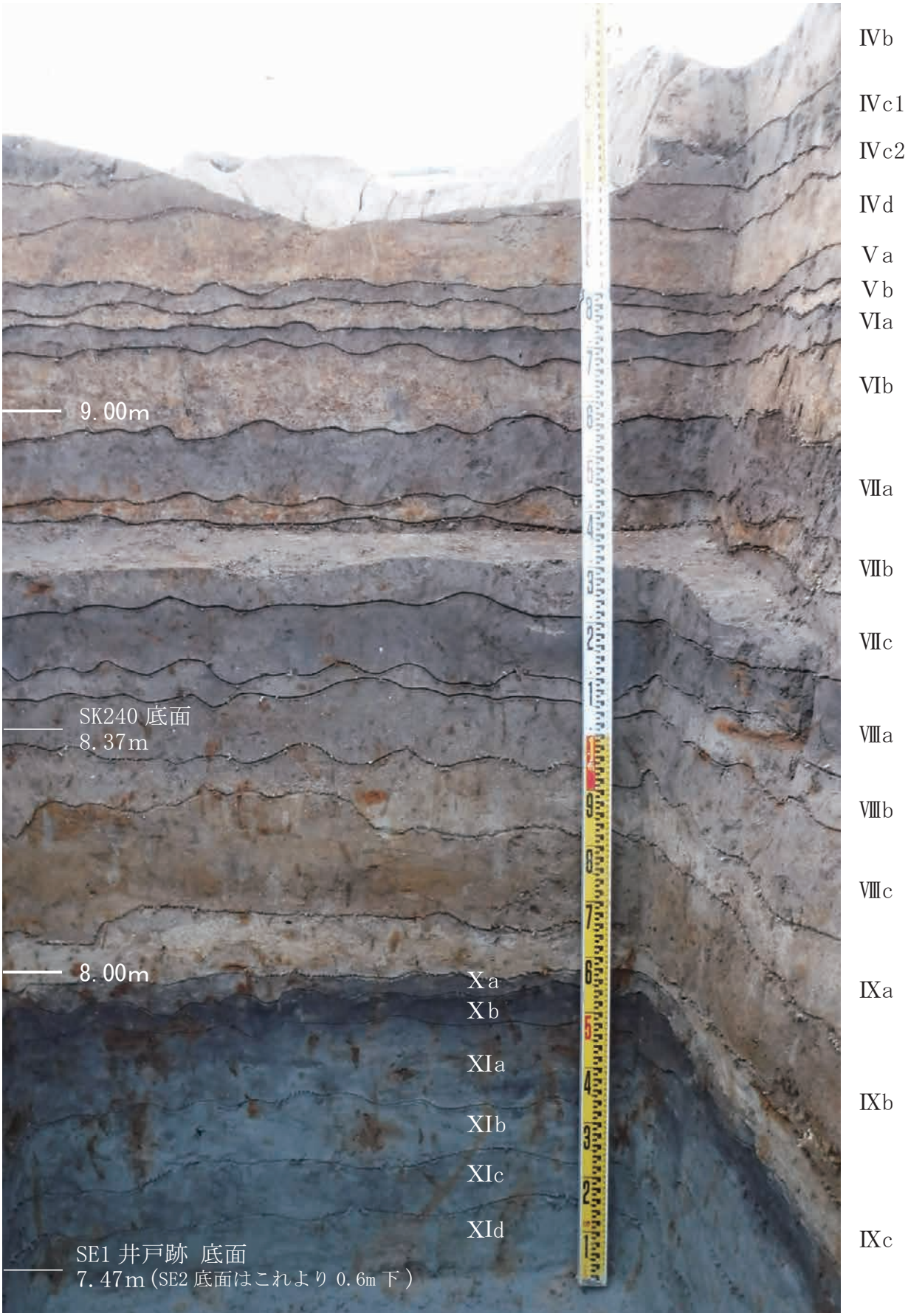
2018 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

住 友 不 動 産 株 式 会 社

調査区全景（南から）

調査区全景（南東から）



基本層（下層調査Ｂ区北壁）

調査区北西部（南東から）

調査区南西部（北東から）

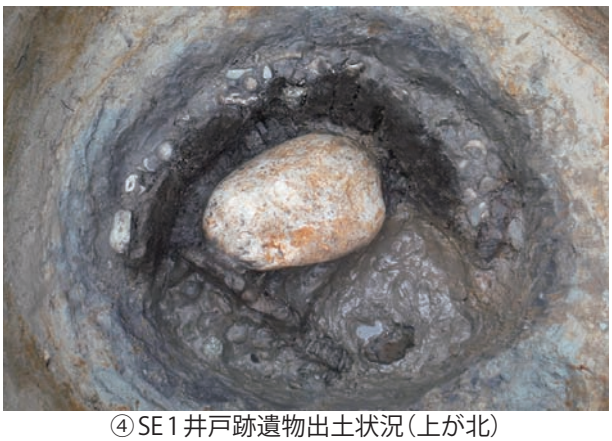
SI 261 竪穴住居跡全景（南西から）

SI 264 竪穴住居跡全景（南東から）

①SK240土坑断面（南から）

②SE１井戸跡断面（上が北）

③SE１井戸跡断面（南から）


④SE１井戸跡遺物出土状況（上が北）

⑤SE１井戸跡遺物出土状況（上が北）

⑥SE１井戸跡底面（上が北）

⑦SE１井戸跡井戸枠（南から）

⑧SE１井戸跡断面（南から）

①SE2井戸跡断面（西から）

②SE2井戸跡断面（北西から）

③SE2井戸跡断面（北西から）

④SE2井戸跡断面（西から）

⑤SE2井戸跡断面（南西から）

⑥SE2井戸跡断面（西から）

⑦SE2井戸跡土居桁（南から）

⑧SE2井戸跡土居桁（南から）

SI 262 竪穴住居跡出土遺物

SI 264 竪穴住居跡出土遺物

SE１井戸跡出土遺物

SK236・241土坑出土遺物

序　　文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろから御理解、御協力を賜り感謝申し上げます。

市内には、旧石器時代から近世にいたるまで数多くの埋蔵文化財が遺っております。当教育委員会では、先人たちの遺した貴重な文化遺産を保護し、保存・活用を図りながら次の世代に継承していけるよう努めているところであります。

西台畑遺跡は、昭和32 年、煉瓦工場地内での粘土の採掘中に弥生土器が発見され、東北大学の伊東信雄先生により出土状況の調査が行われたことから、その存在が明らかとなりました。

また、平成10年からこれまで本市が実施した仙台市あすと長町土地区画整理事業に伴う発掘調査では、これまでに古墳時代前期から古代にかけての700軒を超える竪穴住居跡が発見されており、特に、隣接する長町駅東遺跡の集落とともに、古墳時代後期～奈良時代としては東北地方でも最大級の集落が、この事業地内にあったことが明らかになってきました。これらの集落は、平成18 年に国史跡指定を受けた多賀城造営以前の陸奥国府と考えられる郡山遺跡官衙の西側に位置しており、関連する遺物も出土していることから、官衙の造営や運営に携わった人々が生活した場所であると考えられます。

本報告書は、仙台市あすと長町土地区画整理事業地内における集合住宅建設に伴って行った西台畑遺跡第13次発掘調査の成果をまとめたものです。当教育委員会では、発掘調査状況の公開・活用を進めるため、調査の概要を紹介する広報板の掲示や遺跡見学会の開催など、今後もより多くの市民の皆様に興味を持っていただけるような活動を行っていきたいと考えております。そのためにも、今回の調査成果が、地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、多くの方々に活用されれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から本報告書の刊行に際しまして、ご指導、ご協力くださいました皆様に深く感謝申し上げる次第です 。

平成30年3月

仙台市教育委員会

教育長　大越　裕光

例　　言

1．本書は、仙台市あすと長町26街区地内の集合住宅建設に伴う西台畑遺跡第13次調査の発掘調査報告書である。
2．本書の作成において、野外調査における測量業務および遺構図作成業務については株式会社シン技術コンサルに委託し、鈴木隆が業務の監理を行った。
3．本書の執筆は、第1～3 章を吉田慎太郎、4・5・7章を鈴木隆、第6章を古代の森研究舎 吉川純子が行った。編集は鈴木隆が行った。
4．樹種同定分析および植物化石分析については、古代の森研究舎に委託した。
5．出土陶器、磁器の年代・産地の確認は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 佐藤洋が行った。
6．発掘調査及び報告書の作成にあたり住友不動産株式会社にご協力を賜った。記して感謝の意を表す次第である。
7．本書の調査成果については、これまで宮城県遺跡調査成果発表会などにおいて、その内容の一部が紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先する。
8．調査・整理に関する全ての資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

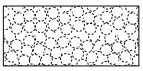
1．第1および第2・3図の地形図は、それぞれ国土地理院発行 数値地図「仙台」1:25,000、国土地理院発行「長町」1:10,000を使用した。
2．遺構図中の座標値は、日本測地系「平面直角座標第Ｘ系」を基準としている。図中および本文記載の方位北は、基本座標北を基準とした。
3．本文中の土色の記載は「新版 標準土色帖」2000 年度版(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)を使用した。
4．断面図の数値は、海抜高度(T.P)を示す。
5．調査において検出された遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構ごとに番号を付した。
SB: 掘立柱建物跡　SD:溝跡　SI:竪穴住居跡　SK: 土坑　P:ピット
6．竪穴住居跡における主軸方位の算出、壁面呼称の基準については、原則として『西台畑遺跡第1･2次調査』(仙台市教委2010 b)に準じた。
7．遺構図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。また、各図に必要に応じて凡例を付した。

柱痕跡　　被熱範囲

8．出土遺物の登録には以下の遺物記号を使用し、種別毎にアラビア数字を付した。
B:弥生土器　C: 土師器(非ロクロ調整)　E:須恵器　K:石器　L:木製品　N: 金属製品　P: 土製品　Q: 自然遺物
9．遺物実測図の縮尺は1/3を基本としたが、必要に応じて変更した。
10．土師器の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。これ以外のものについては、その都度図中に示した。

黒色処理

11. 土師器の器種および部位呼称、計測位置は『西台畑遺跡第1·2 次調査』（仙台市教委　前掲）に準じた。
12. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。

敲打痕 

13. 遺構·遺物の観察表内における( )付の計測値は、土器類の各径については推定、その他は残存値を示す。
14. 掲載した遺物写真の縮尺は原則として遺物実測図に準じた。但し、その縮尺での掲載が困難な場合は、適宜縮尺を変更した。

目　次

巻頭カラー
序文
例言・凡例

第１章　調査に至る経過 …… 1
第1節　調査事由 …… 1
第2節　調査要項 …… 1

第２章　遺跡の立地と環境 …… 2

第３章　調査の方法と概要 …… 5
第1節　調査の方法 …… 5
(1)調査区の設定 …… 5
第2節　調査概要 …… 5
(1)調査経過 …… 5
(2)測量基準・図面の作成 …… 6
(3)遺物の取り上げ・調査記録の作成 …… 6
(4)遺構登録番号 …… 6
(5)調査報告書作成作業 …… 6

第４章　基本層序と下層調査 …… 9
第1節　基本層序 …… 9
第2節　下層調査 …… 9

第５章　検出遺構と出土遺物 …… 10
第1節　近代以降の遺構と遺物 …… 10
(1)粘土採掘坑跡 …… 10
(2)便槽遺構 …… 10
第2節　中世～近世の遺構と遺物 …… 10
(1)溝跡 …… 10
第3節　古墳時代～古代の遺構と遺物 …… 14
(1)竪穴住居跡 …… 14
(2)掘立柱建物跡 …… 107
(3)溝跡 …… 111

(4)井戸跡 …… 123
(5)土坑 …… 137
(6)ピット …… 146
第4節　遺構外出土遺物 …… 166

第6章　樹種同定・植物化石分析 …… 169
第1節　西台畑遺跡第13次調査井戸跡出土加工材の樹種同定 …… 169
第2節　西台畑遺跡第13次調査井戸跡出土の大型植物化石 …… 171

第7章　総括 …… 173
第1節　検出遺構の時期的変遷について …… 173
第2節　竪穴住居跡の出土土器について …… 174
第3節　井戸跡の出土遺物について …… 180

引用参考文献
報告書抄録

挿図目次

第1図　西台畑遺跡と周辺の遺跡 …… 3
第2図　西台畑遺跡の位置と第13次調査地点 …… 4
第3図　西台畑遺跡第13次調査地点と周辺の調査 …… 4
第4図　西台畑遺跡第13次調査区と周辺の調査区 …… 5
第5図　西台畑遺跡第13次調査区配置グリッド配置図 …… 6
第6図　基本層序・下層調査 …… 7・8
第7図　中世以降遺構配置図 …… 11
第8図　溝跡 …… 12
第9図　溝跡出土遺物 …… 13
第10図　古墳時代～古代遺構配置 …… 15
第11図　古墳時代～古代竪穴住居跡・掘立柱建物跡遺構配置図 …… 16
第12図　SI256竪穴住居跡 …… 17
第13図　SI256竪穴住居跡出土遺物 …… 18
第14図　SI257竪穴住居跡 …… 19
第15図　SI257竪穴住居跡出土遺物 …… 20
第16図　SI258竪穴住居跡 …… 22
第17図　SI258竪穴住居跡出土遺物 …… 23
第18図　SI259竪穴住居跡 …… 24
第19図　SI261竪穴住居跡 …… 25
第20図　SI261竪穴住居跡出土遺物(1) …… 27
第21図　SI261竪穴住居跡出土遺物(2) …… 28
第22図　SI262竪穴住居跡(1) …… 29
第23図　SI262竪穴住居跡(2) …… 30
第24図　SI262竪穴住居跡(3) …… 33
第25図　SI262竪穴住居跡(4) …… 34
第26図　SI262竪穴住居跡(5) …… 35
第27図　SI262竪穴住居跡出土遺物(1) …… 39
第28図　SI262竪穴住居跡出土遺物(2) …… 40
第29図　SI262竪穴住居跡出土遺物(3) …… 41
第30図　SI263竪穴住居跡 …… 42
第31図　SI264竪穴住居跡(1) …… 44
第32図　SI264竪穴住居跡(2) …… 45

第33図　SI264竪穴住居跡（3）…… 47
第34図　SI264竪穴住居跡出土遺物（1）…… 49
第35図　SI264竪穴住居跡出土遺物（2）…… 50
第36図　SI264竪穴住居跡出土遺物（3）…… 51
第37図　SI265竪穴住居跡（1）…… 53
第38図　SI265竪穴住居跡（2）…… 54
第39図　SI265竪穴住居跡出土遺物 …… 55
第40図　SI266竪穴住居跡（1）…… 56
第41図　SI266竪穴住居跡（2）…… 58
第42図　SI266竪穴住居跡出土遺物（1）…… 60
第43図　SI266竪穴住居跡出土遺物（2）…… 61
第44図　SI266竪穴住居跡出土遺物（3）…… 62
第45図　SI266竪穴住居跡出土遺物（4）…… 63
第46図　SI267竪穴住居跡 …… 64
第47図　SI267竪穴住居跡出土遺物 …… 64
第48図　SI268竪穴住居跡（1）…… 66
第49図　SI268竪穴住居跡（2）…… 67
第50図　SI268竪穴住居跡出土遺物（1）…… 69
第51図　SI268竪穴住居跡出土遺物（2）…… 70
第52図　SI269竪穴住居跡（1）…… 72
第53図　SI269竪穴住居跡（2）…… 73
第54図　SI269竪穴住居跡出土遺物 …… 75
第55図　SI270竪穴住居跡（1）…… 76
第56図　SI270竪穴住居跡（2）…… 77
第57図　SI270竪穴住居跡出土遺物 …… 78
第58図　SI272竪穴住居跡 …… 81
第59図　SI272竪穴住居跡出土遺物 …… 82
第60図　SI273竪穴住居跡 …… 83
第61図　SI273竪穴住居跡出土遺物 …… 84
第62図　SI274竪穴住居跡 …… 85
第63図　SI274竪穴住居跡出土遺物 …… 86
第64図　SI275竪穴住居跡（1）…… 87
第65図　SI275竪穴住居跡（2）…… 88
第66図　SI275竪穴住居跡（3）…… 89
第67図　SI275竪穴住居跡出土遺物 …… 91
第68図　SI276竪穴住居跡 …… 93
第69図　SI277竪穴住居跡 …… 94
第70図　SI277竪穴住居跡出土遺物 …… 94
第71図　SI278竪穴住居跡 …… 95
第72図　SI278竪穴住居跡出土遺物 …… 95
第73図　SI279竪穴住居跡（1）…… 96
第74図　SI279竪穴住居跡（2）…… 97
第75図　SI279竪穴住居跡出土遺物 …… 98
第76図　SI280竪穴住居跡 …… 100
第77図　SI281竪穴住居跡 …… 101
第78図　SI282竪穴住居跡（1）…… 103
第79図　SI282竪穴住居跡（2）…… 104
第80図　SI282竪穴住居跡出土遺物 …… 104
第81図　SI283竪穴住居跡 …… 105
第82図　SI284竪穴住居跡 …… 106
第83図　SB1掘立柱建物跡 …… 108
第84図　SB1掘立柱建物跡出土遺物 …… 109
第85図　SB2掘立柱建物跡 …… 110
第86図　SB2掘立柱建物跡出土遺物 …… 111
第87図　古墳時代～古代溝跡・井戸・
土坑遺構配置図 …… 112
第88図　溝跡(1) …… 114
第89図　溝跡(2) …… 116
第90図　溝跡(3) …… 118
第91図　溝跡(4) …… 120
第92図　溝跡出土遺物 …… 122
第93図　SE1井戸跡・SK240 …… 125・126
第94図　SE1井戸跡出土遺物（1）…… 127
第95図　SE1井戸跡出土遺物（2）…… 128
第96図　SE1井戸跡出土遺物（3）…… 129
第97図　SE1井戸跡出土遺物（4）…… 130
第98図　SE1井戸跡出土遺物（5）…… 131
第99図　SE1井戸跡出土遺物（6）…… 132
第100図　SE2井戸跡 …… 133
第101図　SE2井戸跡出土遺物（1）…… 134
第102図　SE2井戸跡出土遺物（2）…… 135
第103図　SE2井戸跡出土遺物（3）…… 136

第104図　土坑（1）…… 139
第105図　土坑（2）…… 140
第106図　SK226・234・238土坑出土遺物…… 141
第107図　SK236土坑出土遺物（1）…… 143
第108図　SK236土坑出土遺物（2）…… 144
第109図　SK236土坑出土遺物（3）…… 145
第110図　SK241土坑出土遺物（1）…… 147
第111図　SK241土坑出土遺物（2）…… 148
第112図　ピット（1）…… 149
第113図　ピット（2）…… 150
第114図　ピット（3）…… 151
第115図　ピット（4）…… 152
第116図　ピット（5）…… 153
第117図　ピット（6）…… 154
第118図　ピット（7）…… 155
第119図　ピット（8）…… 156
第120図　ピット（9）…… 157
第121図　ピット（10）…… 158
第122図　ピット（11）…… 159
第123図　ピット出土遺物 …… 164
第124図　遺構検出面出土遺物（1）…… 165
第125図　遺構検出面出土遺物（2）…… 167
第126図　カクラン出土遺物 …… 168
第127図　竪穴住居跡出土土器集成（1）…… 175
第128図　竪穴住居跡出土土器集成（2）…… 176
第129図　竪穴住居跡出土土器集成（3）…… 177
第130図　竪穴住居跡出土土器集成（4）…… 178
第131図　竪穴住居跡出土土器集成（5）…… 179
第132図　井戸跡出土土器集成 …… 181
第133図　西台畑遺跡13次調査出土
有孔石製品と関連資料 …… 182

挿表目次

第1表　西台畑遺跡年度別調査成果一覧…… 2
第2表　西台畑遺跡第13次調査井戸跡
出土加工材の樹種 …… 169
第3表　西台畑遺跡第13次調査井戸跡
出土の大型植物化石 …… 171

写真図版目次

写真図版1　調査区全景 …… 187
写真図版2　調査区東側全景 …… 188
写真図版3　基本層（1）…… 189
写真図版4　基本層（2）・下層調査…… 190
写真図版5　SI256～259 …… 191
写真図版6　SI261 …… 192
写真図版7　SI262（1）…… 193
写真図版8　SI262（2）…… 194
写真図版9　SI262（3）…… 195
写真図版10　SI263 …… 196
写真図版11　SI264（1）…… 197
写真図版12　SI264（2）…… 198
写真図版13　SI265 …… 199
写真図版14　SI266 …… 200

写真図版15　SI267・268（1）　……201
写真図版16　SI268（2）……202
写真図版17　SI269……203
写真図版18　SI270……204
写真図版19　SI272・273　……205
写真図版20　SI274・275（1）　……206
写真図版21　SI275（2）……207
写真図版22　SI275（3）……208
写真図版23　SI276・277　……209
写真図版24　SI278・279（1）　……210
写真図版25　SI279（2）……211
写真図版26　SI280・281　……212
写真図版27　SI282・283　……213
写真図版28　SI284……214
写真図版29　SB1（1）……215
写真図版30　SB1（2）……216
写真図版31　SB1（3）……217
写真図版32　SB2（1）……218
写真図版33　SB2（2）……219
写真図版34　SD（1）　……220
写真図版35　SD（2）　……221
写真図版36　SK240・SE1（1）　……222
写真図版37　SE1（2）……223
写真図版38　SE1（3）……224
写真図版39　SE2（1）……225
写真図版40　SE2（2）……226
写真図版41　SK（1）　……227
写真図版42　SK（2）　……228
写真図版43　ピット……229
写真図版44　その他の遺構　……230
写真図版45　SI256・257 竪穴住居跡
出土遺物　……231
写真図版46　SI258・261 竪穴住居跡
出土遺物　……232
写真図版47　SI262 竪穴住居跡出土遺物(1)　……233
写真図版48　SI262 竪穴住居跡出土遺物(2)　……234
写真図版49　SI264 竪穴住居跡出土遺物(1)　……235
写真図版50　SI264 竪穴住居跡出土遺物(2)　……236
写真図版51　SI264 竪穴住居跡出土遺物(3)　……237
写真図版52　SI265 竪穴住居跡
SI266 竪穴住居跡出土遺物(1)　……238
写真図版53　SI266 竪穴住居跡出土遺物(2)　……239
写真図版54　SI266 竪穴住居跡出土遺物(3)　……240
写真図版55　SI267 竪穴住居跡出土遺物
SI268 竪穴住居跡出土遺物(1)　……241
写真図版56　SI268 竪穴住居跡出土遺物(2)
SI269 竪穴住居跡出土遺物　……242
写真図版57　SI270・272～274竪穴住居跡
出土遺物　……243
写真図版58　SI275 竪穴住居跡出土遺物(1)　……244
写真図版59　SI275（2）・277～279・282
竪穴住居跡出土遺物　……245
写真図版60　掘立柱建物跡出土遺物
溝跡出土遺物　……246
写真図版61　SD132 溝跡出土遺物　……247
写真図版62　SE1 井戸跡出土遺物(1)　……248
写真図版63　SE1 井戸跡出土遺物(2)
SK240 土坑出土遺物　……249
写真図版64　SE1 井戸跡出土遺物(3)　……250
写真図版65　SE1 井戸跡出土遺物(4)　……251
写真図版66　SE1 井戸跡出土遺物(5)　……252
写真図版67　SE1 井戸跡出土遺物(6)　……253
写真図版68　SE1 井戸跡出土遺物(7)　……254
写真図版69　SE2 井戸跡出土遺物(1)　……255
写真図版70　SE2 井戸跡出土遺物(2)　……256
写真図版71　SE2 井戸跡出土遺物(3)　……257
写真図版72　SK236（1）他 土坑出土遺物……258
写真図版73　SK236 土坑出土遺物(2)……259
写真図版74　SK241 土坑出土遺物(1)　……260
写真図版75　SK241 土坑出土遺物(2)　……261
写真図版76　ピット出土遺物……262
写真図版77　遺構検出面・精査出土遺物(1)　……263

写真図版78　遺構検出面・精査出土遺物(2)　‥‥264
写真図版79　カクラン出土遺物(1)　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥265
写真図版80　カクラン出土遺物(2)　‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥266
写真図版81　出土土師器にみられる痕跡‥‥‥‥‥‥267
写真図版82　有孔石製品にみられる痕跡‥‥‥‥‥‥‥268

第6章　樹種同定・植物化石分析図版
図版1　西台畑遺跡第13次調査井戸跡出土
加工材の顕微鏡写真 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 170
図版2　西台畑遺跡第13次調査井戸跡出土
大型植物化石の写真 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 172

第 1 章　調査にいたる経過

第1節　調査事由(第1図)

今回の調査は、西台畑遺跡に該当するあすと長町土地区画整理事業地内 26 街区において、住友不動産株式会社およびワールドアイシティ株式会社により仙台市教育委員会に対し、平成 26 年 12 月 16 日付で集合住宅建設に伴う「埋蔵文化財の取扱いについて（協議）」が提出（平成 26 年 12 月 18 日付 H26 教生文第 108-175 号で回答）されたことに始まる。開発予定地は遺跡南部にあたり、平成12年に行った西台畑遺跡第3次調査区の南に隣接している。

当該地においては、平成 17 年に第 5 次調査として既にトレンチ調査（7 ～ 9T）が行われていたが、この開発計画に対し改めて遺構の拡がりを確認するため確認調査を実施することとなった。調査区は建設予定範囲内に 9 箇所設定した。その結果、1 箇所では GL-0.7 m で遺構検出面に達し、遺構検出作業を行ったところ、竪穴住居跡等の遺構を確認した。また、3 箇所で遺構確認面を確認した。残りの 5 箇所では撹乱により遺構面の確認ができなかった。これらの成果により、当該地における建物予定範囲を対象に、遺構検出面が確認できた範囲を中心に本発掘調査を実施することとなった。

教育委員会と事業者による協議の結果、全体計画は、1 年次に野外調査、2 年次に報告書作成、3 年次に報告書刊行の 3 年で実施することとなった。

第2節　調査要項

遺跡名称：西台畑遺跡 (宮城県遺跡登録番号 01005)

所 在 地：仙台市太白区あすと長町 4 丁目 3 番 6，3 番 7

調査原因：仙台市あすと長町土地区画整理事業地 26 街区・集合住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査

調査主体：仙台市教育委員会

(1) 確認調査

調査期間：平成 27 年 2 月 16 日～ 2 月 19 日

調査対象面積：3436.81㎡

調査面積：合計 130㎡（1T：20㎡、2T：20㎡、3T：20㎡、4T：10㎡、5T：14㎡、6T：10㎡、7T：12㎡、8T：10㎡、9T：14㎡）

調査担当：仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係　主査 平間亮輔　　主任 工藤信一郎　　主事 黒田智章
文化財教諭 千葉悟　　同 早坂純一

(2) 本発掘調査（平成 27 年度）

調査期間：平成 27 年 5 月 19 日～ 11 月 7 日

調査面積：1,660㎡

調査担当：仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係 主任 鈴木隆　主事 及川謙作　文化財教諭 吉田慎太郎

(3) 報告書作成（平成 28 年度）

整理担当：仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係　主任　鈴木隆

報告書作成支援：株式会社　シン技術コンサル　測量技師　金子堅二

整理期間：平成 28 年 4 月 28 日～平成 29 年 3 月 31 日

(4) 報告書刊行（平成 29 年度）

業務担当：仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係　主任　鈴木隆

業務期間：平成 29 年 4 月 28 日～平成 30 年 3 月 30 日

第２章　遺跡の立地と環境

西台畑遺跡は、仙台市南東部、太白区郡山二丁目に拡がる遺跡で、面積は6,226㎡におよぶ。広瀬川と名取川に挟まれた沖積地（郡山低地）の東側、標高約11 m の自然堤防上に立地する。自然堤防は、郡山遺跡の北側で2分し、一方は南下し本遺跡から長町駅東遺跡まであすと長町地区全体の基盤を成している。また一方は広瀬川に沿って南東方向へ延び、その東端には北目城跡が立地している。遺跡内からは、その形成に関与した旧広瀬川やその支流と考えられる河川跡が多数確認されており、遺跡南側には地表面に1 ～ 1.5m 程度の段差が残る河川跡がみられる。本遺跡の基本層では、これらの河川による堆積土と旧表土の形成が交互に形成された過程を確認することができる。

本遺跡の東には多賀城以前の陸奥国府跡と考えられる郡山遺跡が、南西には本遺跡と共に郡山遺跡の官衙と関連する長町駅東遺跡が隣接する。特に郡山遺跡は、昭和 55（1980）年から遺跡の範囲や性格の解明を目的とした国庫補助事業による発掘調査によって、7 世紀中頃から 8 世紀初頭の官衙であることが明らかになり、平成 18（2006）年 7 月に「仙台郡山官衙遺跡群　郡山官衙遺跡　郡山廃寺跡」として国史跡の指定を受けている。本遺跡における集落の主体は、長町駅東遺跡とともに郡山官衙と強い結びつきをもつものと考えられる。

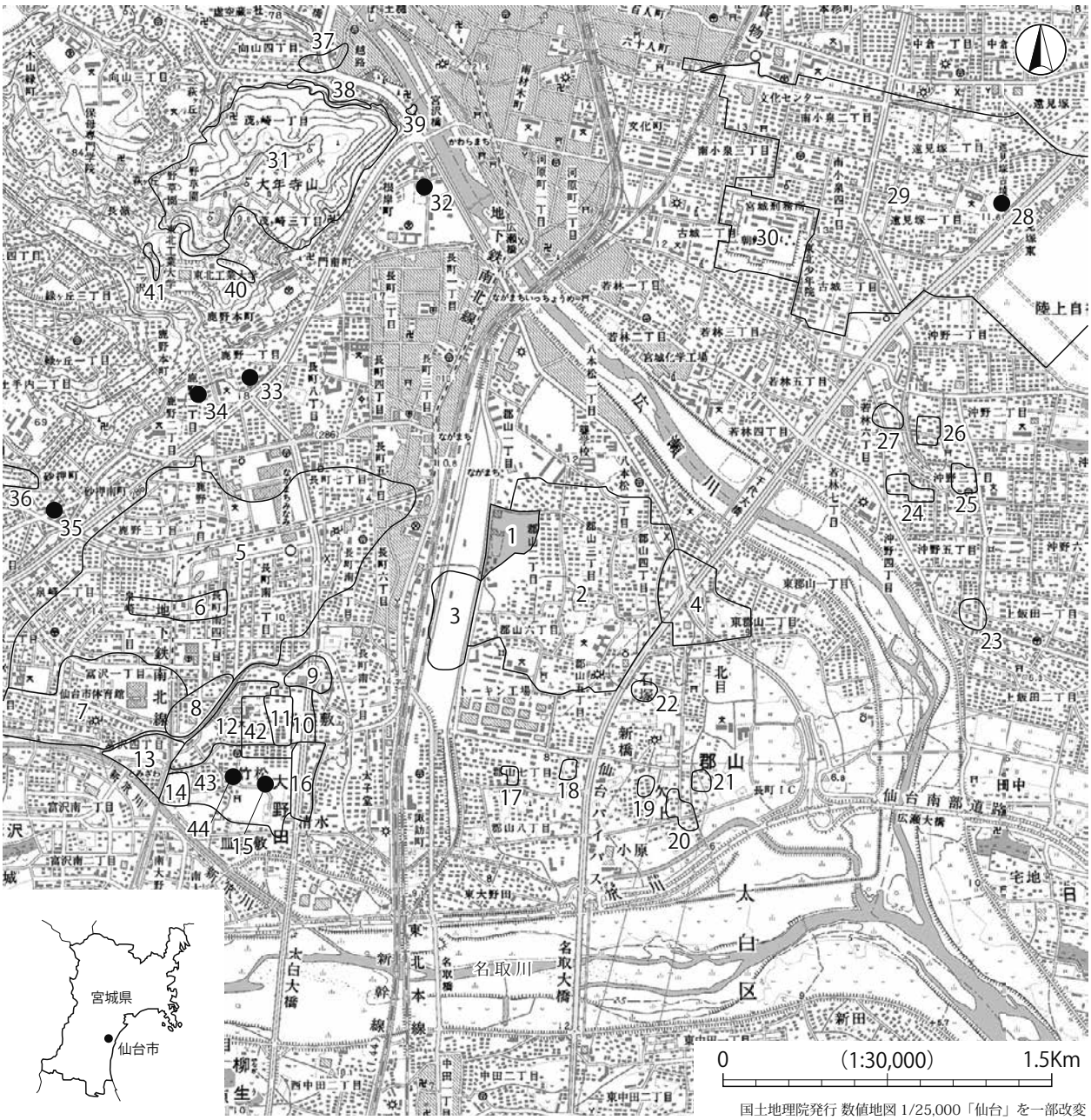
また、本遺跡を含めた3遺跡では、縄文時代後期中葉～晩期末葉の遺物や弥生時代中期中葉を中心とした時期の遺構・遺物が確認されている。西台畑遺跡は、昭和32（1957）年の煉瓦工場の粘土採掘中に弥生土器が発見されたことを契機として登録された遺跡であり、弥生時代中期の土器編年や葬制を考える上で学史的に注目されてきた。

本遺跡では、平成 10（1998）年から区画整理事業の施行に伴う大規模な調査が実施されてきた。今回の調査は 13 次調査となるが、本遺跡における大規模な調査はこれが最後となる。

本遺跡周辺においては、旧石器時代から近世における継続的な土地利用がなされている。これらの歴史的環境の詳細については、『西台畑遺跡第１・2 次調査』（仙台市教委 2010 b）を参照されたい。

第１表　西台畑遺跡年度別調査成果一覧

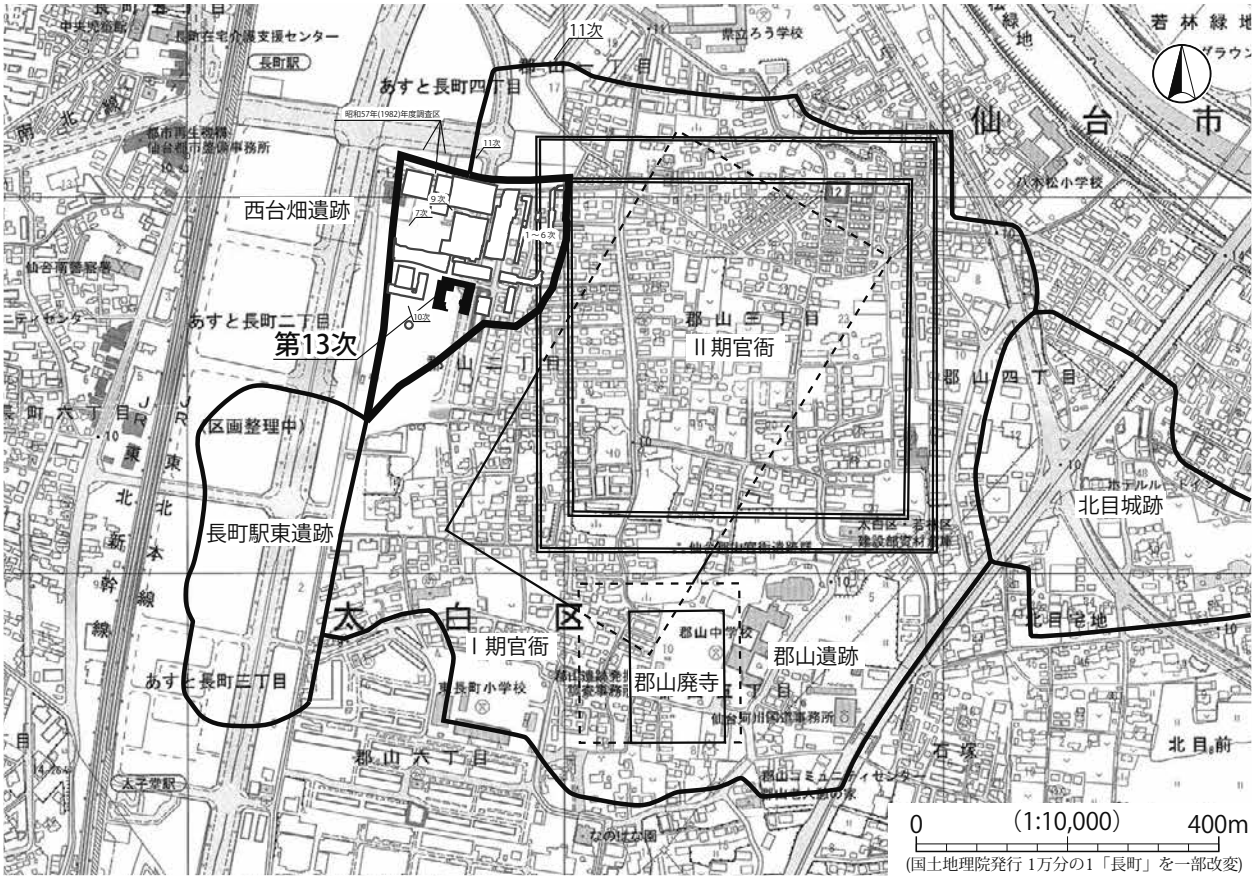
調査年度	調査次数	調査区	調査成果	発掘調査報告書
昭和57年 (1982)	-	遺跡北西部	河川跡	仙台市文化財調査報告書第57集 1983年3月
平成10年 (1998)	第1次調査	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ・Ⅶ区	竪穴住居跡31軒、掘立柱建物跡4棟、溝跡、土坑	仙台市文化財調査報告書第359集 2010年3月
		遺構範囲確認調査	中世屋敷区画溝、井戸跡、弥生時代遺物包含層	
平成11年 (1999)	第2次調査	Ⅱ区南・Ⅳ区西	竪穴住居跡3軒、溝跡、土坑	
		Ⅰ区・Ⅱ区南・Ⅳ区下層調査	弥生時代遺物包含層、土器埋設遺構、土壙墓	
		遺構範囲確認調査	竪穴住居跡1軒、溝跡、ピット	
平成12年 (2000)	第3次調査	Ⅰ区北・Ⅳ区東	竪穴住居跡4軒、溝跡、土坑	
		Ⅱ区北拡張区・Ⅲ区	竪穴住居跡25軒、竪穴遺構、溝跡、井戸跡、土坑、弥生時代遺物包含層	仙台市文化財調査報告書第388集 2011年3月
		Ⅴ区東	竪穴住居跡8軒、溝跡、井戸跡、土坑、弥生時代遺物包含層	仙台市文化財調査報告書第411集 2013年3月
平成13年 (2001)	第4次調査	Ⅴ区西	竪穴住居跡18軒、掘立柱建物跡1棟、溝跡	
平成17年 (2005)	第5次調査	Ⅴ区下層調査	溝跡、弥生時代水田跡	
		17街区遺構範囲確認調査	竪穴住居跡16軒、溝跡	
平成19年 (2007)	第6次調査	個人住宅建設	竪穴住居跡2軒、溝跡2条、土坑	仙台市文化財調査報告書第326集 2008年3月
	第7次調査	17街区南側区画道路	竪穴住居跡26軒、掘立柱建物跡3棟、材木列1条、溝跡、土坑、 弥生時代水田跡、遺物包含層	仙台市文化財調査報告書第411集 2013年3月
平成24年 (2012)	第8次調査	26街区・高齢者福祉施設建設に伴う調査	竪穴住居跡3軒、溝跡、土坑、弥生時代遺物包含層	仙台市文化財調査報告書第409集 2013年1月
平成25年 (2013)	第9次調査	17街区・共同住宅建設に伴う調査	竪穴住居跡41軒、掘立柱建物跡11棟、区画溝1条、井戸跡、土坑、 溝跡、河川跡、弥生時代水田跡、弥生時代溝跡	仙台市文化財調査報告書第441集 2016年3月
	第10次調査	26街区・共同住宅・駐車場棟建設に伴う調査	竪穴住居跡1軒、溝跡	仙台市文化財調査報告書第427集 2014年3月
平成26年 (2014)	第11次調査	17街区・商業施設建設に伴う調査	竪穴住居跡45軒、掘立柱建物跡2棟、区画溝1条、材木列1条、溝跡10条、 井戸跡25基、土坑16基、ピット205基、河川跡（広瀬川）	仙台市文化財調査報告書第442集 2016年3月
	第12次調査	26街区・商業施設建設に伴う調査	竪穴住居跡34軒、一本柱列跡1条、溝跡6条、土坑、弥生時代遺物包含層	仙台市文化財調査報告書第433集 2015年3月
平成27年 (2015)	第13次調査	26街区共同住宅建設に伴う調査	竪穴住居跡28軒、掘立柱建物跡2棟、井戸跡2基、土坑23基、 溝跡33条、ピット560基	本書



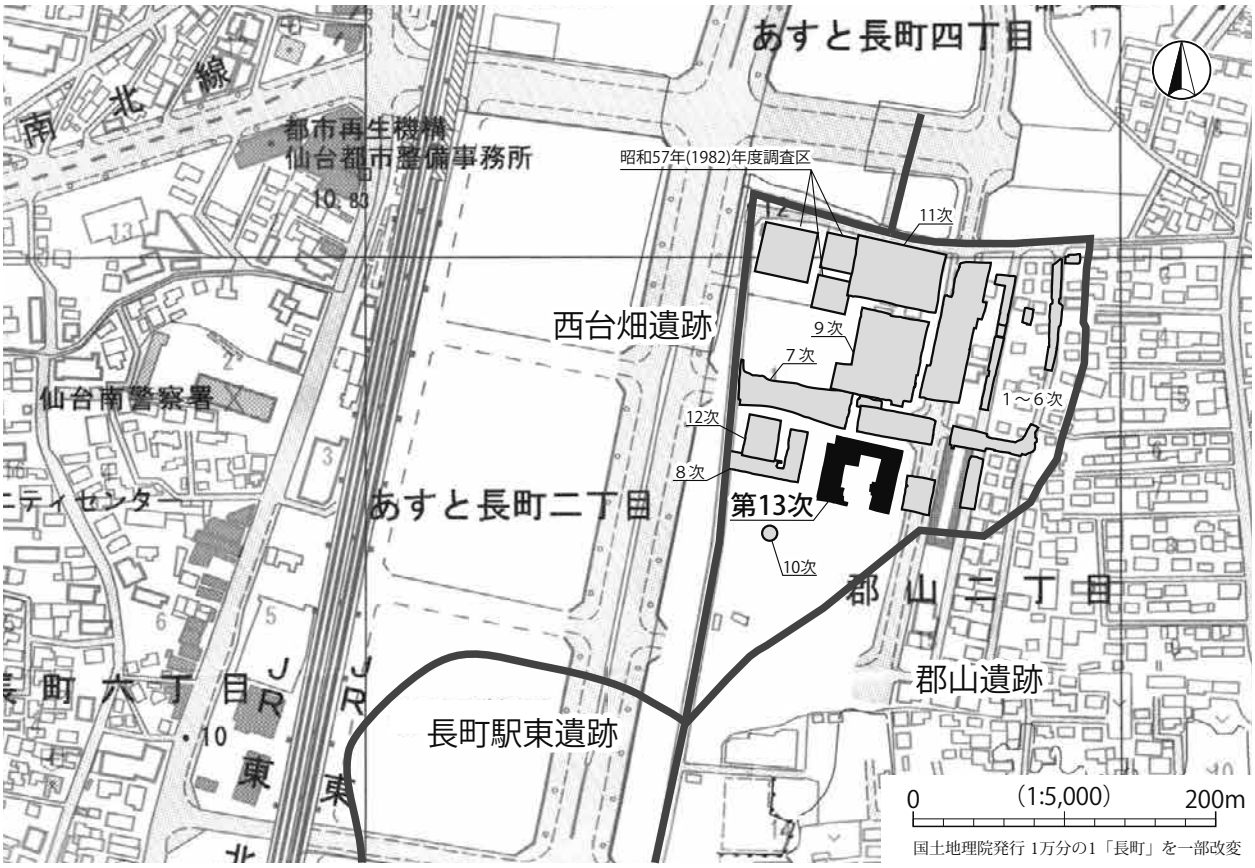
国土地理院発行 数値地図 1/25,000「仙台」を一部改変

№.	遺跡名	種　別	立　地	時　代	№.	遺跡名	種　別	立　地	時　代
1	西台畑遺跡	官衙関連・集落跡	自然堤防	縄文～中世	23	河原越遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
2	郡山遺跡	官衙跡・寺院跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	24	砂押Ⅱ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
3	長町駅東遺跡	官衙関連・集落跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	25	中柵西遺跡	包含地	自然堤防	弥生～平安
4	北目城跡	城館・集落跡	自然堤防	縄文～近世	26	神柵遺跡	包含地	自然堤防	縄文～平安
5	富沢遺跡	集落跡・水田跡	後背湿地	旧石器～近世	27	砂押Ⅰ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
6	泉崎浦遺跡	包含地	自然堤防	縄文・奈良・平安	28	遠見塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
7	山口遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防	縄文・弥生・奈良・平安	29	南小泉遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	弥生～中世
8	下ノ内浦遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	30	若林城跡	城館	自然堤防	中世・近世
9	元袋遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	31	茂ヶ崎城跡	城館	丘陵	中世
10	大野田遺跡	墓域	自然堤防	縄文・弥生	32	兜塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
11	袋前遺跡	集落跡・官衙	自然堤防	縄文～平安	33	一塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
12	六反田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	34	二塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
13	下ノ内遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	35	砂押古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
14	伊古田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	36	土手内横穴墓群	横穴古墳・窯跡	丘陵斜面	古墳
15	鳥居塚古墳	古墳	自然堤防	古墳	37	愛宕山横穴墓群B・C地点	横穴古墳	丘陵斜面	古墳・古代
16	王ノ壇遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	38	大年寺山横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳
17	的場遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	39	宗禅寺横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳
18	篭ノ瀬遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	40	茂ヶ崎横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳・古代
19	欠ノ上Ⅰ遺跡	水田跡	自然堤防	平安・中世	41	二ツ沢横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳
20	欠ノ上Ⅱ遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	42	大野田官衙遺跡	官衙関連	自然堤防	古墳～奈良
21	欠ノ上Ⅲ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安	43	大野田古墳群	古墳・集落跡・官衙	自然堤防	古墳
22	矢来遺跡	散布地	自然堤防	古墳・古代	44	春日社古墳	円墳	自然堤防	古墳

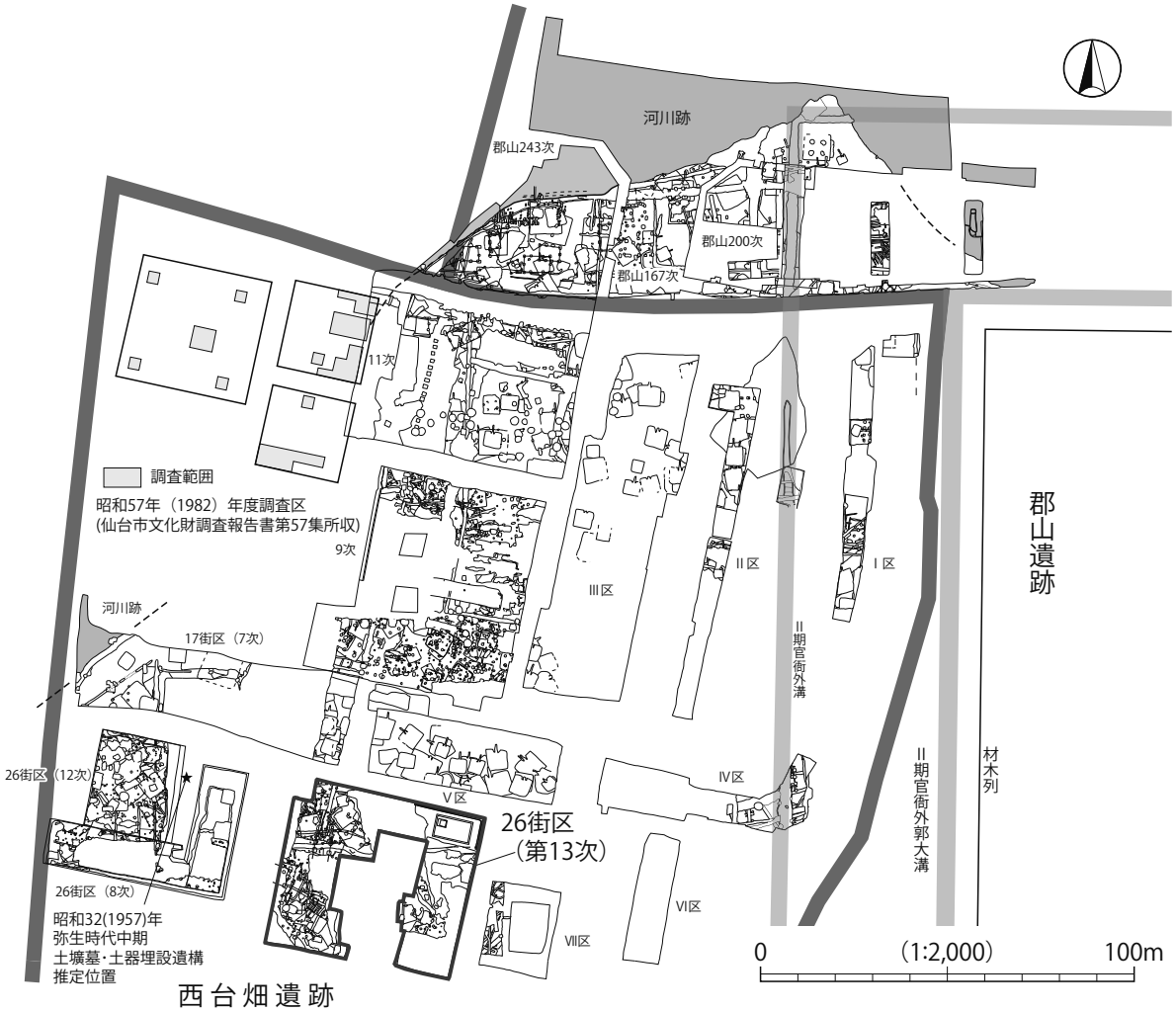
第１図　西台畑遺跡と周辺の遺跡



第 2 図　西台畑遺跡の位置と第 13 次調査地点



第 3 図　西台畑遺跡第 13 次調査地点と周辺の調査



第４図　西台畑遺跡第 13 次調査区と周辺の調査区

第３章　調査の方法と概要

第１節　調査の方法

(1) 調査区の設定（第３・４図）

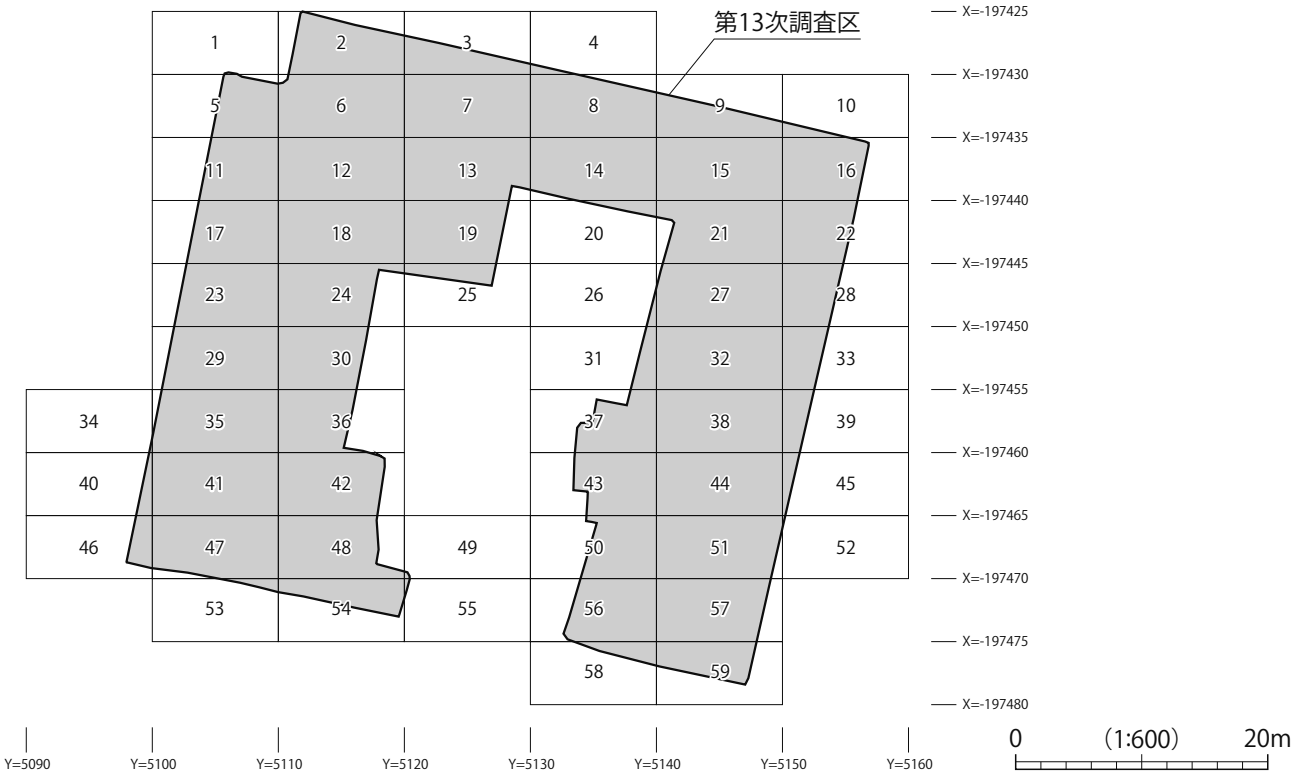
今回の調査は、原則として集合住宅建設予定範囲全体を対象とした。ただし、平成 27 年における確認調査の成果に基づき、中央部のカクラン範囲については当初の調査範囲から除外し、調査の進展に伴い必要に応じて調査区を拡張することとした。調査区はコの字形を呈する。

第２節　調査概要

(1) 調査経過

第13次調査では、調査区東側から重機を用いて表土を除去し、その後人力によって遺構検出、精査を行った。粘土採掘等によるカクランはみられるものの、調査区西側を中心に古代の遺構面が残存していた。調査の結果、竪穴住居跡25 軒、掘立柱建物跡2棟、井戸跡2基の他、土坑、溝跡、ピットと土師器・須恵器等の遺物を確認した。

また、主として弥生時代の遺構や遺物包含層の有無を確認するため、２ ヶ所（A・B 区）で下層調査を行った。A 区で面的に精査したが、水田跡等を確認するには至らなかった。さらに縄文時代の遺物包含層についても確認



第 5 図　西台畑遺跡第 13 次調査区配置　グリッド配置図

するには至らなかった。これらの精査を終えた段階で、高所作業車による調査区全景の写真撮影を行った。

野外調査は埋め戻しを含め 11 月 7 日に終了し、11 月 10 日に申請者側への現場引渡しを行った。

(2) 測量基準・図面の作成

測量は、日本測地系「平面直角座標系第Ｘ系」を基準として、調査区全体を網羅するように南北 5 m × 東西 10 mを単位とする平面区配図を作成した。平面区配図は北西端を 1 とし､59 までの番号を付して遺構図面を作成した。本書での遺構の所在位置は、これをグリッド番号として使用した。測量は、株式会社シン技術コンサルが行った。

(3) 遺物の取り上げ・調査記録の作成

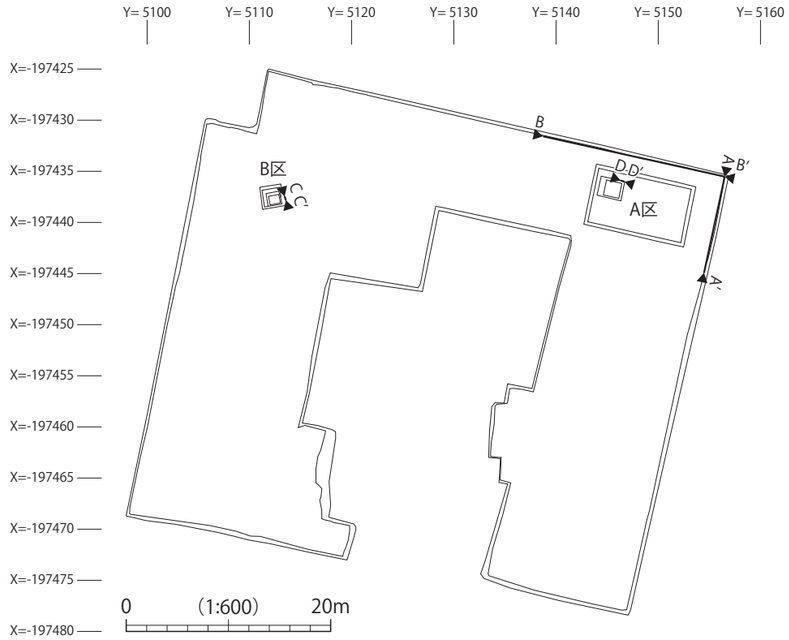
遺物の取り上げにあたっては、作図単位とした平面区配図の番号を利用し、5 × 10 m単位で取り上げている。特に必要と認められた遺物については、詳細な出土状態図と標高値を記録している。整理作業の段階で、主な遺構については遺構観察カードを作成し、事実記載および調査時の所見を記録している。

(4) 遺構登録番号

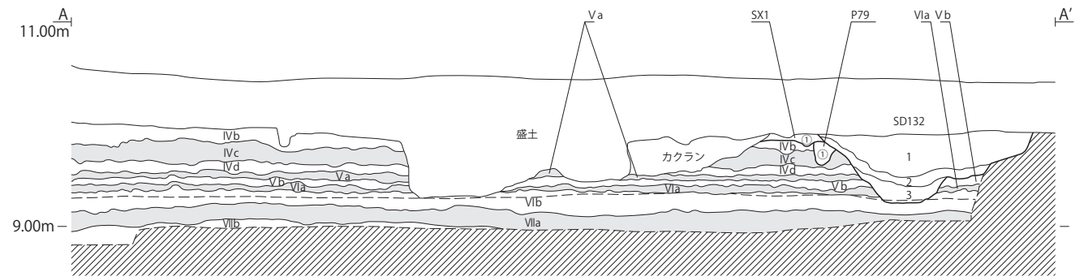
遺構登録番号は、竪穴住居跡、溝跡、土坑についてはあすと長町土地区画整理事業関連発掘調査開始時からの通し番号とし、掘立柱建物跡、井戸跡、ピットについてはそれぞれ 1 番から番号を付した。

(5) 調査報告書作成作業

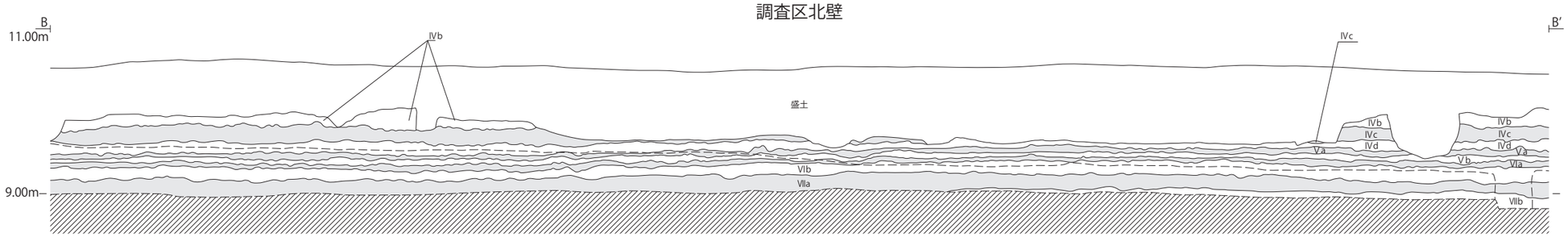
調査報告書作成に伴う整理作業について、測量データの整理および個別の遺構図面作成については株式会社シン技術コンサルが、支援業務として行った。出土遺物の基礎整理および拓本・実測、出土遺物の登録・実測図作成およびトレース・写真撮影、遺構・遺物図版の作成および原稿執筆、編集は仙台市が実施した。

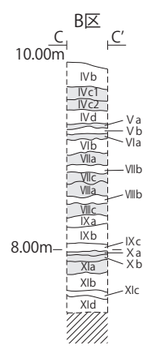


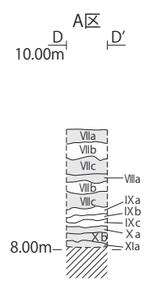
調査区東壁



調査区北壁







基本層序

層位		土色	土性	備考	
Ⅳ	b	10YR4/6 褐色	砂質シルト		
	c1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト		
	c2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ d 層土を径 1 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。鉄分を多量含む。	
	d	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	鉄分、マンガンを多量含む。	
Ⅴ	a	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅴ b 層土を径 5 ～ 10mm の粒状に少量含む。	
	b	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	鉄分、マンガンを多量含む。	
Ⅵ	a	10YR2/2 黒褐色	粘質シルト	下部は暗褐色（10YR3/2）	
	b	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	鉄分、マンガンを多量含む。	
Ⅶ	a	10YR3/2 黒褐色	粘質シルト	鉄分、マンガンを多量含む。	弥生時代中期 水田層（9 次調査）
	b	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	Ⅶ c 層土を斑状にやや多く含む。鉄分多量含む。	
	c	10YR3/3 暗褐色	シルト質粘土	鉄分を多量含む。	
Ⅷ	a	10YR3/2 黒褐色	シルト質粘土	鉄分を多量含む。	
	b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト質粘土	鉄分をやや多く含む。	
	c	10YR5/2 灰黄褐色	シルト質砂	鉄分をやや多く含む。	
Ⅸ	a	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト質砂	一部に細砂を斑状に含む。	
	b	10YR5/6 黄褐色	細砂	鉄分をやや多く含む。	
	c	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	鉄分をやや多く含む。炭化物を少量含む。	
Ⅹ	a	10YR3/3 暗褐色	シルト質粘土	Ⅸ c 層土を径 1 ～ 5mm の粒状に多量含む。Ⅸ c 堆積時に堆積した。Ⅸ c とⅩ b 層の混土。	縄文時代後～晩期 遺物包含層（9 次調査）
	b	10YR3/2 黒褐色	シルト質粘土	鉄分をやや多く含む。	
Ⅺ	a	10YR3/3 暗褐色	シルト質粘土	Ⅺ b 層土を斑状に多量含む。鉄分を多く含む。	
	b	10YR5/1 灰色	粘質シルト	鉄分をやや多く含む。	
	c	10YR4/1 褐灰色	粘質シルト	Ⅺ d 層土を斑状にやや多く含む。鉄分を少量含む。	
	d	10YR5/1 灰色	シルト	鉄分をやや多く含む。	

黒褐色・暗褐色土層

0 (1:60) 2m

第 6 図　基本層序・下層調査

第４章　基本層序と下層調査

第１節　基本層序（第６図）

今次調査区の基本層序は、原則として第９次調査に従い、Ⅰ～Ⅺ層に大別した。この内、Ⅰ～Ⅲ・Ⅳａ層については今次調査区では残存せず、全ての遺構検出はⅣｂ層上面で行った。各層とも下層調査Ａ･Ｂ両区で確認したが、洪水堆積物とみられる褐色ないし黄褐色の砂質土と、旧表土とみられる暗褐色ないし黒褐色の粘質土（第６図アミカケ部）とが交互に堆積する特徴を示している。この内、旧表土形成時が人類の活動可能時期となるが、第３・９次調査においては、古墳時代以前においてもＸ層を中心として縄文時代後～晩期の遺物包含層や、Ⅶ層を中心として弥生時代中期の水田跡が確認されている。今次調査においては、層序として対応する基本層は存在するものの、これらの遺構、遺物を確認することはできなかった。以下、各層の特徴について記述する。

Ⅰ～Ⅲ層：今次調査区では確認していない。

Ⅳ層：層厚は 30 ～ 45cm である。今次調査区でⅣａ層は確認できず、b、c、d の３層に細分した。下層調査Ｂ区においてはｃ層を更に２層に細分した。ｂ層は、褐色の砂質シルト層で、上面は、調査区全体における古墳時代から近世までの遺構検出面となっている。ｃ層は暗褐色の砂質シルト層で、下層調査Ｂ区においてのみ層相の違いから２層に細分した。ｄ層は黄褐色の砂質シルト層である。

Ⅴ層：層厚は 10 ～ 15cm である。a、b の２層に細分した。ａ層は暗褐色の粘質シルト層、ｂ層は黄褐色の砂質シルト層である。

Ⅵ層：層厚は 15 ～ 30cm である。a、b の２層に細分した。ａ層は黒褐色の粘質シルト層、ｂ層は黄褐色の砂質シルト層である。

Ⅶ層：層厚は 30 ～ 45cm である。ａ～ｃの３層に細分した。本層は、第９次調査において弥生時代中期の水田跡や遺物が出土している層序である。なお、今次調査で同様の遺構、遺物は確認していない。ａ層は黒褐色の粘質シルト層、ｂ層は黄褐色の砂質シルト層、ｃ層は暗褐色のシルト質粘土層である。

Ⅷ層：層厚は 30 ～ 35cm である。ａ～ｃの３層に細分した。ａ層は黒褐色のシルト質粘土層、ｂ層は灰黄褐色のシルト質粘土層、ｃ層は灰黄褐色のシルト質砂層である。

Ⅸ層:層厚は 15 ～ 35cm である。ａ～ｃの３層に細分した。今回の基本層中、砂を主体とする唯一の基本層である。ａ層はにぶい黄橙色のシルト質砂層、ｂ層は黄褐色の細砂層、ｃ層はにぶい黄橙色のシルト層である。

Ｘ層：層厚は 10 ～ 15cm である。a、b の２層に細分した。ａ層は暗褐色のシルト質粘土層、ｂ層は黒褐色のシルト質粘土層である。本層は、第９次調査において縄文時代後期～晩期の遺物が出土している層序である。なお、今次調査で同様の遺構、遺物は確認していない。

Ⅺ層：層厚は 50cm 以上である。ａ～ｄの４層に細分した。

第２節　下層調査（第６図）

Ａ区においては、標高 9.3 ～ 9.4 ｍのⅥａ層上面および標高 9.2 ～ 9.3 ｍのⅦａ･Ⅶｂ層上面で面的な調査を行った。西台畑遺跡においては、遺跡の比較的広範囲にわたって、標高 9.0 ～ 9.5 ｍのレベルで弥生時代の遺構、遺物が確認されている。今次調査区の北側に位置する第５・７次調査では、Ⅶａ層上面と同じ標高 9.1 ～ 9.3 ｍで畦畔が確認されており、その延長が予想されたものの今回の調査で畦畔や遺物を確認するには至らなかった。

第５章　検出遺構と出土遺物

第１節　近代以降の遺構と遺物（第７図）

これまで本遺跡の調査においては、近代以降に属する掘削範囲は「カクラン」として一括されてきた。本書の本文中においても便宜上カクランと表記しているが、この内規模が大きく均質な暗褐色の粘質土により埋められた掘削範囲については、明治期以降、当該地で操業した伊勢レンガ工場による粘土採掘坑の可能性が高いと考えられる。創業から戦後まで行われたこの一連の粘土採掘は、西台畑遺跡のみならず郡山遺跡西側までも及んでいたものと推定され、遺構の残存状況に大きく影響している。また、「カクラン」には大正 13（1924）年に開業した長町操車場とその後の国鉄施設に伴うものも含まれるとみられるが、特定するのは困難である。

なお、以下の本文中においては、記述の便宜上調査区の西側を西区、東側を東区と呼称する。また、遺物の種類に関して、単に土師器と表記した場合には非ロクロ土師器を指すものとする。

（1）粘土採掘坑跡

今回調査対象となった建物建設範囲の中央部における大規模なカクランは、粘土採掘坑跡と推定される。今次調査区はこのカクランを避けコの字形を呈しているため、この粘土採掘坑の中心部は調査区外となる。しかし、調査区の東西において、その両端を確認している。その規模は、東西約 25 m、南北 35 m以上に及ぶ。

堆積土中からは多量の赤レンガの他、磁器が出土した。西区と東区のカクラン境界部においてそれぞれ一括で出土した遺物を写真のみ掲載した（写真図版 80-1 ～ 8）。この内、銅版刷による 2 ～ 4 の徳利は明治期後半（19 世紀末から 20 世紀初頭）、摺絵のある 5 ～ 7 の瀬戸美濃産磁器碗・皿は、19 世紀後半の資料である。

（2）便槽遺構

西区中央部、粘土採掘坑とみられるカクランの立ち上がり部分において、便槽とみられる 2 基の桶を検出した。桶は 2 基とも径 50cm で、約 60cm の間隔をもって東西に並列した状態で確認された。上部は破損する側版と竹のタガ、底板は残存している。年代は不明だが、その検出状況から近代以降のものと考えられる。

第２節　中世～近世の遺構と遺物（第７～９図）

（1）溝跡

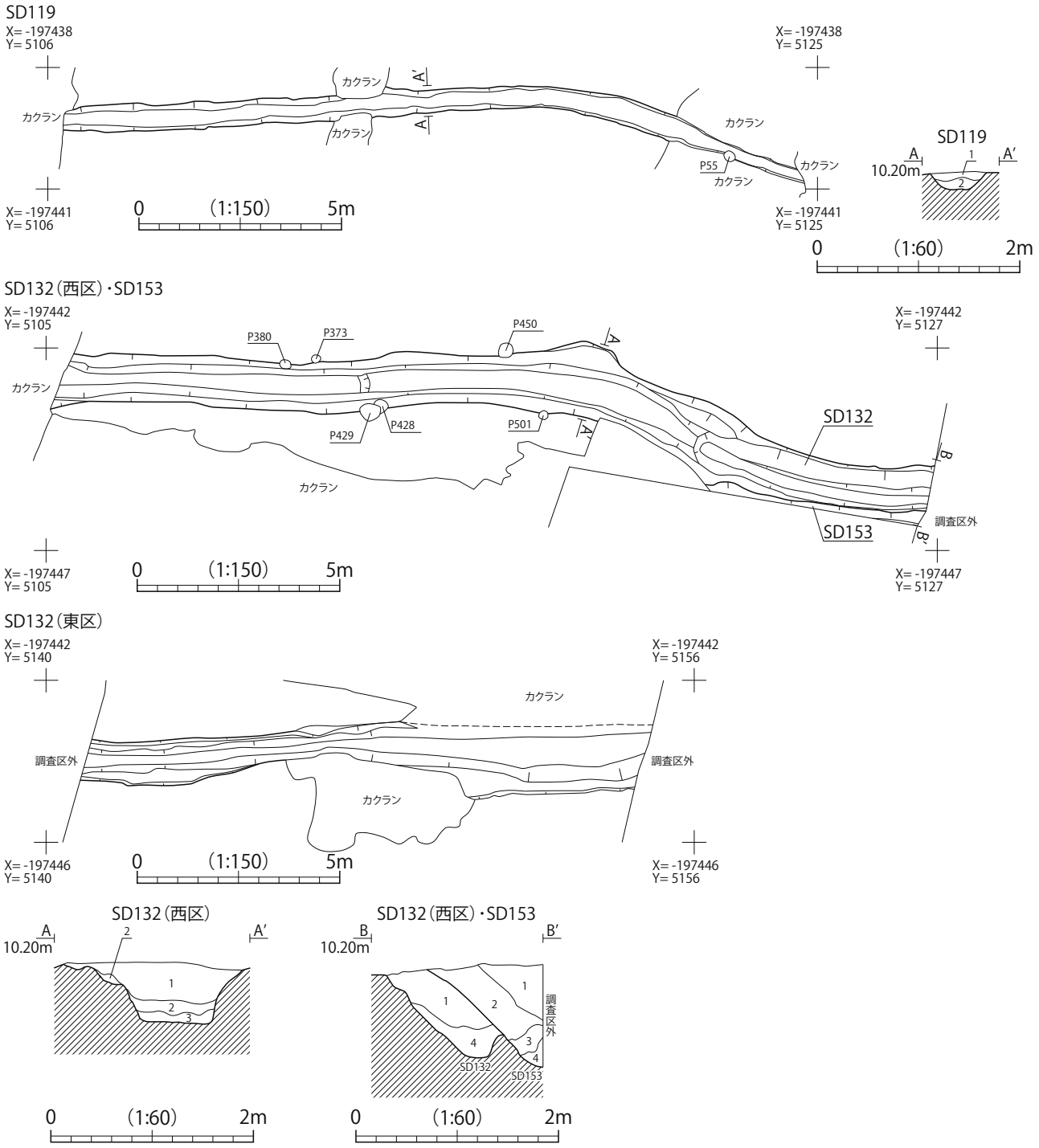
調査区北側において、中世～近世に属すると見られる東西方向に延びる溝跡を 3 条確認した。検出面はⅣｂ層上面である。本来の掘り込み面は不明だが、第 9 次調査の成果から、中世以降の遺構面であるⅡ層上面である可能性が高い。この内 SD119・132 の 2 条の溝跡は、屈曲部も含めて平行して延びることから同時期もしくは近い時期の溝跡と推定される。2 条の溝跡間の幅は 3 ～ 3.4 mである。SD132 については、西区から東区まで延長する。

SD119 溝跡

平行する 2 条の溝跡の内、北側のより幅の狭い方の溝跡である。規模は上端幅 60 ～ 72cm、下端幅 21 ～ 40cm、深さ 18cm で、確認部分での全長は約 19 mである。断面形は碗形を呈する。堆積土は 2 層である。

遺物は、土師器 317 点、須恵器 19 点が出土したが、全て破片資料である。この内、土師器、須恵器各 1 点ずつを掲載した（第 9 図 1、写真図版 60-13）。中世以降の遺物は出土していない。

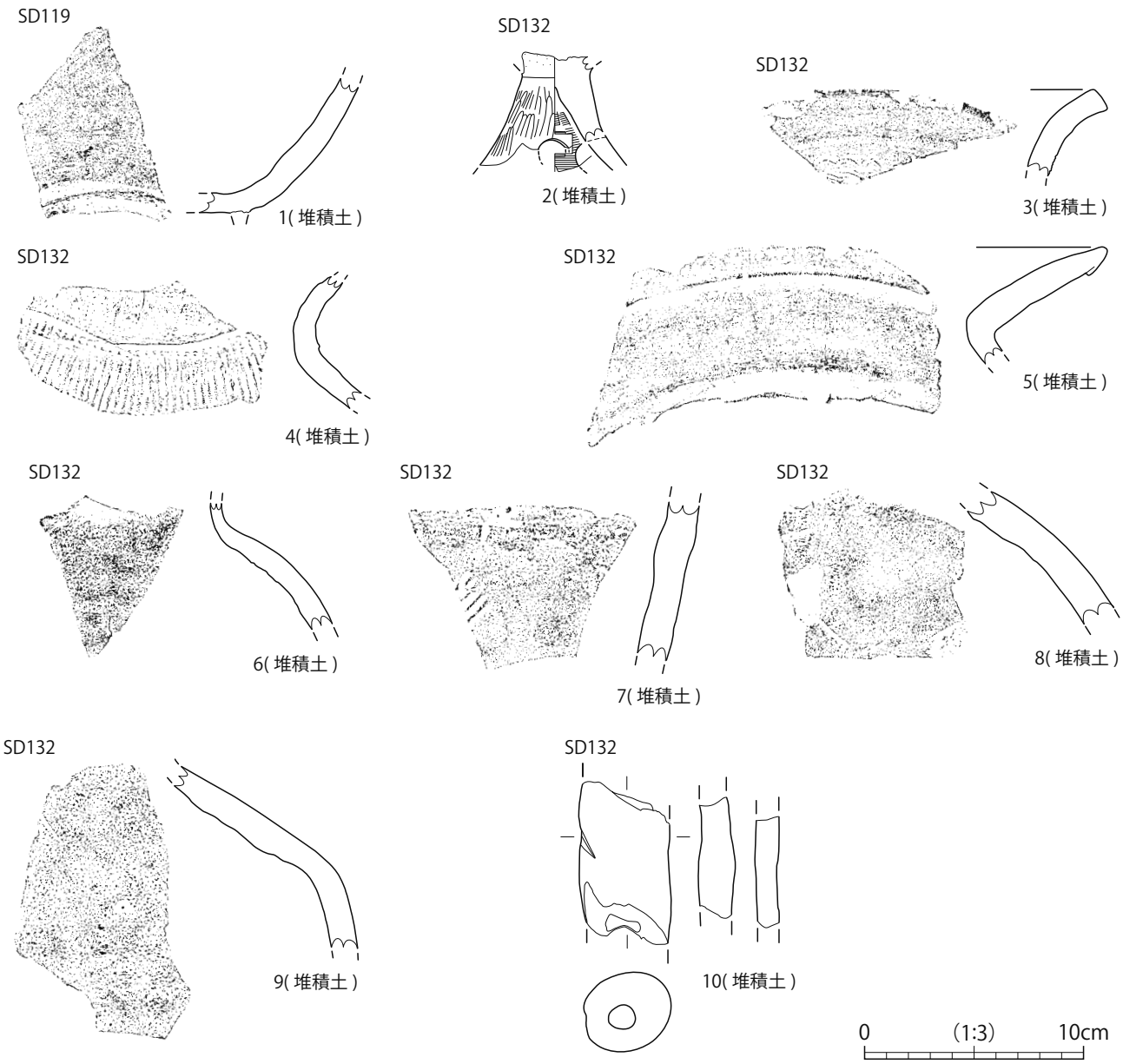
第７図　中世以降遺構配置図



溝跡観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模（cm）				層位	土色	土性	備考	重複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SD119	11・12・13・19	N-94°-W N-73°-W	(1865)	60～72	21～40	18	1	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を粒状に少量含む。	P19・33・34・55・56・83・90・119・120・134・183・303・497・498・499より古く、SD123、SK225・242、P53・54・56・74・83・216・227・242・508より新しい。
							2	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土をブロック状に多く含む。	
SD132 東区	17・18・19・25	N-93°-W	(1396)	66～(181)	17～77	—	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～10mmの粒状に少量含む。	P380・428・429・447・448・450・452・468より古く、SK253・254・255、P478・504・539・541より新しい。
							2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径1～20mmの粒状にやや多く含む。	
SD132 西区	17・18・19・25	N-90°-W N-72°-W	(2186)	111～187	26～60	59～86	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径1～5cmのブロック状に多く含む。	
SD153	25	N-81°-W	(529)	(11)～(30)	6	103	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘質シルト	炭化物粒含む。	
							2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	炭化物粒含む。	
							3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（30～50mm）多量含む。	
							4	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト		

第8図　溝跡



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	E-33	SD119	堆積土	須恵器	瓶類？(高台付)	—	—	(6.1)	ﾛｸﾛ調整 平行ﾀﾀｷ目→回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整		60-12
2	C-158	SD132	堆積土	土師器	高坏	—	—	(5.4)	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	スカシ 3 ヶ所 (円形)	61-1
3	E-37	SD132	堆積土	須恵器	甕	—	—	(3.9)	ﾛｸﾛ調整 波状文	ﾛｸﾛ調整	上部摩滅　骨針あり	61-2
4	E-38	SD132	堆積土	須恵器	甕	—	—	(6.0)	ﾛｸﾛ調整 平行ﾀﾀｷ目	ﾛｸﾛ調整	骨針あり	61-3
5	E-39	SD132	堆積土	須恵器	甕	—	—	(5.3)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	酸化炎焼成　環元不足 骨針多量	61-4
11	E-114	SD132	堆積土	須恵器	ハソウ	—	—	—	ﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛ調整	注口部を含む体部破片 骨針多量　写真掲載のみ	61-5

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	備考	写真図版
6	I-2	SD132	堆積土	陶器	壺	—	—	—	小形壺　渥美？　釉薬ハケ塗り？　12C ？～ 13C	61-6
7	I-3	SD132	堆積土	陶器	壺	—	—	—	渥美　刻印あり　12C(後半？)	61-7
8	I-4	SD132	堆積土	陶器	甕	—	—	—	在地　骨針あり　13C 後半～ 14C 前半	61-8
9	I-5	SD132	堆積土	陶器	甕	—	—	—	常滑　肩部　中世	61-9

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
10	P-10	SD132	堆積土	土製品	土錘	(7.4)	3.9	3.9	102.0	両端欠損	61-10
12	P-11	SD132	堆積土	土製品	羽口	(3.8)	(3.6)	(1.5)	14.5	破片　写真掲載のみ	61-11
13	Q-1	SD132	堆積土	動物遺存体	歯	—	—	—	16.4	写真掲載のみ	61-12

第 9 図　溝跡出土遺物

SD132 溝跡

西区から東区にかけて確認した。中世以降とみられる遺構との重複関係は、SD153 より古い。規模は、上端幅 111 ～ 187cm、下端幅 26 ～ 60cm、深さ 59 ～ 86cm で、確認部分での全長は約 41 m である。断面形は、西側では約 60cm 幅の平坦な底面をもつ逆台形を呈するが、その後東側では底面が一段下がり、下端幅が 25 ～ 30cm と狭い V 字形に近い形状となる。また、調査区東壁の断面では溝の北側壁面は斜めに直線的に立ち上がるが、南側では 2 段のテラス状の平坦面をもつ階段状の立ち上がりを示している。堆積土は 4 層である。特に互層状の自然堆積土はなく人為的に埋められた可能性が高い。

遺物は、堆積土中より土師器 264 点、須恵器 30 点、土製品 2 点、金属製品 1 点、動物遺存体（歯）1 点の他、中世陶器 4 点が出土した。多くは破片資料だが、スカシのある土師器高坏 1 点（第 9 図 2）、須恵器 4 点（第 9 図 3 ～ 5、写真図版 61-5）、土製品 2 点（第 9 図 10、写真図版 61-11）、動物遺存体（歯）1 点（写真図版 61-12）を掲載した。また、図示した中世陶器 4 点は、本溝跡の埋没年代に関わる資料である（第 9 図 6 ～ 9）。第 9 図 7 の渥美産壺が 12 世紀（後半か）、第 9 図 8 の在地産甕が 13 世紀後半～ 14 世紀前半であることから、本溝跡は、12 ～ 14 世紀後半以降に埋没したものと推定される。ただし、溝の掘削が中世に限定できるか否かは不明である。現状では中世～近世の溝跡と考えられる。先述の SD119 についても同様の年代と考えられる。

SD153 溝跡

西区の壁際で確認しており平面形状は不明である。重複関係は SD132 より新しい。規模は、幅が不明で深さ 103cm、全長は確認範囲で 5.3 m である。遺物は出土していない。

第 3 節　古墳時代～古代の遺構と遺物（第 10 図）

本節では、基本層Ⅳ b 層上面で検出した遺構のうち、重複関係および出土遺物から古墳時代から古代と考えられる遺構について記述する。確認した遺構は、竪穴住居跡 27 軒、掘立柱建物跡 2 棟、溝跡 30 条、井戸跡 2 基、土坑 23 基、ピット 560 基である。遺構の残存状況については、調査区西区においてはおおむね良好であるが、北側および東側については大部分がカクランにより削平され残存していない。

なお、竪穴住居跡の内、SI258 のみ古墳時代前期に属し、その他の住居跡については概ね 7 世紀中葉から 8 世紀初頭の郡山官衙期に属するものと考えられる。記述は、遺構番号順に行う。以下、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、土坑、ピットの順に記述する。

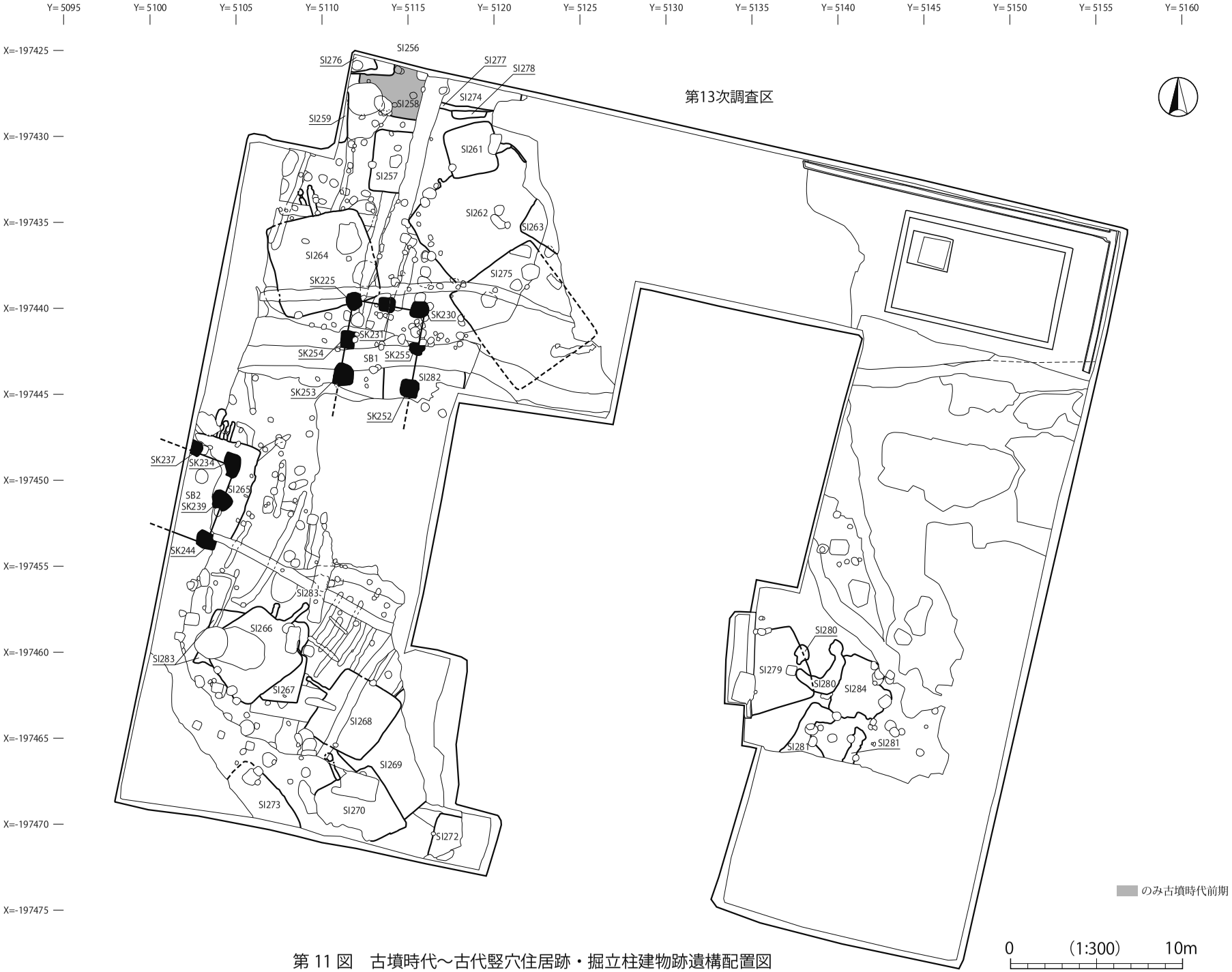
（1）竪穴住居跡（第 11 図）

竪穴住居跡 27 軒（SI256 ～ 284）を確認した。調査区内における分布は、西区北部および南部の 2 箇所に集中し、多くの重複が認められた。また、東区中央部においても複数の住居跡を確認したが、掘り方のみ残存していた住居跡が複数ある。これ以外の箇所については、大きく削平を受けているため、本来的な分布の有無は不明である。

竪穴住居跡の平面形を把握できたものは、方形ないし隅丸方形を主体とするが、長方形を呈するものも確認された（SI257･275）。主軸方向は、カマドの残る 9 軒についてみると、真北方向を指向（東西 10° 以内）するものは無く、N － 17 ～ 58° － W の範囲で西側に傾くもの（SI264・268・270・275・279）と、N － 17 ～ 76° － E の範囲で東側に傾くもの（SI261・265・266・268）とがある。数値にはばらつきがあり、カマドの方向性に強い制約は見出し難いものの、大きく北西ないし北東方向を向く点では西台畑遺跡における他の住居跡と共通する傾向を示している。

規模は、一辺 4 ～ 6 m台のものを中心に、一辺 2 ～ 3 m台の小型のもの（SI257・261・267・278）と一辺 7 m を超える比較的大型のもの（SI262）がある。

第 10 図　古墳時代～古代遺構配置図



第 11 図　古墳時代～古代竪穴住居跡・掘立柱建物跡遺構配置図

SI256 竪穴住居跡（第 12・13 図）

【位置・確認】調査区西区北部の 2 グリッドに位置する。住居跡の南東部のみ確認した。他は調査区外に延びる。

【重複】SI258 より新しく、SI276、P4 より古い。

【規模・形態】規模は、長軸（東西）250cm 以上、短軸（南北）110cm 以上である。平面形は不明である。

【方向】南壁を基準として N － 87° － W である。

【堆積土】5 層に分層した。1 層は住居堆積土、2 層は周溝堆積土、3 ～ 5 層は住居掘り方である。

【壁面】直立気味にやや外傾して立ち上がる。壁高は 15cm である。

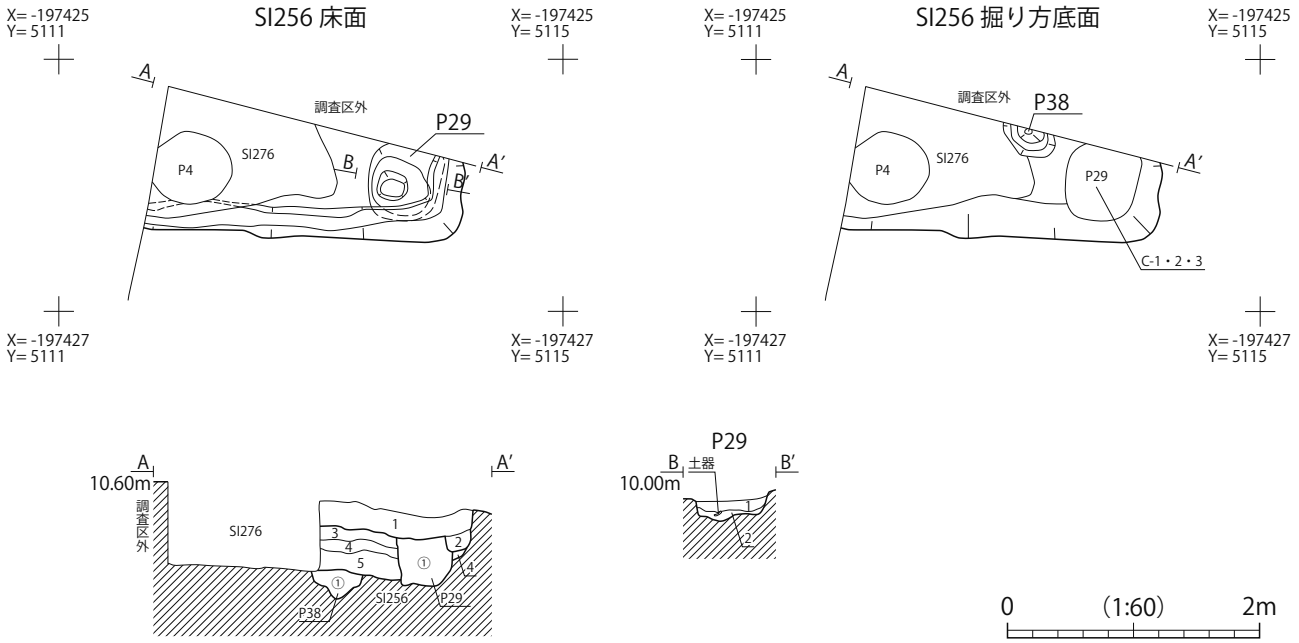
【床面】確認範囲では住居掘り方の 3 層上面が床面である。P29 周辺がやや下がる。

【周溝】幅 22 ～ 33cm、深さ 11 ～ 13cm である。

【その他の施設】周溝より古い P29 を確認した。平面形は隅丸方形で、規模は径約 60cm、深さ 40cm である。

【掘り方】残存部が少ないため底面の形状は不明である。深さは 35cm である。

【出土遺物】住居堆積土、床面施設、周溝堆積土中から 58 点の土師器坏、甕、壺が出土した。この内、P29 堆積土から出土した土師器 3 点を掲載した（第 13 図 1 ～ 3）。他に図示できる遺物はない。この内、第 13 図 1・2 は、形態および調整の特徴から塩釜式期に属する土器と考えられる。SI258 からの混入である可能性が高い。



SI256 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）少量含む
周溝	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）少量含む
住居掘り方	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 20mm）やや多く含む
	4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量含む
	5	10YR4/6 褐色	粘質シルト	暗褐色土粒（5 ～ 20mm）少量含む

SI256 床面施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P29	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	暗褐色土ブロック（10 ～ 30mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10mm）少量含む。

SI256 掘り方底面検出遺構堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P38	①	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く含む

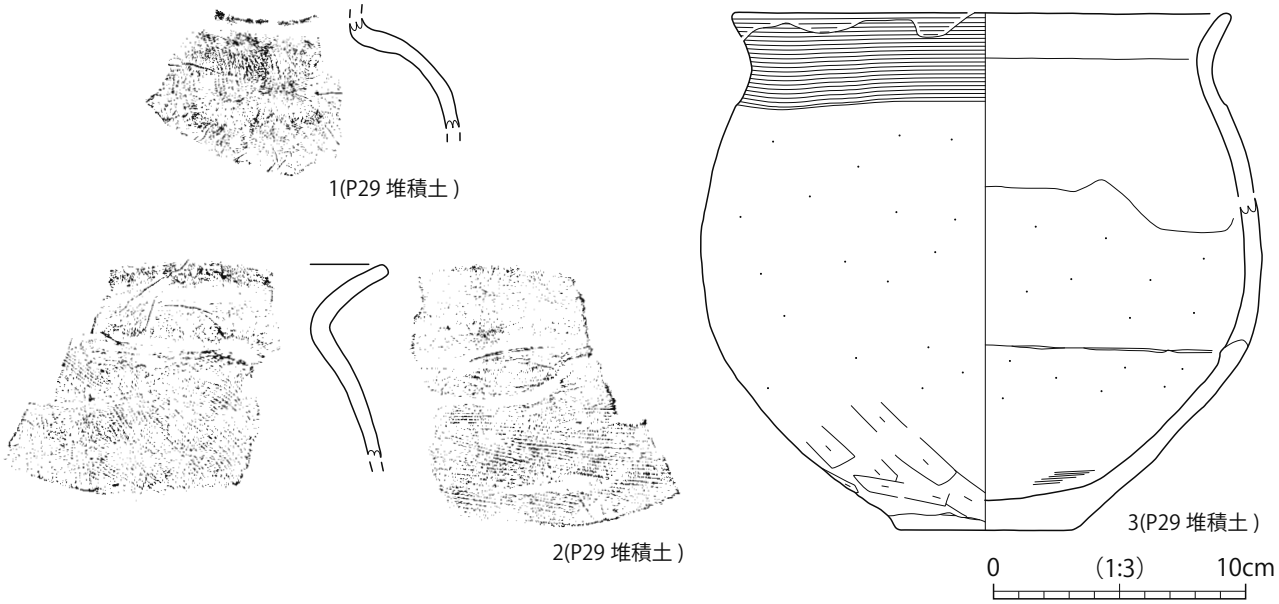
SI256 床面施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P29	（隅丸方形）	（61）×（58）	40	

SI256 掘り方底面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P38	（楕円形）	（34）×（25）	22	

第 12 図　SI256 竪穴住居跡



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-1	SI256 P29	堆積土	土師器	壺？	―	―	(4.4)	頸部～体部：ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ		45-1
2	C-2	SI256 P29	堆積土	土師器	甕	―	―	(7.7)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部：ﾊｹﾒ		45-2
3	C-3	SI256 P29	堆積土	土師器	甕	(19.8)	7.1	20.6	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部下部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	体部下部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	内外面摩滅	45-3

第 13 図　SI256 竪穴住居跡出土遺物

1 は、頸部下端部～体部上部の壺の破片資料である。調整は、外面が頸部～体部ハケメ後ヘラナデ、内面はヘラナデである。2 は、口縁～体部上部の破片資料である。口縁部は外反する。調整は、内外面ともに口縁部ヨコナデ、体部ハケメである。3 は、体部中位に最大径をもつ中型の甕である。口縁部と体部の境に弱い稜をもち、口縁部は外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部下部ヘラケズリ、内面は体部下部ヘラナデである。

SI257 竪穴住居跡（第 14・15 図）

柱穴とカマドが無く、住居とは異なる性格をもった遺構である可能性もあるが、住居掘り方により床面を形成し周溝をもつことから、竪穴住居跡の可能性を考慮し SI の番号を付した。

【位置・確認】調査区西区北部の 2・6 グリッドに位置する。西半部を確認した。

【重複】SD120 より新しく、P2・3 より古い。

【規模・形態】規模は、長軸（南北）360cm、短軸（東西）270cm 以上である。平面形は長方形と推定される。

【方向】西壁を基準として N － 9° － E である。ほぼ真北に近い方向を基軸とする。

【堆積土】6 層に分層した。1 ～ 4 層は住居堆積土、5 層は周溝堆積土、6 層は住居掘り方である。

【壁面】直立気味にやや外傾して立ち上がる。壁高は 7 ～ 15cm である。

【床面】住居掘り方の 6 層上面が床面である。概ね平坦である。

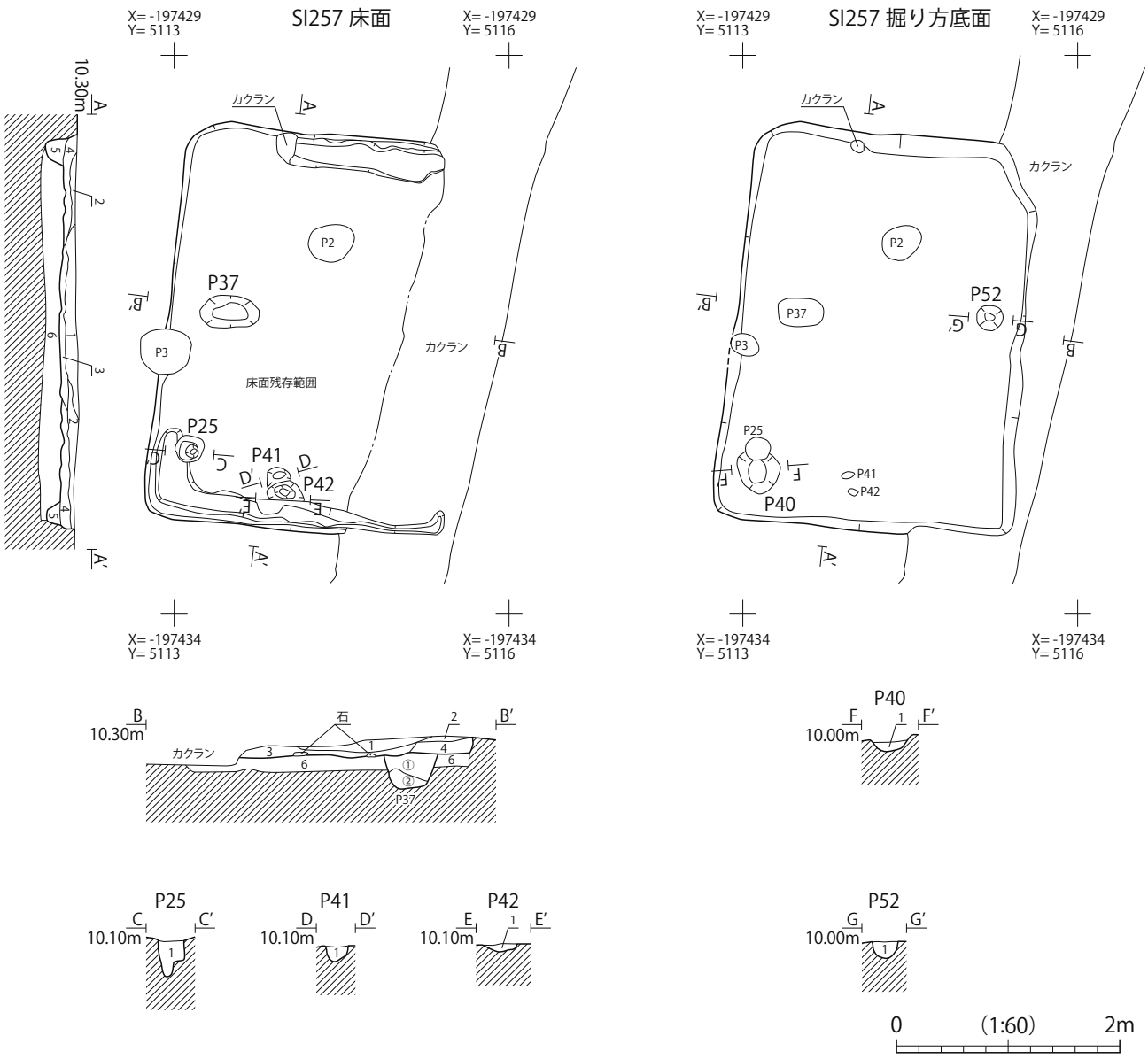
【柱穴】床面で 4 基のピットを確認したが配置に規則性はない。浅く柱痕跡もないことから柱穴とは認められない。

【周溝】北壁および南壁の壁面に沿って確認した。規模は幅 15 ～ 32cm、深さ 10 ～ 16cm である。

【その他の施設】ピット 4 基を確認した。3 基は南壁近くにまとまって分布する。平面形は楕円形ないし不整形である。規模は、P37 を除くと径 30cm 未満で深さ 7 ～ 33cm である。

【掘り方】底面の形状は、中央がやや高く、その周囲が低い。深さは 10 ～ 15cm である。

【出土遺物】遺物は、住居堆積土、周溝堆積土、床面施設、床面、住居掘り方から土師器 281 点、須恵器 4 点、土



SI257 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR2/3 黒褐色	粘質シルト	炭化物粒（5mm）含む。焼土ブロック（10mm）少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	炭化物粒（2mm）少量含む。Ⅳ層土ブロック（10mm）含む。
	3	10YR2/2 黒褐色	粘質シルト	炭化物粒（5mm）少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	炭化物粒（5mm）少量含む。Ⅳ層土ブロック（10mm）含む。
周溝	5	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	炭化物粒（1 ～ 3mm）やや多く含む。
住居掘り方	6	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。

SI257 床面施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P25	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量含む。
P37	①	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）少量含む。
	②	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く含む。
P41	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）多量含む。
P42	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）、炭化物・焼土粒（5 ～ 10mm）多量含む。

SI257 掘り方底面検出遺構堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P40	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）多量含む。
P52	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）多量含む。

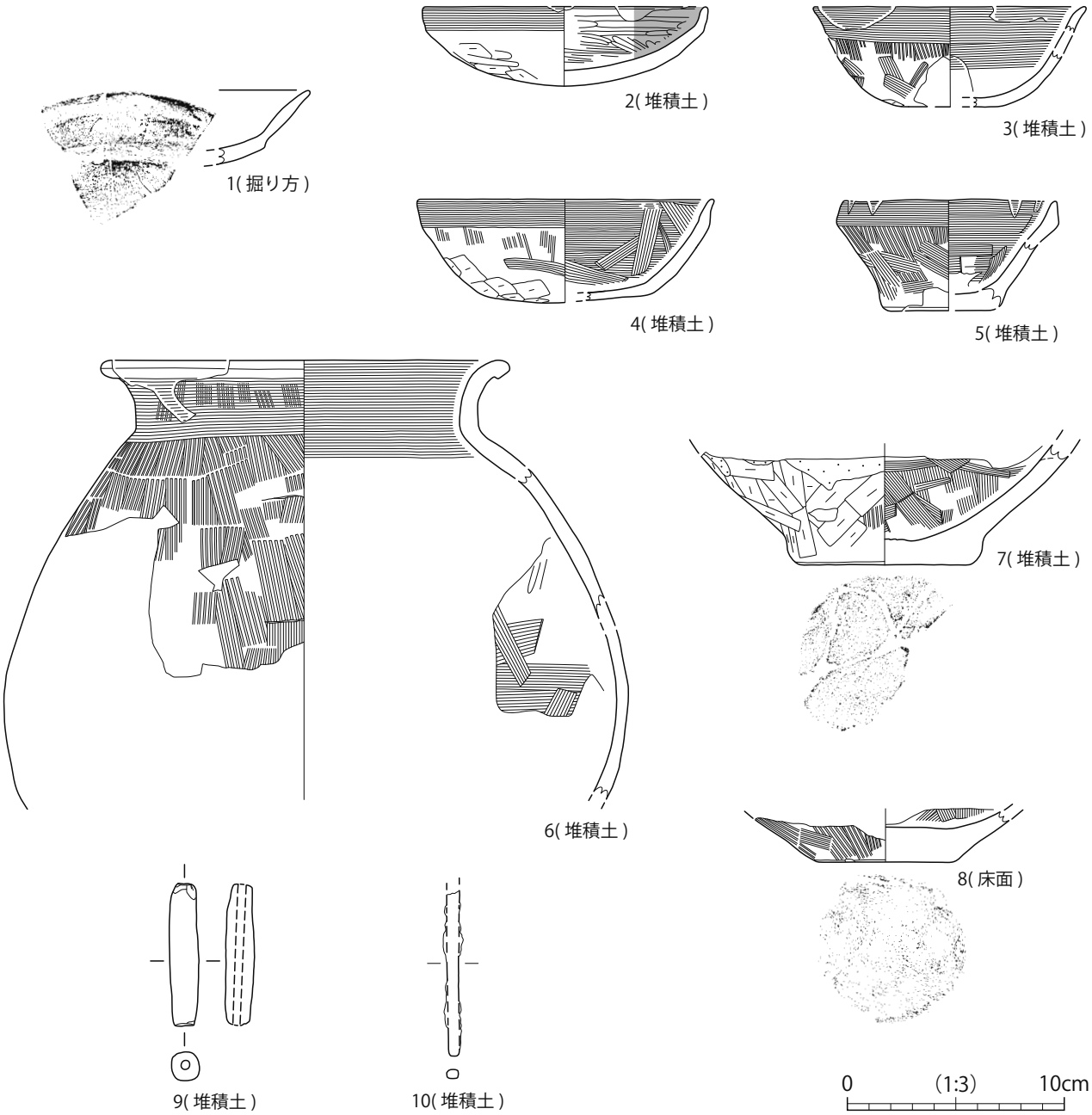
SI257 床面施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P25	不整形	25 × 24	33	
P37	楕円形	53 × 29	32	
P41	（不整形）	22 ×（14）	14	
P42	（隅丸方形）	26 ×（22）	7	

SI257 掘り方底面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備考
		長軸×短軸	深さ	
P40	（不整形）	40 × 36	10	
P52	円形	22 × 22	16	

第 14 図　SI257 竪穴住居跡



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-4	SI257	掘り方	土師器	坏	—	—	(4.4)	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針多量	45-4
2	C-5	SI257	堆積土	土師器	坏	13.0	—	3.7	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	45-5
3	C-6	SI257	堆積土	土師器	坏	(12.6)	(5.0)	4.6	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ 底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁～体部：ﾖｺﾅﾃﾞ	内面摩滅	45-6
4	C-7	SI257	堆積土	土師器	坏	13.6	—	(4.8)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ 底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ 体部～底部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	骨針あり	45-7
5	C-8	SI257	堆積土	土師器	坏	(10.0)	(5.5)	5.1	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部～底部：ﾊｹﾒ→指ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	骨針あり	45-8
6	C-11	SI257	堆積土	土師器	甕	(18.9)	(20.3)	—	口縁：ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ		45-10
7	C-9	SI257	堆積土	土師器	甕	—	(8.0)	(5.6)	ﾊｹﾒ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	底部：木葉痕	45-9
8	C-12	SI257	床面	土師器	甕	—	6.3	(2.5)	ﾊｹﾒ 底部：ﾊｹﾒ	ﾍﾗﾅﾃﾞ		45-11

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
9	P-1	SI257	堆積土	土製品	土錘	6.6	1.35	1.35	12.5	孔径 0.4cm　骨針あり	45-12
10	N-1	SI257	堆積土	鉄製品	棒状鉄製品	(7.6)	(0.6)	(0.5)	6.0	鉄鏃？	45-13

第 15 図　SI257 竪穴住居跡出土遺物

製品１点、金属製品１点が出土した。この内、土師器坏５点、同甕３点、土錘１点、鉄鏃の可能性がある棒状鉄製品１点を掲載した（第 15 図）。非掲載遺物には土師器坏７点が含まれるが、図示できる遺物はない。他の遺物も同様である。

掲載遺物の内、2 ～ 7･9･10 は住居堆積土、8 は床面、1 は住居掘り方からの出土である。1 ～ 5 は土師器坏である。1 は、在地のいわゆる有段丸底坏である。調整は、外面はヘラミガキで、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施されている。2 ～ 5 は、在地の土師器坏とは異なる特徴をもつ資料である。2 は、ヘラミガキ後の黒色処理が内面に施されるものの、口縁部が短く直立する器形に特徴がある。3 ～ 5 はそれぞれ器形は異なるが、調整に共通点がみられる。外面は体部ハケメの後、口縁部ヨコナデで、内面はヨコナデで黒色処理は施されない。特に外面にハケメが施される点に大きな特徴がある。6 は土師器甕で、体部は中部に最大径をもつ球形を呈する。頸部がやや直立し口縁部は外反する。体部と頸部の境界に段は認められない。7･8 は土師器甕の底部破片である。全体形状は不明である。7 の底面には木葉痕が認められる。

9 は小型の管状土錘である。全長 6.6cm で孔径は 0.4cm である。10 は棒状鉄製品である。残存長 7.6cm で断面形は長方形を呈する。鉄鏃である可能性も考えられる。

SI258 竪穴住居跡（第 16・17 図）

【位置・確認】調査区西区北部の２グリッドに位置する。住居の南西部のみ確認した。他は調査区外に延びる。

【重複】SI256・276、SK222・229・233・238、P6 ～ 9・11・63・105・158・159 より古い。

【規模・形態】規模は、長軸（東西）375cm 以上、短軸（南北）295cm 以上である。平面形は、方形または長方形を呈するものと推定される。

【方向】南壁を基準として N － 82° － W である。ほぼ南北方向を基軸とする住居跡である。

【堆積土】4 層に分層した。1 ～ 3 層は住居堆積土、4 層は住居掘り方である。堆積土は褐色から黄褐色の砂質シルトで基本層Ⅳ層と極めて類似した特徴をもち、他の住居跡とは異なる様相を呈する。

【壁面】削平により残存状態は悪いが、壁は直立する。壁高は 3 ～ 9cm である。

【床面】住居掘り方の 4 層上面が床面である。概ね平坦である。

【柱穴】今回の確認範囲においては、柱穴とみられる遺構は確認できなかった。

【周溝】床面は確認したが、西辺および南辺で周溝は確認できなかった。

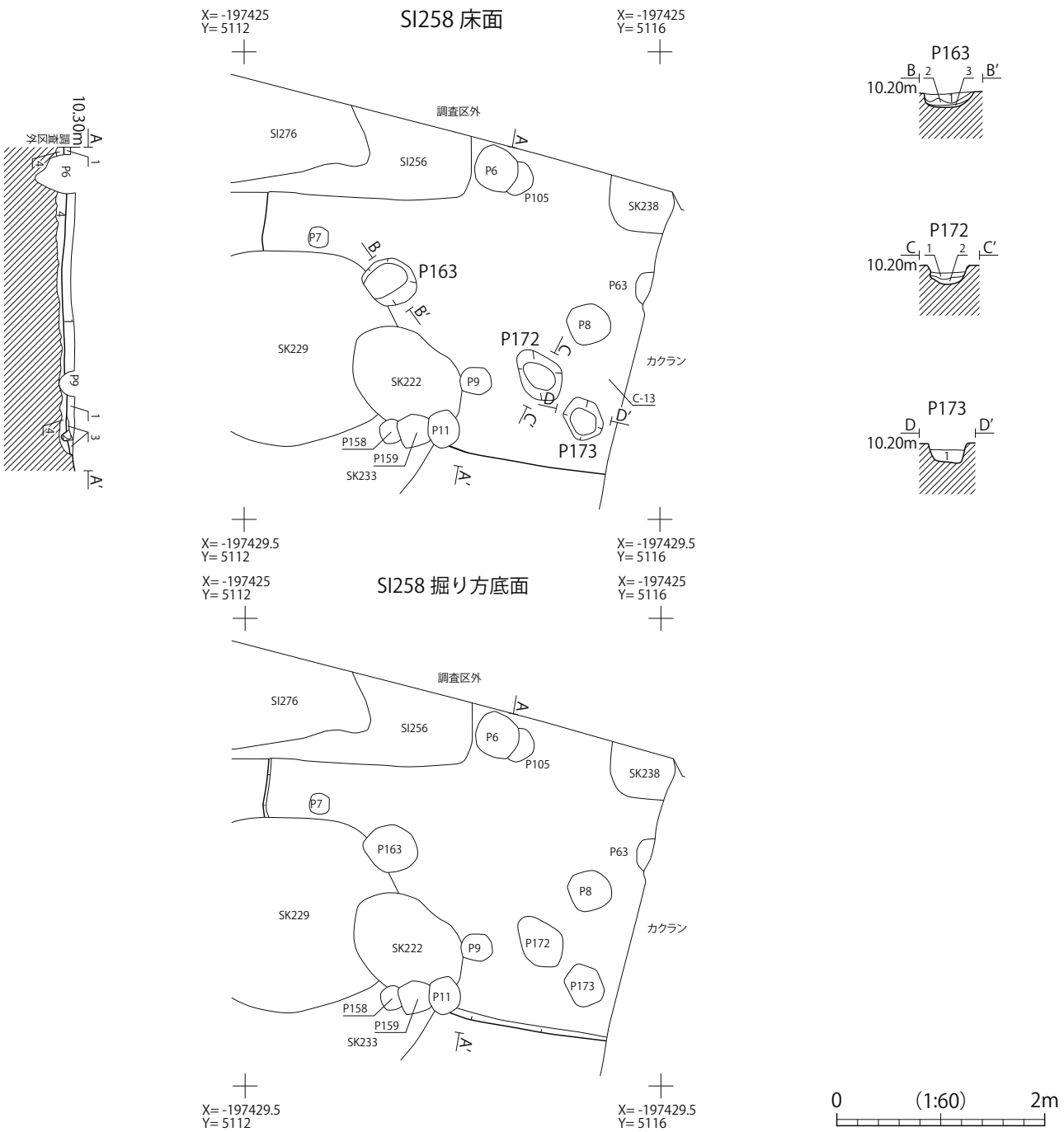
【炉跡】塩釜式期の住居であることから炉跡の存在が想定されたが、今回の確認範囲においては焼面等を確認することはできなかった。

【その他の施設】床面で 3 基のピットを確認した。位置的には P163 が柱穴となる可能性もあるが、深さが浅く柱痕跡も確認できなかった。

【掘り方】底面の形状は平坦である。深さは 2 ～ 10cm である。

【出土遺物】遺物は、床面、掘り方から土師器 41 点が出土した。この内、土師器 5 点を掲載した（第 17 図）。他に図示できる遺物はない。掲載遺物の内、1 のみが床面で 2 ～ 5 は住居掘り方からの出土である。1･5 は土師器坏である。1 は内外面口縁部および外面体部に丹塗りが施された坏である。調整は外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、底部ヘラケズリで、内面がヘラミガキである。2･4 は土師器壺である。5 は写真掲載のみの資料で土師器坏である。内外面丹塗りで径 0.3cm の孔が認められる。2 は直線的に外傾する長い口縁部をもつ。調整は、外面がハケメ後ヘラミガキ、一部ヨコナデで、内面がハケメ後ヨコナデ、ヘラミガキである。4 は底部破片である。底面に凹みがみられる。3 は土師器甕の口縁部破片である。口縁部が短く外反する。

これらの土器は、その特徴から古墳時代前期の塩釜式に相当するものと考えられる。特に 1 の土師器坏は床面か



SI258 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR にぶい黄褐色	砂質シルト	焼土粒（2mm）極少量含む。。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10mm）少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10mm）含む。
住居掘り方	4	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）やや多く含む。

SI258 床面施設堆積土註記表

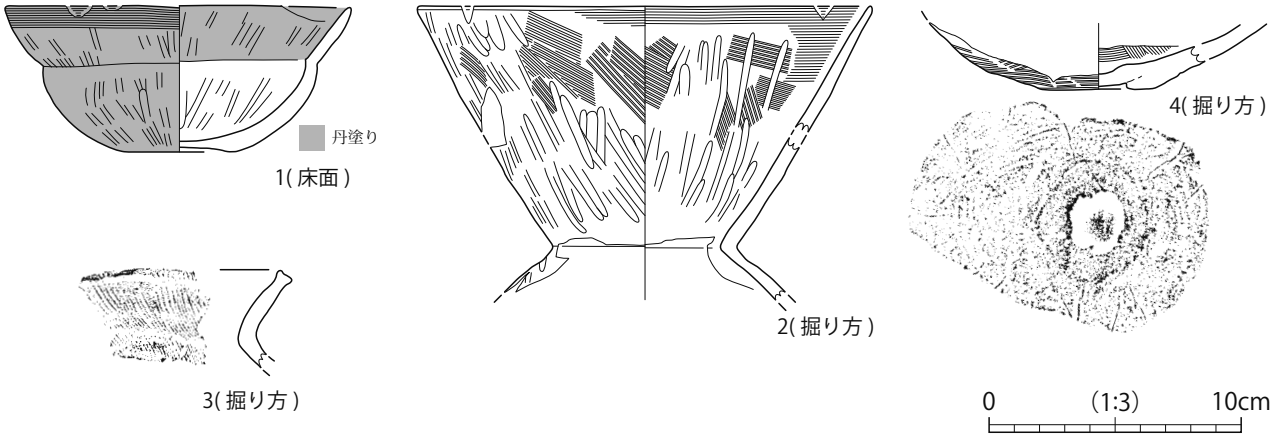
遺構名	層位	土色	土性	備考
P163	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック含む。黒褐色土ブロック（10mm）少量含む。
	2	10YR2/1 黒色	粘土	Ⅳ層土ブロック（50mm）少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10mm）含む。
P172	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	粘質シルト	暗褐色土粒（1 ～ 3mm）少量含む。
P173	1	10YR4/4 褐色	粘質シルト	暗褐色土粒（1 ～ 3mm）少量含む。

SI258 床面施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P163	（楕円形）	48 × （45）	15	
P172	不整形	56 × 39	12	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P173	不整形	41 × 33	13	

第 16 図　SI258 竪穴住居跡



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-13	SI258	床面	土師器	坏	13.8	(4.4)	5.8	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ 底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内外面口縁部・外面体部丹塗り	46-1
2	C-15	SI258	掘り方	土師器	壺	(18.0)	―	(11.7)	口縁：ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ、一部ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁：ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ（上部）→ﾍﾗﾐｶﾞｷ		46-2
3	C-17	SI258	掘り方	土師器	甕	―	―	(3.9)	ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾊｹﾒ	ﾊｹﾒ		46-4
4	C-18	SI258	掘り方	土師器	壺	―	4.5	(2.6)	ﾊｹﾒ	指ﾅﾃﾞ	底面中央に凹み	46-3
5	C-14	SI258	掘り方	土師器	坏	―	―	―	口縁：ﾐｶﾞｷ		径 3㎜の孔あり　内外面丹塗り　写真掲載のみ	46-5

第 17 図　SI258 竪穴住居跡出土遺物

らの出土で完形率も高いため、本住居跡の時期決定資料となるものである。なお、今次調査において確認した塩釜式期の住居跡は本遺構 1 軒であるが、南約 5 mに位置する SI264 の住居堆積土中にも当該期の土器の混入がみられる。今次調査における古墳時代前期の遺物分布は、調査区北西部に限定される。

SI259 竪穴住居跡（第 18 図）

調査範囲が極めて限定的で、周溝、柱穴、カマド等の施設も未確認である。厳密には住居跡であるか否かは不明であるが、直線的な 1 辺をもち南北 2 箇所に隅部をもつ平面形状と、埋土によって形成された床面の存在から、小型の竪穴住居跡である可能性が高いと判断した。

【位置・確認】調査区西区北部の 2・6 グリッドに位置する。東壁部のみの確認した。

【重複】SK229、233 より新しい。

【規模・形態】確認範囲における規模は、長軸 290cm、短軸 43cm 以上である。平面形は、方形ないし長方形を呈するものと推定される。

【方向】東壁を基準として N － 3° － E である。ほぼ南北方向を基軸とする住居跡である。

【堆積土】2 層に分層した。1 層は住居堆積土、2 層は住居掘り方である。

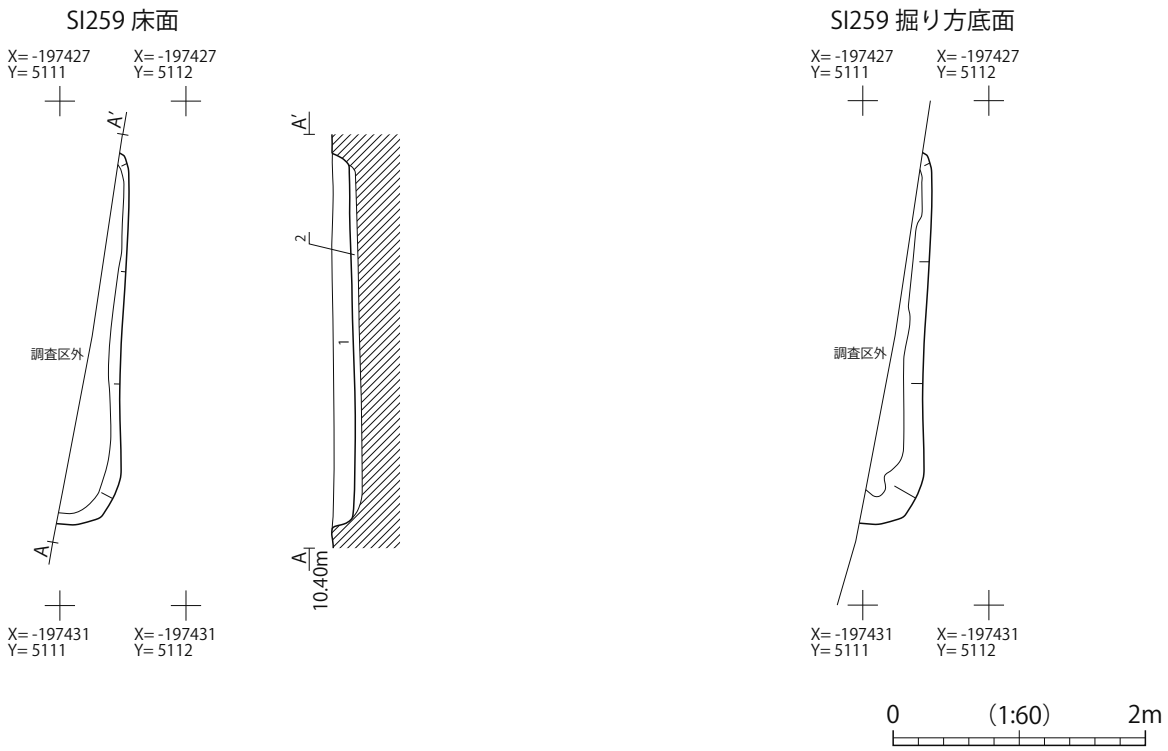
【壁面】直立気味にやや外傾する。壁高は 14 ～ 16cm である。

【床面】住居掘り方の 2 層上面が床面である。確認範囲においては平坦である。

【周溝】東辺部では床面のみ確認され、周溝は確認できなかった。

【掘り方】底面の形状は、確認範囲においては平坦である。深さは 4 ～ 6cm である。

【出土遺物】遺物は、住居堆積土から 48 点の土師器が出土した。それには、土師器坏 3 点が含まれるが、図示できる遺物はない。



SI259 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）やや多く含む。
住居掘り方	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（20 ～ 40mm）多量含む。

第 18 図　SI259 竪穴住居跡

SI261 竪穴住居跡（第 19 ～ 21 図）

【位置・確認】調査区西区北部の 2・3・6・7 グリッドに位置する。カマドの一部がカクランと重複するが、ほぼ全体を確認した。

【重複】SI262 より新しく、P1 より古い。

【規模・形態】規模は、長軸 298cm、短軸 293cm である。平面形は方形を呈する。

【方向】カマドを基準として N － 76° － E である。

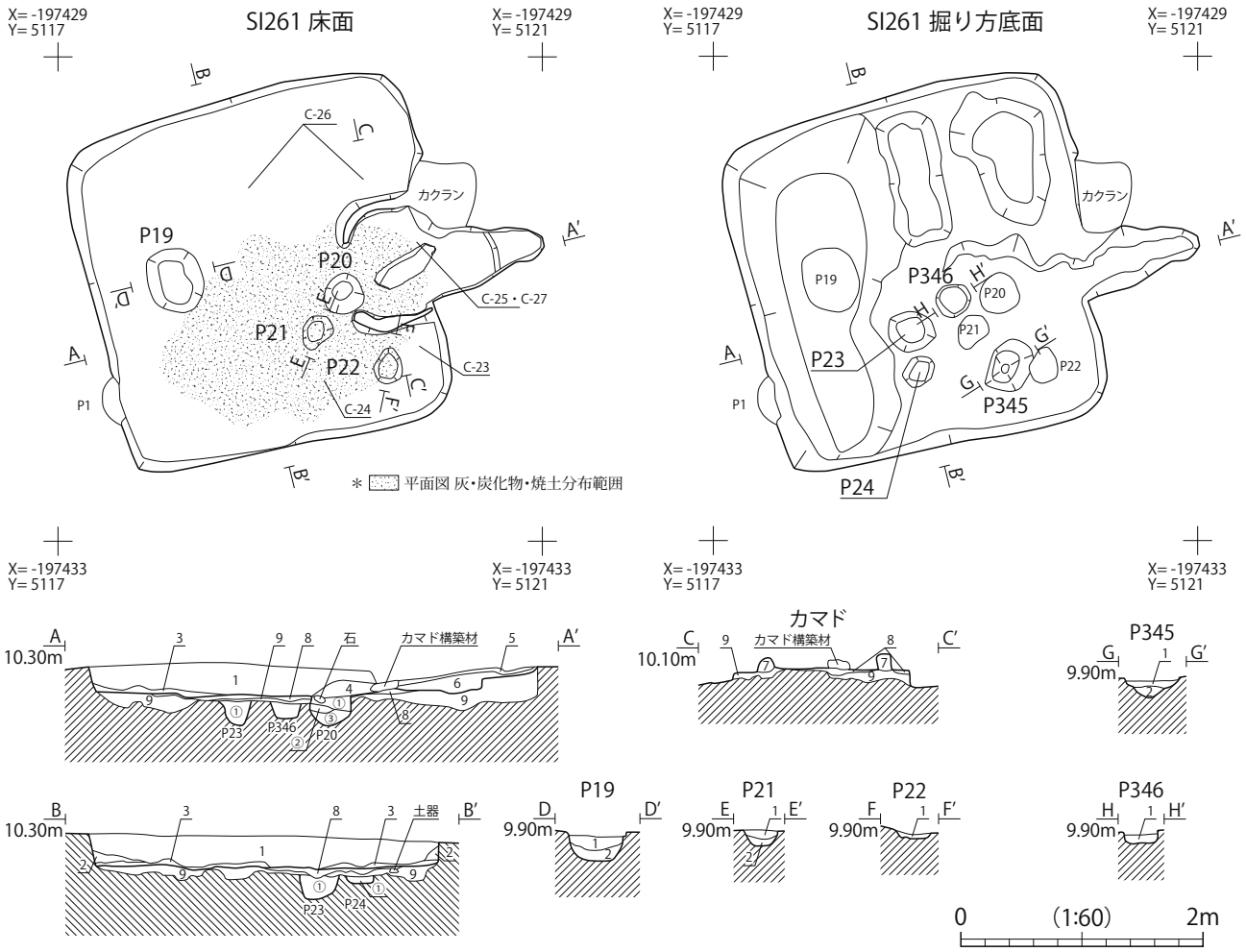
【堆積土】9 層に分層した。1 ～ 3 層は住居堆積土、4 ～ 7 層はカマド関連の堆積土である。8･9 層は住居掘り方で、8 層は貼床土である。

【壁面】直立気味にやや外傾して立ち上がる。壁高は 4 ～ 26cm である。

【床面】貼床土の 8 層上面が最終的な床面となるが、8 層中にはカマド内部から連続する焼土粒や灰、炭化物が多量含まれていることから、8 層は、カマドの維持管理に伴い元の床面（9 層上面）上に部分的に貼られた土層であると考えられる。8 層の分布範囲は、カマド前面から住居中央部を中心に、南半部の大部分に及ぶ。その平面的な規模は、長軸 240cm、短軸 115cm である。

【柱穴】床面で柱穴とみられる遺構は確認できなかった。

【カマド】東壁中央のやや南寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖の規模は、北袖が長さ 70cm、幅 19cm、南袖が長さ 72cm、幅 17cm である。袖は壁面からそれぞれ弧状に延び付設されている。燃焼部は、規模が奥行き 119cm、幅 86cm、奥壁高 8cm で、その範囲は一部壁外に突出する。カマド底面にはやや起伏があり、奥壁は直立気味に外傾して立ち上がる。底面直上には焼土、炭等を多量に含むカマド内堆積土がみられたものの、底面自体に明瞭な被熱痕跡は認められなかった。8 層の貼床時に削られた可能性も考えられる。煙道部の規模は、長さ 43cm、幅 25 ～ 38cm、深さ 8cm であるが、上部は後世の削平を受けているものと考えられる。



SI261 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 20mm）多量含む。炭化物含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘質シルト	
カマド	4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）やや多く含む。（天井崩落土）
	5	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	焼土、炭化物やや多く含む。
	6	7.5YR3/4 暗褐色	粘質シルト	焼土粒（1 ～ 5mm）多量含む。炭化物少量含む。
カマド袖	7	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。
住居掘り方	8	10YR2/3 黒褐色	粘質シルト	焼土粒（1 ～ 5mm）・炭化物・灰多量含む。（貼床）
	9	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 20mm）多量含む。

SI261 床面施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P19	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）多量含む。
P20	①	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	焼土粒（1 ～ 5mm）多量、炭化物やや多く含む。
	②	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10mm）・焼土粒（5mm）少量含む。
	③	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 20mm）やや多く含む。
P21	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	焼土粒（5 ～ 20㎜）多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量含む。
P22	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	焼土粒（5 ～ 20㎜）多量含む。

SI261 掘り方底面検出遺構堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P23	①	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 20mm）多量含む。
P24	①	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 20mm）多量含む。
P345	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量含む。
P346	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。

SI261 床面施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P19	楕円形	55 × 45	21	
P20	円形	34 × 33	25	
P21	不整形	30 × 21	13	
P22	楕円形	30 × 23	6	

SI261 掘り方底面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P23	楕円形	39 × 34	21	
P24	楕円形	28 × 22	5	
P345	楕円形	44 × 34	15	
P346	円形	28 × 27	9	

第 19 図　SI261 竪穴住居跡

また、燃焼部中央の底面からカマド構築材とみられる板状の石材が出土した。石材の大きさは、長さ56cm、幅19cm、厚さ7cmである。今次調査において、同様のカマド構築材はSI266からも出土している。

本住居跡におけるカマドは、住居の規模に比して規模が大きく、今次調査の中でも最大の規模をもつものである。

【その他の施設】4基のピットを確認した。8層上面のピットが2基（P19・20）、9層上面のピットが2基（P21・22）である。P20～22の3基はカマド周辺に位置しており、堆積土中に多量の焼土粒を含んでいる。この3基の平面形は、円形または楕円形を呈する。規模は径約30cmで近似するが、深さには6～25cmとばらつきがみられる。カマド内堆積土を埋めたピットと考えられる。住居跡の中央西寄りに位置するP19は、平面形は楕円形で、規模は、長軸55cm、短軸45cm、深さ21cmである。堆積土は2層に分かれる。

【掘り方】底面の形状は、カマド前面の住居南東部が高く、全体的に西半部が低い。深さは3～24cmである。

【出土遺物】遺物は、住居堆積土、床面施設、カマド、床面、住居掘り方から土師器514点、須恵器8点、土製品1点、石製品2点が出土した。この内、土師器坏（ミニチュア含む）5点、同高坏1点、同甕3点、同甑1点、須恵器坏2点、同瓶1点、土製紡錘車1点、砥石2点を掲載した（第20・21図）。非掲載遺物には土師器坏16点が含まれるが、図示できる遺物はない。他の遺物についても同様である。掲載遺物の内、2・3・11～14・16は住居堆積土、4・9・15はカマド・煙道堆積土、6～8は床面からの出土である。

1は、P20の堆積土中から出土した土師器ミニチュア土器（坏）である。外形は口縁部がやや内傾する碗形を呈する。調整は、外面がヘラナデ、内面が指ナデである。底部は欠損している。口径2.7cmである。2～5は土師器坏である。2はやや平底に近い丸底と推定され、体部から口縁部にかけてやや内湾気味に外傾する。調整は、内外面ともヘラミガキ後に黒色処理が施される。3・4は共に外面の口縁部と体部の境に段をもつ有段丸底坏である。口縁部は3が内湾気味に外傾し、4はやや外反する。調整は、外面がともに口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキだが、内面は3がヘラミガキの後、黒色処理が施され、4はヘラミガキで漆とみられる付着物が認められる。5は、丸底で口縁部と体部の境に屈曲がみられ、口縁部は外反する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリで、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。

6は脚部にスカシのある土師器高坏である。脚部は短脚で、長楕円形のスカシが3箇所にみられる。調整は、外面が坏部口縁部ヨコナデからヘラミガキ、体部から脚部ヘラケズリ、裾部ヨコナデで、内面は坏部ヘラミガキ、脚部ヘラナデ、裾部ヨコナデである。

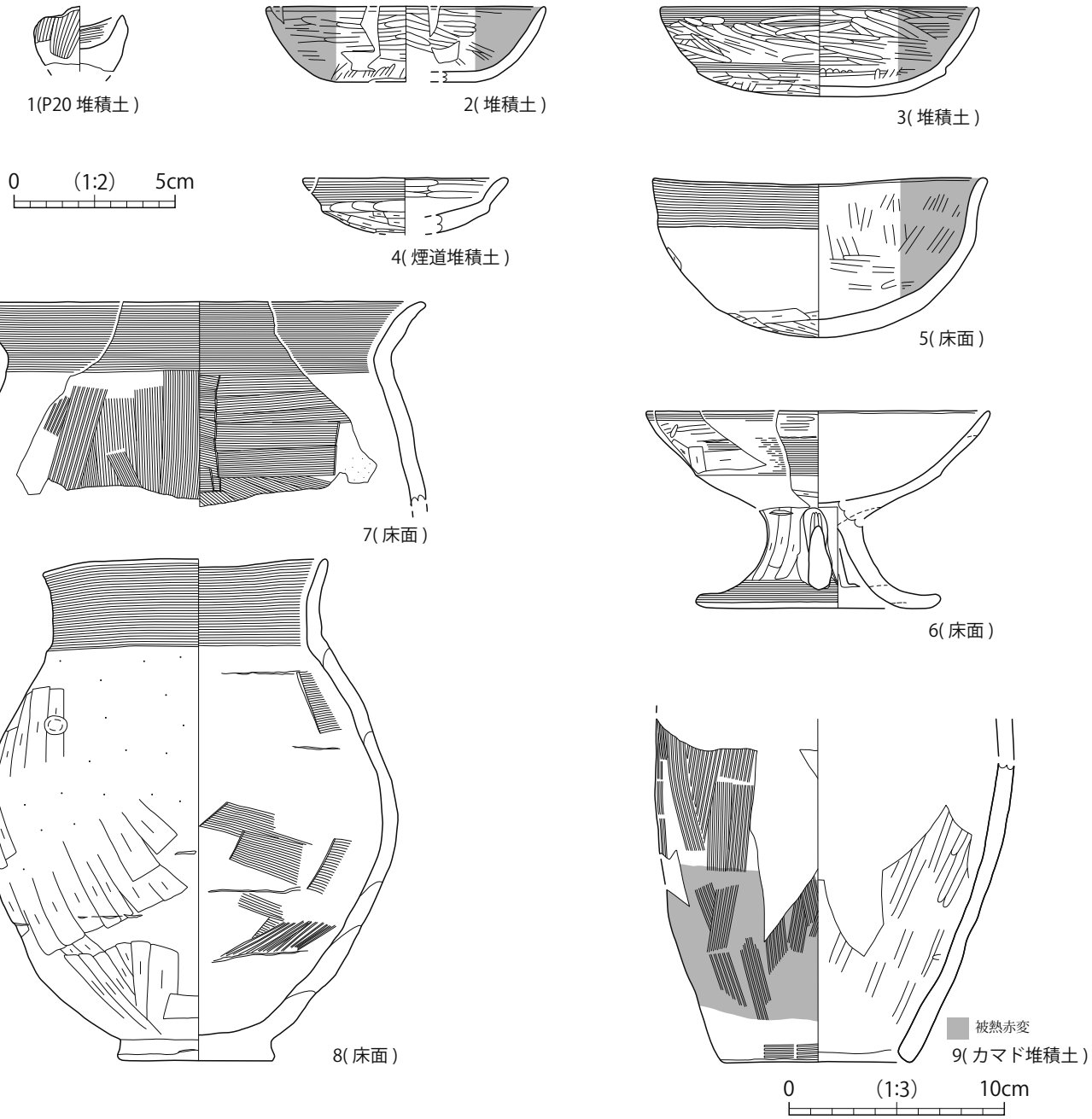
7･8･10は土師器甕である。口縁部と体部の境には8にのみ段が認められる。7は口縁部が短く外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。8は口縁部が体部から直立気味に立ち上がり、口唇部でやや外反する。体部は中部に最大径をもつ球形を呈する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ後ヘラケズリで、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、ハケメである。10は写真のみ掲載した（写真図版46-15）。器形は7と同様である。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ後ケズリで、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。

9は無底の土師器甑である。調整は、外面がハケメ、内面はヘラミガキである。体部外面下部に、帯状の被熱赤変が認められる。

11・12は須恵器坏である。11は外面の口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部は外傾する。12も外傾する口縁部を持つ資料と考えられる。13は須恵器瓶の体部下部の破片資料である。外面にヘラケズリがみられる。

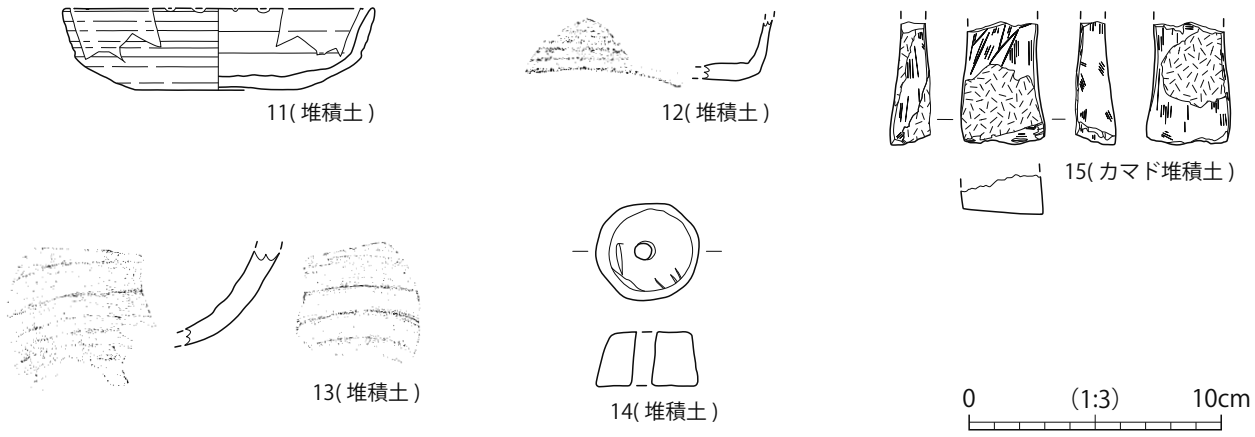
14は完形の土製紡錘車である。最大径は4.1cmで孔径は0.8～1.2である。重量は35.5gである。

15・16は砥石である。15はカマドから出土した凝灰岩製の砥石で、砥面は4面である。全長4.9cmの小型の砥石で、全体が被熱により黒変し焼けハジケもみられる。16は写真のみ掲載した（写真図版46-20）。粘板岩製の砥石で、砥面は3面である。1箇所に径2.7mmの穿孔が認められる。



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	法量 (cm) 底径	法量 (cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-22	SI261 P20	堆積土	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ坏	2.7	—	(2.0)	ﾍﾗﾅﾃﾞ	指ﾅﾃﾞ	骨針あり	46-6
2	C-19	SI261	堆積土	土師器	坏	(13.0)	(6.6)	3.5	ﾍﾗﾐｶﾞｷ、黒色処理	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内外面黒色処理　骨針あり	46-7
3	C-20	SI261	堆積土	土師器	坏	(14.8)	—	4.2	口縁～体部：ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ 底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり 赤褐色粒多量	46-8
4	C-28	SI261	煙道堆積土	土師器	坏	(9.5)	—	(2.5)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部：ﾍﾗﾅｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面漆？付着　骨針あり	46-9
5	C-23	SI261	床面	土師器	坏	(15.3)	—	7.4	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり	46-10
6	C-24	SI261	床面	土師器	高坏	(16.0)	11.4	9.2	坏部口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体～脚部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ 裾部：ﾖｺﾅﾃﾞ	坏部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ 脚部：ﾍﾗﾅﾃﾞ？ 裾部：ﾖｺﾅﾃﾞ	内面黒色処理　スカシ 3 ヶ所 (長楕円形)　赤褐色粒あり	46-11
7	C-25	SI261	床面	土師器	甕	(21.0)	—	(9.6)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	骨針多量	46-12
8	C-26	SI261	床面	土師器	甕	13.2	7.1	23.3	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾊｹﾒ	骨針あり　赤褐色粒あり	46-13
9	C-27	SI261	カマド堆積土	土師器	甑	—	8.8	(16.0)	ﾊｹﾒ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	単孔式　体部外面に帯状の被熱赤変あり　骨針あり　赤褐色粒あり	46-14
10	C-21	SI261	堆積土	土師器	甕	—	—	(17.5)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ→ｹｽﾞﾘ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	写真掲載のみ	46-15

第 20 図　SI261 竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
11	E-2	SI261	堆積土	須恵器	坏	(12.2)	(6.6)	(3.2)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	骨針多量　SI274 堆積土と接合	46-16
12	E-3	SI261	堆積土	須恵器	坏	―	―	2.4	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	自然釉　骨針あり	46-17
13	E-4	SI261	堆積土	須恵器	瓶	―	―	(4.5)	ﾛｸﾛ調整 体部下部：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	骨針あり	46-18

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
14	P-2	SI261	堆積土	土製品	紡錘車	4.1	4.1	2.2	35.5	孔径 0.8 ～ 1.2cm　骨針あり　赤褐色粒多量	46-21

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石材	備考	写真図版
15	K-1	SI261	カマド堆積土	石製品	砥石	4.9	3.4	(1.6)	26.5	凝灰岩	砥面 4 面　焼けハジケ	46-19
16	K-2	SI261	堆積土	石製品	砥石	4.8	4.2	1.0	28.5	粘板岩	砥面 3 面　径 2.7㎜の突孔 1 箇所あり　写真掲載のみ	46-20

第 21 図　SI261 竪穴住居跡出土遺物 (2)

SI262 竪穴住居跡（第 22 ～ 29 図）

本住居跡においては 3 面の床面を確認した。新しい順に床面 1、床面 2、床面 3 としたが、この内、床面 2 と 3 については、床面 2 における床面埋土の範囲が一部に限定され、多くの範囲で床面 3 と同一面を利用しているため、適宜、床面 2 と 3 をあわせて旧床面とする。これに対し、床面 1 については適宜、新床面と呼称する。以下の記述は、新床面と旧床面に分けて行うが、共通する部分についてはまとめて行う。

また、カマドの軸線は北西方向を向くが、記述の便宜上、この軸線を南北とみなし、カマドの付設された壁面を北壁とする。同様にカマドに向かって両側の壁面は、東壁、西壁とする。床面施設等の位置関係についても、この基準に従って行う。

【位置・確認】調査区西区北部の 6・7・12・13 グリッドに位置する。住居跡の約 2/3 を確認した。南壁および東壁の大部分については、SI275・263 との重複およびカクランにより確認できなかった。

【重複】SI261・263・275、SD119、P61・62・66・91 より古い。

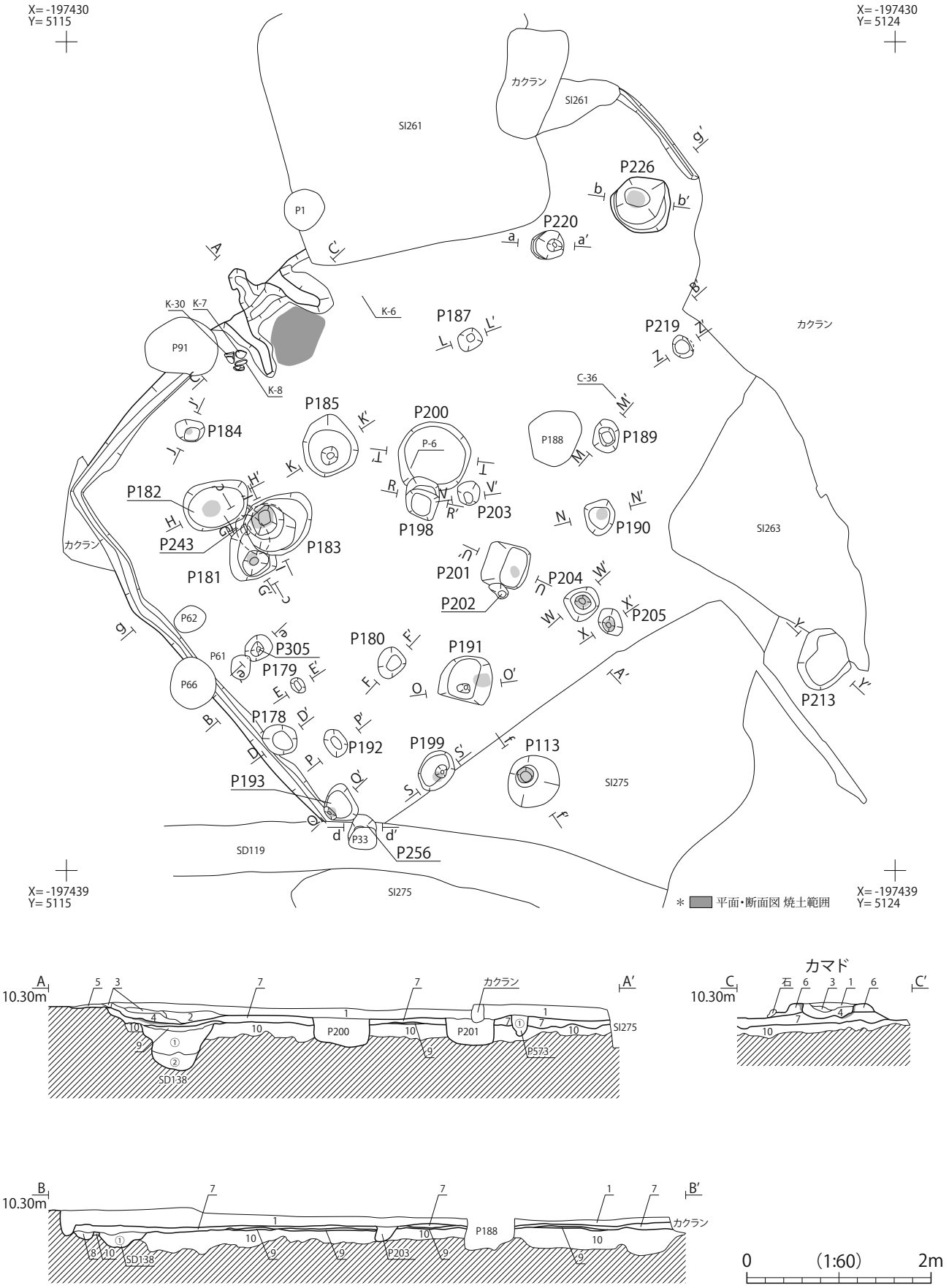
【規模・形態】規模は、長軸 775cm、短軸 700cm 以上で、今次調査においては最大の竪穴住居跡である。なお規模については、旧床面から新床面に移行する際に西側周溝および東側の主柱穴がより外側に移動していることから、旧床面の段階ではより規模の小さな住居であった可能性がある。平面形は主柱穴の位置から、概ね方形を呈するものと推定される。

【方向】カマドを基準として N － 41° － W である。

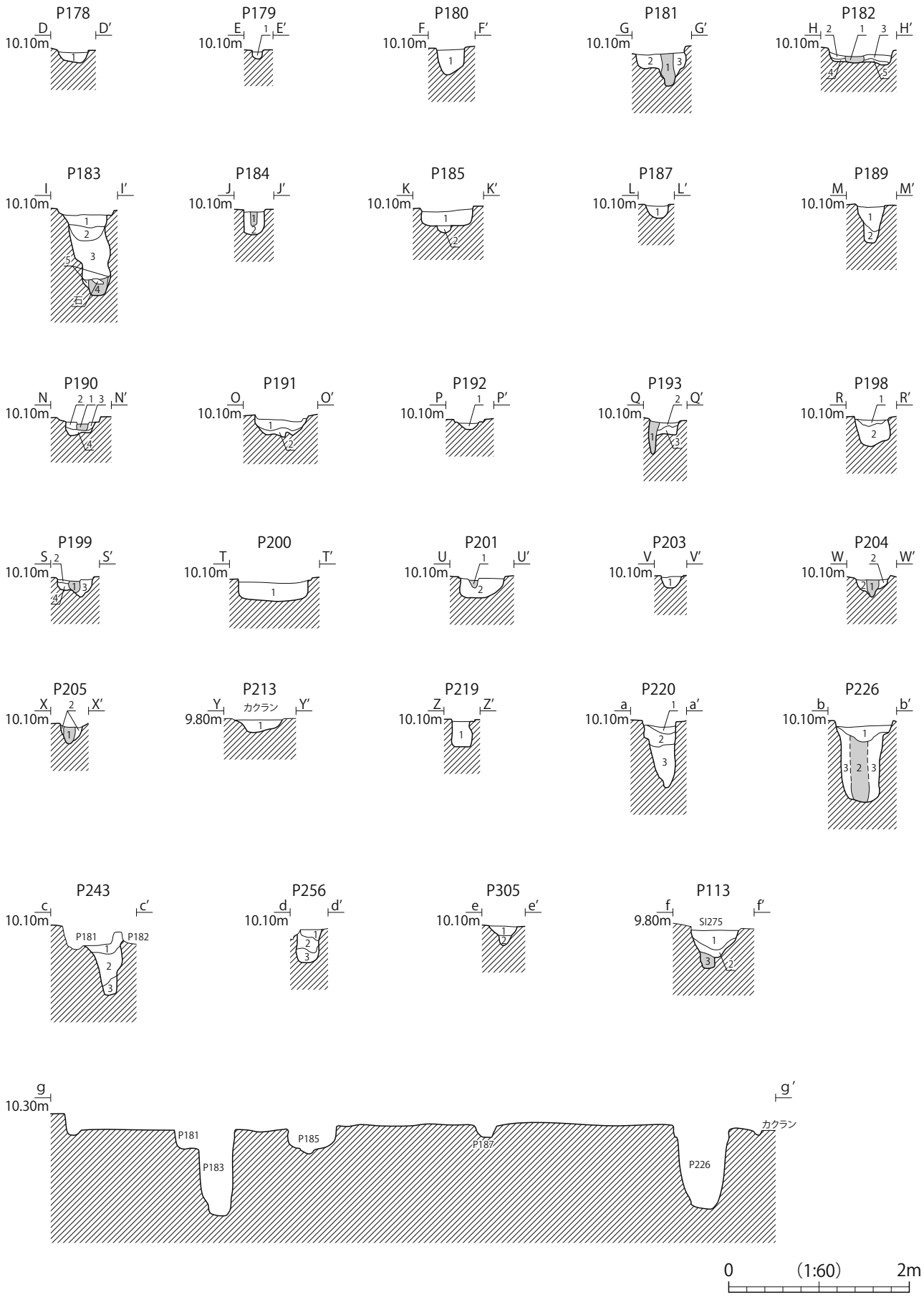
【堆積土】10 層に分層した。1･2 層は住居堆積土、3 ～ 6 層はカマド関連の堆積土、7 層は床面 1 の埋土、8 層は旧床面（床面 2・3）の周溝堆積土、9 層は床面 2 の埋土、10 層は住居掘り方である。

【壁面】ほぼ直立する。壁高は、新床面で 3 ～ 15cm、旧床面で 6 ～ 25cm である。

SI262 床面 1（新床面）



第 22 図　SI262 竪穴住居跡（1）



第 23 図　SI262 竪穴住居跡（2）

【床面】新しい順に床面１～３の３面を確認した。床面１（新床面）は､7 層上面である。7 層は住居全体に分布する。概ね平坦であるが、西壁沿いから北西にかけた範囲が若干低い。これは、後述する床面３の施設（SD138）を埋めた箇所に相当する。床面２は９層上面で、SD138 を９層により埋めて形成された床面である。しかし９層の分布が住居中央部など一部に限定されるため、多くの部分では床面３である 10 層上面が、床面２の段階にも継続して利用されている。床面施設も SD138 以外、床面３に限定できる遺構はない。

床面２は、９層が分布する中央部がわずかに高いものの概ね平坦である。ただし、SD138 を埋めた箇所については若干低い。床面３は、住居掘り方である 10 層上面である。若干の起伏を伴うが概ね平坦である。

【柱穴】《新床面》その規模や位置関係から３基の主柱穴を確認した（P113･183･226）。南東角の主柱穴については、カクラン範囲にあり確認できなかった。なお P113 については、本住居跡の南側で重複する SI275 の掘り方底面で確認したが、その位置関係から本住居跡における南西主柱穴と判断した。また、P113 は、他の北西・北東主柱穴が旧床面時から位置を変更しているのに対して､床面１～３を通して同位置を踏襲したものと考えられる。規模は、P113（南西主柱穴）が長軸 58cm、深さ 43cm、P183（北西主柱穴）が長軸 76cm、深さ 89cm、P226（北東主柱穴）が長軸 65cm、深さ 85cm である。いずれも抜き取り穴が認められる。

《旧床面》新・旧床面で位置が踏襲された P113 を含め、その規模や位置関係から４基の主柱穴を確認した（P13・113・282・339）。床面２・３を通して利用されたものと考えられる。なお P13 については、本住居跡の南東側で重複する SI263 の掘り方底面で確認したが、その位置関係から本住居跡における南東主柱穴と判断した。規模は、P13（南東主柱穴）が長軸 78cm、深さ 68cm、P282（北東主柱穴）が長軸 78cm、深さ 92cm、P339（北西主柱穴）が同 48cm、深さ 57cm である

主柱穴の位置は、旧床面から新床面への移行時に変更されたものと考えられる。西側２箇所の主柱穴は、同位置ないし近接した箇所で作り替えているのに対し、東側２箇所の主柱穴は新床面の段階で東へ 1.1 m移動している。このことから、新床面段階で住居跡が東側に拡張した可能性も考えられる。

【周溝】《新床面》西辺、北辺西側、東辺で確認した。規模は幅 13 ～ 24cm、深さ 12cm である。なお、新床面における周溝内の堆積土については、住居堆積土と分離できなかったため、ほぼ同時期に埋没したものと判断した。

《旧床面》西壁沿いでのみ確認した。また、新床面の周溝より約 20cm 住居内側に位置する。規模は幅 13 ～ 30cm、深さ 7cm である。旧床面の周溝は直上を７層により覆われる。

【カマド】カマドは新床面でのみ確認した。北壁中央のやや西寄りに位置し、壁面に直行して付設されている。袖の規模は、東袖が長さ 70cm、幅 34cm、西袖が長さ 78cm、幅 25cm である。燃焼部は、規模が奥行き 73cm、幅 65cm、奥壁高 12cm で、壁内に位置する。煙道部の規模は、長さ 40cm、幅 13 ～ 36cm、深さ２～ 5cm である。特に煙道部は削平を受けていると考えられる。

カマド底面は､住居床面より 10cm 程低い凹面となっており､長軸 70cm､短軸 55cm の範囲に焼け面が認められる。このカマドの位置は、旧床面における SD132 東端部の上位にあたる箇所である。

【その他の施設】《新床面》ピット 27 基（P178 ～ 182・184・185・187・189 ～ 193・198 ～ 201・203 ～ 205・213・219・220・243・256・305・573）を確認した。なお、P573 は南北ベルト断面でのみ確認した遺構である。全体的に西半部に多くが位置している。規模は、長軸が 50cm を超える大型（P181・182・185・191・200)、30 ～ 50cm の 中 型（P178・180・184・187 ～ 190・192・193・198・199・201・204・205・213・220・243・256・305・305)、30cm 未満の小型（P179・202・203・219・573）に分かれる。大型・中型ピットの中には柱痕跡をもつものが 10 基確認され、大きく、北西主柱穴である P183 周辺と住居跡南半部の２箇所に分布する。この内、P183 に近接または重複して確認された大型ピットの P181・182 については、この箇所での柱穴の作り替えに関わる可能性がある。両ピットの規模は、P181 が長軸 57cm、深さ 37cm で、P182 が長軸 71cm、深さ 14cm である。住居跡南半部に分

布する柱痕跡をもつピット（P190・191・193・199・201・204・205）については、特に規則的な配置はみられず、建物の構造に関わる遺構であるかは不明である。

《旧床面》溝跡1条（SD132）、土坑1基（SK247）、ピット30基（P269～273・278・279・283～285・288・289・304・306・314～317・322～325・327・328・342～344・363～365）を確認した。

SD132は床面3に構築された特異な遺構である。西壁沿いを南北方向に延び、北西隅で東に折れ、北壁中央まで壁に沿ってL字形に掘り込まれている（第24図）。確認範囲での規模は、上端幅48～80cm、下端幅15～48cm、深さ15～49cm、全長約769cmである。幅、深さともに西壁沿いの南端から北壁沿いの東端に向かって数値が大きくなる傾向がある。断面形は西壁側で浅い碗形、東端部ではやや不整な逆台形を呈する。壁面、底面ともに凹凸が顕著で、上端線も直線的ではない。堆積土は最深部で2層に分かれる。ともに基本層Ⅳ層のブロックを含む暗褐色砂質シルト層で、人為的に埋められたものと考えられる。堆積土中に互層状の特徴はなく、水が流れたとみられる痕跡は認められなかった。

遺物は、堆積土中から土師器片4点と自然礫1点が出土したが、図示できるものはない。溝の東端で重複する古い焼け面とピットを確認したが、SD132との関係は不明である。

SK247は住居中央で確認した。平面形は不整な長楕円形で、規模は長軸105cm、短軸53cm、深さ26cmである。堆積土は3層に分かれる。底面には径20cm程のピット状の凹みがみられる。

最も多くの床面施設が分布するのは、住居北東部である。この内、SD132の東30cmで確認したP283は、長軸69cm、短軸39cm、深さ22cmの不整形のピットである。堆積土中に多量の焼土を含み、上面には焼け面が認められる。この遺構については、長軸は住居北壁に対し斜交して延びるが、旧床面に伴うカマドの痕跡である可能性が考えられる。焼け面の両側にはそれぞれ径15cm程のピットが確認された。

P283の東に近接する大型ピット（P273・317・344）の堆積土中からも多量の焼土・炭化物が出土している。これらのピットは、SI261と重複するものの平面形は円形ないし楕円形を呈するものと考えられる。規模は、P273が長軸70cm、短軸44cm以上、深さ18cm、P317が長軸79cm、短軸46cm以上、深さ11cm、P344が長軸65cm以上、短軸51cm以上、深さ8cmである。

焼土や炭化物の分布状況から判断して、この住居北東部にカマド等の火を使用する施設があった可能性は高いと考えられる。仮に、P283が旧床面に伴うカマドとすれば、SD132はその前面まで延長していたことになり、火を用いる作業との関連性も推測される。

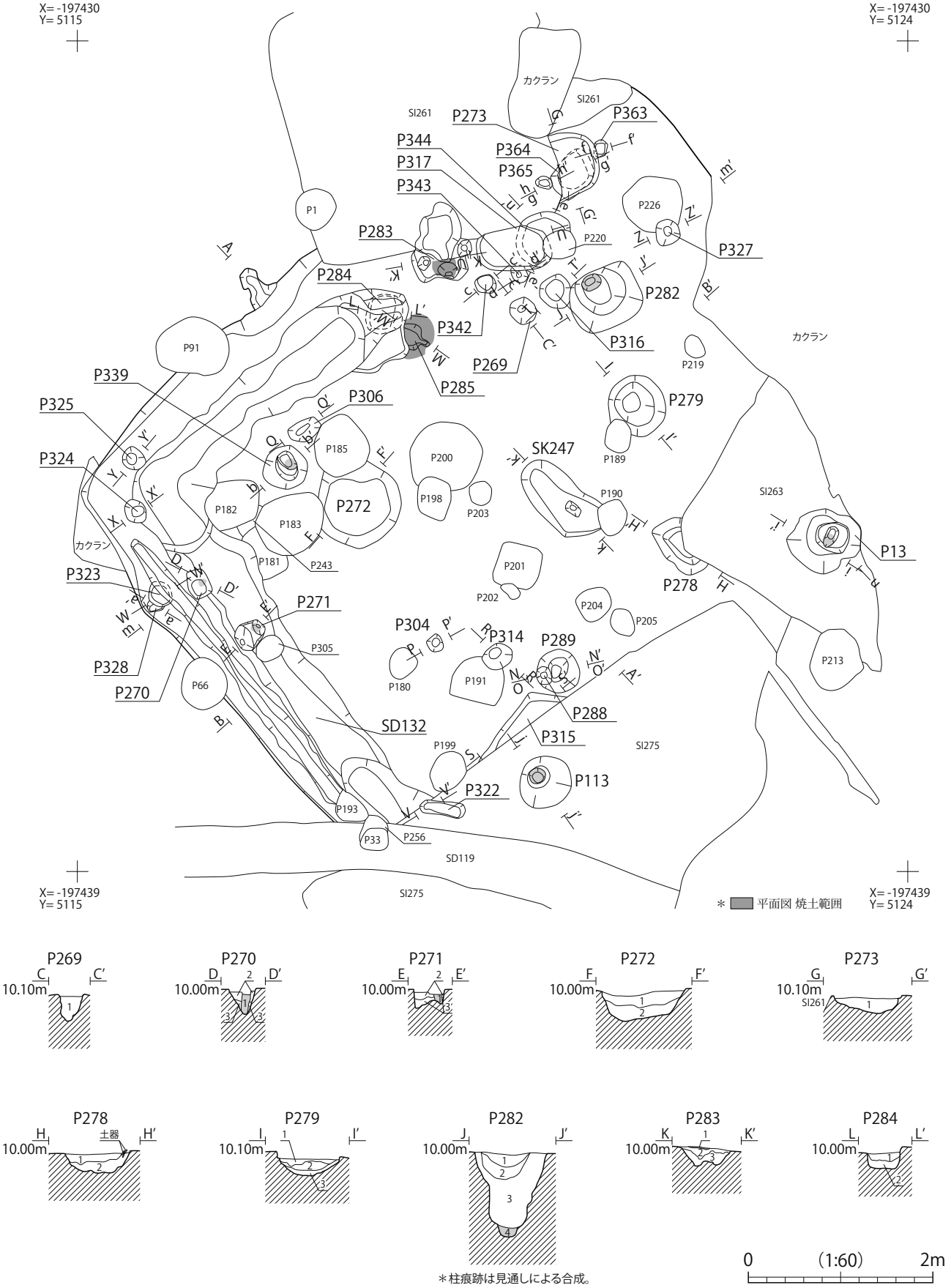
住居跡北西部および南西部においても、複数のピットがまとまって分布する。特に北西部にみられるピットの幾つかはSD132との関連性も想定される。

【掘り方】底面の形状は、中央部および中軸線に沿った中央から北側にかけての範囲が高く、東西両側が低い。深さは5～20cmである。

【出土遺物】遺物は、住居堆積土、周溝、床面施設、カマド、床面、住居掘り方から土師器1230点、須恵器14点、土製品4点、金属製品1点、石製品8点が出土した。この内、土師器坏6点、同鉢2点、同高坏1点、須恵器坏3点、同壺1点、土錘3点、柱状土製品1点、砥石2点、磨石3点、凹石2点、石皿1点、敲石1点を掲載した（第27～29図）。非掲載遺物には土師器坏50点、須恵器坏1点が含まれるが、図示できる遺物はない。他の遺物についても同様である。掲載遺物の内、2～5・9・12・14・15は住居堆積土、6・13・16・22・24は床面施設堆積土、19はカマド崩落土、7・10・20・21・23・26は床面1（新床面）、25は床面1埋土、8・17は床面2埋土、1・11・18は住居掘り方からの出土である。

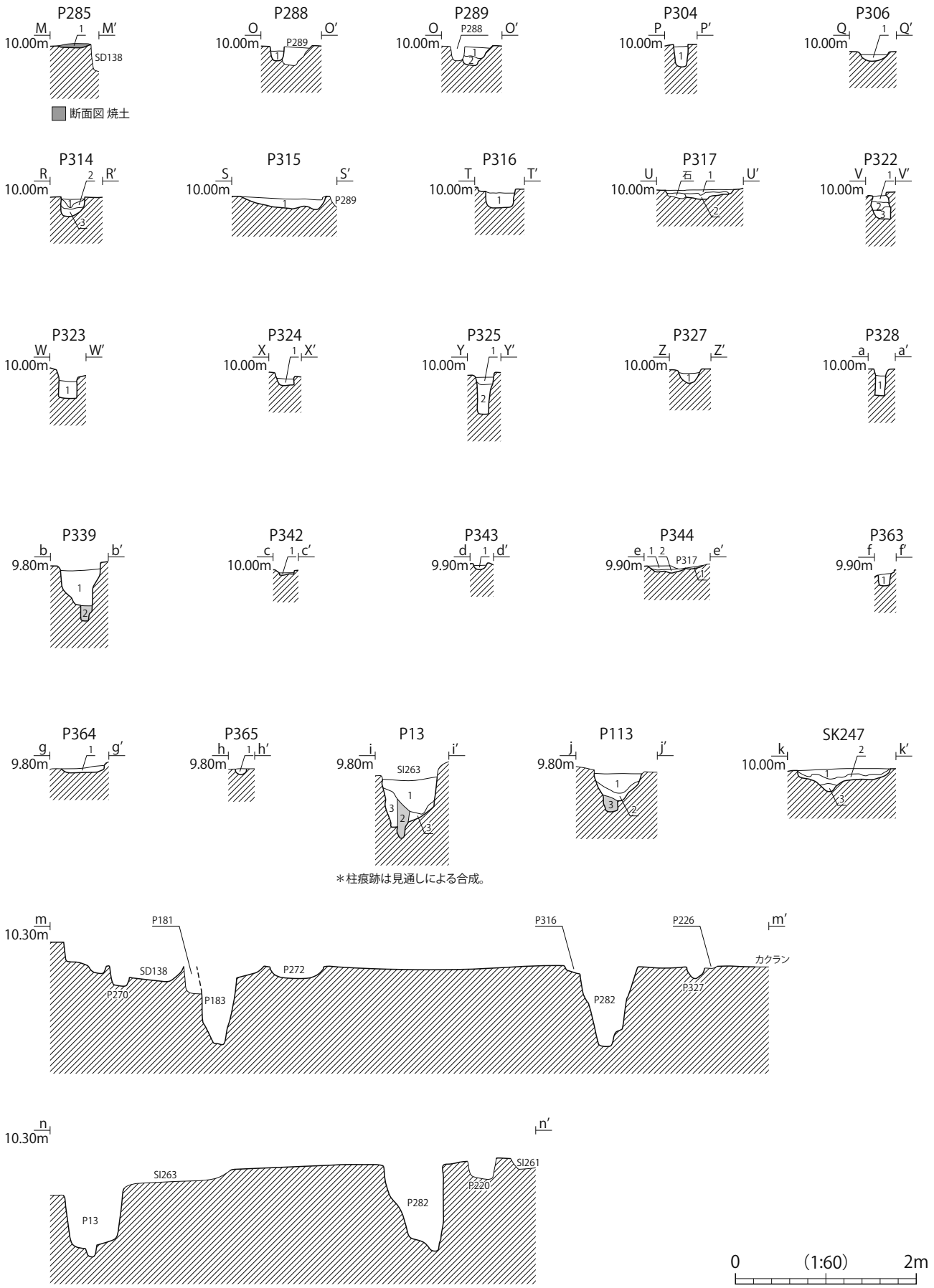
1～4・7は土師器坏である。1は、口縁部と体部の境に弱い段をもつ丸底坏である。口縁部は内湾気味に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリで内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。2は、口縁部

SI262 床面 2・3（旧床面）



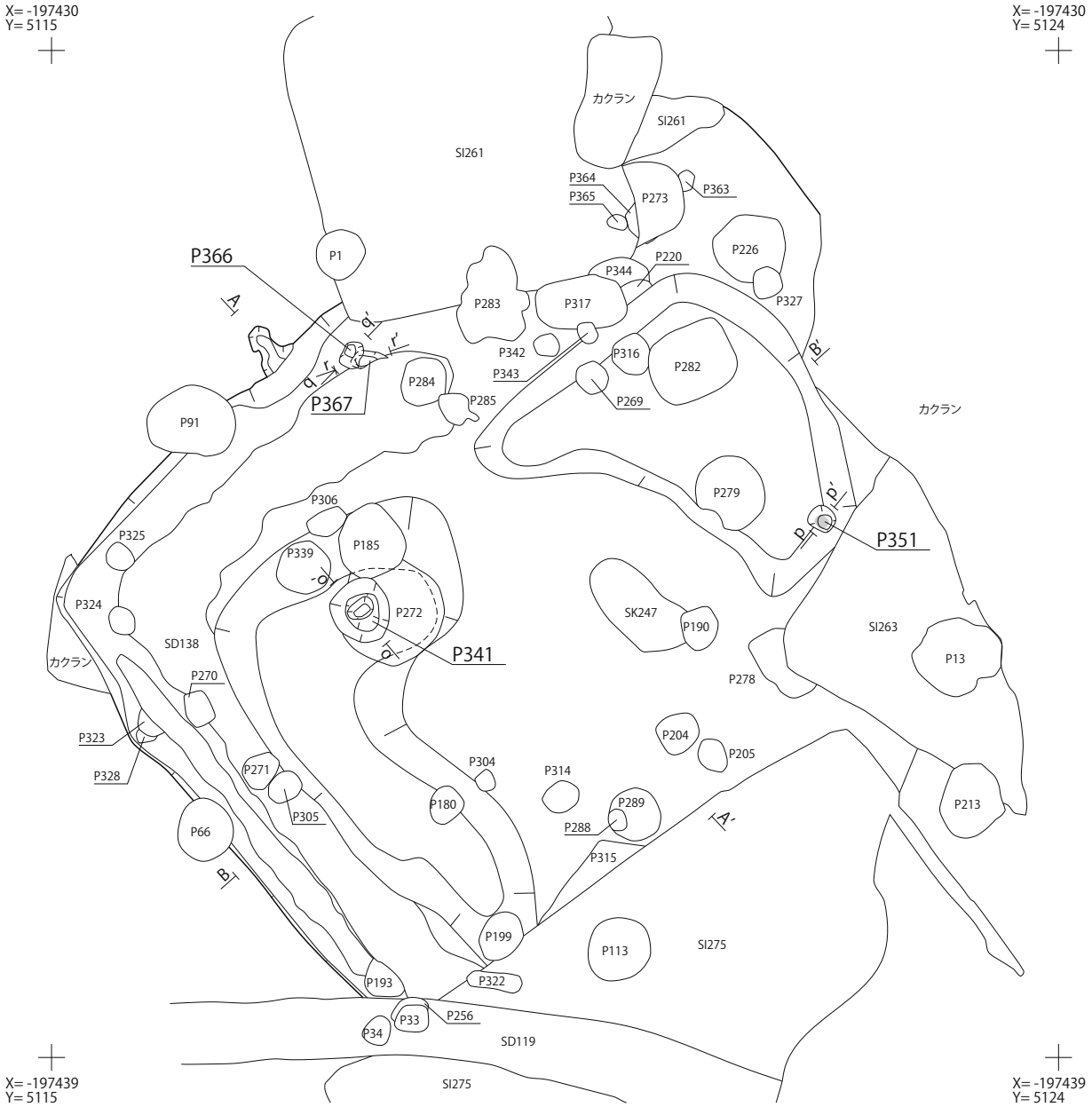
＊柱痕跡は見通しによる合成。

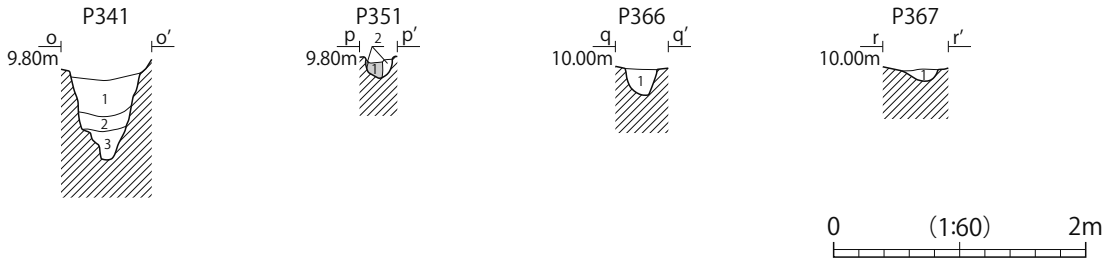
第 24 図　SI262 竪穴住居跡（3）



第 25 図　SI262 竪穴住居跡（4）

SI262 掘り方底面





第 26 図　SI262 竪穴住居跡 (5)

SI262 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	焼土粒（1 ～ 10mm）少量含む。
カマド	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（20 ～ 50mm）やや多く含む。（天井崩落土）
	4	7.5YR3/4 暗褐色	粘質シルト	焼土粒（1 ～ 10mm）多量含む。炭化物含む。
	5	10YR4/4 褐色	砂質シルト	暗褐色土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
カマド袖	6	10YR4/4 褐色	砂質シルト	炭化物・焼土粒やや多く含む。
床面 1 埋土	7	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。
周溝	8	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 2mm）やや多く含む。（床面 2・3 周溝）
床面 2 埋土	9	10YR4/2 灰黄褐色	粘質シルト	炭化物粒少量含む。
住居掘り方	10	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量含む。（上面が床面 3）

SI262 床面 1（新床面）施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P113 主柱穴	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）多量含む。（抜き取り穴）
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。（抜き取り穴）
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10mm）少量含む。（柱痕跡）
P183 主柱穴	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	黒色土ブロック（10 ～ 50mm）少量含む。（抜き取り穴）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量含む。（抜き取り穴）
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）・炭化物ブロック（10 ～ 30mm）少量含む。（抜き取り穴）
	4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）やや多く含む。（柱痕跡）
	5	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）多量含む。
P226 主柱穴	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）・焼土粒・炭化物粒少量含む。（抜き取り穴）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）やや多く含む。（柱痕跡）
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）・焼土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
P178	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 50mm）少量含む。
P179	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）極少量含む。
P180	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量含む。
P181	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 5mm）・黒色土粒（3 ～ 5mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 5mm）少量含む。
P182	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 5mm）少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 5mm）少量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）多量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 5mm）多量含む。
P184	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）やや多く含む。
P185	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量含む。
P187	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量含む。
P189	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土斑状にやや多く含む。
P190	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	炭化物粒（1 ～ 3mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状にやや多く含む。
P191	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 5mm）少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 5mm）やや多く含む。
P192	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量含む。
P193	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）多量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量含む。
P198	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 30mm）少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）やや多く含む。焼土ブロック（10 ～ 30mm）少量含む。
P199	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）少量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）多量含む。
P200	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）・焼土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。
P201	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	炭化物粒（3 ～ 5mm）少量含む。（柱痕跡？）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量含む。
P203	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量含む。
P204	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 5mm）・炭化物粒（1 ～ 3mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（30 ～ 50mm）やや多く含む。
P205	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土斑状にやや多く含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量含む。
P213	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）やや多く含む。
P219	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量含む。
P220	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量含む。焼土を径 0.5 ～ 3cm の粒状に少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）多量、焼土粒（10 ～ 30mm）少量含む。
P243	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 50mm）やや多く含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土斑状に多量含む。
P256	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	焼土粒（1 ～ 5mm）少量、炭化物粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）やや多く含む。
P305	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量含む。
P573	①	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く含む。

SI262 床面 2・3（旧床面）施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P13 主柱穴	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。（抜き取り穴）
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。（柱痕跡）
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）やや多く含む。
P282 主柱穴	1	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 50mm）・焼土粒（5 ～ 30mm）やや多く含む。（抜き取り穴）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量含む。（抜き取り穴）
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）多量含む。（抜き取り穴）
	4	10YR2/3 黒褐色	粘質シルト	（柱痕跡）
P339 主柱穴	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 50mm）多量含む。（抜き取り穴）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量含む。（柱痕跡）
SD138	①	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）多量、炭化物少量含む。
	②	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（20 ～ 40mm）多量含む。
SK247	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状に多量に含む。焼土含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土斑状にやや多く含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト質粘土	
P269	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量含む。
P270	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 50mm）やや多く含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）やや多く含む。
P271	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）多量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）やや多く含む。
P272	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 5cm のブロック状に多く含む。
P273	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	焼土粒（1 ～ 10mm）多量、炭化物粒少量含む。
P278	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）やや多く含む。
P279	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）やや多く含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）多量、炭化物粒少量含む。
P283	1	2.5YR5/8 明赤褐色	砂質シルト	焼土。
	2	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量、焼土（5 ～ 30mm）やや多く含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）多量含む。
P284	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。
P285	1	2.5YR5/8 明赤褐色	砂質シルト	焼土。焼土周囲にも被熱範囲あり。
P288	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）やや多く含む。
P289	1	10YR4/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）やや多く含む。
	2	10YR4/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）多量含む。
P304	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 10mm）やや多く含む。
P306	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く含む。
P314	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）少量含む。
P315	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）やや多く含む。
P316	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。
P317	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	焼土・炭化物粒（1 ～ 10mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	焼土・炭化物粒少量含む。
P322	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 30mm）多量含む。
P323	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）少量含む。
P324	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に含む。
P325	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）少量含む。
P327	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）やや多く含む。
P328	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量含む。
P342	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 20mm）・焼土・炭化物少量含む。
P343	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く含む。
P344	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）やや多く、焼土含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。
P363	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）やや多く含む。
P364	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）やや多く含む。
P365	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）多量含む。

SI262 掘り方底面検出遺構堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P341	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量、炭化物含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘質シルト	鉄分、炭化物やや多く含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘質シルト	炭化物含む。
P351	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）少量含む。
P366	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
P367	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）やや多く、焼土少量含む。

SI262 床面 1（新床面）施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P113	円形	5 8 × 55	43	SI275 掘り方底面で検出 床面 1 ～ 3 の主柱穴
P178	楕円形	39 × 33	13	
P179	楕円形	1 9 × 14	8	
P180	不整形	3 3 × 29	29	
P181	（不整形）	57 × 51	37	
P182	楕円形	71 × 51	14	
P183	楕円形	76 × 63	89	主柱穴
P184	楕円形	32 × 24	25	
P185	円形	68 × 60	26	
P187	楕円形	26 × 22	14	
P189	楕円形	35 × 27	41	
P190	不整形	37 × 32	15	
P191	不整形	57 × 50	23	
P192	楕円形	31 × 22	7	
P193	不整形	40 × 37	37	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P198	不整形	42 × 37	30	
P199	楕円形	47 ×（35）	20	
P200	円形	76 ×（63）	23	
P201	隅丸方形	48 ×（44）	21	
P202	不整形	22 × 13	―	
P203	円形	26 × 25	13	
P204	不整形	37 × 34	20	
P205	楕円形	32 × 24	20	
P213	（楕円形）	(63) × 59	14	
P219	楕円形	26 × 20	28	
P220	円形	36 × 31	69	
P226	不整形	65 × 65	85	主柱穴
P243	（楕円形）	45 × 30	70	
P256	（不整形）	33 ×（27）	36	
P305	楕円形	31 × 26	22	
P573	―	18 × 18	23	断面のみ確認

SI262 床面 2・3（旧床面）施設観察表

遺構名	方向	規模 (cm)				備考
		全長	上端幅	下端幅	深さ	
SD138	N-50°-E N-36°-W	769	48 ～ 80	15 ～ 48	15 ～ 49	床面 3 施設

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK247	不整形	105 × 53	26	
P13	不整形	78 × 67	68	主柱穴
P113	円形	58 × 55	43	主柱穴
P269	円形	30 × 26	27	
P270	楕円形	31 × 24	25	
P271	楕円形	33 × 28	18	
P272	円形	95 × 93	33	
P273	（円形）	70 ×（44）	18	
P278	（楕円形）	66 ×（37）	21	
P279	円形	66 ×（55）	19	
P282	隅丸方形	78 × 64	92	主柱穴
P283	不整形	69 × 39	22	旧カマドか
P284	（円形）	44 × 39	18	
P285	不整形	40 × 27	5	
P288	楕円形	2 0 × 16	11	
P289	円形	47 × 46	21	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P304	不整形	18 × 16	23	
P306	楕円形	35 × 22	8	
P314	楕円形	(31) × 27	19	
P315	不整形	(82) ×（19）	14	
P316	楕円形	36 × 33	17	
P317	楕円形	79 ×（46）	11	
P322	長楕円形	(48) ×（16）	27	
P323	円形	29 ×（26）	20	
P324	楕円形	28 × 23	8	
P325	円形	26 × 22	41	
P327	円形	(27) × 26	12	
P328	（不整形）	18 ×（12）	22	
P339	円形	48 × 46	57	主柱穴
P342	円形	22 × 20	3	
P343	（円形）	(19) × 16	4	
P344	（楕円形）	(65) ×（51）	8	
P363	円形	19 ×（14）	14	
P364	（不整形）	(51) ×（37）	9	
P365	楕円形	18 × 13	7	

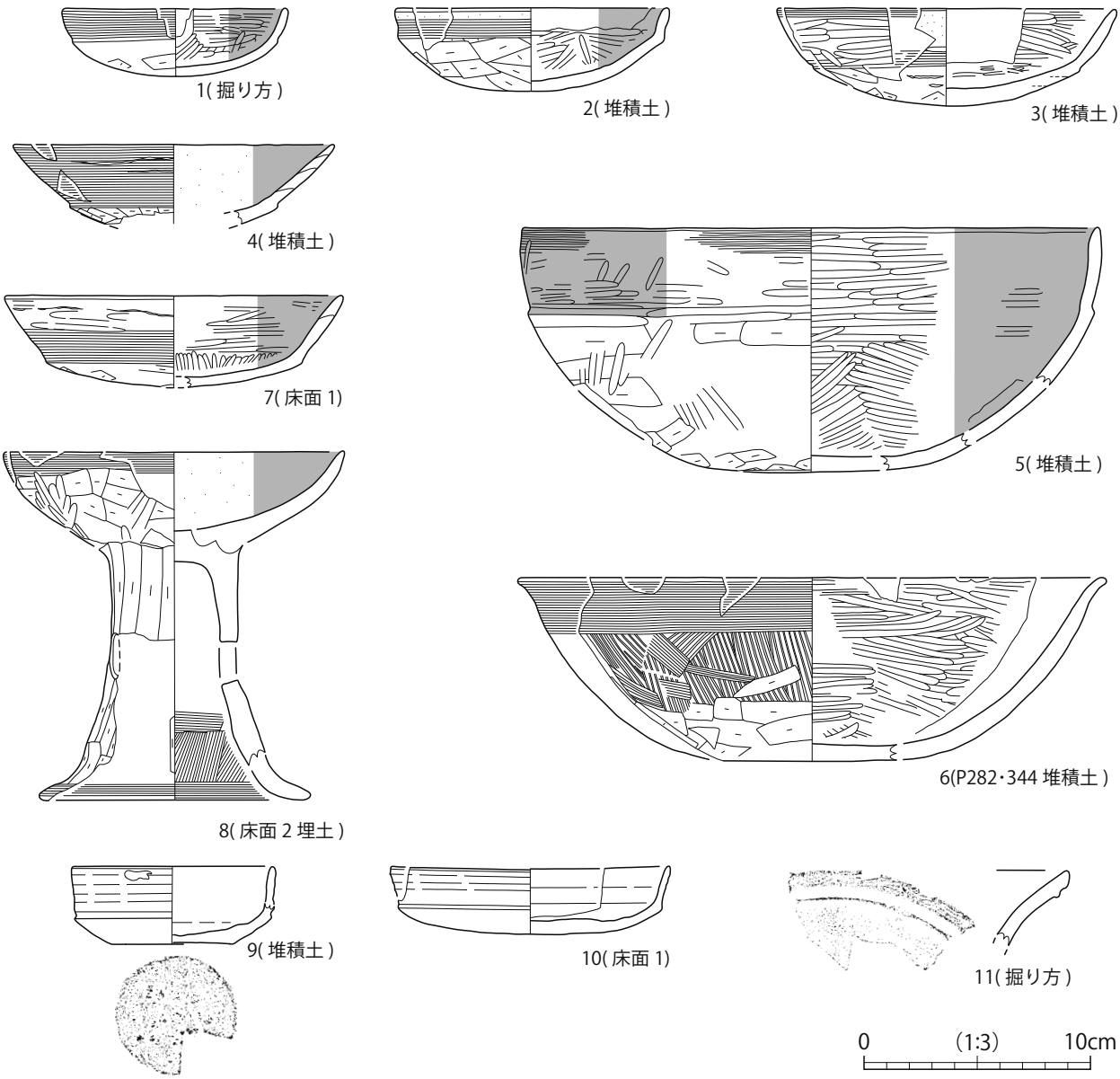
SI262 掘り方底面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P341	楕円形	57 × 53	68	
P351	円形	24 × 21	15	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P366	楕円形	25 × 19	21	
P367	（楕円形）	（28）× 17	10	

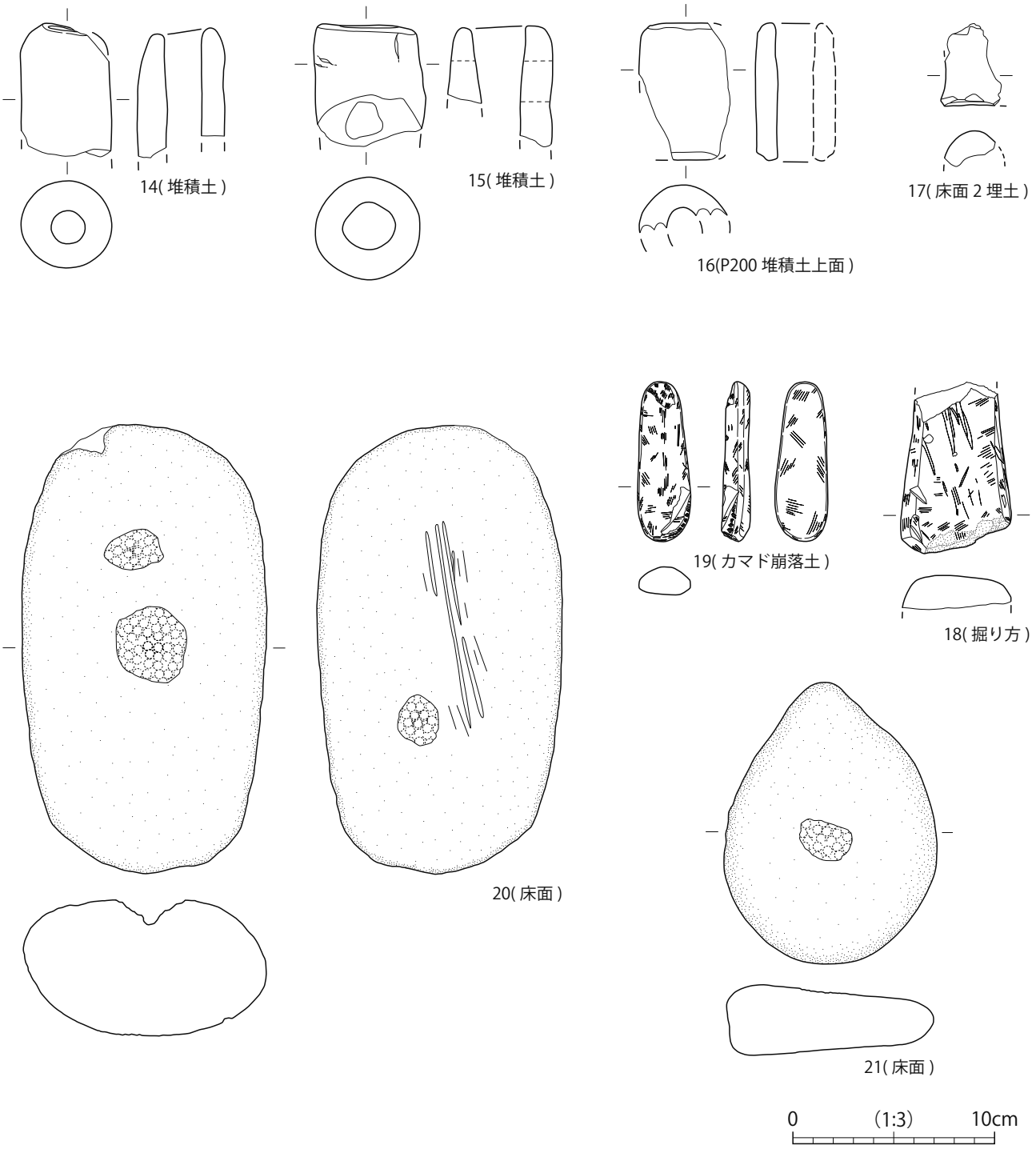
と体部の境に屈曲をもつ丸底坏である。口縁部は直立気味に外反する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリで内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。3 は内湾気味に外傾した長い口縁部をもつ有段丸底坏である。調整は、外面が口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、底部ヘラケズリ後一部ヘラミガキ、内面はヘラミガキである。4 は直線的に外傾した長い口縁部をもつ有段丸底坏である。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリで、内面は黒色処理が施される。7 は直線的に外傾した長い口縁部をもつ有段丸底坏である。調整は、外面が口縁部ヘラミガキ、ヨコナデ、底部ヘラケズリで、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。

5･6 は、鉢とした大型の土器である。5 は、口縁部と体部の境に段をもつ丸底の鉢である。口径は 25.5cm である。口縁部は内湾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、体～底部ヘラケズリ後ヘラミガキで、口縁部にのみ黒色処理が施される。内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。6 は、体部が内湾気味に外傾し口縁部が外反する。底部は平底風の丸底である。口径は 26cm である。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ後ヘラケズリで、内面はヘラミガキである。8 は長脚の高坏である。不整な楕円形のスカシが 2 箇所にみられる。坏部は内湾気味に外傾する。調整は、外面が坏部ヨコナデ、ヘラケズリ、ヘラミガキ、脚部ヘラケズリ、ヨコナデで、内面は坏部ヘラミガキ後、脚部ヘラケズリ、ヘラナデ、ヨコナデである。坏部内面の調整は不明だが、黒色処理が施される。



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-29	SI262	掘り方	土師器	坏	9.8	—	3.0	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　外面摩滅 骨針あり　赤褐色粒あり	47-1
2	C-30	SI262	堆積土	土師器	坏	12.0	—	3.7	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針多量 赤褐色粒あり	47-2
3	C-32	SI262	堆積土	土師器	坏	(15.0)	—	4.3	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ 底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ→一部ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	骨針あり	47-3
4	C-33	SI262	堆積土	土師器	坏	14.2	—	(3.5)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ		内面黒色処理　骨針あり 内面摩滅	47-4
5	C-34	SI262	堆積土	土師器	鉢	(25.5)	—	(10.7)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内外面黒色処理　骨針あり	47-7
6	C-35	SI262 P282 ・344	堆積土	土師器	鉢	(26.0)	—	8.1	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	骨針あり	47-6
7	C-36	SI262	床面 1	土師器	坏	(14.8)	—	(4.1)	口縁：ﾍﾗﾐｶﾞｷ、ﾖｺﾅﾃﾞ 底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり	47-5
8	C-37	SI262	床面 2 埋土	土師器	高坏	(15.0)	脚径 (12.0)	(15.4)	坏部：ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ 脚部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾖｺﾅﾃﾞ	脚部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	内面黒色処理　スカシ 2 ヶ所 (不整楕円形) 赤褐色粒あり	47-8
9	E-5	SI262	堆積土	須恵器	坏（身）	(8.8)	5.4	3.45	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	骨針あり	46-10
10	E-6	SI262	床面 1	須恵器	坏（身）	(12.2)	(11.6)	3.0	ﾛｸﾛ調整 底部：手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	骨針多量	46-11
11	E-7	SI262	掘り方	須恵器	壺？	—	—	(3.3)	ﾛｸﾛ調整 波状文、凸帯 1 条	ﾛｸﾛ調整		46-12
12	C-31	SI262	堆積土	土師器	坏	—	—	(3.8)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針多量 赤褐色粒あり　写真掲載のみ	47-9
13	E-8	SI262 P282	堆積土	須恵器	坏	—	—	—	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	骨針多量　写真掲載のみ	46-13

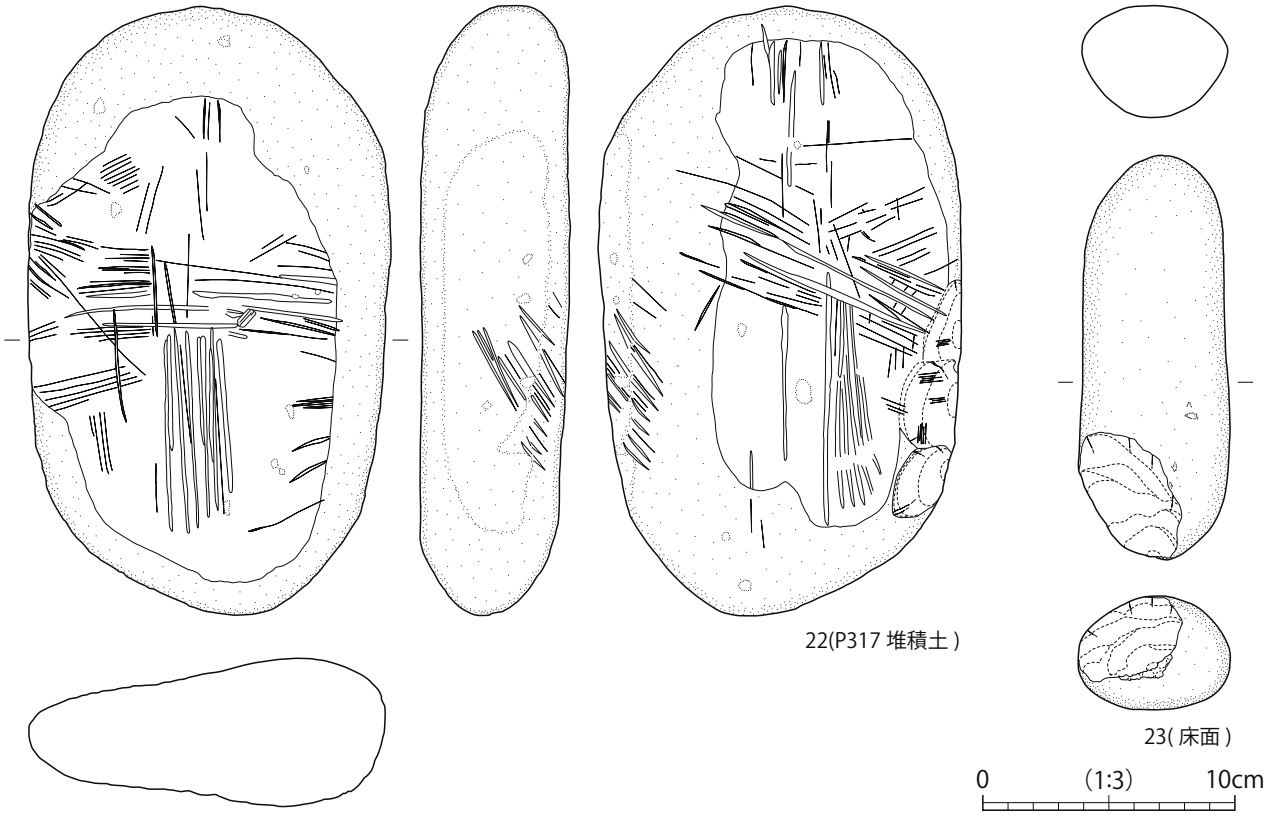
第 27 図　SI262 竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
14	P-3	SI262	堆積土	土製品	土錘	(6.5)	4.5	4.5	116.5	孔径 1.7cm　骨針極少量　赤褐色粒あり	47-14
15	P-4	SI262	堆積土	土製品	土錘	(6.1)	5.5	5.5	142.0	孔径 2.5cm　輪積痕あり　破断面摩滅　赤褐色粒あり	47-15
16	P-6	SI262 P200	堆積土上面	土製品	土錘	6.8	(4.4)	(2.0)	49.0	孔径 2.1cm　骨針あり	47-16
17	P-5	SI262	床面 2 埋土	土製品	柱状土製品	(4.0)	(3.0)	(1.8)	16.0	端部平坦	47-17

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石材	備考	写真図版
18	K-3	SI262	掘り方	石製品	砥石	(8.5)	5.5	(1.7)	84.0	粘板岩	砥面 3 面	48-1
19	K-4	SI262	カマド崩落土	石製品	磨石	7.9	2.7	1.4	22.0	凝灰岩	端部に平坦面あり	48-2
20	K-6	SI262	床面 1	礫石器	凹石	22.2	12.1	6.7	2080.0		被熱痕あり　凹み 3 ヶ所　線条痕あり	48-4
21	K-7	SI262	床面 1	礫石器	凹石	13.9	10.6	3.5	693.0	安山岩	カマド脇から K-8 と一括出土　中央に極浅い凹み　扁平礫を利用	48-3

第 28 図　SI262 竪穴住居跡出土遺物 (2)



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石材	備考	写真図版
22	K-5	SI262 P317	堆積土	礫石器	石皿	24.1	14.4	5.9	1730.0	凝灰岩	砥面 3 面　線条痕多数	48-5
23	K-8	SI262	床面 1	礫石器	敲石	16.0	5.9	4.4	664.0	安山岩	カマド脇から K-7 と一括出土　端部に敲打痕　使用による衝撃剥離痕あり　柱状礫を利用	48-6
24	K-9	SI262 SD138	堆積土	礫	磨石	3.1	2.7	2.2	14.5	凝灰岩	全面磨面　被熱痕あり　球状　写真掲載のみ	48-7
25	K-10	SI262	床面 1 埋土	礫	磨石	4.4	4.0	3.8	71.0	凝灰岩	全面磨面　被熱痕あり　球状　写真掲載のみ	48-8
26	K-30	SI262	床面 1	礫	砥石？	13.8	11.3	6.9	130.0	砂岩	砥面 4 面　写真掲載のみ	48-9

第 29 図　SI262 竪穴住居跡出土遺物 (3)

9･10 は須恵器坏である。9 は、口縁部と体部の境に段をもち、口縁部が直立する。底部には回転ヘラ切り痕がみられる。10 は、口縁部と体部の境に段をもち、口縁部がやや外反気味に外傾する。底部は手持ちヘラケズリによる再調整が施され、丸底を呈する。11 は壺の口縁部の可能性が考えられる。全体形状は不明だが、外面に波状文と凸帯 1 条がみられる。

14 ～ 16 は大型の管状土錘である。直径は 4.5 ～ 5.5cm で孔径は 1.7 ～ 2.5cm である。17 は、用途は不明だが端部に平坦面をもつ棒状土製品である。

18・26 は砥石である。欠損しているが柱状の砥石であると考えられる。18 は粘板岩製で、砥面は 4 面である。26 は写真のみ掲載した。砂岩製で砥面は 4 面である。破損が著しく全体形状は不明である。19・24・25 は磨石である。全て凝灰岩製である。19 はやや偏平な棒状の磨石である。全体に擦痕があり、端部には一部平坦面がみられる。24・25 は写真のみ掲載した。小型で球状の磨石である。径は 3.1、4.4cm である。20・21 は凹石である。両面に計 3 箇所の凹みがあり、長軸に対し斜交する線状痕が数条みられる。21 は偏平な楕円形の凹石である。片面の中央 1 箇所に極浅い凹みがみられる。この石器と接した状態でカマドの西脇から出土したのが 23 の敲石である。棒状の自然礫を利用しており、一端に敲き痕と大きな剥離痕がみられる。21 と 23 は組み合わせて用いられた可能性がある。

SI263 竪穴住居跡（第 30 図）

より南北軸に近い壁面を西壁とする。記述時の方向はこの基準に従う。

【位置・確認】調査区西区北部の 7・13 グリッドに位置する。大部分がカクランと重複する。住居跡の南西角部のみ確認した。

【重複】SI262 より新しい。

【規模・形態】確認した規模は、長軸 210cm 以上、短軸 155cm 以上である。平面形は方形または長方形を呈するものと推定される。

【方向】西壁を基準として N － 31° － E である。

【堆積土】3 層に分層した。1 層は住居堆積土、2 層は周溝堆積土、3 層は住居掘り方である。

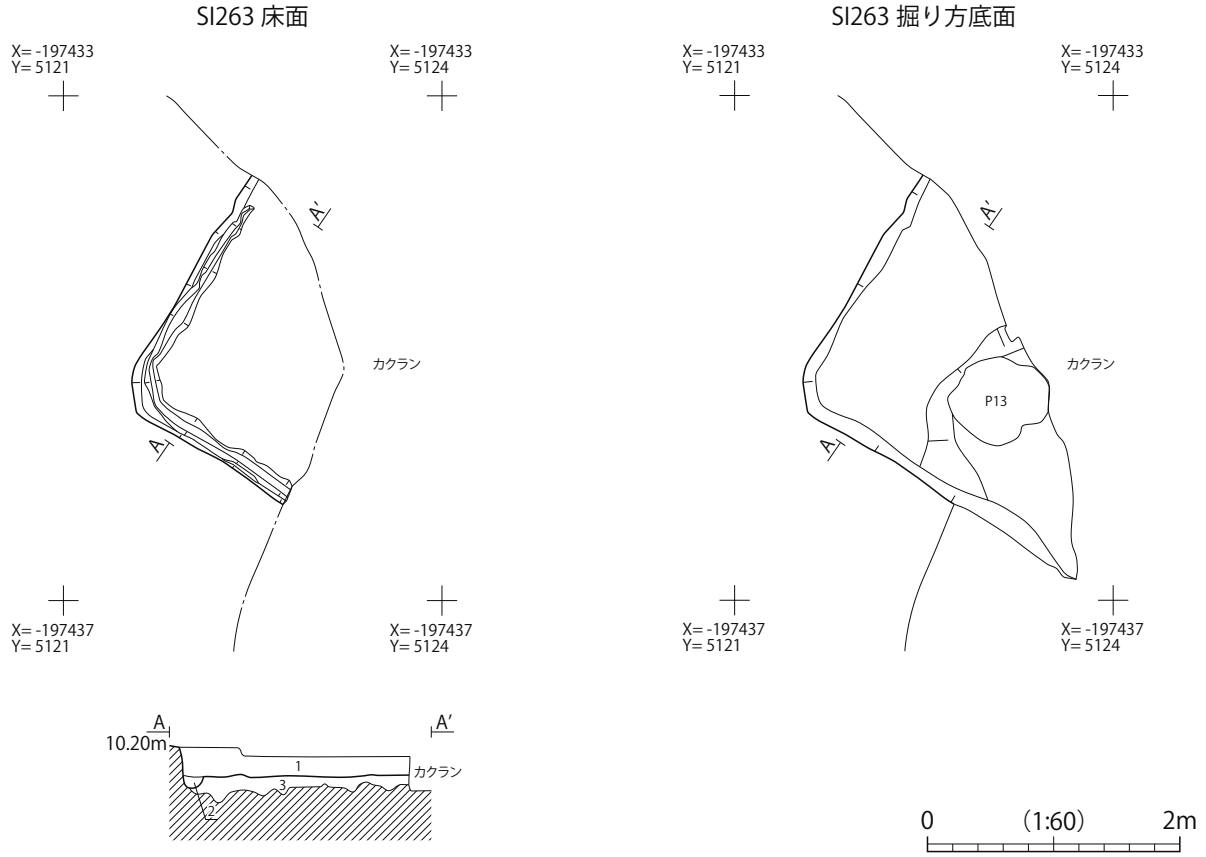
【壁面】壁面は直立する。壁高は 24cm である。

【床面】住居掘り方の 2 層上面が床面である。確認範囲においては平坦である。

【周溝】壁沿いに確認した。規模は幅 5 ～ 20cm、深さ 10cm である。

【掘り方】底面には掘削時の工具痕とみられる凹凸が顕著に確認された。深さは 5 ～ 20cm である。なお、掘り方底面で 1 基柱穴（P13）を確認したが、位置関係や規模から SI262 竪穴住居跡に伴うものと判断した。

【出土遺物】遺物は、住居堆積土、周溝、住居掘り方から土師器 142 点、須恵器 1 点が出土した。非掲載遺物には土師器坏 3 点が含まれるが、図示できる遺物はない。他の遺物も同様である。



SI263 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 20mm）多量、炭化物・焼土少量含む。
周溝	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック含む。
掘り方	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック多量含む。

第 30 図　SI263 竪穴住居跡

SI264 竪穴住居跡（第 31 ～ 36 図）

方向や位置の記述に際しては、カマドの軸線を南北軸とみなし、それを基準にして行う。

【位置・確認】調査区西区北部の 5・6・11・12・17・18 グリッドに位置する。全体を確認した。

【重複】多数の遺構と重複する。SK258、SD130 より新しく、SK225・240・242、SB1、SE1、SD119・120・131、P17・18・36 より古い。

【規模・形態】規模は、長軸 590cm、短軸 555cm である。平面形は方形を呈する。

【方向】カマドを基準として N － 17° － W である。

【堆積土】26 層に分層した。1 ～ 4 層は住居堆積土、5 ～ 7 層は周溝堆積土、8 ～ 17 層（カマド A）および 1 ～ 7 層（カマド B：層名独立）はカマド関連の堆積土、18・19 層は住居掘り方で 18 層は貼床土である。

【壁面】直立気味にやや外傾して立ち上がる。壁高は 30cm である。

【床面】基本的に住居掘り方である 19 層上面が床面であるが、部分的に貼床土である 18 層が分布する。

【柱穴】4 基の主柱穴を確認した（P72・74・77・174）。P72 は北西主柱穴である。平面形は不整な楕円形で、規模は長軸 82cm、短軸 61cm、深さ 32cm である。P74 は南西主柱穴である。平面形は不整な円形で、規模は長軸 72cm、短軸 71cm、深さ 42cm である。P77 は北東主柱穴である。平面形は不整な円形で、規模は長軸 53cm、短軸 49cm、深さ 60cm である。P174 は南東主柱穴である。平面形は、本住居跡より新しい SE1 井戸跡と重複するため不明であるが、不整な円形を呈するものと推定される。断面は井戸跡の壁面で確認した。規模は長軸 45cm、短軸 24cm 以上、深さ 85cm である。

これらの柱穴に抜き取りの痕跡は認められなかった。

【周溝】全ての壁面沿いで確認した。規模は幅 8 ～ 40cm、深さ 10cm である。

【カマド】新・旧 2 時期のカマドを確認した。最終的なカマドを A、古い段階のカマドを B とした。

カマド A は北壁中央に位置し、壁面に直交して付設されている。袖の規模は、東袖が長さ 40cm、幅 15 ～ 25cm、西袖が長さ 65cm、幅 20 ～ 28cm である。袖は壁面にハの字状に付設されている。なお、東袖の端部に隣接する P176 は袖の構築に関わる可能性がある。燃焼部の規模は奥行き 60cm、幅 52cm、奥壁高 20cm で、壁内に位置する。底面には長軸 40cm、短軸 28cm の焼面があり、そのやや北寄りの位置で柱状の川原石を利用した支脚が直立した状態で確認された。P118 はこの支脚の据え方である。煙道部の規模は、燃焼部奥壁からの長さが 180cm、幅 13 ～ 40cm、深さ 21 ～ 40cm である。底面は、奥壁に向かって緩やかに上がる斜面となっており、煙道部では、煙出し部分に向かって緩やかに下がる斜面となっている。

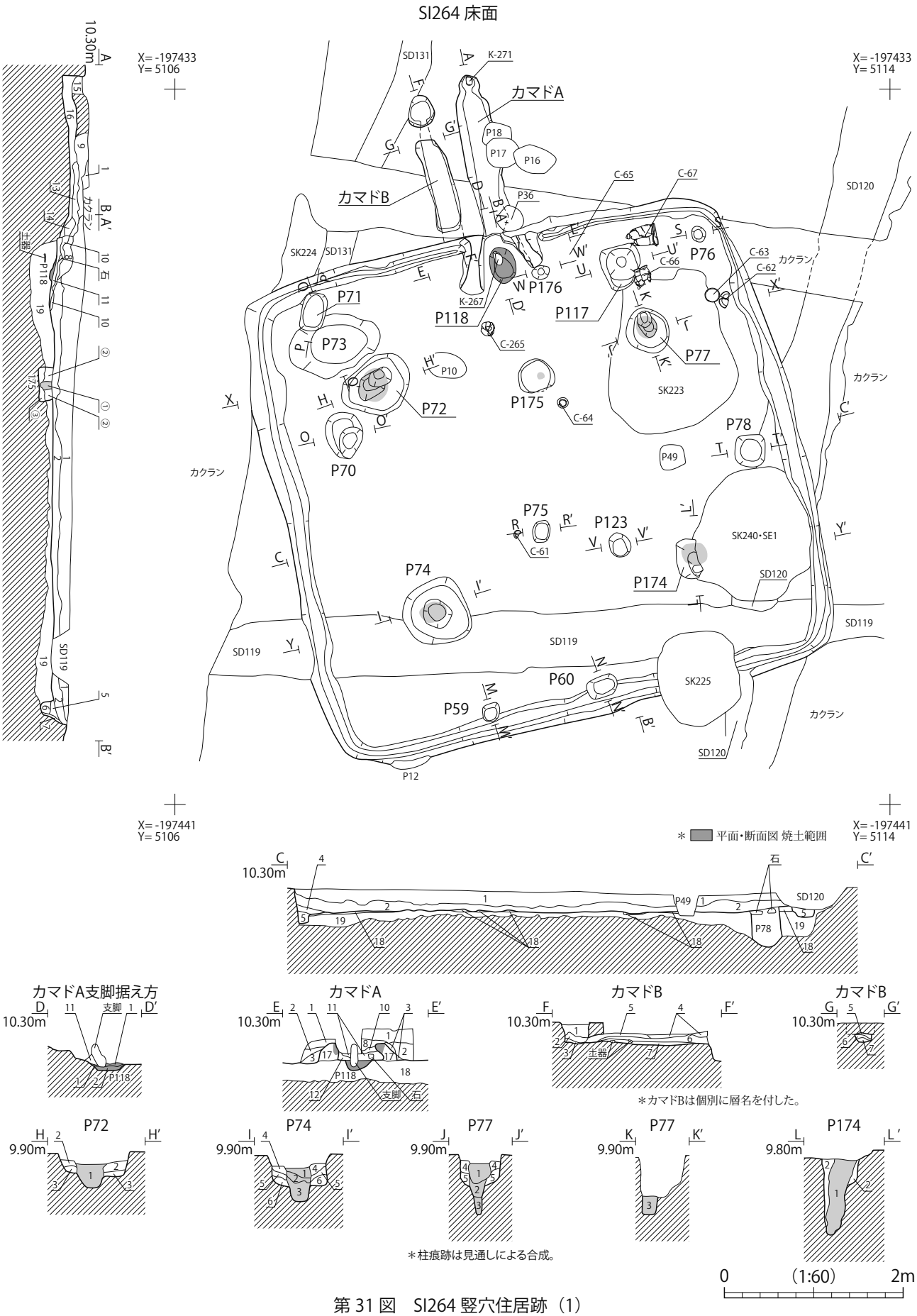
カマド B は、A の西側 50cm 程離れた箇所で煙道部のみ確認した。規模は、長さ 155cm、幅 22 ～ 28cm、深さ 7 ～ 13cm である。

【その他の施設】床面でピット 12 基を確認した。この内カマドの東脇で確認した P117 は、周囲から土師器甕が 2 個体出土していることから、貯蔵等に関わる可能性がある。規模は、長軸 47cm、短軸 45cm、深さ 47cm である。また、比較的規模の大きなものとしては、カマドの西脇で確認した P73 がある。規模は、長軸 106cm、短軸 63cm で、深さは 14cm と浅いが堆積土中から多量の焼土、炭化物が出土している。

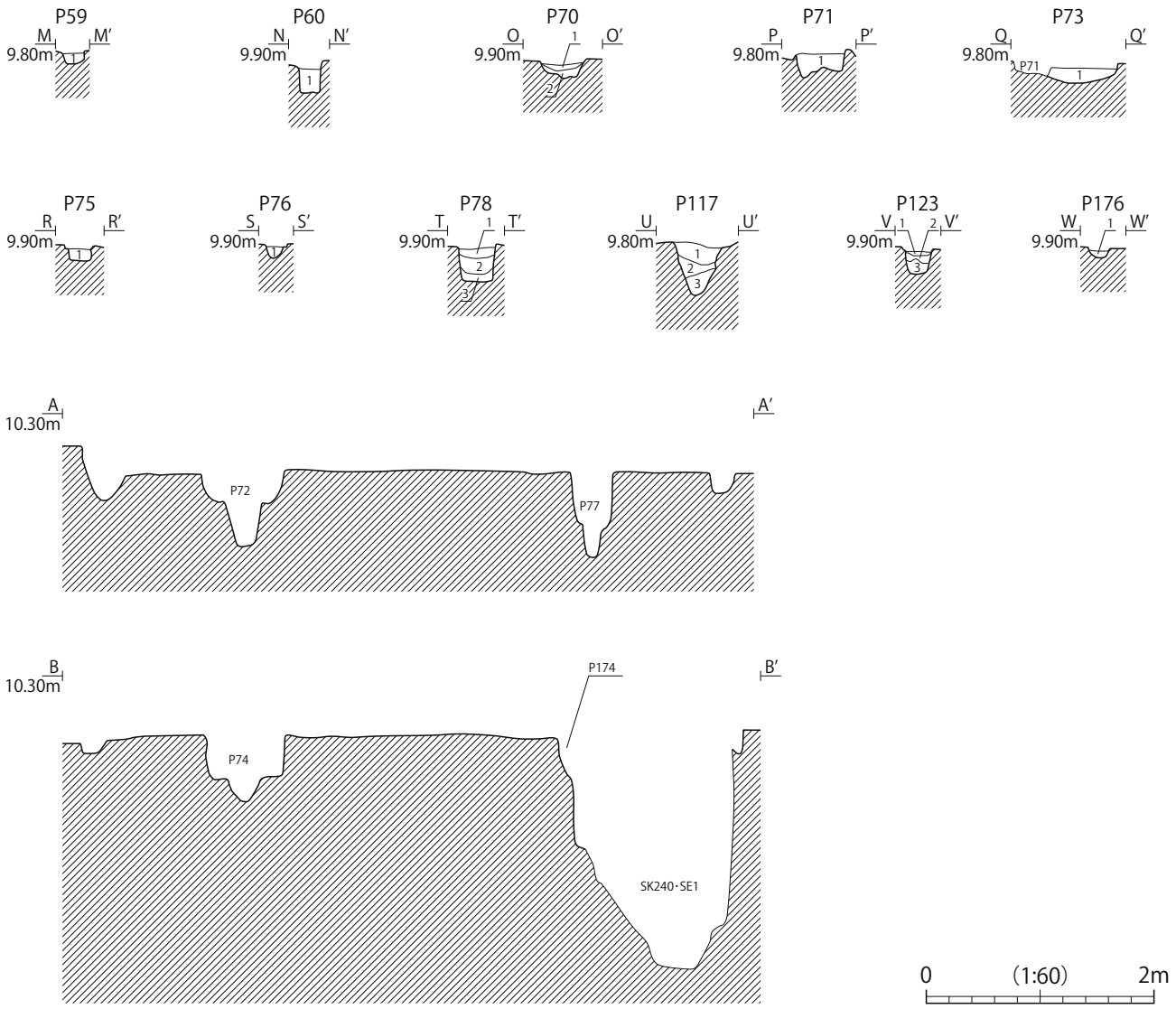
【掘り方】底面の形状は、中央部が高く、その周囲が低い。深さは 2 ～ 30cm である。

【出土遺物】遺物は、住居堆積土、周溝、床面施設、カマド、床面、住居掘り方から土師器 1408 点、須恵器 11 点、土製品 1 点、金属製品 1 点、礫 1 点が出土した。これらの遺物の内、土師器には大きく 2 時期の資料が含まれる。すなわち古墳時代前期の塩釜式に属する土師器と、本住居跡に本来的に伴う古墳時代後期から古代に属する土師器の 2 つである。遺物の記述は、これらを分けて行う。

古墳時代前期の土師器のうち掲載した遺物は、ミニチュア 6 点、甕 9 点、壺 3 点、器台 3 点である（第 34 図 1 ～ 3・



第 31 図　SI264 竪穴住居跡（1）



SI264 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量、黒褐色土ブロック（10 ～ 30mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 20mm）やや多く含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト質粘土	Ⅳ層土ブロック含む。。
	4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く含む。
周溝	5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10mm）少量含む。
	6	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。
	7	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	炭化物多量含む。（板材の痕跡？）
カマドA	8	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	焼土ブロック（10mm）少量、炭化物（20mm）含む。（天井崩落土）
	9	10YR4/4 褐色	砂質シルト	焼土粒（2mm）・Ⅳ層土ブロック含む。（煙道天井崩落土）
	10	5YR3/1 黒褐色	粘質シルト	焼土ブロック（5 ～ 20mm）・炭化物粒（2 ～ 5mm）多量含む。
	11	10YR3/2 黒褐色	粘土	焼土ブロック（5mm）多量、炭化物（10mm）含む。
	12	10YR2/1 黒色	シルト質粘土	炭化物多量含む。
	13	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック含む。下部に焼土含む。
	14	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	焼土ブロック（10mm）少量、炭化物粒（2mm）少量含む。
	15	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土をブロック状径 20mm に少量含む。炭化物径 2mm を少量含む。
	16	10YR3/4 暗褐色	粘土	炭化物粒（5mm）・焼土粒（2mm）少量含む。
カマドA袖	17	10YR4/6 褐色	砂質シルト	一部赤色変化あり。
カマドA支脚据え方（P118）	1	7.5YR4/4 褐色	シルト	焼土層。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	炭化物粒（5mm）少量含む。
カマドB	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	暗褐色土を斑状に多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く、炭化物・焼土粒多量含む。
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	暗褐色土粒（1 ～ 3mm）少量含む。
	4	10YR4/4 褐色	砂質シルト	暗褐色土を斑状にやや多く、炭化物含む。（天井崩落土）
	5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 20mm）やや多く、焼土・炭化物含む。
	6	10YR4/4 褐色	砂質シルト	暗褐色土を斑状に多量、焼土・炭化物含む。
	7	10YR4/4 褐色	砂質シルト	炭化物多量、焼土やや多く含む。
住居掘り方	18	10YR4/2 灰黄褐色	粘質シルト	炭化物粒少量含む。（貼床）
	19	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。

第 32 図　SI264 竪穴住居跡（2）

SI264 床面施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P59	1	10YR3/3 暗褐色	粘土	炭化物粒（10mm）少量含む。
P60	1	10YR2/3 黒褐色	粘土	炭化物粒（2 ～ 5mm）少量含む。
P70	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）・焼土・炭化物少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10mm）少量含む。
P71	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）・焼土・炭化物少量含む。
P72 主柱穴	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）多量含む。（柱痕跡）
	2	10YR4/4 暗褐色	粘質シルト	暗褐色土を斑状に少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
P73	1	10YR3/4 暗褐色	粘土	焼土粒（5 ～ 10mm）・炭化物粒多量含む。
P74 主柱穴	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。（柱痕跡：1 ～ 3 層）
	2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）多量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	炭化物少量含む。
	6	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。
P75	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量、炭化物含む。
P76	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。
P77 主柱穴	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。（柱痕跡：1 ～ 3 層）
	2	10YR4/4 褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
	4	10YR4/4 褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）やや多く含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状にやや多く含む。
P78	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）少量含む。
	2	10YR4/6 褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。
	3	10YR4/6 褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）多量含む。
P117	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（20 ～ 30mm）少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。
P123	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量、炭化物含む。
P174 主柱穴	1	10YR2/3 黒褐色	粘土	黒褐色土ブロック（10mm）少量、Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土	Ⅳ層土ブロック・黒褐色土ブロック（20mm）少量含む。
P175	①	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	
	②	10YR4/4 褐色	粘質シルト	炭化物を一部ラミナ状にやや多く含む。焼土粒少量含む。
	③	10YR4/2 灰黄褐色	粘質シルト	炭化物粒少量含む。
P176	1	10YR3/4 暗褐色	粘土	焼土（5 ～ 10mm）・炭化物粒を多量含む。

SI264 床面施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P59	不整形	20 × 19	10	
P60	楕円形	35 × 23	22	
P70	楕円形	53 × 41	14	
P71	楕円形	43 × 27	22	
P72	不整形	82 × 61	32	主柱穴
P73	楕円形	106 × 63	14	
P74	不整形	72 × 71	42	主柱穴
P75	楕円形	24. × 19	11	
P76	円形	19 × 16	10	

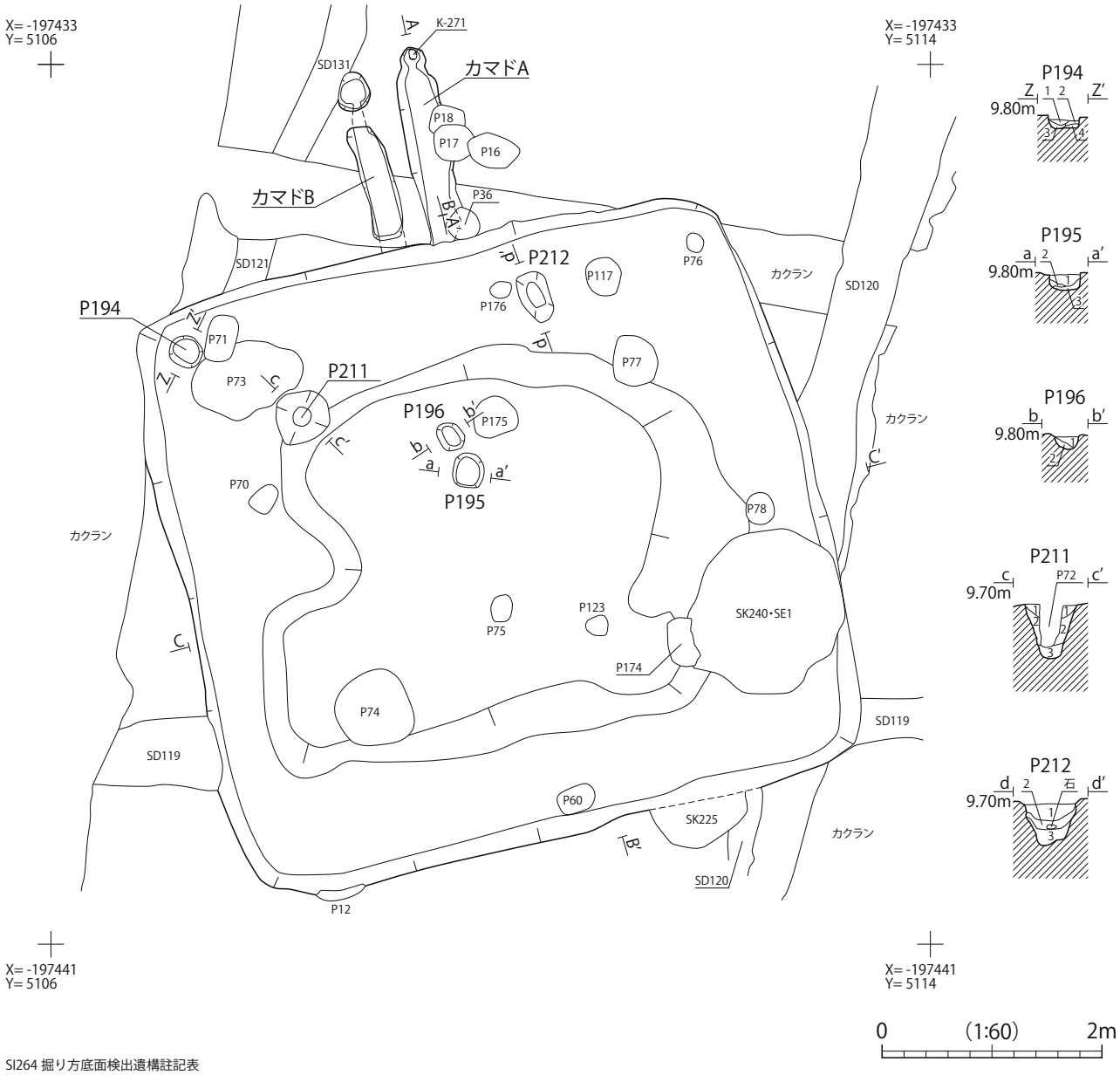
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P77	楕円形	53 × 49	60	主柱穴
P78	隅丸方形	35 × 33	30	
P117	不整形	47 × 45	47	
P118	楕円形	41 × 29	-	カマド支脚据え方
P123	楕円形	27 × 23	20	
P174	（不整形）	45 ×（24）	85	主柱穴
P175	円形	42 × 35	-	
P176	楕円形	20 × 16	7	

6 ～ 15・18 ～ 21、第 36 図 33 ～ 36）。掲載遺物の内、第 34 図掲載遺物は 12 のみ P224 堆積土で、他は全て住居堆積土、33 ～ 35 は煙道部、36 は住居掘り方からの出土である。

1 ～ 3・14・15・36 はミニチュアである。1・14・15・36 は壺のミニチュアである。1 は、体部は球形で口縁部は指つまみ成形により短く直立する。口唇部は欠損している。調整は、外面がハケメ後ヘラナデ、内面はヘラナデである。14・15 は写真のみ掲載した。共に全体形状は不明である。調整は、14 は外面が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ後ナデ、内面は口縁～体部ナデである。15 は外面が体部ナデ、内面は不明である。36 は、体部が球形で口縁部が短く直立する。調整は、外面がヘラナデで底部に板状の圧痕がみられる。内面は指ナデである。2 の全体形状は不明である。調整は、外面がハケメ後ナデ、内面はハケメである。3 は坏とみられる。丸底で口縁部が外反する。調整は、外面が体部ヘラミガキ、底部ヘラケズリで、内面は口縁部ハケメ、体部ヘラナデ、ヘラミガキである。

6・8 ～ 13・21・35 は甕である。6 は台付甕の台部と推定される。調整は、外面がヘラナデ、内面はハケメである。8 は甕の底部と推定される。調整は、外面がハケメ、ミガキ、内面はハケメ後ヘラナデである。9 は二重口縁の甕である。口縁部はほぼ直線的に外傾する。調整は、外面がハケメ、ヘラケズリ、ヘラミガキ、内面はハケメ後ミガキである。10 ～ 13 は短い口縁部が外傾ないし外反する甕である。10 は口縁部が外反し、口唇部には凹線がみられる。調整は、外面が口縁部ハケメ後ヨコナデ、頸部ハケメ後ヘラケズリ、一部ヘラナデ、内面は口縁部ヨコナデ、ハケ

SI264 掘り方底面



SI264 掘り方底面検出遺構註記表

部位	層位	土色	土性	備考
P194	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）やや多く含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）極少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）やや多く含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）多量含む。
P195	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。
	3	10YR4/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状にやや多く含む。
P196	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。
P211	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	暗褐色土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）・焼土・炭化物粒少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
P212	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30m）多量、炭化物含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量、焼土・炭化物多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。

SI264 掘り方底面検出遺構施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P194	円形	30 × 29	9	
P195	円形	31 × 28	14	
P196	楕円形	28 × 22	12	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P211	隅丸方形	48 × 45	50	
P212	楕円形	47 × 27	38	

第 33 図　SI264 竪穴住居跡（3）

メ後ヘラミガキ、体部ヘラミガキである。11 は口縁部が直線的に外傾する。口縁部の中位がやや肥厚する。調整は、口縁部ハケメ、体部ケズリ後ミガキ、内面は口縁部ハケメである。12 は口縁部がわずかに外反する。調整は、外面が口縁部ハケメ後ヨコナデ、体部ハケメ、内面はハケメである。13 は口縁部がわずかに外反する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、指頭痕、体部ハケメ、内面は口縁部ヨコナデ、ミガキ、体部ミガキ、ナデである。21 は写真のみ掲載した。全体形状は不明である。調整は、外面が体部ハケメ、内面は口縁部ハケメ、体部ナデである。35 は体部下半から底部のみ残存する。調整は外面がミガキ、ハケメ、一部ヘラケズリ、内面はヘラナデである。

7･20･33 は壺である。7 は壺の口縁部と推定される。全体形状は不明である。調整は、外面がハケメ、ヨコナデ、内面はヘラナデの可能性がある。20 は写真のみ掲載した。調整は、内外面ともにナデである。33 は有段口縁をもつ大型壺と推定される。調整は、内外面ともに口縁～体部ハケメである。

18・19・34 は器台である。18・19 は写真のみ掲載した。18 は脚部の一部のみで器台の可能性がある。調整は外面がナデである。19 も脚部の一部のみで円形のスカシが 2 箇所に認められる。器台の可能性がある。調整は、外面がナデ、内面はハケメである。

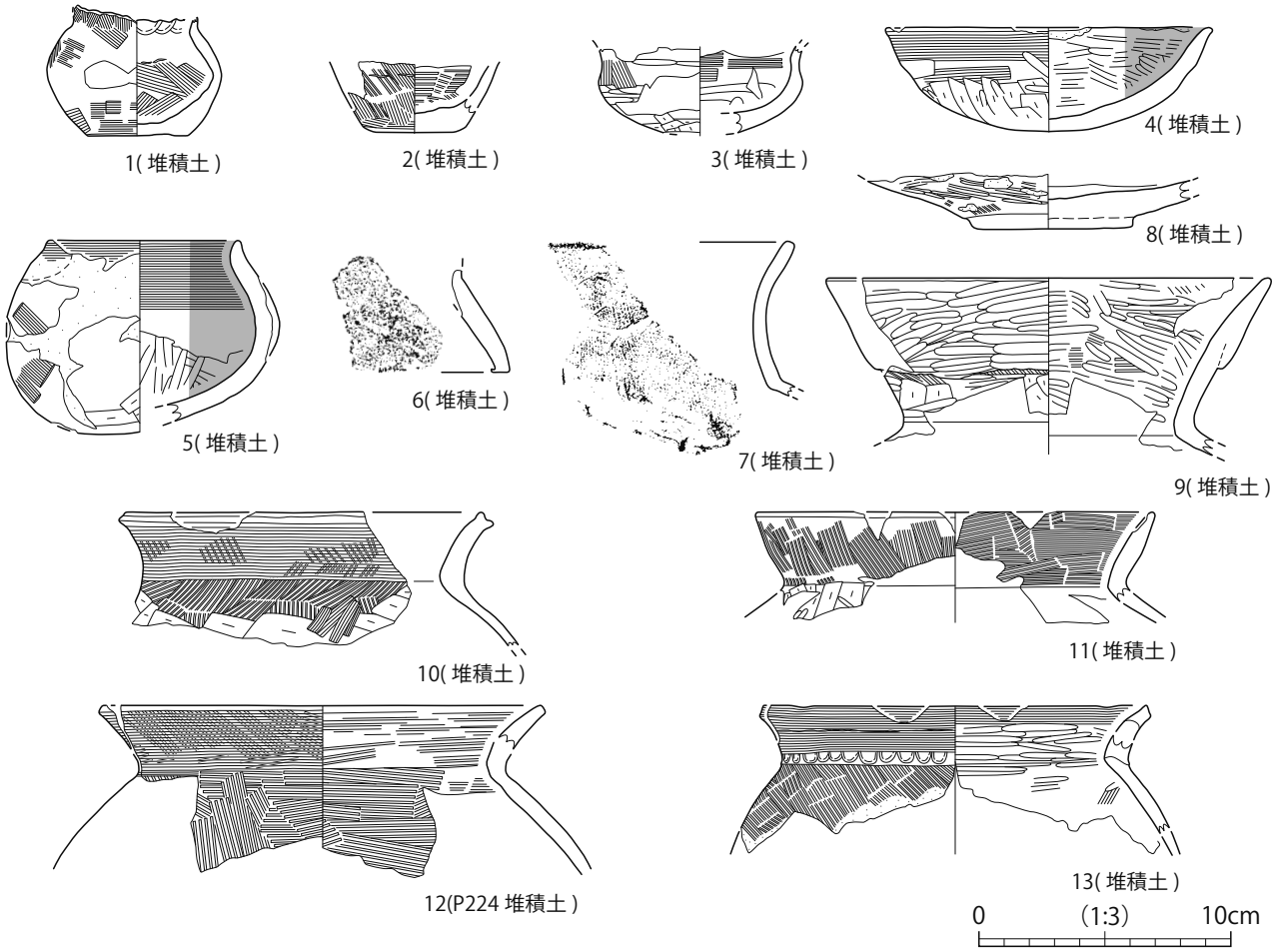
これら古墳時代前期に属する一定量の遺物の出土は、当該期に属する未確認の住居跡が、本住居跡と重複する可能性を示唆する。過去の調査において古墳時代前期の住居分布は、今次調査区の西北に限定されることから、本住居跡の北側に、古墳時代前期の住居跡が存在した可能性が考えられる。

古墳時代後期から古代に属する遺物の内、掲載したものは、土師器坏 7 点、埦 3 点、甕 6 点、須恵器盤 1 点、土錘 1 点、カマド支脚の礫 1 点である（第 34 図 4・5・16・17・22・23、第 35 図 24 ～ 32、第 36 図 37 ～ 38）。非掲載遺物には、土師器坏28点、須恵器坏1点が含まれるが、小片のため全体形状のわかる資料はない。他の非掲載遺物も同様である。掲載遺物の内、4・5・16・17・22・23・37・38 は住居堆積土、24 ～ 31 は床面、32・39 はカマド、40 は住居掘り方からの出土である。

4・16・17・24 ～ 27 は坏である。4 は口縁部と体部の境にわずかに稜のある丸底の坏である。全体的に半球形を呈する。口縁部は外傾し、口縁端部がわずかに外反する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、ヘラケズリ、ヘラミガキ、内面はヘラミガキ後、黒色処理が施される。である。16・17 は写真のみ掲載した。共に、いわゆる関東系土師器である。16 は内湾する体部に S 字状の口縁部が短く直立する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヨコナデである。色調は明るい褐色を呈する。17 は、口縁部と体部の境界に屈曲をもち口縁部が短く外反する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデである。色調は明るい褐色を呈する。24 は体部が偏平な半球状を呈し、口縁部と体部の境界に段をもち、短い口縁部がわずかに内傾する。いわゆる関東系土師器（須恵器模倣坏）である。口径は 8.9cm と小型の資料である。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部一部ハケメ、ヘラケズリ、内面は口縁～底部ミガキ後に黒色処理が施される。25 は有段丸底坏で口縁部はほぼ直線的に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ケズリ、ミガキ、内面はミガキである。26 は厚手で小型の資料である。成形は粗く平底で口縁部が短く直立する。調整は、外面が口縁～底部に指頭痕があり、内面は口縁～底部ヘラナデである。27 も厚手で重量のある資料である。平底で底面には木葉痕がみられる。大きさや厚さは甕の底部と共通する。口縁部はわずかに内傾し、口縁端部が肥厚する。特異な器形である。調整は、外面が口縁～底部ヘラナデ、ケズリ、一部ヘラミガキ、内面は、口縁～底部ヘラナデである。

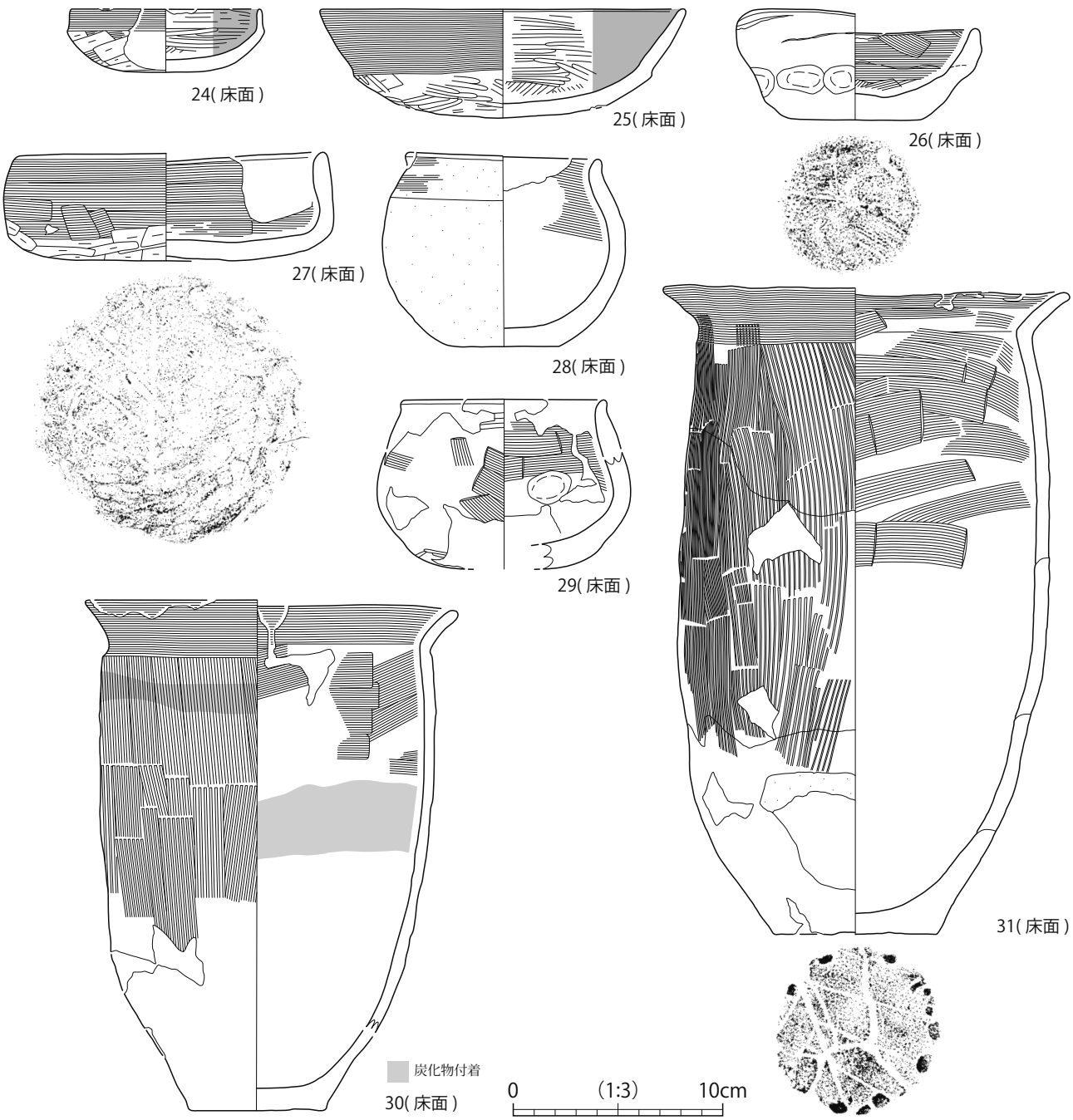
5・28・29 は埦である。口径が体部最大径より小さく、口径と器高の割合が 1:1 に近い資料を埦とした。5 は体部が球形を呈し、口縁部が短く直立する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、内面はヨコナデ、ミガキである。28 は体部が球形を呈し、極短い口縁部がわずかに外反する。調整は、外面が口縁部ヘラミガキ、体部ヘラナデ、底部ヘラミガキ、内面は体部ヘラナデ、指オサエである。

22・23・30・31・39・40 は甕である。この内 22・23・39・40 は写真のみ掲載した。22 は体部中位に最大径をも



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-39	SI264	堆積土	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ壺	(4.9)	3.9	5.2	口唇部：指ﾅﾃﾞ？ 体部：ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	口唇部：指ﾅﾃﾞ？ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部指つまみ成形　骨針あり	49-1
2	C-38	SI264	堆積土	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ土器	—	3.1	(2.8)	ﾊｹﾒ→ﾅﾃﾞ	ﾊｹﾒ	底部に籾圧痕？あり　骨針あり	49-7
3	C-44	SI264	堆積土	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ坏	—	—	(3.8)	体部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ 底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁：ﾊｹﾒ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ	骨針あり	49-2
4	C-45	SI264	堆積土	土師器	坏	(12.9)	—	4.1	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ？→ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり	49-3
5	C-49	SI264	堆積土	土師器	埦	(7.5)	—	7.6	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　外面剝落 骨針あり	49-4
6	C-46	SI264	堆積土	土師器	台付甕？	—	—	(4.0)	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾊｹﾒ	骨針あり　台部のみ	49-5
7	C-52	SI264	堆積土	土師器	壺？	—	—	(6.2)	ﾊｹﾒ、ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ？	内面摩滅　骨針あり	49-6
8	C-59	SI264	堆積土	土師器	甕？	—	6.3	(2.2)	ﾊｹﾒ、ﾐｶﾞｷ	ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	底部のみ　骨針あり	49-9
9	C-53	SI264	堆積土	土師器	甕	(17.4)	—	(7.0)	ﾊｹﾒ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾊｹﾒ→ﾐｶﾞｷ	二重口縁　骨針あり	49-11
10	C-57	SI264	堆積土	土師器	甕	—	—	(5.3)	口唇部：凹線 口縁：ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ 頸部：ﾊｹﾒ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ、一部ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	骨針あり	49-8
11	C-54	SI264	堆積土	土師器	甕	(15.8)	—	(4.4)	口縁：ﾊｹﾒ 体部：ｹｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ	口縁：ﾊｹﾒ	骨針あり	49-12
12	C-55	SI264 P224	堆積土	土師器	甕	(17.4)	—	(5.7)	口縁：ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ	ﾊｹﾒ	骨針あり	49-10
13	C-56	SI264	堆積土	土師器	甕	(15.2)	—	(5.9)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ、指頭痕 体部：ﾊｹﾒ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾐｶﾞｷ 体部（頸部付近）：ﾐｶﾞｷ、ﾅﾃﾞ	骨針あり	49-13
14	C-40	SI264	堆積土	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ壺	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃ 体部：ﾊｹﾒ→ﾅﾃﾞ	口縁～体部：ﾅﾃﾞ	写真掲載のみ	49-14
15	C-41	SI264	堆積土	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ壺	—	—	(4.5)	体部：ﾅﾃﾞ		写真掲載のみ	49-15
16	C-42	SI264	堆積土	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系　写真掲載のみ	49-16
17	C-43	SI264	堆積土	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系　写真掲載のみ	49-18
18	C-47	SI264	堆積土	土師器	器台？	—	—	(4.7)	ﾅﾃﾞ		写真掲載のみ	49-17
19	C-48	SI264	堆積土	土師器	器台？	—	—	(5.0)	ﾅﾃﾞ	ﾊｹﾒ	スカシ２ヶ所（円形） 写真掲載のみ	49-19
20	C-50	SI264	堆積土	土師器	壺	—	—	—	体部：ﾅﾃﾞ	体部：ﾅﾃﾞ	写真掲載のみ	49-20
21	C-51	SI264	堆積土	土師器	甕	—	—	—	体部：ﾊｹﾒ	口縁：ﾊｹﾒ 体部：ﾅﾃﾞ	写真掲載のみ	49-21
22	C-58	SI264	堆積土	土師器	甕	—	—	(23.8)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ→ﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	写真掲載のみ	50-1
23	C-60	SI264	堆積土	土師器	甕	—	—	(12.9)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	SK240(1 層）と接合　写真掲載のみ	50-2

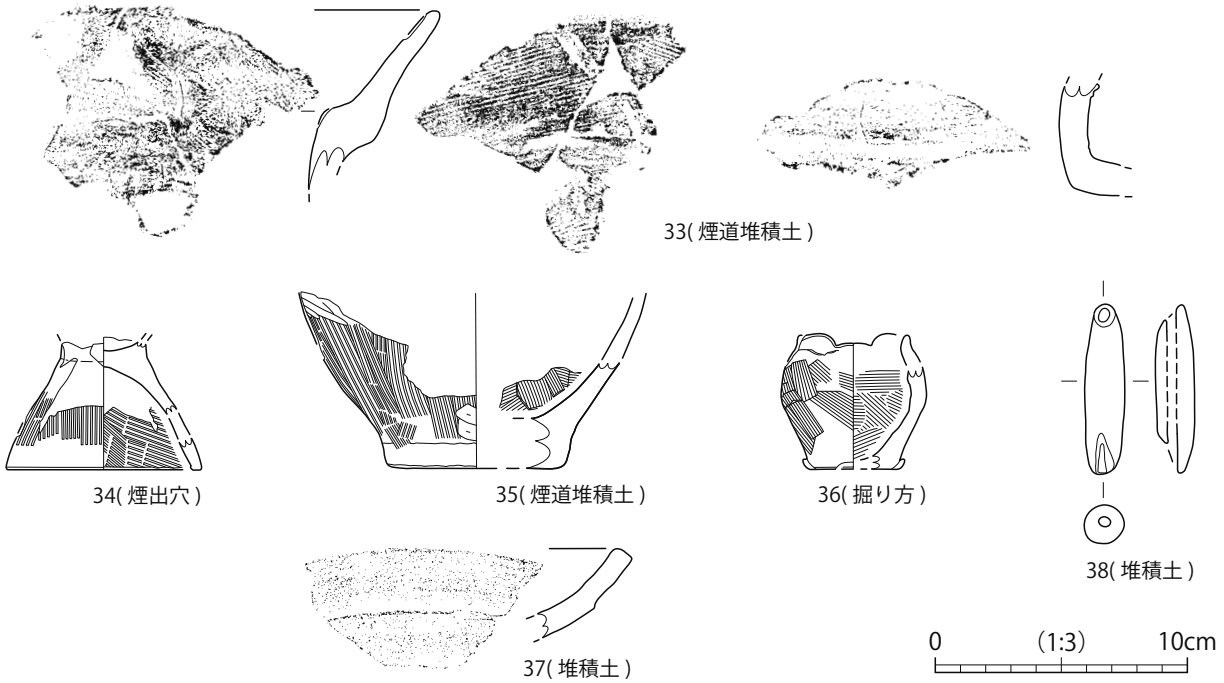
第 34 図　SI264 竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
24	C-61	SI264	床面	土師器	坏	(8.9)	—	3.0	口縁～底部：ﾖｺﾅﾃﾞ、一部ﾊｹﾒ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁～底部：ﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　須恵器模倣坏　骨針あり	50-3
25	C-62	SI264	床面	土師器	坏	(17.2)	—	5.2	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部：ｹｽﾞﾘ、ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり 赤褐色粒あり	50-5
26	C-64	SI264	床面	土師器	坏	11.6	5.3	6.2	口縁～底部：指頭痕	口縁～底部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	内面口縁付近黒く変色 骨針あり	50-4
27	C-63	SI264	床面	土師器	坏	14.6	—	5.2	口縁～底部：ﾍﾗﾅﾃﾞ、ｹｽﾞﾘ、一部ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁～底部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	底部：木葉痕　骨針あり	51-5
28	C-65	SI264	床面	土師器	椀	(8.6)	5.2	9.3	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾅﾃﾞ？	外面摩滅　骨針あり	50-6
29	C-224	SI264	床面	土師器	椀	(9.6)	—	8.1	口縁：ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ 底部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ？	体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ、指ｵｻｴ		50-7
30	C-66	SI264	床面	土師器	長胴甕	17.7	6.2	24.4	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部：ﾊｹﾒ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	炭化物付着　骨針あり 体部外面下部被熱　剥落	50-8
31	C-67	SI264	床面	土師器	長胴甕	19.1	7.8	31.1	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾊｹﾒ　体部：ﾊｹﾒ	口縁～体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	底部：木葉痕　骨針あり 体部外面下部被熱　剥落	50-9

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石材	備考	写真図版
32	K-11	SI264	カマド底面	礫	カマド支脚	30.5	11.2	8.8	3100.0	安山岩	被熱により一部赤色化　ヒビあり　写真掲載のみ	51-10

第 35 図　SI264 竪穴住居跡出土遺物 (2)



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
33	C-70	SI264	煙道堆積土	土師器	壺	―	―	(7.1)	口縁～体部：ﾊｹﾒ	口縁～体部：ﾊｹﾒ	有段口縁　骨針あり	51-1
34	C-68	SI264	煙出穴	土師器	器台？	―	(7.6)	(5.3)	ﾊｹﾒ	ﾊｹﾒ	骨針あり	51-6
35	C-69	SI264	煙道堆積土	土師器	甕	―	(6.8)	(7.0)	ﾐｶﾞｷ、ﾊｹﾒ、一部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	骨針あり	51-3
36	C-72	SI264	掘り方	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ壺	(4.2)	(3.8)	5.4	ﾍﾗﾅﾃﾞ 底部：板状圧痕	指ﾅﾃﾞ	底部内面に赤色の変色あり　骨針あり	51-2
37	E-9	SI264	堆積土	須恵器	盤	―	―	(3.5)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	骨針多量	51-8
39	C-71	SI264	カマドB 煙道堆積土	土師器	甕	―	―	(22.6)	頸部：ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ	体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	写真掲載のみ	51-7
40	C-73	SI264	掘り方	土師器	甕	―	―	(6.5)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ→ﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾅﾃﾞ	写真掲載のみ	51-4

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
38	P-7	SI264	堆積土	土製品	土錘	6.8	1.6	1.6	16.5	孔径 0.5cm　一部欠損	51-9

第 36 図　SI264 竪穴住居跡出土遺物 (3)

ち口縁部と体部の境には段がみられる。口縁部は外反する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ後ナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。23 は口縁部と体部の境にわずかに段をもち、口縁部が外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。30 は、体部がほぼ直立し、体部下部がすぼまる器形である。口縁部と体部の境に段をもち、短い口縁部が外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。31 は、体部がわずかに内湾するものの筒状を呈し、体部下部がすぼまる器形である。口縁部と体部の境に段はみられず、短い口縁部が外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ後ハケメ、体部ハケメ、内面は口縁～体部ヘラナデである。底部には木葉痕がみられる。39 は体部がわずかに湾曲するが全体形状は不明である。調整は、外面が頸部ハケメ後ヨコナデ、体部ハケメ、内面は体部ヘラナデである。40 の全体形状は不明である。口縁部と体部の境には段はみられず、短い口縁部が外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ後ナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ナデである。

37 は須恵器の盤と推定される口縁部破片である。外面に一条、稜がみられる。

38 は小型の管状土錘である。端部が一部欠損している。全長 6.8cm、幅 1.6cm で孔径は 0.5cm である。

32 は写真のみ掲載したカマドの支脚である。安山岩の自然礫を利用している。全長は 30.5cm で重量は 3100g である。被熱により一部赤色化し、ヒビもみられる。

SI265 竪穴住居跡（第 37 ～ 39 図）

方向や位置の記述に際しては、カマドの軸線を南北軸とみなし、それを基準にして行う。

【位置・確認】調査区西区中部の 23・29 グリッドに位置する。住居跡の東側約 1/3 を確認した。西側の大部分がカクランと重複する。

【重複】SD144・145 より新しく、SB2（SK234・237・239）、P141・162・362・381・382・384 より古い。

【規模・形態】確認した規模は、長軸 545cm、短軸 400cm 以上である。平面形は方形または長方形を呈するものと推定される。

【方向】カマドを基準として N － 17° － E である。

【堆積土】13 層に分層した。カマド A・B・C についてはそれぞれ個別に層名を付した。1・2 層は住居堆積土、3 層は周溝堆積土、4 ～ 6 層は住居掘り方である。また、カマド A は 5 層に分層した。カマド B・C の堆積土は、共に単層である。

【壁面】ほぼ直立する。壁高は 15cm である。

【床面】住居掘り方である 4 層上面が床面である。

【柱穴】柱穴の確認が予想される箇所に、SB1 に属する SK234、S239、SK237 とカクランが重複するため確認できなかった。

【周溝】東辺と北･南辺の一部で確認した。周溝の幅は、東･南辺ではやや狭く、北辺がより幅広となっている。規模は、東・南辺が幅 16 ～ 30cm、深さ 13cm で、北辺は幅 25 ～ 40cm、深さ 15cm である。カマド B・C の前面を通り、カマド A の東脇まで延びていたものと考えられる。

【カマド】3 基のカマドを確認した。西側から順にカマド A、同 B、同 C とした。カマド A が最終的な、SI265 に伴うカマドである。煙道と焼面のみ確認し、袖等は確認できなかった。カマド B・C も煙道のみ確認した。カマド B と C の間の時間的前後関係は不明である。なお、カマド B・C については、その前面に焼土・炭化物を多量に含むピットが複数あり、一部焼面もみられることから SI265 に伴う古いカマドであると考えられる。カマド A が構築された際に新たに掘削された周溝により切られている。

カマド A に伴うとみられる焼面の規模は、長軸 35cm、短軸 30cm である。煙道の規模は、長さ 165cm、幅 40 ～ 50cm、深さ 5 ～ 15cm である。カマド B の煙道部の規模は、長さ 110cm、幅 15 ～ 30cm、深さ 3 ～ 16cm である。

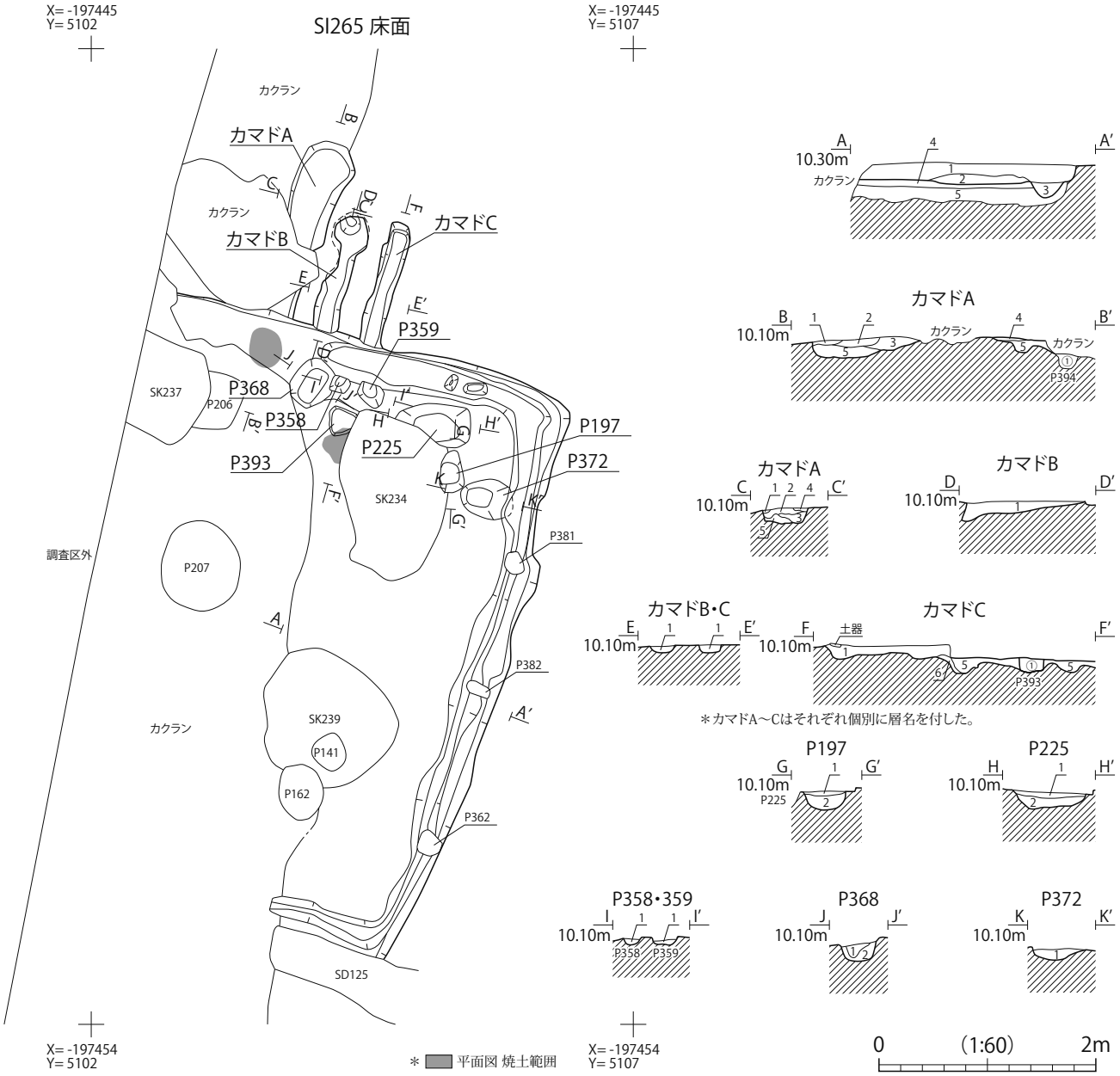
C 燃焼部の規模は奥行き 30cm、幅 19cm 以上である。煙道部の規模は、長さ 116cm、幅 18 ～ 22cm、深さ 6 ～ 14cm である。

【その他の施設】床面で 7 基のピットと焼面 1 箇所を確認した。ピットは住居跡の北東部に集中しており、7 基中 5 基の堆積土には焼土・炭化物が一定量含まれている。カマド B および C の前面で確認された P368・358・359 はいずれも周溝に切られていることから、これらのカマドに関わる可能性がある。また、カマド C の前面で確認した焼面もこれに伴う可能性がある。

【掘り方】底面の形状は、壁際がやや低くなっている。深さは 5 ～ 22cm である。

【出土遺物】遺物は、住居堆積土、周溝、床面施設、カマド（煙道）、床面から土師器 307 点、須恵器 12 点、金属製品 4 点が出土した。この内、土師器坏 2 点、同蓋 1 点、須恵器坏 1 点、同瓶 2 点、鉄製品 1 点を掲載した（第 39 図）。非掲載遺物には土師器坏37点、須恵器坏3点が含まれるが、図示できる遺物はない。他の遺物についても同様である。掲載遺物の内、2 ～ 4 は住居堆積土、1・6 は床面施設堆積土、5 は床面からの出土である。

1 は土師器坏の蓋である。全体に偏平な形状を呈する。調整は内外面共にミガキ後、黒色処理が施される。6 は坏である。写真のみ掲載した。有段丸底坏である。口縁部は長く、やや湾曲し外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ケズリ、内面はミガキである。黒色処理はみられない。



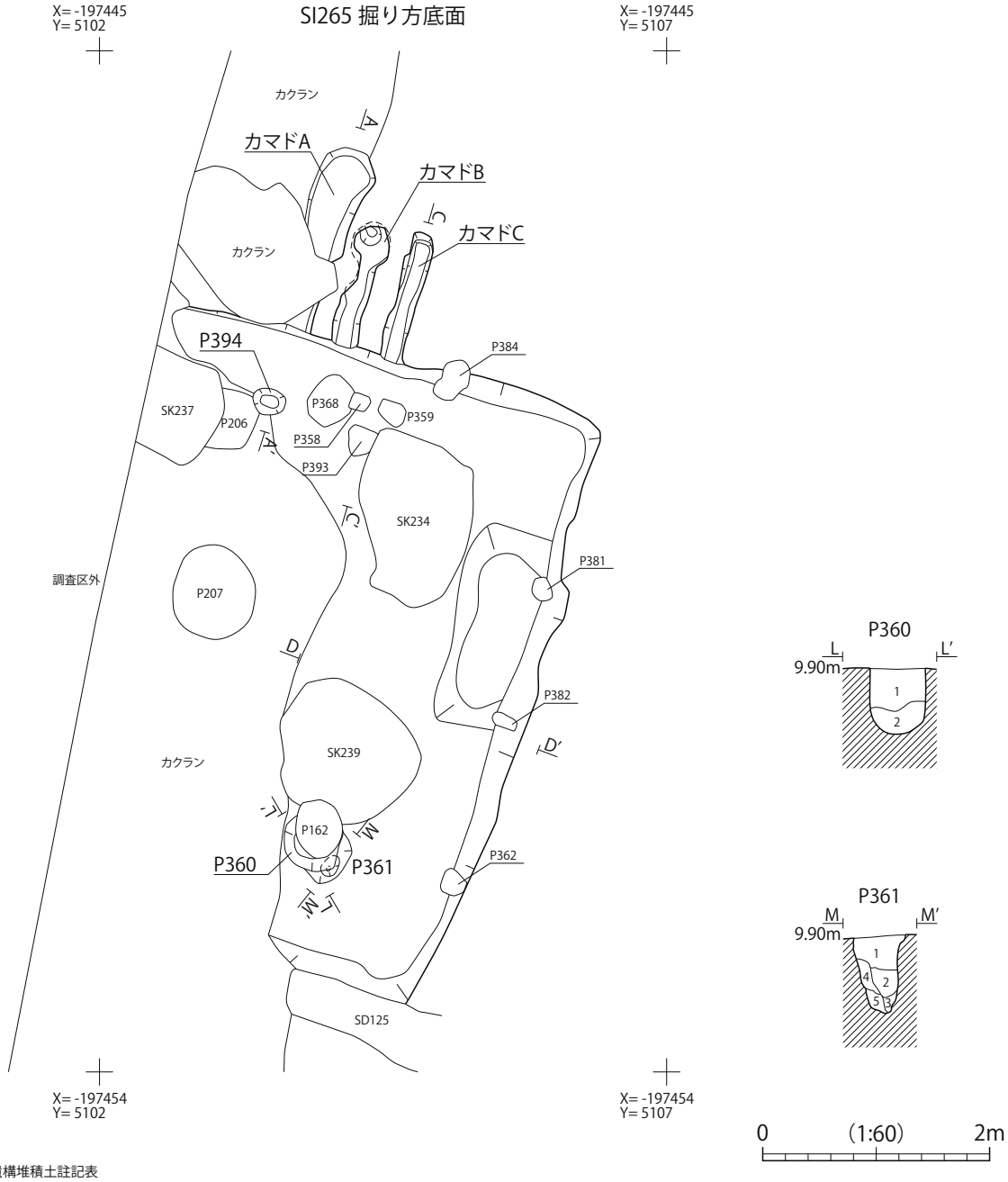
SI265 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 30mm）極少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）やや多く含む。
周溝	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。
住居掘り方	4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 20mm）多量、炭化物・焼土少量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。
	6	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く含む。
カマドA	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量、黒色土粒（10 ～ 30mm）多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）多量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	焼土粒（3 ～ 5mm）少量含む。
	5	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）やや多く含む。
カマドB	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 30mm）やや多く含む。
カマドC	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）やや多く含む。北端に炭化物多量含む。

SI265 床面施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P197	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	焼土粒（5 ～ 10mm）少量、炭化物粒（5 ～ 10mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）多量、焼土粒（3 ～ 5mm）・炭化物粒（5 ～ 10mm）少量含む。
P225	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）やや多く、焼土粒（10 ～ 20mm）・炭化物粒（10 ～ 20mm）少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）やや多く、炭化物粒（10 ～ 20mm）少量含む。
P358	1	2.5YR2/3 極暗赤褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）やや多く、焼土少量含む。
P359	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。
P368	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量、焼土少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）多量含む。
P372	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）少量、焼土多量含む。
P393	①	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く、焼土少量含む。

第 37 図　SI265 竪穴住居跡（1）



SI265 掘り方底面検出遺構堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P360	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。　P361 の抜き取り穴の可能性あり。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）やや多く含む。
P361	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）やや多く含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）少量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）多量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）やや多く含む。
P394	①	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）多量、炭化物少量含む。

SI265 床面施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P197	(不整形)	37 ×（21）	18	
P225	(楕円形)	69 ×（32）	17	
P358	(不整形)	17 ×（15）	6	
P359	(不整形)	26 ×（19）	6	

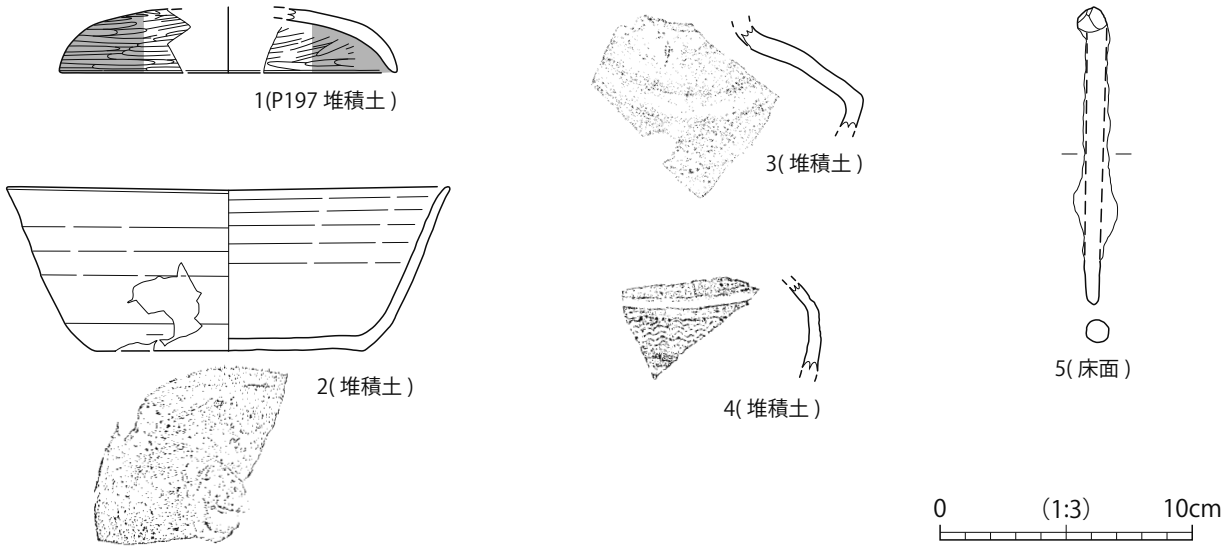
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P368	楕円形	（44）×（37）	18	
P372	楕円形	（51）× 36	11	
P393	不整形	28 × 27	14	

SI265 掘り方底面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P360	(円形)	56 ×（15）	57	
P361	(不整形)	46 ×（9）	69	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P394	楕円形	29 × 24	14	

第 38 図　SI265 竪穴住居跡（2）



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-74	SI265 P197	堆積土	土師器	蓋	(13.4)	—	(2.5)	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	内外面黒色処理　骨針あり	52-1
2	E-10	SI265	堆積土	須恵器	坏	(17.5)	10.6	6.5	ﾛｸﾛ調整 体部下端：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部：回転ﾍﾗ切り→回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ、線刻有り	ﾛｸﾛ調整	外面一部降灰	52-5
3	E-11	SI265	堆積土	須恵器	瓶	—	—	(4.0)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	自然釉　東海産	52-4
4	E-112	SI265	堆積土	須恵器	瓶類	—	—	(3.4)	ﾛｸﾛ調整　波状文	ﾛｸﾛ調整		52-3
6	C-75	SI265 P197	堆積土	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ｹｽﾞﾘ	ﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　口唇部摩滅　写真掲載のみ	52-2

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
5	N-2	SI265	床面	鉄製品	釘？	11.7	0.9	0.9	20.0	ほぼ完形	52-6

第 39 図　SI265 竪穴住居跡出土遺物

2 は須恵器坏である。全体的に器厚がうすい。体部はほぼ直線的に外傾し、口縁端部がわずかに外反する。外面の体部下端部に回転ヘラケズリ痕がみられる。底部は回転ヘラ切り後に回転ヘラケズリが施されている。また底面には線刻が 2 条みられる。3･4 は須恵器瓶である。3 は肩部の破片資料である。外面には自然釉がみられる。胎土および色調から東海産と考えられる。4 は体部の破片資料である。外面に沈線 1 条と波状文がみられる。

5 は棒状の鉄製品で、釘の可能性が考えられる。法量は、全長 11.7cm、厚さ 0.9cm で重量は 20g である。

SI266　竪穴住居跡（第 40 ～ 45 図）

カマドの軸線は北東方向を向くが、記述の便宜上カマドの軸線を東西とみなし、カマドの付設された壁面を東壁とする。同様にカマドに向かって両側の壁面は、北壁、南壁とする。床面施設等の位置関係についても、この基準に従って記述する。

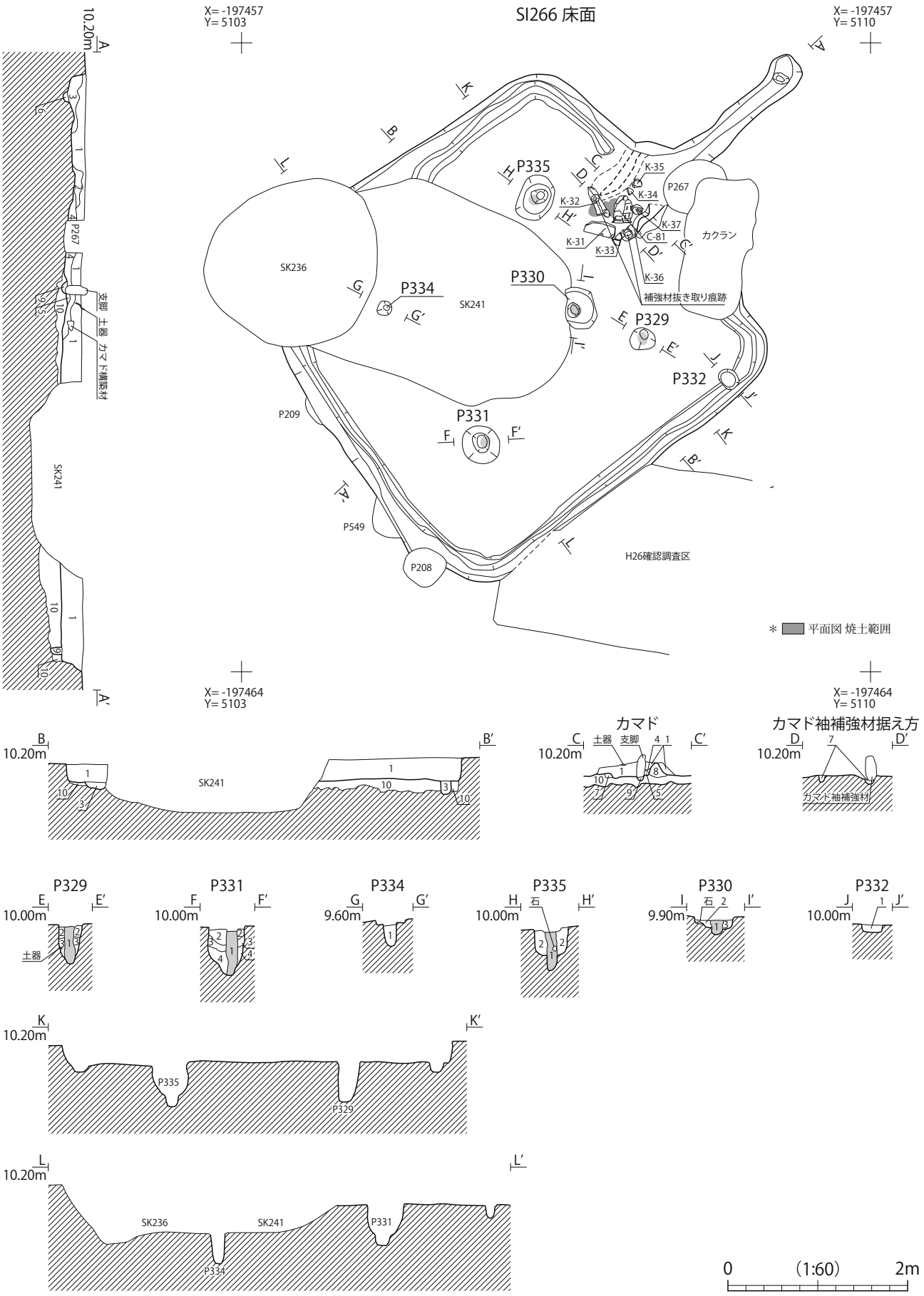
【位置・確認】調査区西区南部の 35・41 グリッドに位置する。住居跡中央から南西北西にかけての範囲が SK236・241 と重複し、確認できなかった。また、東辺の一部もカクランにより確認できなかった。

【重複】SI267・283 より新しく、SK236・241、P208・209・267・549 より古い。

【規模・形態】確認した規模は、長軸 465cm、短軸 442cm である。平面形は方形を呈する。

【方向】カマドを基準として N － 47° － E である。

【堆積土】10 層に分層した。1・2 層は住居堆積土、3 層は周溝堆積土、4 ～ 9 層はカマド関連の堆積土、10 層は住



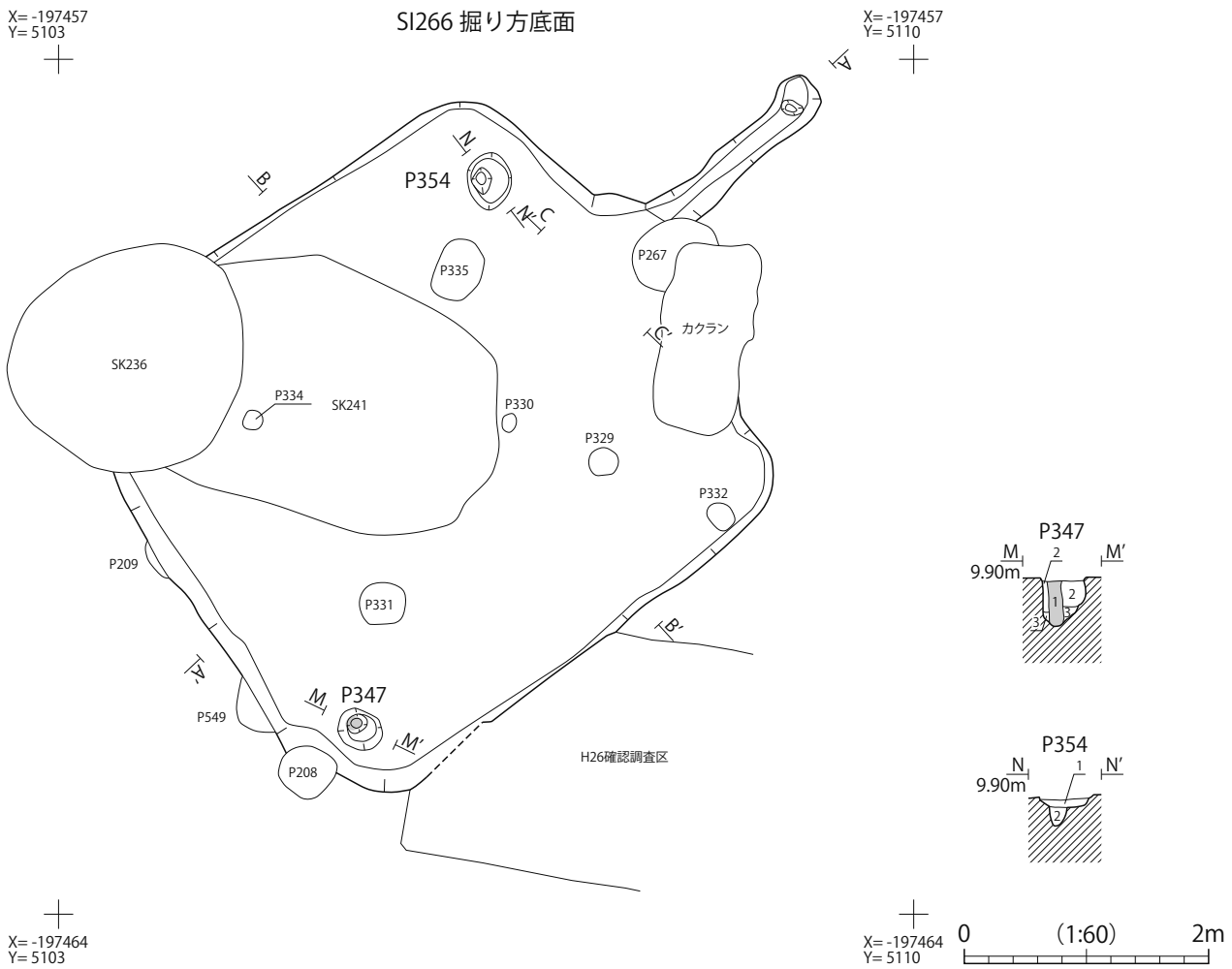
第 40 図　SI266 竪穴住居跡（1）

居掘り方である。
【壁面】概ね直立する。壁高は 18 ～ 25cm である。
【床面】住居掘り方である 10 層上面が床面である。
【柱穴】床面で 3 基の主柱穴を確認した（P329・331・335）。また、SK241 の底面で、位置関係から主柱穴の残存とみられるピットを確認した（P334）。P329 は南東主柱穴である。平面形は不整な楕円形で、規模は長軸 28cm、短軸 25cm、深さ 43cm である。P331 は南西主柱穴である。平面形は楕円形で、規模は長軸 45cm、短軸 41cm、深さ 52cm である。P335 は北東主柱穴である。平面形は不整な楕円形で、規模は長軸 52cm、短軸 38cm、深さ 48cm である。いずれも抜き取り穴は確認できなかった。P334 は北西主柱穴である可能性が高い。残存範囲での規模は、長軸 16cm、深さ 24cm である。
【周溝】規模は幅 7 ～ 27cm、深さ 7 ～ 15cm である。
【カマド】東壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。北袖については、ほぼ残存せず痕跡のみ確認した。袖の規模は、北袖が長さ 60cm、幅 24 ～ 28cm、南袖は長さ 40cm 以上、幅 25cm である。袖は壁面に概ね直交して付設されている。燃焼部の規模は、奥行き 90cm、幅 45cm で、壁内に位置する。煙道部の規模は、長さ 185cm、幅 25 ～ 40cm、深さ 11 ～ 20cm である。燃焼部からは土師器甕（C-81）の他、カマド構築材の石材が出土した。
【その他の施設】床面で 2 基のピットを確認した。P330 は住居中央部のやや北寄りで確認した、柱痕跡をもつピットである。一部 SK241 に切られている。平面形は不整な楕円形と推定される。規模は長軸 49cm、深さ 16cm である。P332 は南東部で確認した長軸 24cm の小型のピットで、周溝より新しい。
【掘り方】底面の形状は、起伏はあるものの全体的に平坦である。深さは 3 ～ 24cm である。
【出土遺物】遺物は、住居堆積土、周溝、カマド、床面、住居掘り方から土師器 539 点、須恵器 56 点、石製品 4 点、金属製品 2 点が出土した。この内、土師器坏 4 点、同甕 7 点、須恵器坏 4 点、同蓋 1 点、同甕 6 点、同瓶 2 点、石製品 4 点、金属製品 2 点を掲載した（第 42 ～ 45 図）。非掲載遺物には土師器坏 49 点、須恵器坏 28 点が含まれるが、図示できる遺物はない。他の遺物についても同様である。掲載遺物の内、3・6・7・12 ～ 21・22・24 ～ 30 は住居堆積土、11 は周溝堆積土、4 はカマド堆積土、1 は床面施設堆積土、2･5･9･10･23 は住居掘り方からの出土である。

なお、特に住居堆積土より出土した遺物には、本来は SK236 または 241 に帰属する遺物と考えられる、本住居とは異なる時期の遺物が一定量混入している。これは、本住居跡より新しい両土坑の確認が本住居跡の床面でなされたために、本来両土坑に帰属していた遺物を、住居堆積土出土遺物として取上げたことに起因するものである。なお、その形態的特徴と実際に両土坑から出土した遺物との比較から、SK236・241 に帰属する可能性が高いと考えられる遺物は、第 42 図 3、第 43 図全点、第 44 図 22・24 である。SK236・241 出土資料との接合関係も多くの資料にみられる。第 45 図の石製品、金属製品についても可能性はあるが判断は困難である。

1･2･9･11 は土師器坏である。1 は平底の坏で、口縁部は内湾気味に外傾する。底部は平高台状を呈する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、内面はミガキ後に黒色処理が施される。2 は有段丸底坏である。口縁部と体部の境に段をもち、内面にも屈曲がみられる。口縁部は短く外反する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ケズリ、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。9 は内湾する口縁部をもつ坏で、写真のみ掲載した。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、内面は口縁部ミガキである。11 はいわゆる関東系土師器（須恵器模倣坏）の破片資料である。写真のみ掲載した。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ケズリ、内面はヨコナデである。色調は明黄褐色を呈する。

3 ～ 8、10 は土師器甕である。3 は複数の破片資料より成るが同一個体資料として掲載した。体部中位に最大径をもつ中型の甕と推定される。調整は、外面が口縁～体部ヨコナデ、体部ヘラケズリで体部上部に平行タタキ目がみられる。内面は口縁～体部ヨコナデ、ヘラケズリである。4 は、その出土状況からカマドに据えられていたとみられる甕である。体部中位に最大径をもち口縁部は外反する。口縁部と体部の境に段や稜は認められない。調整は、



SI266 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 10mm）多量、炭化物・焼土少量含む。
周溝	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	炭化物少量含む。
カマド	4	10YR4/4 褐色	砂質シルト	炭化物少量含む。（天井崩落土）
	5	10YR2/2 黒褐色	粘質シルト	炭化物・焼土多量含む。
	6	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	炭化物多量含む。（煙出し穴堆積土）
カマド袖	7	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量、焼土・炭化物を含む。（袖補強材据え方）
	8	10YR4/4 褐色	砂質シルト	炭化物少量含む。
カマド支脚据え方	9	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）やや多く含む。
住居掘り方	10	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 100mm）多量含む。

SI266 床面施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P329 主柱穴	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）やや多く含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量含む。
P330	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）やや多く含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（50mm）多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）多量含む。
P331 主柱穴	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）やや多く含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）やや多く含む。
P332	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）やや多く含む。
P334 主柱穴？	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）やや多く含む。（柱痕跡？）
P335 主柱穴	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）やや多く含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。

SI266 掘り方底面検出遺構堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P347	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）やや多く含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量含む。
P354	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	
	2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 2mm）少量含む。

第 41 図　SI266 竪穴住居跡（2）

SI266 床面施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P329	不整形	28 × 25	43	主柱穴
P330	(不整形)	49 × (35)	16	
P331	円形	45 × 41	52	主柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P332	楕円形	24 × 19	9	
P334	不整形	16 × 16	24	SK241 底面で検出　主柱穴？
P335	楕円形	52 × 38	48	主柱穴

SI266 掘り方底面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P347	楕円形	38 × 31	37	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P354	楕円形	47 × 36	23	

外面が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、内面は口縁部ハケメ、体部ヘラナデ後、指ナデである。5 は、器高 14.2cm の小型甕である。体部中位に最大径をもち口縁部は短く外反する。口縁部と体部の境に段や稜は認められない。調整は、外面が口縁部ヨコナデ後ハケメ、体部ハケメ後ヘラナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。以下、6 ～ 8･10 は写真のみ掲載した。6 は、口縁部と体部の境にわずかに段がみられる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ナデである。7 は短い口縁部が強く外反し、口唇部は平坦となる。調整は、外面が不明で内面はミガキ後、黒色処理が施される。8 は内面に漆が付着した小片である。写真では 3 片の資料を掲載したが。それぞれ別個体の可能性もある。甕の口縁部ないし体部片と考えられる。10 は底部の破片資料である。調整は、外面が体部下端ケズリ、底部内面がナデである。

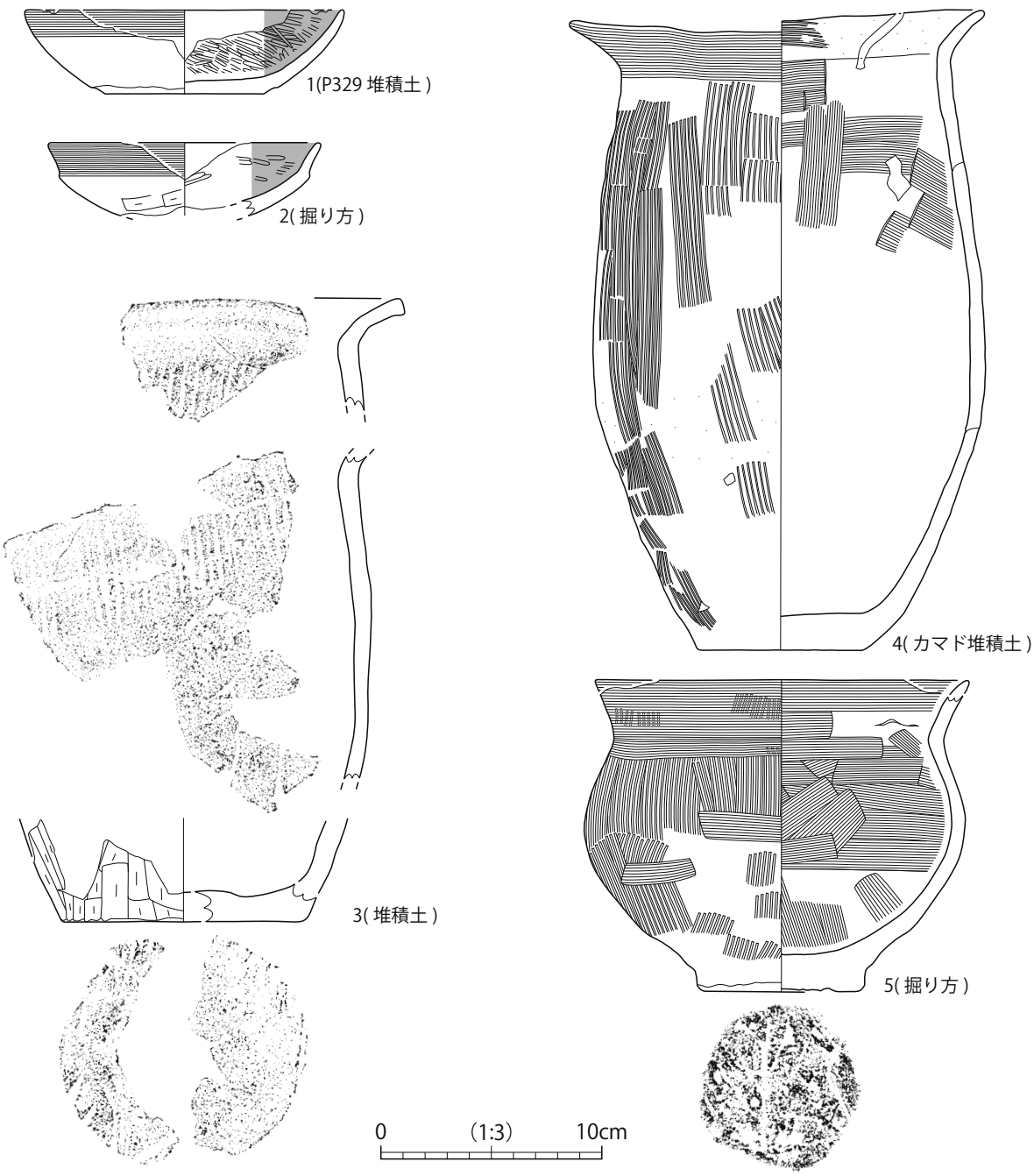
12 はボタン状のつまみをもつ須恵器蓋である。天井部から口縁部へ山形を呈し、口縁端部は下方に屈曲する。つまみの周囲に回転ヘラケズリが施されている。13 ～ 16 は須恵器坏である。いずれも還元不良で色調が赤褐色を呈する。SK236・241 にも同様の資料があり、相互に強い斉一性がみられる。いずれも体部から口縁部は湾曲気味に外傾する。底面には回転ヘラ切り痕が認められる。

17・18・20・22 ～ 24 は須恵器甕である。17 は口縁部の破片資料である。外反し、端部がわずか上方に屈曲する。外面に凸帯が 1 条めぐる。18 も口縁部の破片資料である。外反し、外面に凸帯が 1 条めぐる。内外面に自然釉がみられる。20 は体部上部の破片資料である。外面に平行タタキ目、内面には頸部接続部付近にロクロナデ、体部にあて具痕、指ナデがみられる。22 は丸底甕の底部破片資料である。外面に格子タタキ目、内面にあて具痕、指ナデがみられる。また外面（底面）には摩滅痕がみられる。23 は体部上部から頸部にかけての破片資料である。外面に平行タタキ目、内面にナデがみられる。24 は体部上部から口縁部の破片資料である。外面にカキ目、内面にはあて具痕（青海波文）がみられる。口縁部外面に凸帯が 1 条めぐる。

19 は須恵器瓶類である。体部上部から頸部との接合部の破片資料である。胎土と色調から猿投産の可能性が考えられる。21 は瓶か壺の体部破片とみられる。胎土と色調から東海産と考えられる。外面に自然釉がみられる。

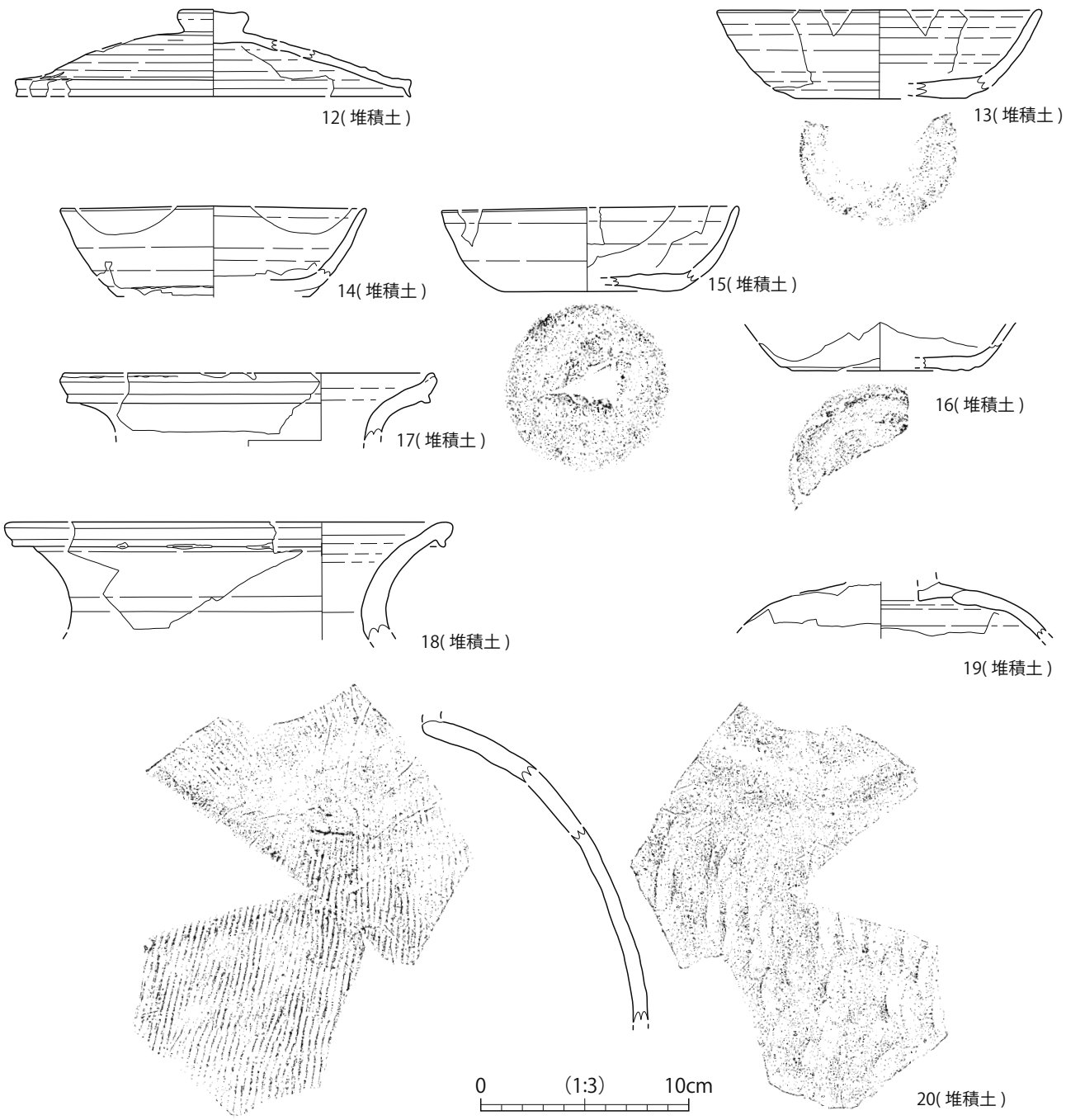
25 ～ 27・30 は石製品である。25 は珪化木製の小型の砥石である。破損しており全体形状は不明である。法量は全長 5.7cm で、重量 11g である。26 は安山岩製の凹磨石である。両面に 1 箇所ずつ凹みがみられる。法量は全長 13.1cm で、重量は 507g である。27 は安山岩製の敲石である。端部 1 箇所に敲き痕がみられる。法量は全長 13.7cm で、重量は 321g である。30 は線条根をもつ磨石である。写真のみ掲載した。やや偏平な自然礫を利用しており、塀端部および側縁部に線条痕および切削痕がみられる。法量は全長 14cm で、重量は 504.5g である。

28･29 は金属製品である。28 は鉄製品で刀子の茎部の可能性がある。法量は全長が 8.3cm、幅 1.1cm、厚さ 0.6cm である。29 は 4 弁からなる花弁形の鉄製品である。破損の状態から、形状はさらに一端が延びるものと考えられるが、全体形状は不明である。中央に径 3mm 程の穴があり、鋲（釘）穴である可能性がある。また、錆の状態から鉄製品と判断したが、表面の一部に緑青様の付着物がみられる。法量は全長 2.4cm、幅 2.7cm、厚さ 0.4cm で、重量は 3.5g である。



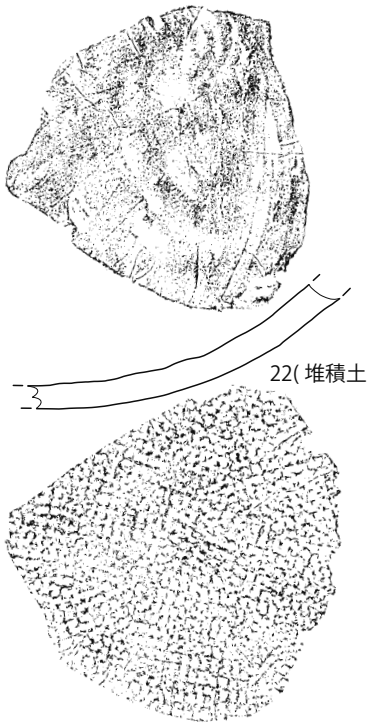
図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-76	SI266 P329	堆積土	土師器	坏	(14.4)	3.8	(7.2)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　底部は平高台状　骨針あり　赤褐色粒あり	52-7
2	C-82	SI266	掘り方	土師器	坏	(12.2)	—	(3.3)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部：ｹｽﾞﾘ	体部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり	52-8
3	C-77	SI266	堆積土	土師器	甕	—	—	(19.6)	口縁～体部:ﾖｺﾅﾃﾞ、平行ﾀﾀｷ目、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁～体部：ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部・体部・底部破片	52-9
4	C-81	SI266	カマド堆積土	土師器	甕	18.6	29.0	7.4	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ	口縁：ﾊｹﾒ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ →指ﾅﾃﾞ	内面一部摩滅　骨針あり	52-10
5	C-84	SI266	掘り方	土師器	甕	(16.8)	7.1	14.2	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾊｹﾒ 体部：ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	小形甕　底部：木葉痕 白色粒 (長石) 多量　骨針あり	52-11
6	C-78	SI266	堆積土	土師器	甕	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部：ﾅﾃﾞ	写真掲載のみ	52-13
7	C-79	SI266	堆積土	土師器	甕	—	—	—		ﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　赤褐色粒あり　写真掲載のみ	52-12
8	C-80	SI266	堆積土	土師器	甕？	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ	内面に漆付着　写真掲載のみ	52-14
9	C-83	SI266	掘り方	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁：ﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　写真掲載のみ	52-15
10	C-85	SI266	掘り方	土師器	甕	—	8.0	—	体部下端：ｹｽﾞﾘ	底部内面：ﾅﾃﾞ	底部のみ　写真掲載のみ	53-1
11	C-225	SI266	周溝堆積土	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部：ｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系 (須恵器模倣坏) 赤褐色粒あり　写真掲載のみ	53-2

第 42 図　SI266 竪穴住居跡出土遺物 (1)



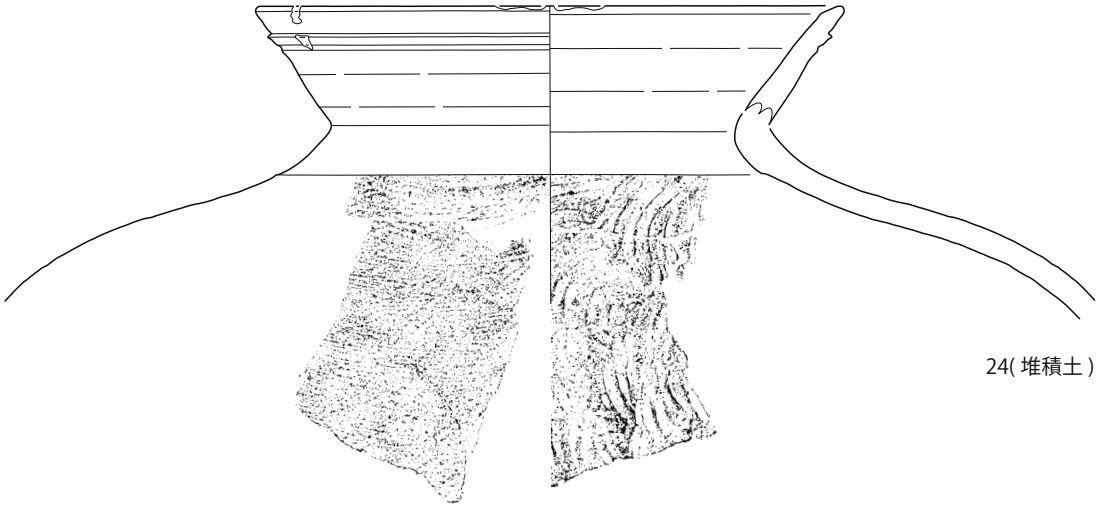
図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
12	E-16	SI266	堆積土	須恵器	蓋	19.0	—	4.2	ﾛｸﾛ調整 回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	ボタン状つまみ　内面一部降灰あり　SK236・241 堆積土と接合	53-3
13	E-12	SI266	堆積土	須恵器	坏	(15.4)	8.2	4.25	ﾛｸﾛ調整 底部：線刻有り	ﾛｸﾛ調整	SK241 堆積土と接合	53-6
14	E-13	SI266	堆積土	須恵器	坏	(14.6)	—	(4.3)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	底部粘土板二枚重ね SK241 堆積土と接合 骨針あり	53-5
15	E-14	SI266	堆積土	須恵器	坏	14.2	8.0	4.1	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	環元不足　SK236・241 堆積土と接合	53-4
16	E-15	SI266	堆積土	須恵器	坏	—	(8.6)	(2.3)	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	環元不足　骨針あり	53-7
17	E-19	SI266	堆積土	須恵器	甕	(17.6)	—	(3.2)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	凸帯 1 条　骨針多量	53-8
18	E-18	SI266	堆積土	須恵器	甕	(20.8)	—	(5.6)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	外面・内面の一部自然釉 凸帯 1 条	53-9
19	E-113	SI266	堆積土	須恵器	瓶類	—	—	(2.7)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	自然釉　猿投産？ SK236 と接合	53-11
20	E-20	SI266	堆積土	須恵器	甕	—	—	(14.4)	平行ﾀﾀｷ目	頸部付近：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 体部：あて具痕→指ﾅﾃﾞ	骨針あり	53-10
21	E-17	SI266	堆積土	須恵器	瓶 or 壺	—	—	—	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	自然釉　東海産　写真掲載のみ	54-1

第 43 図　SI266 竪穴住居跡出土遺物 (2)



22(堆積土)

23(掘り方)

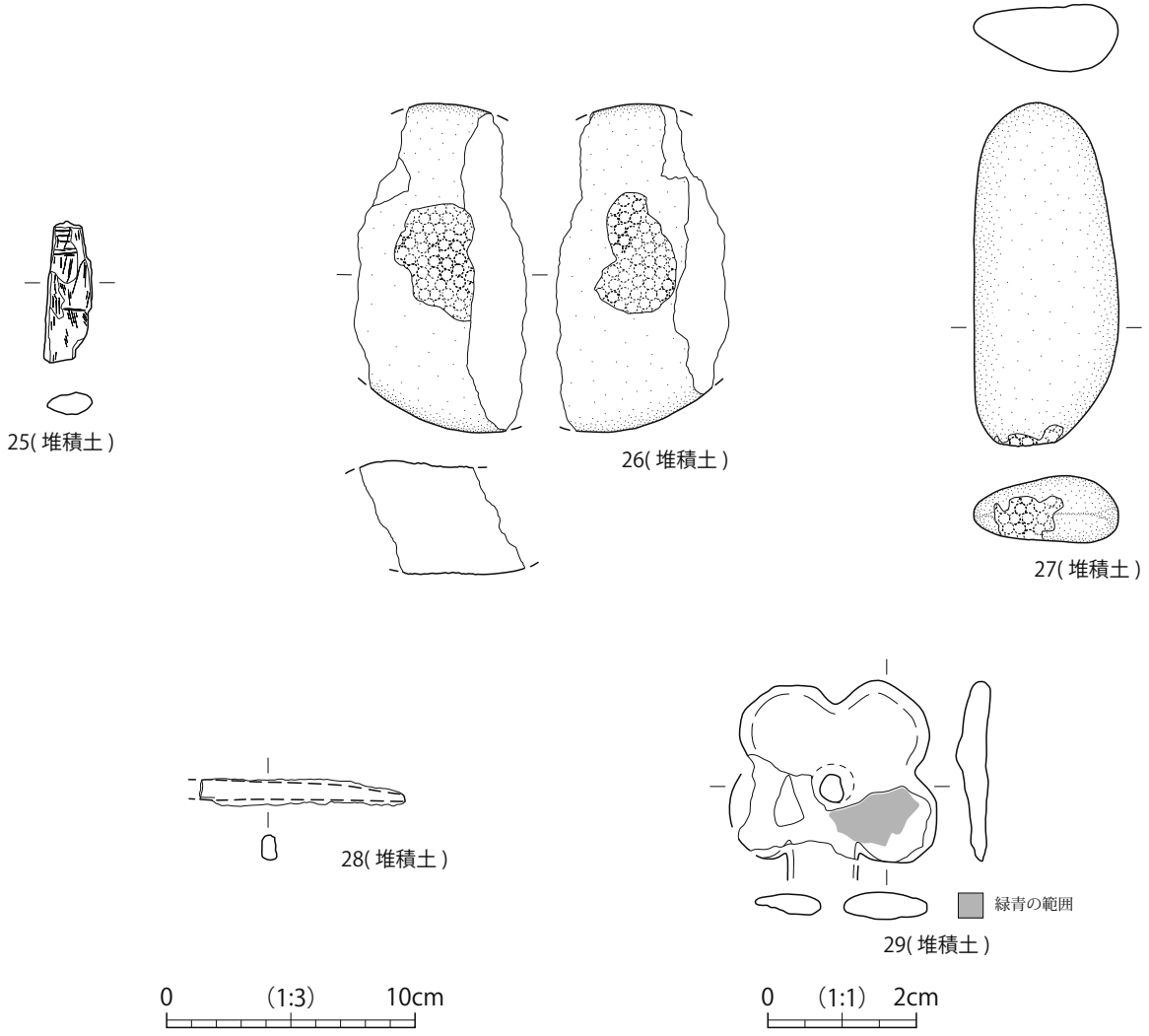


24(堆積土)

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
22	E-21	SI266	堆積土	須恵器	甕	—	—	(4.9)	格子ﾀﾀｷ目	あて具痕→指ﾅﾃﾞ	丸底甕の底部破片 (磨滅あり)	54-2
23	E-22	SI266	掘り方	須恵器	甕	—	—	(13.8)	ﾛｸﾛ調整 平行ﾀﾀｷ目	ﾅﾃﾞ ?	SD127・SK236・241 堆積土と接合　骨針あり	54-3
24	E-23	SI266	堆積土	須恵器	甕	(23.0)	—	(11.7)	ﾛｸﾛ調整 ﾀﾀｷ目	ﾛｸﾛ調整 青海波文	凸帯 1 条　骨針あり SK236・241 堆積土と接合	54-4

第 44 図　SI266 竪穴住居跡出土遺物 (3)



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石材	備考	写真図版
25	K-12	SI266	堆積土	石製品	砥石	(5.7)	(2.0)	(0.9)	11.0	珪化木		54-5
26	K-13	SI266	堆積土	礫石器	凹磨石	(13.1)	(6.5)	(5.1)	507.0	安山岩		54-6
27	K-14	SI266	堆積土	礫石器	敲石	13.7	5.7	2.7	321.0	安山岩		54-7
30	K-15	SI266	堆積土	礫石器	磨石	14.0	6.4	3.9	504.5		一部線条痕　敲痕あり　写真掲載のみ	54-8

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
28	N-3	SI266	堆積土	鉄製品	刀子 (茎部)？	(8.3)	(1.1)	(0.6)	13.5		54-9
29	N-4	SI266	堆積土	鉄製品	飾り金具	2.4	2.7	0.4	3.5	中央に鋲 (釘) の穴あり　表面に緑青様の付着物あり　花弁形	54-10

第 45 図　SI266 竪穴住居跡出土遺物 (4)

SI267　竪穴住居跡（第 46・47 図）

【位置・確認】調査区西区南部の 41 グリッドに位置する。

【重複】SI266、P398 より古い。

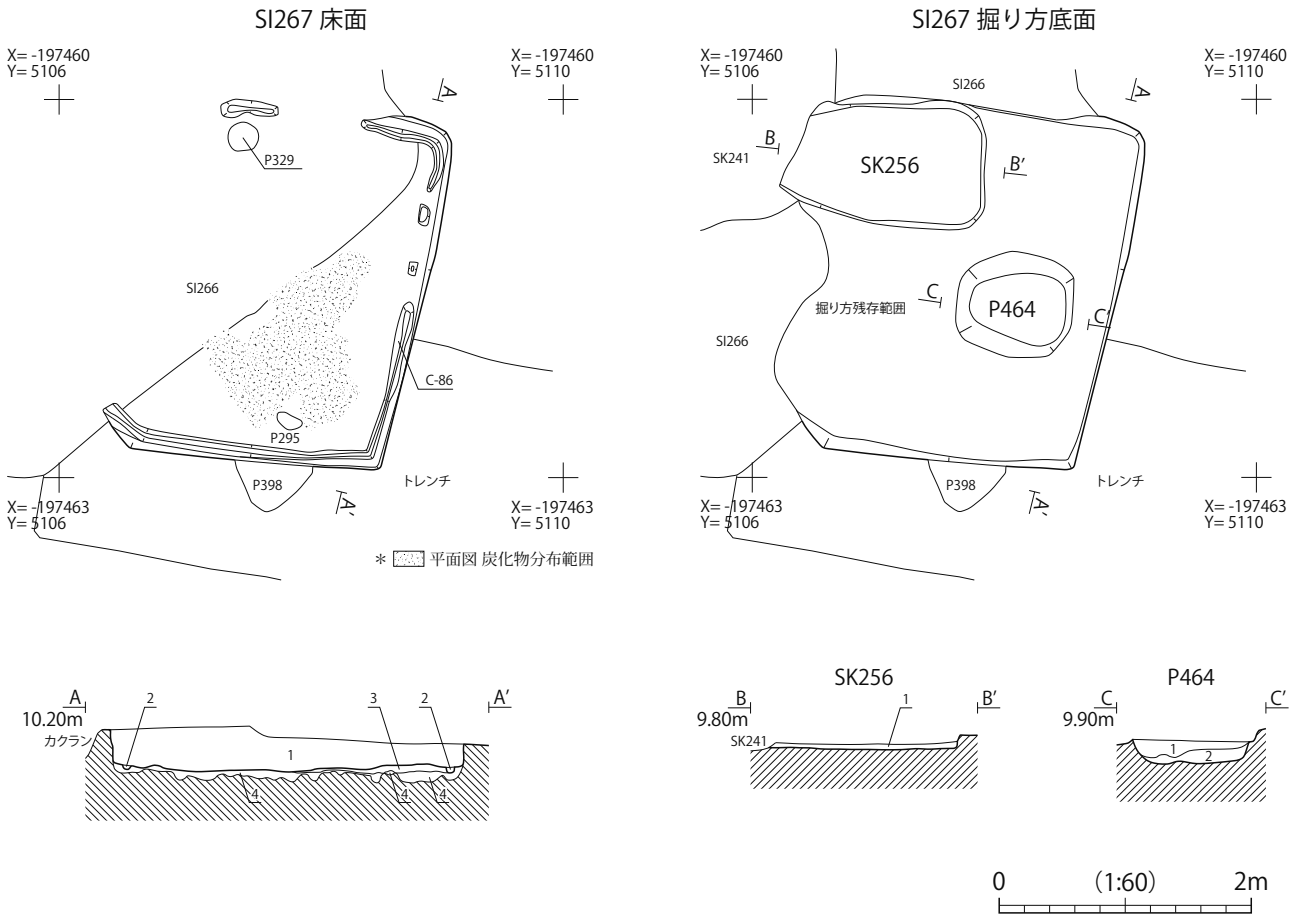
【規模・形態】確認した規模は、長軸 286cm、短軸 225cm 以上である。平面形は、掘り方の残存状況から方形を呈する可能性が考えられる。北西部の半分が SI266 と重複する。

【方向】東壁を基準として N － 14° － E である。

【堆積土】4 層に分層した。1 層は住居堆積土、2 層は周溝堆積土、3・4 層は住居掘り方である。

【壁面】ほぼ直立する。壁高は 17 ～ 25cm である。

【床面】住居掘り方である 3 層上面ないし 4 層上面が床面である。



SI267 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 150mm）多量、焼土粒やや多く含む。
周溝	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
住居掘り方	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）多量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。

SI267 掘り方底面検出遺構堆積土註記表

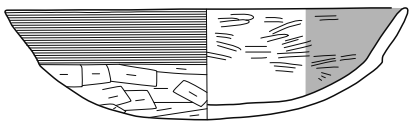
遺構名	層位	土色	土性	備考
SK256	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。
P464	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く含む。

SI267 掘り方底面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK256	長方形？	（162）× 102	6	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P464	楕円形	92 × 84	19	

第 46 図　SI267 竪穴住居跡



1(床面)

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-86	SI267	床面	土師器	坏	16.0	—	4.4	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部～底部：ｹｽﾞﾘ	ﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　口唇部・口縁部内面・底部内面中央部摩滅　線条痕多数	55-1

第 47 図　SI267 竪穴住居跡出土遺物

【柱穴】柱穴は確認できなかった。
【周溝】東辺・北辺・南辺の一部で確認した。規模は幅 4 ～ 13cm、深さ 2 ～ 4cm である。
【カマド】確認できなかった。
【その他の施設】床面で遺構は確認できなかったが、炭化物の面的な拡がりを確認した。住居跡の南東部に分布し、その範囲は、長軸 145cm、短軸 128cm である。
【掘り方】底面には著しい凹凸が認められる。掘削痕の可能性が考えられる。その他大きな高低は認められない。深さは 2 ～ 15cm である。
【出土遺物】遺物は、住居堆積土、床面から、土師器 52 点、須恵器 1 点が出土した。この内、図化できた土師器坏 1 点を掲載した（第 47 図）。

第 47 図 1 は、床面から正位の状態で出土した完形の土師器坏である。有段丸底坏で外面の段は弱い。内面にも屈曲がみられる。口縁部はほぼ直線的に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ、内面はミガキ後に黒色処理が施される。

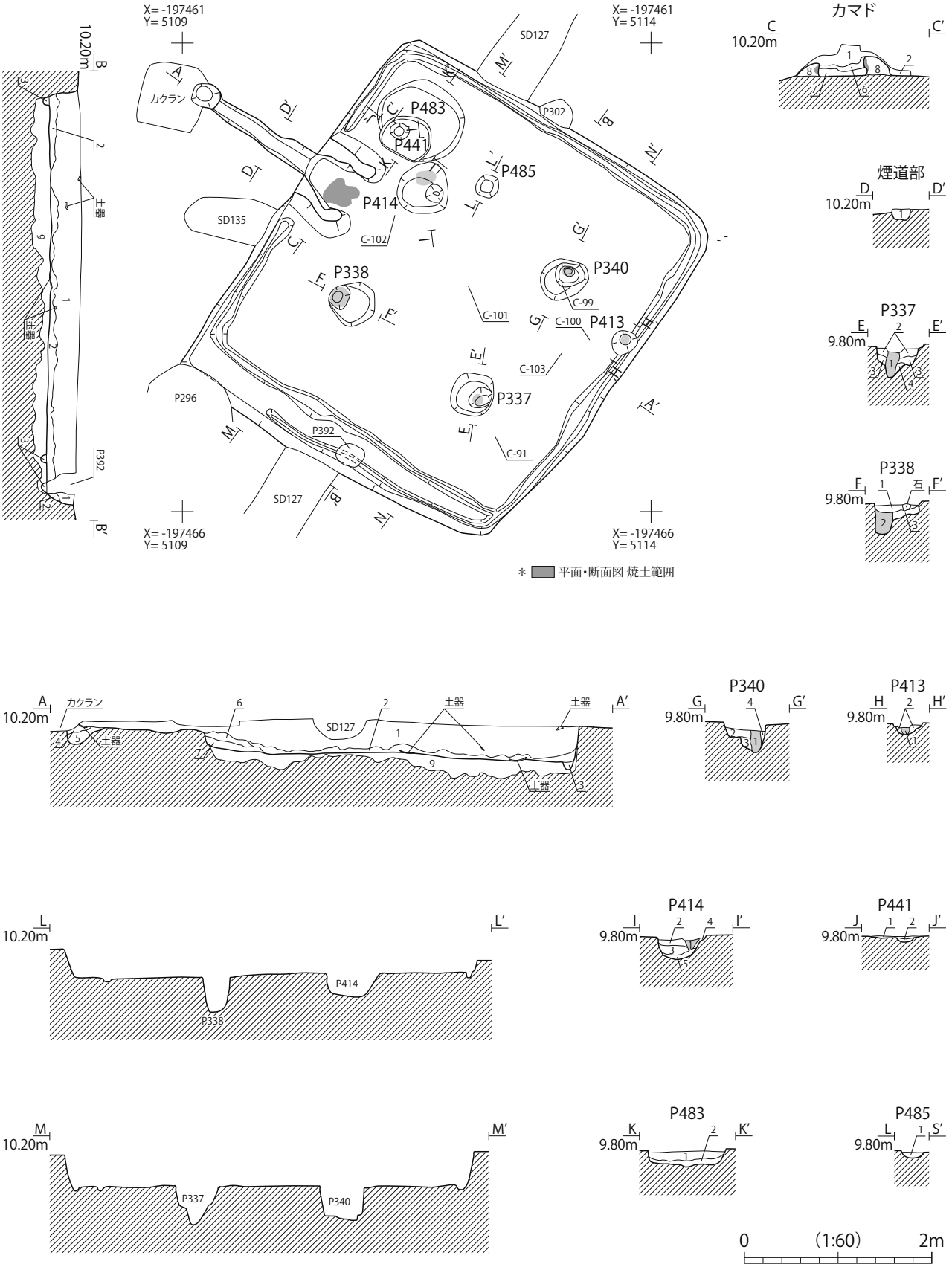
また、本資料の内面には、著しい摩滅痕と線条痕が観察される（写真図版 81）。摩滅により黒色処理の光沢が失われている箇所は、口唇部全体、口縁部、そして内面中央部である。線条痕は内面全体に、様々な方向のものが観察されるが、同心円状に横方向に延びるものと、この方向に対し斜方向に延びるものとが多数を占め、放射状に延びるものはあまり認められない。更に、内面の中心よりわずかにずれた箇所で、幅 1mm 程の微細なキズが全長 3cm の範囲に連続して並ぶ痕跡も認められる。これらの痕跡については、いずれも何らかの使用によって付いたものである可能性がある。

SI268　竪穴住居跡（第 48 ～ 51 図）

カマドの軸線は北西方向を向くが、記述の便宜上、この軸線を東西とみなし、カマドの付設された壁面を西壁とする。同様にカマドに向かって両側の壁面は、北壁、南壁とする。床面施設等の位置関係についても、この基準に従って記述する。
【位置・確認】調査区西区南部の 41・42・47・48 グリッドに位置する。
【重複】SD146・148、SI269 より新しく、SD127・135、P296・302・392 より古い。
【規模･形態】規模は、長軸 440cm、短軸 400cm である。平面形は長方形を呈する。ただし、本住居跡においては、南辺で 2 条の周溝を確認しておりこの方向に向かって一度拡張された可能性がある。拡張前の規模・形態は、1 辺 400cm の方形となる。
【方向】カマドを基準として、N － 58° － W である。
【堆積土】9 層に分層した。1・2 層は住居堆積土、3 層は周溝堆積土、4 ～ 8 層はカマド関係の堆積土、9 層は住居掘り方である。
【壁面】直立する。壁高は 25 ～ 32cm である。
【床面】住居掘り方である 9 層上面が床面である。概ね平坦である。
【柱穴】床面で 4 基の主柱穴を確認した（P337・338・340・414）。P337 は南東主柱穴である。平面形は隅丸方形で、規模は長軸 45cm、短軸 45cm、深さ 31cm である。P338 は南西主柱穴である。平面形は不整な円形で、規模は長軸 52cm、短軸 49cm、深さ 32cm である。P340 は北東主柱穴である。平面形は不整な円形で、規模は長軸 51cm、短軸 42cm、深さ 27cm である。P414 は北西主柱穴である。規模は長軸 58cm、短軸 54cm、深さ 23cm である。

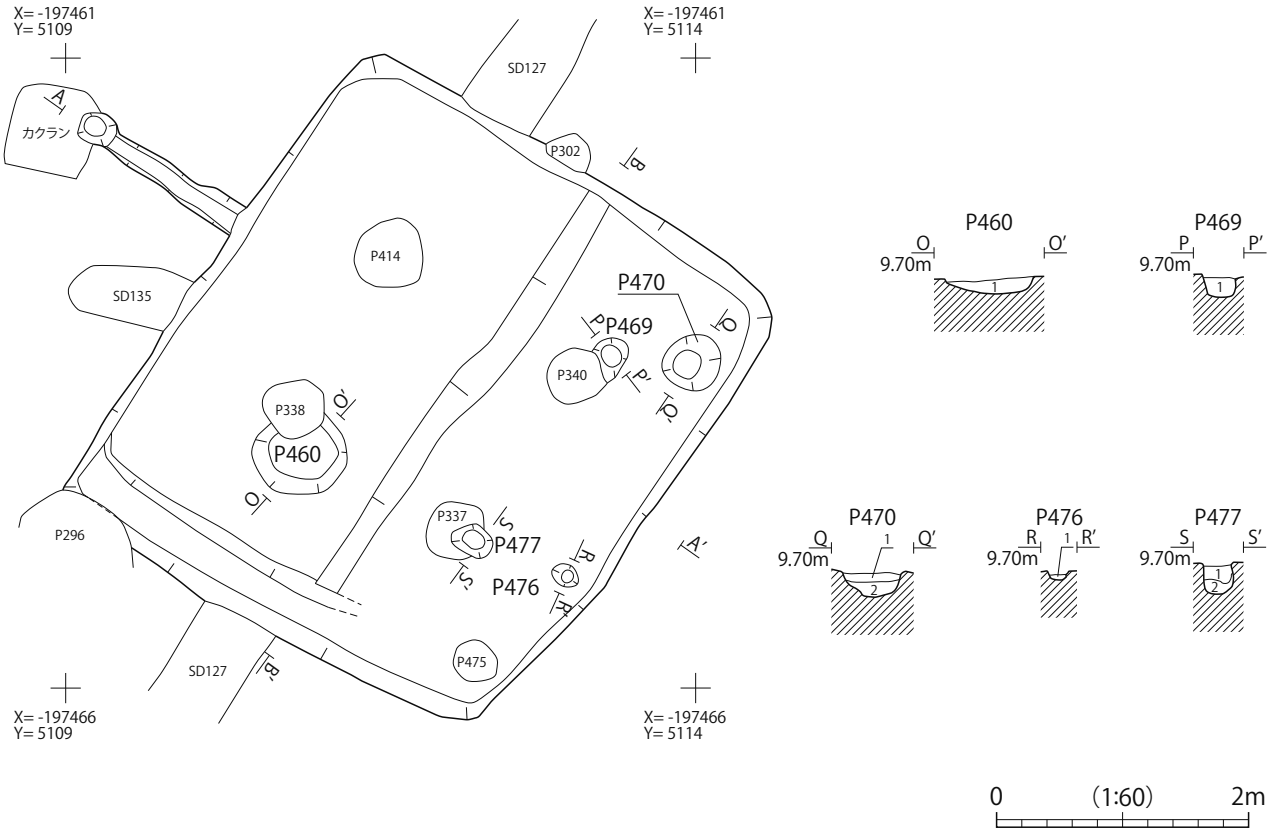
これらの柱穴の内、抜き取りの痕跡は P338 でのみ認められた。
【周溝】先述のとおり、南辺では拡張によるとみられる 2 条の周溝が確認された。その間隔は、約 30cm である。

SI268 床面



第 48 図　SI268 竪穴住居跡（1）

SI268 掘り方底面



SI268 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量、焼土・炭化物粒含む。
周溝	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く含む。
カマド	4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 20mm）多量含む。（煙出穴内堆積土）
	5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く、炭化物粒（10mm）多量含む。（煙出穴内堆積土）
	6	10YR4/4 褐色	粘質シルト	炭化物粒少量、焼土含む。（カマド天井崩落土）
	7	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	炭化物・焼土粒多量含む。
カマド袖	8	10YR4/6 褐色	砂質シルト	暗褐色土粒（5 ～ 10mm）極少量含む。
住居掘り方	9	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。（掘り方埋土）

SI268 床面施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P337 主柱穴	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く含む。
P338 主柱穴	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）多量含む。（抜き取り穴）
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量含む。（柱痕跡）
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）やや多く含む。
P340 主柱穴	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状にやや多く含む。
P413	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
P414 主柱穴	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）やや多く含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量、炭化物微量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
P441	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量、焼土多量、炭化物含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）多量、焼土少量含む。
P483	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）極少量含む。
P485	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量、焼土粒やや多く含む。

第 49 図　SI268 竪穴住居跡（2）

SI268 掘り方底面検出遺構堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P460	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。
P469	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）多量含む。
P470	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）多量含む。
P476	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 10mm）やや多く含む。
P477	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）やや多く含む。

SI268 床面施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P337	隅丸方形	45 × 45	31	主柱穴
P338	不整円形	52 × 49	32	主柱穴
P340	不整円形	51 × 42	27	主柱穴
P413	円形	28 × 25	11	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P414	不整円形	58 × 54	23	主柱穴
P441	楕円形	56 × 44	7	
P483	楕円形	93 × 84	18	
P485	円形	24 × 24	7	

SI268 掘り方底面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P460	（不整円形）	71 × 63	14	
P469	（楕円形）	（28）× 26	15	
P470	不整円形	46 × 44	20	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P476	楕円形	23 × 17	5	
P477	（楕円形）	（33）×（24）	23	

規模は幅 6 ～ 23cm、深さ 6 ～ 8cm である。

【カマド】西壁中央部（住居拡張後はやや北寄り）に位置し、壁面に直交して付設されている。袖の規模は、北袖が長さ 62cm、幅 30 ～ 33cm、南袖は長さ 56cm、幅 30 ～ 32cm である。燃焼部の規模は奥行き 65cm、幅 45cm、奥壁高 15cm で、壁内に位置する。底面には長軸 33cm 、短軸 30cm の焼面がみられる。煙道部の規模は、長さ 145cm、幅 15 ～ 27cm、深さ 3 ～ 13cm である。底面は燃焼側に向かって緩やかに下がるが、煙出し部分は深さ 13cm 程度のピット状に掘り込まれている。

【その他の施設】床面でピット 4 基を確認した。平面的に規模が大きい 2 基のピットは、カマド北側で確認された。2 基には重複関係があり、P441 がより新しい。P441 は、平面形が楕円形で、規模は長軸 56cm、短軸 44cm だが、深さが 7cm と浅い。底面にピット状の落ち込みがみられる。P483 は、より大型のピットである。平面形は楕円形で規模は長軸 93cm、短軸 84cm、深さ 18cm である。これは貯蔵穴等の可能性が考えられる。

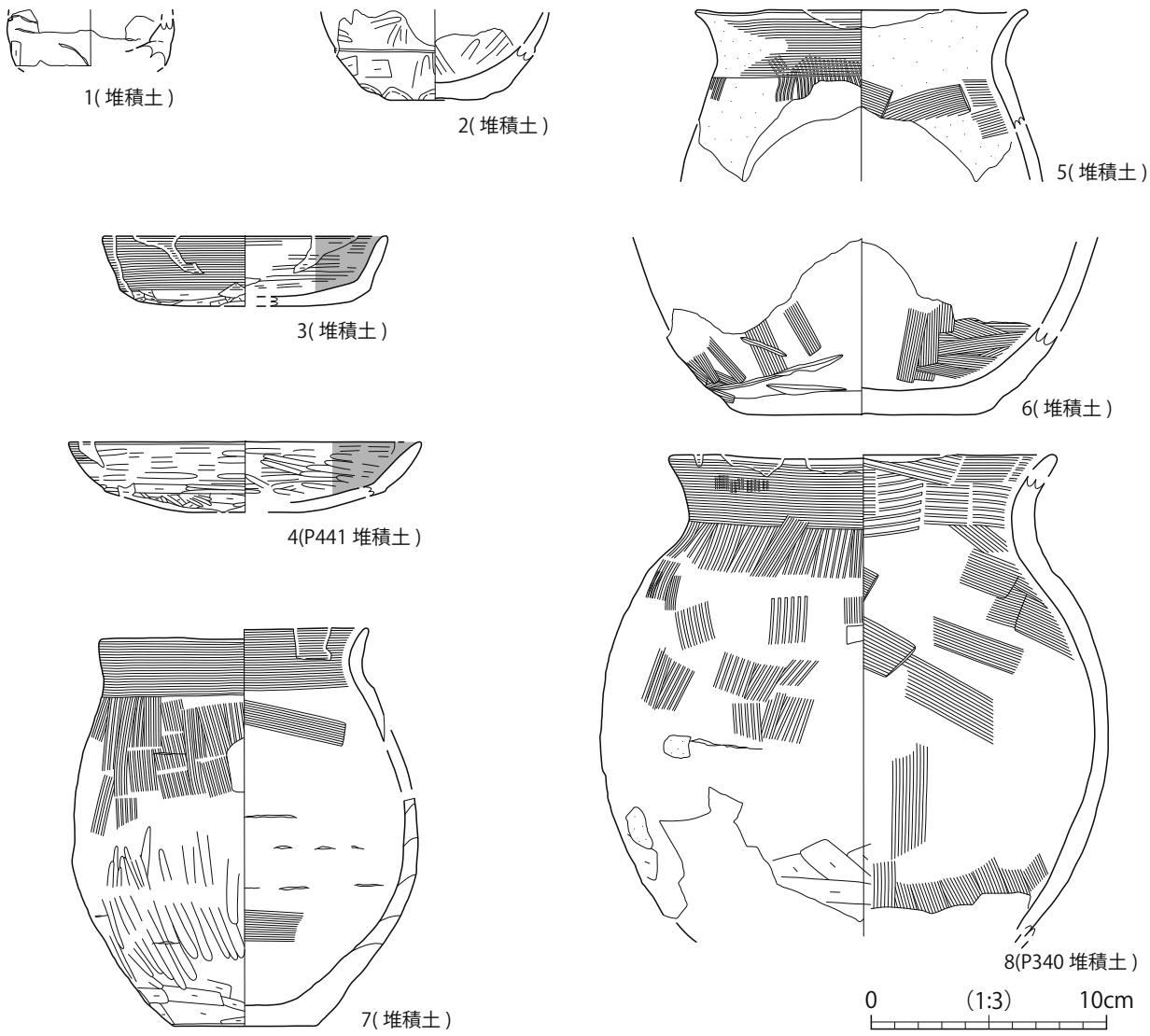
他の 2 基のピットは、いずれも径 30cm 未満で、位置にも規則性はない。

【掘り方】底面には著しい凹凸がみられる。全体的に東側が低い。これは、本住居跡より古い SI269 がこの箇所で重複していることと関係する可能性がある。深さは 3 ～ 20cm である。

【出土遺物】遺物は、住居堆積土、床面施設、カマド、床面、住居掘り方から土師器 579 点、須恵器 4 点、金属製品 1 点が出土した。この内、土師器ミニチュア 1 点、土師器坏 5 点、同高坏 1 点、同甕 13 点、同甑 1 点、金属製品 1 点を掲載した（第 50・51 図）。非掲載遺物には土師器坏 9 点、須恵器坏 2 点が含まれるが、図示できる遺物はない。他の遺物についても同様である。掲載遺物の内、1 ～ 3・5 ～ 7・9 ～ 12・14・15 は住居堆積土、4・8・13 は床面施設堆積土、21 はカマド堆積土、16・18 ～ 20 は床面、17・22 は住居掘り方からの出土である。

1 は土師器ミニチュアである。輪積み痕がみられる。調整は外面がケズリで内面は不明である。

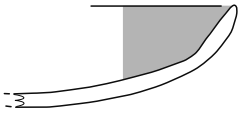
2 ～ 4・16・17 は土師器坏である。2 は、平底風の丸底で口縁部と体部の境にわずかな段がみられる。口縁部は、内湾気味に外傾する。口縁端部は欠損している。調整は、外面が口縁～底部ケズリ、一部ミガキ、内面は口縁～底部ミガキである。3 は、平底風の丸底で口縁部と体部の境に稜がある。内面にも屈曲がみられる。調整は、外面が口縁～底部ヨコナデ、ヘラケズリ、内面は口縁～底部ヘラミガキである。4 は、口縁部と体部の境に弱い段をもつ有段丸底坏である。内面にも屈曲がみられる。調整は、外面が口縁部ヘラナデ、ヘラミガキ、体部～底部ヘラミガキ、ヘラミガキ、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。16 は、口縁部が内湾する丸底の坏である。写真のみ掲載した。外面に段や稜はみられないが内面に屈曲がみられる。調整は、外面がヨコナデ、ヘラケズリ、内面は



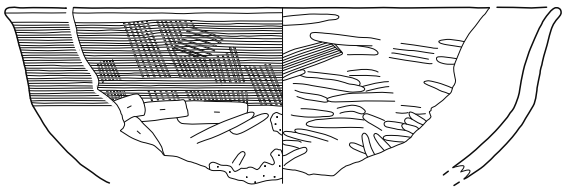
図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-87	SI268	堆積土	土師器	ﾆﾐﾁｭｱ	—	—	(2.0)	ｹｽﾞﾘ		輪積み痕　骨針あり	55-2
2	C-88	SI268	堆積土	土師器	坏	—	4.0	(3.8)	口縁～底部：ｹｽﾞﾘ、一部ﾐｶﾞｷ	口縁～底部：ﾐｶﾞｷ		55-3
3	C-96	SI268	堆積土 1 層	土師器	坏	(12.0)	—	(3.0)	口縁～底部：ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁～底部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	骨針あり	55-4
4	C-97	SI268 P441	堆積土	土師器	坏	(15.0)	—	(3.0)	口縁：ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部～底部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり	55-5
5	C-89	SI268	堆積土	土師器	甕	(14.0)	—	(7.3)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ	体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	内外面摩滅　赤褐色粒多量	55-6
6	C-92	SI268	堆積土	土師器	甕	—	(9.8)	(7.5)	体部～底部：ﾍﾗﾅﾃﾞ、工具痕？(棒状？)	体部～底部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	雲母微量　赤褐色粒あり 骨針あり	55-7
7	C-91	SI268	堆積土	土師器	甕	11.5	6.1	17.0	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	被熱赤変箇所あり　剥落	55-10
8	C-99	SI268 P340	堆積土	土師器	甕	(16.3)	—	(20.5)	口縁：ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁：ﾊｹﾒ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ		55-15
9	C-90	SI268	堆積土	土師器	甕	—	—	(10.6)	体部：ﾊｹﾒ	体部：ﾊｹﾒ	骨針あり　赤褐色粒あり 写真掲載のみ	55-9
10	C-93	SI268	堆積土	土師器	甕	—	7.0	—	底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	底部のみ　骨針あり　赤褐色粒あり　写真掲載のみ	55-12
11	C-94	SI268	堆積土	土師器	甕	—	7.8	—	ﾊｹﾒ		底部のみ　写真掲載のみ	55-13
12	C-95	SI268	堆積土	土師器	甕	—	—	—	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	底部：木葉痕　骨針あり 赤褐色粒あり　写真掲載のみ	55-14
13	C-98	SI268 P441	堆積土	土師器	甕	(12.5)	—	(9.3)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ		内外面摩滅　骨針あり 赤褐色粒あり　写真掲載のみ	55-16
14	C-160	SI268	堆積土	土師器	甑	—	—	—	ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	赤褐色粒多量　写真掲載のみ	55-17

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
15	N-5	SI268	堆積土	鉄製品	板状鉄製品	2.2	1.9	0.4	2.5	4 片　法量は最大の破片について行なった　写真掲載のみ	56-5

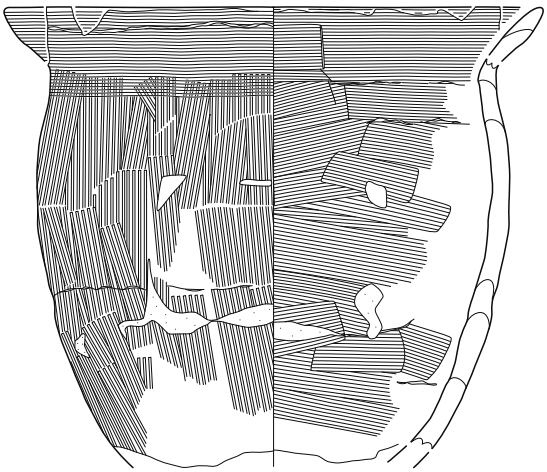
第 50 図　SI268 竪穴住居跡出土遺物 (1)



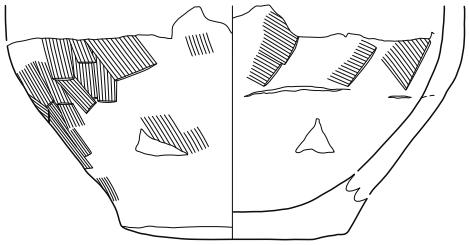
16(床面)



17(掘り方)



18(床面)



19(床面)

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
16	C-100	SI268	床面	土師器	坏	—	—	4.0	ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり	55-11
17	C-105	SI268	掘り方	土師器	坏	(21.8)	(7.0)	—	口縁：ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ｹｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ、一部ﾍﾗﾅﾃﾞ	骨針あり	55-8
18	C-101	SI268	床面	土師器	甕	21.0	—	(18.3)	口縁：ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	赤褐色粒あり	56-1
19	C-102	SI268	床面	土師器	甕	—	(9.3)	8.9	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	赤褐色粒あり	55-18
20	C-103	SI268	床面	土師器	甕	—	—	—	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	骨針あり　赤褐色粒多量 写真掲載のみ	56-3
21	C-104	SI268	カマド 堆積土	土師器	甕	—	—	(10.1)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ→ﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	赤褐色粒多量　写真掲載のみ	56-4
22	C-106	SI268	掘り方	土師器	高坏	—	—	—	ﾊｹﾒ→ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	スカシあり　赤褐色粒あり　写真掲載のみ	56-2

第 51 図　SI268 竪穴住居跡出土遺物 (2)

ヘラミガキ後に黒色処理が施される。17 は、口縁部と体部の境に弱い稜をもち、内面にも屈曲がみられる。口径は 21.8cm で大型の坏ないし鉢である。底部は欠損するが丸底になると推定される。調整は、外面が口縁部ハケメ、ヨコナデ、体部ケズリ、ミガキ、内面はミガキ、一部ヘラナデである。

22 は高坏で写真のみ掲載した。裾部の破片資料で全体形状は不明である。スカシの痕跡がみられるが、形状等は不明である。調整は、外面がハケメ、ヘラナデ、内面はナデである。

5 ～ 13・18 ～ 21 は土師器甕で、この内 9 ～ 13・20・21 は写真のみ掲載した。5 は、口縁部～体部上部の破片資料である。口縁部と体部の境に極弱い段がみられる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、内面は体部ヘラナデである。6 は、体部下部から底部の破片資料である。調整は、内外面ともに体部～底部ヘラナデである。7 は、体部中位に最大径をもつ小型の甕である。口縁部と体部の境には弱い稜があり、口縁部は外反する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、ヘラミガキ、ヘラケズリ、底部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。8 は、底部を欠損するが体部中位に最大径をもつ中型の甕と推定される。口縁部と体部の境に段ないし稜はみられない。口縁部は外反する。調整は、外面が口縁部ハケメ、ヨコナデ、体部ハケメ、ヘラケズリ、内面は口縁部ハケメ、体部ヘラナデである。9 は、体部上半の破片資料である。調整は、内外面とも体部ハケメであ

る。10 は、底部のみの破片資料である。調整は、外面がヘラケズリ、内面はヘラナデである。11 も底部のみの破片資料である。調整は、底部側面にハケメがみられる。12 も底部のみの破片資料である。調整は、内外面ともにナデで底面には木葉痕がみられる。13 は、口縁部～体部上半の破片資料である。口縁部と体部の境に段ないし稜はみられない。口縁部は外反するとみられるが、端部は欠損する。全体に摩滅が顕著である。調整は、口縁部ヨコナデである。18 は、体部上位に最大径をもつ中型の甕である。口縁部と体部の境に段ないし稜はみられない。口縁部は外傾するが、中位がやや肥厚する。調整は、外面が口縁部ハケメ、ヨコナデ、体部ハケメ、内面は口縁部ヨコナデ、ヘラナデ、体部ヘラナデである。19 は、体部下部から底部のみの資料である。調整は、内外面ともヘラナデである。20 は、体部下半部の破片資料である。体部中位に最大径をもつ甕と推定される。調整は、外面がナデ、内面はヘラナデである。21 は、口縁部～～体部上半の破片資料である。口縁部と体部の境に極弱い段がみられる。口縁部は外反する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、ナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。

14 は無底の甑で、写真のみ掲載した。調整は、内外面ともにミガキである。

15 は用途不明の板状の鉄製品で、写真のみ掲載した。3 片あり最大の破片で全長 2.2cm、厚さ 0.4cm、重量 2.5g である。

SI269 竪穴住居跡（第 52 ～ 54 図）

記述の便宜上、より北側の SI268 と重複する壁面を北壁とする。床面施設等の位置関係についても、この基準に従って記述する。

【位置・確認】調査区西区南部の 42・48 グリッドに位置する。

【重複】SD143 より新しく、SI268・270 より古い。

【規模・形態】確認した規模は、長軸 550cm、短軸 510cm 以上である。平面形は方形を呈するものと推定される。北壁は SI268 と、西壁は SI270 と重複する。東辺および住居跡南東部はカクランと重複する。

【方向】西壁を基準として N － 35° － W である。

【堆積土】3 層に分層した。1 層は住居堆積土、2 層は周溝堆積土、3 層は住居掘り方である。

【壁面】直立ないしやや外傾して立ち上がる。壁高は 30 ～ 35cm である。

【床面】住居掘り方である 3 層を床面とする。起伏はあるものの確認した範囲では概ね平坦である。

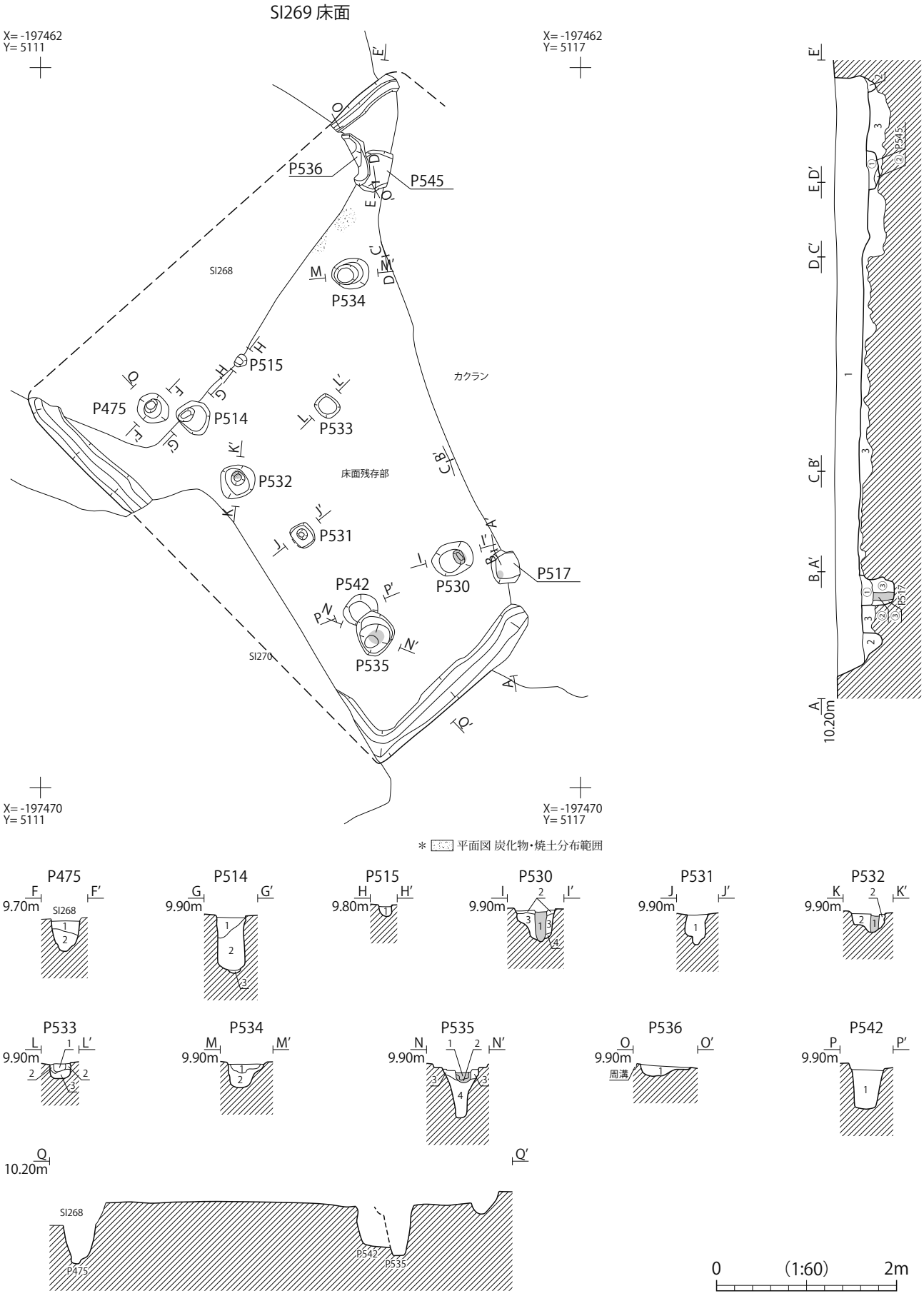
【柱穴】確実に主柱穴と確認できたのは、南西主柱穴の P535 である。住居内で主柱穴の存在が推定される箇所において、柱痕跡をもつのは P535 のみである。平面形は不整な楕円形で、規模は長軸 44cm、深さ 54cm である。

また、柱痕跡はないものの、その位置と規模から P535 と組になるとみられるのが、SI268 の掘り方底面で確認した P475 である。平面形は不整な円形で、残存する規模は長軸 37cm、深さ 34cm 以上である。北東と南東の主柱穴についてはカクランの範囲内にあるものとかんがえられる。

【周溝】北辺・西辺・南辺の一部で確認した。規模は幅 12 ～ 32cm、深さ 9 ～ 23cm である。

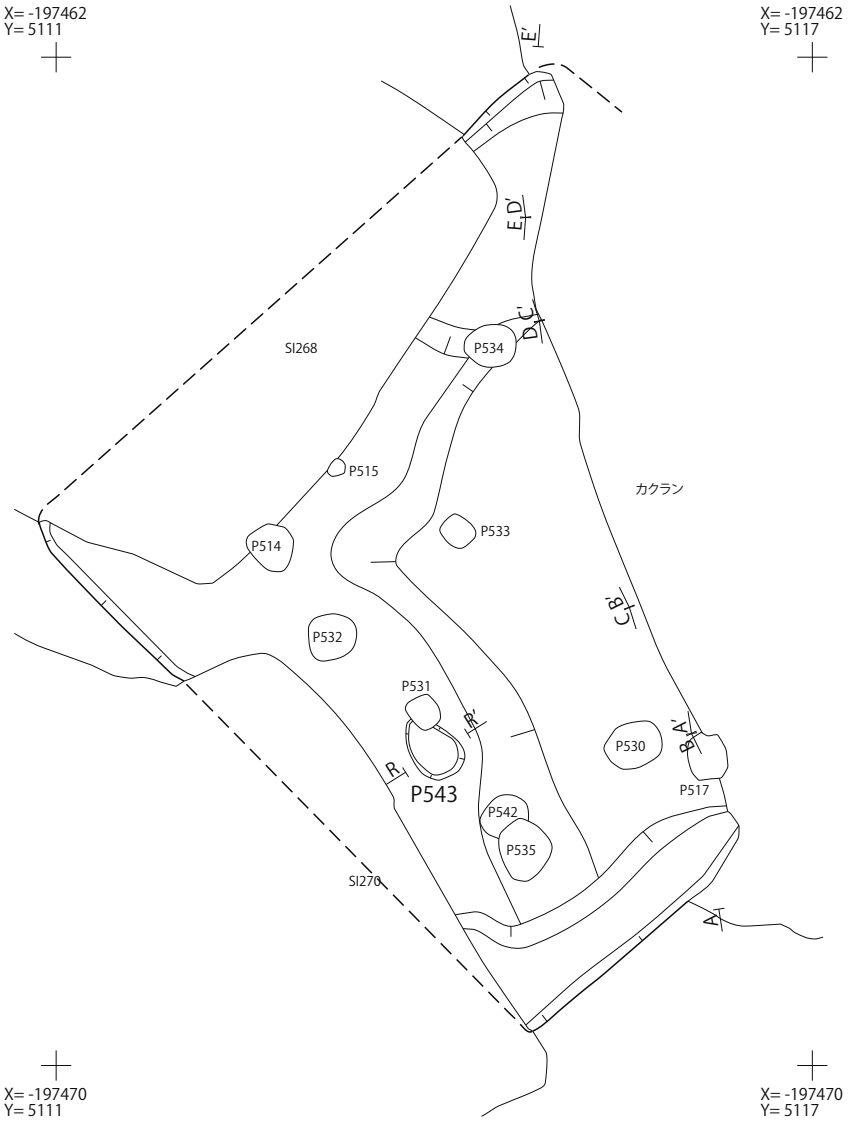
【カマド】確認できなかったが、住居跡の北東角部で確認した P536・545 の堆積土中に焼土・炭化物が多量みられることから、北辺ないし東辺にカマドがあったものと推定される。

【その他の施設】床面で 11 基のピットを確認した。この内、柱痕跡をもつのは P517・530・532 の 3 基である。共に、主柱穴同士をつなぐライン付近に位置する。P517 は P535 南西主柱穴の東 1.5 mに位置し、平面形はカクランと半分重複するが方形を呈する可能性がある。規模は長軸 45cm、深さ 38cm である。P530 は P535 南西主柱穴の東 1.3 mに位置し、平面形は不整な楕円形で、規模は長軸 45cm、深さ 35cm である。P532 は P535 南西主柱穴の北 2.3 mに位置し、平面形は不整な楕円形で、規模は長軸 38cm、深さ 21cm である。



第 52 図　SI269 竪穴住居跡（1）

SI269 掘り方底面



第 53 図　SI269 竪穴住居跡（2）

SI269 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）少量、焼土・炭化物粒含む。
周溝	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 15mm）やや多く含む。
住居掘り方	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）・焼土・炭化物粒多量含む。

SI269 床面施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P475	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）少量含む。
P514	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）やや多く含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	
P515	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 5mm）やや多く含む。
P517	①	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）やや多く含む。（抜き取り穴）
	②	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量含む。（柱痕跡）
	③	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）多量含む。
P530	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）少量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）多量含む。
P531	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
P532	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く含む。
P533	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。
P534	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 10mm）やや多く含む。
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。
P535 主柱穴	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。（柱痕跡）
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）多量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）やや多く含む。
P536	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量、焼土粒（1 ～ 10mm）多量、炭化粒少量含む。
P542	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 10mm）やや多く含む。
P545	①	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量、焼土・炭化物粒多量含む。
	②	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。

SI269 掘り方底面検出遺構堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P543	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。

SI269 床面施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P475	楕円形	37 × 32	34	SI268 掘り方底面検出　主柱穴か
P514	(不整形)	(38) × 34	62	
P515	(楕円形)	15 × 13	11	
P517	(方形)	37 × (31)	38	
P530	楕円形	45 × 36	35	
P531	方形	27 × 23	34	
P532	不整形	38 × 36	21	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P533	方形	26 × 23	16	
P534	楕円形	42 × 34	26	
P535	不整形	44 × 40	54	主柱穴
P536	(楕円形)	59 × (14)	13	
P542	(円形)	39 × (23)	44	
P545	(不整形)	47 × (23)	15	

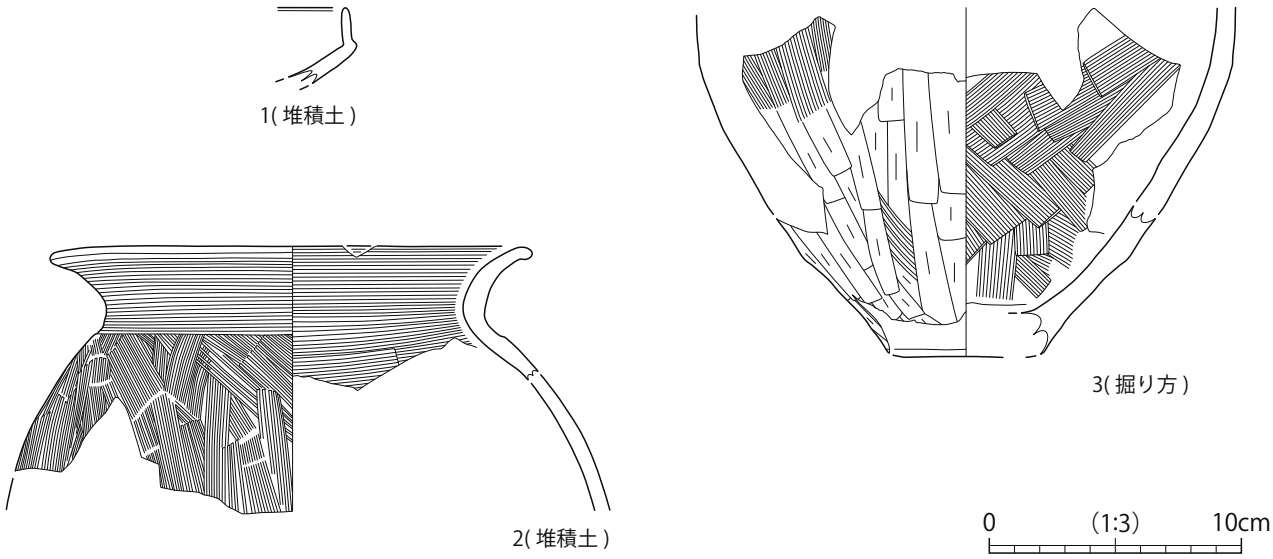
SI269 掘り方底面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P543	(楕円形)	56 × 38	13	

【掘り方】底面には著しい凹凸がみられる。底面の形状は、中央部が高くその周囲が低い。深さは 2 ～ 25cm である。

【出土遺物】遺物は、住居堆積土、床面施設、住居掘り方から、土師器 255 点、須恵器 1 点が出土した。この内、土師器坏 3 点、同甕 4 点、同壺 1 点を掲載した（第 54 図）。非掲載遺物には、土師器坏 16 点が含まれるが、図示できる遺物はない。他の遺物についても同様である。掲載遺物の内、1・2・4 ～ 6・8・9 は住居堆積土、7 は床面施設堆積土、3 は住居掘り方からの出土である。

1・4 ～ 6 は土師器坏で、4 ～ 6 は写真のみ掲載した。また、1・4 ～ 6 はいわゆる関東系土師器で、その内 1·5・6 は須恵器模倣坏である。1 は、口縁部と体部の境に段をもち短い口縁部が直立する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデである。4 は、口縁部と体部の境に稜をもち短い口縁部が直立する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデで、内外面に漆の付着がみられる。5・6 は、ともに口縁部と体部の境に段をもち短い口縁部が内傾する。5 の調整は、外面が口縁部ヨコナデ、内面は口縁部～体部ヨコナデである。6 の調整は、外面が口縁部ヨコナデ、



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-107	SI269	堆積土	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部～底部：ﾅﾃﾞ	関東系 (須恵器模倣坏) 骨針あり　赤褐色粒あり	56-6
2	C-111	SI269	堆積土	土師器	壺	18.9	—	(11.6)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 頚部：ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	骨針あり　赤褐色粒あり	56-7
3	C-113	SI269	掘り方	土師器	甕	—	(13.9)	(6.0)	体部：ﾊｹﾒ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	SI269P545 堆積土・ SI268 掘り方と接合　赤褐色粒あり	56-8
4	C-108	SI269	堆積土	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部～底部：ﾅﾃﾞ	関東系　内外面漆付着 赤褐色粒あり　写真掲載のみ	56-9
5	C-109	SI269	堆積土	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁～体部：ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系 (須恵器模倣坏) 体部外面剥落　赤褐色粒あり　写真掲載のみ	56-10
6	C-110	SI269	堆積土	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁～体部：ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系 (須恵器模倣坏) 体部外面漆　写真掲載のみ	56-11
7	C-112	SI269 P545	堆積土	土師器	甕	—	—	(4.8)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部：ﾅﾃﾞ	骨針あり　写真掲載のみ	56-12
8	C-114	SI269	掘り方	土師器	甕	—	—	(5.1)	口縁：ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ	骨針あり　赤褐色粒あり 写真掲載のみ	56-13
9	C-115	SI269	掘り方	土師器	甕	—	—	(9.2)	口縁：ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾊｹﾒ 体部：ﾅﾃﾞ	骨針あり　赤褐色粒あり 写真掲載のみ	56-14

第 54 図　SI269 竪穴住居跡出土遺物

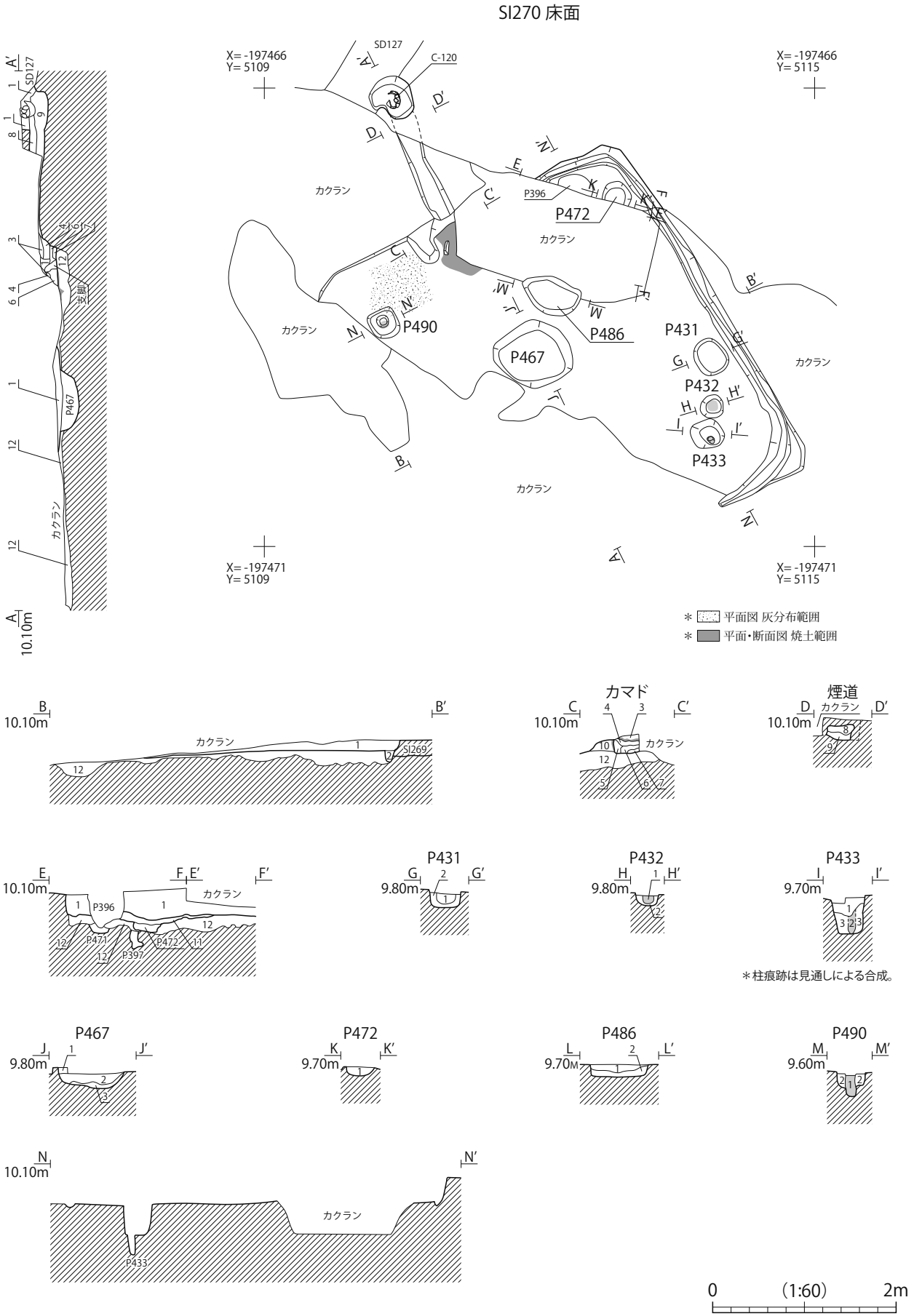
体部～底部ヘラケズリ、内面は口縁部～体部ヨコナデで、体部外面にわずかに漆の付着がみられる。

3・7 ～ 9 は土師器甕で、7 ～ 9 は写真のみ掲載した。3 は、体部下半部のみの資料で全体形状は不明である。調整は、外面が体部ハケメ、ヘラケズリ、内面がヘラナデである。7 ～ 9 はともに口縁部のみの破片資料である。7 は、口縁部と体部の境に極弱い稜をもち、口縁部は外反する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ナデである。8 は、口縁部と体部の境に極弱い稜をもち、口縁部は直立気味に外反する。口縁端部が外面側に肥厚する。調整は、口縁部ハケメ後ヨコナデ、内面は口縁部ヨコナデである。9 は、口縁部と体部の境に弱い凹線がめぐり、口縁部は直立気味に外反する。調整は、口縁部ハケメ後ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ後ハケメ、体部ナデである。

2 は土師器壺である。口縁部と体部の境に段をもち、口縁部は外反する。口径は 18.9cm で大型の壺と考えられる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、内面は口縁部ヨコナデ、頚部ハケメ後ヘラナデ、体部ヘラナデである。

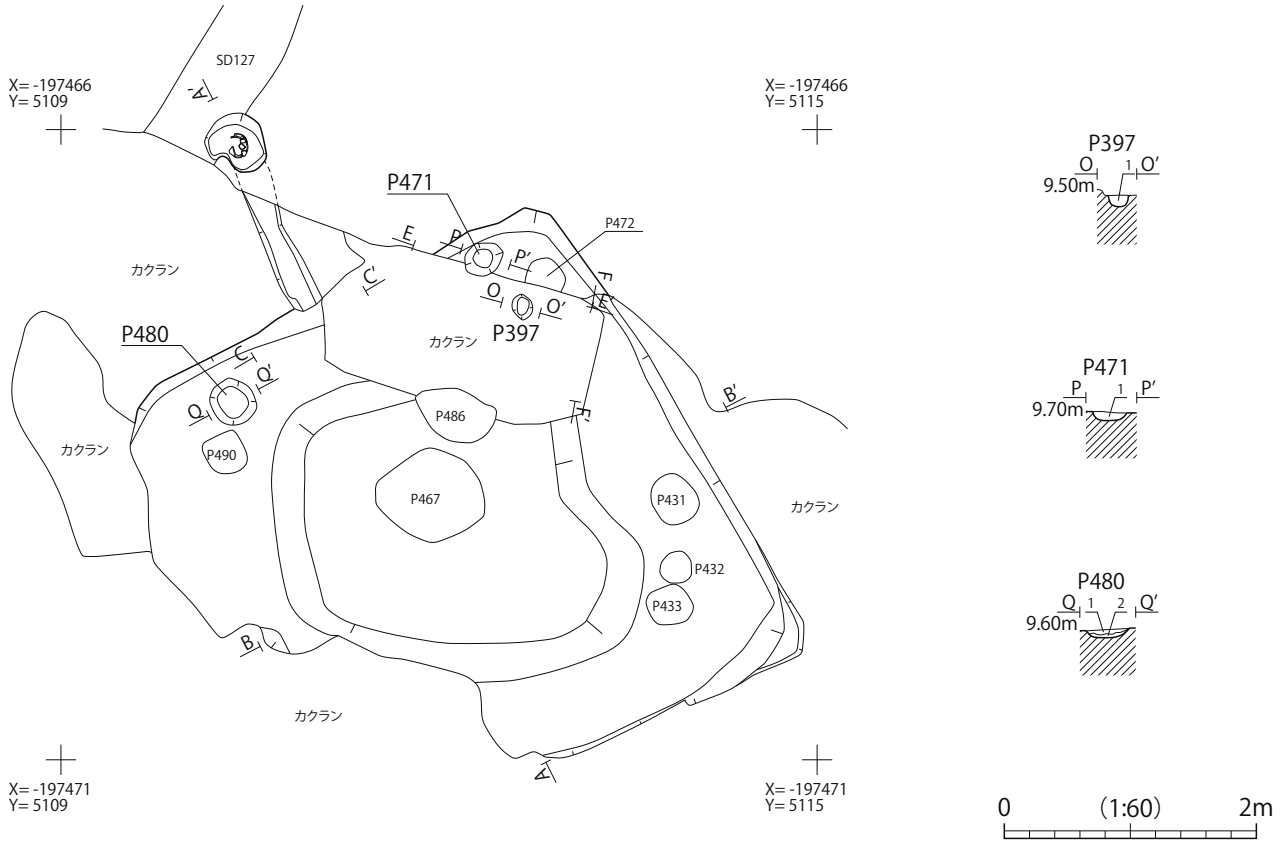
SI270 竪穴住居跡（第 55 ～ 57 図）

カマドの軸線は北西方向を向くが、記述の便宜上、この軸線を南北とみなし、カマドの付設された壁面を北壁とする。同様にカマドに向かって両側の壁面は、東壁、西壁とする。床面施設等の位置関係についても、この基準に



第 55 図　SI270 竪穴住居跡（1）

SI270 掘り方底面



SI270 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量、炭化物・焼土粒やや多く含む。
周溝	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。
カマド	3	10YR4/6 褐色	粘質シルト	暗褐色土粒（10 ～ 20mm）やや多く含む。（カマド天井崩落土）
	4	10YR2/2 黒褐色	粘質シルト	焼土粒（5 ～ 10mm）・炭化物多量含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（50mm）・焼土粒・炭化物少量含む。
	6	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	焼土粒（1 ～ 5mm）少量、炭化物・灰含む。
	7	10YR2/2 黒褐色	粘質シルト	焼土粒（1 ～ 5mm）やや多く、炭化物多量含む。
	8	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量、炭化物多量含む。
	9	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）少量含む。
カマド袖	10	10YR4/6 褐色	砂質シルト	暗褐色土ブロック（10 ～ 30mm）少量含む
床面埋土	11	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く含む。
住居掘り方	12	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。

SI270 床面施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P431	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）多量含む。
P432	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く含む。
P433 主柱穴	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。（抜き取り穴）
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く含む。（柱痕跡）
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
P467	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く、焼土粒少量、炭化物微量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）多量、焼土粒・炭化物微量含む。
P472	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	焼土粒（1 ～ 10mm）多量含む。（旧床面遺構）
P486	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量含む。
P490 主柱穴	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）やや多く含む。

SI270 掘り方底面検出遺構堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P397	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量、炭化物微量含む。
P471	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	焼土粒（1 ～ 5mm）・炭化物やや多く含む。
P480	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量、焼土粒（10 ～ 30mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）多量含む。

第 56 図　SI270 竪穴住居跡（2）

SI270 床面施設観察表

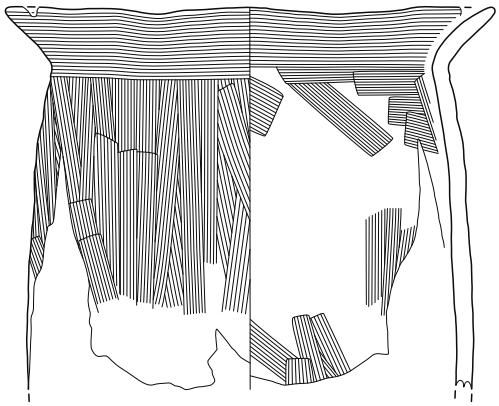
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P431	楕円形	40 × 34	16	
P432	楕円形	27 × 25	11	
P433	方形	34 × 31	39	主柱穴
P467	方形	75 × 73	23	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P472	(円形)	30 × (23)	10	
P486	(楕円形)	66 × (41)	14	
P490	方形	33 × 30	25	主柱穴

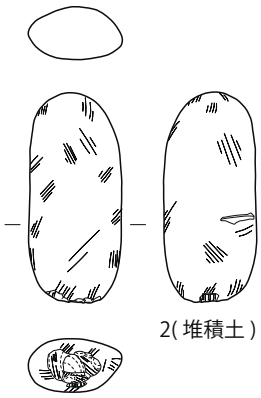
SI270 掘り方底面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P397	楕円形	20 × 16	9	
P471	楕円形	32 × 27	8	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P480	楕円形	37 × 35	7	



1(煙出穴)



2(堆積土)

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-120	SI270	煙出穴	土師器	甕	19.2	—	(15.2)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ		57-1
3	C-116	SI270	堆積土	土師器	坏	—	—	(3.3)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部～底部：ﾅﾃﾞ？	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部～底部：ﾅﾃﾞ？	内面黒色処理　内外面摩滅　写真掲載のみ	57-4
4	C-117	SI270	堆積土	土師器	甕	—	—	(13.4)	頸部：ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ　体部：ﾊｹﾒ	体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	写真掲載のみ	57-3
5	C-118	SI270	堆積土	土師器	甕	—	—	—	体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	体部：ﾅﾃﾞ	外面漆付着？　写真掲載のみ	57-6
6	C-119	SI270 P480	堆積土	土師器	甕	—	—	—	体部：ﾊｹﾒ→ﾅﾃﾞ	体部：ﾅﾃﾞ	外面漆付着？　写真掲載のみ	57-2
7	C-121	SI270	掘り方	土師器	坏	—	—	(4.2)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁～体部：ﾖｺﾅﾃﾞ	内面赤褐色　関東系　写真掲載のみ	57-7
8	C-122	SI270	掘り方	土師器	甕	—	—	(5.4)	口縁：ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁内外面に一部黒色付着物あり　写真掲載のみ	57-8
9	C-226	SI270	堆積土	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部：ｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系　赤褐色粒あり　写真掲載のみ	57-5

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
2	K-16	SI270	堆積土	礫石器	磨石	3.8	8.3	2.1	63.0	凝灰岩	端部剥離後磨面形成	57-9

第 57 図　SI270 竪穴住居跡出土遺物

従って記述する。

【位置・確認】調査区西区南部の 47・48・54 グリッドに位置する。

【重複】SI269 より新しく、SD127 より古い。

【規模・形態】確認した規模は、長軸 420cm、短軸 370cm 以上である。平面形は方形または長方形を呈するものと推定される。住居跡南西部の約 1/2 近くと、北東部の一部がカクランと重複する。

【方向】カマドを基準として N − 27° − W である。

【堆積土】12 層に分層した。1 層は住居堆積土、2 層は周溝堆積土、3 ～ 10 層はカマド関連の堆積土、11 層は床面埋土、12 層は住居掘り方である。

【壁面】概ね直立する。壁高は 11cm である。

【床面】全体的には住居掘り方である 12 層上面が床面である。ただし、北東部において部分的にピットを埋めた床面埋土（11 層）を確認した。

【柱穴】床面で 2 基の主柱穴を確認した（P433･490）。P433 は南東主柱穴である。平面形はやや不整な方形で、規模は、長軸 34cm、深さ 39cm である。P433 では抜き取り穴が確認された。P490 は北西主柱穴である。平面形は方形で、規模は長軸 33cm、深さ 25cm である。

【周溝】東辺と北・南辺の一部で確認した。規模は幅 10 ～ 25cm、深さ 13cm である。

【カマド】東半部がカクランと重複する。北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は西袖のみ残存する。西袖の規模は、長さ 31cm、幅 24 ～ 35cm である。袖は壁面に直交して付設されている。燃焼部の規模は奥行き 40cm、幅 26cm 以上、奥壁高 17cm で、壁内に位置する。煙道部の規模は、長さ 165cm、幅 20 ～ 25cm、深さ 16 ～ 28cm である。底面は煙出し部分に向かって緩やかに下がる。また、煙出し部分から土師器甕の上半部が正位で出土した（第 57 図 1）。施設の一部として再利用されたものと考えられる。

【その他の施設】床面で 5 基のピットを確認した。この内 P472 は 11 層の下で確認されたピットである。平面形は不整な円形と推定され、規模は長軸 30cm、深さ 10cm である。堆積土中に多量の焼土粒を含む。また、P467 は住居跡中央部に位置する比較的大型のピットである。平面形が不整な方形で、規模は長軸 75cm、深さ 23cm である。堆積土中に少量の焼土粒・炭化物を含む。P486 も比較的大型のピットで、P467 の北東に近接した箇所で確認した。平面形は不明だが、規模は長軸 66cm 以上、深さ 14cm 以上である。

【掘り方】底面の形状は、中央部が高く、その周囲が低い。深さは 2 ～ 16cm である。

【出土遺物】遺物は、住居堆積土、床面施設、カマド関連堆積土、住居掘り方から土師器 122 点、須恵器 3 点、金属製品 1 点、礫石器 1 点が出土した。この内、土師器坏 3 点、同甕 5 点、磨石 1 点を掲載した（第 57 図）。非掲載遺物には土師器坏 10 点、須恵器坏 2 点が含まれるが、図示できる遺物はない。他の遺物についても同様である。掲載遺物の内、2 ～ 5・9 は住居堆積土、1 は煙出穴、6 は床面施設堆積土、7・8 は住居掘り方からの出土である。

3・7・9 は土師器坏で、全て写真のみ掲載した。3 は、丸底で短い口縁部が直立する器形と推定される。口縁部と体部の境については、表面の摩滅により不明である。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデである。7 は、口縁部～体部上部の破片資料である。器形は全体が半球形を呈し、口縁部が屈曲せず内湾するものと推定される。いわゆる関東系土師器である。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面は口縁～体部ヨコナデである。内面の色調は赤褐色を呈する。9 は、口縁部と体部の境に稜をもち短い口縁部が直立ないし内傾する、いわゆる関東系土師器と考えられる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ケズリ、内面はヨコナデである。

1・4 ～ 6・8 は土師器甕で、4 ～ 6・8 は写真のみ掲載した。1 は、カマド煙道の煙出穴から出土した長胴の甕である。口縁部と体部の境に段はなく、口縁部は直線的に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。4 は、体部中位に最大径をもつ球形に近い器形と推定される。口縁部は外反する。調整は、外面が頸部ハケメ後ヨコナデ、体部ハケメ、内面は体部ヘラナデである。5・6 は、ともに外面に漆状の付着物がある甕の体部片である。5 の調整は、外面がヘラケズリ、内面はナデである。6 の調整は、外面がハケメ後ナデ、内面はナデである。8 は口縁部の破片資料である。口縁部と体部の境に極弱い段をもつ。口縁部は直線的に外傾する。調整は、外面がハケメ後ヨコナデ、内面はヨコナデである。口縁端部の内外面に黒色の付着物がみられる。

2 は、円柱状の凝灰岩礫を利用した磨石である。1 箇所の端部に、複数の剥離がなされた後、4 面の小さな磨面が形成されている。法量は全長 3.8cm で、重量は 63g である。

SI272　竪穴住居跡（第 58・59 図）

【位置・確認】調査区西区南部の 48・54 グリッドに位置する。住居跡の北西角部のみ確認した。他はカクランと重複する。

【重複】SD143 より新しく、P523 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、長軸 260cm 以上、短軸 190cm 以上である。平面形は方形または長方形を呈すると推定される。

【方向】西壁を基準として N － 15° － E である。

【堆積土】3 層に分層した。1 層は住居堆積土、2 層は周溝堆積土、3 層は住居掘り方である。

【壁面】直立する。壁高は 10cm である。

【床面】住居掘り方である 3 層上面が床面である。確認した範囲では平坦である。

【柱穴】床面で主柱穴を 1 基確認した（P453）。P453 は北西主柱穴である。平面形は楕円形で、規模は長軸 54cm、深さ 37cm である。抜き取り穴が確認された。

【周溝】確認した範囲での規模は、幅 8 ～ 20cm、深さ 15cm である。

【カマド】確認できなかった。

【その他の施設】確認できなかった。

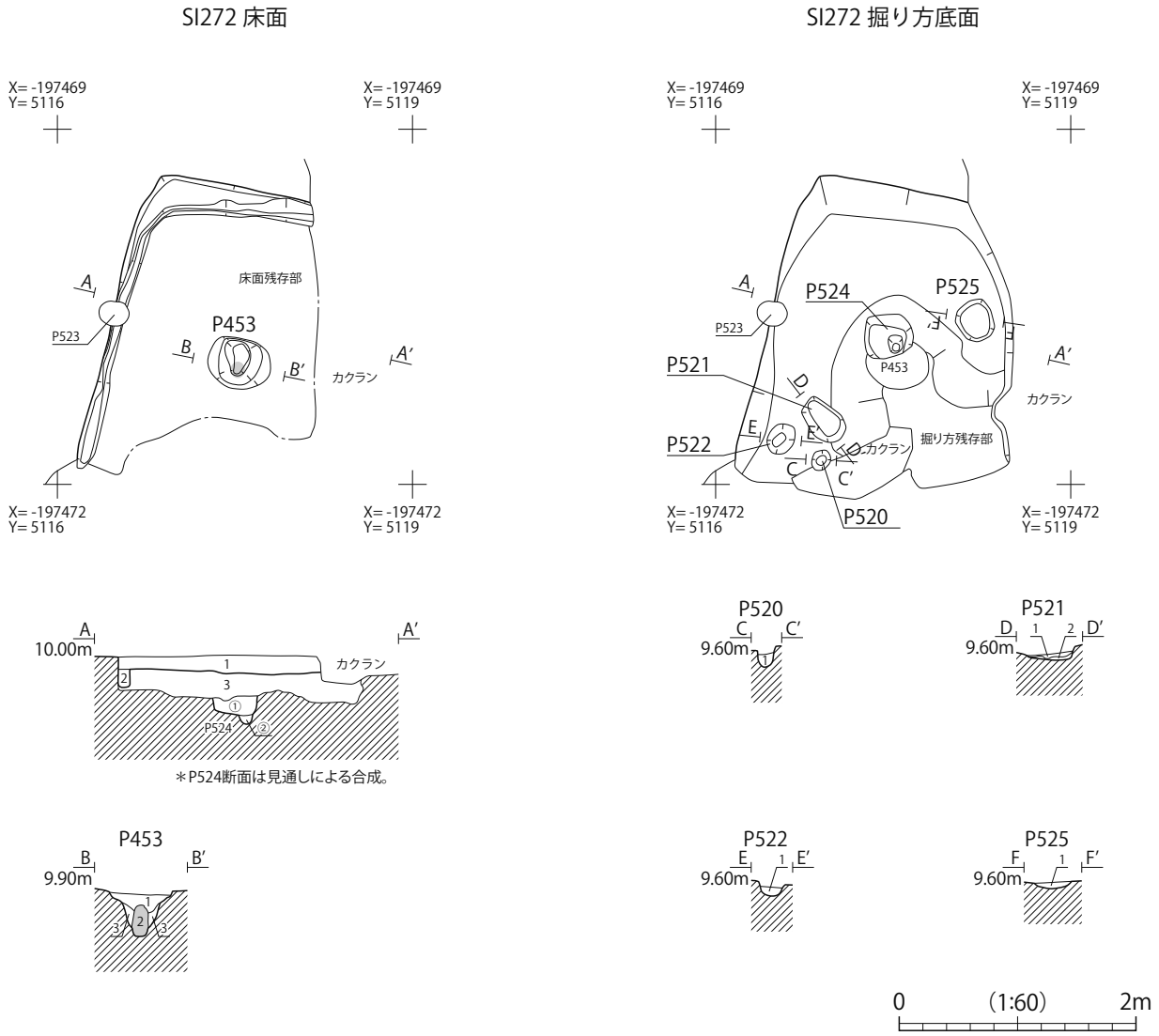
【掘り方】底面の形状は、中央部が高く、その周囲が低くなるものと推定される。深さは 17 ～ 34cm である。

【出土遺物】遺物は、住居堆積土、床面施設から、土師器 59 点、須恵器 5 点、金属製品 1 点、礫石器 1 点が出土した。この内、土師器甕 1 点、金属製品 1 点、磨石 1 点を掲載した（第 59 図）。非掲載遺物には土師器坏 9 点、須恵器坏 1 点が含まれるが、図示できる遺物はない。他の遺物についても同様である。掲載遺物の内、1・2 は住居堆積土、3 は床面施設堆積土からの出土である。

2 は土師器甕で、写真のみ掲載した。体部破片資料で全体形状は不明である。調整は、外面に平行タタキ目が認められる。内面はナデである。

1 は、刀子の茎部と推定される鉄製品である。法量は、残存全長が 7.8cm、幅 1.6cm、厚さ 1.2cm である。

3 は、球形の磨石で、写真のみ掲載した。最大径 7.8cm で、重量は 419g である。



SI272 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く含む。
周溝	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く含む。
住居掘り方	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。

SI272 床面施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P453 主柱穴	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。（抜き取り穴）
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量含む。（柱痕跡）
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く含む。

SI272 掘り方底面検出遺構堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P524	①	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）やや多く含む。
	②	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
P520	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）少量含む。
P521	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）多量含む。
P522	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）やや多く含む。
P525	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く含む。

SI272 床面施設観察表

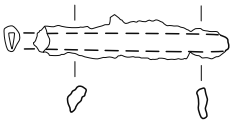
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P453	楕円形	54 × 43	37	主柱穴

SI272 掘り方底面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P520	(楕円形)	18 × (16)	12	
P521	楕円形	41 × 27	8	
P522	楕円形	28 × 22	8	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P524	(方形)	41 × (36)	24	
P525	楕円形	34 × 30	6	

第 58 図　SI272 竪穴住居跡



1(堆積土)

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
1	N-6	SI272	堆積土	鉄製品	刀子（茎部）？	(7.8)	(1.6)	(1.2)	12.5		57-12

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
2	C-123	SI272	堆積土	土師器	甕	―	―	―	体部：平行ﾀﾀｷ目	体部：ﾅﾃﾞ	写真掲載のみ	57-10

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石材	備考	写真図版
3	K-17	SI272 P453	堆積土	礫石器	磨石	7.8	7.7	7.1	419.0		球形　写真掲載のみ	57-11

第 59 図　SI272 竪穴住居跡出土遺物

SI273 竪穴住居跡（第 60・61 図）

記述の便宜上、確認した 1 辺を東壁とする。住居範囲内で確認した遺構の位置関係についても、この基準に従って記述する。

【位置・確認】調査区西区南部の 47・53 グリッドに位置する。住居跡の東部のみ確認した。他はカクランと重複、または調査区外に延びる。また、確認範囲についてもカクランにより床面を削平されているため、本住居の範囲内で確認された遺構が全て、住居に伴うか否かは不明である。

【重複】P369 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、長軸 380cm 以上、短軸 215cm 以上である。平面形は不明である。

【方向】東壁を基準として N － 37° － W である。

【堆積土】2 層に分層した。1 層は周溝堆積土、2 層は住居掘り方である。

【壁面・床面】カクランによる削平のため不明である。

【柱穴】P385 は、北東主柱穴である可能性がある。平面形は隅丸方形で、規模は長軸 51cm、深さ 62cm である。仮に P385 が主柱穴である場合は、これより新しい SK248・P350・352 は、本住居跡より新しい遺構である可能性がある。

【周溝】東辺の一部でのみ確認した。規模は幅 15 ～ 22cm、深さ 6cm 以上である。

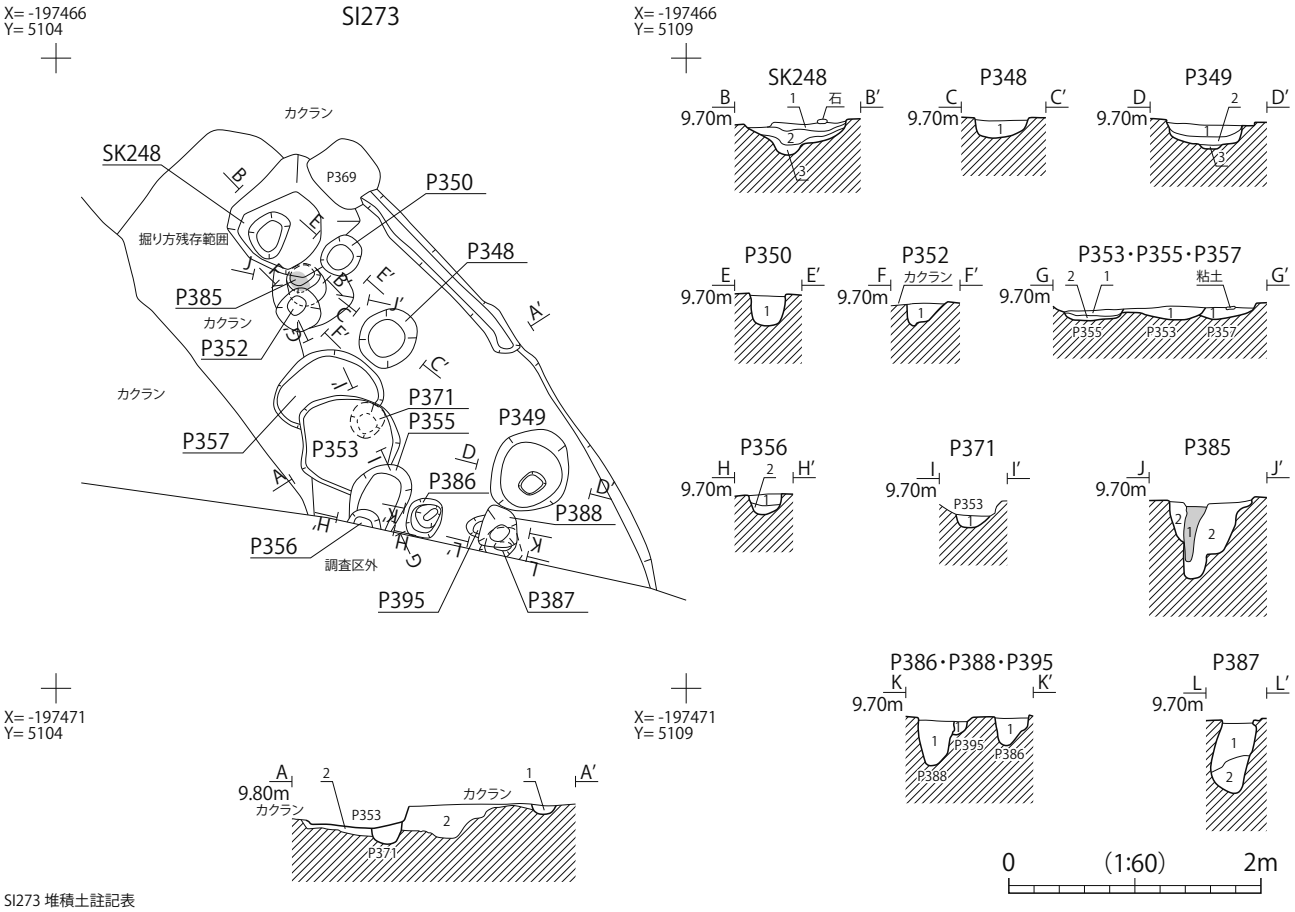
【カマド】確認できなかった。

【その他の施設】北東主柱穴の可能性がある P385 を除き、住居掘り方より新しい土坑 1 基、ピット 13 基を確認した。厳密な住居跡との共伴関係は不明である。SK248 は、主柱穴の可能性がある P385 より新しい遺構である。平面形が長方形を呈し、当初、掘立柱建物跡の柱穴の可能性も考慮したが、柱痕跡がみられず、周囲に組み合わさる遺構もないため、可能性は低い。規模は、長軸 89cm、深さ 26cm である。堆積土中に焼土・炭化物を含む。他に大型のピットとして、P349・353・357 を確認した。いずれもやや南寄りに分布する。P349 は、平面形が楕円形で、規模は長軸 64cm、深さ 21cm である。堆積土中に焼土を含む。P353 は、平面形が不整な円形で、規模は長軸 80cm、深さ 11cm である。P357 は P353 より古い遺構である。平面形は楕円形で、規模は長軸 87cm、深さ 10cm である。

【掘り方】底面の形状は、起伏がみられる。深さは 2 ～ 25cm である。

【出土遺物】遺物は、住居跡範囲内の遺構堆積土、住居掘り方から、土師器 15 点が出土した。その内、土師器 2 点を掲載した（第 61 図）。非掲載遺物には土師器坏 3 点が含まれるが、図示できる遺物はない。他の遺物についても同様である。掲載遺物は、1 が SK248、2 が P348 の各堆積土からの出土である。

1 は土師器坏である。底部は平底風の丸底で、口縁部と体部の境に段をもつ。口縁部は内湾気味に外傾する。調



SI273 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）やや多く含む。
住居掘り方	2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）多量含む。

SI273 検出遺構堆積土註記表

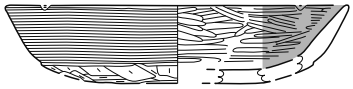
遺構名	層位	土色	土性	備考
SK248	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘質シルト	焼土含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）多量、焼土・炭化物含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状に少量含む。
P348	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）・焼土多量含む。
P349	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）・焼土少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 50mm）やや多く含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
P350	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
P352	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
P353	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 30mm）多量含む。
P355	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。
P356	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	
	2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。
P357	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）多量含む。
P371	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（1 ～ 30mm）多量含む。
P385	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。
P386	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）多量含む。
P387	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 50mm）やや多く含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 50mm）少量含む。
P388	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）多量含む。
P395	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く含む。

SI273 検出遺構観察表

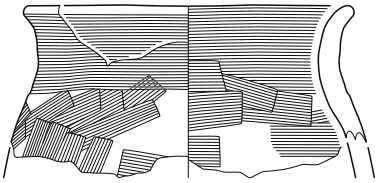
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK248	(方形)	(89) × 78	26	掘り方より新しい
P348	楕円形	48 × 44	15	掘り方より新しい
P349	楕円形	64 × 60	21	掘り方より新しい
P350	楕円形	34 × 29	24	掘り方より新しい
P352	(円形)	(34) × 32	18	掘り方より新しい
P353	(不整形)	80 × (78)	11	掘り方より新しい
P355	(楕円形)	(53) × 45	9	掘り方より新しい
P356	(楕円形)	27 × (13)	17	掘り方より新しい

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P357	(楕円形)	(87) × (38)	10	掘り方より新しい
P371	楕円形	28 × 26	10	掘り方より新しい
P385	(隅丸方形)	(51) × (49)	62	掘り方より新しい
P386	楕円形	31 × 27	22	掘り方より新しい
P387	(楕円形)	(27) × (27)	56	掘り方より新しい
P388	方形	33 × 29	36	掘り方より新しい
P395	(楕円形)	18 × (11)	11	掘り方より新しい

第 60 図　SI273 竪穴住居跡



1(SK248 堆積土)



2(P348 堆積土)

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-124	SI273 SK248	堆積土	土師器	坏	13.5	―	3.1	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部～底部：ﾍﾗｹﾞｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	57-13
2	C-125	SI273 P348	堆積土	土師器	甕	12.8	―	(7.2)	口縁：ﾍﾗﾅﾃﾞ →ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	外面摩滅	57-14

第 61 図　SI273 竪穴住居跡出土遺物

整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。2 は土師器甕である。全体形状は不明だが、口縁部と体部の境に稜をもち、口縁部は外反する。調整は、外面が口縁部ヘラナデ後ヨコナデ、体部ヘラナデ、内面は口縁部ヨコナデ後ヘラナデ、体部ヘラナデである。

SI274 竪穴住居跡（第 62・63 図）

【位置・確認】調査区西区北部の 2・3 グリッドに位置する。

【重複】SI277 より新しい。

【規模・形態】確認した規模は、長軸 545cm、短軸 150cm 以上である。平面形は方形または長方形を呈するものと推定される。住居全体の内、南側の約 1/4 を確認した。他は調査区外に延びる。また、南西・南東角部がカクランと重複する。

【方向】南壁を基準として N － 81° － W である。本住居跡の方向は、この南壁に直交する軸線を基準とすれば概ね南北軸を指向したものと考えられる。

【堆積土】2 層に分層した。1 層は住居堆積土、2 層は住居掘り方である。本住居跡においては、周溝は確認したが周溝堆積土は分層することができなかった。よって周溝は、住居堆積土により埋没したものと解釈した。

【壁面】確認した範囲では直立する。壁高は 15cm である。

【床面】住居掘り方である 2 層上面が床面である。概ね平坦だが、確認範囲の中央部がやや低い。

【柱穴】床面で主柱穴の可能性があるピット 1 基を確認した（P30）。南西主柱穴の可能性が考えられる。一部調査区外に延びるものの、平面形は円形と推定される。規模は、長軸 40cm、深さ 45cm である。抜き取り穴が確認された。

【周溝】南辺と東辺の一部で確認した。南西・南東角部は、カクランと重複し失われている。規模は幅 10 ～ 30cm、深さ 5cm である。

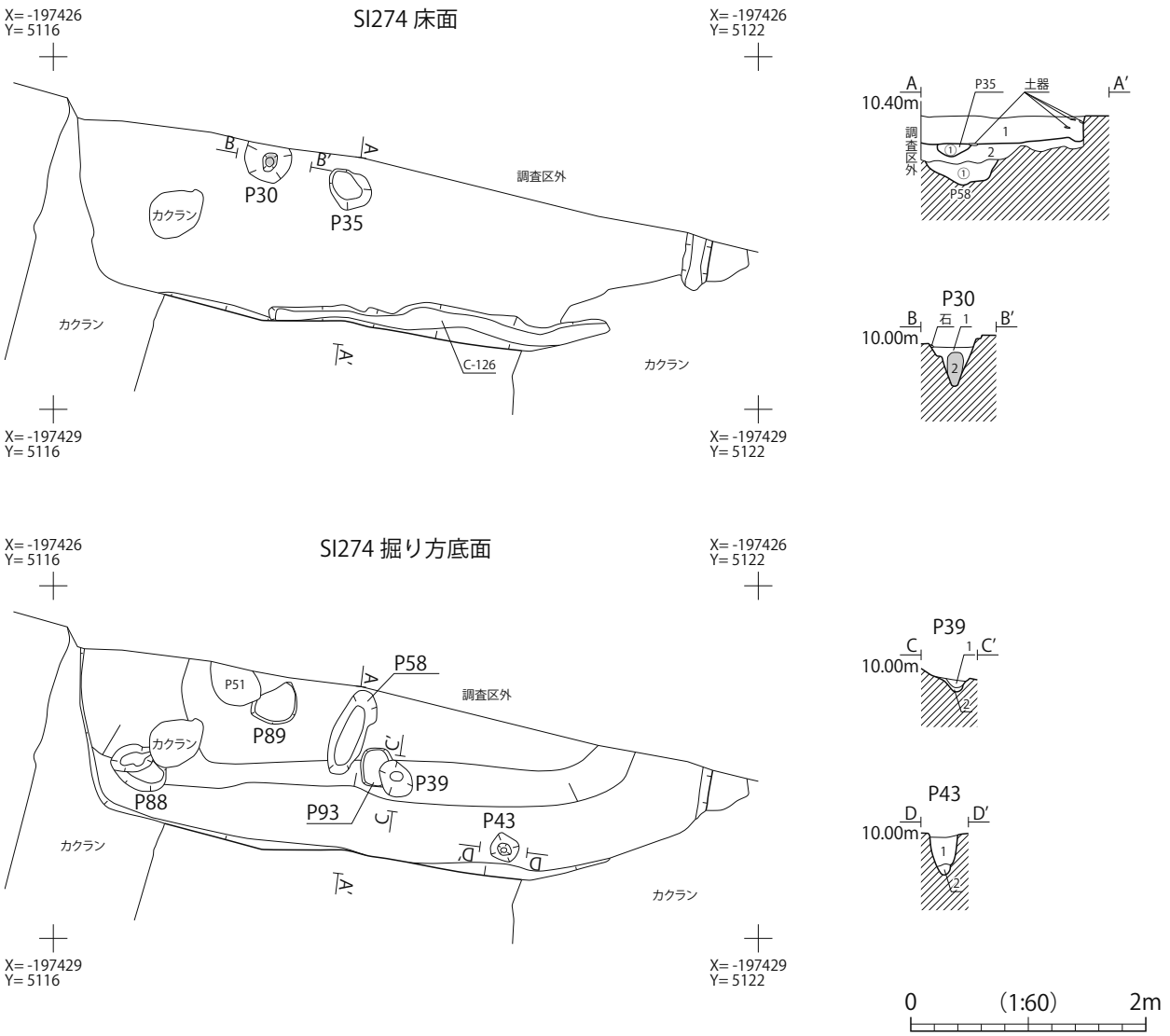
【カマド】確認できなかった。

【その他の施設】P30 の東 40cm で、ピット 1 基を確認した（P35）。平面形は不整な楕円形で、規模は長軸 40cm、深さ 10cm である。

【掘り方】底面の形状は、他の多くの住居跡と異なり、壁際がやや高く住居の内側が低い。底面には凹凸がみられる。深さは 2 ～ 14cm である。

【出土遺物】遺物は、住居堆積土、床面施設堆積土、床面、住居掘り方から土師器 490 点、須恵器 12 点、金属製品 2 点が出土した。この内、土師器坏 1 点、同埦 1 点、同甕 1 点、同甑 1 点、須恵器壺 1 点を掲載した（第 63 図）。非掲載遺物には土師器坏 19 点、須恵器坏 3 点が含まれるが、図示できる遺物はない。他の遺物についても同様である。掲載遺物の内、1・4 は住居堆積土、2・5 は床面、3 は住居掘り方からの出土である。

2 は土師器坏である。丸底で短い口縁部が直立する。口縁部と体部の境には不明瞭は稜がみられる。調整は、外



SI274 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	
住居掘り方	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。

SI274 床面施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P30	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	炭化物粒少量含む。（抜き取り穴）
	2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	焼土・炭化物粒（1 ～ 2mm）少量含む。（柱痕跡）
P35	①	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。

SI274 掘り方底面検出遺構堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P39	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）やや多く含む。
P43	1	10YR4/4 褐色	粘質シルト	暗褐色土粒（5 ～ 20mm）多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
P58	①	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。
P88	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（20mm）少量含む。
P89	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（20mm）・炭化物粒（5mm）少量含む。
P93	1	10YR3/3 暗褐色	粘土	Ⅳ層土ブロック（10mm）・炭化物粒（2mm）少量含む。

SI274 床面施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P30	楕円形	40 ×（31）	45	主柱穴？

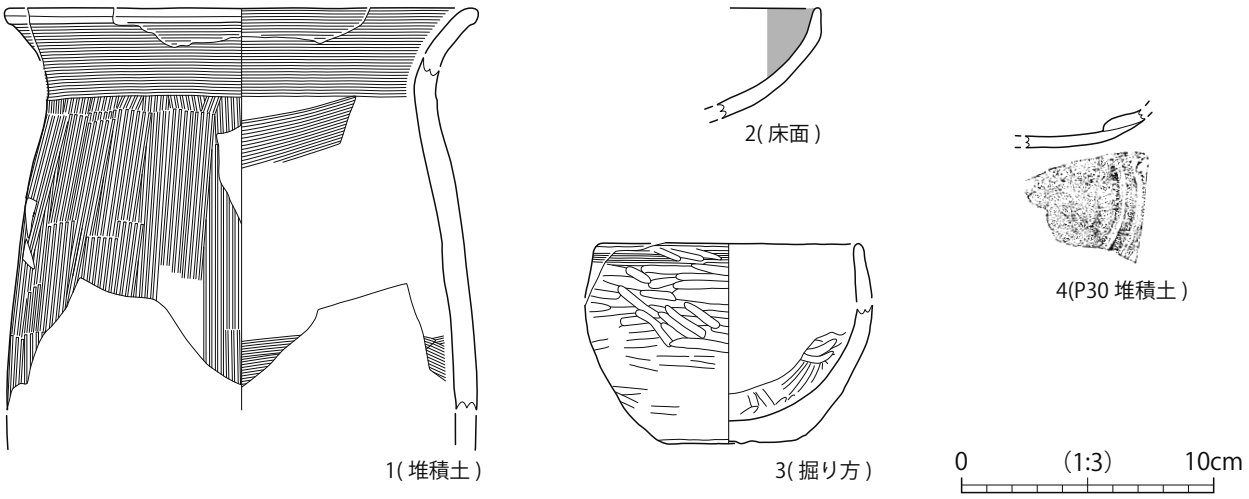
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P35	不整形	40 × 31	11	

SI270 掘り方底面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P39	楕円形	34 × 25	12	
P43	方形	23 × 21	33	
P58	長楕円形	76 × 28	22	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P88	(不整形)	49 × 36	―	
P89	(楕円形)	42 ×（30）	―	
P93	(隅丸方形)	33 × 27	―	

第 62 図　SI274 竪穴住居跡



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-126	SI274	堆積土	土師器	長胴甕	(18.6)	―	(16.0)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	骨針あり	57-15
2	C-128	SI274	床面	土師器	坏	―	―	(4.4)	口縁：ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり	57-18
3	C-131	SI274	掘り方	土師器	埦	10.3	5.1	8.0	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	外面体部下半～底部摩滅 骨針あり	57-17
4	E-24	SI274 P30	堆積土	須恵器	壺？	―	―	(1.5)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	一部自然釉　東海産	57-19
5	C-129	SI274	床面	土師器	甑	―	―	(9.6)	体部～底部付近：ﾊｹﾒ	体部：ﾅﾃﾞ 底部付近：ｹｽﾞﾘ	写真掲載のみ	57-16

第 63 図　SI274 竪穴住居跡出土遺物

面が、口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。

3 は土師器埦である。口径が体部最大径より小さく、口径と器高の割合が 1:1 に近い資料を埦とした。SI264 で同様の遺物が 3 点出土している（第 34 図 5、第 35 図 28・29）。これらの資料は、いずれも口縁端部がわずかに外反する点に特徴があるが、3 では直立気味に内湾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、内面はヘラミガキである。

1 は土師器甕である。住居堆積土の最下部、周溝上から出土した。下半部を欠損するが、体部中位に最大径をもつ長胴甕と考えられる。口縁部と体部の境には口縁部のヨコナデによるナデ残しが稜状にみられる。口縁部は外反する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。

5 は土師器甑で、写真のみ掲載した。体部下半部の破片資料である。無底の甑で全体形状は不明だが、体部下半部では内湾気味に外傾する。端部がややすぼまる器形である。調整は、外面が体部～底部付近ハケメ、内面は体部ナデ、底部付近ケズリである。

4 は壺の可能性がある底部の破片資料である。

SI275 竪穴住居跡（第 64 ～ 67 図）

記述の便宜上、全体が確認できた北側の壁面を北壁とする。床面施設等の記述についても、これを基準とする。

【位置・確認】調査区西区北部の 12・13・18・19 グリッドに位置する。

【重複】SI262 より新しく、SD119・129 ？、P81 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、長軸 670cm、短軸 580cm である。平面形は長方形を呈する。

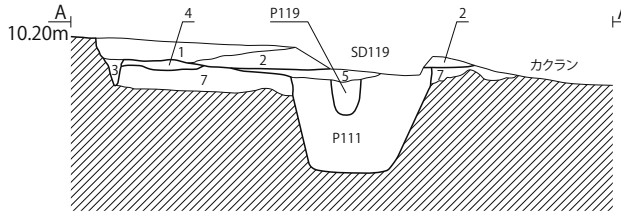
【方向】北壁を基準として N － 54° － E である。

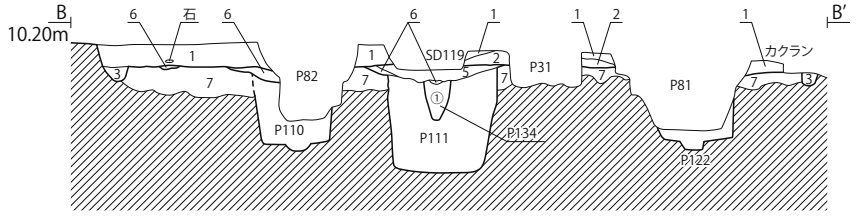
【堆積土】7 層に分層した。1･2 層は住居堆積土、3 層は周溝、4 ～ 6 層は床面埋土、7 層は住居掘り方である。

【壁面】直立気味に外傾する。壁高は 17cm である。

【床面】全体的には住居掘り方である 7 層上面が床面であるが、部分的に 4 ～ 6 層の床面埋土が確認された。

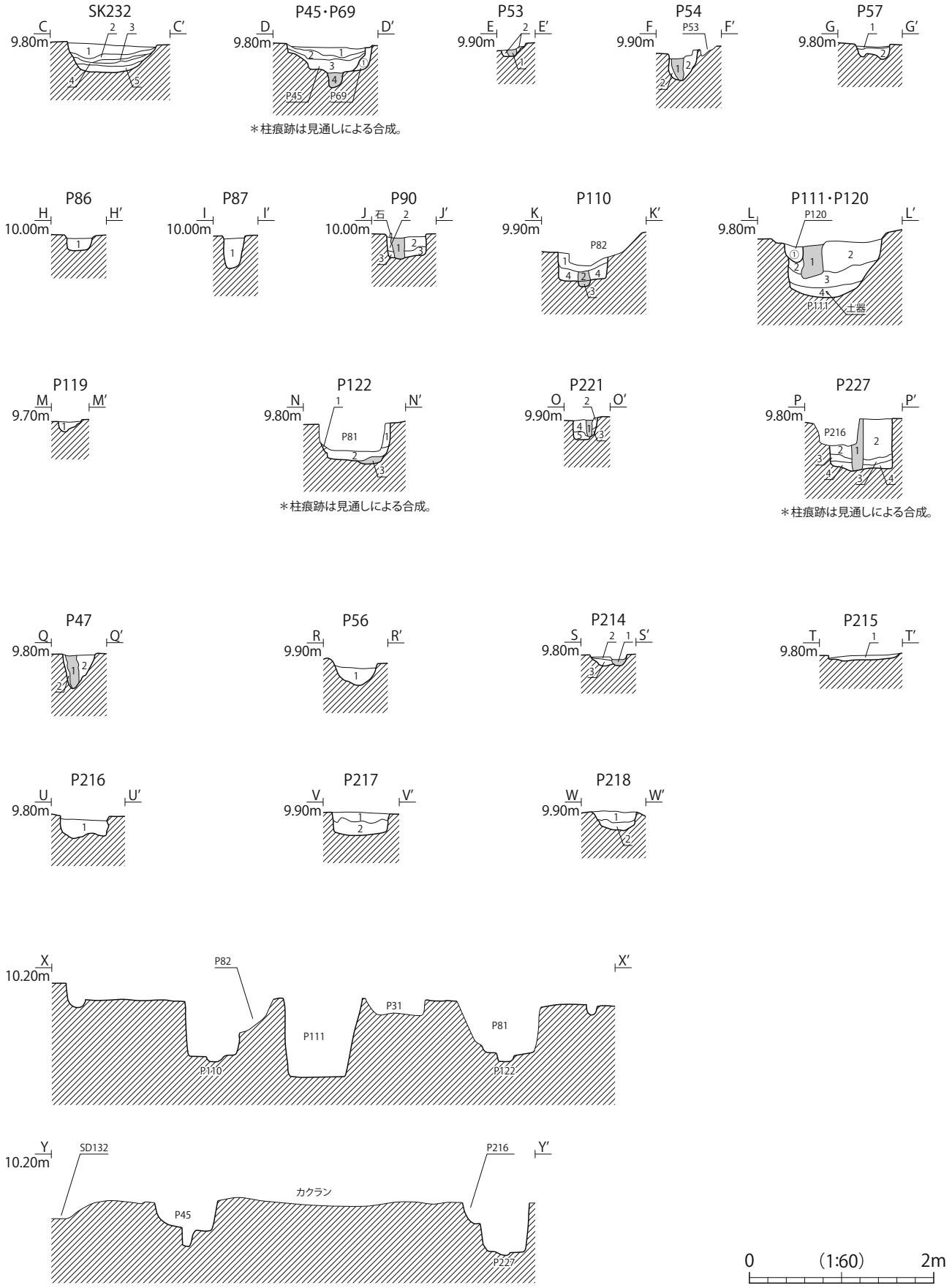
SI275 床面





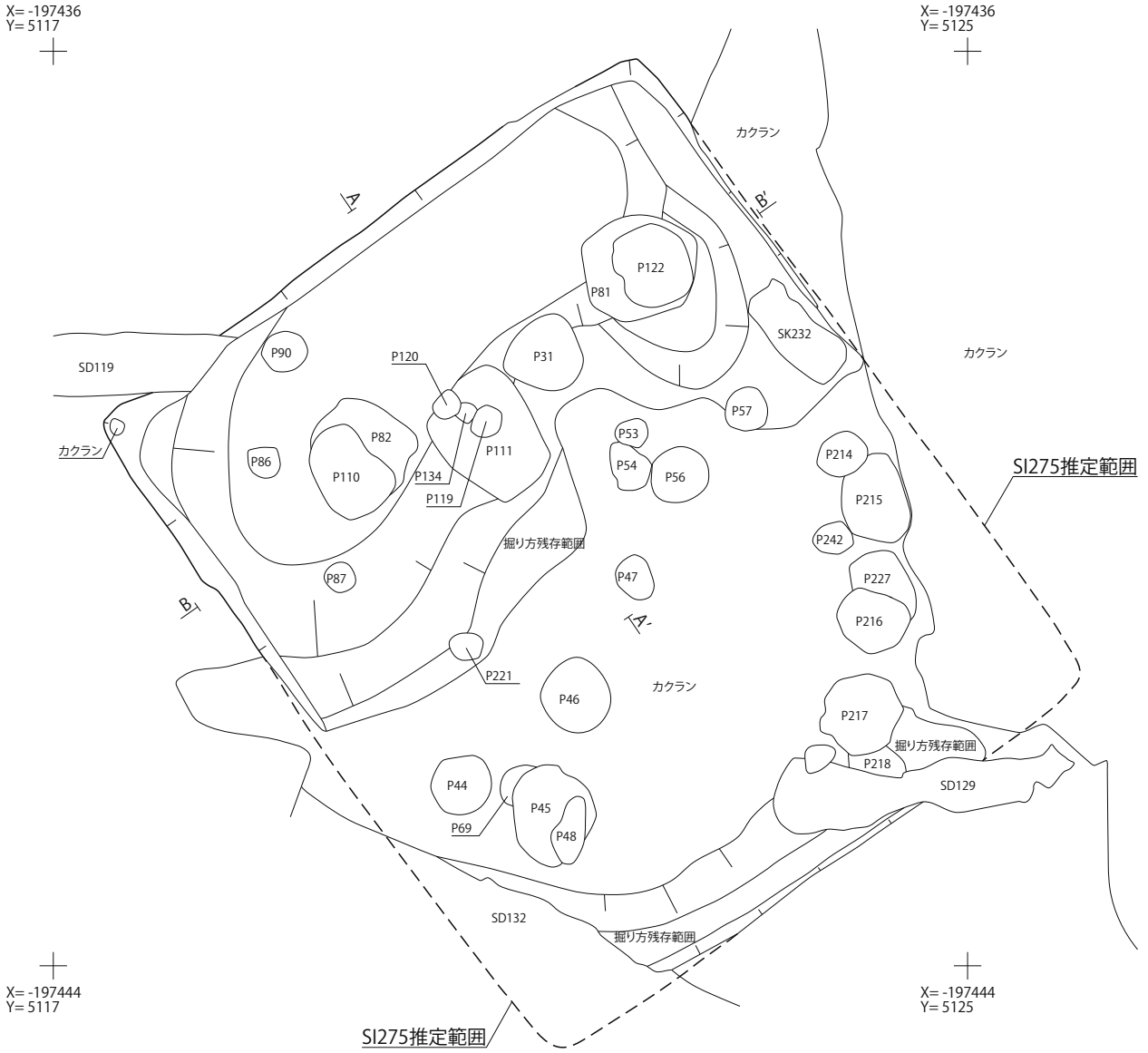
0 (1:60) 2m

第 64 図　SI275 竪穴住居跡（1）



第 65 図　SI275 竪穴住居跡（2）

SI275 掘り方底面



0 (1:60) 2m

SI275 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）多量含む。
周溝	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
床面埋土	4	10YR4/1 褐灰色	シルト質粘土	Ⅳ層土を一部ラミナ状に含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）多量含む。
	6	10YR4/1 褐灰色	シルト質粘土	Ⅳ層土を一部互層状に含む。
住居掘り方	7	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。

第 66 図　SI275 竪穴住居跡（3）

SI275 床面施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
SK232	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量、灰を互層状に含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	焼土粒（1 ～ 3mm）やや多く、炭化物含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
	5	10YR4/4 褐色	粘質シルト	暗褐色土ブロック（10 ～ 30mm）少量含む。
P45 主柱穴	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10mm）多量含む。（抜き取り穴）
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	（抜き取り穴）
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 20mm）少量含む。（抜き取り穴）
	4	10YR3/2 黒褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。(柱痕跡？)
P53	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 20mm）やや多く含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量含む。
P54	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 20mm）やや多く含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く含む。
P57	1	10YR2/1 黒色	粘質シルト	焼土粒（10mm）多量含む。
	2	10YR2/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 2mm）少量含む。
P86	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）多量含む。
P87	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。
P90	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	炭化物粒少量含む。(柱痕跡)
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 20mm）やや多く含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（20 ～ 30mm）少量含む。
P110 主柱穴	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）多量含む。（抜き取り穴）
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。（柱痕跡）
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 20mm）少量含む。（柱痕跡）
	4	10YR2/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。
P111	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）やや多く含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状にやや多く含む。
P119	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
P120	①	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
P122 主柱穴	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）多量含む。
	2	10YR4/4 褐色	粘質シルト	暗褐色土ブロック（10 ～ 50mm）少量含む。
P134	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く含む。
P221	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 5mm）少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 5mm）やや多く含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）少量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）多量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）やや多く含む。
P227 主柱穴	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）極少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）やや多く含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）やや多く含む。

SI275 検出遺構堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P44	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	焼土粒（1 ～ 5mm）・炭化物やや多く含む
P46	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	焼土粒（1 ～ 5mm）多量含む
P47	1	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 20mm）やや多く含む。（柱痕跡）
	2	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。
P56	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む
P69	①	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 20mm）少量含む
P214	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状に少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く、焼土粒（3 ～ 5mm）少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）多量含む。
P215	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）やや多く含む。
P216	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。
P217	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	焼土粒（5 ～ 10mm）やや多く、炭化物粒（5 ～ 10mm）少量含む。
P218	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状にやや多く含む。
P242	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 20mm）やや多く含む

SI275 床面施設観察表

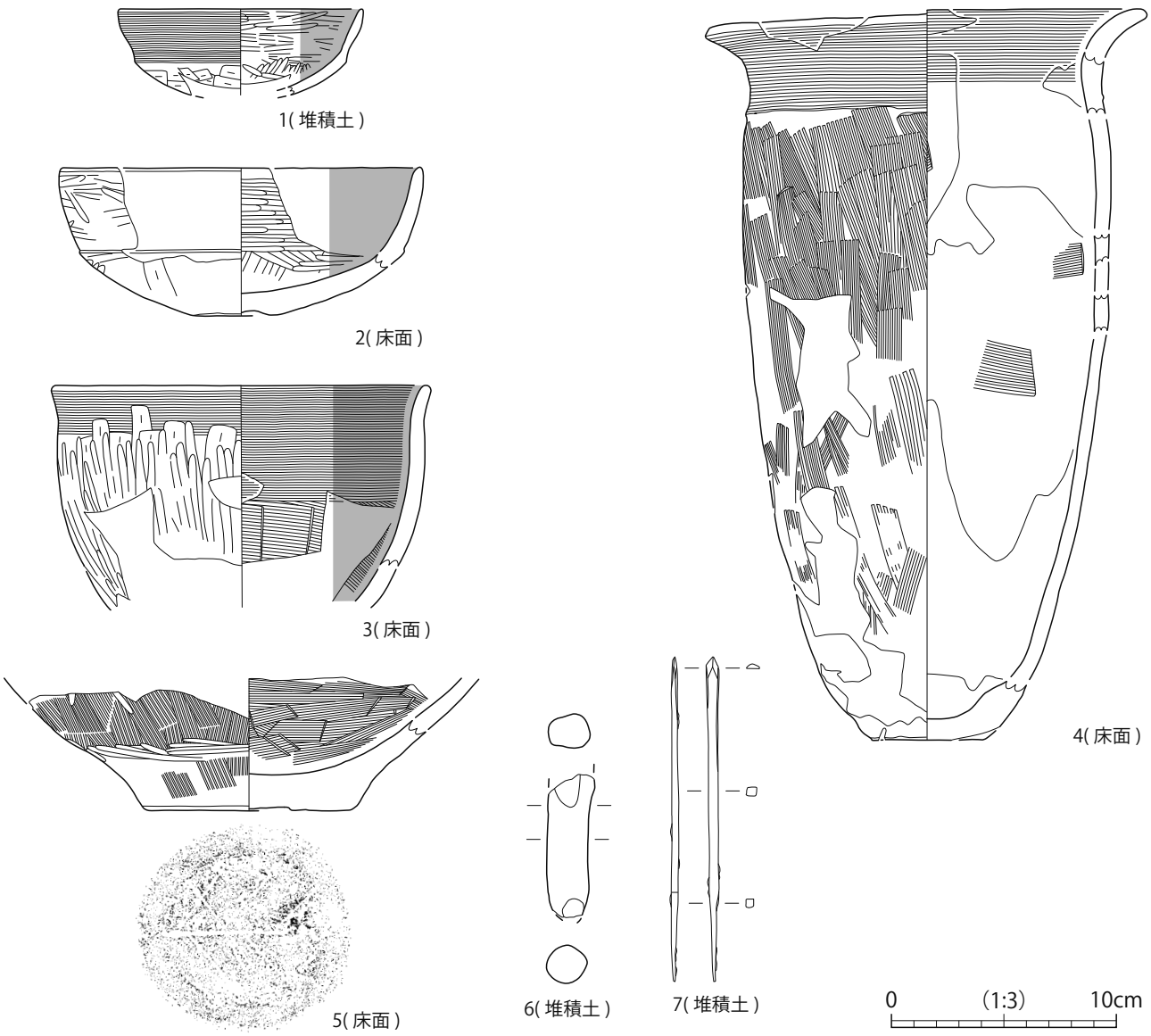
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK232	隅丸方形	97 × 40	32	
P45	(不整形)	89 ×（72）	46	主柱穴
P53	不整形	29 × 23	11	
P54	(不整形)	45 × 33	33	
P57	不整形	39 × 37	14	
P86	不整形	32 × 28	14	
P87	隅丸方形	26 × 26	33	
P90	楕円形	45 × 41	25	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P110	(隅丸方形)	83 × 62	60	主柱穴
P111	(方形)	110 × 85	61	
P119	楕円形	29 × 25	11	
P120	楕円形	25 × 21	19	
P122	(不整形)	72 × 63	44	主柱穴
P134	(不整形)	17 ×（15）	32	
P221	隅丸方形	30 × 24	24	
P227	(隅丸方形)	（69）×（53）	57	主柱穴

SI275 検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P44	隅丸方形	53 × 50	―	
P46	隅丸方形	62 × 59	―	
P47	(楕円形)	39 × 31	36	
P56	楕円形	53 × 48	22	
P69	(楕円形)	38 ×（13）	27	
P214	楕円形	43 × 37	10	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P215	(楕円形)	79 × 57	8	
P216	不整形	61 × 52	21	
P217	不整形	72 × 64	25	
P218	(楕円形)	（57）× 48	21	
P242	不整形	35 × 27	―	



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-133	SI275	堆積土	土師器	坏	10.8	—	(3.8)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり	58-1
2	C-135	SI275	床面	土師器	坏	16.1	4.5	6.6	口縁：ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり 赤褐色粒あり　底部中央に凹み黒色 (焼成後に高坏の脚部が離脱したものか。脚部接着部分にｹｽﾞﾘ)	58-2
3	C-136	SI275	床面	土師器	甕	(16.8)	—	(9.8)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	内面黒色処理　骨針あり	58-3
4	C-137	SI275	床面	土師器	長胴甕	19.6	5.0	32.5	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	体部下端部～底部被熱赤変	58-4
5	C-138	SI275	床面	土師器	甕？	—	(5.9)	9.1	ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾐｶﾞｷ 底部周縁部：ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	球胴甕？　底部：木葉痕 骨針あり	58-5
8	C-134	SI275 P227	堆積土	土師器	坏	—	—	(4.5)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　写真掲載のみ	58-6
9	E-25	SI275	堆積土	須恵器	坏	—	—	—	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	内面・口唇部漆付着　骨針あり　写真掲載のみ	58-7

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
6	P-8	SI275	堆積土	土製品	不明	(7.4)	1.9	1.8	20.0	赤褐色粒多量　粘土ひも両端がひきちぎられた後焼成されたもの	58-8
7	N-7	SI275	床面	鉄製品	鉄鏃	14.5	0.6 (刃部)	0.4	8.0	完形	58-9

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石材	備考	写真図版
10	K-18	SI275	床面	礫	自然礫	14.0	7.1	4.6	578.0	安山岩	棒状礫　写真掲載のみ	58-10
11	K-19	SI275	床面	礫	自然礫	16.8	6.8	3.8	792.5	安山岩	棒状礫　写真掲載のみ	58-11
12	K-20	SI275	床面	礫	自然礫	13.5	7.3	4.9	850.0		棒状礫　写真掲載のみ	59-1
13	K-21	SI275	床面	礫	自然礫	14.5	5.4	4.5	599.5	安山岩	棒状礫　写真掲載のみ	59-2

第 67 図　SI275 竪穴住居跡出土遺物

【柱穴】主柱穴を 4 基確認した（P45・110・122・227）。P45・227 はカクランの底面で確認したが、位置関係と規模から本住居跡の主柱穴と判断した。P45 は南西主柱穴である。平面形は不整な楕円形で、規模は長軸 89cm、深さ 46cm である。P227 は南東主柱穴である。平面形は隅丸方形で、規模は長軸 69cm、深さ 57cm である。P110 は北西主柱穴である。P82 と重複するが、平面形は隅丸方形の可能性がある。規模は長軸 83cm、深さ 60cm である。堆積土直上に床面埋土 6 層が堆積する。P122 は北東主柱穴である。P81 により堆積土のほとんどが削平されているため平面形は不明である。規模は、残存範囲で長軸 72cm、深さは 44cm である。

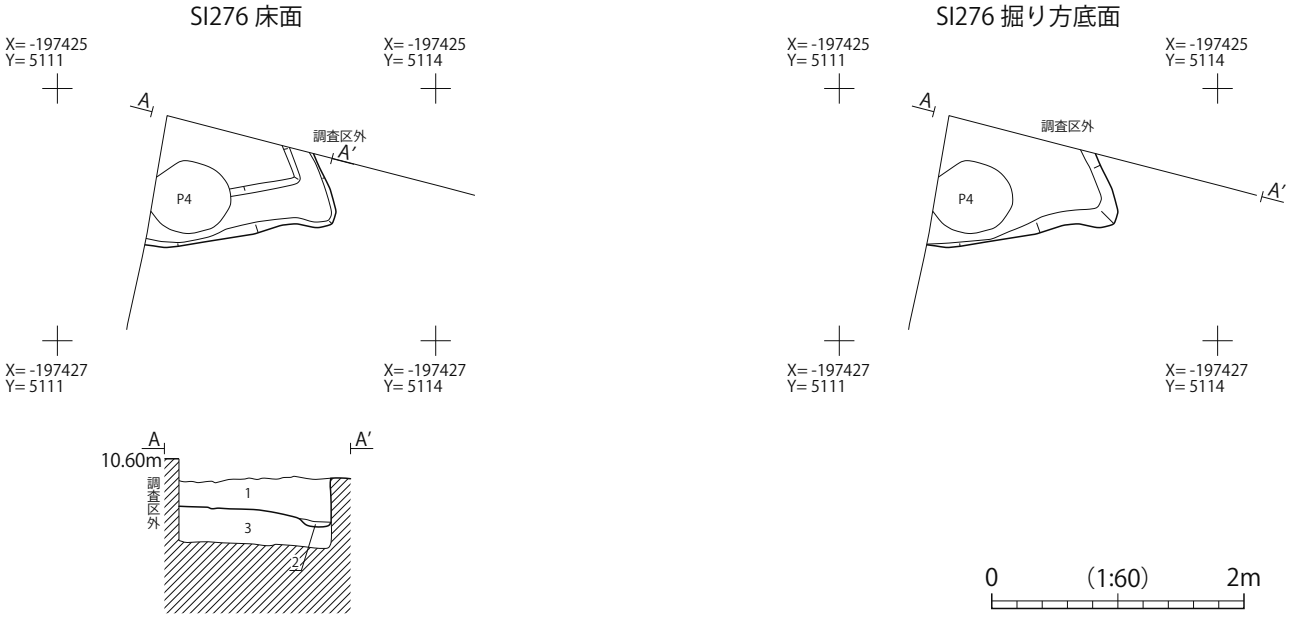
【周溝】住居跡の北半部で確認した。規模は幅 6 ～ 25cm、深さ 11cm である。

【その他の施設】本住居跡の範囲内で確認された遺構の内、確実に床面施設と判断できるのは、北半部の床面で確認した土坑 1 基とピット 8 基である。この内、住居跡北半の中央部で確認した P111 は、性格不明の柱痕跡をもつ大型のピットである。平面形は方形で、規模は長軸 110cm、深さ 61cm である。堆積土直上を床面埋土 5・6 層が覆うが、調査で P111 の柱痕跡と床面埋土 5・6 層の前後関係を確認することはできなかった。床面埋土 5・6 層の堆積が、P111 で柱状のものを立てた後のことか、あるいは抜いた後のことかは判断できない。

【掘り方】底面の形状は、壁際がより低くなるものと推定される。深さは 3 ～ 25cm である。

【出土遺物】遺物は、住居堆積土、床面施設堆積土、床面、住居掘り方から、土師器 136 点、須恵器 5 点、金属製品 1 点が出土した。この内、土師器坏 3 点、同甕 3 点、須恵器坏 1 点、土製品 1 点、金属製品 1 点、自然礫 4 点を掲載した（第 67 図）。非掲載遺物には土師器坏 4 点が含まれるが、図示できる遺物はない。他の遺物も同様である。掲載遺物の内、1・6・9 は住居堆積土、8 は床面施設堆積土、2 ～ 5・7・10 ～ 13 は床面からの出土である。

1・2・8 は土師器坏で、8 は写真のみ掲載した。1 は、有段丸底坏で口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部中位がやや肥厚する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。2 は、口縁部と体部の境に段をもつ、全体形状が半球形の丸底の坏である。ただし内面に屈曲はみられない。また、底面中央の凹みに焼成時の黒班が残り、その周囲には焼成後についたと思われるケズリ痕が観察された。これは本来、高坏として焼成されたものが脚部が離脱したため、坏として利用した可能性が考えられる。調整は、外面が口縁部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。8 は、有段丸



SI276 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 20mm）やや多く含む
周溝	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 20mm）少量含む
掘り方	3	10YR4/6 褐色	粘質シルト	暗褐色土ブロック（20 ～ 50mm）少量含む

第 68 図　SI276 竪穴住居跡

底坏の破片資料である。口縁部は内湾気味に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。

3～5は土師器甕である。3は、体部上位に最大径をもつ小型の甕である。口縁部と体部の境に段ないし稜はみられない。口縁部は短く外反する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。体部下端部から底部に被熱赤変がみられる。4は、体部のやや上位に最大径をもつ長胴の大型甕である。口縁部と体部の境には口縁部のヨコナデによるナデ残しが稜状にみられる。口縁部は外反する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。5は、体部下端部から底部のみ残存する。体部の開きから球胴の甕である可能性が考えられる。調整は、外面がハケメ後ヘラミガキ、底部周縁部ナデ、内面はヘラナデである。9は須恵器坏で、写真のみ掲載した。口縁部の破片資料である。全体形状は不明だが、口唇部および内面に漆の付着がみられる。

6は、棒状の不明土製品である。粘土ひもの両端が引きちぎられた後に被熱したものの可能性がある。本遺跡における土器の製作を示唆する資料である。

7は、床面から完形の状態で出土した尖根式の鉄鏃である。全長14.5cm、幅0.6cmで、重量は8.0gである。10～13は、住居南端部で第67図2・5とまとまって出土した棒状の自然礫である。明瞭な使用痕等はみられないものの、意図的に同形状の礫を選択し何らかの用途に用いたものと推測される。

SI276 竪穴住居跡（第68図）

【位置・確認】調査区西区北部の2グリッドに位置する。南東角部のみ確認し、その他は調査区外に延びる。

【重複】P4より古い。

【規模・形態】規模は、長軸155cm以上、短軸60cm以上で平面形は不明である。

【方向】南壁を基準としてN－79°－Eである。

【堆積土】3層に分層した。1層は住居堆積土、2層は周溝堆積土、3層は住居掘り方である。

【壁面】確認範囲では直立する。壁高は35cmである。

【床面】住居掘り方である3層上面である。確認範囲では概ね平坦である。

【周溝】規模は幅20～40cm、深さ4cmである。

【掘り方】底面の形状は平坦である。深さは18～29cmである。

【出土遺物】遺物は、住居堆積土から坏4点を含む土師器92点が出土した。図示できる遺物はない。

SI277 竪穴住居跡（第69・70図）

【位置・確認】調査区西区北部の2グリッドに位置する。ほぼ周溝のみ確認した。

【重複】SI278より新しく、SI274より古い。

【規模・形態】確認した規模は、長軸310cm以上、短軸34cm以上である。平面形は不明である。

【方向】南壁を基準としてN－86°－Wである。

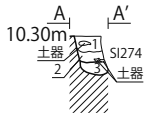
【堆積土】3層に分層した。1·2層は住居堆積土、3層は周溝堆積土である。

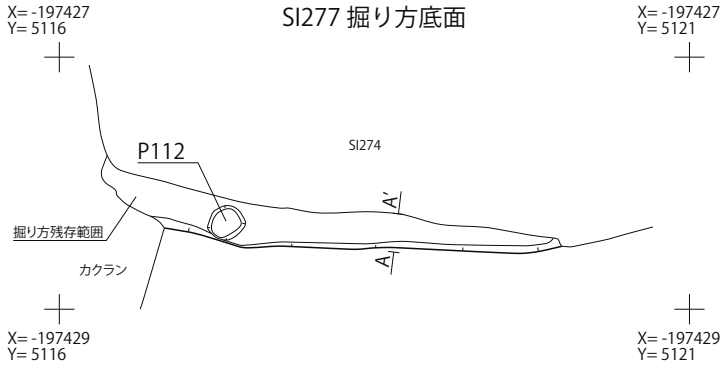
【壁面】確認範囲では直立気味に外傾する。壁高は19cmである。

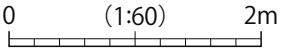
【周溝】規模は幅18～28cm以上、深さ21cmである。

【出土遺物】遺物は、住居堆積土から土師器57点が出土した。その内、土師器2点を掲載した（第70図）。他に図示できる遺物はない。掲載遺物は住居堆積土からの出土である。

1は土師器坏である。偏平な丸底坏で短い口縁部が直立する。調整は、外面が口縁部ヘラミガキ、体部～底部へ







SI277 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居内堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘質シルト	炭化物粒（10mm）・焼土粒（2mm）少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	炭化物粒（2mm）・焼土粒（2mm）少量含む。
周溝	3	10YR2/3 黒褐色	粘土	Ⅳ層土ブロック（20mm）含む。

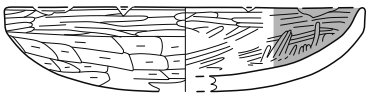
SI277 掘り方底面検出遺構堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P112	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 40mm）やや多く含む

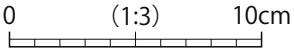
SI277 掘り方底面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P112	不整形	39 × 30	―	

第 69 図　SI277 竪穴住居跡



1(堆積土)



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-140	SI277	堆積土 2 層	土師器	坏	(14.1)	―	3.4	口縁：ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり	59-3
2	C-139	SI277	堆積土 1 層	土師器	甑	―	―	―	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	同一個体破片 3 片　写真掲載のみ	59-4

第 70 図　SI277 竪穴住居跡出土遺物

ラケズリ、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。2 は土師器甑で写真のみ掲載した。同一個体の破片資料から甑と判断した。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。

SI278 竪穴住居跡（第 71・72 図）

【位置・確認】調査区西区北部の 2 グリッドに位置する。

【重複】SI277 より古い。

【規模・形態】検出した規模は、長軸 197cm、短軸 45cm 以上である。平面形は不明である。

【方向】南壁を基準として N － 85° － E である。

【堆積土】4 層に分層した。1･2 層は住居堆積土、3 層は周溝堆積土、4 層は住居掘り方である。

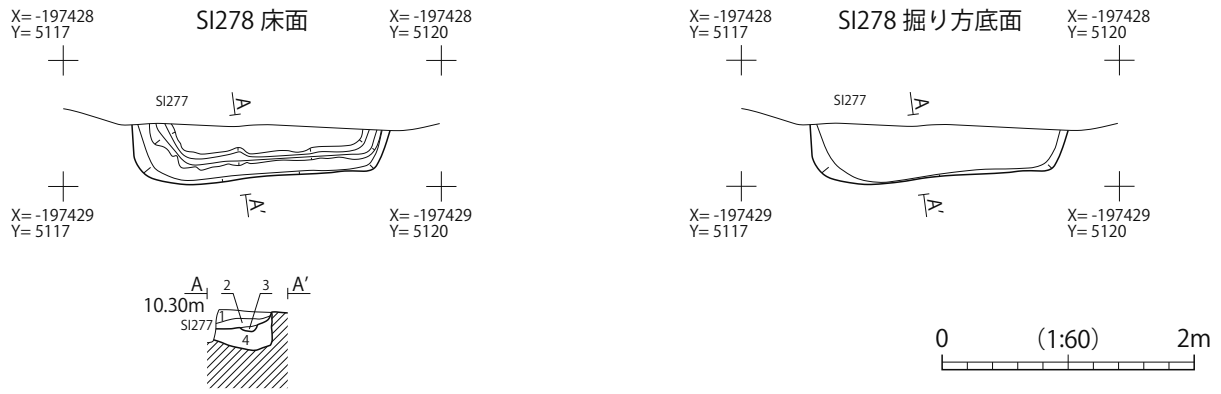
【壁面】外傾する。壁高は 10cm である。

【床面】住居掘り方である 4 層上面が床面である。

【周溝】規模は幅 20 ～ 40cm、深さ 4cm である。

【掘り方】底面の形状は、確認範囲では平坦である。深さは 10 ～ 20cm である。

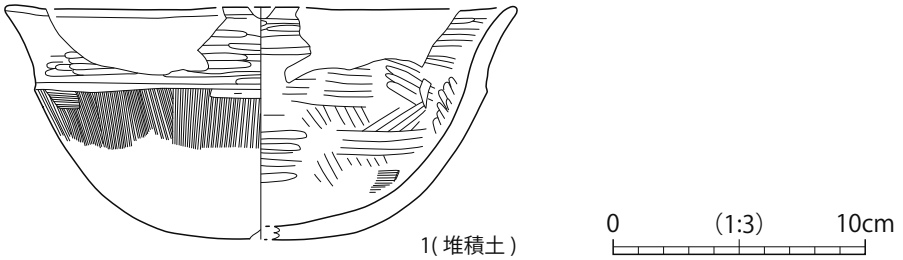
【出土遺物】遺物は、住居堆積土から出土した土師器 4 点の内、土師器鉢 1 点を掲載した（第 72 図）。他に図示できる遺物はない。1 は、口縁部と体部の境に稜をもつ丸底の鉢である。口縁部は外反する。調整は、外面が口縁部ヘラミガキ、体部ハケメ、一部ヘラナデ・ヘラケズリ、内面はヘラミガキ、底部付近ヘラナデである。



SI278 堆積土註記表

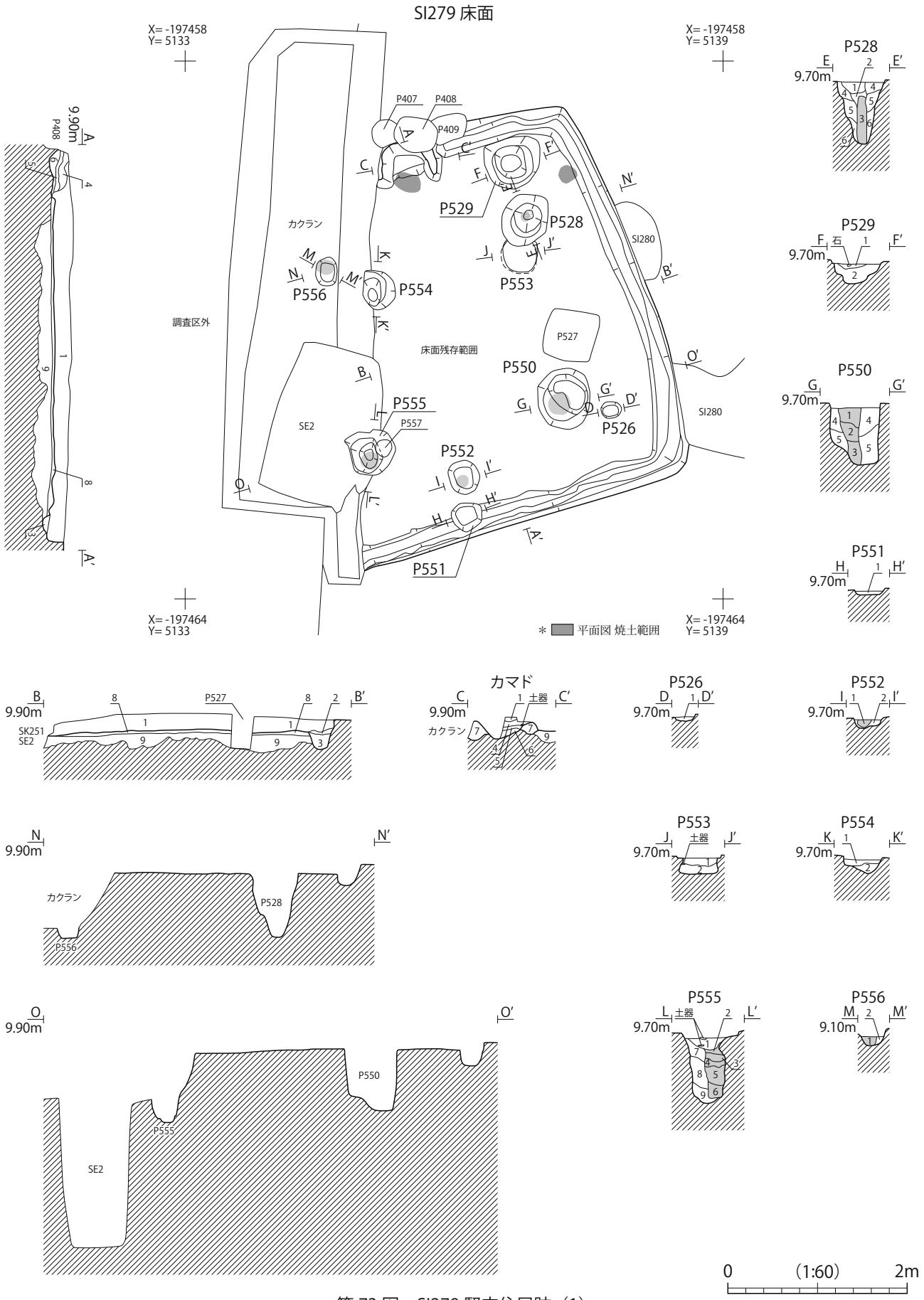
部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 20mm）少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）やや多く含む。
周溝	3	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 2mm）少量含む。
住居掘り方	4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。

第 71 図　SI278 竪穴住居跡



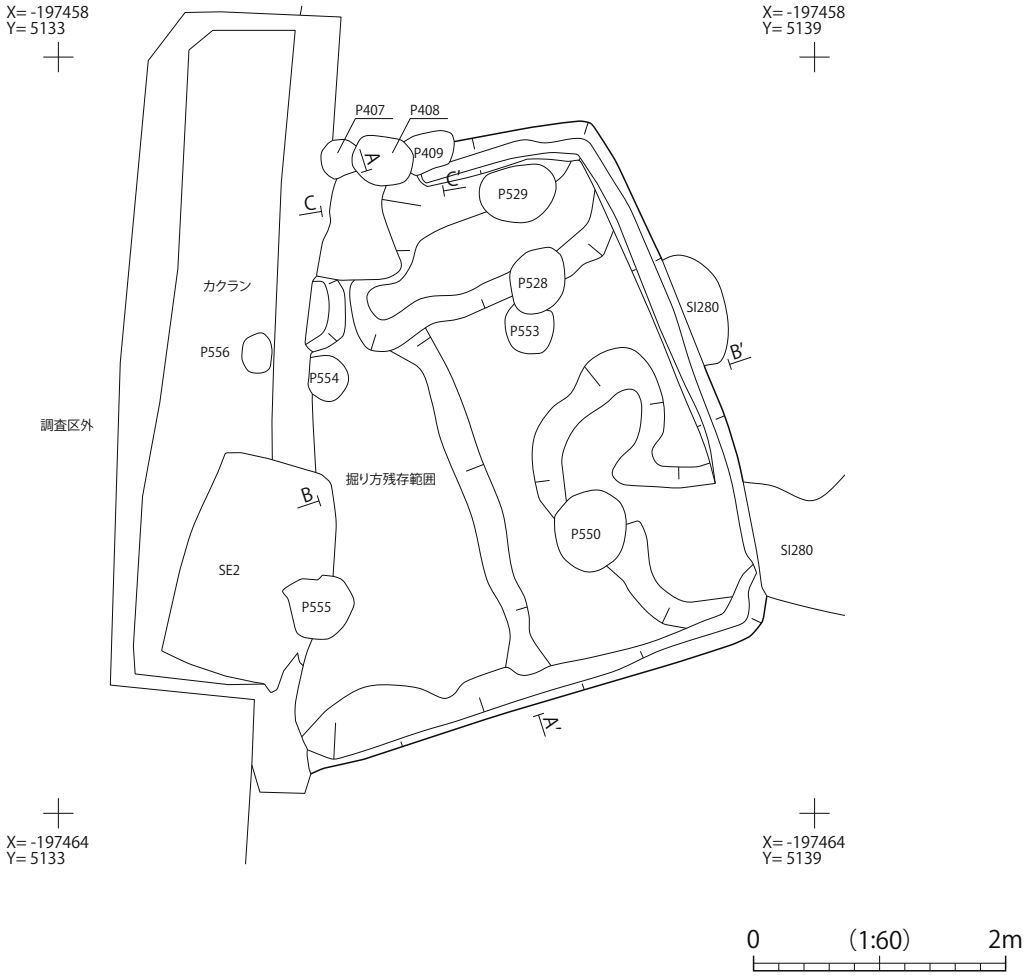
図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-141	SI278	堆積土	土師器	鉢	20.1	―	(9.3)	口縁：ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部：ﾊｹﾒ、一部ﾍﾗﾅﾃﾞ・ﾍﾗｹﾞｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ 底部付近：ﾍﾗﾅﾃﾞ	内外面摩滅　骨針あり	59-5

第 72 図　SI278 竪穴住居跡出土遺物



第 73 図　SI279 竪穴住居跡（1）

SI279 掘り方底面



SI279 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）やや多く、炭化物少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）多量含む
周溝	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
カマド	4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。下部焼土化。（カマド天井崩落土）
	5	7.5YR3/3 暗褐色	砂質シルト	焼土粒（1 ～ 5mm）・灰多量含む。
	6	7.5YR3/3 暗褐色	砂質シルト	炭化物（1 ～ 5mm）多量、Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
カマド袖	7	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）少量含む。
住居掘り方	8	10YR4/2 灰黄褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）多量含む。カマド付近では炭化物多量含む。（貼床）
	9	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）・黒褐色土ブロック多量含む。

第 74 図　SI279 竪穴住居跡（2）

SI279 竪穴住居跡（第 73 ～ 75 図）

【位置・確認】調査区東区南部の 37・43 グリッドに位置する。

【重複】SI280、SE2、P407・408・409・527 より古い。

【規模・形態】確認した規模は、長軸 446cm、短軸 380cm 以上である。平面形は方形または長方形を呈するものと推定される。

【方向】カマドを基準として N － 17° － W である。

【堆積土】9 層に分層した。1･2 層は住居堆積土、3 層は周溝堆積土、4 ～ 7 層はカマド関連の堆積土、8・9 層は住居掘り方で、8 層は貼床土である。

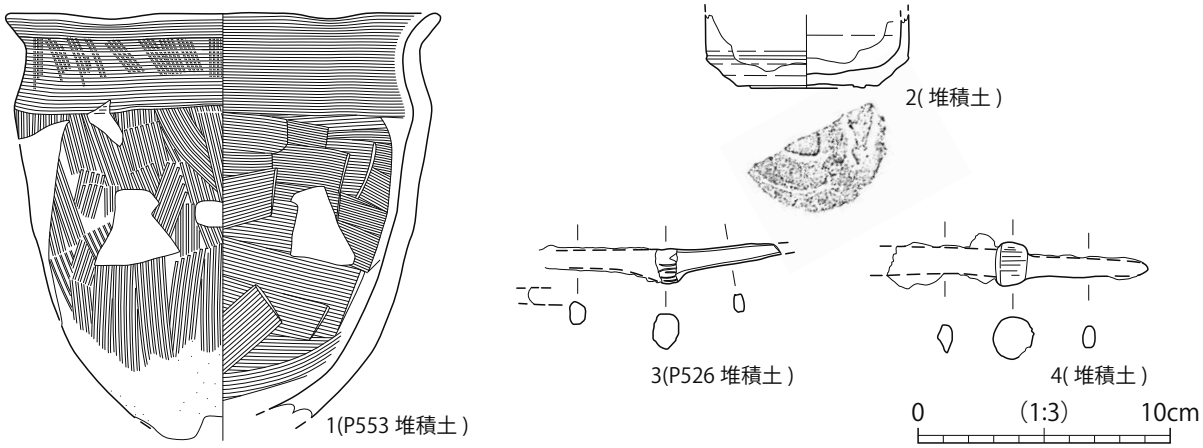
SI279 床面施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P526	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状にやや多く含む。
P528 主柱穴	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）少量含む。（抜き取り穴）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。（抜き取り穴）
	3	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	炭化物少量含む。下端部灰白粘土化。（柱痕跡）
	4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）多量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
	6	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
P529	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	焼土粒少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）多量、炭化物少量含む。
P550 主柱穴	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量、炭化物含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	炭化物含む。（柱痕跡）
	3	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量含む。（柱痕跡）
	4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）少量含む。
P551	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 5mm）やや多く含む。
P552	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。下部灰色粘土化。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
P553	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 5mm）・焼土粒・炭化物多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（3 ～ 30mm）・焼土粒・炭化物多量含む。
P554	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm）やや多く含む。
P555 主柱穴	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。（抜き取り穴）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）やや多く含む。（柱痕跡）
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）少量含む。（柱痕跡）
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	（柱痕跡）
	5	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。（柱痕跡）
	6	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。（柱痕跡）
	7	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 15mm）やや多く含む。
	8	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）多量含む。
	9	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
P556 主柱穴	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状にやや多く含む。炭化物含む。下部白色粘土化。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 2mm）少量含む。

SI279 床面施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P526	楕円形	23 × 18	5	
P528	不整形	62 × 51	70	主柱穴
P529	不整形	67 × 59	22	
P550	楕円形	67 × 63	64	主柱穴
P551	不整形	35 × 31	4	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P552	楕円形	37 × 33	10	
P553	（隅丸方形）	40 ×（28）	17	
P554	（楕円形）	（46）× 38	16	
P555	（不整形）	52 ×（51）	73	主柱穴
P556	楕円形	32 × 24	10	主柱穴



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-145	SI279 P553	堆積土	土師器	甕	(17.1)	―	(16.9)	口縁：ﾊｹﾒ→ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ		59-6
2	E-26	SI279	堆積土	須恵器	坏	―	(5.6)	(2.9)	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	骨針あり	59-9
5	C-144	SI279 P528	堆積土 6 層	土師器	坏				口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり 赤褐色粒あり　写真掲載のみ	59-8
6	C-146	SI279	周溝堆積土	土師器	甕	―	―	(7.4)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	写真掲載のみ	59-7

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
3	N-8	SI279 P526	堆積土	鉄製品	刀子	(10.0)	(1.4)	(1.0)	12.0	刃部・茎端部欠損	59-10
4	N-9	SI279	堆積土	鉄製品	刀子	(10.3)	(2.0)	(1.6)	20.5	刃部欠損　茎端部欠損	59-11

第 75 図　SI279 竪穴住居跡出土遺物

【壁面】概ね直立する。壁高は 15cm である。

【床面】貼床土である 8 層上面が床面である。

【柱穴】主柱穴を 4 基確認した。その内 3 基（P528・550・555）は床面、1 基（P556）はカクラン底面で確認した。P528 は北東主柱穴である。平面形は不整な楕円形で、規模は長軸 62cm、深さ 70cm である。P550 は南東主柱穴である。平面形は楕円形で、規模は長軸 67cm、深さ 64cm である。P555 は南西主柱穴である。平面形は不整形で、規模は長軸 52cm、深さ 73cm である。P556 はカクラン底面で確認したが、位置関係から本住居跡の主柱穴と判断した。残存した部分での平面形は楕円形で、規模は長軸 32cm、深さ 10cm である。この内、P528・555 には抜き取り穴が確認された。

【周溝】規模は幅 14 ～ 32cm、深さ 14cm である。

【カマド】北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。削平や P407・408 との重複により煙道部は失われている。袖の規模は、東袖が長さ 35cm 以上、幅 22cm、西袖が長さ 42cm、幅 20cm 以上である。袖は壁面に直交して付設されている。燃焼部の規模は、奥行き 45cm、幅 37cm で、壁内に位置する。

【その他の施設】床面で 6 基のピットを確認した。カマド東脇の P529 は比較的大型のピットである。平面形は不整形で、規模は長軸 67cm、深さ 22cm である。

【掘り方】底面の形状は、住居跡の西半部および北東部が低い。深さは 24 ～ 40cm である。

【出土遺物】遺物は、住居堆積土、周溝堆積土、床面施設堆積土、カマド堆積土、住居掘り方から、土師器 136 点、須恵器 5 点、金属製品 2 点が出土した。この内、土師器坏 1 点、同甕 2 点、須恵器坏 1 点、金属製品 2 点掲載した（第 75 図）。非掲載遺物には土師器坏 4 点が含まれるが、図示できる遺物はない。他の遺物も同様である。掲載遺物の内、2・4 は住居堆積土、6 は周溝堆積土、1・3・5 は床面施設堆積土からの出土である。

5 は土師器坏で写真のみ掲載した。口縁部が内湾する有段丸底坏である。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。1・6 は土師器甕で、6 は写真のみ掲載した。1 は、体部上位に最大径をもつ小型の甕である。口縁部と体部の境に稜をもち、口縁部は外反する。調整は、外面が口縁部ハケメ後ヨコナデ、体部ハケメ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。

2 は、口径約 8cm と推定される小型の須恵器坏である。口縁部を欠損する。体部は直立し、底部には回転ヘラ切り痕がみられる。

3・4 は刀子である。ともに刀部を欠損する。

SI280 竪穴住居跡（第 76 図）

【位置・確認】調査区東区南部の 37・38・43・44 グリッドに位置する。掘り方のみを確認した。その平面形から、竪穴住居跡の可能性を考慮し SI の番号を付した。

【重複】SI279・284 より新しい。

【規模・形態】確認した範囲での規模は、長軸 325cm 以上、短軸 300cm 以上である。

【方向】住居掘り方の平面形から、北東から南西方向に軸線を設定した場合、その方向は N － 25° － E である。

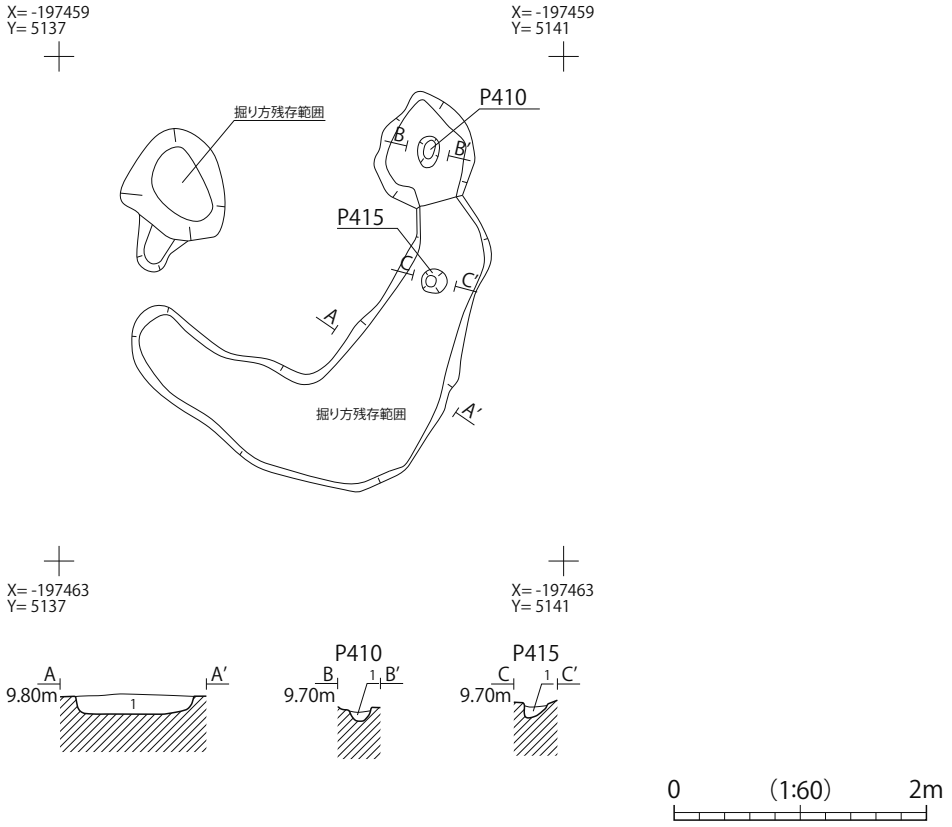
【堆積土】住居掘り方の可能性がある 1 層を確認した。

【柱穴】住居跡と推定される範囲内から、小型のピットを 2 基確認したが、その位置と規模から、柱穴となる可能性は低い。

【掘り方】底面の形状は、中央が高く、壁際が低くなる可能性がある。深さは 5 ～ 14cm である。

【出土遺物】遺物は、掘り方から土師器 11 点が出土した。図示できる遺物はない。

SI280 掘り方底面



SI280 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 50mm）多量含む。

SI280 掘り方底面検出遺構堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P410	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）やや多く含む。
P415	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）やや多く、焼土少量含む。

SI280 掘り方底面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P410	楕円形	25 × 17	8	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P415	円形	20 × 19	10	

第 76 図　SI280 竪穴住居跡

SI281 竪穴住居跡（第 77 図）

【位置・確認】調査区東区南部の 43・44・50・51 グリッドに位置する。掘り方のみを確認したが、その平面形から竪穴住居跡と判断した。南部がカクランと重複する。

【重複】SI284 より新しい。

【規模・形態】確認した規模は、長軸 355cm 以上、短軸 380cm である。平面形は方形または長方形を呈するものと推定される。

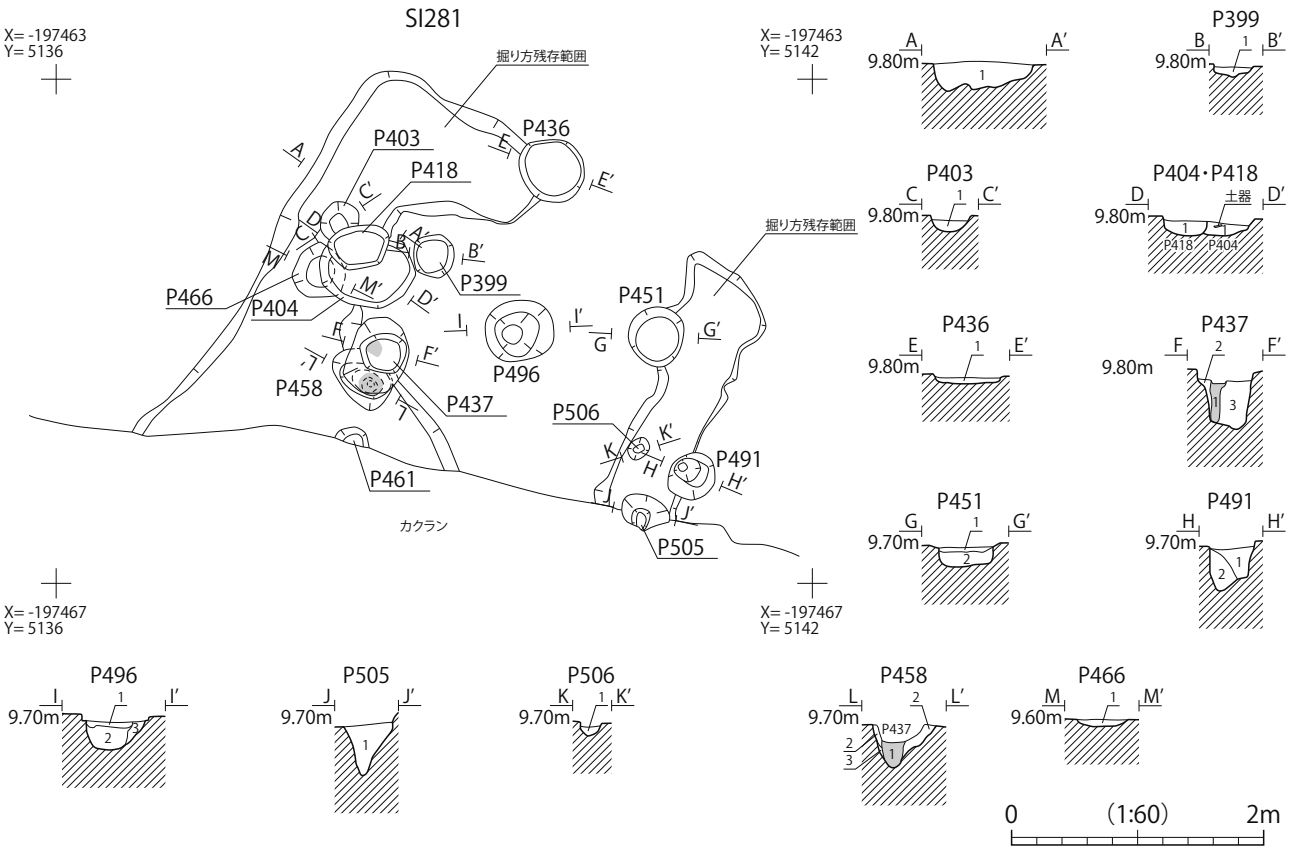
【方向】長軸を基準として N － 33° － E である。

【堆積土】住居掘り方である 1 層のみを確認した。

【柱穴】住居掘り方の範囲に関わる遺構として、住居掘り方より新しいピットを 11 基確認した。この内、柱痕跡をもつピットは P437 の 1 基のみである。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸 37cm、深さ 40cm である。位置的にも主柱穴となる可能性は低いと考えられるが、他に組み合わさる柱穴も確認していない。

【掘り方】底面の形状は、中央が高く、壁際が低くなるものと考えられる。全体的に方形の形状を呈することから、住居跡本来の規模を概ね反映していると考えられる。深さは 5 ～ 23cm である。

【出土遺物】遺物は、住居跡範囲内のピット堆積土、住居掘り方から土師器 57 点が出土した。図示できる遺物はない。



SI281 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く含む。

SI281 検出遺構堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P399	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 30mm）やや多く、焼土・炭化物少量含む。
P403	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）やや多く、炭化物・焼土少量含む。
P404	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く、焼土多量、炭化物少量含む。
P418	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）・焼土やや多く、炭化物少量含む。
P436	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	焼土粒・炭化物多量含む。
P437	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 20mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）少量、焼土極少量含む。
P451	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）・焼土・炭化物やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）多量含む。
P491	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
P496	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 10mm）少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 20mm）やや多く含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）多量含む。
P505	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）やや多く、炭化物少量含む。
P506	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）やや多く含む。

SI281 掘り方底面検出遺構堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P458	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。
P466	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）やや多く、焼土（1 ～ 3mm）含む。

SI281 検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P399	方形	34 × 33	9	直接の重複なし
P403	(楕円形)	32 × 28	10	掘り方より新しい
P404	(楕円形)	76 ×（31）	11	掘り方より新しい
P418	不整形	49 × 33	13	掘り方より新しい
P436	楕円形	55 × 49	6	掘り方より新しい
P437	不整形	37 × 31	40	掘り方より新しい

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P451	楕円形	47 × 44	17	掘り方より新しい
P461	(楕円形)	28 ×（14）	―	掘り方より新しい
P491	楕円形	39 × 36	35	掘り方より新しい
P496	隅丸方形	55 × 48	23	直接の重複なし
P505	(不整形)	39 × 26	42	掘り方より新しい
P506	楕円形	18 × 15	8	掘り方より新しい

SI281 掘り方底面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P458	(楕円形)	53 ×（8）	35	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P466	(不整形)	44 ×（23）	6	

第 77 図　SI281 竪穴住居跡

SI282 竪穴住居跡（第 78 ～ 80 図）

【位置・確認】調査区西区北部の 18・24 グリッドに位置する。北側が SD132 溝跡、南側がカクランと重複し、また確認範囲のうち東側の一部で床面の残存を確認した。

【重複】SD132・(SK252)、SB1 より古い。

【規模・形態】確認した規模は、長軸 470cm 以上、短軸 200cm 以上である。平面形は方形または長方形を呈するものと推定される。なお本住居跡の北側部分については、重複する SD132 の北側で本住居跡を確認できなかったことから、SD132 の中で収まるものと推定される。

【方向】東壁を基準として、N － 2° － E である。南北方向を基軸とする竪穴住居跡である。

【堆積土】2 層に分層した。1 層は周溝堆積土、2 層は住居掘り方である。

【壁面】東辺でわずかに確認したが、高さ 5cm 程であり壁面の特徴は不明である。

【床面】住居掘り方である 2 層上面が床面である。東側の一部でのみ床面を確認した。確認した範囲では概ね平坦である。

【柱穴】床面施設または住居掘り方より新しい遺構で、主柱穴と判断できる遺構は確認できなかった。東側の床面で確認した 3 基のピットは、規模が小さい、または浅いため、柱穴の可能性は極めて低い。なお、住居掘り方の底面では、長軸約 50cm 以上、深さ 60cm 以上の規模をもつ、柱穴の可能性のあるピットが 3 基確認された（P539・540・541）。本住居跡より古い住居跡の柱穴である可能性も考えられる。

【周溝】東辺でのみ確認した。規模は幅 15 ～ 20cm、深さ 8cm である。

【掘り方】底面の形状は、掘削痕の可能性がある凹凸がみられるものの、全体的に中央部が高く、壁側が低い。深さは 7 ～ 20cm である。

【出土遺物】遺物は、周溝堆積土、住居掘り方、住居掘り方底面遺構堆積土から、土師器 44 点、須恵器 2 点が出土した。この内、住居掘り方から出土した土師器坏 1 点を掲載した（第 80 図）。非掲載遺物の中に、他に図示できる遺物はない。

1 は、口縁部が短く内湾する口縁部の破片資料である。口縁部と体部の境には稜がみられる。調整は、外面が呼口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヨコナデである。色調は明黄褐色を呈する。いわゆる関東系土師器と考えられる。

SI283 竪穴住居跡（第 81 図）

【位置・確認】調査区西区南部の 35・41 グリッドに位置する。大部分が SI266 と重複しており、煙道および住居掘り方のみ確認した。住居掘り方は北・西辺が直線的に確認され、住居跡の範囲を概ね反映するものと考えられる。

【重複】SI266、SK236、SD139 より古い。

【規模・形態】確認した規模は、長軸 575cm、短軸 345cm 以上である。平面形は、方形または長方形を呈するものと推定される。

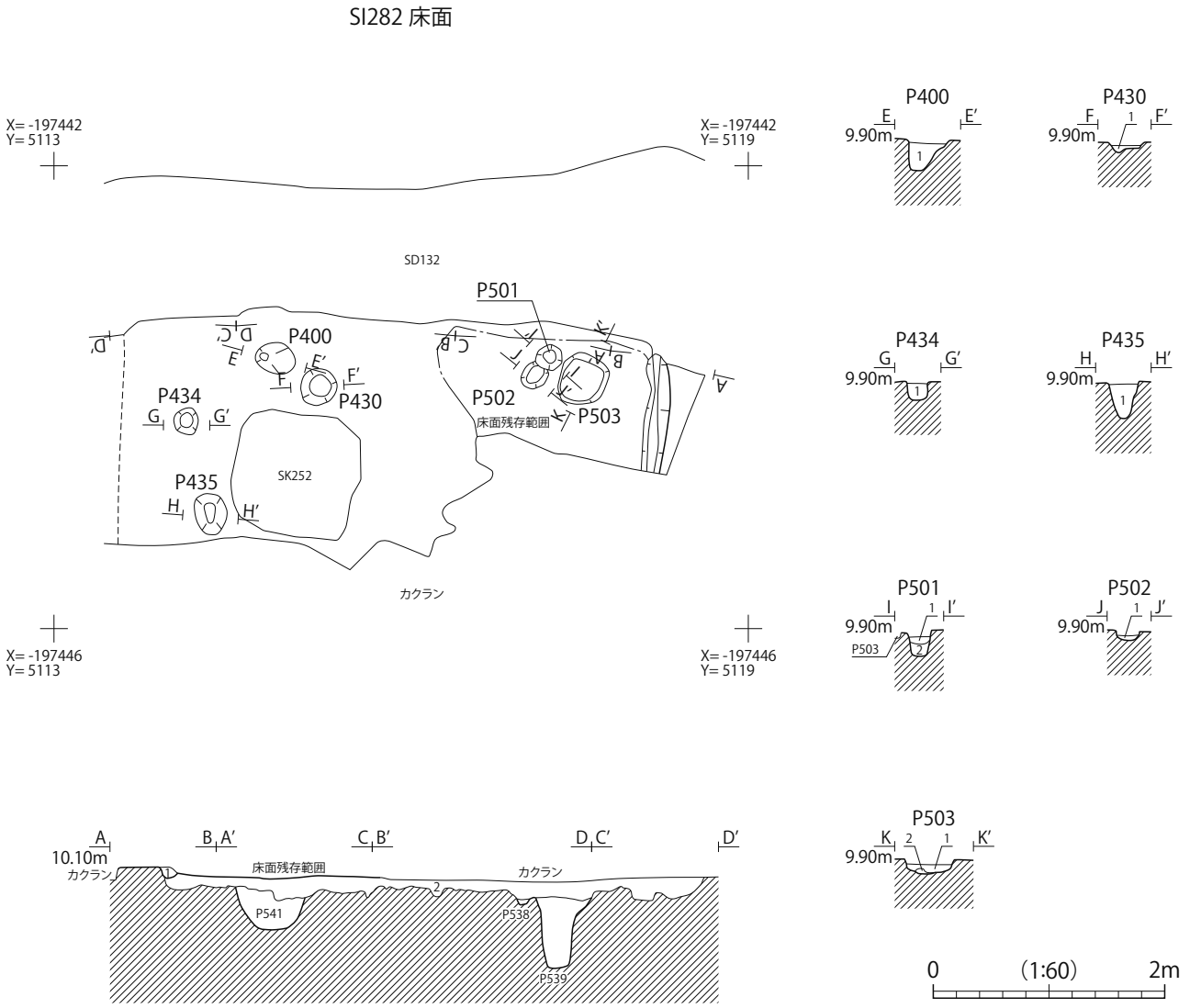
【方向】N － 18° － E である。

【堆積土】住居掘り方である 1 層のみを確認した。

【カマド】煙道のみ確認した。北壁のやや東寄りに位置し、壁面に概ね直交して付設されている。確認範囲での煙道部の規模は、長さ 75cm、幅 28 ～ 35cm、深さ 4 ～ 8cm である。底面は先端に向かって緩やかに下がる。煙出し部分でピット状に深さ 4cm 程落ち込む。

【掘り方】底面の形状は、西壁際がやや低く、他は概ね平坦である。深さは 9 ～ 20cm である。

【出土遺物】遺物は、住居掘り方から土師器 1 点のみ出土した。図示できる遺物はない。



SI282 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く含む。
住居掘り方	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。

SI282 床面施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P501	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量含む。
P502	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 5mm）やや多く含む。
P503	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。

SI282 検出遺構堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P400	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）少量含む。
P430	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）やや多く、焼土少量含む。
P434	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量に含む。
P435	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）やや多く含む。

SI282 床面施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P501	不整形	24 × 21	18	
P502	(楕円形)	22 ×（21）	5	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P503	不整形	46 × 43	9	

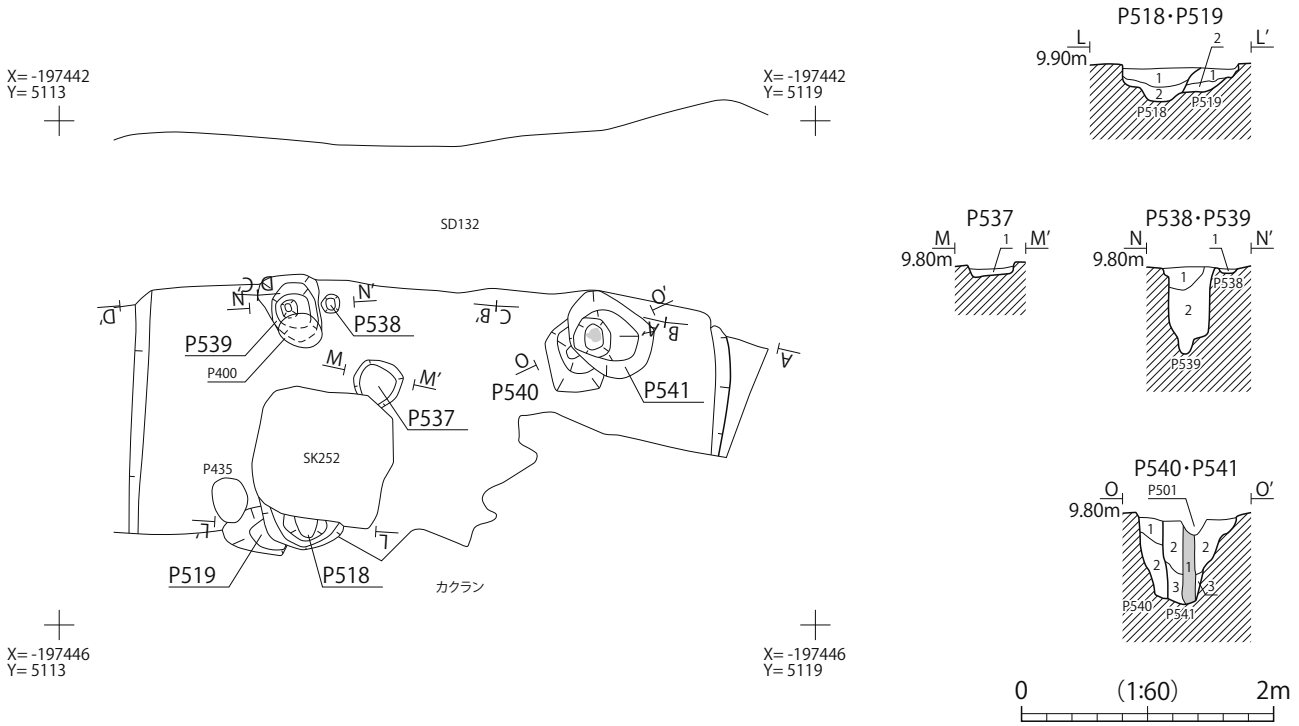
SI282 検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P400	楕円形	35 × 27	24	
P430	楕円形	33 × 31	6	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P434	不整形	23 × 21	15	
P435	楕円形	36 × 28	30	

第 78 図　SI282 竪穴住居跡（1）

SI282 掘り方底面



SI282 掘り方底面検出遺構堆積土註記表

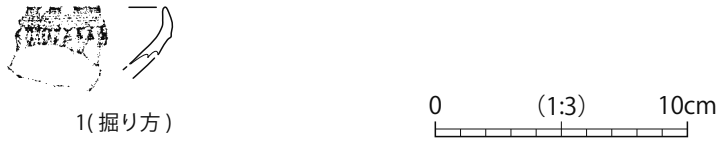
遺構名	層位	土色	土性	備考
P518	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 30mm）多量含む。
P519	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。
P537	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）多量含む。
P538	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
P539	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）多量含む。
P540	1	40YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）やや多く含む。
P541	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 10mm）多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（10 ～ 30mm）やや多く含む。

SI282 掘り方底面検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P518	(隅丸方形)	(61) × (25)	27	
P519	(不整形)	(39) × (34)	19	
P537	(不整形)	39 × 38	9	
P538	楕円形	16 × 14	4	

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P539	(不整形)	49 × (32)	69	
P540	方形	57 × (41)	64	
P541	隅丸方形	75 × 54	68	

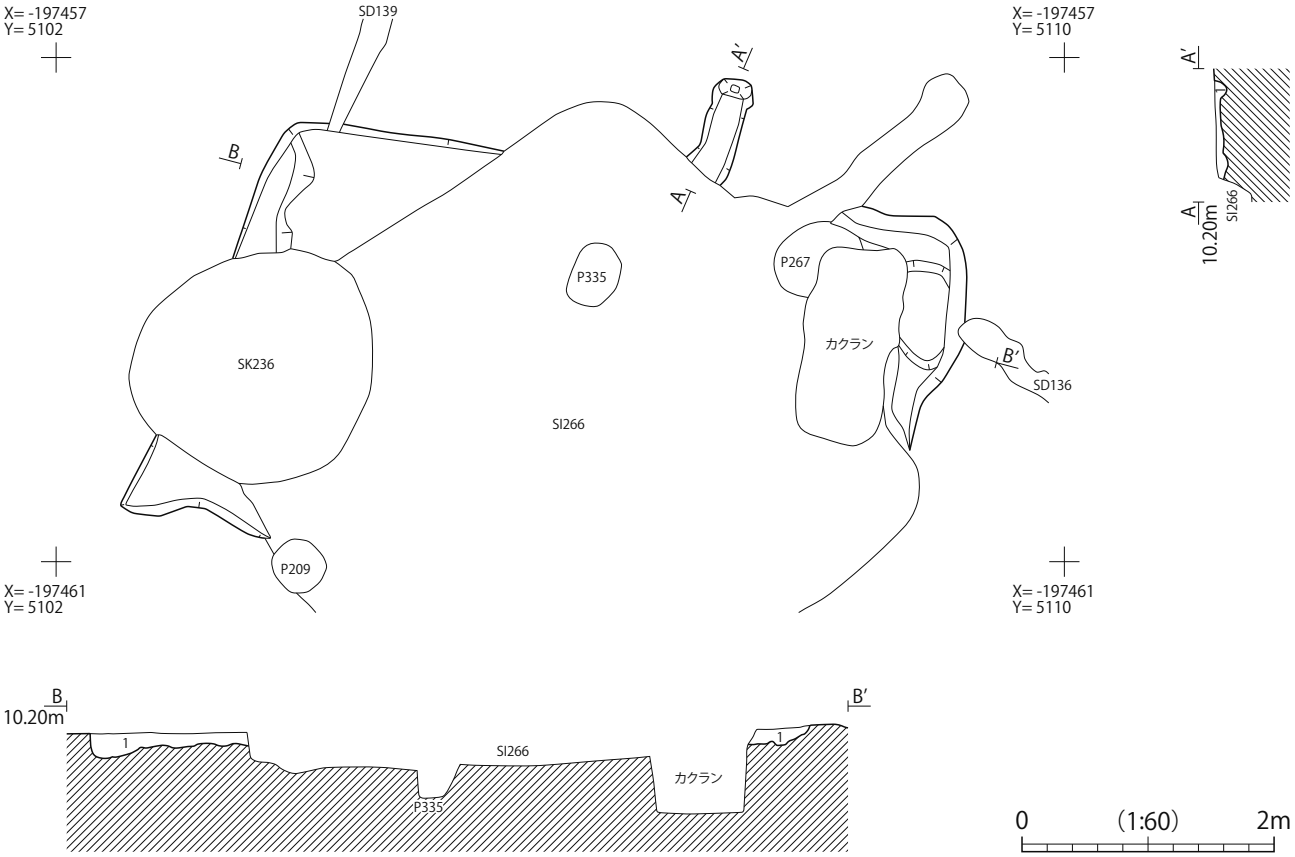
第 79 図　SI282 竪穴住居跡（2）



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-148	SI282	掘り方	土師器	甕	―	―	(2.3)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系　赤褐色粒あり	59-12

第 80 図　SI282 竪穴住居跡出土遺物

SI283 掘り方底面



SI283 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	暗褐色土ブロック（10 ～ 50mm）少量含む。

第 81 図　SI283 竪穴住居跡

SI284 竪穴住居跡（第 82 図）

【位置・確認】調査区東区南部の 35・41 グリッドに位置する。住居掘り方のみ確認した。2

【重複】SI280・281 より古い。

【規模・形態】確認した規模は、長軸 370cm、短軸 320cm 以上である。

【方向】北側で確認した、北西方向に延びる住居掘り方の壁面を基準として N － 69° － W である。なお、掘り方底面で、方形に残された中央部の高い部分についても、これと平行する方向性がみられることから、これが本住居跡の方向を示す可能性は高いと考えられる。

【堆積土】住居掘り方である 1 層のみを確認した。

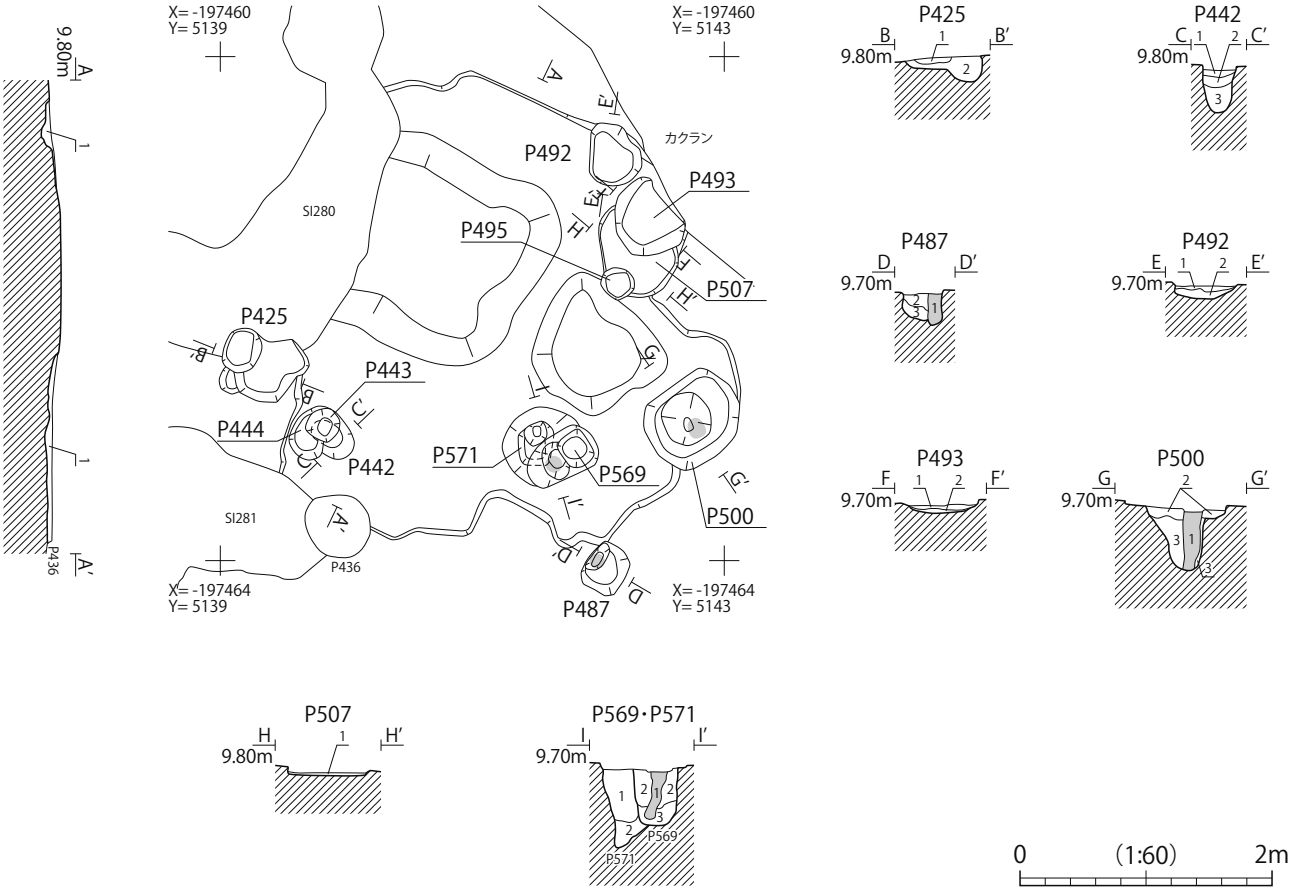
【柱穴】その位置関係から、主柱穴の可能性があるピットを住居掘り方の南東部で 1 基確認した（P569）。平面形は楕円形で、規模は長軸 60cm、深さ 46cm である。また、柱痕跡をもつピットとして、P569 の東 40cm で P500 を確認した。平面形はやや不整な方形で、規模は長軸 78cm、深さ 51cm である。住居掘り方よりも新しいが、本住居跡に伴うか否かは不明である。

　他に住居掘り方よりも新しいピットを 10 基確認した。

【掘り方】底面の形状は、中央が高く、その周囲が低い。深さは 2 ～ 8cm である。

【出土遺物】遺物は、住居掘り方から土師器 13 点が出土した。図示できる遺物はない。

SI284 掘り方底面



SI284 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 15mm）少量含む。

SI284 検出遺構堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P425	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	焼土・炭化物少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	焼土粒・炭化物多量含む。
P442	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 20mm）やや多く含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。
P487	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 10mm）少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）やや多く含む。
P492	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。
P493	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）・焼土粒・炭化物少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状にやや多く含む。
P500	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 15mm）やや多く含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 10mm）やや多く含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm）多量含む。
P507	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）・焼土粒少量含む。
P569	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）やや多く含む。（柱痕跡）
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 10mm）多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（5 ～ 10mm）少量含む。
P571	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 20mm）やや多く含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（3 ～ 10mm）やや多く含む。

SI284 検出遺構観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P425	不整形	73 ×（59）	21	掘り方より新しい
P442	(楕円形)	28 ×（18）	34	掘り方より新しい
P443	方形	26 × 26	―	掘り方より新しい
P444	(楕円形)	45 × 29	―	掘り方より新しい
P487	方形	39 × 33	25	掘り方より新しい
P492	不整形	52 × 43	11	掘り方より新しい

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P493	(不整形)	62 × 47	8	掘り方より新しい
P495	円形	26 × 24	―	掘り方より新しい
P500	方形	78 × 66	51	掘り方より新しい
P507	(楕円形)	76 ×（24）	4	掘り方より新しい
P569	楕円形	60 × 35	46	掘り方より新しい
P571	(隅丸方形)	64 ×（28）	62	掘り方より新しい

第 82 図　SI284 竪穴住居跡

(2) 掘立柱建物跡（第 11・83 ～ 86 図）

調査区西区で掘立柱建物跡 2 棟（SB1・2）を確認した。2 棟とも南北方向に近い軸線を基準にすると、真北より東にふれる建物跡である。いずれも郡山官衙期の竪穴住居跡より新しいことから、郡山官衙期以降に帰属するものと考えられる。

SB1 掘立柱建物跡（第 83・84 図）

調査区西区北部の 12・18・24 グリッドに位置し、7 基の柱穴を確認した。SI264・282・SD119・120・123・P92・98・99・518・519・537 より新しく、SD132・153・P126・228・252・373・377 より古い。南側でカクランと重複しており、より南側へ延長するか否かについては確認できなかった。

南北 2 間（以上）、東西 2 間の方形棟または南北棟側柱建物跡で、西辺柱列を基準とした主軸方向は、N-10°-E である。規模は、北辺総長 421cm、西辺総長 457cm（以上）である。柱間寸法は、北側柱列が西から 205cm、216cm、西側柱列が北から 247cm、210cm である。平面形は SK225 が楕円形で、他は隅丸方形ないし隅丸長方形を基調とする。なお、SK255 は南側が SD132 と重複するため平面形全体を確認することはできないが、残された形状から隅丸方形または隅丸長方形を呈するものと推定される。柱穴の規模は、全体の規模が不明な SK225 を除くと、長軸 96 ～ 133cm、短軸 81 ～ 114cm で、深さは SK225 を含め 39 ～ 72cm である。SK230 を除く柱穴 6 基で径 13 ～ 22cm の柱痕跡を確認した。SK230 の底面には径 14cm の凹みを確認した。柱痕跡の平面形は、SK252・254 のみ円形を呈さず、半月形ないし紡錘形を呈する。検出面から底面近くまで同様の形状を呈することから、柱材に半割材を用いている可能性が考えられる。柱痕跡が確認された柱穴においては、いずれも抜き取り穴は確認できなかった。

遺物は、SB1 各柱穴の掘り方から土師器 214 点、須恵器 21 点、金属製品 2 点が出土した。この内、SK225 から出土した須恵器坏 1 点、同甕 1 点、SK230 から出土した須恵器蓋 1 点、SK231 から出土した土師器坏 1 点、須恵器坏 1 点、SK252 から出土した土師器甕 1 点、同蓋 1 点を掲載した。（第 84 図）。非掲載遺物には、土師器坏 24 点、須恵器坏 4 点が含まれるが、図示できる遺物はない。他の遺物も同様である。

1 は土師器坏である。丸底の坏とみられ口縁部と体部の境が屈曲する。口縁部は外反し内面に稜がみられる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ、体部ヘラミガキ、内面はヨコナデ、ヘラミガキである。2 は土師器甕である。口縁部～体部上部の破片資料である。口縁部と体部の境に段・稜はなく口縁部が外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。

5・6 は須恵器坏である。5 は底部の破片資料である。底面に回転ヘラケズリが施される。6 は、体部下端部から底部のみ残存する。体部下端部には回転ヘラケズリが施され、底面には回転ヘラ切り痕がみられる。

3・4 は須恵器蓋である。3 は、内面にカエリをもたない蓋の口縁部破片資料である。4 は体部・口縁部が下方に直線的に延びる蓋と推定される。外面に回転ヘラケズリが施されている。

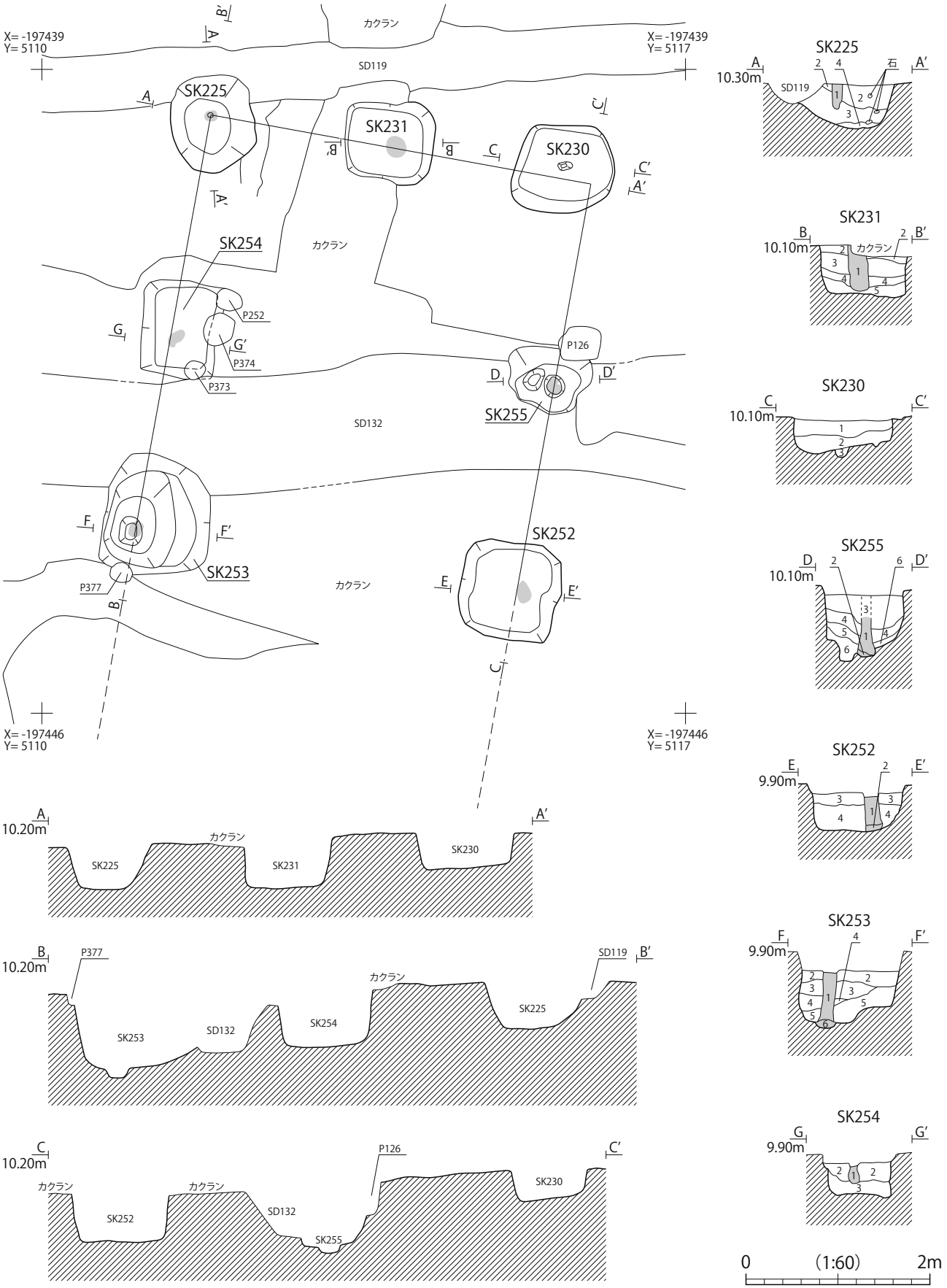
7 は須恵器甕の体部破片資料である。外面には平行タタキ目がみられる。

本遺構の時期は、SK252 の掘り方から出土した第 84 図 3 のカエリのない須恵器蓋から、郡山Ⅱ期官衙期以降と考えられる。

SB2 掘立柱建物跡（第 85・86 図）

調査区西区中部の 23・28・29 グリッドに位置し、7 基の柱穴を確認した。SI265・P206 より新しく、SD125・P141・162・326・336 より古い。南側でカクランと重複する。

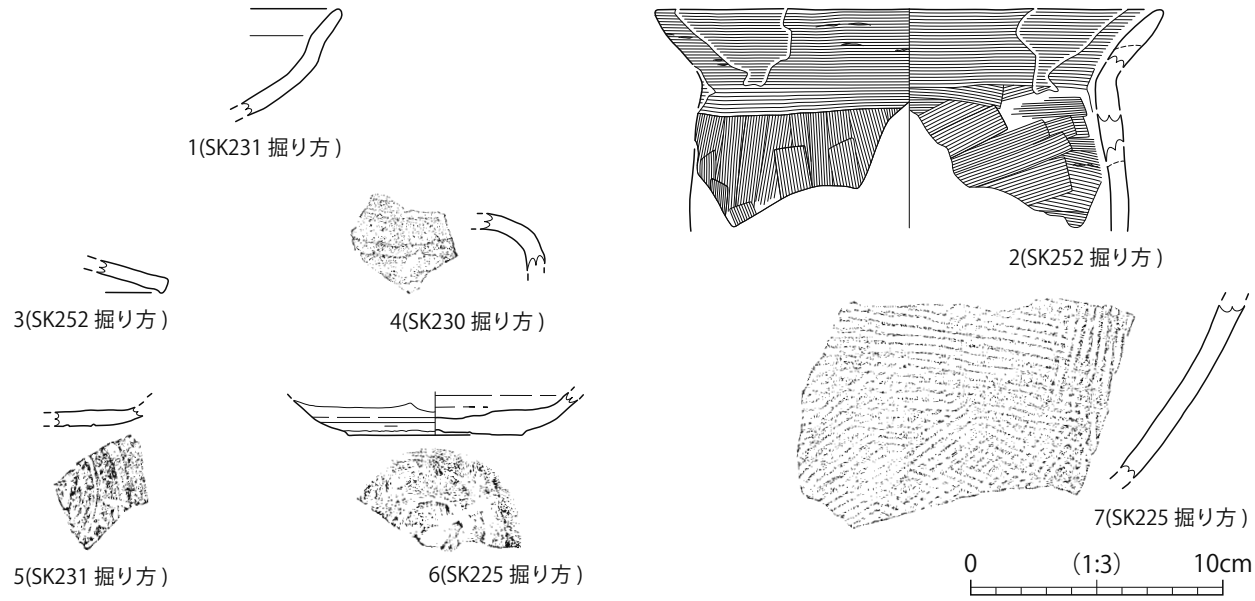
南北 2 間、東西 2 間（以上）の方形棟または東西棟側柱建物跡で、東辺柱列を基準とした主軸方向は、N-21°-E



第 83 図　SB1 掘立柱建物跡

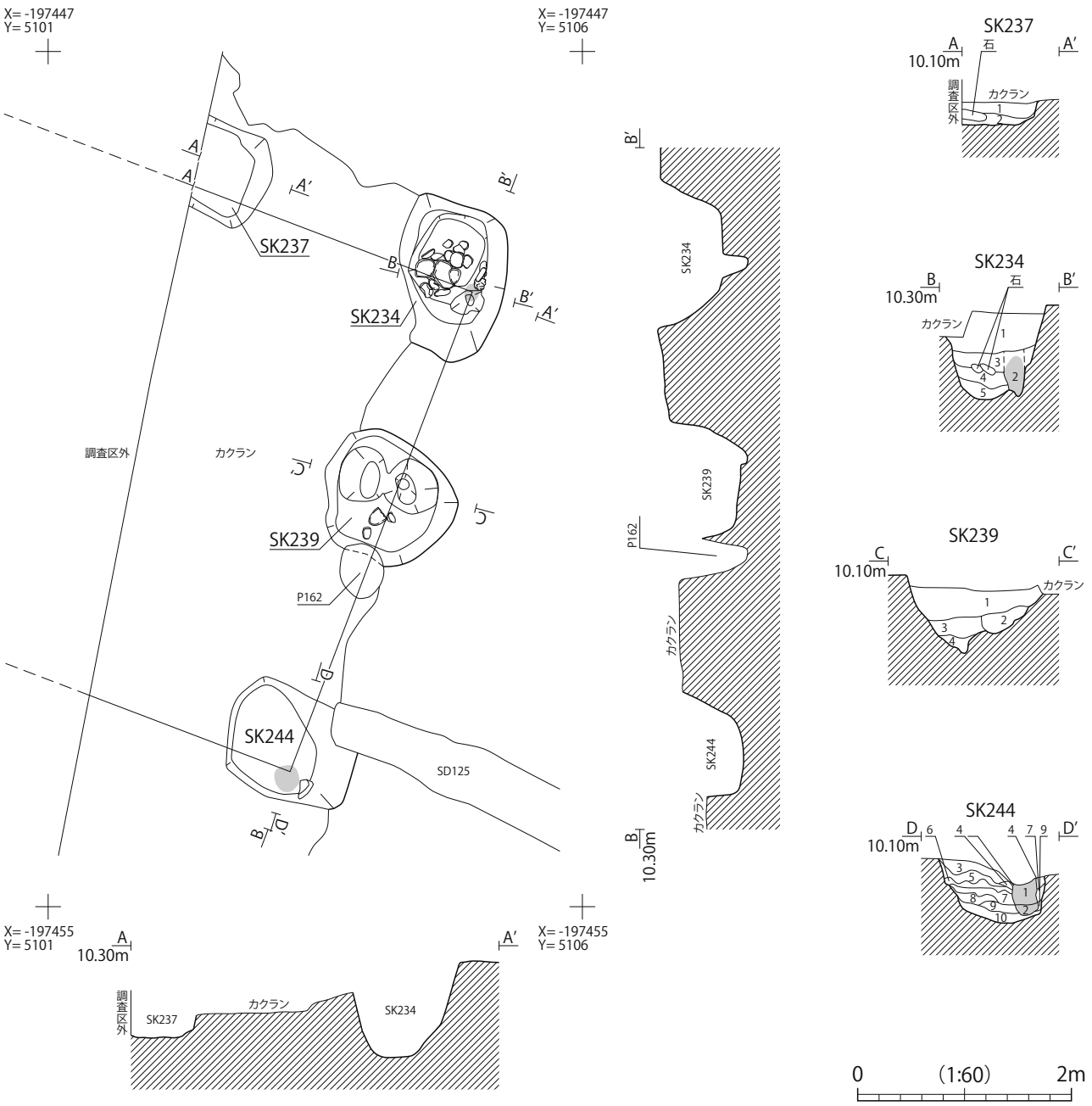
SB1 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK225	12・18	楕円形	106 × 91	49	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量含む。	SI264・SD119・120 より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（30 ～ 50mm）やや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 3mm）少量含む。	
SK230	12・18	隅丸方形	107 × 96	41	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 30mm）多量含む。	P92・98・99 より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土ブロック（10 ～ 50mm）多量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	掘削痕？	
SK231	12・18	隅丸方形	96 × 81	57	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土粒（1 ～ 5mm）少量、炭化物含む。（柱痕跡）	SD123 より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1cm の粒状に多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 2cm のブロック状にやや多く含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	
					5	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3cm のブロック状に多く含む。	
SK252	18・24	方形	109 × 105	42	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。（柱痕跡）	SI282・P518・519・537 より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状にやや多く含む。（柱痕底部）	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 20mm のブロック状に多量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 15mm の粒状にやや多く含む。	
SK253	18	（不整形）	133 × 114	63	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状に少量含む。（柱痕跡）	SD153、P377 より古い。
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm のブロック状に多量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 2 ～ 10cm のブロック状にやや多く含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 5cm のブロック状に多量含む。	
					5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 2 ～ 10cm のブロック状にやや多く含む。	
					6	10YR4/2 灰黄褐色	粘質シルト	柱痕の直下。	
SK254	18	（方形）	106 × 81	39	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。焼土粒を微量含む。	P228・252・373 より古い。
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 10cm の粒状にやや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 10mm の粒状に多量含む。	
SK255	18	（不整形）	82 × 69	72	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。（柱痕）	SD132、P126 より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	Ⅳ層土を斑状にやや多く含む。（柱痕底部）	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 10mm のブロック状に多量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 10mm の粒状に少量含む。炭化物含む。	
					5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 20mm の粒状にやや多く含む。	
					6	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 15mm の粒状に多量含む。	



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	法量 (cm) 底径	法量 (cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-149	SB1 (SK231)	掘り方	土師器	坏	—	—	(4.3)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ	骨針あり	60-1
2	C-150	SB1 (SK252)	掘り方	土師器	甕	20.2	—	(8.7)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ		60-2
3	E-31	SB1 (SK252)	掘り方	須恵器	蓋	—	—	(1.2)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整		60-4
4	E-29	SB1 (SK230)	掘り方	須恵器	蓋	—	—	(2.2)	甲部：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整		60-6
5	E-30	SB1 (SK231)	掘り方	須恵器	坏	—	—	(0.8)	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整		60-5
6	E-27	SB1 (SK225)	掘り方	須恵器	坏	—	(7.0)	(1.7)	ﾛｸﾛ調整 体部下端：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整		60-7
7	E-28	SB1 (SK225)	掘り方	須恵器	甕	—	—	(6.9)	平行ﾀﾀｷ目	ﾅﾃﾞ？	内面摩滅？	60-3

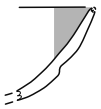
第 84 図　SB1 掘立柱建物跡出土遺物



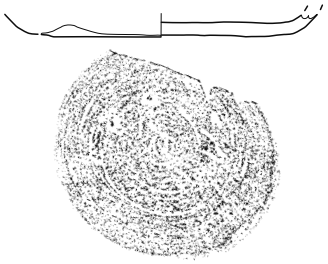
SB2 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK234	23	(隅丸方形)	138 × (101)	83	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 20mm の粒状にやや多く含む。(抜き取り穴か) この上面では柱痕確認せず。	SI265 より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3cm のブロック状に多く含む。(柱痕跡)	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3cm のブロック状に多く含む。	
SK237	23	(隅丸方形)	87 × (69)	23	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 0.5 ～ 1cm の粒状に少量含む。	P206 より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 5cm のブロック状に多く含む。	
SK239	28	(隅丸方形)	(124) × (114)	63	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	P141・162・326・336 より古い。
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5cm のブロック状にやや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3cm の粒状に少量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5cm のブロック状に多く含む。	
SK244	29	(方形)	(125) × (102)	60	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3cm の粒状に少量含む。	SD125 より古い。
					2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5cm のブロック状にやや多く含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状にやや多く含む。	
					5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5cm のブロック状に少量含む。	
					6	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5cm のブロック状に多く含む。	
					7	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5cm のブロック状にやや多く含む。	
					8	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5cm のブロック状に多く含む。	
					9	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3cm のブロック状に少量含む。	
					10	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状に多く含む。	

第 85 図　SB2 掘立柱建物跡



1(SK244 掘り方)



2(SK239 掘り方)

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-151	SB2 (SK244)	掘り方	土師器	坏	—	—	(3.7)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　内外面摩滅　骨針多量	60-8
2	E-32	SB2 (SK239)	掘り方	須恵器	坏	—	8.6	(0.9)	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整		60-10
3	C-152	SB2 (SK234)	掘り方	土師器	坏	—	—	(1.5)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁：ﾅﾃﾞ	関東系　外面一部剥落 写真掲載のみ	60-9

第 86 図　SB2 掘立柱建物跡出土遺物

である。規模は、北辺総長 250cm（以上）、東辺総長 492cm である。柱間寸法は、北側柱列が 250cm、東側柱列が北から 242cm、248cm である。平面形は、SK239・237 がカクランと重複し部分的な確認に止まるが、全体に隅丸方形ないし隅丸長方形を基調とする。柱穴の規模は、全体の規模が不明な SK237 を除くと、長軸 124 ～ 138cm、短軸 101 ～ 114cm で、深さは 60 ～ 83cm である。SK234・244 で、径 18・23cm の柱痕跡を確認した。SK239 の底面で、弧状に並んだ径 10 ～ 16cm の川原石を 3 石確認した。周囲に灰白色の粘質土が分布することから、柱の周囲に置かれた側石の可能性も考えられる。また、SK234 の掘り方 4 層上部から、径 10 ～ 27cm の多量の川原石が出土した。柱痕跡とはやや離れた箇所に密集しており、側石となるものかは不明である。

遺物は、SB2 各柱穴の掘り方から土師器 338 点、須恵器 12 点、金属製品 3 点が出土した。この内、SK234 から出土した土師器坏 1 点、SK239 から出土した須恵器坏 1 点、SK244 から出土した土師器坏 1 点を掲載した。非掲載遺物には、土師器坏 34 点、須恵器坏 2 点が含まれるが、図示できる遺物はない。他の遺物も同様である。

1 は、有段丸底坏の口縁部から体部上部の破片資料である。内面に屈曲はなく、体部から口縁部が内湾気味に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。3 は、口縁部が「S」字状に屈曲する薄手の坏である。写真のみ掲載した。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、内面は口縁部ナデである。色調は明るい褐色を呈する。いわゆる関東系土師器である。

2 は、須恵器坏の底部破片資料である。底面には回転ヘラケズリが施される。

本遺構の時期は、SK234 の掘り方から出土した第 86 図 3（写真図版 60-9）の関東系土師器の坏から、郡山官衙期以降と考えられる。

(3) 溝跡（第 87 ～ 92 図）

溝跡 28 条（SD120・123 ～ 131・133 ～ 137・139・141 ～ 152）を確認した。全て調査区西区で確認した。この内、南部で確認した SD146 ～ 152 は、それぞれ一定の間隔で平行して延びることから小溝状遺構群（第 91 図）と考えられるが、便宜的に本項に含める。この小溝状遺構群は、重複する郡山官衙期の竪穴住居跡よりも古い遺構である。

以下、古墳時代～古代と考えられる溝の特徴について、個別に記述する

SD120 溝跡（第 87 図）

調査区西区北部の 6・12 グリッドに位置する。重複関係は、SI264、SK240 より新しく、SI257、SB1(SK225)、P78･140 より古い。確認した規模は、全長 715cm、上端幅 48 ～ 78cm、下端幅 31 ～ 58cm、深さ 15 ～ 25cm である。

第 87 図　古墳時代～古代溝跡・井戸・土坑遺構配置図

方向は、N-17° -E である。断面形は逆台形を呈する。堆積土は 1 層である。

遺物は土師器 95 点、須恵器 11 点、土製品 1 点が出土した。この内、須恵器瓶類 1 点、土錘 1 点を掲載した（第 92 図 1･9）。1 は、全体形状は不明だが、瓶類の可能性がある。外面に同心円状の列点が複数列みられる。また、内面および破断面に漆の付着がみられる。10 は、大型の管状土錘である。

SD123 溝跡（第 88 図）

調査区西区北部の 12･18 グリッドに位置する。重複関係は、SD119、SK231、P114 より古く、P124･135 より新しい。確認した規模は、全長 377cm、上端幅 44 ～ 57cm、下端幅 31 ～ 35cm、深さ 20cm である。方向は、N-15° -E である。断面形は逆台形を呈する。堆積土は 1 層である。

遺物は土師器 50 点が出土したが、図示できる遺物はない。

SD124 溝跡（第 88 図）

調査区西区中部の 23・29 グリッドに位置する。重複関係は、P150・152・253 より古く、SD128 より新しい。確認した規模は、全長 341cm、上端幅 28 ～ 57cm、下端幅 20 ～ 52cm、深さ 14cm である。方向は、N-8° -E である。断面形は逆台形を呈する。堆積土は 1 層である。

遺物は土師器 4 点が出土したが、図示できる遺物はない。

SD125 溝跡（第 91 図）

調査区西区南部の 29・35・36 グリッドに位置する。重複関係は、SD126・141・148・149・150、SK244・245、P423・547 より新しい。確認した規模は、全長 1173cm 以上、上端幅 42 ～ 72cm、下端幅 18 ～ 39cm、深さ 16cm である。方向は、N-62° -W である。断面形は皿状を呈する。堆積土は 3 層に分かれる。

遺物は土師器 47 点、須恵器 6 点が出土した。この内、須恵器甕 1 点を掲載した（第 92 図 2）。口縁部から体部上部の破片資料である。口縁部は外傾し外面に凸帯が 1 条めぐる。外面に平行タタキ目、内面に青海波文がみられる。

SD126 溝跡（第 88 図）

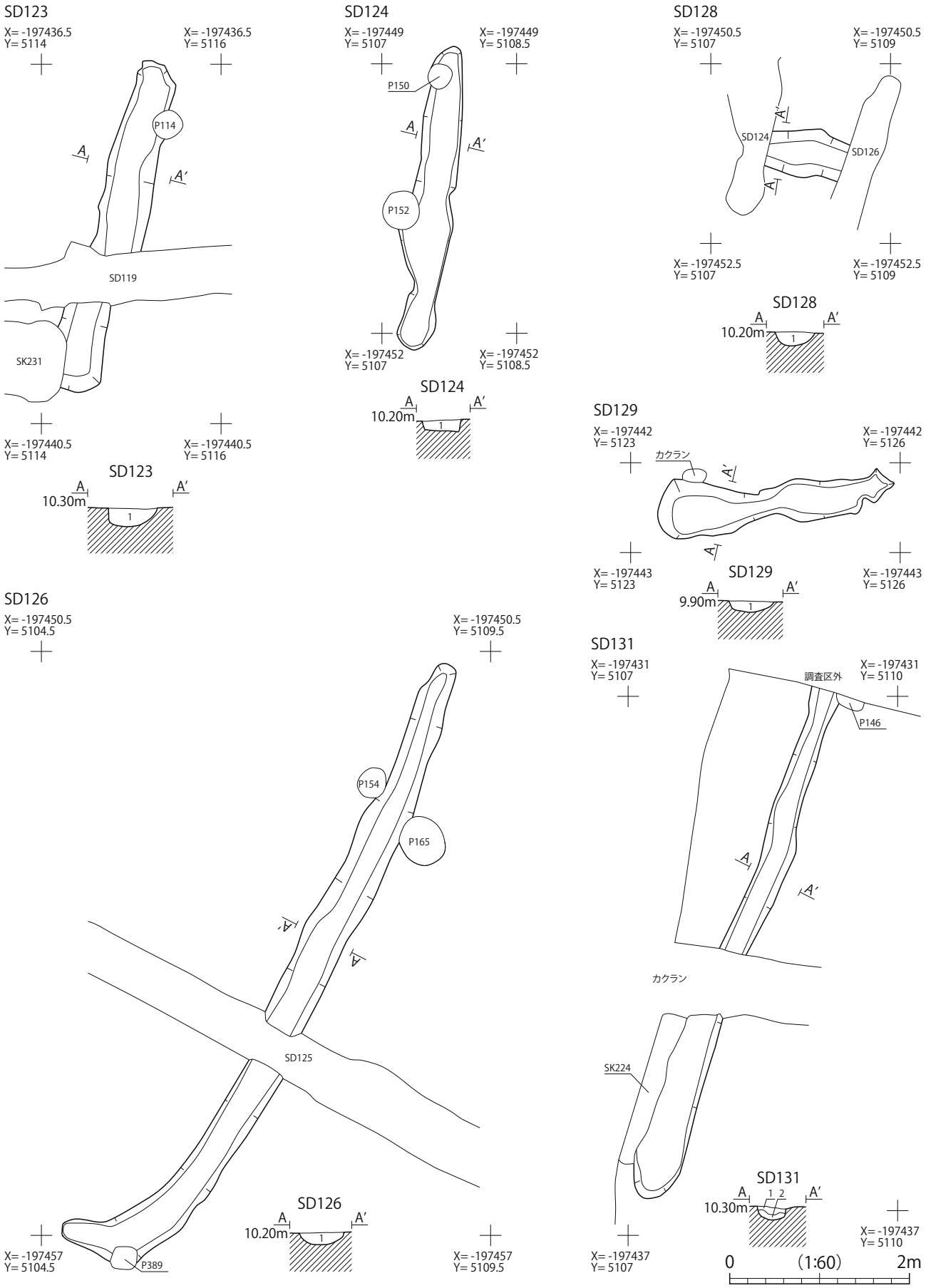
調査区西区南部の 29･35 グリッドに位置する。重複関係は、SD125、P154 より古く、SD128、P165･389 より新しい。確認した規模は、全長 766cm、上端幅 27 ～ 64cm、下端幅 12 ～ 43cm、深さ 14cm である。方向は、N-30° -E である。断面形は皿状を呈する。堆積土は 1 層である。

遺物は土師器 38 点、須恵器 1 点が出土した。この内、須恵器瓶類 1 点を掲載した（第 92 図 3）。頸部から口縁部のみ残存する。口縁部は外反する。

SD127 溝跡（第 91 図）

調査区西区南部の 36・42・47・48 グリッドに位置する。重複関係は、P392 より古く、P299・338・414・460・483･485 より新しい。確認した規模は、全長 814cm 以上、上端幅 58 ～ 66cm、下端幅 24 ～ 34cm、深さ 19cm である。方向は、N-42° -E と N-27° -E である。断面形は逆台形を呈する。堆積土は 3 層に分かれる。

遺物は土師器107点、須恵器5点が出土した。この内、土師器坏5点を掲載した（第92図4～6･10）。4は、外形が半球形の丸底坏である。口唇部が平坦で内傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。5は、平底風の丸底をもつ有段丸底坏である。内面にも屈曲がみられる。口縁部は外傾する。調整は、口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラミガキ後に黒色処理が施される。6も有段丸底坏である。


SD123
X= -197436.5
Y= 5114
X= -197436.5
Y= 5116
P114
A
A′
SD119
SK231
X= -197440.5
Y= 5114
X= -197440.5
Y= 5116
SD123
10.30m
1
SD124
X= -197449
Y= 5107
X= -197449
Y= 5108.5
P150
P152
X= -197452
Y= 5107
X= -197452
Y= 5108.5
SD124
10.20m
SD128
X= -197450.5
Y= 5107
X= -197450.5
Y= 5109
SD124
SD126
X= -197452.5
Y= 5107
X= -197452.5
Y= 5109
SD128
10.20m
SD129
X= -197442
Y= 5123
X= -197442
Y= 5126
カクラン
X= -197443
Y= 5123
X= -197443
Y= 5126
SD129
9.90m
SD126
X= -197450.5
Y= 5104.5
X= -197450.5
Y= 5109.5
P154
P165
SD125
X= -197457
Y= 5104.5
P389
SD126
10.20m
X= -197457
Y= 5109.5
SD131
X= -197431
Y= 5107
X= -197431
Y= 5110
調査区外
P146
カクラン
SK224
SD131
10.30m
1 2
X= -197437
Y= 5107
X= -197437
Y= 5110
0
(1:60)
2m

第 88 図　溝跡（1）

内面には屈曲がみられる。口縁部はやや内湾気味に外傾する。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。10は、外形が半球形の丸底坏である。写真のみ掲載した。内外面ともに段ないし屈曲はみられない。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。

SD128 溝跡（第 88 図）

調査区西区中部の 29 グリッドに位置する。確認した規模は、全長 86cm 以上、上端幅 41 ～ 55cm、下端幅 16 ～ 26cm、深さ 15cm である。方向は、N-79° -W である。断面形は、上部が開く「U」字形を呈する。堆積土は 1 層である。

遺物は土師器 11 点が出土したが、図示できる遺物はない。

SD129 溝跡（第 88 図）

調査区西区北部の 19 グリッドに位置する。重複関係は、P218 より新しい。確認した規模は、全長 266cm、上端幅 26 ～ 67cm、下端幅 13 ～ 40cm、深さ 14cm である。方向は、N-98° -W である。断面形は皿状を呈する。堆積土は 1 層である。

遺物は土師器 14 点が出土したが、図示できる遺物はない。

SD130 溝跡（第 89 図）

調査区西区北部の 6 グリッドに位置する。重複関係は、SI264、SK235、P27・28・224・235・249・250・251 より古い。確認した規模は、全長 426cm 以上、上端幅 27 ～ 53cm、下端幅 13 ～ 30cm、深さ 15cm である。方向は、N-12° -E である。断面形は、上部が開く「U」字形を呈する。堆積土は 3 層に分かれる。遺物は土師器 28 点が出土したが、図示できる遺物はない。

SD131 溝跡（第 88 図）

調査区西区北部の 5・11 グリッドに位置する。重複関係は、SK224、P71・146・147・148・241 より古く、SI264、P73・194 より新しい。確認した規模は、全長 597cm 以上、上端幅 24 ～ 55cm 以上、下端幅 11 ～ 49cm 以上、深さ 15cm である。方向は、N-20° -E である。断面形は逆台形を呈する。堆積土は 3 層に分かれる。

遺物は土師器 19 点が出土したが、図示できる遺物はない。

SD133 溝跡（第 89 図）

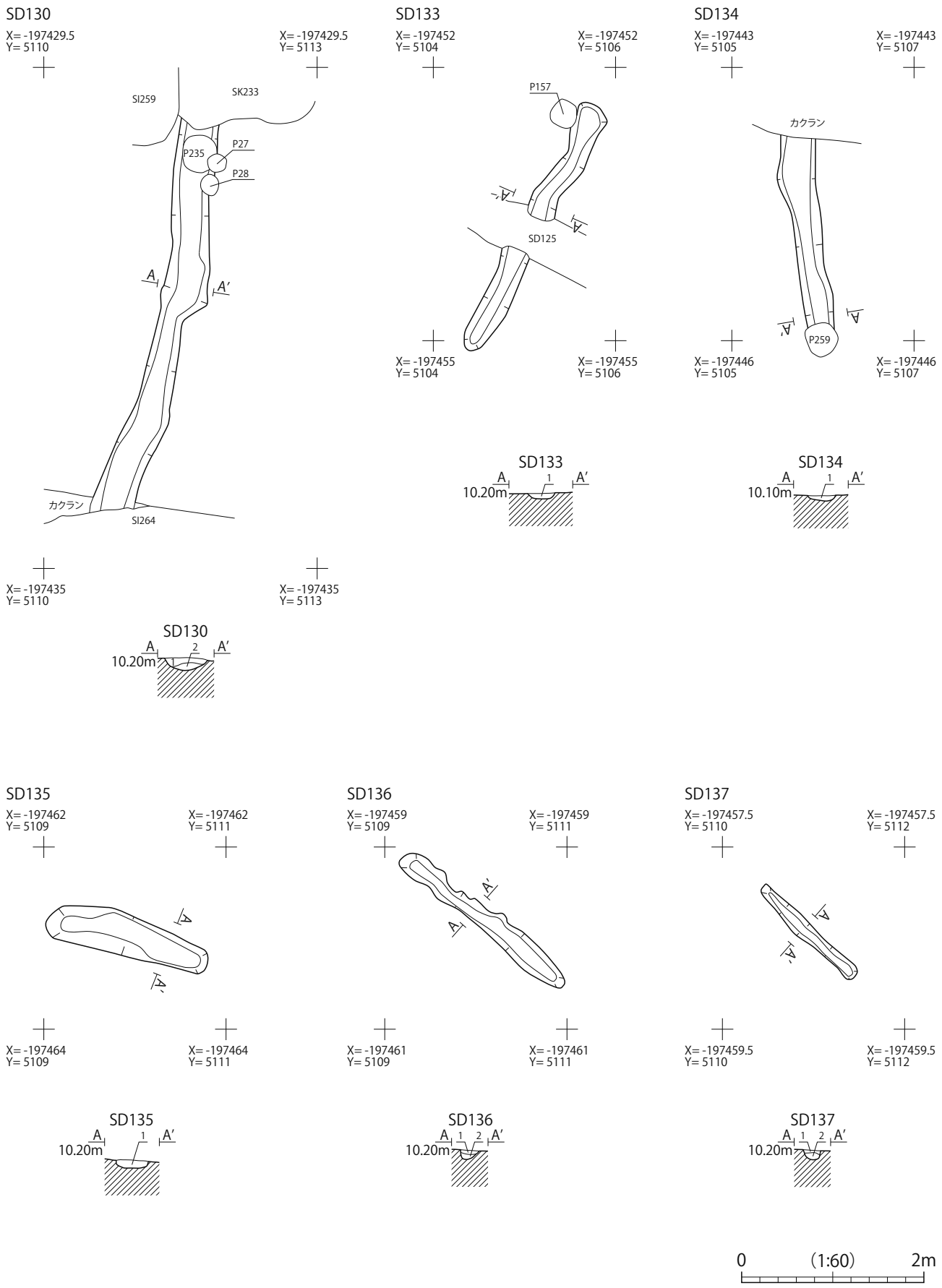
調査区西区南部の 29・35 グリッドに位置する。重複関係は、SD125、P157 より古い。確認した規模は、全長 302cm、上端幅 26 ～ 35cm、下端幅 12 ～ 25cm、深さ 6cm である。方向は、N-28° -E である。断面形は皿状を呈する。堆積土は 1 層である。

出土遺物はない。

SD134 溝跡（第 89 図）

調査区西区中部の 17･23 グリッドに位置する。重複関係は、P259 より古い。確認した規模は、全長 205cm 以上、上端幅 29 ～ 42cm、下端幅 12 ～ 20cm、深さ 6cm である。方向は、N-6° -W である。断面形は皿状を呈する。堆積土は 1 層である。

出土遺物はない。


SD130
X= -197429.5
Y= 5110
X= -197429.5
Y= 5113
SI259
SK233
P235
P27
P28
A
A′
カクラン
SI264
X= -197435
Y= 5110
X= -197435
Y= 5113
SD130
A
2
A′
10.20m
SD133
X= -197452
Y= 5104
X= -197452
Y= 5106
P157
A
A′
SD125
X= -197455
Y= 5104
X= -197455
Y= 5106
SD133
A
1
A′
10.20m
SD134
X= -197443
Y= 5105
X= -197443
Y= 5107
カクラン
A
A′
P259
X= -197446
Y= 5105
X= -197446
Y= 5107
SD134
A
1
A′
10.10m
SD135
X= -197462
Y= 5109
X= -197462
Y= 5111
A
A′
X= -197464
Y= 5109
X= -197464
Y= 5111
SD135
A
1
A′
10.20m
SD136
X= -197459
Y= 5109
X= -197459
Y= 5111
A
A′
X= -197461
Y= 5109
X= -197461
Y= 5111
SD136
A
1
2
A′
10.20m
SD137
X= -197457.5
Y= 5110
X= -197457.5
Y= 5112
A
A′
X= -197459.5
Y= 5110
X= -197459.5
Y= 5112
SD137
A
1
2
A′
10.20m
0
(1:60)
2m

第 89 図　溝跡（2）

SD135 溝跡（第 89 図）

調査区西区南部の 41・42 グリッドに位置する。重複関係は、SI268 より新しい。確認した規模は、全長 183cm、上端幅 29 ～ 48cm、下端幅 15 ～ 24cm、深さ 9cm である。方向は、N-75° -W である。断面形は皿状を呈する。堆積土は 1 層である。

遺物は土師器 9、須恵器 1 点が出土したが、図示できる遺物はない。

SD136 溝跡（第 89 図）

調査区西区南部の 35・36 グリッドに位置する。重複関係は、SD150・151・152 より新しい。確認した規模は、全長 225cm、上端幅 17 ～ 30cm、下端幅 8 ～ 15cm、深さ 11cm である。方向は、N-51° -W である。断面形は、上部が開く「U」字形を呈する。堆積土は 3 層に分かれる。

出土遺物はない。

SD137 溝跡（第 89 図）

調査区西区南部の 36 グリッドに位置する。重複関係は、SD150・151・152 より新しい。確認した規模は、全長 141cm、上端幅 12 ～ 20cm、下端幅 4 ～ 9cm、深さ 11cm である。方向は、N-46° -W である。断面形は「U」字形を呈する。堆積土は 3 層に分かれる。

出土遺物はない。

SD139 溝跡（第 90 図）

調査区西区南部の 35 グリッドに位置する。重複関係は、SK236 より古く、SI283、P378 より新しい。確認した規模は、全長 448cm 以上、上端幅 10 ～ 21cm、下端幅 5 ～ 17cm、深さ 10cm である。方向は、N-78° -W と N-23° -E である。断面形は逆台形を呈する。堆積土は 3 層に分かれる。

遺物は土師器 5 点が出土したが、図示できる遺物はない。

SD141 溝跡（第 90 図）

調査区西区南部の 35･36 グリッドに位置する。重複関係は、P459 より古い。確認した規模は、全長 612cm 以上、上端幅 47 ～ 103cm、下端幅 26 ～ 50cm、深さ 19cm である。方向は、N-101° -W と N-76° -W である。断面形は逆台形を呈する。堆積土は 3 層に分かれる。

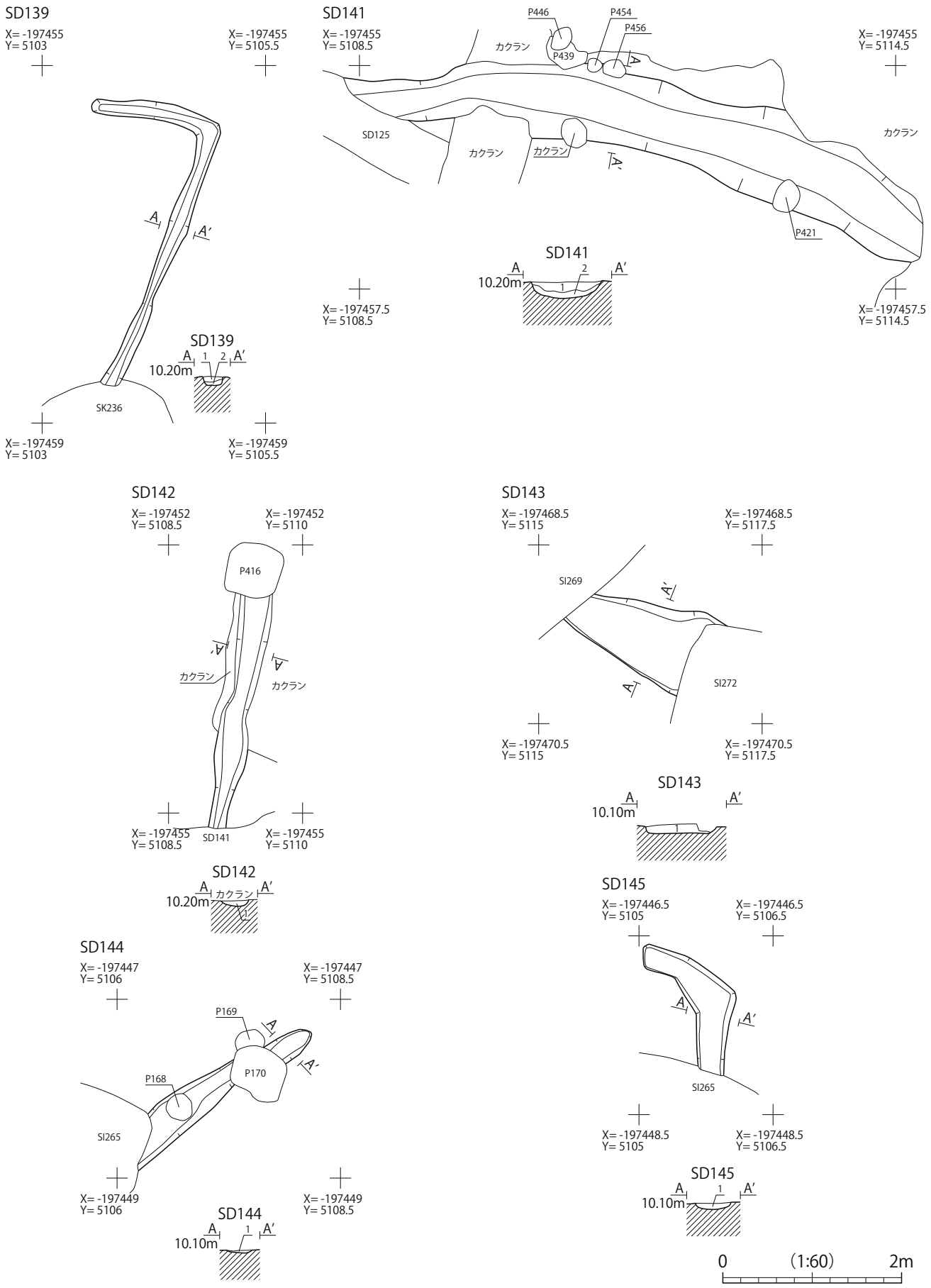
遺物は土師器 44 点、須恵器 4 点が出土した。この内、土師器甕 1 点、須恵器坏 1 点を掲載した（第 92 図 7・11）。11 は、短い口縁部が強く外反する。写真のみ掲載した。調整は、内外面ともに口縁部ヨコナデ、体部ハケメである。

7 は、口縁部から体部が極わずか内湾気味に外傾し、外形が逆台形を呈する。底面には手持ちヘラケズリ痕がみられる。

SD142 溝跡（第 90 図）

調査区西区南部の 29・35 グリッドに位置する。重複関係は、SD141,P416 より古い。確認した規模は、全長 263cm 以上、上端幅 18 ～ 36cm、下端幅 6 ～ 27cm、深さ 7cm である。方向は、N-10° -E である。断面形は皿状を呈する。堆積土は 1 層である。

遺物は土師器 6 点が出土したが、図示できる遺物はない。


SD139
X= -197455
Y= 5103
X= -197455
Y= 5105.5
A
A′
SK236
X= -197459
Y= 5103
X= -197459
Y= 5105.5
SD139
A
1
2
A′
10.20m
SD141
X= -197455
Y= 5108.5
P446
P454
P456
カクラン
P439
A
X= -197455
Y= 5114.5
SD125
カクラン
カクラン
A′
カクラン
P421
SD141
A
2
A′
10.20m
1
X= -197457.5
Y= 5108.5
X= -197457.5
Y= 5114.5
SD142
X= -197452
Y= 5108.5
X= -197452
Y= 5110
P416
A′
A
カクラン
カクラン
X= -197455
Y= 5108.5
SD141
X= -197455
Y= 5110
SD142
A
カクラン
A′
10.20m
1
SD143
X= -197468.5
Y= 5115
X= -197468.5
Y= 5117.5
SI269
A′
A
SI272
X= -197470.5
Y= 5115
X= -197470.5
Y= 5117.5
SD143
A
A′
10.10m
SD144
X= -197447
Y= 5106
X= -197447
Y= 5108.5
P169
A
A′
P170
P168
SI265
X= -197449
Y= 5106
X= -197449
Y= 5108.5
SD144
A
1
A′
10.10m
SD145
X= -197446.5
Y= 5105
X= -197446.5
Y= 5106.5
A
A′
SI265
X= -197448.5
Y= 5105
X= -197448.5
Y= 5106.5
SD145
A
1
A′
10.10m
0
(1:60)
2m

第 90 図　溝跡（3）

SD143 溝跡（第 90 図）

調査区西区南部の 48・54 グリッドに位置する。確認した規模は、全長 133cm 以上、上端幅 46 ～ 97cm、下端幅 38 ～ 89cm、深さ 10cm である。方向は、N-59° -W である。断面形は逆台形を呈する。堆積土は 1 層である。

遺物は土師器 4 点が出土したが、図示できる遺物はない。

SD144 溝跡（第 90 図）

調査区西区中部の 23 グリッドに位置する。重複関係は、SI265、P168・169・170 より古い。確認した規模は、全長 212cm 以上、上端幅 17 ～ 44cm、下端幅 12 ～ 33cm、深さ 3cm である。方向は、N-57° -E である。断面形は皿状を呈する。堆積土は 1 層である。

出土遺物はない。

SD145 溝跡（第 90 図）

調査区西区中部の 23 グリッドに位置する。重複関係は、SI265、P262 より古い。確認した規模は、全長 184cm 以上、上端幅 28 ～ 57cm、下端幅 21 ～ 43cm、深さ 8cm である。方向は、N-62° -W と N-5° -E である。断面形は皿状を呈する。堆積土は 1 層である。

出土遺物はない。

SD146 溝跡（第 87 図）

調査区西区南部の 42 グリッドに位置する。第 91 図に小溝状遺構群として示した溝跡（SD147 ～ 152）と同一の規模と方向を持つことから、一連の遺構であると考えられる。重複関係が SI268 より古い点も、小溝状遺構群と矛盾しない。確認した規模は、全長 101cm、上端幅 18 ～ 27cm 以上、下端幅 18cm、深さ 8cm である。方向は、N-33° -E である。断面形は皿状を呈する。堆積土は 1 層である。

出土遺物はない。

SD147 溝跡（第 91 図）

調査区西区南部の 36・42 グリッドに位置する。重複関係は、SD127、P302 より古い。確認した規模は、全長 216cm 以上、上端幅 23 ～ 35cm、下端幅 10 ～ 18cm、深さ 9cm である。方向は、N-33° -E である。断面形は皿状を呈する。堆積土は 1 層である。

出土遺物はない。

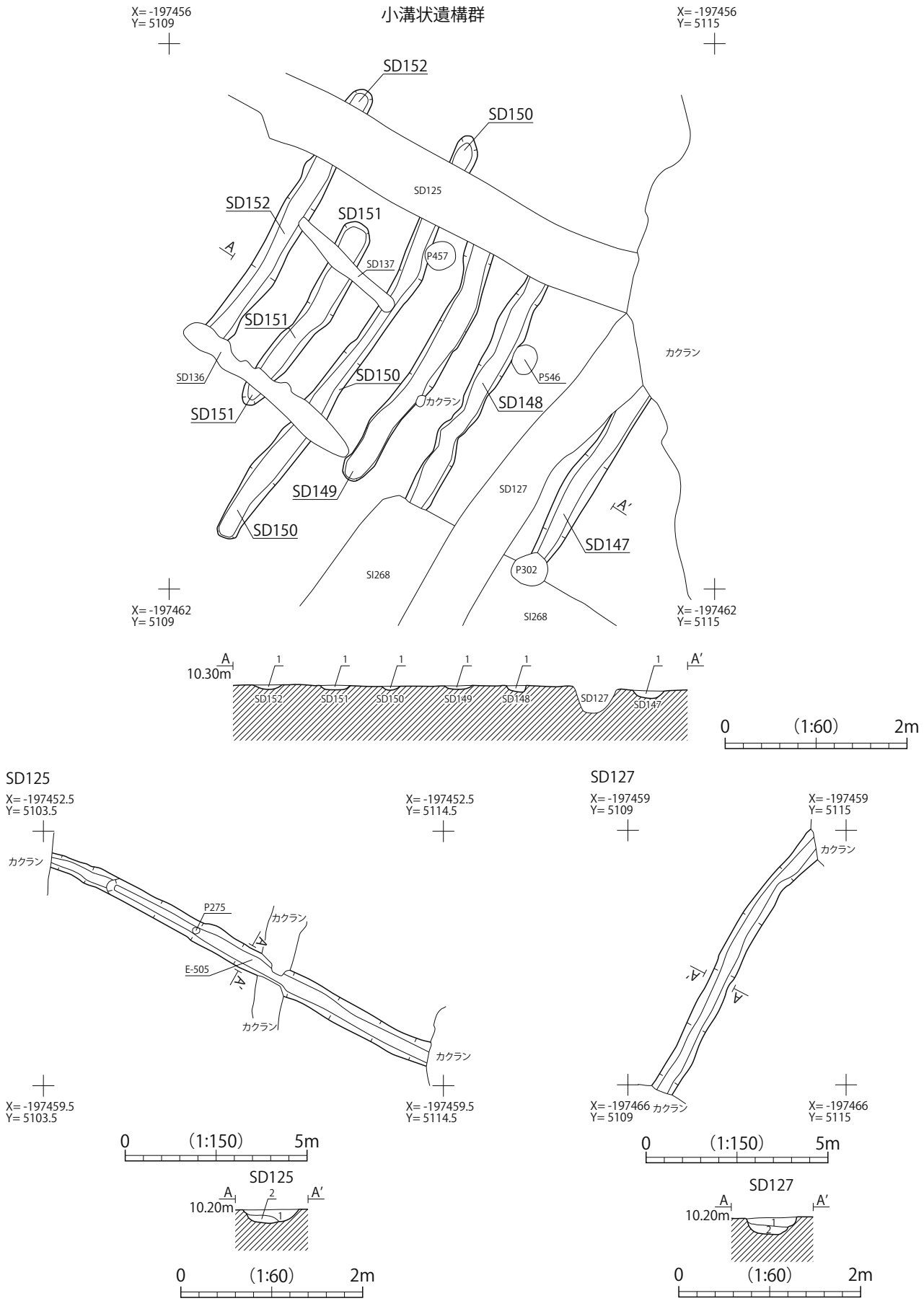
SD148 溝跡（第 91 図）

調査区西区南部の 36・42 グリッドに位置する。重複関係は、SI268、SD125、P546 より古い。確認した規模は、全長 281cm 以上、上端幅 21 ～ 36cm、下端幅 14 ～ 23cm、深さ 7cm である。方向は、N-29° -E である。断面形は皿状を呈する。堆積土は 1 層である。

出土遺物はない。

SD149 溝跡（第 91 図）

調査区西区南部の 36・42 グリッドに位置する。重複関係は、SD125 より古い。確認した規模は、全長 295cm 以上、上端幅 27 ～ 32cm、下端幅 18 ～ 26cm、深さ 4cm である。方向は、N-32° -E である。断面形は皿状を呈する。


小溝状遺構群
X= -197456
Y= 5109
X= -197456
Y= 5115
SD152
SD150
SD125
SD152
SD151
SD137
P457
SD151
SD136
SD150
SD151
カクラン
P546
SD148
SD149
SD127
SD150
SD147
SI268
P302
SI268
X= -197462
Y= 5109
X= -197462
Y= 5115
10.30m
SD152
SD151
SD150
SD149
SD148
SD127
SD147
0 (1:60) 2m
SD125
X= -197452.5
Y= 5103.5
X= -197452.5
Y= 5114.5
カクラン
P275
カクラン
E-505
カクラン
カクラン
X= -197459.5
Y= 5103.5
X= -197459.5
Y= 5114.5
0 (1:150) 5m
SD125
10.20m
0 (1:60) 2m
SD127
X= -197459
Y= 5109
X= -197459
Y= 5115
カクラン
X= -197466
Y= 5109
カクラン
X= -197466
Y= 5115
0 (1:150) 5m
SD127
10.20m
0 (1:60) 2m

第 91 図　溝跡（4）

溝跡観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	方向	規模(cm)				層位	土色	土性	備考	重複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SD123	12・18	N-15°-E	377	44～57	31～35	20	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～10mmの粒状に少量含む。	SD119、SK231、P114より古く、P124・135より新しい。
SD120	6・12	N-17°-E	715	48～78	31～58	15～25	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～5mmの粒状に少量含む	SI264、SK240より新しく、SI257、SB1(SK225)、P78・140より古い。
SD124	23・29	N-8°-E	341	28～57	20～52	14	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～10mmの粒状に少量含む。	P150・152・253より古く、SD128より新しい。
SD125	29・35・36	N-62°-W	(1173)	42～72	18～39	16	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径3～5mmの粒状にやや多く含む。	SD126・141・148・149・150、SK244・245、P423・547より新しい。
							2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。	
SD126	29・35	N-30°-E	766	27～64	12～43	14	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径3～5cmのブロック状に多く含む。	SD125、P154より古く、SD128、P165・389より新しい。
SD127	36・42・47・48	N-42°-E N-27°-E	(814)	58～66	24～34	19	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～3mmの粒状に少量含む。	P392より古く、P299・338・414・460・483・485より新しい。
							2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～3cmの粒状に少量含む。	
SD128	29	N-79°-W	(86)	41～55	16～26	15	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状にやや多く含む。	
SD129	19	N-98°-W	266	26～67	13～40	14	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径0.3～5cmの粒状に多く含む。	P218より新しい。
SD130	6	N-12°-E	(426)	27～53	13～30	15	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～3cmの粒状に少量含む。	SI264、SK235、P27・28・224・235・249・250・251より古い。
							2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～3cmのブロック状に多く含む。	
SD131	5・11	N-20°-E	(597)	24～(55)	11～(49)	15	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径0.3～1cmの粒状に少量含む。	SK224、P71・146・147・148・241より古く、SI264、P73・194より新しい。
							2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多く含む。	
SD133	29・35	N-28°-E	302	26～35	12～25	6	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径0.5～1cmの粒状に少量含む。	SD125、P157より古い。
SD134	17・23	N-6°-W	(205)	29～42	12～30	6	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～3cmの粒状に多く含む。	P259より古い。
SD135	41・42	N-75°-W	183	29～48	15～24	9	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～3cmの粒状にやや多く含む。 焼土を径3～5mmの粒状に少量含む。	SI268より新しい。
SD136	35・36	N-51°-W	225	17～30	8～15	11	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～3mmの粒状にやや多く含む。	SD150・151・152より新しい。
							2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。	
SD137	36	N-46°-W	141	12～20	4～9	11	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～5mmの粒状に多く含む。	SD150・151・152より新しい。
							2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多く含む。	
SD139	35	N-78°-W N-23°-E	(448)	10～21	5～17	10	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～3mmの粒状にやや多く含む。	SK236より古く、SI283、P378より新しい。
							2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径0.1～1cmの粒状に多く含む。	
SD141	35・36	N-101°-W N-76°-W	(612)	47～103	26～50	19	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～5mmの粒状に少量含む。	P459より古い。
							2	10YR/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径0.5～2cmの粒状に多く含む。	
SD142	29・35	N-10°-E	(263)	18～36	6～27	7	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径0.5～1cmの粒状に多く含む。	SD141,P416より古い。
SD143	48・54	N-59°-W	(133)	46～97	38～89	10	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～10mmの粒状に少量含む。 Ⅳ層ブロックをやや多く含む。(南側)	
SD144	23	N-57°-E	(212)	17～44	12～33	3	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径3～5mmの粒状に少量含む。	SI265、P168・169・170より古い。
SD145	23	N-62°-W N-5°-E	(184)	28～57	21～43	8	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径3～5mmのブロック状にやや多く含む。	SI265、P262より古い。
SD146	42	N-33°-E	101	18～27	18	8	1	10YR3/4暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～3mmの粒状に多く含む	SI268より古い。
SD147	36・42	N-33°-E	(216)	23～35	10～18	9	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径0.5～1cmの粒状に多く含む。	SD127、P302より古い。
SD148	36・42	N-29°-E	(281)	21～36	14～23	7	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～5mmの粒状にやや多く含む。	SI268、SD125、P546より古い。
SD149	36・42	N-32°-E	(295)	27～32	18～26	4	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～3mmの粒状に多く含む。	SD125より古い。
SD150	36・41・42	N-21°-E N-36°-E	521	20～36	9～23	4	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～3mmの粒状に多く含む。	SD125・136・137、P457より古い。
SD151	36	N-35°-E	234	26～34	14～24	5	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～3mmの粒状に多く含む。	SD136・137より古い。
SD152	35・36	N-33°-E	(313)	27～34	14～21	5	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径1～3mmの粒状にやや多く含む。	SD125・136・137より古い。

堆積土は1層である。

出土遺物はない。

SD150 溝跡（第91図）

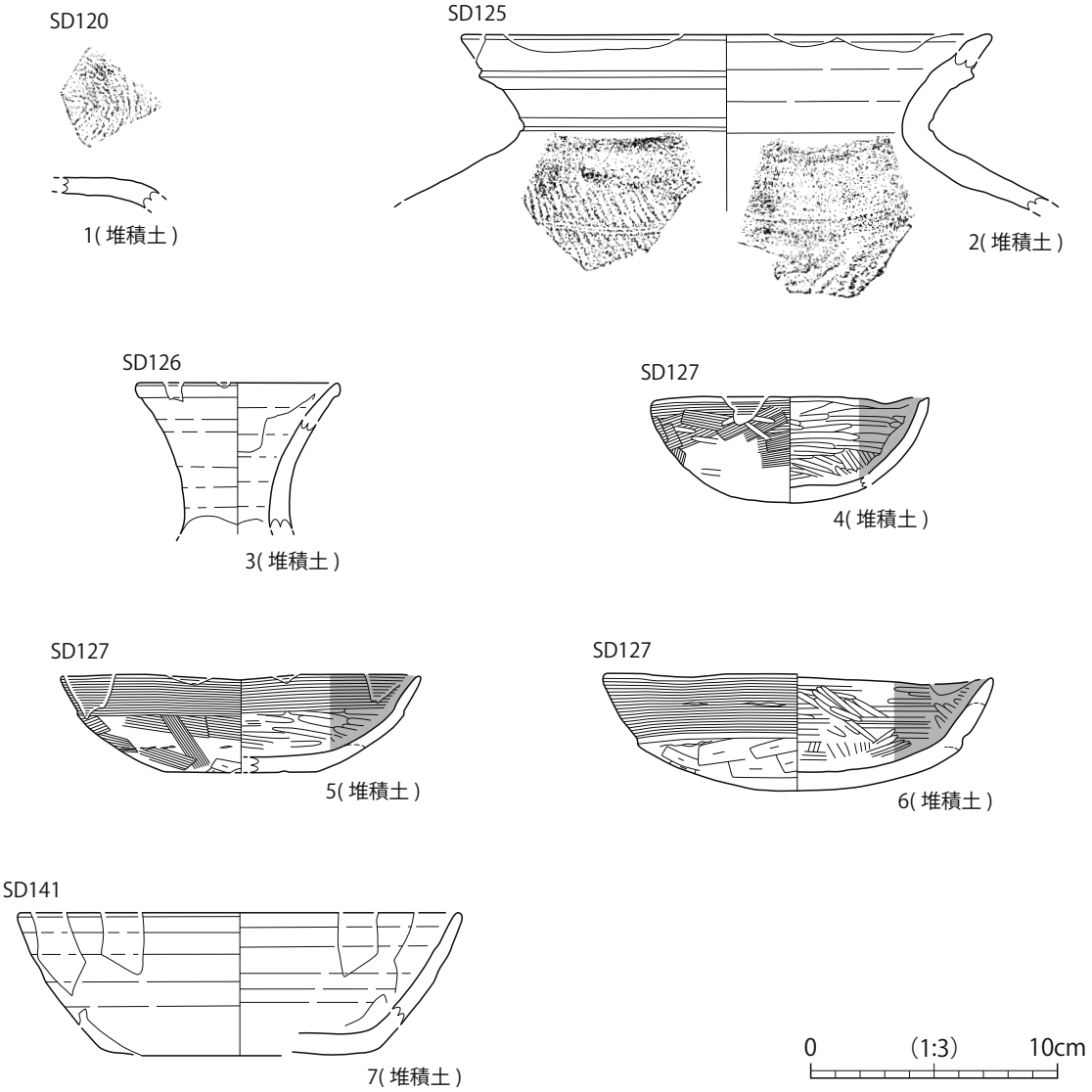
調査区西区南部の36・41・42グリッドに位置する。重複関係は、SD125・136・137、P457より古い。確認した規模は、全長521cm、上端幅20～36cm、下端幅9～23cm、深さ4cmである。方向は、N-21°-EとN-36°-Eである。断面形は皿状を呈する。堆積土は1層である。

出土遺物はない。

SD151 溝跡（第91図）

調査区西区南部の36グリッドに位置する。重複関係は、SD136・137より古い。確認した規模は、全長234cm、上端幅26～34cm、下端幅14～24cm、深さ5cmである。方向は、N-35°-Eである。断面形は皿状を呈する。堆積土は1層である。

出土遺物はない。



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	E-34	SD120	堆積土	須恵器	瓶類？	—	—	(1.2)	ﾛｸﾛ調整 列点文 (同心円状)	ﾛｸﾛ調整	内面・破断面漆付着	60-13
2	E-35	SD125	堆積土	須恵器	甕	(21.1)	—	(7.1)	ﾛｸﾛ調整 平行ﾀﾀｷ目・ﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛ調整 青海波文	外面自然釉　凸帯 1 条 骨針あり	60-15
3	E-36	SD126	堆積土 1 層	須恵器	瓶類	(8.2)	—	(6.1)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整		60-16
4	C-154	SD127	堆積土	土師器	坏	11.2	—	4.3	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり 口唇部一部摩滅　外面一部剥落	60-17
5	C-156	SD127	堆積土	土師器	坏	14.6	6.0	4.0	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	60-18
6	C-157	SD127	堆積土	土師器	坏	15.7	—	4.8	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　外面摩滅 骨針・赤褐色粒多量	60-19
7	E-40	SD141	堆積土	須恵器	坏	(17.8)	(11.2)	5.8	ﾛｸﾛ調整 底部：手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	骨針あり	60-21
8	C-153	SD119	堆積土	土師器	高坏	—	—	—	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	脚部のみスカシあり　赤褐色粒多量　写真掲載のみ	60-12
10	C-155	SD127	堆積土	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり 赤褐色粒多量　写真掲載のみ	60-20
11	C-159	SD141	堆積土	土師器	甕	—	—	(7.2)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ	写真掲載のみ	60-22

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
9	P-9	SD120	堆積土	土製品	土錘	(4.8)	(3.7)	(1.8)	30.0	破片　写真掲載のみ	60-14

第 92 図　溝跡出土遺物

SD152 溝跡（第 91 図）

調査区西区南部の 35・36 グリッドに位置する。重複関係は、SD125・136・137 より古い。確認した規模は、全長 313cm 以上、上端幅 27 ～ 34cm、下端幅 14 ～ 21cm、深さ 5cm である。方向は、N-33° -E である。断面形は皿状を呈する。堆積土は 1 層である。

出土遺物はない。

（4）井戸跡（第 93 ～ 103 図）

調査区西区で 1 基（SE1）と東区で 1 基（SE2）、計 2 基の井戸跡を確認した。2 基ともに郡山官衙期の井戸跡である可能性が高いと考えられる。なお、SE1 の記述においては、同一地点で上下に重複し廃絶と構築に連続性が窺われることから、SK240 土坑についても併せて行う。

SE1 井戸跡・SK240 土坑（第 93 ～ 99 図）

調査区西区北部の 12 グリッドで、SK240 が SE1 の直上に位置する。検出面は SI264 の床面であるが、重複関係が SI264 の主柱穴（P174）や周溝より新しいことから、本来の掘り込み面は SI264 の堆積土上面（基本層Ⅳ b 層上面）と考えられる。SE1 と SK240 の本来の深さは残存値より 25cm 程深い。重複関係は、SK240 が SD120 より古く、SI264 より新しい。SE1 が直接重複関係をもつのは SK240 のみであるが、後述のとおり SE1 の廃絶から SK240 の構築までが短期間に連続して行われた可能性を考慮し、SK240 と同様に SD120 より古く SI264 より新しいものと考えられる。

以下の記述は、両遺構の形成過程について概説した後、各遺構の個別説明、遺物の出土状況・接合関係、掲載遺物の順に行う。

【形成過程】SE1 の構築から廃絶、SK240 の構築までの全体的な遺構の形成過程について記述する（第 93 図中、遺構の形成過程 模式図を参照）。SE1 は、最下部に井戸の浄化施設と考えられる石敷を敷設した後、井戸枠を設置している。その後、井戸の使用開始時または廃棄時に土師器甕等の遺物、そして廃棄時に大型の礫が投下され、井戸枠は一部を残し撤去されたと考えられる。井戸枠の撤去後は、円礫を多量に含む土層（SE1・堆積土 1 層）により埋められている。SK240 の壁面下部における外側への膨らみは、SE1 の裏込めと共に壁面が崩落したためと考えられる。SE1・1 層上面が、そのまま SK240 の底面となる。SK240 内の堆積土が底面上に間層を挟まず堆積しており、SK240 と SE1 の間に接合遺物（第 95 図 9）もあることから、SE1 の廃絶から SK240 の構築は、比較的短期間に連続して行われた可能性が高い。

【SE1】本来の平面形は不明であるが、確認範囲においては楕円形を呈する。掘り方の規模は、長軸 159cm、短軸 131cm、検出面からの深さ 226cm である。断面形は逆台形を呈する。底面は平坦で、壁面はやや外傾し直線的に立ち上がる。堆積土は 4 層に分かれる。1 層は多量の円礫を含む埋土で井戸枠の大部分を撤去した後の堆積土である。2 層は井戸機能時の井戸枠内堆積土である。3 層は井戸枠の掘り方で多量の円礫を裏込めとして含んでいる。4 層は井戸底面の浄化施設と考えられる石敷層で、この上面に井戸枠が設置されている。径 3 ～ 10cm の円礫を利用している。

井戸枠は、断面が弧状に湾曲する、刳り抜き材とみられる 3 つの材（第 97 図 23，98・99 図）と、より平坦な板材（第 97 図 24）の組み合わせから成り、北側の 2 枚が半円形、南側の 2 枚が「く」の字形に配置される。井戸枠の平面形は、半円半角の変則的な形状である。北側の 2 枚については同一の丸太分割材を刳り抜いて製作された可能性が高く、転用材の可能性も考えられる。また、北側と南側の井戸枠の合わせ目には、東西方向に約 10cm のずれがあり、これは井戸枠撤去時にずれた可能性が考えられる。井戸枠は全体的に表面の腐食が進み、加工痕はほぼ

下端部にのみ残存する。材の結合に関わる枘（ほぞ）や緊縛に関わる紐等の痕跡は確認できなかった。井戸枠の規模は、井戸枠内の直径が 49cm（北側の材で計測）で、推定される井戸枠の全長は、4 層上面から基本層Ⅳ b 層上面までで 236cm である。なお、井戸枠の樹種はコナラ属である（第 6 章参照）。

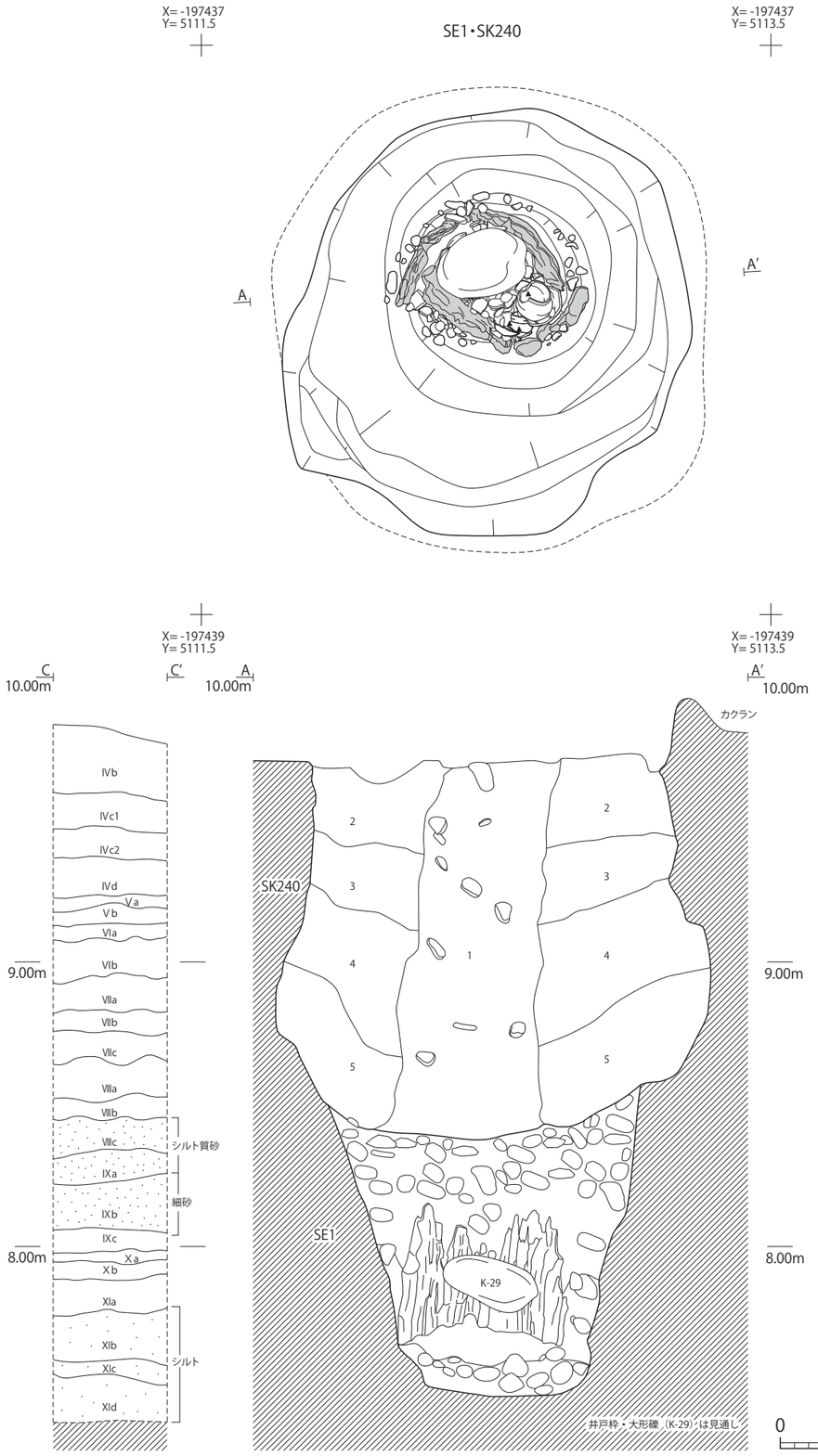
【SK240】平面形は概ね円形を呈する。規模は、上端で長軸 159cm、短軸 131cm で、検出面からの深さ 134cm である。断面形は、下部が外側に膨らむフラスコ状を呈する。底面は、中央がやや低い皿状を呈する。堆積土は 5 層に分かれる。1 層は底面中央の直上に幅 40 ～ 53cm で垂直方向に堆積する暗褐色の砂質シルト層である。1 層中には径 5 ～ 15cm の円礫が多く含まれる。2 ～ 5 層は 1 層の周囲に堆積する黄褐色の粘質シルト層で掘り方とした。1 層部分には何らかの施設等があったものと考えられるが、土師器の小片以外に遺物の出土はなく、木質の痕跡等も確認できなかった。

【遺物の出土状況・接合関係】SE1 では、1 層から土師器 4 点、2 層から土師器 50 点、須恵器 1 点、石製品 1 点、磨面のある大型礫 1 点、植物遺存体、4 層上面から土師器 2 点、須恵器 2 点、4 層から土師器 1 点が出土した。3 層出土の遺物はない。また、1 層の甑を除いて甕以外の土師器は出土していない。2 層からは、ほぼ完形に近い 4 個体の土師器甕を主体として、口縁部または底部のみの破片資料を含めると、最大で 14 個体分の甕が出土している。これらの甕は平面的な位置を変えながらも複数の個体が上下に重複し、その出土レベルは 4 層上面近くから大型礫の直下まで、層厚 15 ～ 20cm 程の 2 層全体に及ぶ。SK240 では、1 層から土師器 51 点、須恵器 1 点、2 ～ 5 層の掘り方から土師器 28 点が出土したが、図示できる遺物はない。なお、SK240 単独での出土遺物に掲載遺物はない。

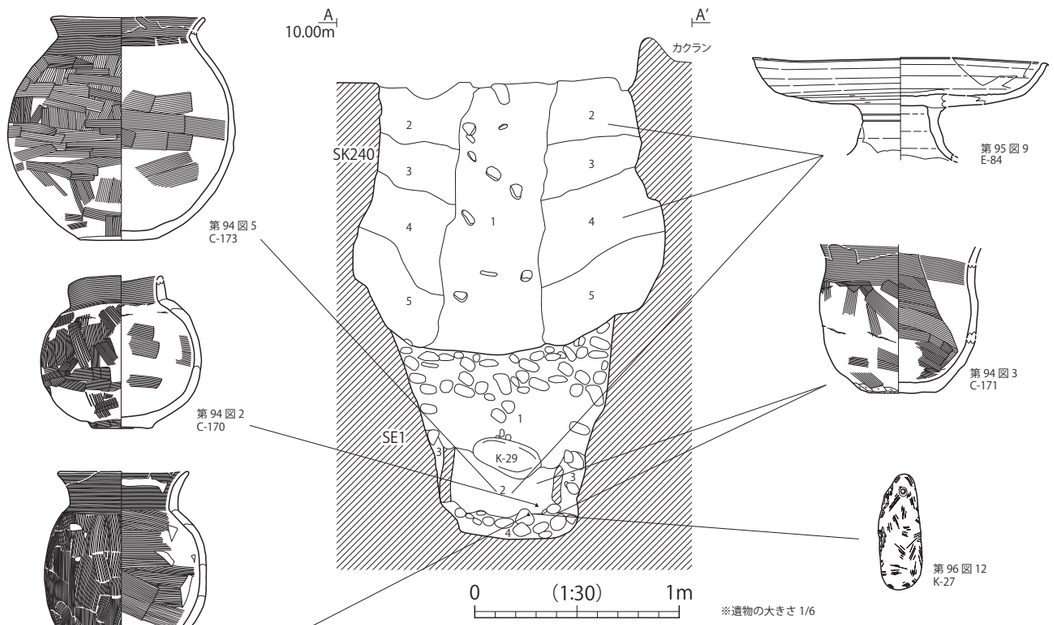
SE1 出土土器の遺構内または他遺構との接合は、① 2 層 + 井戸枠下（4 層上面）が 2 例（第 94 図 3・6）、② 2 層 + 4 層が 1 例（第 94 図 1）、③ 2 層 + 4 層上面が 1 例（第 96 図 16）、④ 2 層内での接合が 5 例（第 94 図 2・4・5・7、第 96 図 19）、⑤ 2 層 + SK240・2 層 + 同 4 層が 1 例（第 95 図）、⑥ 1 層 + 2 層 + SI261 堆積土が 1 例（第 94 図 8）である。①・②の接合例は井戸枠設置前の土器の存在を示唆するが、井戸枠が撤去時に動いている可能性があり断定はできない。⑤の接合例は、SE1 の廃棄と SK240 の構築の時間的な近さを示す可能性が高い。須恵器高坏の口縁部小片のみが SE1・2 層から出土し、その他の大部分が SK240 の掘り方から出土した。

【掲載遺物】井戸枠を除く掲載遺物は、土師器甕 16 点、同甑 1 点、須恵器高坏 1 点、同甕 2 点、有孔石製品 1 点、磨面のある大型礫 1 点である（第 94 ～ 96 図）。

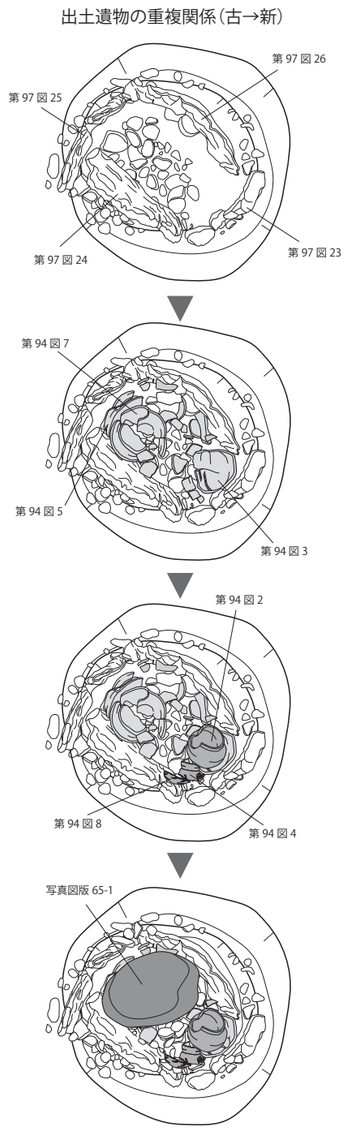
1 ～ 8・13 ～ 21 は土師器甕である。1 は、外反する口縁部の破片資料である。口縁部と体部の境には僅かに稜がみられる。調整は、内外面共にヨコナデである。2 は、体部中位に最大径をもち短い口縁部が直立する小型の甕である。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部周縁部ナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。口縁部から体部上部の一部が破損（写真図版 81-1）する、ほぼ完形に近い資料である。斜位の状態で出土した。3 は、体部中位に最大径をもつ小型の甕である。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部付近ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。口縁部のほぼ全てを欠損する（写真図版 81-3）。横位の状態で出土し、一部は井戸枠下で確認した。4 は、体部中位に最大径をもち口縁部が直立気味に外反する中型の甕である。口縁部と体部の境には弱い稜がみられる。調整は、外面が外面が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、底部周縁部ナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。口唇部の大部分が欠損する（写真図版 81-4）。斜位の状態で出土し体部の片側に細かい破損がみられる。その破損範囲の中に、破損の起点となった外部からの衝撃痕が確認できる（写真図版 81-2）。5 は、体部が中位に最大径をもち球形を呈する中型の甕である。口縁部は短く外傾する。調整は、外面が口縁部～体部上部ヨコナデ、体部ヘラナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。全体が破損した横位の状態で 2 層最下部から出土した。体部の片側に細かい破損がみられる。6 は、体部下部から底部のみが残存する。調整は、外面が体部中部ヘラナデ、ヘラミガキ、体部下部ハケメ後ヘラケズリ、底部ヘラケズリ、内面はヘラナデである。破片の一部は井戸枠の下で確認した。7 も体部下部から底部のみが残存する。調整は、外面が体部下部ハ



第 93 図　SE1 井戸跡・SK240

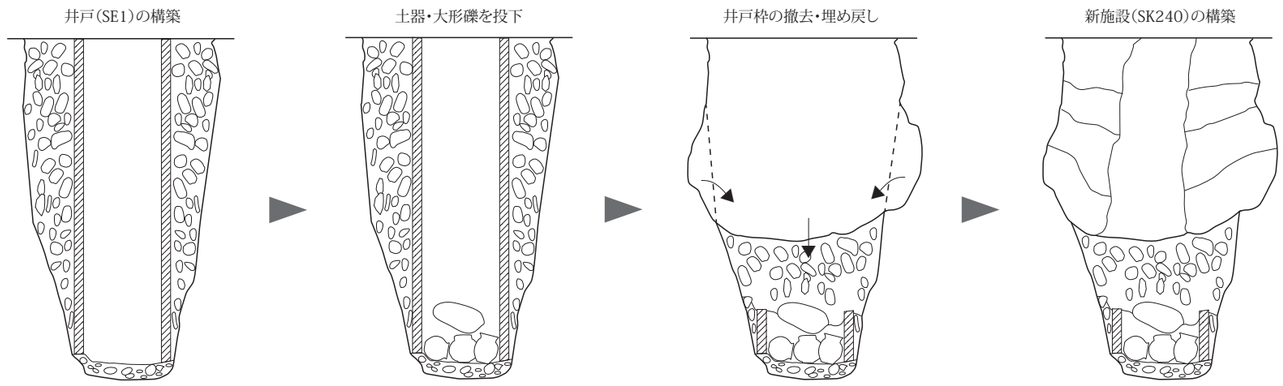


遺物出土・接合状況

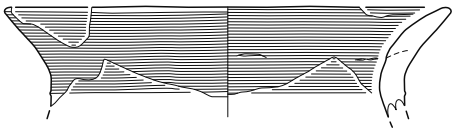


SK240・SE1 観察表

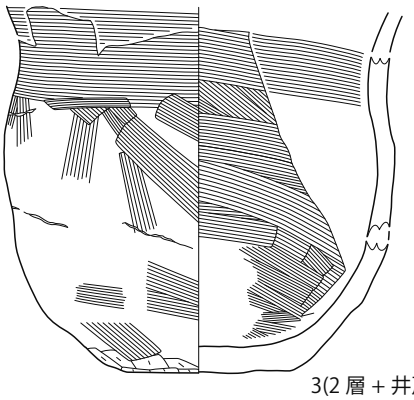
遺構名	ｹﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	部位	層位	土色	土性	備考	重複
SK240	12	円形	159 × 131 165 × 162	134	堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	地山土を径1 ～3mm の粒状にやや多く含む。径1 ～20cm の円礫をやや多く含む。	SD120より古く SI264より新しい。
					掘り方	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘質シルト	地山土を径 5 ～ 10mm の粒状に多量含む。	
						3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘質シルト	地山土を径 5 ～ 10mm の粒状に多量含む。10YR4/2 灰黄褐色粘土を径 3 ～ 5mm のブロック状に少量含む。	
						4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘質シルト	地山土を径 1 ～ 5cm のブロック状に多量含む。10YR4/2 灰黄褐色粘土を径 3 ～ 5mm のブロック状にやや多く含む。	
						5	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘質シルト	地山土を径 1 ～ 5cm のブロック状に多量含む。10YR4/2 灰黄褐色粘土を径 3 ～ 10mm のブロック状に多量含む。	
SE1	12	楕円形	159 × 131	226	井戸枠撤去後堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	円礫（1 ～ 20cm：主体は 5 ～ 10cm）多量含む。（K-29 大型礫の直上層）	SK240より古く、 SI264より新しい。
					井戸枠内堆積土	2	10YR4/1 褐灰色	シルト質粘土	土器・植物遺存体・炭化物含む。（K-29 大型礫の直下層）	
					掘り方	3	10YR4/1 褐灰色	粘土	円礫（1 ～ 10cm：主体は 5 ～ 10cm）多量含む。	
					浄化施設	4	10YR4/1 褐灰色	粘質シルト	石敷層。円礫（1 ～ 15cm：主体は 5 ～ 10cm）多量含む。	



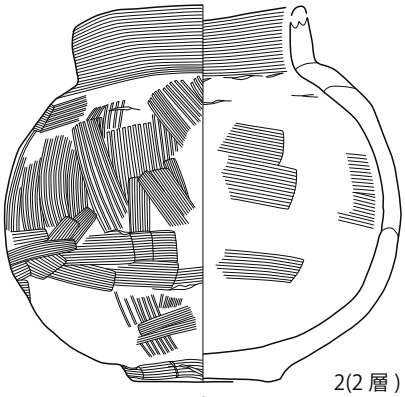
遺構の形成過程　模式図



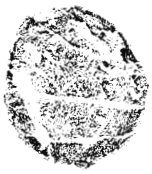
1(2+4 層)

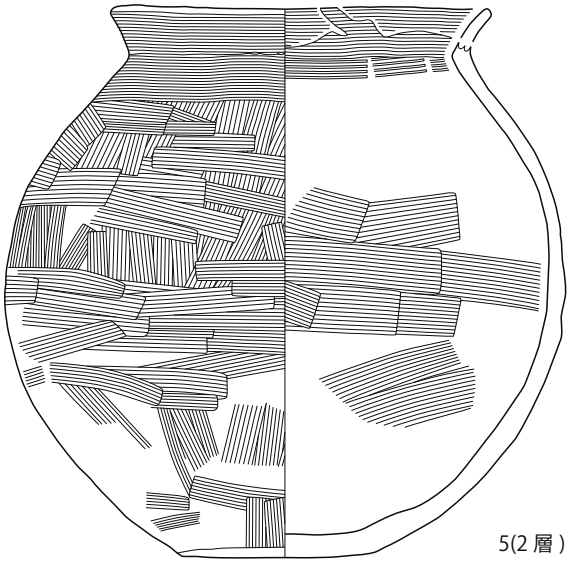


3(2 層 + 井戸枠下)

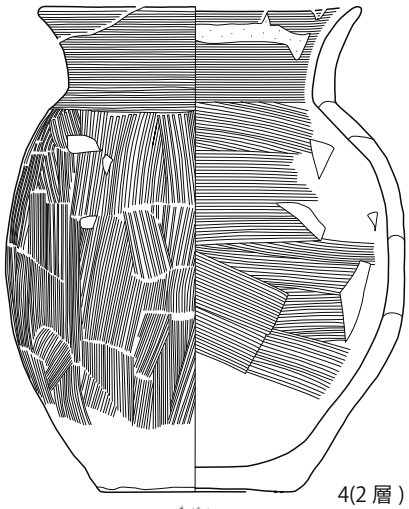


2(2 層)

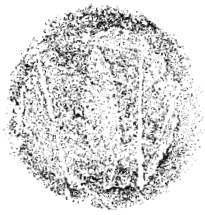


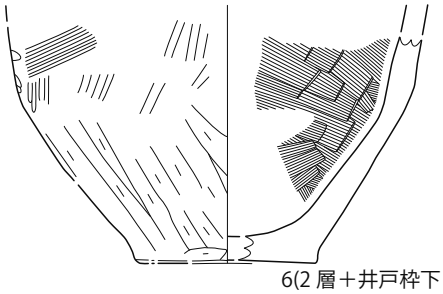


5(2 層)

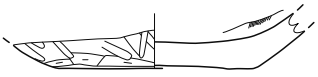


4(2 層)

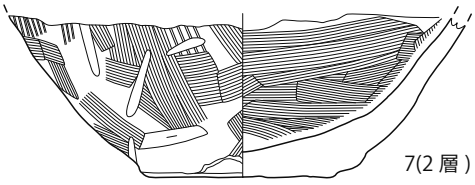




6(2 層＋井戸枠下)



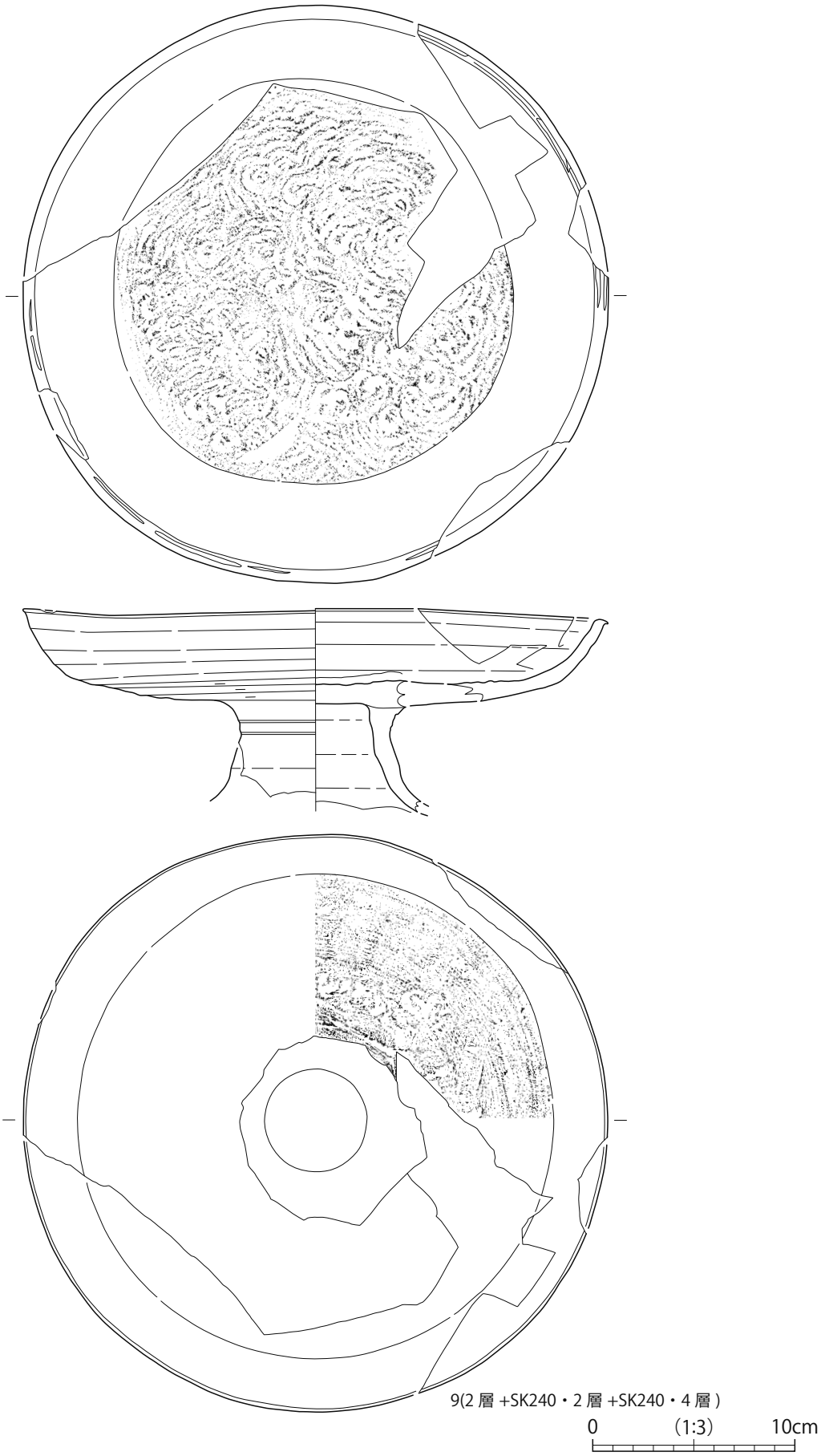
8(1+2 層 SI261 堆積土)



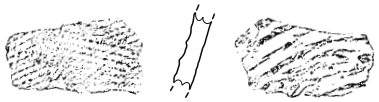
7(2 層)

0 (1:3) 10cm

第 94 図　SE1 井戸跡出土遺物 (1)

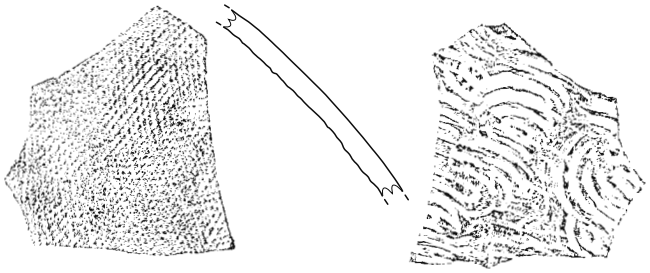


第 95 図　SE1 井戸跡出土遺物 (2)



10(2 層)

12(4 層上面)



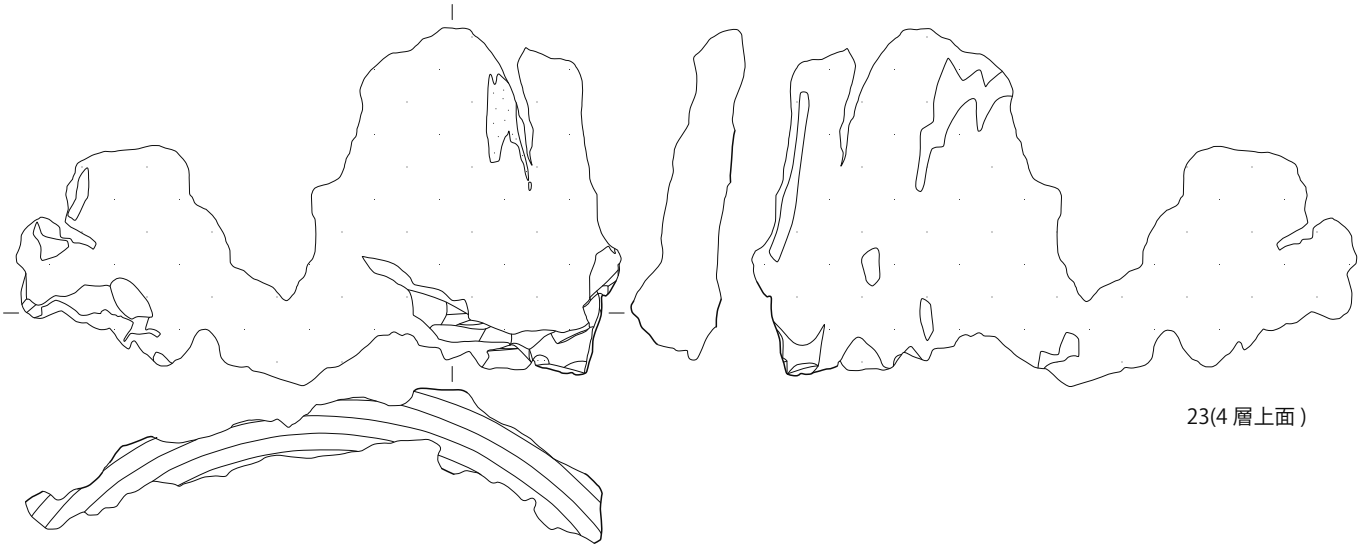
11(2 層)

0 (1:3) 10cm

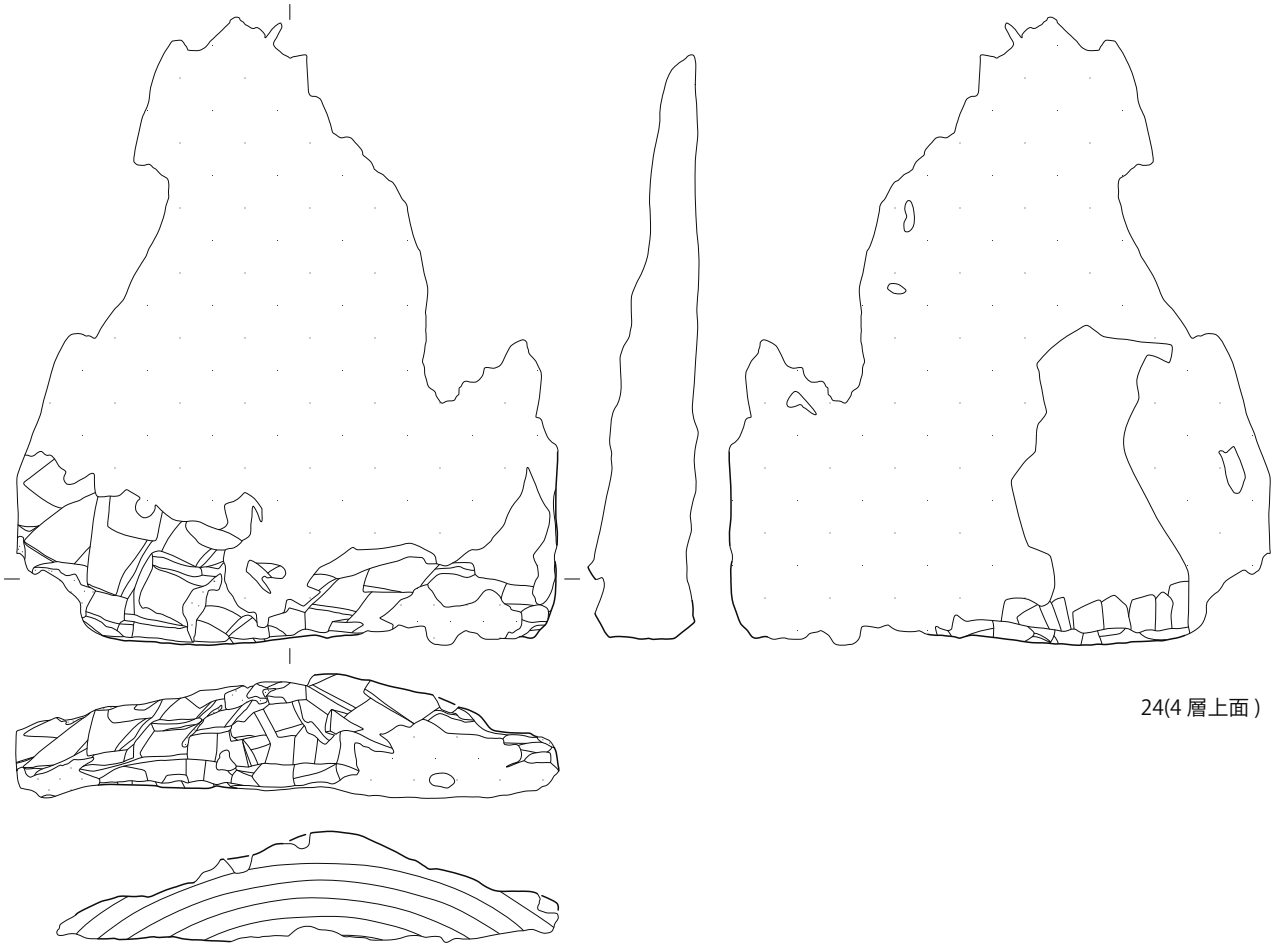
図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-168	SE1	4 層	土師器	甕	17.7	—	(4.4)	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁部のみ　2 層と接合　骨針あり	63-1
2	C-170	SE1	2 層	土師器	甕	9.1	5.6	15.0	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ 底部周縁部：ﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	完形　底部：木葉痕　赤褐色粒あり　口縁および体部上部の一部を打ち欠いた可能性あり	62-3
3	C-171	SE1	井戸枠下	土師器	甕	—	6.5	14.5	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ 底部付近：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部すべて欠損　2 層と接合	63-3
4	C-172	SE1	2 層	土師器	甕	(12.6)	7.6	19.3	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ 底部周縁部：ﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	底部：木葉痕　口唇部 80％欠損	62-1
5	C-173	SE1	2 層	土師器	甕	14.6	7.9	21.9	口縁～体部上部：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	赤褐色粒あり　口縁部 60％欠損	62-4
6	C-174	SE1	井戸枠下	土師器	甕	—	7.0	10.3	体部中部：ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部下部：ﾊｹﾒ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	体部下半～底部のみ残存　赤褐色粒あり　2 層と接合	62-2
7	C-175	SE1	2 層	土師器	甕	—	6.4	7.4	体部下部：ﾊｹﾒ、ﾍﾗﾅﾃﾞ 底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	体部下部～底部のみ残存　骨針多量　赤褐色粒あり	63-2
8	C-176	SE1	2 層	土師器	甕	—	7.8	(1.5)	ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ 底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ一部ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	1 層・SI261 堆積土と接合　底部破片　赤褐色粒あり	63-4
9	E-84	SE1	2 層	須恵器	高坏	28.4	—	(10.0)	ﾛｸﾛ調整 青海波文 回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整 青海波文	SK240 2・4 層と接合　脚端部欠損　骨針多量	64-1
10	E-85	SE1	2 層	須恵器	甕	—	—	(3.1)	平行ﾀﾀｷ目	あて具痕	骨針多量	64-2
11	E-86	SE1	2 層	須恵器	甕	—	—	(7.5)	平行ﾀﾀｷ目	青海波文	骨針あり	64-3
13	C-163	SE1	4 層上面	土師器	甕	—	—	(16.6)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ｹｽﾞﾘ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁～体部上部破片資料　赤褐色粒あり 雲母片多量　写真掲載のみ	63-5
14	C-164	SE1	2 層	土師器	甕	—	—	(9.6)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾅﾃﾞ	口縁～体部上部破片資料　写真掲載のみ	63-6
15	C-165	SE1	4 層上面	土師器	甕	—	—	—	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾊｹﾒ	口縁部破片　骨針あり　写真掲載のみ	63-7
16	C-166	SE1	4 層上面	土師器	甕	—	—	—	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁部破片　2 層と接合　写真掲載のみ	63-9
17	C-167	SE1	2 層	土師器	甕	—	—	—	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	口縁部破片　写真掲載のみ	63-8
18	C-169	SE1	2 層	土師器	甕	—	—	—	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	内湾する口縁部破片　東北北部系？　骨針あり　写真掲載のみ	63-10
19	C-177	SE1	4 層上面	土師器	甕	—	—	—	ﾊｹﾒ→ﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	体部破片　写真掲載のみ　2層と接合	63-11
21	C-161	SK240	2 層	土師器	甕？	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 頸部：ﾊｹﾒ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ	S 字口縁　塩釜式　写真掲載のみ	63-12
22	C-162	SK240	1 層	土師器	甑	—	—	(9.2)	ｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	写真掲載のみ	63-13

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石材	備考	写真図版
12	K-27	SE1	2 層	石製品	有孔石製品	11.3	4.3	1.7	107.0	粘板岩		64-4
20	K-29	SE1	2 層上面	礫石器	磨面のある大型礫	34.2	22.4	16.5	15600.0	凝灰岩	井戸枠内　検出時上面に磨面あり (礫中央部擦痕方向は礫の長軸線と平行)　写真掲載のみ	65-1

第 96 図　SE1 井戸跡出土遺物 (3)



23(4 層上面)

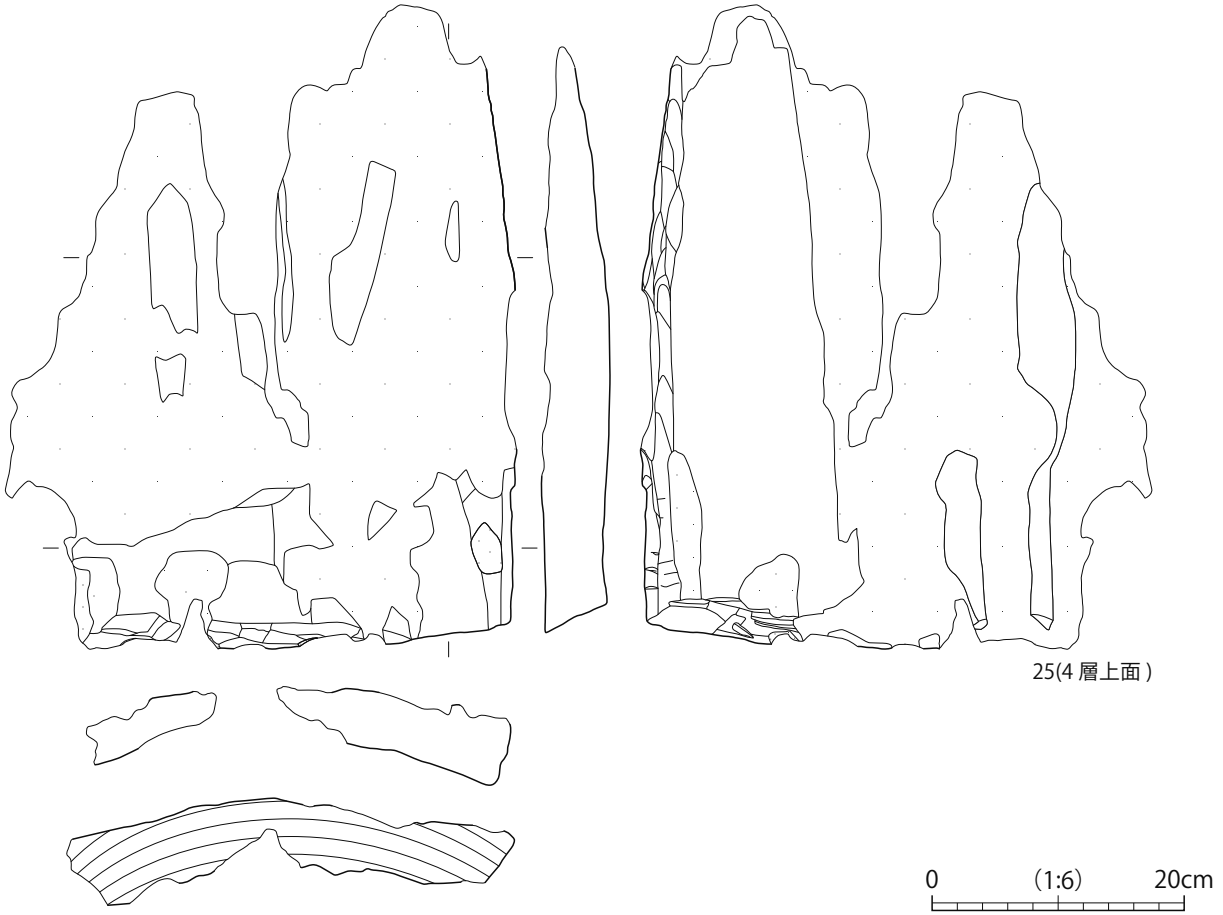


24(4 層上面)

0 (1:6) 20cm

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真図版
						全長	幅	厚さ		
23	L-1・2	SE1	4 層上面	木製品	井戸枠	(26.5)	46.0	7.0	刳り抜き材？	66-1
24	L-3	SE1	4 層上面	木製品	井戸枠	(49.7)	42.8	8.3	板材？　下端部に加工痕	66-2

第 97 図　SE1 井戸跡出土遺物 (4)



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真図版
						全長	幅	厚さ		
25	L-4	SE1	4 層上面	木製品	井戸枠	50.8	40.1	6.0	L-5 と一体の刳り抜き材転用材？　下端部・右側縁部 (正面) に加工痕	67-1 68-1

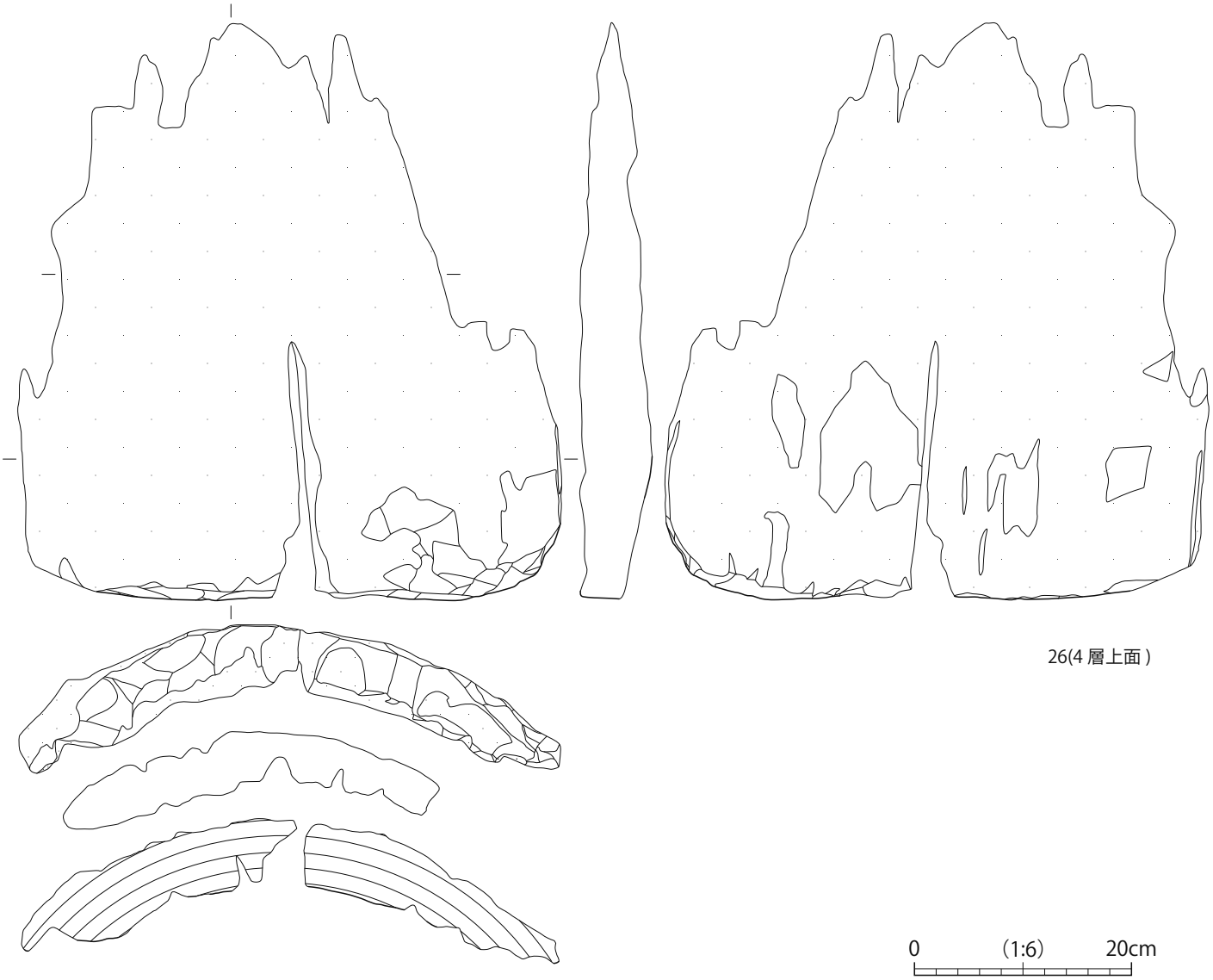
第 98 図　SE1 井戸跡出土遺物 (5)

ケメ、ヘラナデ、底部ヘラケズリ、内面はヘラナデである。第 94 図 4 の甕の直上から正位の状態で出土した。

13 ～ 21 は口縁部を中心とする破片資料で、写真のみ掲載した。13・14 は、口縁部から体部上部の破片資料である。13 は、口縁部は短く外反するが体部の形状は不明である。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。胎土中に雲母片を多量に含む点に特徴がある。14 は、口縁部が外反し、体部中位に最大径をもつ器形と考えられる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ナデである。15 ～ 18 は甕の口縁部のみの破片資料である。この内、18 は内湾する口縁部ををもつ資料である。在地の土器には例が無く、東北地方北部の土器と関連する可能性ある。19 は甕の体部破片資料である。4 層上面より出土している。21 は、屈曲する口縁部をもつ薄手の口縁部破片資料で、古墳時代前期塩釜式期の遺物と考えられる。22 は、1 層から出土した甑である。無底式で、調整は外面ケズリ、内面ヘラナデである。

9 は、須恵器高坏である。脚部の裾部と口縁部の一部を欠損する。坏部は口縁部が内湾気味に外傾し、脚部は中空で「ハ」の字形に開く。坏部の内外面に青海波文、坏部外面下部に回転ヘラケズリが施される。10・11 は、須恵器甕の体部破片資料である。内面に平行タタキ目、外面にあて具痕または青海波文がみられる。

12 は有孔石製品とした。粘板岩製で全面が研磨され上部に孔径 4 ｍｍの穿孔がある。外形は、両側縁が平行し下端部は丸くなる。穿孔部では外形の幅がすぼまり基部状を呈する。全長は 11.3cm で重量は 107g である。側縁および下端部に研磨面より新しい剥離面がみられる。孔の内面に紐擦痕等の摩滅痕は観察されない。近年、郡山遺跡と西台畑遺跡で関連するとみられる石製品が出土している（第 133 図）。20 は、2 層上面から出土した磨面のあ



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真図版
						全長	幅	厚さ		
26	L-5	SE1	4 層上面	木製品	井戸枠	53.3	(49.6)	6.5	L-4 と一体の刳り抜き材？転用材？　下端部に加工痕	67-2 68-1

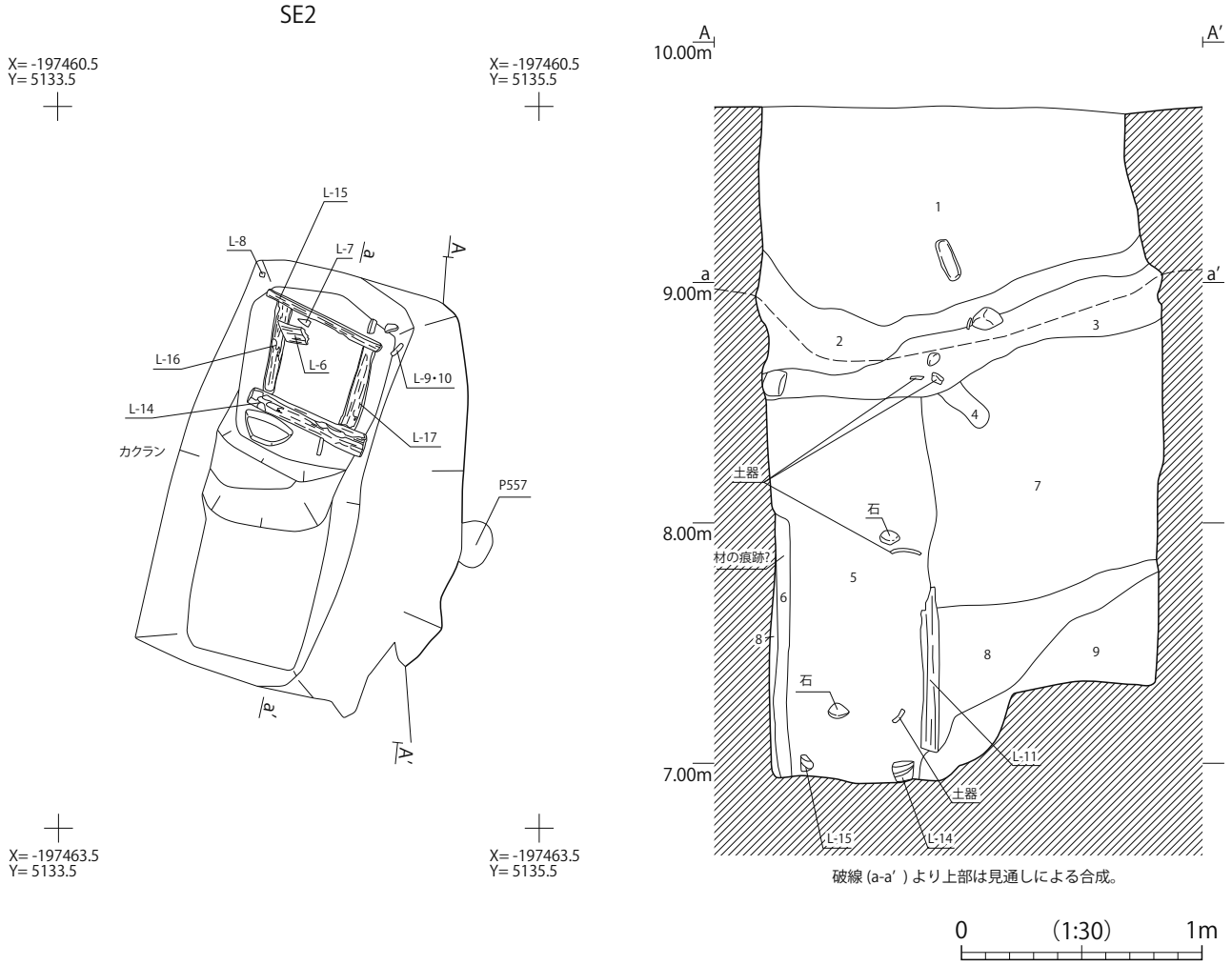
第 99 図　SE1 井戸跡出土遺物 (6)

る大型礫である。凝灰岩製で、出土時の上面に長軸方向に延びる擦痕を伴う磨面が一定の範囲に認められる。全長 34.2cm で重量は 15.6kg である。

また、2 層中より炭化米、ウメ、モモ、オニグルミ等の植物化石が出土した（第 6 章）。

SE2 井戸跡（第 100 ～ 103 図）

調査区東区南部の 43 グリッドに位置する。重複関係は SI279 より新しい。検出面は SI279 の住居堆積土上面である。西半部は粘土採掘坑とみられるカクランと重複しており、上半部が削平されている。平面形は東側縁がやや外側にふくらむ長方形を呈し、断面形が壁が直立する長方形を呈する。底面は、井戸枠が設置された北側が約 40cm 低い。この最も深い井戸枠設置箇所の規模は、長軸 86cm、短軸 72cm である。確認した遺構全体の規模は、長軸 175cm、短軸 124cm、深さ 280cm である。なお、外側にふくらむ東側の外形線は、井戸枠の抜き取り穴のものである。この抜き取り穴が及んでいない遺構下部での平面形が、掘り方本来の形状に近いものと考えられる。こ



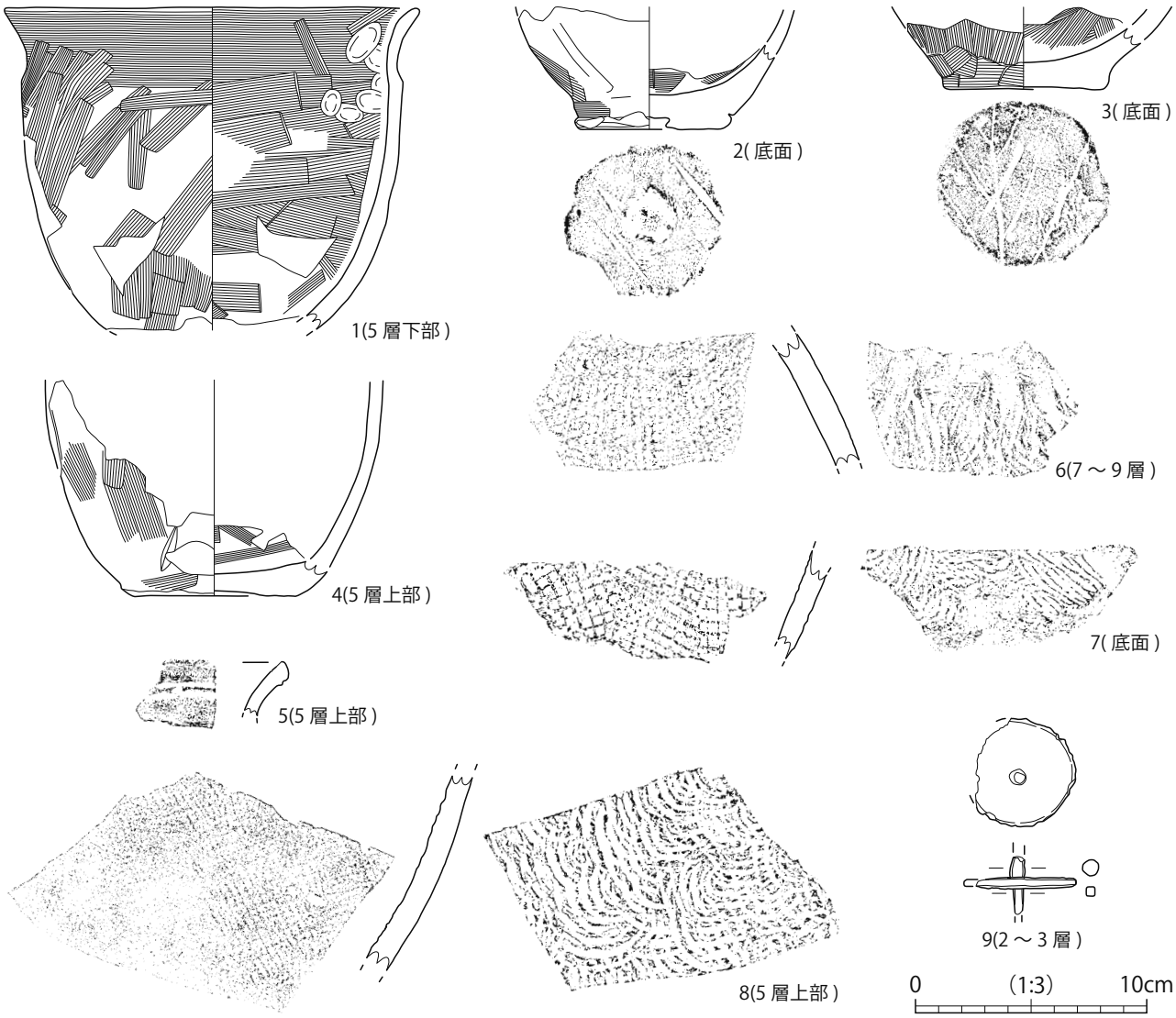
SE2 観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SE2	43	方形	175×124	280	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	地山土粒（1 ～ 15mm）少量含む。	SI279 より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	地山土ブロック（30 ～ 200mm）やや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	地山土ブロック（10 ～ 30mm）少量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	地山土ブロック（10 ～ 100mm）やや多く含む。	
					5	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	地山土ブロック（30 ～ 150mm）やや多く含む。	
					6	10YR3/3 暗褐色	シルト質粘土	地山土ブロック（20 ～ 30mm）少量含む。	
					7	10YR4/1 褐灰色	シルト	地山土ブロック（10 ～ 50mm）少量含む。	
					8	10YR5/1 褐灰色	シルト	暗褐色土ブロック（10 ～ 50mm）やや多く含む。	
					9	10YR5/1 褐灰色	シルト	暗褐色土ブロック（10 ～ 30mm）少量含む。	

第 100 図　SE2 井戸跡

こでの平面形は各辺が直線的な長方形を呈し、規模は、長軸 175cm、短軸 71 ～ 80cm である。長軸での方向は、N-17° -E である。堆積土は 9 層に分かれる。1 ～ 4 層は、井戸枠の撤去に伴う抜き取り穴の堆積土である。掘り方の深さは 96 ～ 121cm である。5 層は井戸枠内の堆積土で、暗褐色の粘質シルト層である。6 層は北壁際で棒状に確認された暗褐色のシルト質粘土層で、腐食した材の痕跡である可能性が考えられる。なお、南壁に一部くい込んだ状態で板材（第 102 図 25）が出土しており、共に井戸枠を構成する板材ないし土留めの板材である可能性がある。7 ～ 9 層は掘り方埋土で、褐灰色を基調とするシルト層である。

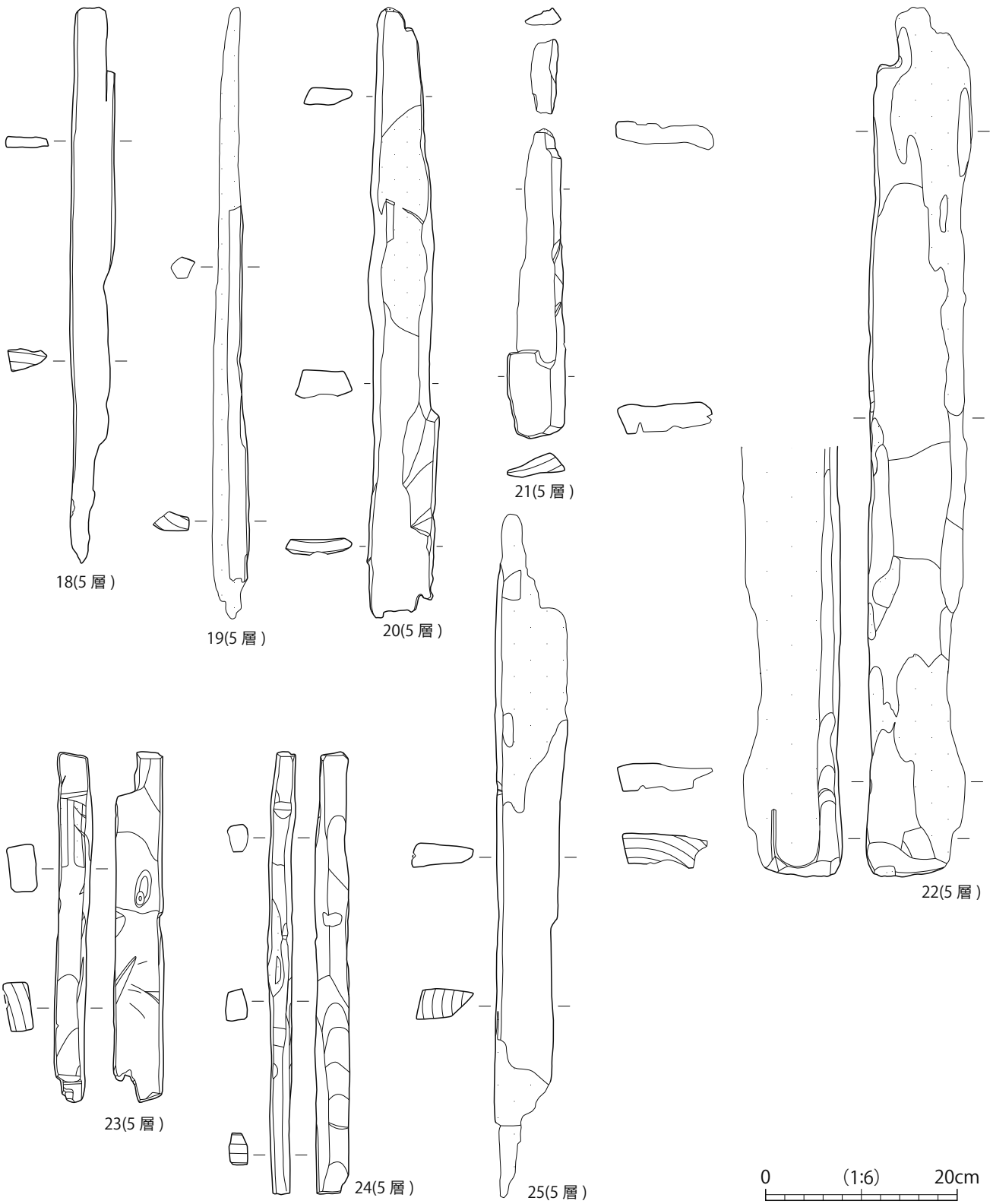
本遺構では井戸枠自体は残存せず、井戸枠を下で支えたとみられる土居桁（鐘方 2003）を掘り方底面で確認した（第 103 図 26 ～ 29）。4 本の角材を井桁状に配置したもので、角材には接合のための切り欠きやホゾ穴等はない。その構造は、平行に置かれた 2 本の角材上に、それと直交する方向に更に平行する 2 本の角材を載せたのみの簡易なものである。利用された角材の大きさは全長 51 ～ 58cm、幅ないし厚さ 4 ～ 9cm で、断面形は第 103 図 26 が方



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-185	SE2	5 層下部	土師器	甕	(18.0)	(13.9)	(14.5)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ　体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ		69-1
2	C-186	SE2	底面	土師器	甕	—	6.1	(5.3)	体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	体部～底部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	骨針あり　底面中央に凹みあり　棒状圧痕 3 条あり	69-2
3	C-188	SE2	底面	土師器	甕	—	6.9	(3.6)	体部：ﾊｹﾒ	体部～底部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	底部：木葉痕　細砂粒多量　骨針あり	69-3
4	C-187	SE2	5 層上部	土師器	甕	—	7.1	(9.4)	体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ、一部ﾍﾗｹｽﾞﾘ	体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	赤褐色粒・砂粒多量　外面摩滅	69-4
5	E-87	SE2	5 層上部	須恵器	甕	—	—	(2.3)	ﾛｸﾛ調整　沈線文	ﾛｸﾛ調整	凸帯 1 条	69-13
6	E-88	SE2	7 ～ 9 層	須恵器	甕	—	—	5.7	格子ﾀﾀｷ目	青海波文	掘り方出土	69-14
7	E-89	SE2	底面	須恵器	甕	—	—	(4.6)	格子ﾀﾀｷ目	青海波文		69-15
8	E-90	SE2	5 層上部	須恵器	甕	—	—	(8.3)	格子ﾀﾀｷ目？	青海波文		69-16
10	C-178	SE2	5 層下部	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃ→ﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	黒色処理　写真掲載のみ	69-5
11	C-179	SE2	5 層中部	土師器	坏	—	—	(3.6)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	黒色処理　骨針あり　赤褐色粒あり　写真掲載のみ	69-6
12	C-180	SE2	底面	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	黒色処理　写真掲載のみ	69-7
13	C-181	SE2	5 層上部	土師器	埦？	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	黒色処理　骨針あり 写真掲載のみ	69-8
14	C-182	SE2	5 層上部	土師器	甑	—	—	—	体部：ﾅﾃﾞ	体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ 体部下端：ﾅﾃﾞ	骨針あり　写真掲載のみ	69-9
15	C-183	SE2	5 層上部	土師器	甕	—	—	(9.0)	口縁～体部：ﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃ→ﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ→ﾅﾃﾞ	骨針あり　砂粒多量 写真掲載のみ	69-10
16	C-184	SE2	5 層下部	土師器	甕	—	—	(8.8)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	骨針あり　写真掲載のみ	69-11
17	C-189	SE2	5 層下部	土師器	甕	—	8.5	—	底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部：ﾅﾃﾞ	写真掲載のみ	69-12

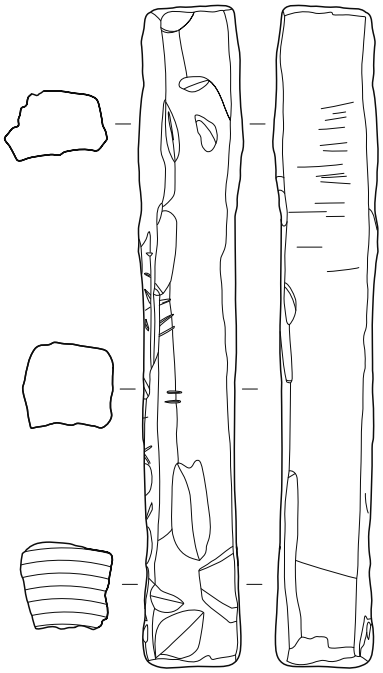
図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 円盤直径	円盤厚	軸長	重量 (g)	備考	写真図版
9	N-13	SE2	2 ～ 3 層	鉄製品	紡錘車	4.7	0.5	2.5	12.5	軸幅 0.4 ～ 0.7　軸部上下欠損　円盤の一部欠損	69-17

第 101 図　SE2 井戸跡出土遺物 (1)

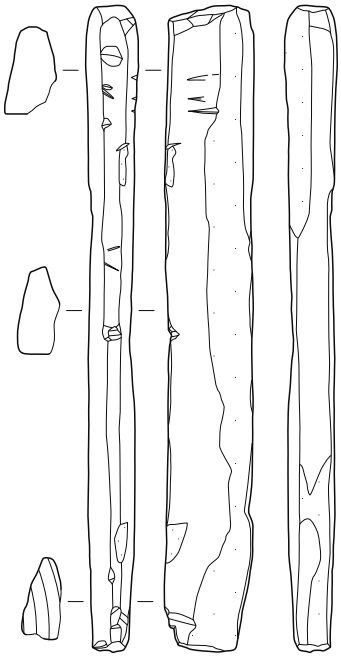


図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真図版
						全長	幅	厚さ		
18	L-7	SE2	5 層	木製品	井戸枠？	58.3	4.7	2.3	板材	70-1
19	L-8	SE2	5 層	木製品	井戸枠？	64.8	3.8	2.1	角材　井戸枠北西隅より直立して出土	70-2
20	L-9	SE2	5 層	木製品	井戸枠？	63.7	7.0	3.0	板材　L-10 と同一材の可能性あり　井戸枠北東隅より直立して出土	70-3
21	L-10	SE2	5 層	木製品	井戸枠？	40.1	6.0	2.0	板材　L-9 と同一材の可能性あり　井戸枠北東隅より直立して出土	70-4
22	L-6	SE2	5 層	木製品	井戸枠？	91.0	10.3	3.6	板材	70-5
23	L-12	SE2	5 層	木製品	井戸枠？	36.4	3.6	5.3	板材　両端に切り欠きあり	70-6
24	L-13	SE2	5 層	木製品	井戸枠？	46.0	3.1	3.6	角材　井戸枠南東隅出土　L-14(土居桁) 東端部上より直立して出土	70-7
25	L-11	SE2	5 層	木製品	井戸枠？	71.3	7.6	3.2	板材　一部掘り方にくい込む	70-8

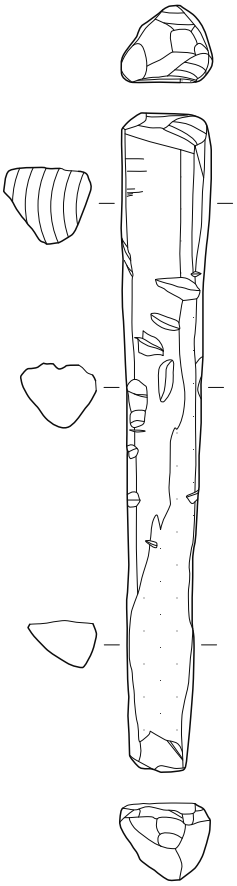
第 102 図　SE2 井戸跡出土遺物 (2)



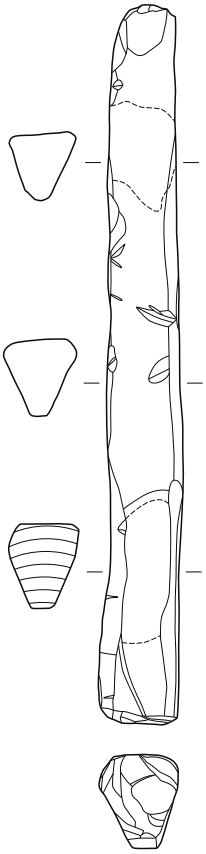
26(底面)



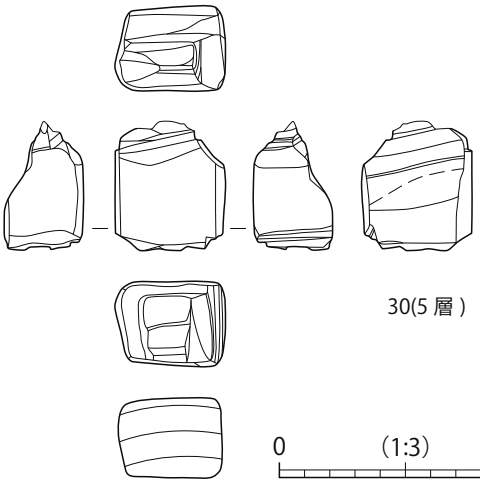
27(底面)



28(底面)



29(底面)



30(5 層)

0 (1:3) 10cm

0 (1:6) 20cm

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真図版
						全長	幅	厚さ		
26	L-14	SE2	底面	木製品	土居桁	52.5	8.3	6.9	角材	71-1
27	L-15	SE2	底面	木製品	土居桁	51.3	4.3	7.1	角材	71-2
28	L-16	SE2	底面	木製品	土居桁	52.1	7.1	6.1	角材	71-3
29	L-17	SE2	底面	木製品	土居桁	57.3	6.5	7.5	角材	71-4
30	L-18	SE2	5 層	木製品	不明	5.2	4.3	3.4	角材	70-9

第 103 図　SE2 井戸跡出土遺物 (3)

形、同 27 ～ 29 が三角形を呈する。この内、底面に直接設置されたのは第 103 図 28・29 の 2 本で、上面が平坦となるように角部を下にして固定されている。土居桁の内法は、長軸 36cm、短軸 31cm である。井戸枠の構造は不明だが、5 層中より厚さ 3cm 前後の板材が 4 点出土している（第 103 図 18・20・22・25）。仮に井戸枠の構築材とすれば、残存長が 50 ～ 90cm 程あるため、土居桁の大きさから判断して縦板組井戸枠の一部である可能性がある。両端に切り欠きをもつ全長 36cm の角材（第 102 図 23）についても、横桟の可能性がある。なお、これらの樹種は全てクリである（第 6 章参照）。

上記の木製品を除く遺物は、抜き取り穴の堆積土（1 ～ 3 層）、井戸枠内堆積土（5 層）、掘り方（7 ～ 9 層）等から、土師器 202 点、須恵器 9 点、金属製品 1 点の他、植物遺存体が出土した。この内、土師器坏 3 点、同埦 1 点、同甕 7 点、同甑 1 点、須恵器甕 4 点、鉄製紡錘車 1 点を掲載した（第 101 図）。なお、10 ～ 17 は写真のみ掲載した。掲載物の内、9 の鉄製紡錘車が抜き取り穴の堆積土、6 の須恵器甕が掘り方から出土した以外は、全て井戸枠内堆積土（5 層）ないし底面から出土したものである。

10 ～ 12 は土師器坏で、いずれも口縁部を含む破片資料である。10・11 は、口縁部と体部の境に弱い段をもつ有段丸底坏と考えられる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面ヘラミガキ後に黒色処理が施される。12 の調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ後ヘラミガキ、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。

13 は土師器埦の可能性があるが、全体の器形は不明である。口縁部が短く外反する。調整は、内外面ともにヘラミガキで内面には黒色処理が施される。

1 ～ 4・15 ～ 17 は土師器甕である。SE1 とは異なり、完形ないしそれに近い個体は出土していない。最も残存部分が多い 1 についても、口縁部から体部が 1/4 程残存する破片資料である。なお、土師器甕の内、底面から出土した 2 点はいずれも底部のみの資料である（第 101 図 2･3）。1 は、口縁部と体部の境に稜をもち口縁部が外反する、小型の甕と考えられる。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。2 ～ 4 は、体部下部から底部のみの資料である。調整は、2 が内外面共にヘラナデ、3 が外面ハケメ、内面ヘラナデ、4 が外面ヘラナデ、一部ヘラケズリ、内面ヘラナデである。14 は土師器甑の小片で、無底式と考えられる。調整は、外面が体部ナデ、内面は体部ヘラケズリ、体部下端ナデである。

5 ～ 8 は須恵器甕の破片資料である。5 は口縁部で外面に凸帯が 1 条めぐる。6 ～ 8 は体部破片で外面に格子タタキ目、内面に青海波文がみられる。

9 は鉄製の紡錘車である。円盤部の直径 4.7cm で、中心に軸が残存する。

また、5 層中から利用後に投下されたと見られるヒョウタンが出土した（第 6 章）。

（5）土坑（第 87・104 ～ 111 図）

古墳時代～古代に帰属するとみられる土坑は、調査区西区北部で 7 基（226・228・229・233・238・242・258）、調査区西区南部で 6 基（SK235・236・241・243・245・246）の計 13 基を確認した（第 87・104・105 図）。なお、掘立柱建物跡として既述した土坑は、ここには含まれない。

以下、古墳時代～古代と考えられる土坑の特徴について、個別に記述する。

SK226 土坑（第 104 図）

調査区西区北部の 5 グリッドに位置する。西半部がカクランと重複する。確認した規模は、長軸 157cm、短軸 75cm、深さ 40cm である。平面形は隅丸長方形を呈する。断面形は、上部が逆台形を呈し中央部が更に 1 段低くなる。堆積土は 6 層に分かれる。

遺物は土師器 166 点、須恵器 2 点、土製品 1 点が出土した。この内、土錘 1 点を掲載した（第 106 図 1）。他に

図示できる遺物はない。1 は小型の管状土錘である。全長は 5.7cm で孔径 0.4cm、重量は 14.5g である。

SK228 土坑（第 104 図）

調査区西区北部の 11・17 グリッドに位置する。重複関係は SD119 より古い。確認した規模は、長軸 178cm、短軸 62cm、深さ 23cm である。平面形は隅丸長方形で、断面形は逆台形と推定される。堆積土は 4 層に分かれる。

遺物は土師器 2 点が出土したが、図示できる遺物はない。

SK229 土坑（第 104 図）

調査区西区北部の 2 グリッドに位置する。重複関係は SK222、P7 より古く、P149・163 より新しい。確認した規模は、長軸 208cm、短軸 194cm、深さ 30cm である。平面形は隅丸方形、断面形は逆台形を呈する。堆積土は 4 層に分かれる。

遺物は土師器 169 点が出土したが、図示できる遺物はない。

SK233 土坑（第 104 図）

調査区西区北部の 2・6 グリッドに位置する。重複関係は SK222・229・259、P11・84・85・149・158・159 より古い。確認した規模は、長軸 232cm、短軸 137cm、深さ 27cm である。平面形は不整形、断面形は上部が逆台形で、中央部が一段低くなる下部では皿状を呈する。堆積土は 4 層に分かれる。出土遺物はない。

SK235 土坑（第 104 図）

調査区西区南部の 29 グリッドに位置する。重複関係は P166・167 より古い。確認した規模は、長軸 101cm、短軸 60cm、深さ 33cm である。平面形は隅丸長方形、断面形は逆台形を呈する。堆積土は 2 層に分かれる。

遺物は土師器 31 点が出土したが、図示できる遺物はない。

SK236 土坑（第 104 図）

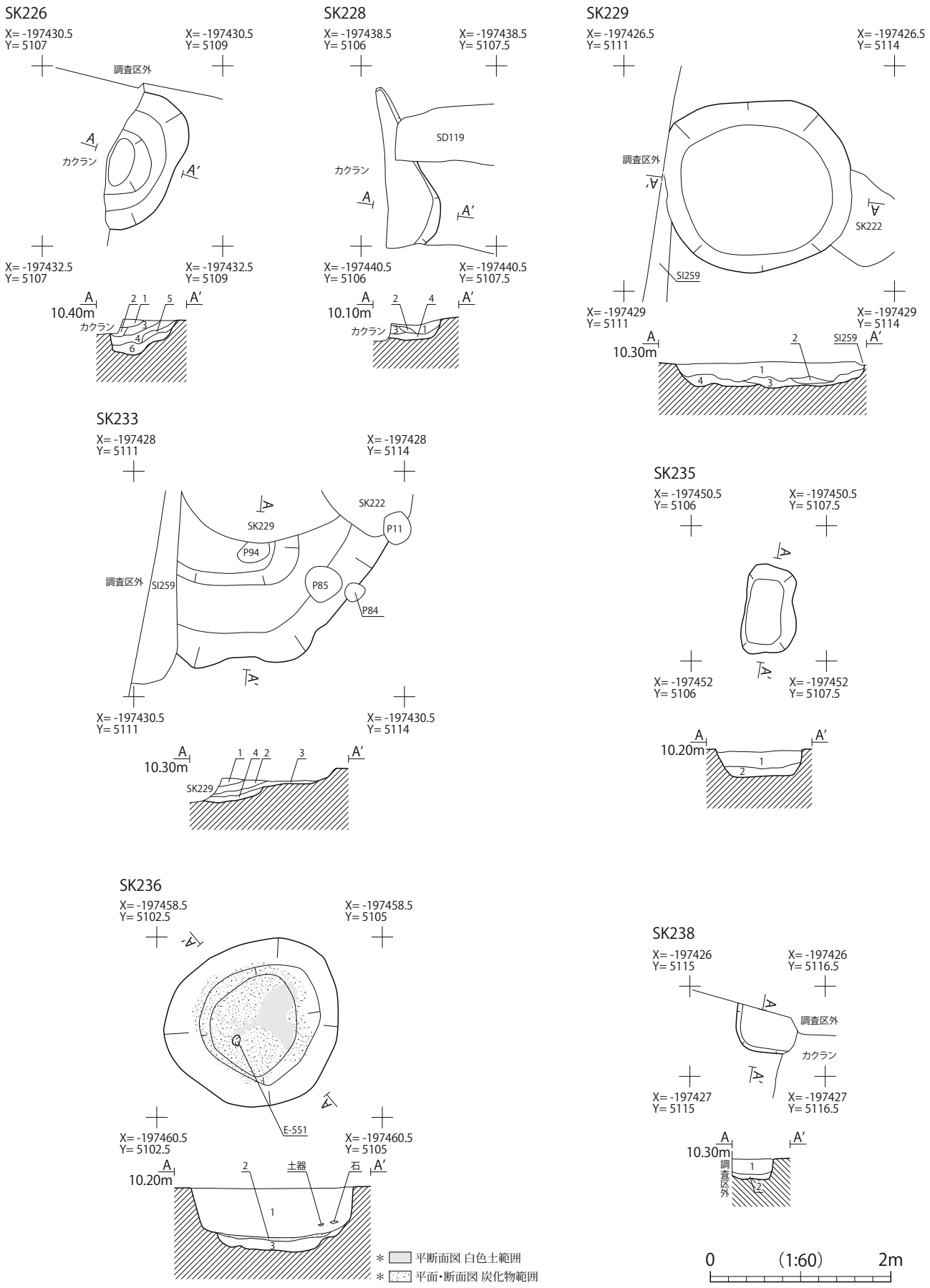
調査区西区南部の 35・41 グリッドに位置する。重複関係は SI266・283、SK241、SD139 より新しい。確認した規模は、長軸 195cm、短軸 185cm、深さ 71cm である。平面形は円形、断面形は逆台形を呈するが、中央部が約 10cm 低くなる。堆積土は 3 層に分かれる。

遺物は土師器 448 点、須恵器 199 点、金属製品 3 点、石製品 2 点が出土した。この内、土師器甕 3 点、同高坏 1 点、ロクロ土師器坏、同埦 1 点、製塩土器 1 点、須恵器坏 12 点、同蓋 6 点、同壺 1 点、同甕 4 点、同盤 1 点、有孔石製品 1 点、砥石 1 点、炉壁とみられる土製品 1 点を掲載した（第 107 ～ 109 図）。

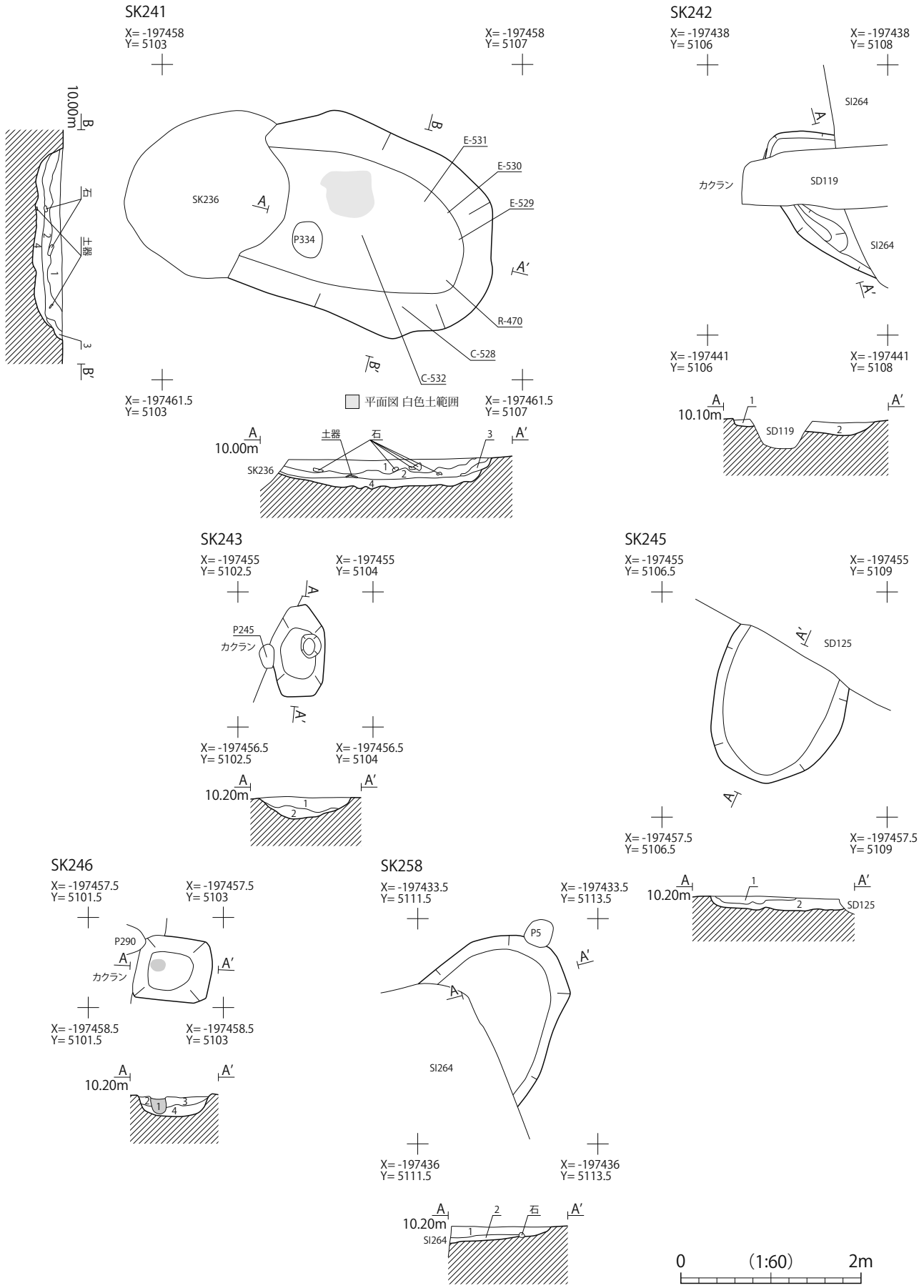
1 ～ 3 は土師器甕である。1 は体部上位に最大径をもつ中～小型の甕である。1・2 は同様の器形である。口縁部と体部の境に段や稜はなく、口縁部は短く外反する。1 の調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部一部ハケメ、ヘラケズリ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。2 の調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデである。3 は体部下部から底部のみ残存する。調整は、外面が体部ヘラナデ、体部下端ヘラケズリ、内面は体部～底部ヘラナデ、一部指ナデである。

4 は製塩土器で、口縁部の破片資料である。器厚が薄く口縁部は直線的に外傾する。調整は、外面が指オサエ、内面がヘラナデである。なお製塩土器は、西台畑遺跡、長町駅東遺跡、郡山遺跡で初めての出土である。

5・6 はロクロ土師器である。5 は体部から口縁部が内湾気味に外傾する、やや偏平な坏である。底部は平底である。調整は、外面が体部下端～底部ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリ、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。6 は、体部から口縁部が内湾気味に外傾する埦である。底部は丸底風の平底である。調整は、外面が体部下端


SK226
X= -197430.5
Y= 5107
X= -197430.5
Y= 5109
調査区外
カクラン
X= -197432.5
Y= 5107
X= -197432.5
Y= 5109
10.40m
SK228
X= -197438.5
Y= 5106
X= -197438.5
Y= 5107.5
SD119
カクラン
X= -197440.5
Y= 5106
X= -197440.5
Y= 5107.5
10.10m
SK229
X= -197426.5
Y= 5111
X= -197426.5
Y= 5114
調査区外
SK222
SI259
X= -197429
Y= 5111
X= -197429
Y= 5114
10.30m
SK233
X= -197428
Y= 5111
X= -197428
Y= 5114
SK222
SK229
P11
P94
調査区外
SI259
P85
P84
X= -197430.5
Y= 5111
X= -197430.5
Y= 5114
10.30m
SK229
SK235
X= -197450.5
Y= 5106
X= -197450.5
Y= 5107.5
X= -197452
Y= 5106
X= -197452
Y= 5107.5
10.20m
SK236
X= -197458.5
Y= 5102.5
X= -197458.5
Y= 5105
E-551
X= -197460.5
Y= 5102.5
X= -197460.5
Y= 5105
10.20m
土器
石
SK238
X= -197426
Y= 5115
X= -197426
Y= 5116.5
調査区外
カクラン
X= -197427
Y= 5115
X= -197427
Y= 5116.5
10.30m
調査区外
＊ 平断面図 白色土範囲
＊ 平面・断面図 炭化物範囲
0 (1:60) 2m

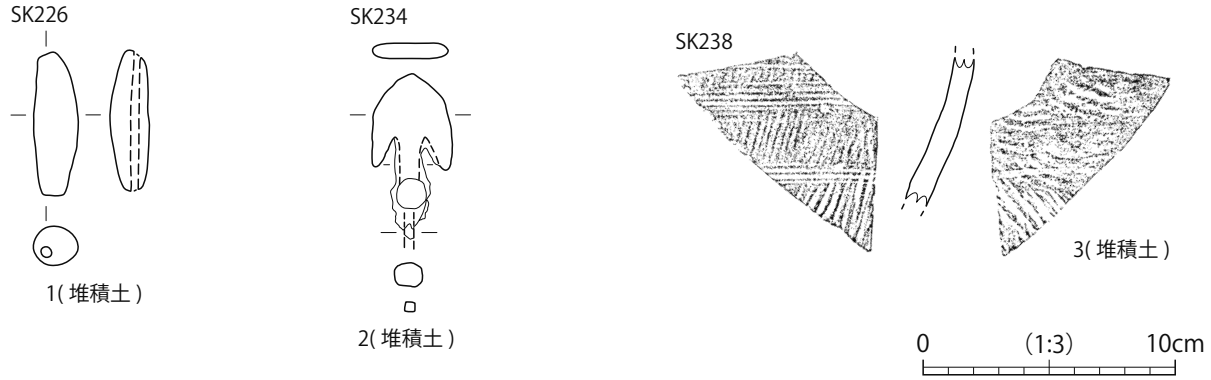
第 104 図　土坑（1）


SK241
X= -197458
Y= 5103
X= -197458
Y= 5107
10.00m
B
B′
石
土器
SK236
A
A′
P334
E-531
E-530
E-529
R-470
C-528
C-532
X= -197461.5
Y= 5103
X= -197461.5
Y= 5107
平面図 白色土範囲
10.00m
土器
石
SK236
SK242
X= -197438
Y= 5106
X= -197438
Y= 5108
SI264
カクラン
SD119
SI264
X= -197441
Y= 5106
X= -197441
Y= 5108
10.10m
SD119
SK243
X= -197455
Y= 5102.5
X= -197455
Y= 5104
P245
カクラン
X= -197456.5
Y= 5102.5
X= -197456.5
Y= 5104
10.20m
SK245
X= -197455
Y= 5106.5
X= -197455
Y= 5109
SD125
X= -197457.5
Y= 5106.5
X= -197457.5
Y= 5109
10.20m
SD125
SK246
X= -197457.5
Y= 5101.5
X= -197457.5
Y= 5103
P290
カクラン
X= -197458.5
Y= 5101.5
X= -197458.5
Y= 5103
10.20m
SK258
X= -197433.5
Y= 5111.5
X= -197433.5
Y= 5113.5
P5
SI264
X= -197436
Y= 5111.5
X= -197436
Y= 5113.5
10.20m
SI264
石
0
(1:60)
2m

第 105 図　土坑（2）

土坑観察表

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SK226	5	隅丸長方形	157 ×（75）	40	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	炭化物を多量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	炭化物をやや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 2cm の粒状に少量含む。炭化物を少量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	
					5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 2cm の粒状に多く含む。	
					6	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多く含む。	
SK228	11・17	隅丸長方形	178 ×（62）	23	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に多く含む。	SD119 より古い。
					2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト		
					3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR3/3 暗褐色粘質土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	10YR3/3 暗褐色粘質土を径 1 ～ 5mm の粒状に多量含む。	
SK229	2	隅丸方形	208 × 194	30	1	10YR3/4 暗褐色	粘土	炭化物を粒状径 10mm に少量含む。焼土を粒状径 2mm に含む。	SK222、P7 より古く、P149・163 より新しい。
					2	10YR2/2 黒褐色	粘土	炭化物主体。焼土を径 10mm のブロック状に少量含む。焼土層。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土シルト	Ⅳ層ブロックを含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土シルト	Ⅳ層ブロックを含む。炭化物を粒状径 10mm に少量含む。	
SK233	2・6	不整形	（232）×（137）	27	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。	SK222・229・259、P11・84・85・149・158・159 より古い。
					2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に多量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 2mm の粒状に少量含む。	
SK235	29	隅丸長方形	101 × 60	33	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3cm のブロック状に少量含む。	P166・167 より古い。
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。	
SK236	35・41	円形	195 × 185	71	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。炭化物を少量含む。	SI266・283、SK241,SD139 より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	炭化物、焼土を粒状に多量含む。白色物質（骨か）を含む。	
					3	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘質シルト	炭化物を粒状に少量含む。橙色（5YR6/6）の土を少量含む。	
SK238	2	隅丸方形	（69）×（45）	23	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	炭化物径 10mm を少量含む。Ⅳ層土をブロック状径 5cm に少量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	炭化物径 5mm を少量含む。Ⅳ層土をブロック状径 2cm に含む。	
SK241	35・41	楕円形	（264）× 211	31	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5cm のブロック状にやや多く含む。	SK236 より古く、SI266、SK256 より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	焼土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。炭化物を径 1 ～ 5mm の粒状に少量を含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に多く含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 2cm のブロック状にやや多く含む。焼土、炭化物を少量含む。	
SK242	11	楕円形	189 ×（54）	19	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	暗褐色の土を径 3 ～ 5cm のブロック状に少量含む。	SI264、SD119 より古い。
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	暗褐色の土を径 1 ～ 5cm のブロック状にやや多く含む。	
SK243	35	不整形	102 ×（62）	25	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 0.5 ～ 3cm の粒状にやや多く含む。	P246 より古く、P245 より新しい。
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 5cm のブロック状に多く含む。	
SK245	35	楕円形	（148）× 147	15	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3cm のブロック状に少量含む。	SD125 より古い。
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5cm の粒状に多量含む。	
SK246	35	方形	（83）× 71	23	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	P290 より古い。
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3cm の粒状に多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状にやや多く含む。	
SK258	6	楕円形	169 ×（113）	19	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	径 1 ～ 5mm のⅣ層土を粒状に含む。焼土を含む。（堆積土）	P247・248 より古い。
					2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	1 層の土を径 5 ～ 10mm の粒状に少量含む。（掘り方埋土）	



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	法量 (cm) 幅	法量 (cm) 厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
1	P-12	SK226	堆積土	土製品	土錘	5.7	1.8	1.4	14.5	孔径 0.4cm　一部先端欠損　調整等摩滅	72-1
2	N-10	SK234	堆積土 1 層	鉄製品	鉄鏃	(6.6)	(3.2)（刃部）	(1.0)	21.0	茎下部欠損	72-2

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	法量 (cm) 底径	法量 (cm) 器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
3	E-1	SK238	堆積土	須恵器	甕	—	—	(5.8)	平行ﾀﾀｷ目→ﾀﾀｷ目？	青海波文→ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		72-3

第 106 図　SK226・234・238 土坑出土遺物

手持ちヘラケズリ、一部ヘラナデ、底部手持ちヘラケズリ、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。

13 は、土師器高坏脚部の破片資料である。2 箇所にスカシがみられるが、形状は不明である。調整は、内外面ともにヘラケズリである。

7 ～ 12 は須恵器蓋である。12 のみ口縁部にカエリをもち、他はカエリの無い蓋である。7 は、深さのある器形でツマミ部を欠損する。外面ツマミ周辺に回転ヘラケズリが施される。8 ～ 11 は外形が低い山形を呈し、口縁端部が下方に屈曲する蓋である。ツマミは10のみ残存する。8･10では、外面ツマミ周辺に回転ヘラケズリが施される。

14 ～ 25 は須恵器坏である。この内、23 ～ 25 は写真のみ掲載した。外形には、体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾するもの（14・15・21）と、直線的に外傾するもの（20・22）、口縁端部がわずかに外反するもの（19）がみられる。底面の切り離し技法は、観察できた 9 点中 7 点が回転ヘラ切り無調整（14 ～ 16・20・21・24・25）で、2 点は回転ヘラ切り後にナデないしヘラナデが施された（17・18）可能性がある。22 は、1 点のみ出土した高台付坏である。体部外面に凹線が 1 条めぐり、外面全面に降灰がみられる。

26 は、体部上位に最大径をもつ肩の張る器形で、短い口縁部が直立する、須恵器短頸壺である。27 ～ 30 は須恵器甕である。いずれも口縁部破片で、器形全体がわかる資料はない。30 は外面に波状文がみられる。31 は、須恵器盤の口縁部破片資料である。口縁部外面に沈線 1 条がめぐり、体部下端にヘラケズリがみられる。

32 は、凝灰岩製の有孔石製品である。破片資料で、全体形状は不明であるが、小型の砥石の可能性がある。33 は砂岩製の大型の砥石である。砥面は 4 面である。破損後の再加工がみられる。

34 は、炉壁の可能性がある資料である。2 破片が融着する。厚さは 2.7 ～ 3.5cm である。

SK238 土坑（第 104 図）

調査区西区北部の 2 グリッドに位置する。確認した規模は、長軸 69cm、短軸 45cm、深さ 23cm である。平面形は隅丸方形、壁面はほぼ直立し、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分かれる。

出土遺物は須恵器甕の体部破片 1 点のみで、これを掲載した（第 106 図 3）。外面に平行タタキ目、カキ目、内面に青海波文がみられる。

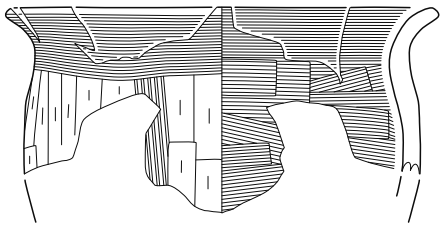
SK241 土坑（第 105 図）

調査区西区南部の 35・41 グリッドに位置する。重複関係は SK236 より古く、SI266、SK256 より新しい。確認した規模は、長軸 264cm、短軸 211cm、深さ 31cm である。平面形は楕円形、断面形は逆台形を呈する。底面は概ね平坦である。堆積土は 4 層に分かれる。

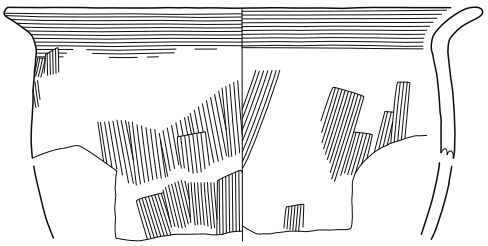
遺物は土師器 243 点、須恵器 130 点、金属製品 2 点、石製品 1 点、礫石器 1 点が出土した。この内、ロクロ土師器埦 1 点、須恵器蓋 3 点、同坏 14 点、同甕 1 点、同鉢 1 点、磨石 1 点、石製品 1 点、刀子 1 点の他、鉄滓、骨片を掲載した。

1 は、体部から口縁部が内湾気味に外傾する埦である。底部は丸底風の平底である。調整は、外面が体部下端～底部ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリ、内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。また、内面には摩滅痕や線条痕が顕著にみられる（写真図版 81-6）。使用痕の可能性が考えられる。

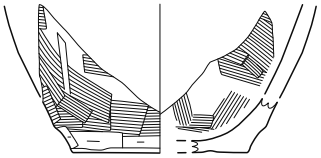
2 ～ 4 は須恵器蓋である。2・3 は外形が低い山形を呈し、口縁端部が下方に屈曲する。ツマミ周辺に回転ヘラケズリが施される。4 は体部から口縁部が直線的に延びる蓋である。ツマミ周辺に回転ヘラケズリが施される。内面全面に降灰がみられる。5 ～ 13・18 ～ 22 は須恵器坏である。この内、18 ～ 22 は写真のみ掲載した。外形には、体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾するもの（5・7・9 ～ 12・18・19）と、直線的に外傾するもの（8）、体部に稜をもつもの（13）がみられる。底面の切り離し技法は、観察できた 7 点の内 4 点が回転ヘラ切り無調整（9・



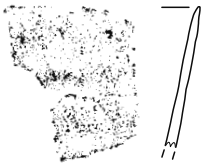
1(堆積土)



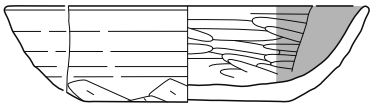
2(堆積土)



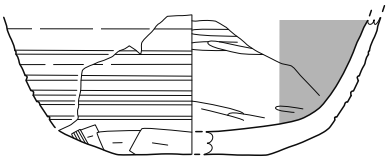
3(堆積土)



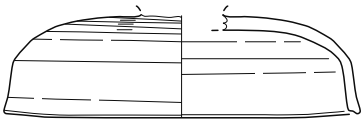
4(堆積土)



5(堆積土)



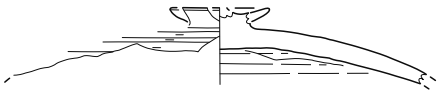
6(堆積土)



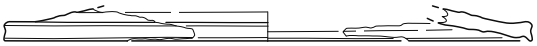
7(堆積土)

8(堆積土)

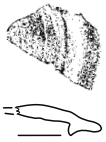
9(堆積土)



10(堆積土)



11(堆積土)

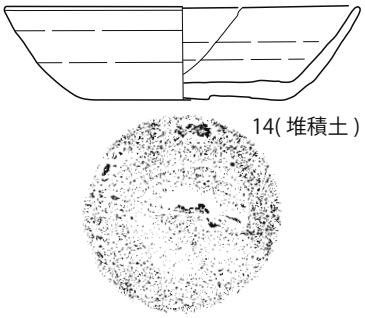


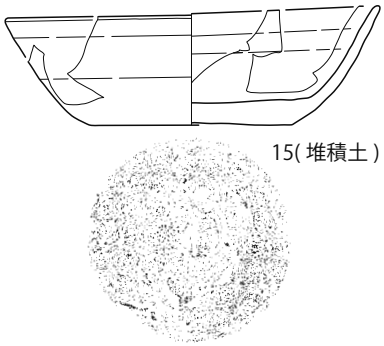
12(堆積土)

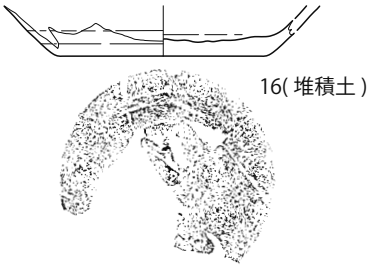
0 (1:3) 10cm

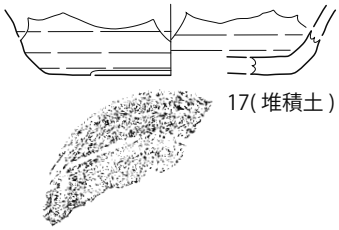
図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-192	SK236	堆積土	土師器	甕	(16.8)	—	(8.2)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：一部ﾊｹﾒ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ		72-4
2	C-193	SK236	堆積土	土師器	甕	(18.8)	—	(9.3)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	外面・口縁部内面摩滅	72-5
3	C-194	SK236	堆積土	土師器	甕	—	(6.8)	(5.9)	体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ 体部下端：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	体部～底部：ﾍﾗﾅﾃﾞ一部指ﾅﾃﾞ		72-6
4	C-191	SK236	堆積土	製塩土器	平鉢形？	—	—	(5.6)	指ｵｻｴ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁部破片・体部破片 赤褐色粒あり　口縁部一部剥落 (被熱痕？)	72-7
5	D-1	SK236	堆積土	ﾛｸﾛ土師器	坏	(14.2)	(8.1)	3.8	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 体部下端～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部：手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり 赤褐色粒あり　口唇部・内面底部の一部摩滅	72-9
6	D-2	SK236	堆積土	ﾛｸﾛ土師器	埦	—	(5.8)	(5.6)	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 体部下端：手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ一部ﾍﾗﾅﾃﾞ 底部：手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	沈線５条　内面黒色処理 骨針あり　赤褐色粒あり 内面体部下部～底部一部摩滅	72-10
7	E-59	SK236	堆積土	須恵器	蓋	(14.0)	—	(4.1)	ﾛｸﾛ調整→回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾛｸﾛﾅﾃﾞ？	ﾛｸﾛ調整	つまみ欠損	72-11
8	E-57	SK236	堆積土	須恵器	蓋	(15.8)	—	(2.2)	ﾛｸﾛ調整→回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整		72-12
9	E-56	SK236	堆積土	須恵器	蓋	(17.4)	—	(1.3)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整		72-13
10	E-58	SK236	堆積土	須恵器	蓋	—	—	(3.0)	ﾛｸﾛ調整→回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	つまみ部径 (4.0)cm	72-14
11	E-55	SK236	堆積土	須恵器	蓋	(21.0)	—	(1.2)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整		72-16
12	E-54	SK236	堆積土	須恵器	蓋	—	—	(1.2)	甲部：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	カエリあり	72-15
13	C-190	SK236	堆積土	土師器	高坏	—	—	(5.5)	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部　スカシ２ヶ所 骨針あり　赤褐色粒多量 写真掲載のみ	72-8

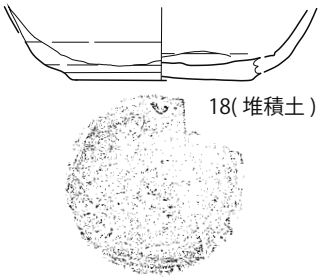
第 107 図　SK236 土坑出土遺物 (1)

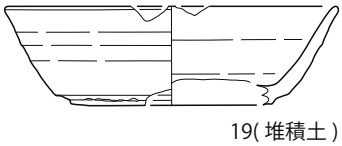


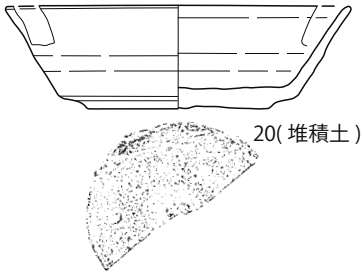


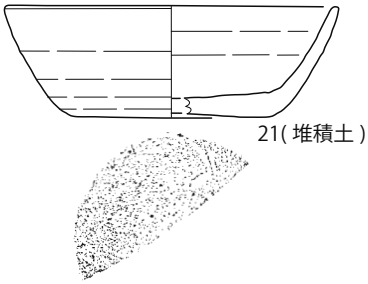


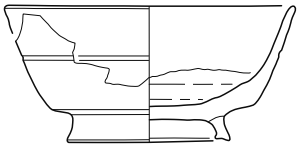


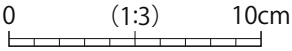










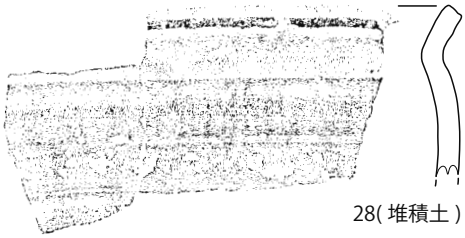


図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
14	E-41	SK236	堆積土	須恵器	坏	14.2	7.8	3.7	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	環元不足	72-17
15	E-42	SK236	堆積土	須恵器	坏	(14.7)	8.0	4.7	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	環元不足　SK241 堆積土と接合	72-18
16	E-44	SK236	堆積土	須恵器	坏	—	8.2	(3.0)	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	環元不足	72-19
17	E-47	SK236	堆積土	須恵器	坏	—	(7.9)	(2.8)	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切りか→ﾅﾃﾞ？	ﾛｸﾛ調整	骨針あり	73-1
18	E-48	SK236	堆積土	須恵器	坏	—	7.2	(2.9)	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り→ﾍﾗﾅﾃﾞ？	ﾛｸﾛ調整	外面火ﾀﾞｽｷあり　搬入品？	73-2
19	E-49	SK236	堆積土	須恵器	坏	(13.0)	—	(3.9)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整		73-3
20	E-50	SK236	堆積土	須恵器	坏	(13.6)	(7.2)	4.1	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整		73-4
21	E-52	SK236	底面	須恵器	坏	(13.0)	(7.8)	4.4	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整		73-5
22	E-51	SK236	堆積土	須恵器	高台付坏	(11.4)	6.4	5.4	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	外面全面降灰　体部中央に浅い凹線あり　高台外面が一部青く発色	73-6
23	E-43	SK236	堆積土	須恵器	坏	—	—	—	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	環元不足　写真掲載のみ	73-7
24	E-45	SK236	堆積土	須恵器	坏	—	—	—	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	環元不足　写真掲載のみ	73-8
25	E-46	SK236	堆積土	須恵器	坏	—	7.9	—	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	環元不足　写真掲載のみ	73-9

第 108 図　SK236 土坑出土遺物 (2)

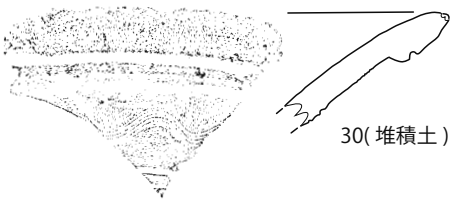
26(堆積土)

27(堆積土)



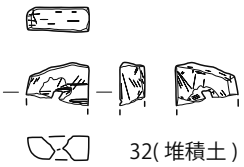
28(堆積土)

29(堆積土)



30(堆積土)

31(堆積土)



32(堆積土)

33(堆積土)

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
26	E-53	SK236	堆積土	須恵器	短頸壺	(8.6)	—	(2.1)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整		73-10
27	E-62	SK236	堆積土	須恵器	甕	—	—	(4.2)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整		73-11
28	E-61	SK236	堆積土	須恵器	甕	—	—	(6.7)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	口唇部と口縁部の境界摩滅	73-12
29	E-63	SK236	堆積土	須恵器	甕	—	—	(5.1)	口縁：平行ﾀﾀｷ→ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 口唇部：沈線	ﾛｸﾛ調整	環元不足　骨針あり	73-13
30	E-64	SK236	堆積土	須恵器	甕	—	—	(4.5)	口縁：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ、沈線有り、波状文	ﾛｸﾛ調整	砂粒多量　口唇部から内面上端部摩滅	73-14
31	E-60	SK236	堆積土	須恵器	盤	—	—	(2.3)	ﾛｸﾛ調整 口縁：沈線 1 条 体部下端：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	骨針あり　底部・口縁部破片	73-15

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
32	K-24	SK236	堆積土	石製品	有孔石製品	(1.7)	2.5	1.0	5.0	凝灰岩	欠損　孔径 1.0cm　砥石？	73-16
33	K-23	SK236	堆積土	石製品	砥石	14.0	9.7	5.2	987.5	砂岩	砥面 4 面　欠損　敲打痕・線状痕あり　大形の置砥	73-17

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
34	P-13	SK236	堆積土	土製品	炉壁	9.6	10.1	2.7-3.5	580.0	2 破片融着　計測はより大きい破片で行なった　写真掲載のみ	73-18

第 109 図　SK236 土坑出土遺物 (3)

12・20）で、4 点は回転ヘラ切り後にナデ（7・8・10・11）が施されている。13 は、1 点のみ出土した高台付坏である。底部に回転ヘラケズリを施した後高台を貼付している。

14 は、体部上位に最大径をもつ須恵器甕である。口縁部を欠損する。体部下端の外面にヘラケズリ後ヘラナデ、同内面に指ナデがみられる。15 は、体部が直線的に外傾する鉢と推定される。外面に 2 ～ 3 状の沈線で区画された 3 段の波状文がみられる。内面にはヘラナデがみられる。

16 は、凝灰岩製の磨石である。全面が研磨される。全長 7.7cm で、重量は 126g である。24 は、チャート製で全面が丁寧に研磨された黒色の石製品である。長径が 1.9cm で重量は 3.0g である。碁石の可能性が考えられる。

17 は、完形の刀子である。全長 12.0cm で刃部の最大幅は 1.1cm である。23 は鉄滓である。写真のみ掲載した。全長 14.2cm で、重量は 780g である。

25 は骨片である。一部が被熱により白色化している。

SK242 土坑（第 105 図）

調査区西区北部の 11 グリッドに位置する。重複関係は SI264、SD119 より古い。確認した規模は、長軸 189cm、短軸 54cm、深さ 19cm である。平面形は楕円形、断面形は皿状を呈する。堆積土は 2 層に分かれる。出土遺物はない。

SK243 土坑（第 105 図）

調査区西区南部の 35 グリッドに位置する。重複関係は P246 より古く、P245 より新しい。確認した規模は、長軸 102cm、短軸 62cm、深さ 25cm である。平面形は不整形、断面形はを呈する。堆積土は 2 層に分かれる。

遺物は土師器 19 点が出土したが、図示できる遺物はない。

SK245 土坑（第 105 図）

調査区西区南部の 35 グリッドに位置する。重複関係は SD125 より古い。確認した規模は、長軸 148cm、短軸 147cm、深さ 15cm である。平面形は楕円形、断面形は皿状を呈する。堆積土は 2 層に分かれる。

遺物は土師器 4 点が出土したが、図示できる遺物はない。

SK246 土坑（第 105 図）

調査区西区南部の 35 グリッドに位置する。重複関係は P290 より古い。確認した規模は、長軸 83cm、短軸 71cm、深さ 23cm である。平面形は方形、断面形は逆台形を呈する。堆積土は 4 層に分かれる。

遺物は土師器 9 点が出土したが、図示できる遺物はない。

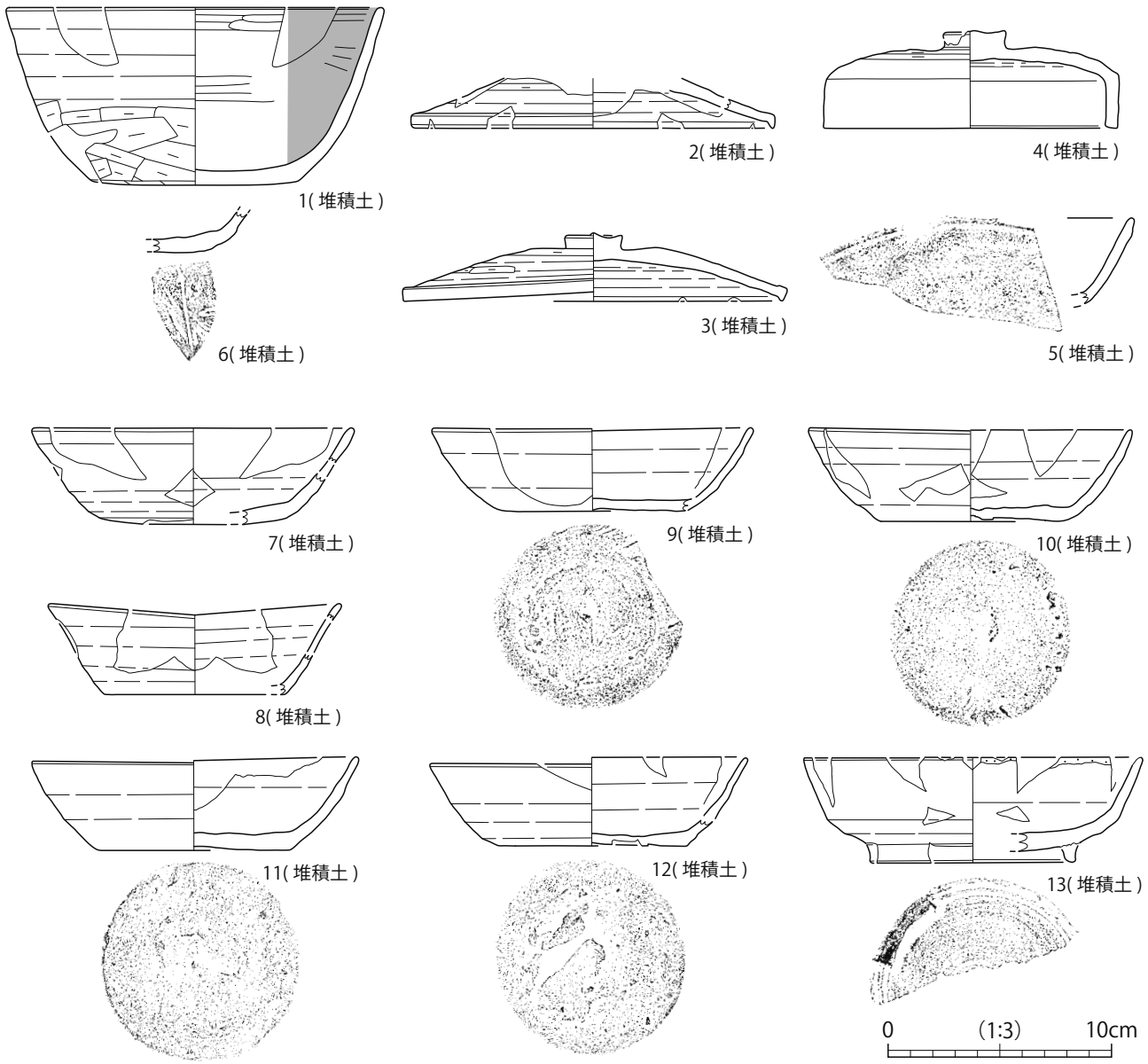
SK258 土坑（第 105 図）

調査区西区北部の 6 グリッドに位置する。重複関係は P247・248 より古い。確認した規模は、長軸 169cm、短軸 113cm、深さ 19cm である。平面形は楕円形、断面形は皿状を呈する。堆積土は 2 層に分かれる。出土遺物はない。

（5）ピット（第 112 ～ 122 図）

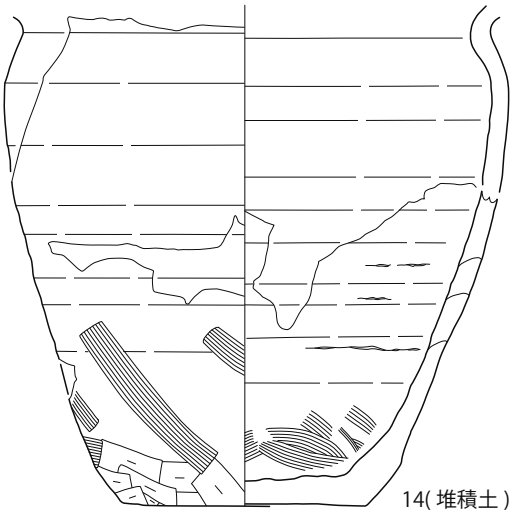
560 基のピットを検出したが、この内、275 基は竪穴住居跡の項で報告している。残るピット数は 285 基である。その内、柱痕跡をもつものを中心に 127 基のピットを掲載した。分布は、遺構面が多く残る調査区西区に多いが、中でも北部の 18 グリッドに集中する。各ピットの詳細は観察表を参照されたい。

ピット出土遺物の総数は、土師器 624 点、須恵器 31 点、金属製品 2 点、土製品 1 点である。この内、特に図化

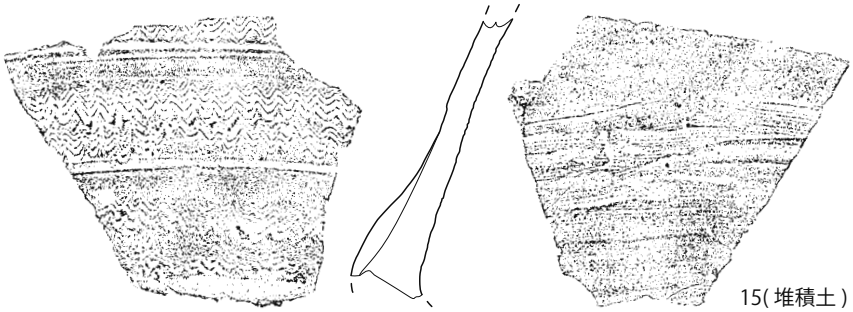


図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	D-3	SK241	堆積土	ﾛｸﾛ土師器	埦	16.7	9.2	8.0	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 体部下端～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部：手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり 赤褐色粒あり　口唇部・内面体部～底部の一部摩滅	74-1
2	E-79	SK241	堆積土	須恵器	蓋	(16.2)	―	(2.2)	ﾛｸﾛ調整　回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	SK236 堆積土と接合	74-2
3	E-80	SK241	堆積土	須恵器	蓋	17.0	―	3.0	ﾛｸﾛ調整　回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	つまみ部径 2.4cm、ﾎﾞﾀﾝ状つまみ、骨針あり SK236 堆積土と接合	74-3
4	E-81	SK241	堆積土	須恵器	蓋	13.2	―	4.3	ﾛｸﾛ調整　回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	内面全面に降灰あり SK236 堆積土と接合	74-4
5	E-65	SK241	堆積土	須恵器	坏	―	―	(3.8)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整		74-5
6	E-75	SK241	堆積土	須恵器	坏	―	―	(1.8)	ﾛｸﾛ調整 底部：丸底風平底、線刻の一部？	ﾛｸﾛ調整	環元不足	74-6
7	E-66	SK241	堆積土	須恵器	坏	14.0	(8.4)	4.3	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り→ﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛ調整	SK236 堆積土と接合	74-7
8	E-67	SK241	堆積土	須恵器	坏	(13.1)	(8.0)	4.1	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り→ﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛ調整		74-8
9	E-68	SK241	堆積土	須恵器	坏	14.4	(8.5)	3.7	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	環元不足　底部内面中心に指紋あり	74-9
10	E-69	SK241	堆積土	須恵器	坏	14.3	8.3	4.1	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り→ﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛ調整	環元不足　底部内面中心に指紋あり　SK236 堆積土と接合	74-10
11	E-70	SK241	堆積土	須恵器	坏	14.5	8.6	4.2	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り→ﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛ調整	環元不足　底部内面中心に指紋あり	74-11
12	E-71	SK241	堆積土	須恵器	坏	14.4	8.5	4.1	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	環元不足　底部内面中心横に指紋あり	74-12
13	E-78	SK241	堆積土	須恵器	高台付坏	(15.2)	(9.2)	4.2	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ→高台貼付	ﾛｸﾛ調整	口唇部一部剥落・摩滅 高台の外側一部摩滅	75-1

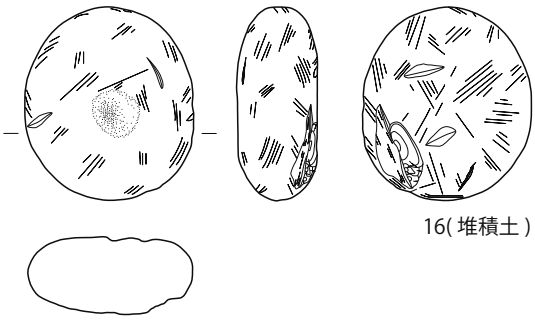
第 110 図　SK241 土坑出土遺物 (1)



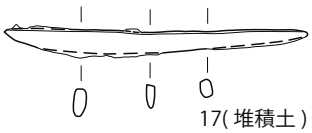
14(堆積土)



15(堆積土)



16(堆積土)



17(堆積土)

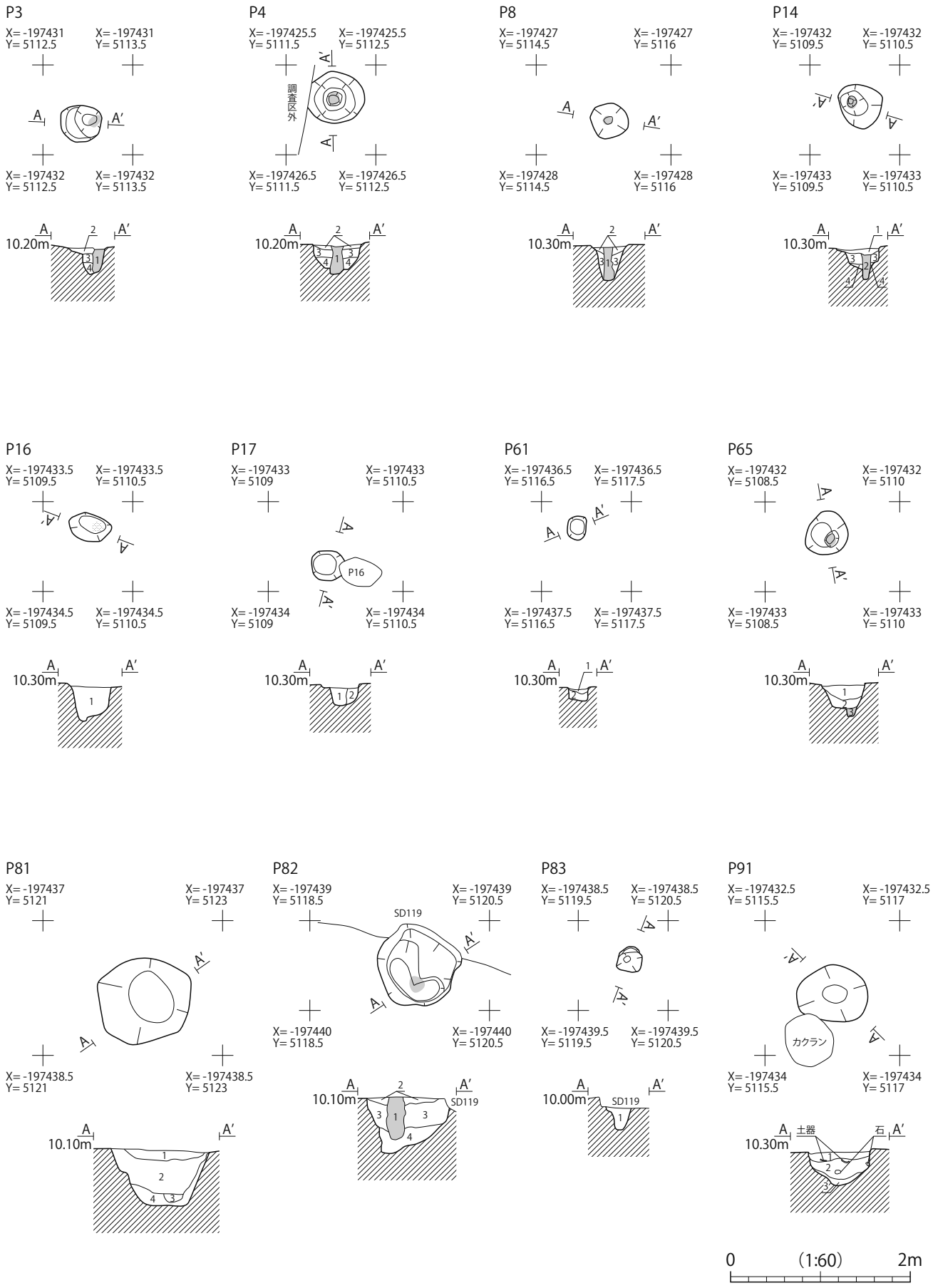
0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
14	E-82	SK241	堆積土	須恵器	甕	—	9.8	(19.8)	ﾛｸﾛ調整 体部下端：ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛ調整 体部下端：指ﾅﾃﾞ	口縁部欠損	75-2
15	E-83	SK241	堆積土	須恵器	鉢？	—	—	(11.1)	ﾛｸﾛ調整 波状文　沈線文	ﾛｸﾛ調整 ﾍﾗﾅﾃﾞ	体部下端の底部との接合面で剥離	75-3
18	E-72	SK241	堆積土	須恵器	坏	—	—	—	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	環元不足　写真掲載のみ	74-13
19	E-73	SK241	堆積土	須恵器	坏	—	—	—	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	環元不足　写真掲載のみ	74-14
20	E-74	SK241	堆積土	須恵器	坏	—	—	—	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	環元不足　底部内面中心に指紋あり　写真掲載のみ	74-15
21	E-76	SK241	堆積土	須恵器	坏	—	—	—	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	底部回転ﾍﾗ切り？、環元不足　写真掲載のみ	74-16
22	E-77	SK241	堆積土	須恵器	坏	—	—	—	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	環元不足　写真掲載のみ	74-17

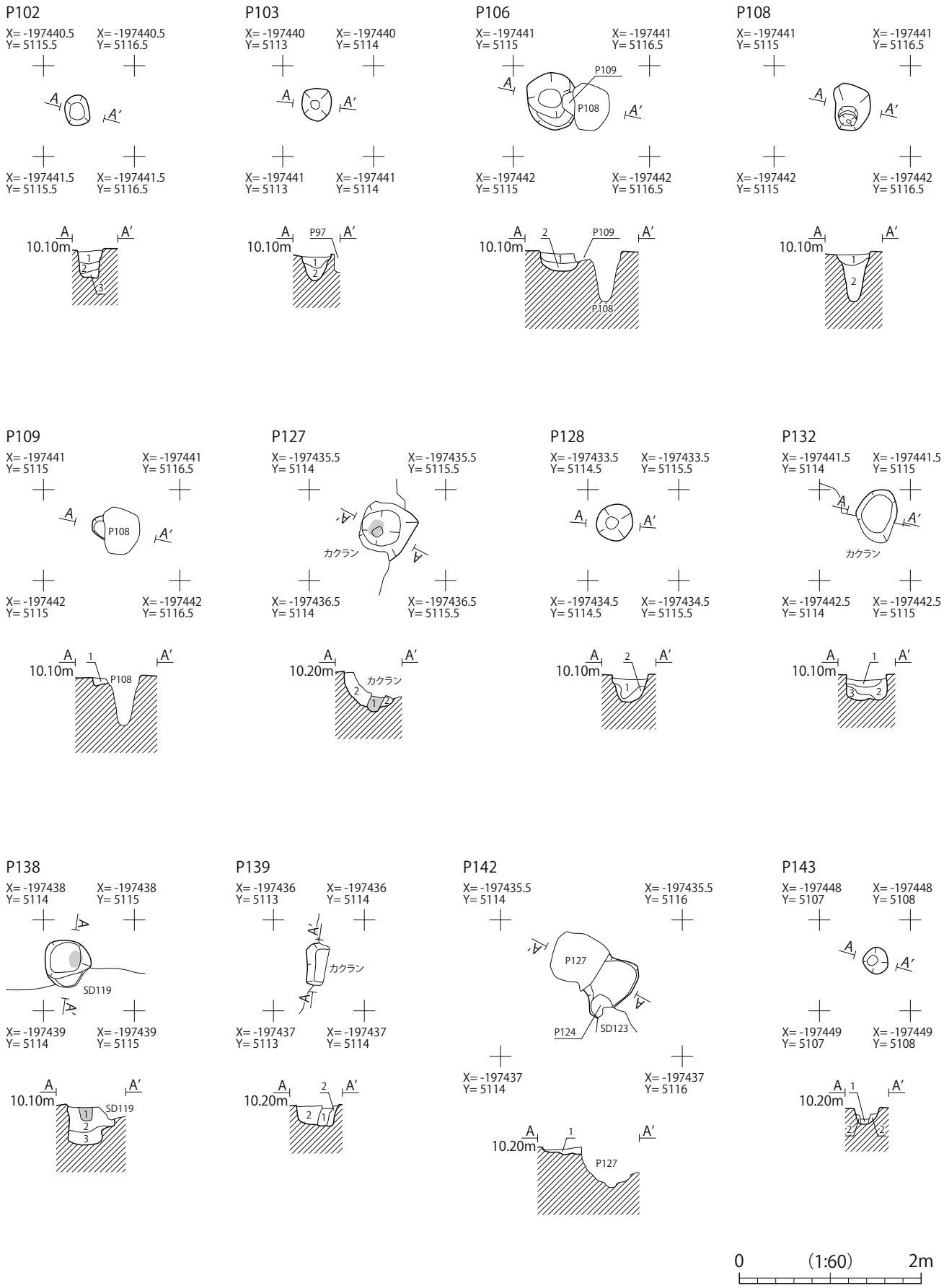
図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石材	備考	写真図版
16	K-26	SK241	堆積土	礫石器	磨石	7.7	6.7	3.2	126.0	凝灰岩		75-4
24	K-25	SK241	堆積土	石製品	碁石？	1.9	1.8	0.4	3.0	チャート	黒色石材　写真掲載のみ	75-5

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
17	N-12	SK241	堆積土 1 層	鉄製品	刀子	12.0	1.1	0.7	11.0	完形	75-6
23	N-11	SK241	堆積土	鉄製品	鉄滓	14.2	10.1	4.7	780.2	写真掲載のみ	75-7
25	Q-2	SK241	堆積土	動物遺存体	骨	—	—	—	0.7	骨片　被熱？　写真掲載のみ	75-8

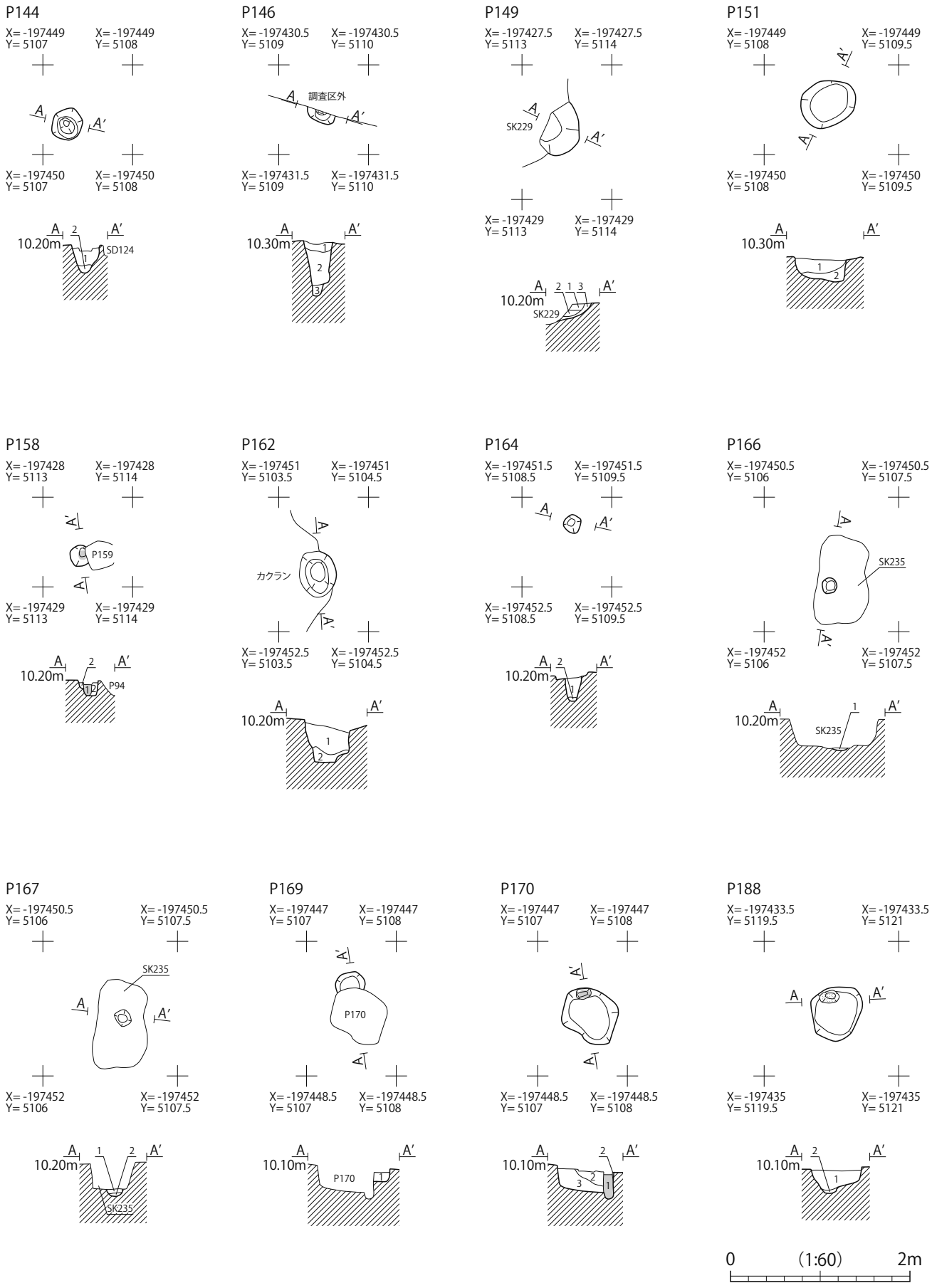
第 111 図　SK241 土坑出土遺物 (2)


P3
X= -197431 Y= 5112.5
X= -197431 Y= 5113.5
X= -197432 Y= 5112.5
X= -197432 Y= 5113.5
10.20m
P4
X= -197425.5 Y= 5111.5
X= -197425.5 Y= 5112.5
X= -197426.5 Y= 5111.5
X= -197426.5 Y= 5112.5
調査区外
10.20m
P8
X= -197427 Y= 5114.5
X= -197427 Y= 5116
X= -197428 Y= 5114.5
X= -197428 Y= 5116
10.30m
P14
X= -197432 Y= 5109.5
X= -197432 Y= 5110.5
X= -197433 Y= 5109.5
X= -197433 Y= 5110.5
10.30m
P16
X= -197433.5 Y= 5109.5
X= -197433.5 Y= 5110.5
X= -197434.5 Y= 5109.5
X= -197434.5 Y= 5110.5
10.30m
P17
X= -197433 Y= 5109
X= -197433 Y= 5110.5
P16
X= -197434 Y= 5109
X= -197434 Y= 5110.5
10.30m
P61
X= -197436.5 Y= 5116.5
X= -197436.5 Y= 5117.5
X= -197437.5 Y= 5116.5
X= -197437.5 Y= 5117.5
10.30m
P65
X= -197432 Y= 5108.5
X= -197432 Y= 5110
X= -197433 Y= 5108.5
X= -197433 Y= 5110
10.30m
P81
X= -197437 Y= 5121
X= -197437 Y= 5123
X= -197438.5 Y= 5121
X= -197438.5 Y= 5123
10.10m
P82
X= -197439 Y= 5118.5
X= -197439 Y= 5120.5
SD119
X= -197440 Y= 5118.5
X= -197440 Y= 5120.5
10.10m
SD119
P83
X= -197438.5 Y= 5119.5
X= -197438.5 Y= 5120.5
X= -197439.5 Y= 5119.5
X= -197439.5 Y= 5120.5
10.00m
SD119
P91
X= -197432.5 Y= 5115.5
X= -197432.5 Y= 5117
カクラン
X= -197434 Y= 5115.5
X= -197434 Y= 5117
10.30m
土器
石
0 (1:60) 2m

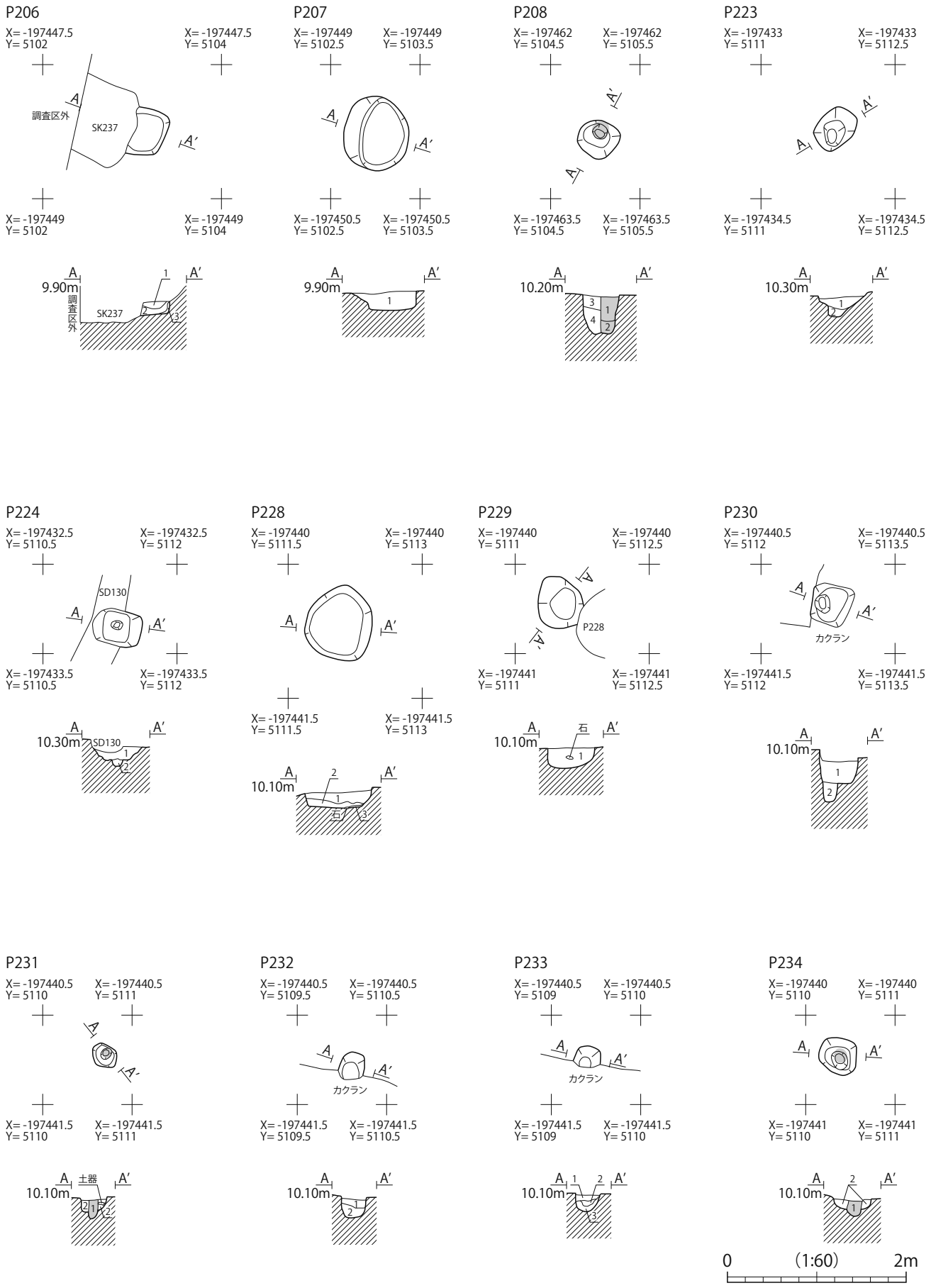
第 112 図　ピット（1）


P102
X= -197440.5 Y= 5115.5
X= -197440.5 Y= 5116.5
X= -197441.5 Y= 5115.5
X= -197441.5 Y= 5116.5
10.10m
P103
X= -197440 Y= 5113
X= -197440 Y= 5114
X= -197441 Y= 5113
X= -197441 Y= 5114
P97
10.10m
P106
X= -197441 Y= 5115
X= -197441 Y= 5116.5
P109
P108
X= -197442 Y= 5115
X= -197442 Y= 5116.5
10.10m
P108
X= -197441 Y= 5115
X= -197441 Y= 5116.5
X= -197442 Y= 5115
X= -197442 Y= 5116.5
10.10m
P109
X= -197441 Y= 5115
X= -197441 Y= 5116.5
P108
X= -197442 Y= 5115
X= -197442 Y= 5116.5
10.10m
P108
P127
X= -197435.5 Y= 5114
X= -197435.5 Y= 5115.5
カクラン
X= -197436.5 Y= 5114
X= -197436.5 Y= 5115.5
10.20m
カクラン
P128
X= -197433.5 Y= 5114.5
X= -197433.5 Y= 5115.5
X= -197434.5 Y= 5114.5
X= -197434.5 Y= 5115.5
10.10m
P132
X= -197441.5 Y= 5114
X= -197441.5 Y= 5115
カクラン
X= -197442.5 Y= 5114
X= -197442.5 Y= 5115
10.10m
P138
X= -197438 Y= 5114
X= -197438 Y= 5115
SD119
X= -197439 Y= 5114
X= -197439 Y= 5115
10.10m
SD119
P139
X= -197436 Y= 5113
X= -197436 Y= 5114
カクラン
X= -197437 Y= 5113
X= -197437 Y= 5114
10.20m
P142
X= -197435.5 Y= 5114
X= -197435.5 Y= 5116
P127
P124
SD123
X= -197437 Y= 5114
X= -197437 Y= 5116
10.20m
P127
P143
X= -197448 Y= 5107
X= -197448 Y= 5108
X= -197449 Y= 5107
X= -197449 Y= 5108
10.20m
0 (1:60) 2m

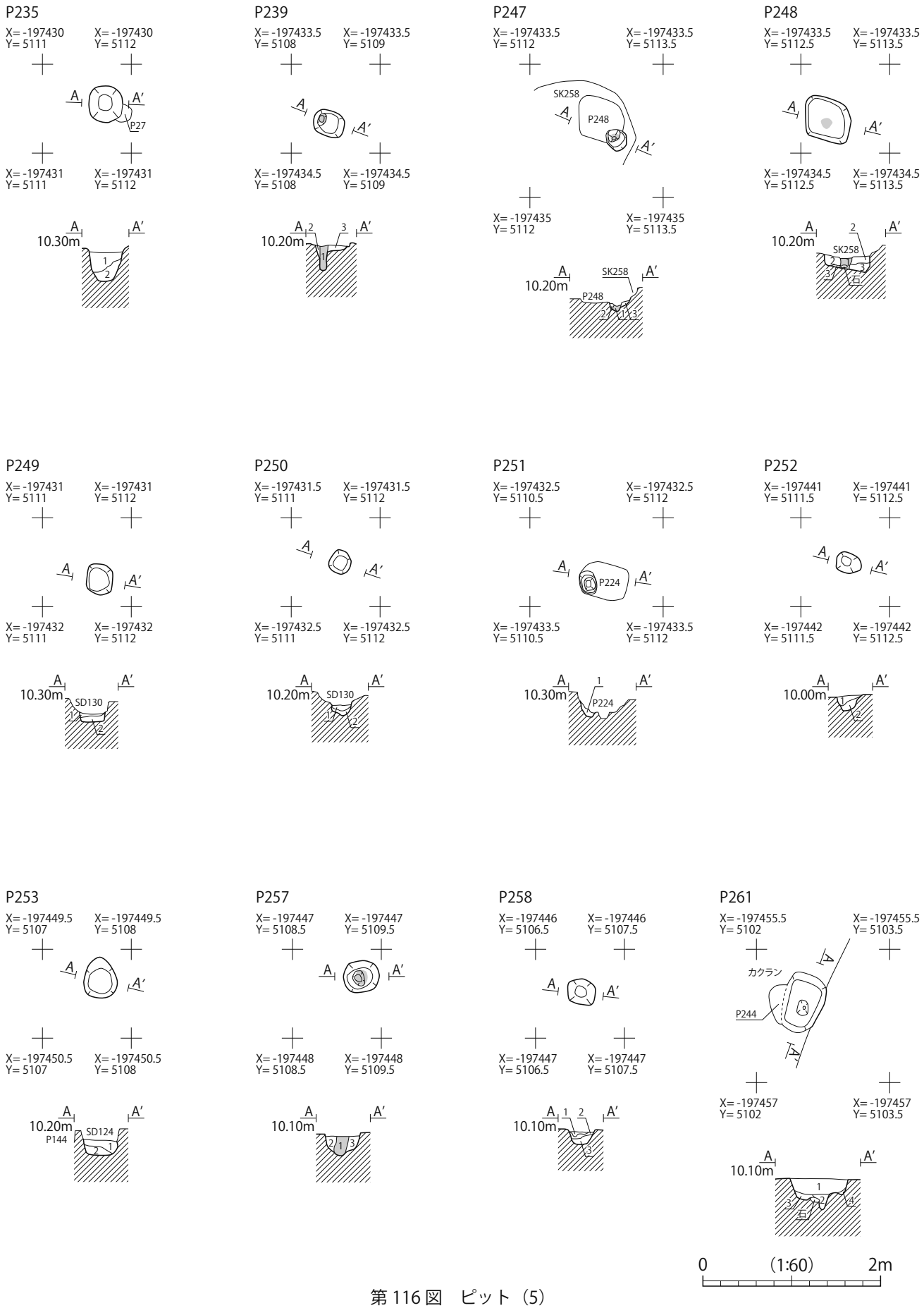
第 113 図　ピット（2）


P144
X= -197449 Y= 5107
X= -197449 Y= 5108
X= -197450 Y= 5107
X= -197450 Y= 5108
10.20m
SD124
P146
X= -197430.5 Y= 5109
X= -197430.5 Y= 5110
調査区外
X= -197431.5 Y= 5109
X= -197431.5 Y= 5110
10.30m
P149
X= -197427.5 Y= 5113
X= -197427.5 Y= 5114
SK229
X= -197429 Y= 5113
X= -197429 Y= 5114
10.20m
SK229
P151
X= -197449 Y= 5108
X= -197449 Y= 5109.5
X= -197450 Y= 5108
X= -197450 Y= 5109.5
10.30m
P158
X= -197428 Y= 5113
X= -197428 Y= 5114
P159
X= -197429 Y= 5113
X= -197429 Y= 5114
10.20m
P94
P162
X= -197451 Y= 5103.5
X= -197451 Y= 5104.5
カクラン
X= -197452.5 Y= 5103.5
X= -197452.5 Y= 5104.5
10.20m
P164
X= -197451.5 Y= 5108.5
X= -197451.5 Y= 5109.5
X= -197452.5 Y= 5108.5
X= -197452.5 Y= 5109.5
10.20m
P166
X= -197450.5 Y= 5106
X= -197450.5 Y= 5107.5
SK235
X= -197452 Y= 5106
X= -197452 Y= 5107.5
10.20m
SK235
P167
X= -197450.5 Y= 5106
X= -197450.5 Y= 5107.5
SK235
X= -197452 Y= 5106
X= -197452 Y= 5107.5
10.20m
SK235
P169
X= -197447 Y= 5107
X= -197447 Y= 5108
P170
X= -197448.5 Y= 5107
X= -197448.5 Y= 5108
10.10m
P170
P170
X= -197447 Y= 5107
X= -197447 Y= 5108
X= -197448.5 Y= 5107
X= -197448.5 Y= 5108
10.10m
P188
X= -197433.5 Y= 5119.5
X= -197433.5 Y= 5121
X= -197435 Y= 5119.5
X= -197435 Y= 5121
10.10m
0 (1:60) 2m

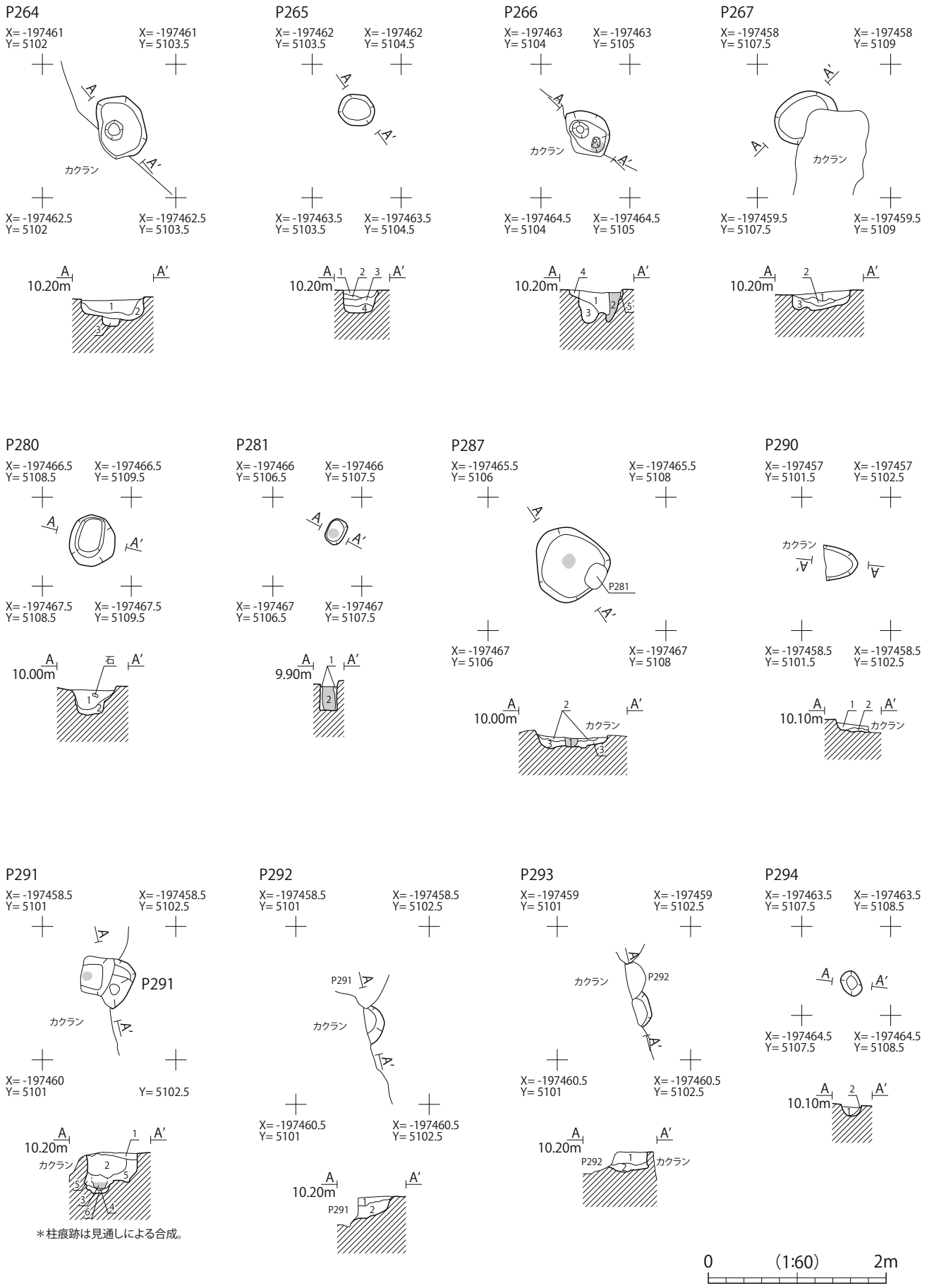
第 114 図　ピット（3）


P206
X= -197447.5 Y= 5102
X= -197447.5 Y= 5104
X= -197449 Y= 5102
X= -197449 Y= 5104
調査区外
SK237
A
A′
9.90m
1
2
3
P207
X= -197449 Y= 5102.5
X= -197449 Y= 5103.5
X= -197450.5 Y= 5102.5
X= -197450.5 Y= 5103.5
9.90m
P208
X= -197462 Y= 5104.5
X= -197462 Y= 5105.5
X= -197463.5 Y= 5104.5
X= -197463.5 Y= 5105.5
10.20m
4
P223
X= -197433 Y= 5111
X= -197433 Y= 5112.5
X= -197434.5 Y= 5111
X= -197434.5 Y= 5112.5
10.30m
P224
X= -197432.5 Y= 5110.5
X= -197432.5 Y= 5112
X= -197433.5 Y= 5110.5
X= -197433.5 Y= 5112
SD130
10.30m
P228
X= -197440 Y= 5111.5
X= -197440 Y= 5113
X= -197441.5 Y= 5111.5
X= -197441.5 Y= 5113
10.10m
石
P229
X= -197440 Y= 5111
X= -197440 Y= 5112.5
X= -197441 Y= 5111
X= -197441 Y= 5112.5
P228
10.10m
石
P230
X= -197440.5 Y= 5112
X= -197440.5 Y= 5113.5
X= -197441.5 Y= 5112
X= -197441.5 Y= 5113.5
カクラン
10.10m
P231
X= -197440.5 Y= 5110
X= -197440.5 Y= 5111
X= -197441.5 Y= 5110
X= -197441.5 Y= 5111
土器
10.10m
P232
X= -197440.5 Y= 5109.5
X= -197440.5 Y= 5110.5
X= -197441.5 Y= 5109.5
X= -197441.5 Y= 5110.5
カクラン
10.10m
P233
X= -197440.5 Y= 5109
X= -197440.5 Y= 5110
X= -197441.5 Y= 5109
X= -197441.5 Y= 5110
カクラン
10.10m
P234
X= -197440 Y= 5110
X= -197440 Y= 5111
X= -197441 Y= 5110
X= -197441 Y= 5111
10.10m
0 (1:60) 2m

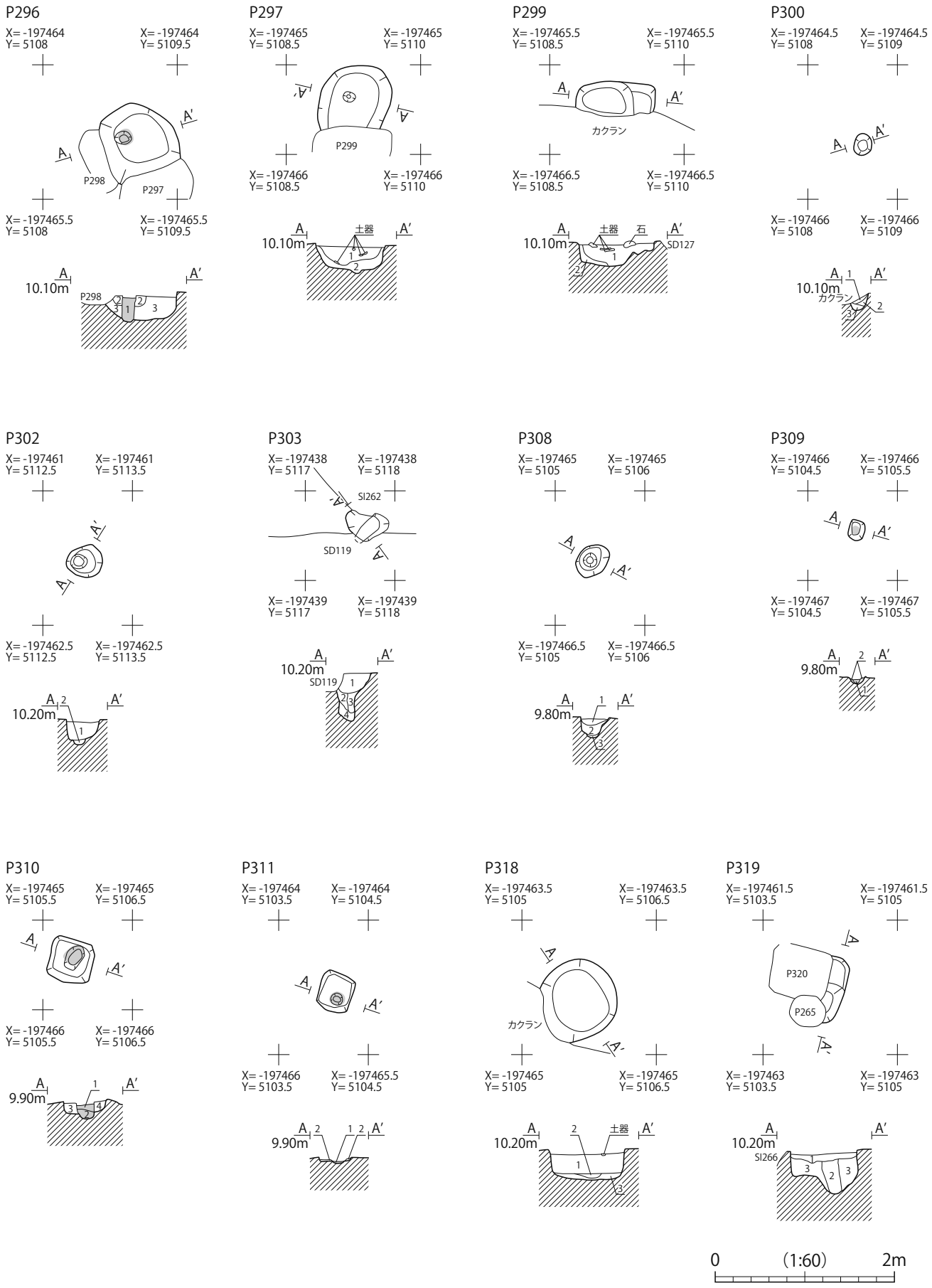
第 115 図　ピット（4）


P235
X= -197430 Y= 5111
X= -197430 Y= 5112
X= -197431 Y= 5111
X= -197431 Y= 5112
A
A′
P27
10.30m
1
2
P239
X= -197433.5 Y= 5108
X= -197433.5 Y= 5109
X= -197434.5 Y= 5108
X= -197434.5 Y= 5109
10.20m
1
2
3
P247
X= -197433.5 Y= 5112
X= -197433.5 Y= 5113.5
X= -197435 Y= 5112
X= -197435 Y= 5113.5
SK258
P248
10.20m
1
2
3
P248
X= -197433.5 Y= 5112.5
X= -197433.5 Y= 5113.5
X= -197434.5 Y= 5112.5
X= -197434.5 Y= 5113.5
10.20m
SK258
1
2
3
石
P249
X= -197431 Y= 5111
X= -197431 Y= 5112
X= -197432 Y= 5111
X= -197432 Y= 5112
10.30m
SD130
1
2
P250
X= -197431.5 Y= 5111
X= -197431.5 Y= 5112
X= -197432.5 Y= 5111
X= -197432.5 Y= 5112
10.20m
SD130
1
2
P251
X= -197432.5 Y= 5110.5
X= -197432.5 Y= 5112
X= -197433.5 Y= 5110.5
X= -197433.5 Y= 5112
P224
10.30m
1
P224
P252
X= -197441 Y= 5111.5
X= -197441 Y= 5112.5
X= -197442 Y= 5111.5
X= -197442 Y= 5112.5
10.00m
2
P253
X= -197449.5 Y= 5107
X= -197449.5 Y= 5108
X= -197450.5 Y= 5107
X= -197450.5 Y= 5108
10.20m
P144
SD124
1
2
P257
X= -197447 Y= 5108.5
X= -197447 Y= 5109.5
X= -197448 Y= 5108.5
X= -197448 Y= 5109.5
10.10m
1
2
3
P258
X= -197446 Y= 5106.5
X= -197446 Y= 5107.5
X= -197447 Y= 5106.5
X= -197447 Y= 5107.5
10.10m
1
2
3
P261
X= -197455.5 Y= 5102
X= -197455.5 Y= 5103.5
カクラン
P244
X= -197457 Y= 5102
X= -197457 Y= 5103.5
10.10m
1
2
3
4
石
0
(1:60)
2m

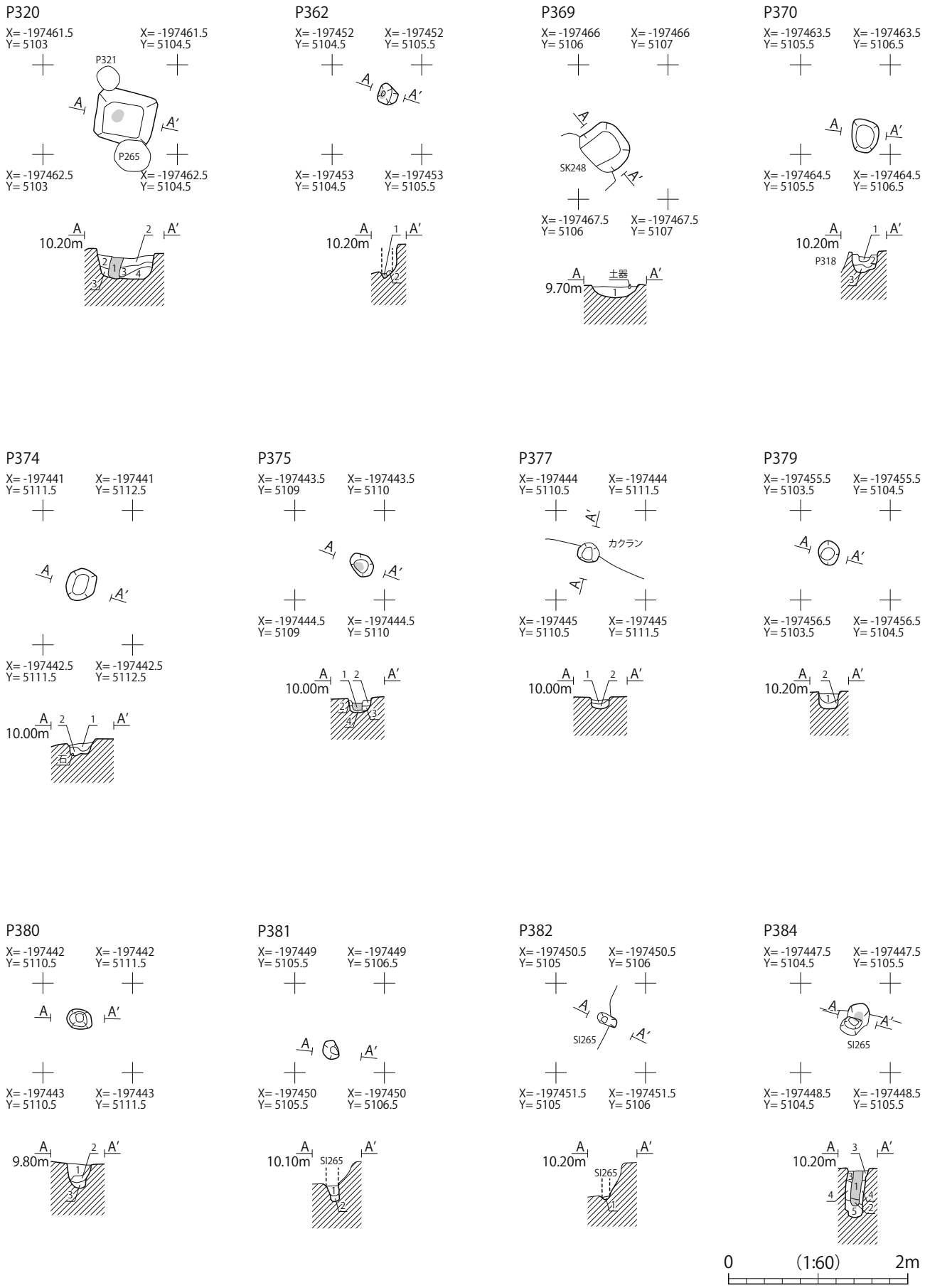
第 116 図　ピット（5）


P264
X= -197461 Y= 5102
X= -197461 Y= 5103.5
X= -197462.5 Y= 5102
X= -197462.5 Y= 5103.5
カクラン
10.20m
P265
X= -197462 Y= 5103.5
X= -197462 Y= 5104.5
X= -197463.5 Y= 5103.5
X= -197463.5 Y= 5104.5
10.20m
P266
X= -197463 Y= 5104
X= -197463 Y= 5105
X= -197464.5 Y= 5104
X= -197464.5 Y= 5105
カクラン
10.20m
P267
X= -197458 Y= 5107.5
X= -197458 Y= 5109
X= -197459.5 Y= 5107.5
X= -197459.5 Y= 5109
カクラン
10.20m
P280
X= -197466.5 Y= 5108.5
X= -197466.5 Y= 5109.5
X= -197467.5 Y= 5108.5
X= -197467.5 Y= 5109.5
石
10.00m
P281
X= -197466 Y= 5106.5
X= -197466 Y= 5107.5
X= -197467 Y= 5106.5
X= -197467 Y= 5107.5
9.90m
P287
X= -197465.5 Y= 5106
X= -197465.5 Y= 5108
P281
X= -197467 Y= 5106
X= -197467 Y= 5108
カクラン
10.00m
P290
X= -197457 Y= 5101.5
X= -197457 Y= 5102.5
カクラン
X= -197458.5 Y= 5101.5
X= -197458.5 Y= 5102.5
カクラン
10.10m
P291
X= -197458.5 Y= 5101
X= -197458.5 Y= 5102.5
P291
カクラン
X= -197460 Y= 5101
Y= 5102.5
カクラン
10.20m
＊柱痕跡は見通しによる合成。
P292
X= -197458.5 Y= 5101
X= -197458.5 Y= 5102.5
P291
カクラン
X= -197460.5 Y= 5101
X= -197460.5 Y= 5102.5
P291
10.20m
P293
X= -197459 Y= 5101
X= -197459 Y= 5102.5
カクラン
P292
X= -197460.5 Y= 5101
X= -197460.5 Y= 5102.5
P292
カクラン
10.20m
P294
X= -197463.5 Y= 5107.5
X= -197463.5 Y= 5108.5
X= -197464.5 Y= 5107.5
X= -197464.5 Y= 5108.5
10.10m
0 (1:60) 2m

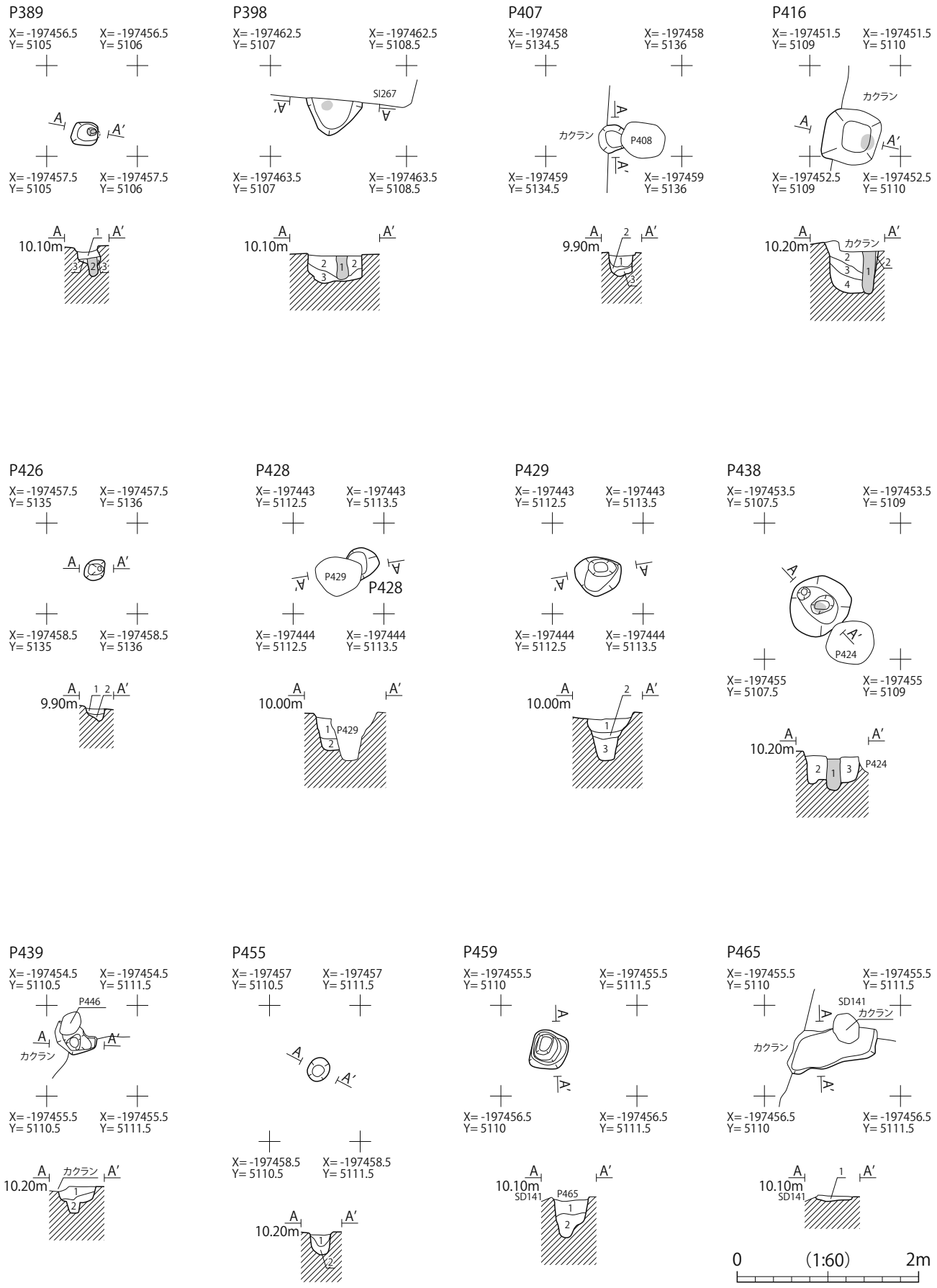
第 117 図　ピット（6）


P296
X= -197464 Y= 5108
X= -197464 Y= 5109.5
X= -197465.5 Y= 5108
X= -197465.5 Y= 5109.5
P298
P297
10.10m
P297
X= -197465 Y= 5108.5
X= -197465 Y= 5110
X= -197466 Y= 5108.5
X= -197466 Y= 5110
P299
土器
10.10m
P299
X= -197465.5 Y= 5108.5
X= -197465.5 Y= 5110
X= -197466.5 Y= 5108.5
X= -197466.5 Y= 5110
カクラン
土器
石
SD127
10.10m
P300
X= -197464.5 Y= 5108
X= -197464.5 Y= 5109
X= -197466 Y= 5108
X= -197466 Y= 5109
カクラン
10.10m
P302
X= -197461 Y= 5112.5
X= -197461 Y= 5113.5
X= -197462.5 Y= 5112.5
X= -197462.5 Y= 5113.5
10.20m
P303
X= -197438 Y= 5117
X= -197438 Y= 5118
SI262
SD119
X= -197439 Y= 5117
X= -197439 Y= 5118
SD119
10.20m
P308
X= -197465 Y= 5105
X= -197465 Y= 5106
X= -197466.5 Y= 5105
X= -197466.5 Y= 5106
9.80m
P309
X= -197466 Y= 5104.5
X= -197466 Y= 5105.5
X= -197467 Y= 5104.5
X= -197467 Y= 5105.5
9.80m
P310
X= -197465 Y= 5105.5
X= -197465 Y= 5106.5
X= -197466 Y= 5105.5
X= -197466 Y= 5106.5
9.90m
P311
X= -197464 Y= 5103.5
X= -197464 Y= 5104.5
X= -197466 Y= 5103.5
X= -197465.5 Y= 5104.5
9.90m
P318
X= -197463.5 Y= 5105
X= -197463.5 Y= 5106.5
カクラン
X= -197465 Y= 5105
X= -197465 Y= 5106.5
土器
10.20m
P319
X= -197461.5 Y= 5103.5
X= -197461.5 Y= 5105
P320
P265
X= -197463 Y= 5103.5
X= -197463 Y= 5105
SI266
10.20m
0 (1:60) 2m

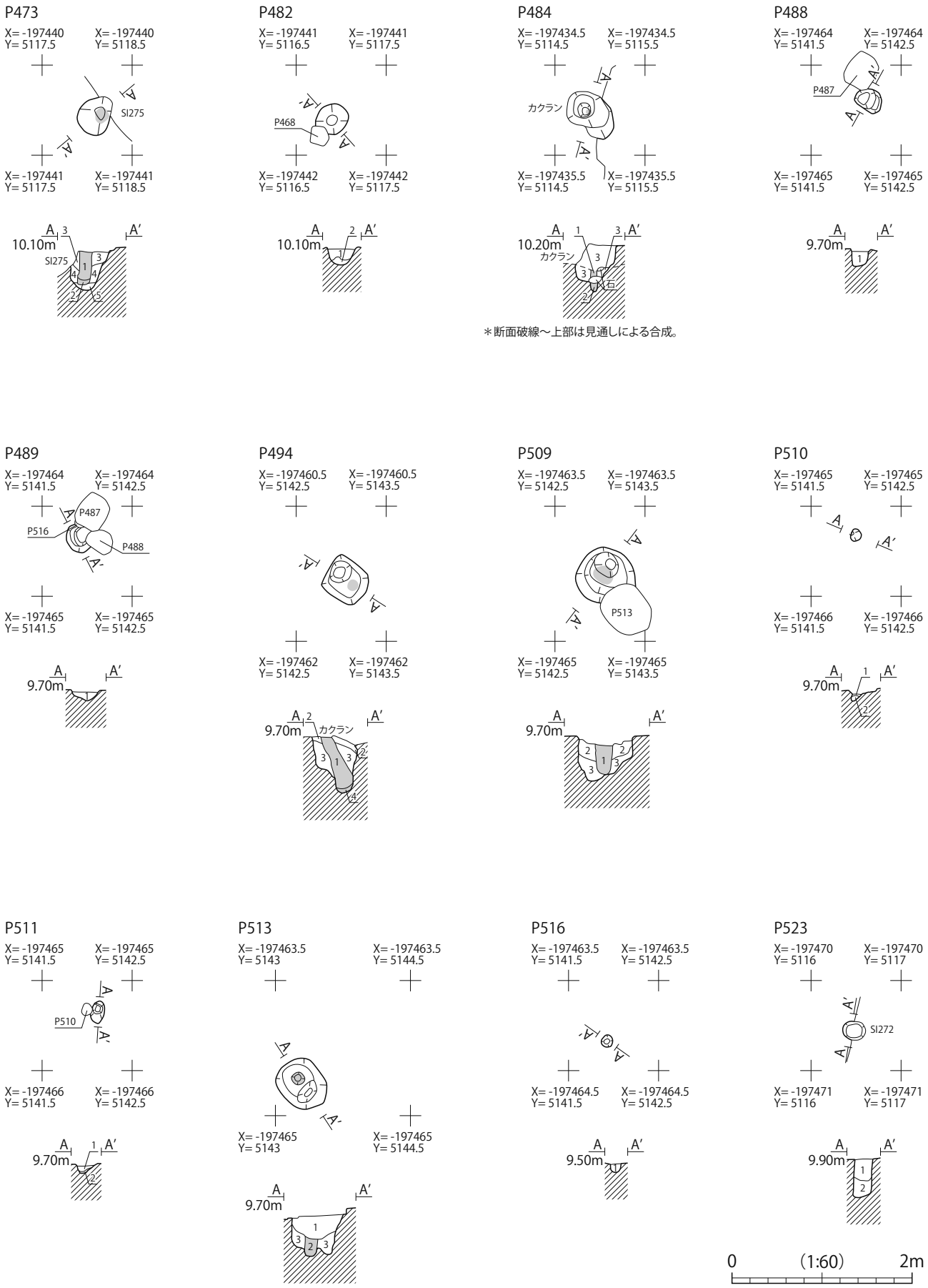
第 118 図　ピット（7）


P320
X= -197461.5 Y= 5103
X= -197461.5 Y= 5104.5
P321
P265
X= -197462.5 Y= 5103
X= -197462.5 Y= 5104.5
10.20m
P362
X= -197452 Y= 5104.5
X= -197452 Y= 5105.5
X= -197453 Y= 5104.5
X= -197453 Y= 5105.5
10.20m
P369
X= -197466 Y= 5106
X= -197466 Y= 5107
SK248
X= -197467.5 Y= 5106
X= -197467.5 Y= 5107
土器
9.70m
P370
X= -197463.5 Y= 5105.5
X= -197463.5 Y= 5106.5
X= -197464.5 Y= 5105.5
X= -197464.5 Y= 5106.5
10.20m
P318
P374
X= -197441 Y= 5111.5
X= -197441 Y= 5112.5
X= -197442.5 Y= 5111.5
X= -197442.5 Y= 5112.5
10.00m
石
P375
X= -197443.5 Y= 5109
X= -197443.5 Y= 5110
X= -197444.5 Y= 5109
X= -197444.5 Y= 5110
10.00m
P377
X= -197444 Y= 5110.5
X= -197444 Y= 5111.5
カクラン
X= -197445 Y= 5110.5
X= -197445 Y= 5111.5
10.00m
P379
X= -197455.5 Y= 5103.5
X= -197455.5 Y= 5104.5
X= -197456.5 Y= 5103.5
X= -197456.5 Y= 5104.5
10.20m
P380
X= -197442 Y= 5110.5
X= -197442 Y= 5111.5
X= -197443 Y= 5110.5
X= -197443 Y= 5111.5
9.80m
P381
X= -197449 Y= 5105.5
X= -197449 Y= 5106.5
X= -197450 Y= 5105.5
X= -197450 Y= 5106.5
10.10m
SI265
P382
X= -197450.5 Y= 5105
X= -197450.5 Y= 5106
SI265
X= -197451.5 Y= 5105
X= -197451.5 Y= 5106
10.20m
SI265
P384
X= -197447.5 Y= 5104.5
X= -197447.5 Y= 5105.5
SI265
X= -197448.5 Y= 5104.5
X= -197448.5 Y= 5105.5
10.20m
0 (1:60) 2m

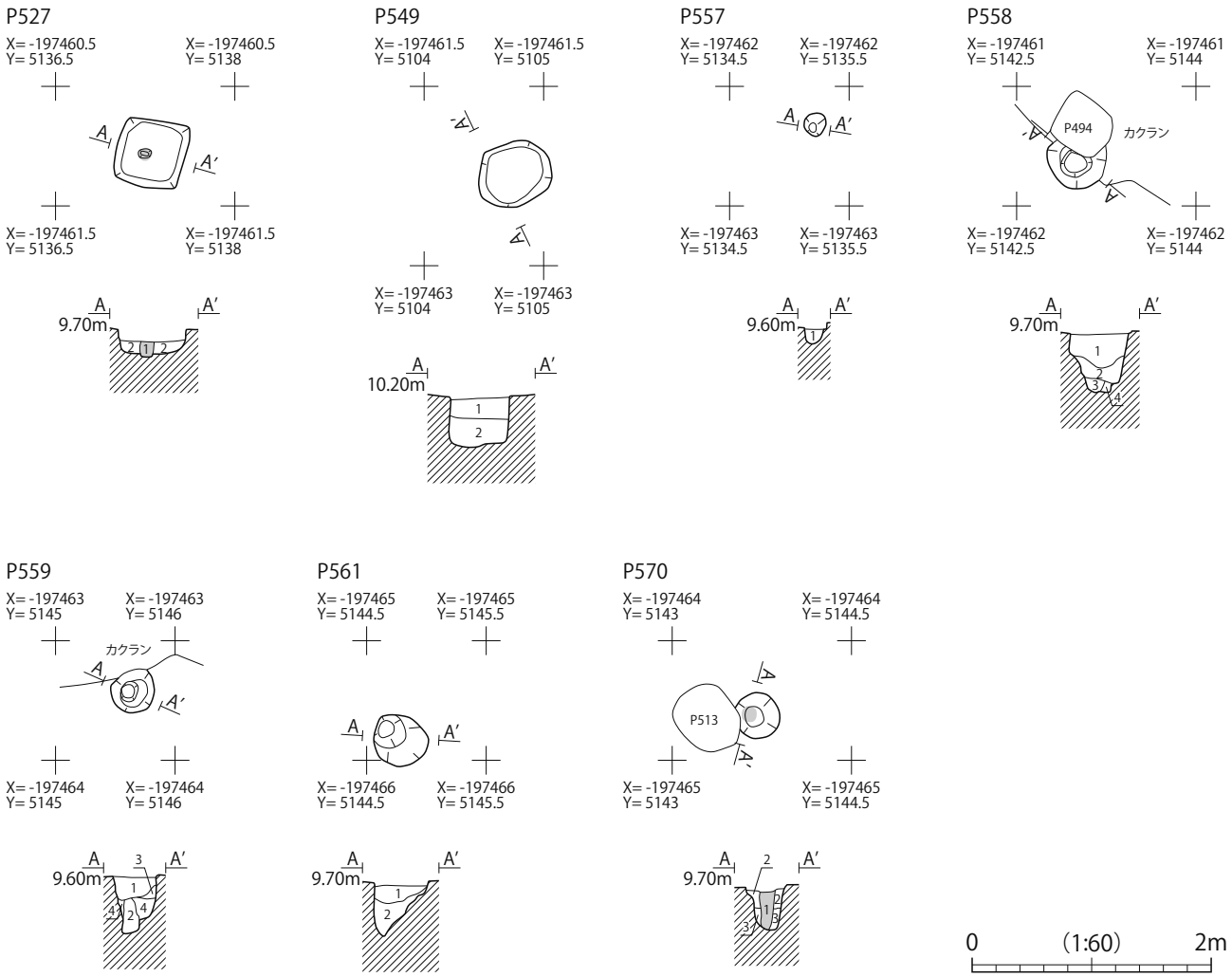
第 119 図　ピット（8）


P389
X= -197456.5 Y= 5105
X= -197456.5 Y= 5106
X= -197457.5 Y= 5105
X= -197457.5 Y= 5106
10.10m
P398
X= -197462.5 Y= 5107
X= -197462.5 Y= 5108.5
SI267
X= -197463.5 Y= 5107
X= -197463.5 Y= 5108.5
10.10m
P407
X= -197458 Y= 5134.5
X= -197458 Y= 5136
カクラン
P408
X= -197459 Y= 5134.5
X= -197459 Y= 5136
9.90m
P416
X= -197451.5 Y= 5109
X= -197451.5 Y= 5110
カクラン
X= -197452.5 Y= 5109
X= -197452.5 Y= 5110
10.20m
カクラン
P426
X= -197457.5 Y= 5135
X= -197457.5 Y= 5136
X= -197458.5 Y= 5135
X= -197458.5 Y= 5136
9.90m
P428
X= -197443 Y= 5112.5
X= -197443 Y= 5113.5
P429
P428
X= -197444 Y= 5112.5
X= -197444 Y= 5113.5
10.00m
P429
X= -197443 Y= 5112.5
X= -197443 Y= 5113.5
X= -197444 Y= 5112.5
X= -197444 Y= 5113.5
10.00m
P438
X= -197453.5 Y= 5107.5
X= -197453.5 Y= 5109
P424
X= -197455 Y= 5107.5
X= -197455 Y= 5109
10.20m
P424
P439
X= -197454.5 Y= 5110.5
X= -197454.5 Y= 5111.5
P446
カクラン
X= -197455.5 Y= 5110.5
X= -197455.5 Y= 5111.5
10.20m
カクラン
P455
X= -197457 Y= 5110.5
X= -197457 Y= 5111.5
X= -197458.5 Y= 5110.5
X= -197458.5 Y= 5111.5
10.20m
P459
X= -197455.5 Y= 5110
X= -197455.5 Y= 5111.5
X= -197456.5 Y= 5110
X= -197456.5 Y= 5111.5
10.10m
SD141
P465
P465
X= -197455.5 Y= 5110
X= -197455.5 Y= 5111.5
SD141
カクラン
カクラン
X= -197456.5 Y= 5110
X= -197456.5 Y= 5111.5
10.10m
SD141
0 (1:60) 2m

第 120 図　ピット（9）


P473
X= -197440 Y= 5117.5
X= -197440 Y= 5118.5
SI275
X= -197441 Y= 5117.5
X= -197441 Y= 5118.5
10.10m
P482
X= -197441 Y= 5116.5
X= -197441 Y= 5117.5
P468
X= -197442 Y= 5116.5
X= -197442 Y= 5117.5
10.10m
P484
X= -197434.5 Y= 5114.5
X= -197434.5 Y= 5115.5
カクラン
X= -197435.5 Y= 5114.5
X= -197435.5 Y= 5115.5
10.20m
カクラン
石
＊断面破線～上部は見通しによる合成。
P488
X= -197464 Y= 5141.5
X= -197464 Y= 5142.5
P487
X= -197465 Y= 5141.5
X= -197465 Y= 5142.5
9.70m
P489
X= -197464 Y= 5141.5
X= -197464 Y= 5142.5
P487
P516
P488
X= -197465 Y= 5141.5
X= -197465 Y= 5142.5
9.70m
P494
X= -197460.5 Y= 5142.5
X= -197460.5 Y= 5143.5
X= -197462 Y= 5142.5
X= -197462 Y= 5143.5
9.70m
カクラン
P509
X= -197463.5 Y= 5142.5
X= -197463.5 Y= 5143.5
P513
X= -197465 Y= 5142.5
X= -197465 Y= 5143.5
9.70m
P510
X= -197465 Y= 5141.5
X= -197465 Y= 5142.5
X= -197466 Y= 5141.5
X= -197466 Y= 5142.5
9.70m
P511
X= -197465 Y= 5141.5
X= -197465 Y= 5142.5
P510
X= -197466 Y= 5141.5
X= -197466 Y= 5142.5
9.70m
P513
X= -197463.5 Y= 5143
X= -197463.5 Y= 5144.5
X= -197465 Y= 5143
X= -197465 Y= 5144.5
9.70m
P516
X= -197463.5 Y= 5141.5
X= -197463.5 Y= 5142.5
X= -197464.5 Y= 5141.5
X= -197464.5 Y= 5142.5
9.50m
P523
X= -197470 Y= 5116
X= -197470 Y= 5117
SI272
X= -197471 Y= 5116
X= -197471 Y= 5117
9.90m
0 (1:60) 2m

第 121 図　ピット（10）



第 122 図　ピット（11）

可能なものを中心に、土師器坏 5 点、同器台 1 点、同甕 1 点、同高台部分 1 点、ロクロ土師器坏 1 点、須恵器坏 3 点、鉄釘 1 点、土製遺物 1 点を掲載した（第 123 図）。2・4・11・13・14 は土師器坏である。2 は内外面ヘラミガキで内面に黒色処理が施される小型の坏である。口径は 8.4cm である。4・11・13 はいわゆる関東系土師器である。4 は、口縁部が短く屈曲し口縁端部外面に沈線状の凹みをもつ。調整は、外面が口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、内面はヨコナデとみられる。色調は明るい赤褐色を呈する。11・13 は写真のみ掲載した。6 はロクロ土師器坏である。外面の体部下端にヘラケズリがみられる。内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。口唇部に著しい摩滅がみられる。5 は、体部下位に最大径をもつ大型の甕である。ピット内に埋設された可能性がある。

7 は、口縁部と体部の境に段をもち口縁部が内湾気味に外傾する須恵器坏である。8･9 は須恵器高台付坏である。ともに底部には回転ヘラケズリが施されている。

10 は、棒状の鉄製品である。残存長 9.1cm、幅 1.1cm、厚さ 0.6cm で重量は 13g である。鉄釘の可能性も考えられるが、用途は不明である。

12 は、ヘラケズリ時の薄い土片が焼成されたものと考えられる。当該地で土器の調整と焼成が行われたことを示す資料である。

ピット観察表 (1)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P169	23	（円形）	33 ×（17）	11	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。	P170. より古い
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状にやや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状に多量含む。	
P170	23	不整形	71 × 54	34	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状に少量含む。	P169 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 5mm の粒状に少量含む。	
P188	7	楕円形	66 × 55	26	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 5mm の粒状に少量、径 3 ～ 5mm の炭化物粒を極少量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状に多く含む。	
P206	23	（方形）	55 ×（34）	16	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10m の粒状に少量含む。	SK237・P394 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 5mm の粒状にごく少量含む。	
P207	23・29	楕円形	84 × 74	21	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状に多く含む。	
P208	41	方形	48 × 45	44	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に少量含む。	SI266 より新しい
					2	10YR3/2 黒褐色	粘質シルト	白色粘土を径 5 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状にやや多く含む。	
P223	6	楕円形	50 × 38	23	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に少量含む。	
P224	6	楕円形	55 × 40	22	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	P251 より古く、SD130 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に多量含む。	
P228	18	楕円形	83 × 74	20	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に少量含む。	SD120 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm の粒状に多量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に多量含む。	
P229	18	（楕円形）	60 × 51	23	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状にやや多く含む。	P228 より古い
P230	18	（方形）	(55)×(51)	52	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状にやや多く含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 5mm のブロック状に多量含む。	
P231	18	楕円形	31 × 25	22	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状にやや多く含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	炭化物を少量含む。	
P232	17・18	（楕円形）	(32) × 28	22	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状にやや多く含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状に少量含む。	
P233	17	（方形）	30 ×（24）	19	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	炭化物を少量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト		
					3	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状にやや多く含む。	
P234	18	方形	46 × 41	19	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 5mm の粒状に少量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	炭化物を少量含む。	
P235	6	（円形）	40 × 38	33	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm のブロック状にやや多く含む。	P105 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。	
P239	5	方形	36 × 29	29	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に少量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	
P247	6	円形	26 × 23	12	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	SK258・P248 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 5mm の粒状に多量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 5mm の粒状に多量含む。	
P248	6	方形	64 × 52	20	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。焼土を径 3 ～ 5mm の粒状に極少量含む。	P247 より古く、SK258 より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状に多量含む。	
P249	6	方形	35 × 29	11	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 20mm の粒状にやや多く含む。	SD130 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状に多量含む。	
P250	6	円形	27 × 26	12	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状に少量含む。	SD130 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	
P251	6	方形	26 × 18	17	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	SD130・P224 より新しい
P252	18	楕円形	30 × 22	18	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 5mm の粒状に少量含む。	SK254 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	
P253	23・29	円形	46 × 36	18	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状に少量含む。	SD124 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm の粒状にやや多く含む。炭化物を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。	
P257	23	円形	40 × 35	22	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 20m の粒状に少量含む。焼土、炭化物を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	炭化物を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm のブロック状にやや多く含む。	
P258	23	方形	35 × 30	15	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に多く含む。	
P261	35	（隅丸方形）	66 × 46	36	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 10mm の粒状に少量含む。焼土、炭化物を径 3 ～ 5mm の粒状に少量含む。	P244 より古く、P246 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状に多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に多く含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多く含む。	
P264	41	（楕円形）	(68)×(52)	31	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm のブロック状にやや多く含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm のブロック状に多く含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm のブロック状に少量含む。	
P265	41	円形	40 × 37	26	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に多く含む。	P319・320 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 30mm の粒状に多く含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状にやや多く含む。	
P266	41	（不整形）	61 ×（46）	38	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm の粒状に多く含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm の粒状に少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm の粒状にやや多く含む	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。	
					5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状に多く含む。	
P267	35	（楕円形）	72 ×（31）	23	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	SI266 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状にやや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状にやや多く含む。	

ピット観察表 (2)

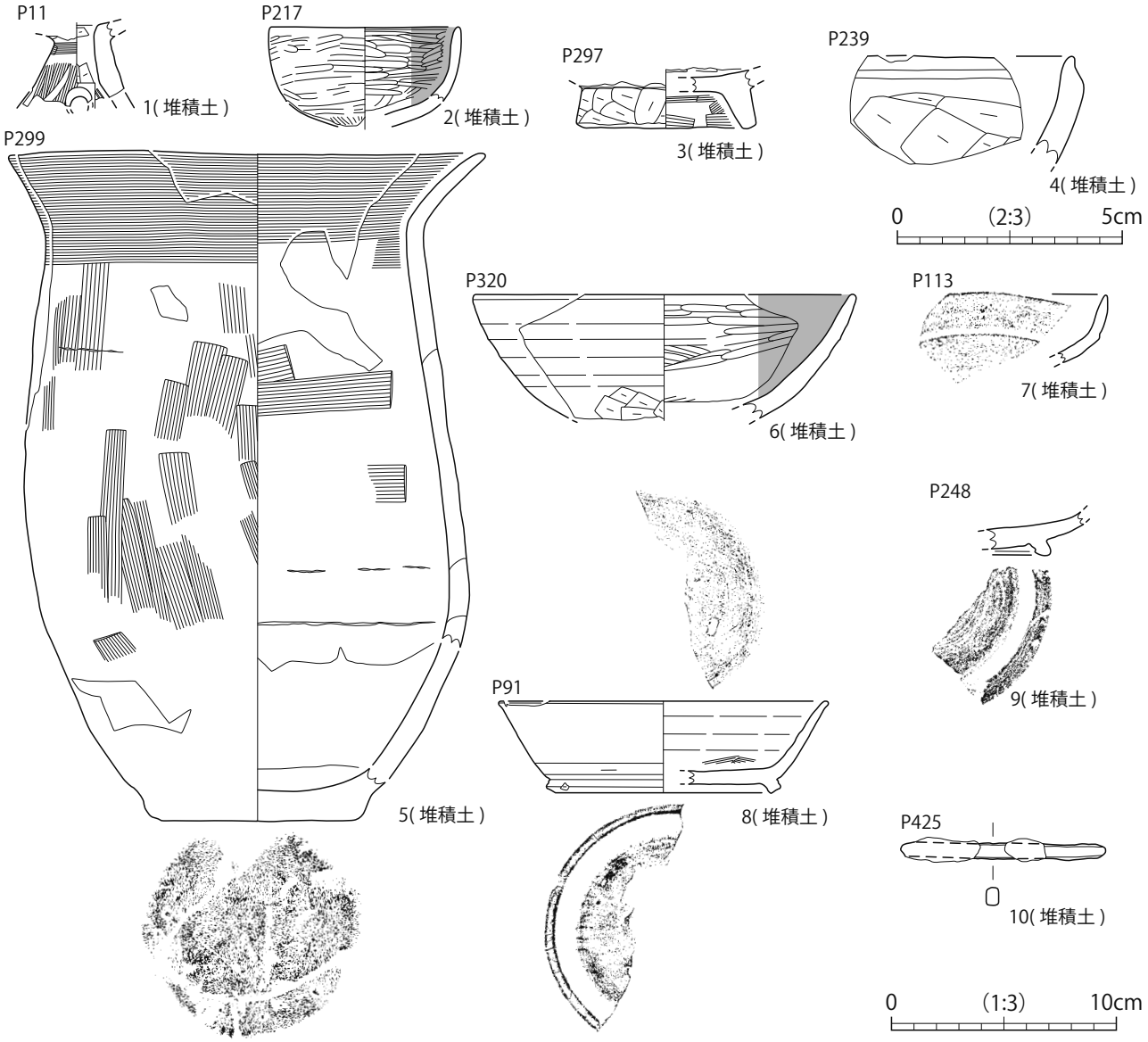
遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P169	23	（円形）	33 ×（17）	11	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。	P170. より古い
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状にやや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状に多量含む。	
P170	23	不整形	71 × 54	34	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状に少量含む。	P169 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 5mm の粒状に少量含む。	
P188	7	楕円形	66 × 55	26	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 5mm の粒状に少量、径 3 ～ 5mm の炭化物粒を極少量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状に多く含む。	
P206	23	（方形）	55 ×（34）	16	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10m の粒状に少量含む。	SK237・P394 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 5mm の粒状にごく少量含む。	
P207	23・29	楕円形	84 × 74	21	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状に多く含む。	
P208	41	方形	48 × 45	44	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に少量含む。	SI266 より新しい
					2	10YR3/2 黒褐色	粘質シルト	白色粘土を径 5 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状にやや多く含む。	
P223	6	楕円形	50 × 38	23	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に少量含む。	
P224	6	楕円形	55 × 40	22	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	P251 より古く、SD130 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に多量含む。	
P228	18	楕円形	83 × 74	20	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に少量含む。	SD120 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm の粒状に多量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に多量含む。	
P229	18	（楕円形）	60 × 51	23	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状にやや多く含む。	P228 より古い
P230	18	（方形）	(55)×(51)	52	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状にやや多く含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 5mm のブロック状に多量含む。	
P231	18	楕円形	31 × 25	22	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状にやや多く含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	炭化物を少量含む。	
P232	17・18	（楕円形）	(32) × 28	22	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状にやや多く含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状に少量含む。	
P233	17	（方形）	30 ×（24）	19	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	炭化物を少量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト		
					3	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状にやや多く含む。	
P234	18	方形	46 × 41	19	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 5mm の粒状に少量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	炭化物を少量含む。	
P235	6	（円形）	40 × 38	33	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm のブロック状にやや多く含む。	P105 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。	
P239	5	方形	36 × 29	29	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に少量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	
P247	6	円形	26 × 23	12	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	SK258・P248 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 5mm の粒状に多量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 5mm の粒状に多量含む。	
P248	6	方形	64 × 52	20	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。焼土を径 3 ～ 5mm の粒状に極少量含む。	P247 より古く、SK258 より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状に多量含む。	
P249	6	方形	35 × 29	11	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 20mm の粒状にやや多く含む。	SD130 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状に多量含む。	
P250	6	円形	27 × 26	12	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状に少量含む。	SD130 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	
P251	6	方形	26 × 18	17	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	SD130・P224 より新しい
P252	18	楕円形	30 × 22	18	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 5mm の粒状に少量含む。	SK254 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	
P253	23・29	円形	46 × 36	18	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状に少量含む。	SD124 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm の粒状にやや多く含む。炭化物を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。	
P257	23	円形	40 × 35	22	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 20m の粒状に少量含む。焼土、炭化物を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	炭化物を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm のブロック状にやや多く含む。	
P258	23	方形	35 × 30	15	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に多く含む。	
P261	35	（隅丸方形）	66 × 46	36	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 10mm の粒状に少量含む。焼土、炭化物を径 3 ～ 5mm の粒状に少量含む。	P244 より古く、P246 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状に多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に多く含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多く含む。	
P264	41	（楕円形）	(68)×(52)	31	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm のブロック状にやや多く含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm のブロック状に多く含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm のブロック状に少量含む。	
P265	41	円形	40 × 37	26	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に多く含む。	P319・320 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 30mm の粒状に多く含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状にやや多く含む。	
P266	41	（不整形）	61 ×（46）	38	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm の粒状に多く含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm の粒状に少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm の粒状にやや多く含む	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多量含む。	
					5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状に多く含む。	
P267	35	（楕円形）	72 ×（31）	23	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	SI266 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状にやや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状にやや多く含む。	

ピット観察表 (3)

遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P280	47	楕円形	57 × 52	28	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状に少量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm のブロック状に多く含む。	
P281	47	隅丸方形	28 × 22	27	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に多く含む。	P287 より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に少量含む。	
P287	47	（方形）	81 × 80	16	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状に少量含む。	P281 より古い
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状にやや多く含む。	
					3	10YR4/4 褐色	粘質シルト	暗褐色粘質土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	
P290	35	（楕円形）	36 × 32	11	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に多く含む。	SK246 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	炭化物を多量に含む。	
P291	35	（隅丸方形）	(57)×(44)	46	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 30mm の粒状に多く含む。	P292 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 10mm の粒状に少量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状にやや多く含む。	
					5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多く含む。	
					6	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に多く含む。	
P292	35	（円形）	43 × 21	28	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に少量含む。	P291 より古く、P293 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm のブロック状に多く含む。炭化物を少量含む。	
P293	35・41	（円形）	40 × 19	23	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状に少量含む。	P292 より古い
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状に多く含む。	
P294	41	楕円形	28 × 21	11	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に多く含む。	
P296	41・47	（楕円形）	82 × 80	30	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状に少量含む。	P297・298 より古い
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm の粒状にやや多く含む。	
P297	47	（楕円形）	77 × （71）	31	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に少量含む。	P299 より古く、P296 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状にやや多く含む。	
P299	47	（隅丸方形）	88 × （39）	26	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm の粒状に少量含む。	P297 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm の粒状に多く含む。	
P300	47	楕円形	24 × 20	20	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	P298 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm のブロック状に多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多く含む。	
P302	42	円形	41 × 34	26	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に少量含む。	SI268 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	
P303	12	（不整形）	41 × 35	53	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	SI262 より古い
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状に多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm の粒状にやや多く含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に少量含む。	
P308	47	楕円形	41 × 32	21	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多く含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状にやや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。	
P309	47	方形	22 × 18	7	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状にやや多く含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状に多く含む。	
P310	47	方形	49 × 48	20	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状に少量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状に多く含む。	
P311	41・47	方形	43 × 37	6	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状に多く含む。	
P318	41	（円形）	（88） × 87	30	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 50mm の粒状にやや多く含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状に少量含む。	
P319	41	（隅丸方形）	76 × （20）	47	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 10mm の粒状に多く含む。	P265・320 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm の粒状にやや多く含む。	
P320	41	（方形）	65 × 59	28	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	P265 より古く、P319 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状に少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状に多く含む。	
P362	29	不整形	24 × 23	9	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状に少量含む。	SI265 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	焼土を極少量含む。Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。	
P369	47	（方形）	52 × （46）	13	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状に多量含む。	SI273・SK248 より新しい
P370	41	方形	36 × 30	21	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に多く含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状に多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	
P374	18	楕円形	37 × 33	16	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 10mm の粒状に少量含む。	SK254 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	
P375	17	楕円形	29 × 22	14	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状に多く含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm の粒状に少量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 20mm の粒状に多く含む。	
P377	18	円形	24 × （22）	11	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状に多く含む。	SK253 より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状に少量含む。	
P379	35	楕円形	27 × 23	17	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状に多量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	
P380	18	楕円形	29 × 23	28	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	SD132・P383 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 10mm の粒状に多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	
P381	23	楕円形	21 × 18	18	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 30mm のブロック状にやや多く含む。	SI265 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状にやや多く含む。	
P382	29	楕円形	（23） × 11	4	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	

ピット観察表 (4)

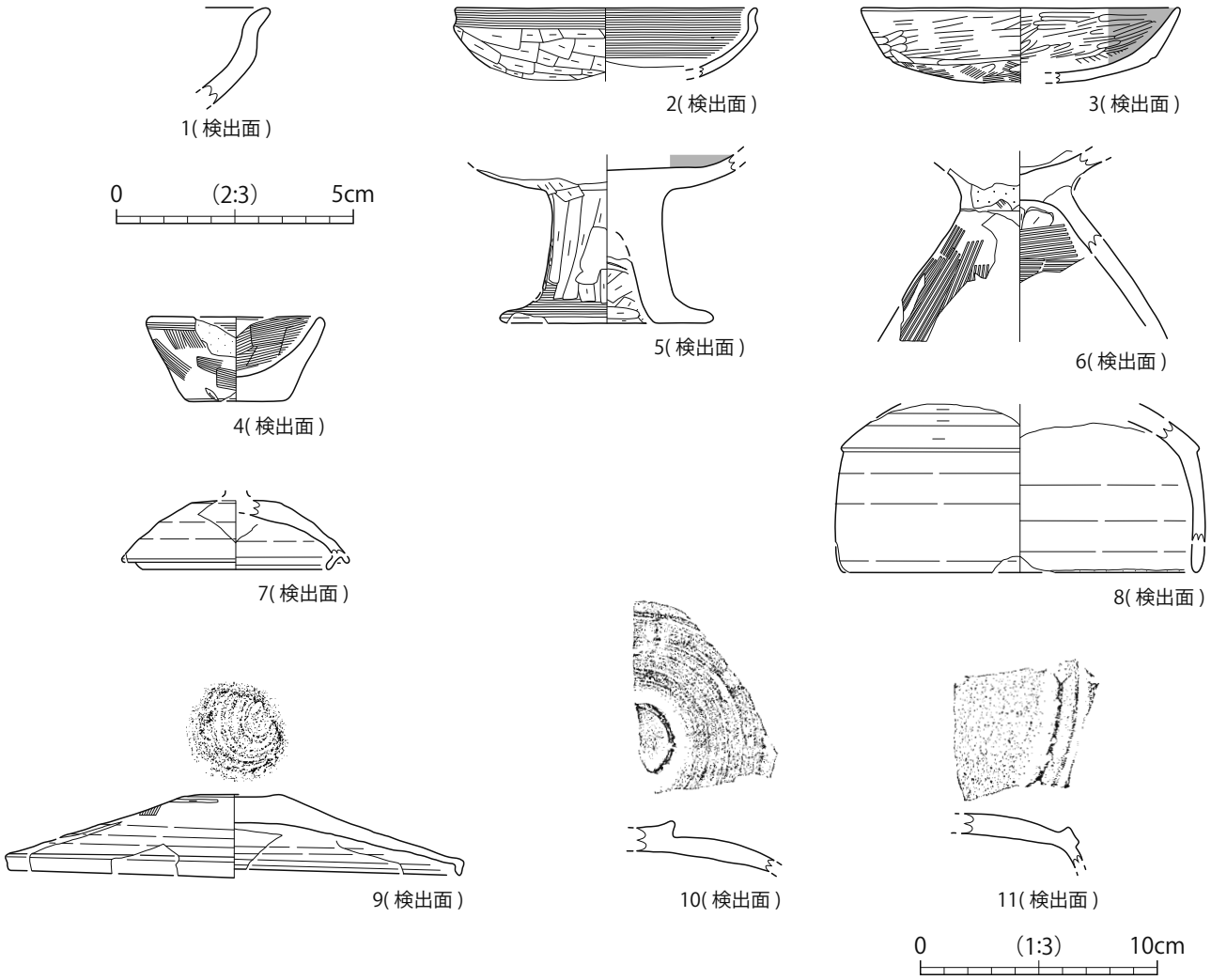
遺構名	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土色	土性	備考	重複
P384	23	不整形	(39)×(24)	53	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。焼土粒少量含む。	SI265 より新しい
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状に多量含む。	
					5	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	
P389	35	方形	28 × 25	29	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 20mm の粒状に多量含む。	SD126 より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 10mm の粒状に少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	
P398	41	（方形）	(55)×(35)	31	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。	SI267 より古い
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm のブロック状に多く含む。	
P407	37	（楕円形）	30 × （25）	23	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	P408 より古い
					2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 20mm の粒状に多量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状に少量含む。	
P416	29	（方形）	(61)×(60)	58	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 10mm の粒状に少量含む。	SD142 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 20mm の粒状にやや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状に少量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm のブロック状に多く含む。	
P426	37	方形	26 × 22	14	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	P427 より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	
P428	18	（円形）	33 × （19）	37	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	P429 より古い
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 10mm の粒状に少量含む。	
P429	18	円形	51 × 44	47	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	P248 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状に少量含む	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状に多量含む。	
P438	29	（楕円形）	70 × （61）	38	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 0.5 ～ 10mm の粒状に少量含む。	P242 より古い
					2	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 0.10 ～ 20mm の粒状に少量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 20mm の粒状にやや多く含む。	
P439	30・36	（不整形）	49 × 29	30	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	P446 より古く、SD141 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に多く含む。	
P455	36	楕円形	26 × 23	22	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	
P459	36	方形	43 × 40	42	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	SD141・P465 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm のブロック状に少量含む。	
P465	36	（隅丸長方形）	(99)×(39)	8	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	SD141・P459 より古い
P473	18	（楕円形）	45 × 36	44	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	SI275 より古く、P474 より新しい
					2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 20 ～ 30mm の粒状に少量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状に多量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	
					5	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	
P482	18	（円形）	34 × 34	17	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状にやや多く含む。	P468 より古い
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	
P484	6・12	（楕円形）	(61)×(39)	53	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	（柱痕跡）	SI262 より古い
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 20mm のブロック状にやや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 10 ～ 50mm のブロック状に少量含む。	
P488	44	（楕円形）	31 × 24	17	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	P487 より古く、P489 より新しい
P489	44	（円形）	33 × （26）	10	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 20mm の粒状に多く含む。	P488・516 より古い
P494	44	方形	49 × 44	64	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 10mm の粒状に少量含む。	P558 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 20mm の粒状に多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 50mm の粒状にやや多く含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 20mm の粒状に多く含む。	
P509	44	（円形）	63 × （47）	46	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 15mm の粒状に少量含む。（柱痕跡）	P513 より古い
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 10mm の粒状に多量含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	
P510	51	円形	13 × 12	7	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。	P511 より古い
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	
P511	51	（楕円形）	25 × （14）	9	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。	P510 より新しい
					2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	炭化物を少量含む。	
P513	44	楕円形	60 × 48	47	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状に多量含む。（抜き穴）	P509・570 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。（柱痕跡）	
					3	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	
P516	44	円形	14 × 13	10	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。	P487 より古く、P489 より新しい
P523	54	（楕円形）	(26)×(21)	43	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 10mm の粒状に少量含む。	SI272 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	
P527	43	方形	57 × 57	14	1	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 3mm の粒状に少量含む。（柱痕跡）	SI279 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	
P549	41	楕円形	65 × 53	42	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	SI266 より新しい
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状に多く含む。	
P557	43	円形	19 × 18	13	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 2mm の粒状に少量含む。	SI279・SE2・SK251 より新しい
P558	44	（円形）	(50)×(30)	50	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 30mm の粒状に多く含む。	P494 より古い
					2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 10mm の粒状にやや多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に多く含む。	
P559	44	円形	39 × 35	48	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 3 ～ 50mm の粒状に多く含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 30 ～ 50mm のブロック状に多く含む。	
					3	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に多く含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を斑状に多く含む。	
P561	51	円形	47 × 43	43	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 10mm の粒状に多く含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 30mm の粒状にやや多く含む。	
P570	44	（円形）	38 × （34）	34	1	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	Ⅳ層土を径 1 ～ 5mm の粒状に少量含む。（柱痕跡）	P513 より古い
					2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を径 5 ～ 15mm の粒状に多量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土を斑状に少量含む。	



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-195	P11	堆積土	土師器	器台	—	—	(3.8)	脚部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	脚部：ﾊｹﾒ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	スカシ４ヶ所あり (円形) 塩釜式	76-1
2	C-196	P217	堆積土	土師器	坏	(8.4)	—	(4.6)	口縁～体部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁～体部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり 赤褐色粒あり	76-2
3	C-198	P297	堆積土	土師器	不明 (高台部)	—	(7.4)	(2.6)	高台：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	底部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ 高台：ﾍﾗﾅﾃﾞ (ﾍﾗｹｽﾞﾘに近い)	骨針あり　赤褐色粒あり	76-3
4	C-197	P239	堆積土	土師器	坏	—	—	(2.4)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ？	関東系	76-4
5	C-199	P299	堆積土	土師器	長胴甕	(21.2)	8.9	29.8	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	底部：木葉痕　体部下半摩滅	76-5
6	D-4	P320	堆積土	ﾛｸﾛ土師器	坏	(16.8)	—	(5.5)	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ 体部下端：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり 赤褐色粒あり　口唇部摩滅	76-9
7	E-92	P113	堆積土	須恵器	坏	—	—	(3.0)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	骨針あり	76-10
8	E-91	P91	堆積土２層	須恵器	高台付坏	(14.6)	(9.6)	4.1	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整 底部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	搬入品？	76-12
9	E-93	P248	堆積土	須恵器	高台付坏	—	—	(1.9)	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	高台端部摩滅	76-11
11	C-227	P4	堆積土	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系（須恵器模倣杯） 赤褐色粒あり　写真掲載のみ	76-8
13	C-228	P235	堆積土	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系　赤褐色粒あり 写真掲載のみ	76-6
14	C-200	P493	堆積土	土師器	坏	—	—	(4.2)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾅﾃﾞ	骨針あり　赤褐色粒多量 写真掲載のみ	76-7

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
10	N-14	P425	堆積土	鉄製品	鉄釘？	(9.1)	(1.1)	(0.6)	13.0		76-13
12	P-14	P217	堆積土	土製遺物	—	4.6	2.5	0.2	5.0	ヘラケズリ調整時の土片が焼成されたもの　赤褐色粒あり　写真掲載のみ	76-14

第 123 図　ピット出土遺物



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-209	西区北部	検出面	土師器	坏	—	—	(2.0)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系	77-1
2	C-202	西区 北西部	検出面	土師器	坏	(12.7)	(3.05)	(3.2)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系　雲母片多量	77-2
3	C-212	西区南部 東側	検出面	土師器	坏	(13.4)	(3.2)	(3.6)	口縁：ﾍﾗﾐｶﾞｷ 底部：ﾊｹﾒ、一部ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理	77-3
4	C-201	西区 北西部	検出面	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ	7.2	3.6	4.2	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾅﾃﾞ 底部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾅﾃﾞ	骨針あり　赤褐色粒あり	77-4
5	C-215	西区南部 西側	検出面	土師器	高坏	—	(7.2)	(9.0)	ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ 坏部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　脚上部は中実　赤褐色粒あり	77-5
6	C-216	西区北部 西側	検出面	土師器	高坏	—	—	(8.1)	坏部：ﾊｹﾒ 脚部：ﾊｹﾒ	坏部：ﾊｹﾒ 脚部：上部ﾍﾗｹｽﾞﾘ、ﾊｹﾒ	器台の可能性あり　塩釜式	77-6
7	E-97	西区北部	検出面	須恵器	蓋	(7.8)	—	2.9	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	カエリあり　つまみ欠損	78-1
8	E-94	西区南部	検出面	須恵器	蓋	(15.0)	—	(7.1)	ﾛｸﾛ調整 回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	口縁端部内側摩滅　骨針多量	78-2
9	E-95	西区南部 東側	検出面	須恵器	蓋	甲部 3.6	(19.0)	3.6	ﾛｸﾛ調整 ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾅﾃﾞ 甲部：静止糸切り	ﾛｸﾛ調整	外面泥土付着　骨針多量　つまみなし	78-3
10	E-96	西区南部 東側	検出面	須恵器	蓋	—	—	(2.1)	回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	ボタン状つまみ　骨針多量	78-4
11	E-100	西区北部	検出面	須恵器	蓋？	—	—	(2.3)	ﾛｸﾛ調整 凸帯１条貼付	ﾛｸﾛ調整 ﾍﾗﾅﾃﾞ		78-5
12	C-203	西区北部 西側	検出面	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系　写真掲載のみ	77-8
13	C-204	東区南壁	検出面	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系　外面摩滅　写真掲載のみ	77-9
14	C-205	西区北部 東側	検出面	土師器	高坏	—	—	(4.0)	ﾊｹﾒ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗｹｽﾞﾘ	脚部　スカシあり　骨針あり　赤褐色粒多量 写真掲載のみ	77-10
15	C-206	西区 北西部	検出面	土師器	高坏	—	—	(2.4)	ﾖｺﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	脚部　スカシあり　赤褐色粒あり　写真掲載のみ	77-11
16	C-207	西区南部 東側	検出面	土師器	鉢	—	—	(8.5)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　口唇部摩滅　写真掲載のみ	77-7
17	C-211	西区南東 部	検出面	土師器	埦？	—	—	(6.2)	口縁～底部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり　赤褐色粒多量　写真掲載のみ	77-12
18	C-213	西区 南東部	検出面	土師器	坏	—	—	(3.7)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり　赤褐色粒多量　写真掲載のみ	77-13

第 124 図　遺構検出面出土遺物 (1)

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
19	C-218	東区中～南部	検出面	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾅﾃﾞ	関東系　赤褐色粒あり　写真掲載のみ	77-14
20	C-219	東区南部	検出面	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾅﾃﾞ	関東系　赤褐色粒あり　写真掲載のみ	77-15
21	C-210	西区北部	検出面	土師器	埦？	—	—	(5.9)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ？ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針多量　赤褐色粒多量　写真掲載のみ	77-16
22	C-214	西区北部	検出面	土師器	高坏	—	—	(10.2)	坏部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ 脚部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	坏部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ？ 脚部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ→ﾍﾗﾅﾃﾞ	スカシ２ヶ所以上あり(長方形？)　スカシ側面の面取り丁寧　焼成良好　内面黒色処理　赤褐色粒多量　写真掲載のみ	77-17
23	C-217	西区南部西側	検出面	土師器	坏？	—	—	—	ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	内面黒色処理　黒漆付着小片　写真掲載のみ	77-18
24	C-229	西区北部	検出面	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系　骨針少量　写真掲載のみ	77-19
25	C-230	西区北部	検出面	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系　写真掲載のみ	77-20
26	C-231	西区北部	検出面	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系　赤褐色粒あり　写真掲載のみ	77-21
27	C-232	西区中部東側	検出面	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	ﾖｺﾅﾃﾞ→ﾐｶﾞｷ	関東系（須恵器模倣杯）　内外面漆？ 写真掲載のみ	77-22
28	C-233	西区西側	検出面	土師器	坏	—	—	—	口縁：？ 体部：ｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系　内面漆？　写真掲載のみ	77-23
29	C-234	西区南東部	検出面	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ→漆？ 体部：ｹｽﾞﾘ→ﾐｶﾞｷ→漆？	ﾖｺﾅﾃﾞ→漆？	関東系（須恵器模倣杯）　内外面漆付着 赤褐色粒あり　写真掲載のみ	77-24
30	C-235	西区南部東側	検出面	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系　赤褐色粒あり　写真掲載のみ	77-25
31	C-236	西区南部東側	検出面	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系　内外面漆？付着　赤褐色粒あり　写真掲載のみ	77-26
32	C-237	西区南部東側	検出面	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系　赤褐色粒あり　写真掲載のみ	77-27
33	C-238	西区南部南西側	検出面	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾅﾃﾞ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系　内外面漆？付着　赤褐色粒多量　写真掲載のみ	77-28
34	C-239	東区南部	検出面	土師器	坏	—	—	—	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系　赤褐色粒あり　写真掲載のみ	77-29

第4節　遺構外出土遺物（第124～126図）

ここでは遺構検出時およびカクランから出土した遺物について記述する。これらの遺構外から出土した遺物は、遺構検出面から土師器5299点、須恵器273点、瓦4点、陶器3点、磁器3点、金属製品8点、石器・石製品2点、カクランから土師器2145点、須恵器100点、陶器9点、磁器19点、金属製品32点である。なお、この内カクラン出土磁器の8点の特徴については、粘土採掘坑跡からの一括遺物として、本章第1節において既に記述している。本節での掲載遺物は、遺構検出面とカクラン出土遺物を合わせて、弥生土器鉢1点、土師器坏23点、同埦2点、同鉢1点、同高坏5点、同ミニチュア1点、同不明1点、ロクロ土師器甕1点、須恵器高台付坏1点、同蓋7点、同双口盤1点、同壺1点、瓶類6点、同甕2点、陶器2点、石器・石製品2点、鉄製品2点、土製品5点である。

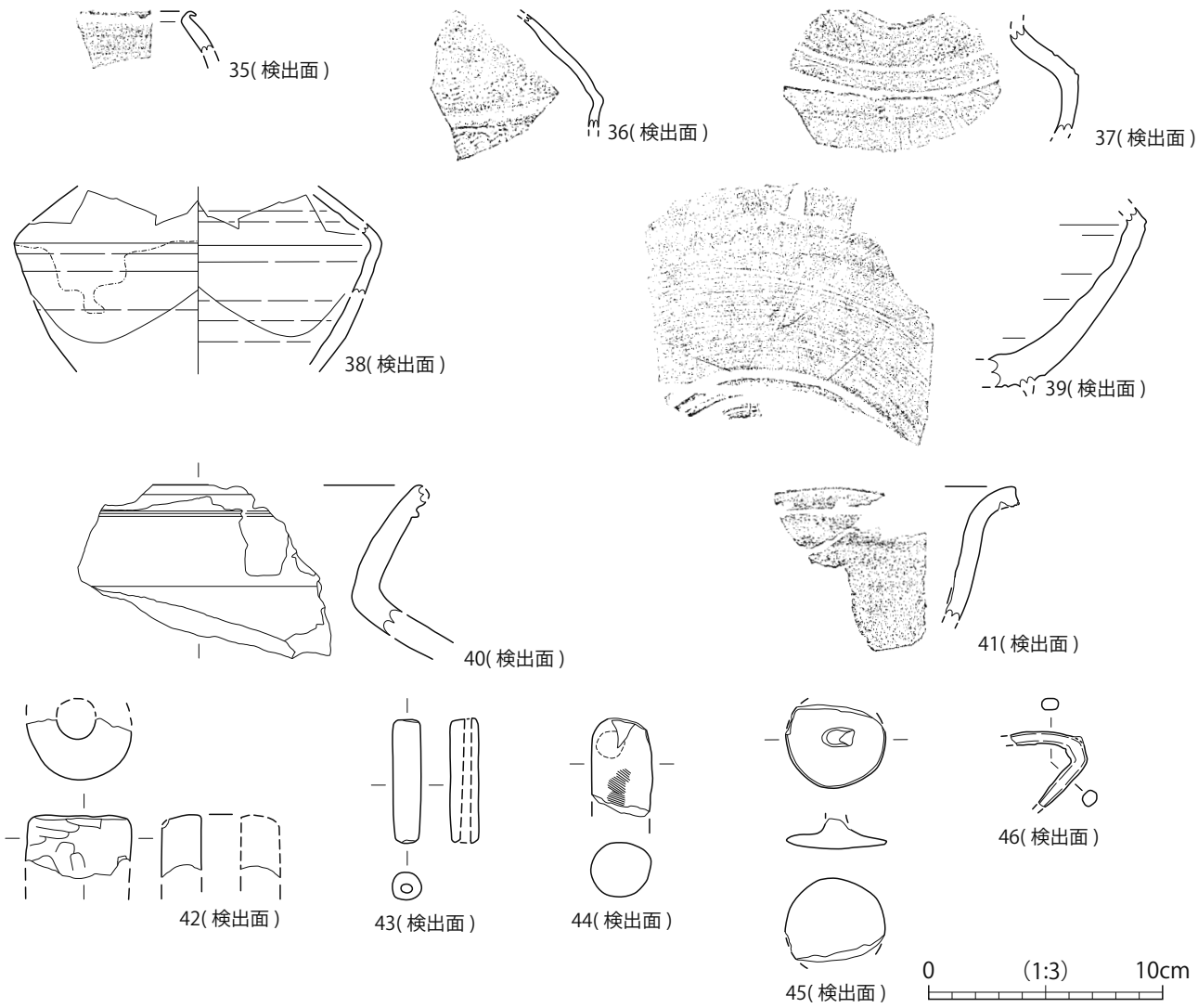
第126図1は弥生土器鉢の口縁部破片資料である。口縁部外面に4条の沈線がめぐる。今次調査において出土した弥生土器はこの1点のみである。

第124図1～3・12・13・18、第126図2・10・11・18～20・23～34は土師器坏である。この内、第124図1・2・12・13・19・20・24～34、第126図11はいわゆる関東系土師器で、今次調査で出土した同種の資料は全点掲載した。

全て口縁部から体部上部の破片資料である。第124図1・2のみ図示し、他は写真のみ掲載した。器形は、いわゆる須恵器模倣坏とみられる第124図27・29以外、全て体部から口縁部の境が屈曲し短い「S」字状の口縁部がつく特徴をもつ。調整は、いずれも外面が口縁部ヨコナデ、体部ケズリ、内面はヨコナデないしナデである。第124図27～29・31・33には、内面ないし両面に漆状の付着物がみられる。色調は褐色から明黄褐色である。第124図2には雲母片が多量含まれている。第124図4・6のミニチュア、高坏は塩釜式期の遺物とみられる。

第124図7～11、第126図3・4は須恵器蓋である。7はカエリをもつ小型の蓋である。9は全体が偏平な山形を呈し口縁部が下方に短く屈曲する器形である。ツマミがなく糸切り痕がみられる。8・11は体部から口縁部に段がみられる。8は長い口縁部がやや内湾気味に垂下する。6は双口盤とした口部の破片資料である。郡山遺跡第245次調査において、同形とみられる資料が出土している。

その他、鉄釘（第126図7・8）、炉壁とみられる土製品（第126図25）を掲載した。

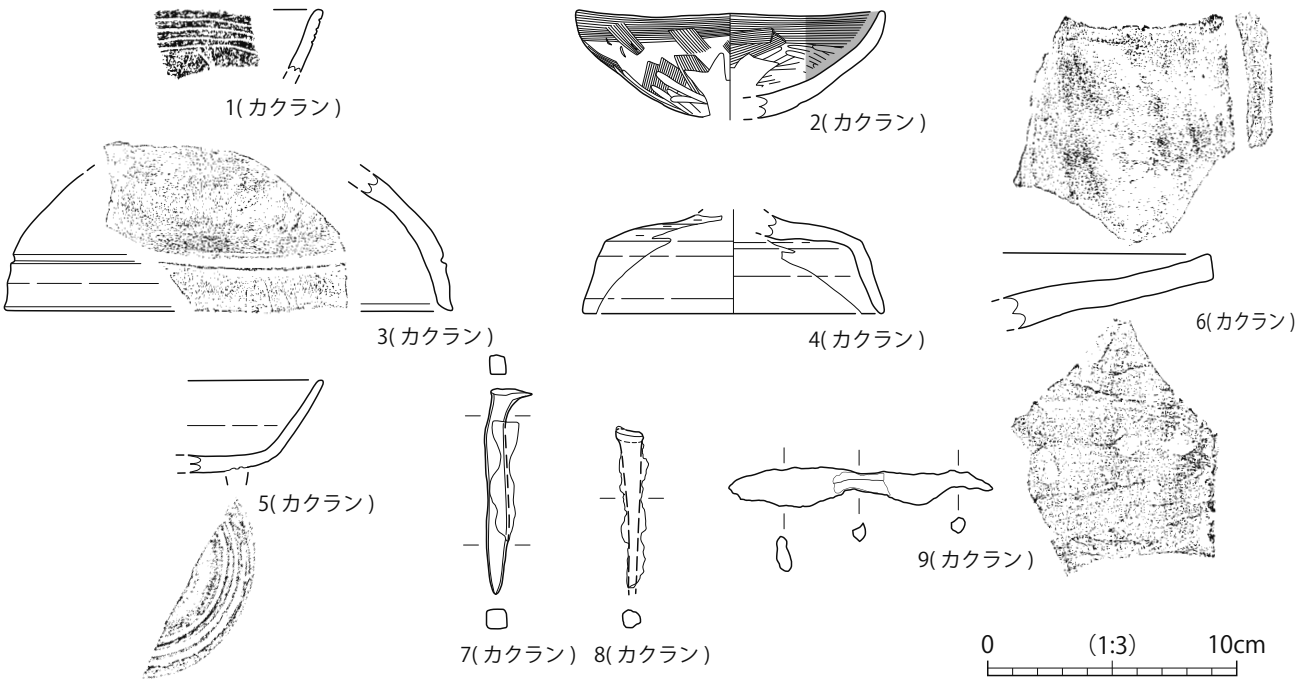


図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	外面調整	内面調整	備考	写真図版
35	E-98	西区北部	検出面	須恵器	短頸壺	—	—	(2.4)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整		78-6
36	E-101	西区北部	検出面	須恵器	瓶？	—	—	(4.8)	波状文　刺突文 (櫛歯状) ？	ﾛｸﾛ調整	器厚薄い　外面黒色　搬入品？	78-7
37	E-102	西区北部	検出面	須恵器	瓶類	—	—	(4.6)	下部：ﾛｸﾛﾅﾃﾞ　ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	沈線 2 条　骨針あり	78-8
38	E-103	西区南東部	検出面	須恵器	長頸瓶	—	—	(7.9)	ﾛｸﾛ調整　下部：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	肩部に自然釉　東海産	78-9
39	E-99	西区南部東側	検出面	須恵器	長頸瓶	—	—	(7.6)	ﾛｸﾛ調整→ｶｷ目	ﾛｸﾛ調整		78-11
40	E-104	西区南部西側	検出面	須恵器	甕	—	—	6.2	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	口縁部凸帯 1 条	78-10
41	E-105	西区北部	検出面	須恵器	甕	—	—	(5.7)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	骨針あり	78-12
47	E-106	西区南部西側	検出面	須恵器	平瓶？	—	—	—	—	—	平瓶の把手部？　ﾍﾗｹｽﾞﾘによる面取り　写真掲載のみ	78-13

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	備考	写真図版
42	P-16	西区北部東側	検出面	土製品	土錘	(2.7)	4.6	(2.6)	27.5	破片　骨針多量　孔径 1.7cm	78-17
43	P-17	東区北部東側	検出面	土製品	土錘	5.3	1.2	1.2	8.5	ほぼ完形　片側若干破損　骨針あり　孔径 0.4cm	78-18
44	P-18	東区中～南部	検出面	土製品	不明	(4.3)	2.6	2.6	30.0	棒状　骨針あり	78-19
45	P-19	西区西側	検出面	土製品	不明	4.3	4.3	(1.3)	9.5	ミニチュア？　円盤状　つまみ状突起あり　骨針あり	78-20
46	N-15	西区南部南面	検出面	鉄製品	釘？	(5.8)	0.8	0.7	4.5	折れ曲がり　両端欠損	78-16
48	P-15	西区北部東側	検出面	土製品	土錘	(7.2)	(4.4)	—	50.5	破片　写真掲載のみ	78-21

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm) 全長	幅	厚さ	重量 (g)	石材	備考	写真図版
49	K-28	西区北部拡区	検出面	石器	板状石器	6.4	5.1	0.9	36.5	安山岩	2 片　計測はより大きい破片について行った　縁片に光沢等なし　写真掲載のみ	78-14
50	K-22	西区北部	検出面	石製品	砥石	11.5	7.6	1.7	86.0	凝灰岩	破損後の利用痕跡あり　写真掲載のみ	78-15

第 125 図　遺構検出面出土遺物 (2)



図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	部位	外面調整（文様）	内面調整（文様）	備考	写真図版
1	B-1	西区南部	カクラン	弥生土器	鉢	口縁部片	平行沈線文	ﾅﾃﾞ	沈線４条	79-1

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
2	C-221	―	不明	土師器	坏	(12.3)	(4.3)	―	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内外面黒色処理　骨針あり	79-5
3	E-108	西区南部 西側	カクラン	須恵器	蓋	(18.0)	―	(5.5)	ﾛｸﾛ調整 ﾍﾗﾅﾃﾞ　ﾍﾗｹｽﾞﾘ 口唇部：面取り	ﾛｸﾛ調整	沈線１条　骨針あり	79-8
4	E-109	西区北部 東側	カクラン	須恵器	蓋	(12.0)	―	(3.9)	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ→回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	口唇部摩滅　つまみ欠損	79-9
5	E-107	西区南部 西側	カクラン	須恵器	高台付坏	13.8	―	(3.7)	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	高台剥落 (剥落部分に沈線２条)	79-10
6	E-110	西区北部 東側	カクラン	須恵器	双口盤	―	―	(3.0)	ﾍﾗｹｽﾞﾘ　指頭痕	ﾍﾗﾅﾃﾞ	骨針多量　口部 (幅 9.1㎝ 器厚 1.0㎝)	79-11
10	C-220	西区南部 南側	カクラン	土師器	坏	―	―	(4.8)	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部～底部：ﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理　骨針あり　写真掲載のみ	79-2
11	C-222	西区北部	カクラン	土師器	坏	―	―	―	口縁：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾖｺﾅﾃﾞ	関東系　写真掲載のみ	79-3
12	C-223	西区南部 南側	カクラン	土師器	不明	―	―	(3.3)	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	粘土　輪積み　写真掲載のみ	79-4
13	D-5	西区南部 南側	カクラン	ﾛｸﾛ 土師器	甕？	―	―	―	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	写真掲載のみ	79-6
14	E-111	西区北側	カクラン	須恵器	瓶類	―	―	―	ﾛｸﾛ調整？	ﾛｸﾛ調整	内面および破断面に漆付着　写真掲載のみ	79-7
17	J-1	西区北部	カクラン	磁器	徳利	2.9	4.7	15.5	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	瀬戸美濃　色絵梅樹文徳利「光理」？ (光)19C 後半 底銘「幹山」(明治) 写真掲載のみ	80-1
18	J-2	西区北部	カクラン	磁器	徳利	2.9	5.7	17.7	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	産地不明　染付徳利 (燗徳利) 宝づくし文様 銅版刷 明治後半　写真掲載のみ	80-3
19	J-3	西区北部	カクラン	磁器	徳利	2.5	5.5	17.2	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	産地不明　染付徳利 (燗徳利) 鳳凰文 銅板刷　明治後半　写真掲載のみ	80-4
20	J-4	西区北部	カクラン	磁器	徳利	2.5	5.2	16.8	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	瀬戸美濃？　染付徳利 (燗徳利)　花樹とうずら？３羽 銅版刷　明治後半　写真掲載のみ	80-2
21	J-5	東区南部	カクラン	磁器	皿	(15.0)	8.2	3.5	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	瀬戸美濃　染付みじん花唐草文皿　摺絵　19C 後半 写真掲載のみ	80-6
22	J-6	東区南部	カクラン	磁器	碗	11.4	3.7	5.1	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	瀬戸美濃　染付矢羽巴文碗　摺絵　19C 後半　写真掲載のみ	80-7
23	J-7	東区南部	カクラン	磁器	碗	(11.2)	(3.6)	4.9	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	瀬戸美濃　染付桐三ツ巴文碗　摺絵　19C 後半　写真掲載のみ	80-5
24	J-8	東区南部	カクラン	磁器	碗	―	3.7	―	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整	地方窯　染付碗　摺絵　19C 後半？　写真掲載のみ	80-8

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真図版
						口径	底径	器高		
15	I-6	―	カクラン	施釉陶器	甕	―	―	―	灰釉甕 (小形)　瀬戸？　近代？　写真掲載のみ	79-12
16	I-7	―	カクラン	施釉陶器	碗	―	―	―	灰釉平碗？　瀬戸　14C ～ 15C ？　写真掲載のみ	79-13

図版番号	登録番号	出土遺構	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
7	N-16	西区北部	カクラン	鉄製品	釘	8.3	0.7	0.7	34.5		79-14
8	N-18	西区南部	カクラン	鉄製品	釘	(6.5)	(1.1)	(0.7)	8.5	先端欠損	79-15
9	N-17	東区 中央部	カクラン	鉄製品	不明	10.6	1.6	最大 0.75	28.0	製品？	79-16
25	P-20	西区南部 西側	カクラン	土製品	炉壁	9.1	5.5	2.4	147.7	5 破片　方量は最大破片で計測　厚さは壁体の厚さ　写真掲載のみ	79-17

第 126 図　カクラン出土遺物

第 6 章　樹種同定・植物化石分析

吉川純子 (古代の森研究舎)

第 1 節　西台畑遺跡第 13 次調査井戸跡出土加工材の樹種同定

西台畑遺跡は仙台市太白区長町の郡山遺跡に隣接し竪穴住居跡や掘立柱建物跡、井戸跡、ピット群からなり、郡山官衙と同時期の 7 世紀後葉から 8 世紀初頭の集落跡とみられている。調査区西側の北部及び南部に住居跡が 3,4 軒重複する形で確認され、これら住居の廃絶後に作られた井戸跡が 2 基確認された。2 基の井戸には構築材が残っていたことから井戸材における木材利用を調査する目的で 17 点の樹種同定を実施した。試料からはステンレス剃刀で横断面、放射断面、接線断面の 3 方向の切片を採取しプレパラートに封入して生物顕微鏡で観察・同定した。

第 2 表　西台畑遺跡第 13 次調査
井戸跡出土加工材の樹種

試料番号	遺構	器種	樹種
L2	SE1	井戸枠	コナラ属コナラ節
L3	SE1	井戸枠	コナラ属コナラ節
L4-1	SE1	井戸枠	コナラ属コナラ節
L5	SE1	井戸枠	コナラ属コナラ節
L6	SE2	井戸枠？	クリ
L7	SE2	井戸枠？	クリ
L8	SE2	井戸枠？	クリ
L9	SE2	井戸枠？	クリ
L10	SE2	井戸枠？	クリ
L11	SE2	井戸枠？	クリ
L12	SE2	井戸枠？	クリ
L13	SE2	井戸枠？	クリ
L14	SE2	土居桁	クリ
L15	SE2	土居桁	クリ
L16	SE2	土居桁	クリ
L17	SE2	土居桁	クリ
L18	SE2	加工木片	クリ

同定結果を第 2 表に示す。井戸 SE1 の井戸枠材 4 点はすべてコナラ属コナラ節と同定され、SE2 の井戸枠材 12 点と内部にあった加工木片 1 点はすべてクリと同定された。西台畑遺跡の井戸はそれぞれの井戸とも樹種を限定して作られた可能性がある。コナラ節やクリはともに縄文時代以降の東北地方で建築・土木材として頻繁に使われてきた樹種である。特にクリ材は水湿に強く耐久性があり井戸材として多用されてきた。宮城県内の遺跡では奈良～平安初頭と限定できる井戸材の資料は少ないが、郡山官衙よりやや後の 9 世紀～ 10 世紀頃には山王遺跡多賀前地区 (松葉ほか 1996) や山王遺跡八幡地区 (松葉ほか 1997) で井戸材にクリが多用されている。同時期の井戸材はクリのほか針葉樹のモミ属や広葉樹はケヤキやエノキが多く宮城におけるコナラ属材の利用は珍しいと言える。

以下に同定された樹種の記載をおこなう。

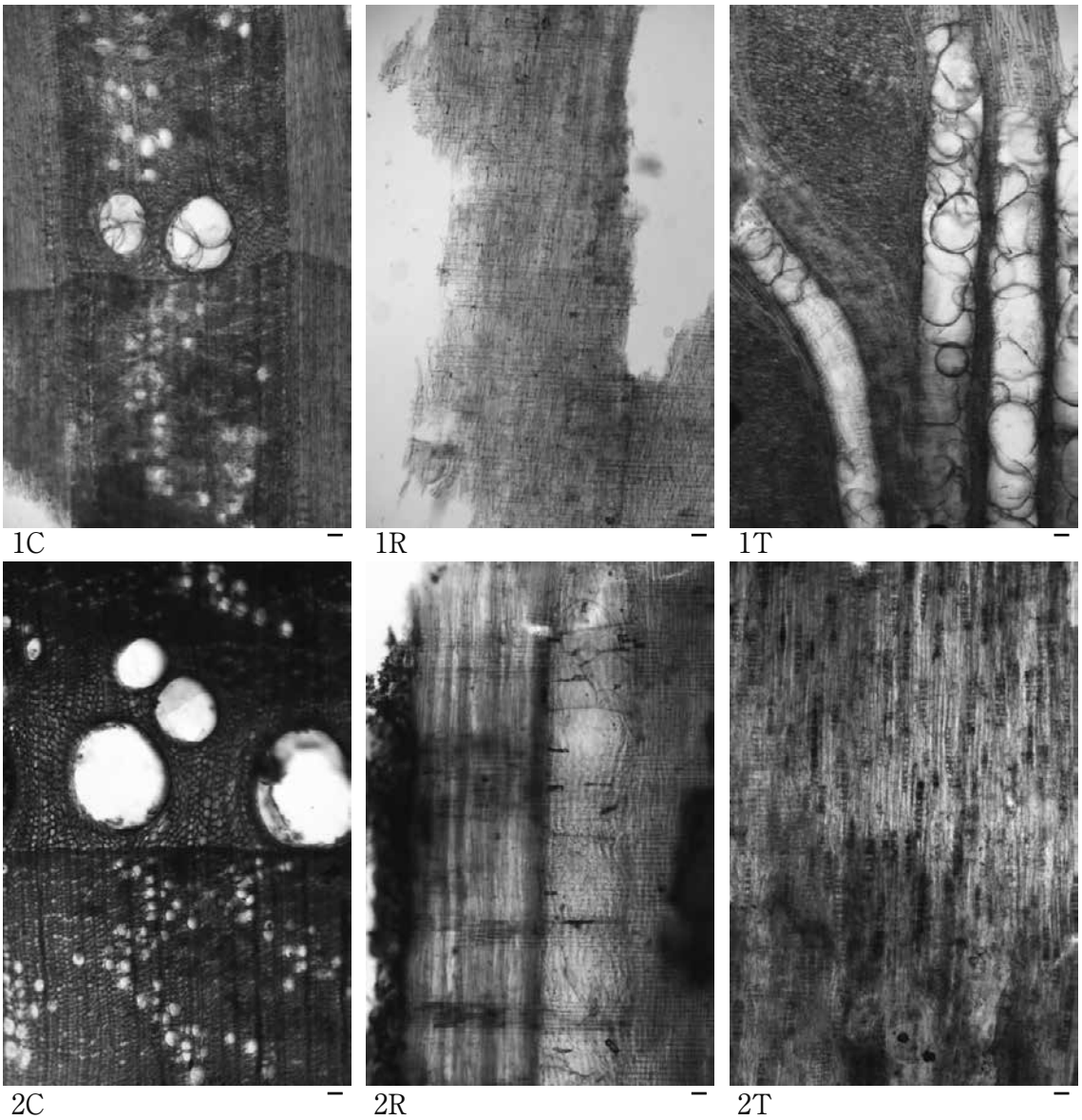
クリ (Castanea crenata Sieb. et Zucc.)：年輪最初に大道管が数列配列しその後徐々に径を減じて小管孔が火炎状に配列する環孔材。道管は単穿孔でチロースが多く放射細胞は単列同性である。本遺跡で出土した試料はかなり黒く着色していた。

コナラ属コナラ節 (Quercus sect. Prinus) ：大道管が数列配列したのち薄壁のやや角ばった小管孔が波状や火炎状に配列する環孔材で道管の穿孔板は単一で道管内にしばしば着色物質が溜まっている。放射細胞は同性で単列と複合状で幅広く高い広放射組織がある。

引用文献

松葉礼子･鈴木三男．1996．宮城県多賀城市山王遺跡多賀前地区出土木材の樹種．山王遺跡 III．宮城県教育委員会．239-283.

松葉礼子・鈴木三男．1997．多賀城市山王遺跡八幡地区出土木質遺物の樹種同定．山王遺跡 I- 仙塩道路建設に係る発掘調査報告書 -．多賀城市．180-191



図版1　西台畑遺跡13次調査井戸跡出土加工材の顕微鏡写真

1.クリ（SE2 L-7）2.コナラ属コナラ節（SE1 L-2）

C:横断面、R:放射断面、T:接線断面、スケールは0.1mm

第 2 節　西台畑遺跡第 13 次調査井戸跡出土の大型植物化石

西台畑遺跡は仙台市太白区長町の郡山遺跡に隣接し竪穴住居跡や掘立柱建物跡、井戸跡、ピット群からなり、郡山官衙と同時期の 7 世紀後葉から 8 世紀初頭の集落跡とみられている。調査区西側の北部及び南部に住居跡が密集しており、3,4 軒が重複する形で確認され、これら住居の廃絶後に作られた井戸跡が 2 基確認された。井戸からはいくつかの果実種子が出土したことから当時の植物利用を調査する目的でこれら大型植物化石の同定を実施した。試料は肉眼および双眼実体顕微鏡で観察・同定した。

第3表　西台畑遺跡第13次調査井戸跡出土の大型植物化石

試料番号	遺構	層位	種類	出土部位	個数
O-1	SE1	2 層	イネ	炭化胚乳	3
O-2	SE1	2 層	ウメ	核	1
O-3	SE1	2 層	エビヅル近似種	種子	1
	SE1	2 層	コムギまたはオオムギ	炭化種子破片	1
O-4	SE1	2 層	エビヅル近似種	種子	3
O-5	SE1	2 層	キュウリ属メロン仲間	種子	3
O-6	SE1	2 層	モモ	核	1
O-7	SE1	2 層	オニグルミ	内果皮破片	4
O-8	SE2	5 層	ヒョウタン	果皮破片	10 ＋

出土した大型植物化石の同定結果を第 3 表に示す。井戸 SE1 からは木本のオニグルミ、モモ、ウメ、エビヅル近似種、草本のイネ、コムギまたはオオムギ、キュウリ属メロン仲間を、井戸 SE2 からはヒョウタンを出土した。SE1、SE2 の両方の井戸ともに利用植物の果実種子のみを出土し雑草などほかの種実が検出されていないことから、これらの種実は利用後に井戸に廃棄されたことが考えられる。したがって本遺跡の古墳時代末から奈良時代にかけて穀類はイネやムギの仲間、果実類のモモ、ウメ、メロン仲間など、道具としてヒョウタン果実を利用していたと考えられる。特にヒョウタン果皮の表面には塗料が付着した指紋とみられる跡が確認された。宮城県内の同時期の遺跡では、果菜類などの生産地とみられる沼向遺跡で穀類のイネ、オオムギのほか果実のモモ、ウメ、メロン仲間やヒョウタンの果実種子が大量に出土しており (吉川 2010)、本遺跡はこれら利用植物の消費地であったと考えられる。

以下に特筆すべき大型植物化石の形態記載をおこなう。

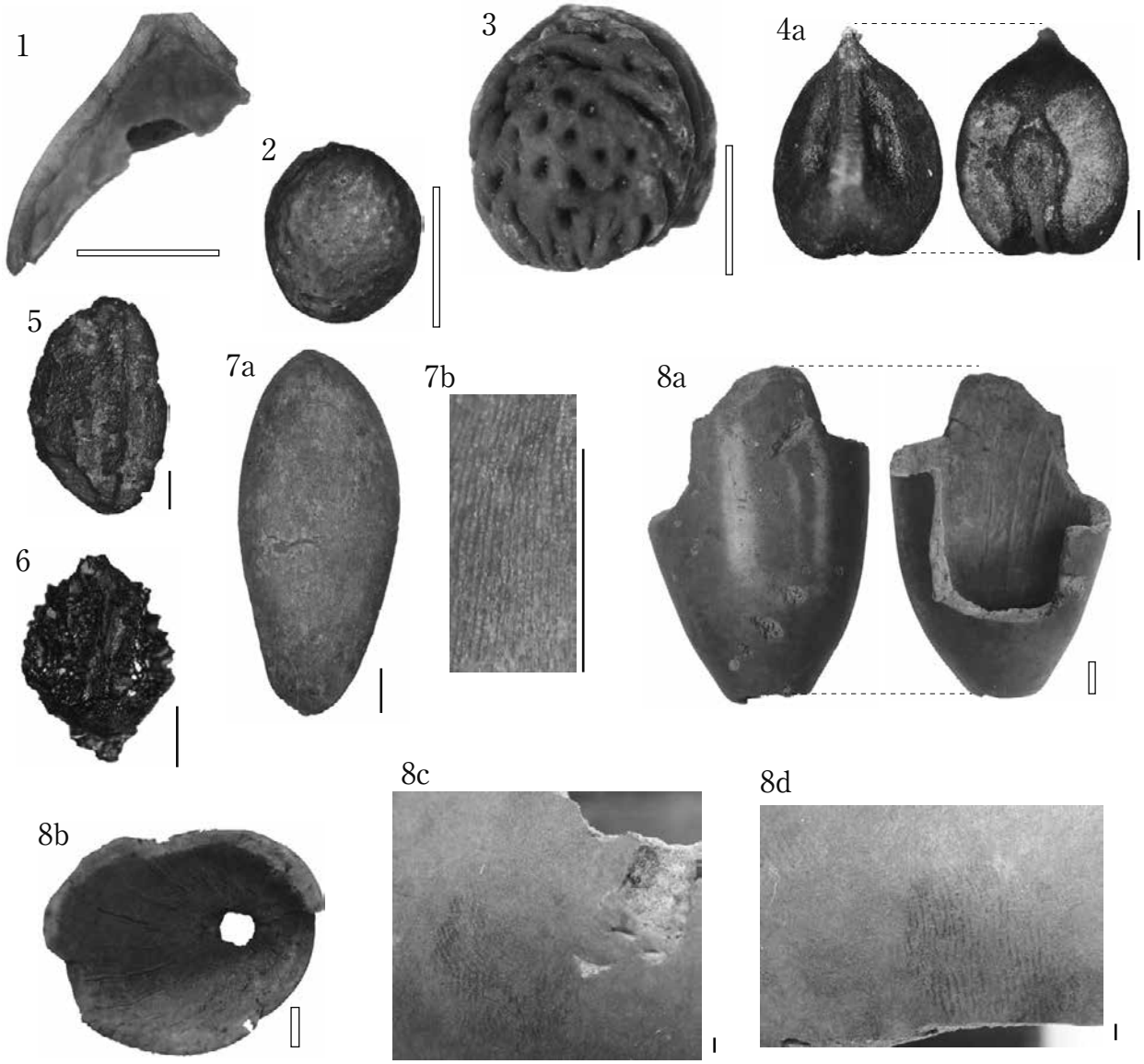
エビヅル近似種 (Vitis ficifolia Bunge)：種子は楕円形で頂部が尖り上面観は三角形で、腹面中央に稜があり稜の両側に細長い孔がある。背面は曲面で下部から伸びる匙状の付帯物がある。エビヅルの果実は食用とできる。宮城県に生育する可能性があるブドウ属のほかの種類は、ヤマブドウは種子全体が隆々とし背面の匙部分が縁取りされたように中央に孔があく場合が多く、サンカクヅルは種子の幅に対して高さが同程度で外形が三角形に近い。

コムギまたはオオムギ (Triticum aestivum L. or Hordeum vulgare L.)：出土した炭化種子は焼け膨れているが側面観は楕円形、上面観がほぼ円形で、基部がやや突出し、種子の上下方向にムギの仲間に特徴的な溝が確認できる。

ヒョウタン (Lagenaria siceraria (Molina) Standl. Gourda)：果皮の大きな破片は基部である果柄がとれた丸い孔があり、そこからラッパ状に果皮が広がって内側に維管束の筋が目立つ。果皮表面は平滑で果皮壁はやや硬いスポンジ状である。出土した果皮破片のいくつかの表面には墨か漆とおもわれる塗料が付着していて、付着の仕方がやや湾曲した細かい縞状であり、縞間が約 0.4mm で人間の指紋の縞と一致する。

引用文献

吉川純子．2010．第 8 節　沼向遺跡出土種実から見た古環境と植物利用．沼向遺跡第 4 ～ 34 次調査　第 9 分冊．仙台市教育委員会．171-191.



図版2　西台畑遺跡13次調査井戸跡出土大型植物化石の写真

1.オニグルミ、内果皮破片（O-7）2.ウメ、核（O-2）3.モモ、核（O-6）4.エビヅル近似種、種子（O-3）5.イネ、炭化胚乳（O-1）6.コムギまたはオオムギ、炭化種子（O-3）7.キュウリ属メロン仲間、種子（O-5）8.ヒョウタン、果皮破片（O-8）スケールは実線が1mm、白抜き線が10mm

第７章　総括

第１節　検出遺構の時期的変遷について

今次調査においては、竪穴住居跡 27 軒、掘立柱建物跡 2 棟、溝跡 30 条、井戸跡 2 基、土坑 23 基、ピット 560 基を確認した。以下、古墳時代前期から近世までの遺構の時期的変遷について、主に分布上の特徴を記す。

古墳時代前期（塩釜式期：4 世紀）の遺構

今次調査においては、当該期に帰属する竪穴住居跡 1 軒（SI258）を確認した。あすと長町地区全体の自然堤防上において、当該期の集落は、本遺跡のみで確認されている。分布域は、遺跡西端の旧河川跡に近い第 7 次調査区西側、第 12 次調査区において竪穴住居跡の重複が確認されている。東端では今次調査区の北側、第 9 次調査区で 1 軒確認されていることから、当該期の集落域は、東西約 80 m、南北約 50 m程の規模であったと推定される。今次調査区における当該期の遺構・遺物分布は、調査区北西部にのみ限定されることから、この辺りが集落分布における南東の境界にあたる可能性がある。

郡山官衙期（7 世紀中葉～ 8 世紀初頭）の遺構

前述の古墳時代前期に属する SI258 を除く 26 軒の竪穴住居跡の内、床面等から時期決定資料となり得る土器が一定量出土しているものは、SI261・262・264・266・267・268・275 の 7 軒である。その特徴から、これらの竪穴住居跡については、7 世紀中葉～ 8 世紀初頭の郡山官衙期に属するものと考えられる。また、他の 19 件の住居跡についても、住居堆積土または住居掘り方出土遺物の特徴および遺構の重複関係から、郡山官衙期から大きくはずれた時期の遺構ではないと考えられる。

カクランと重複せず基本層Ⅳ層が残存する範囲には、ほぼ竪穴住居跡が分布する。ただし、調査区西区の中部にやや遺構密度の希薄な箇所があり、そこを境に北側および南側の 2 箇所で、重複する竪穴住居跡の分布上のまとまりが認められる。調査区東区でも南部で竪穴住居跡の重複がみられる。調査区東区では、カクランとの重複以外にも、大部分でⅣ層全体が面的に削平されており、竪穴住居跡の本来的な分布を知ることはできない。今次調査区の北側に隣接する第 5 次調査区では、本遺跡内で最も著しい住居跡の重複がみられ、今次調査地への遺構の拡がりが予想されたが、今次調査区では調査区西区北部でその一端を確認したのみである。

2 基の井戸跡（SE1・2）は、重複関係でどちらも竪穴住居跡より新しいが、出土遺物および出土状況から当該期の遺構と判断した。これまで本遺跡において確認された井戸跡は、そのほとんどが中～近世に属するもので、今回の明確な遺物を伴った郡山官衙期における井戸跡は極めて希少な発見である。郡山遺跡では、Ⅱ期官衙内で 2 基、郡山廃寺内で 1 基の井戸跡が確認され、この内、小・中型甕を複数伴う 2 基についてはⅡ期官衙期の遺構と考えられている。今次調査の SE1 についても同時期の井戸跡と考えられる。

2 棟の掘立柱建物跡は、重複関係ではどちらも竪穴住居跡より新しいが、出土遺物が断片的で帰属時期の特定は困難である。SB1 からは SK252 からカエリの無い須恵器の蓋が出土しており、郡山Ⅱ期官衙期以降の遺構と考えられる。また、溝跡（SD120）を介した重複関係から、SB1 は SE1 よりも新しい遺構である。

平安時代（9 世紀前半）の遺構

当該期の遺構は、調査区西区南部のSK236･241の土坑2基である。竪穴住居跡はない。両土坑は、重複しており遺物も多数接合することから1つの大型土坑であった可能性も考えられる。年代は、ロクロ土師器と底径:口径比が0.54～0.59に収まる底面回転ヘラ切りの須恵器坏がまとまって出土していることから、9世紀前半と考えられる。本遺

跡において、ロクロ土師器が遺構から出土した例は極めて少なく、第11次調査SI198の住居掘り方および第7次調査SD61堆積土から、それぞれ坏が数点出土したのみである。また、SK236からは、仙台市内でもほぼ出土例のない製塩土器の口縁部破片が出土している。廃棄年代は9世紀前半である。松島湾周辺における土器製塩は、8世紀後半に始まり9世紀代には遺跡数が増加し集約的な塩の生産が展開されている（高橋2013）。本遺跡に製塩土器がもたらされた歴史的背景の解明は、郡山官衙廃絶後における当該地の使われ方とも関連する今後の重要な課題となろう。

中・近世の遺構

調査区北部で確認した東西方向に延びるSD132とそれに併行するSD119は、ともに中･近世の溝跡と考えられる。SD132からは12～14世紀の中世陶器が出土している。調査区の中程で屈曲し、2条の溝跡が併行して延長している。両溝跡における中心間の距離は、3.6～4.2mである。その機能は不明だが、何らかの区画溝または通路状の遺構である可能性も考えられる。なお、今次調査区の南約250ｍの郡山遺跡第196次調査では、中・近世の屋敷の区画割りとみられる溝跡が確認されている。また本遺跡では、遺跡の北半部を中心に、中・近世の井戸跡が多数確認されているが、今次調査区においては確認していない。

第2節　竪穴住居跡の出土土器について（第127～131図）

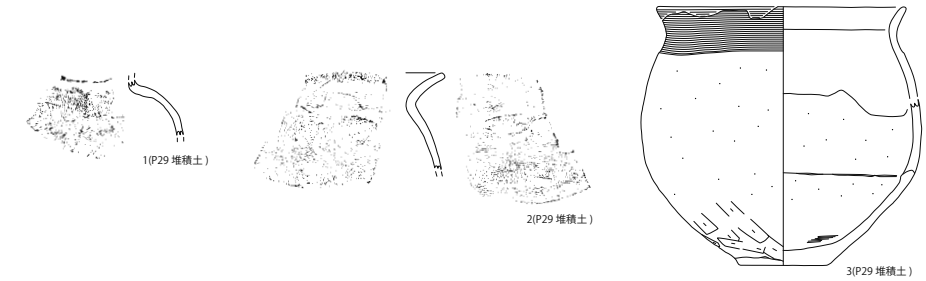
本節では郡山官衙期に属する竪穴住居跡の出土土器についてまとめる。記述は、時期決定資料となる床面・カマド・床面施設出土土器を主な対象とし、住居堆積土・掘り方出土土器については補足的に扱う。時期決定資料を一定量含む竪穴住居跡は、26軒中、SI261・262・264・266・268・275の6軒である。以下、その特徴について述べる。

SI261は、床面、カマドから土師器坏1点・スカシ坏高坏1点・甕2点・甑1点が出土した。坏は深さのある丸底で口縁部が屈曲し弱く外反する。高坏は有段丸底坏に長楕円形のスカシをもつ短い脚部がつく。甕には、体部中位に最大径をもち体部がやや球形を呈する中型甕と、大型甕とみられる破片資料とがある。甑はカマド堆積土出土であるが、出土状況からカマドに伴うものと判断した。残存器高が16.0cmで無底式の大型甑となる可能性がある。

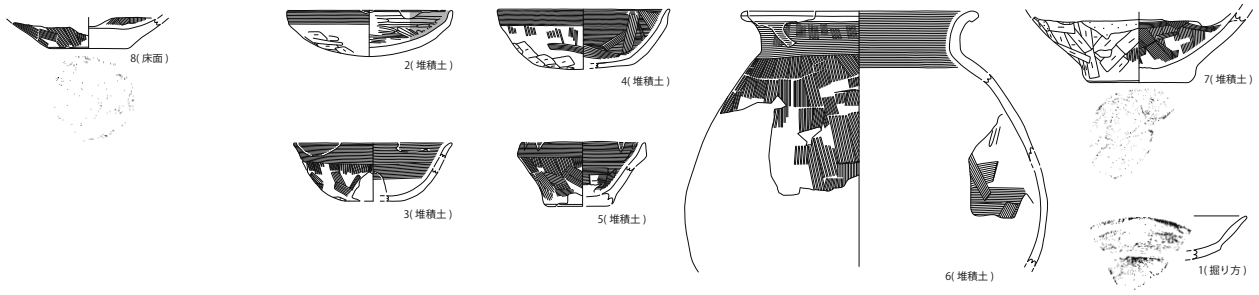
SI262は、床面、床面埋土、床面施設から土師器坏1点・スカシ坏高坏1点・鉢1点、須恵器坏1点が出土した。土師器坏は口縁部が直線的に外傾し、内面に屈曲をもつ有段丸底坏である。同様の坏は、SI264・267・268からも出土している。高坏は、外形が半球形の坏部に不整楕円形のスカシをもつ長い脚部がつく。今次調査で出土したスカシ付高坏は、SI261の例を含めた2点に、SD119および遺構検出面（第92図8、第124図22）から出土した同一個体とみられる資料を加えた3点のみである。なお、この器種については、特定の官衙とその周辺から出土する傾向が強く、官衙的食膳にともなう器とする指摘がある（佐藤・大久保2017、村田2007）。鉢は、平底風の丸底で口縁端部が外反する器形で、外面体部にハケメがみられる。また、鉢は住居堆積土中からも出土している。口径はともに25cm以上である。今次調査における鉢の出土は、全体的に少ない。住居跡では、SI268住居掘り方、SI278住居堆積土から、ともに外面調整にハケメが施され、外反する口縁部と体部の境に段ないし稜をもつ資料が出土している。須恵器坏は、偏平な有段丸底で口縁部がわずかに外傾する。SI261住居堆積土から同型の坏が出土している。

SI264は、床面から土師器坏4点・埦2点・甕2点が出土した。坏は、外形が須恵器模倣坏の特徴をもち内面黒色処理が施された小型坏（口径8.9cm）と、外傾する口縁部をもつ有段丸底坏とが共伴する。この内前者は、その法量や形態からⅠ期官衙期に帰属する可能性がある。他2点の坏は特殊例と考えられる。特に第35図27は、木葉痕をもつ厚い底部をもつ坏で、甕用の底部を利用した可能性が高い。調整は内外面ともにナデが主体となる。埦は、体部が球形を呈し口縁端部が直立ないし外反する器形で、住居堆積土からも同型の資料が1点出土している。いずれも二次的被熱によるものとみられる赤色化や剥落が顕著にみられる。調整は内外面ともにナデが主体となる。全体的に埦の出土数は少なく、他はSI274住居掘り方から出土した、内外面にミガキが施された資料のみである（第

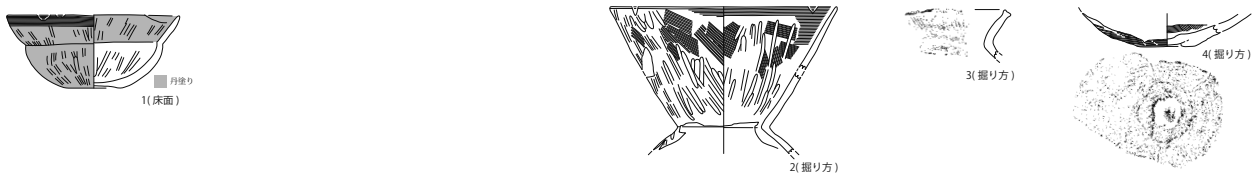
SI256 出土土器



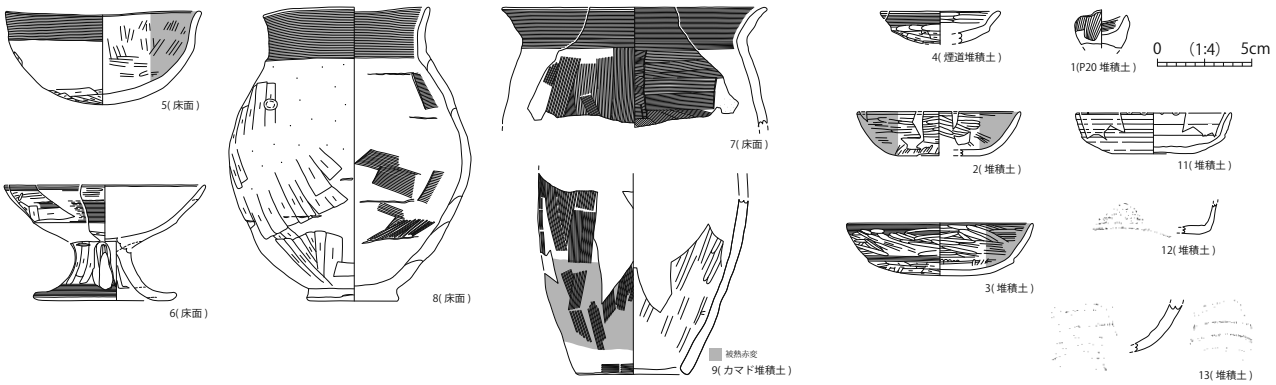
SI257 出土土器



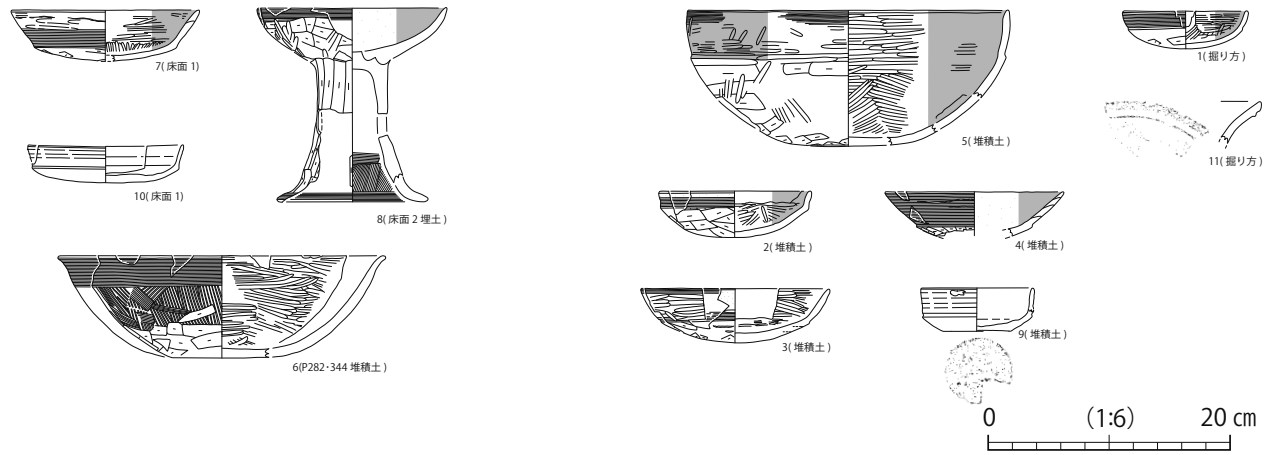
SI258 出土土器



SI261 出土土器

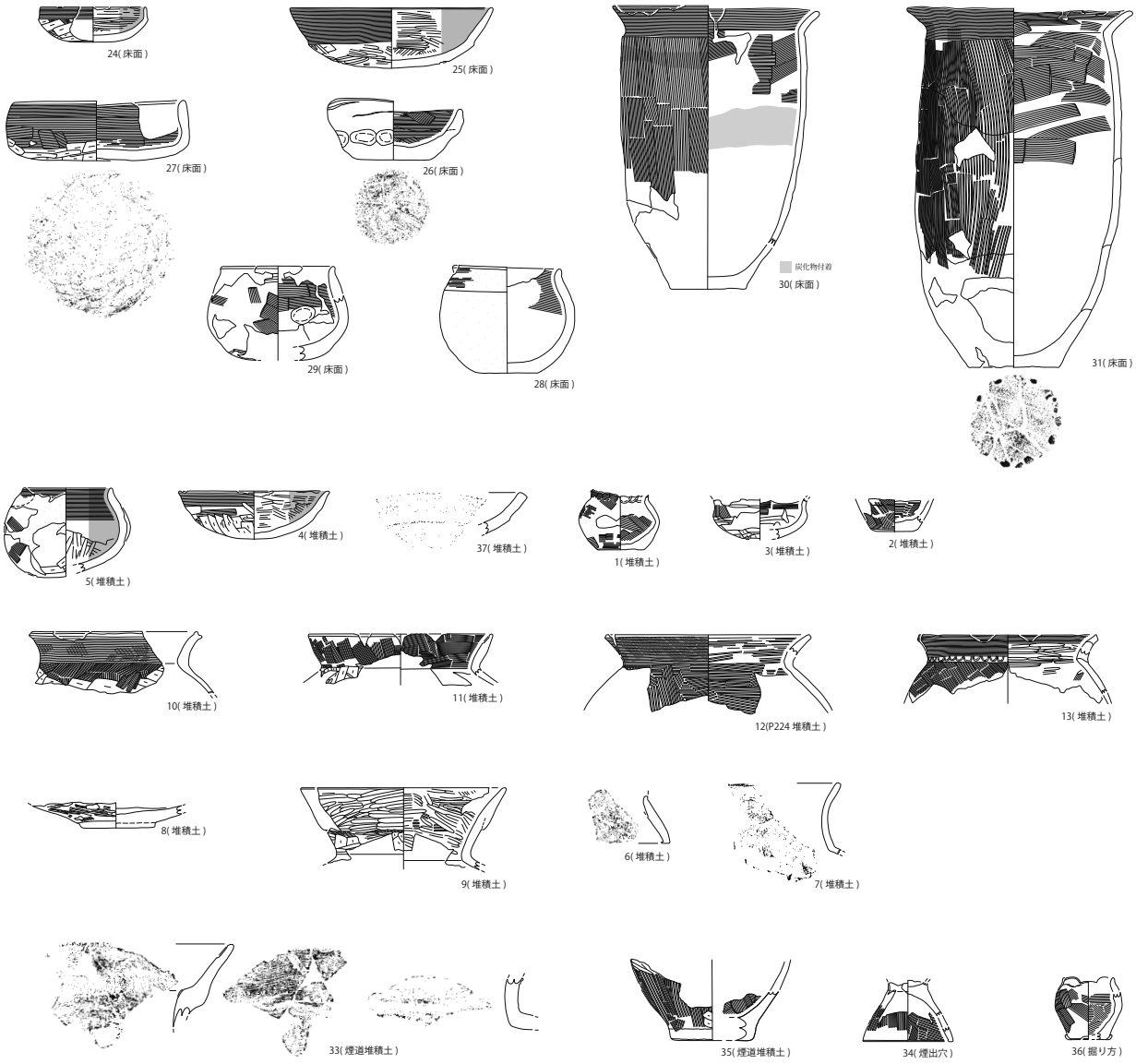


SI262 出土土器

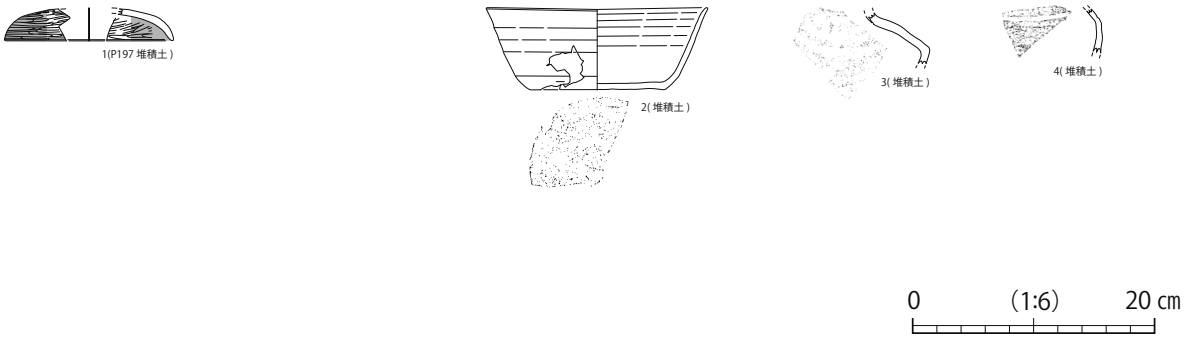


第 127 図　竪穴住居跡出土土器集成（1）

SI264 出土土器

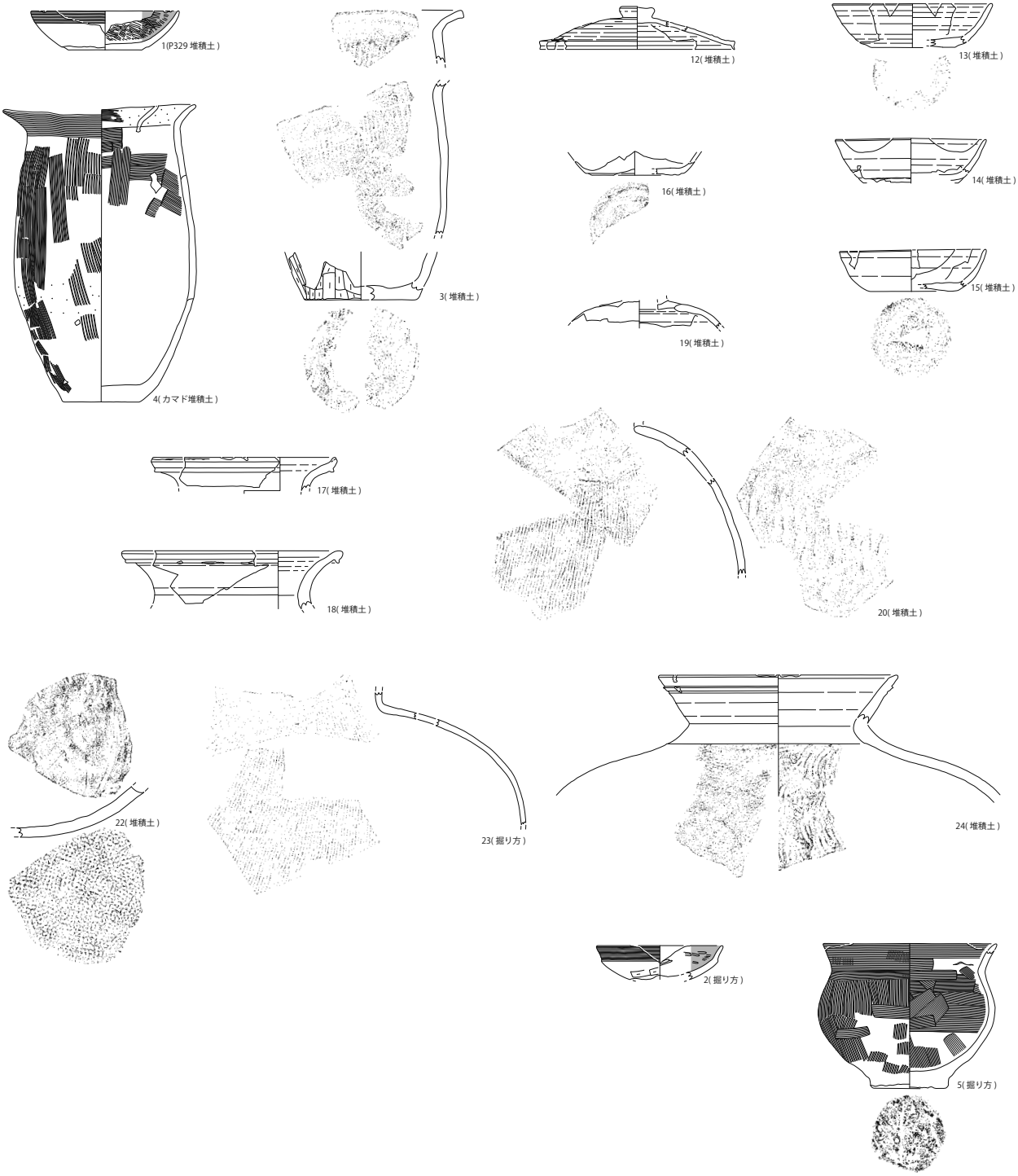


SI265 出土土器

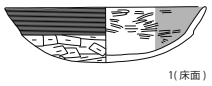


第 128 図　竪穴住居跡出土土器集成（2）

SI266 出土土器



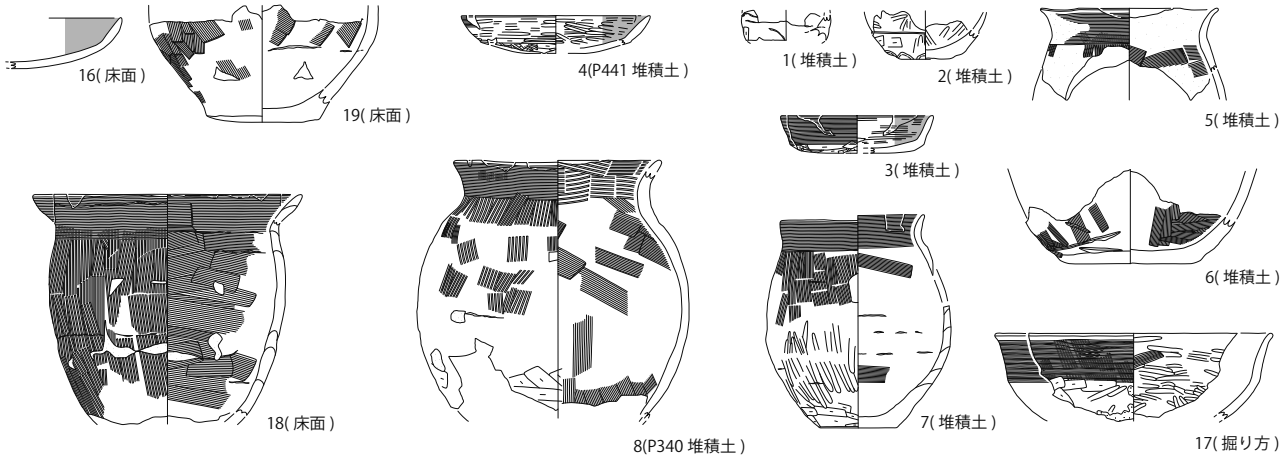
SI267 出土土器



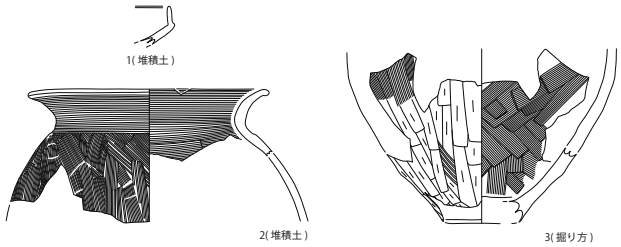
0 (1:6) 20 cm

第 129 図　竪穴住居跡出土土器集成（3）

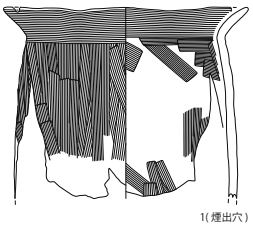
SI268 出土土器



SI269 出土土器

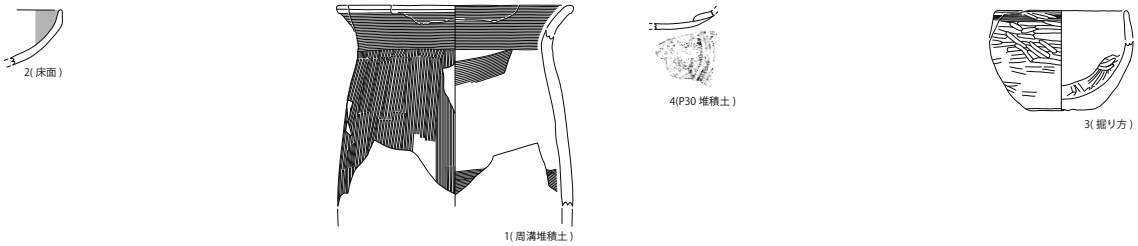


SI270 出土土器



SI273 出土土器

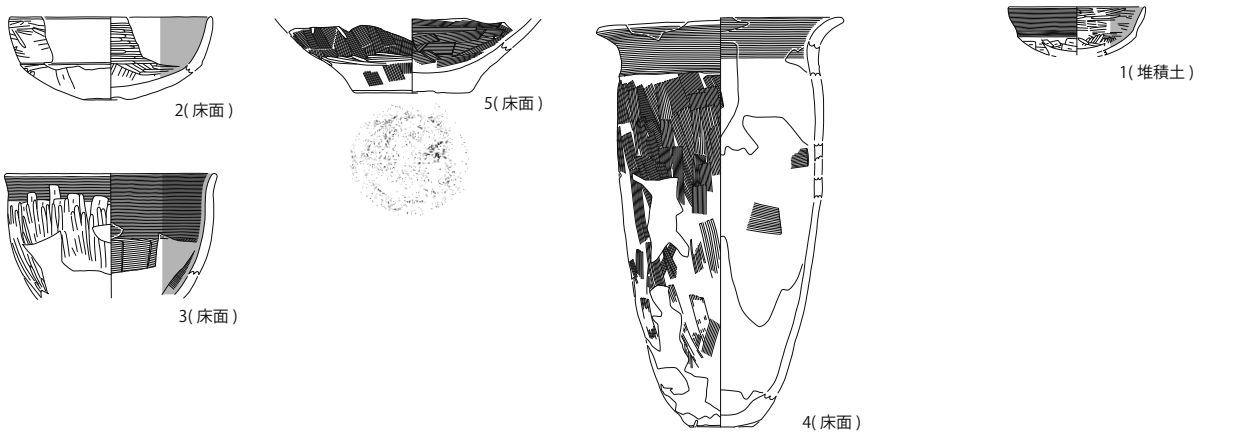
SI274 出土土器



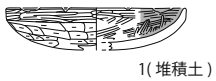
0 (1:6) 20 ㎝

第 130 図　竪穴住居跡出土土器集成（4）

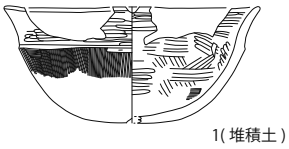
SI275 出土土器



SI277 出土土器

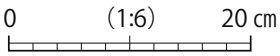


SI278 出土土器



SI279 出土土器

SI282 出土土器



第 131 図　竪穴住居跡出土土器集成（5）

63 図 3)。甕は、2 点とも下部がすぼまるほぼ円筒形の体部に短く外傾する口縁部をもつ中型と大型の甕である。

SI266は、床面施設、カマドから土師器坏1点・甕1点が出土した。なお、本文中でも指摘したとおり、住居堆積土出土資料には、本来SK236・241の堆積土出土資料となるものが多く含まれている。土師器坏は、内湾気味に外傾する平底の坏である。底面の調整はヘラケズリである。甕は体部やや下位に最大径をもつ大型甕である。本住居跡は、坏の特徴からⅡ期官衙期ないし8世紀代に帰属する可能性がある。なお、住居掘り方から大型の須恵器甕が出土している。

SI268 は、床面、床面施設から土師器坏 2 点・甕 3 点が出土した。坏は 2 点とも偏平な丸底で、外面に段をもつものと無いものがある。器形全体のわかる甕は 2 点である。体部上位に最大径をもち口縁部が外傾するものと、体部中位に最大径をもち口縁部が外反するものがある。ともに中型の甕である。

SI275 は、床面から土師器坏 1 点・甕 3 点が出土した。坏は、外面に段をもち口縁部が内湾する器形で、焼成後に高坏から転用されたものと考えられる。器形全体のわかる甕は 2 点である。体部上位に最大径をもち口縁部が短く外反する小型甕と、体部上位に最大径をもち口縁部が外反する大型の長胴甕である。

第3節　井戸跡の出土遺物について（第132・133図）

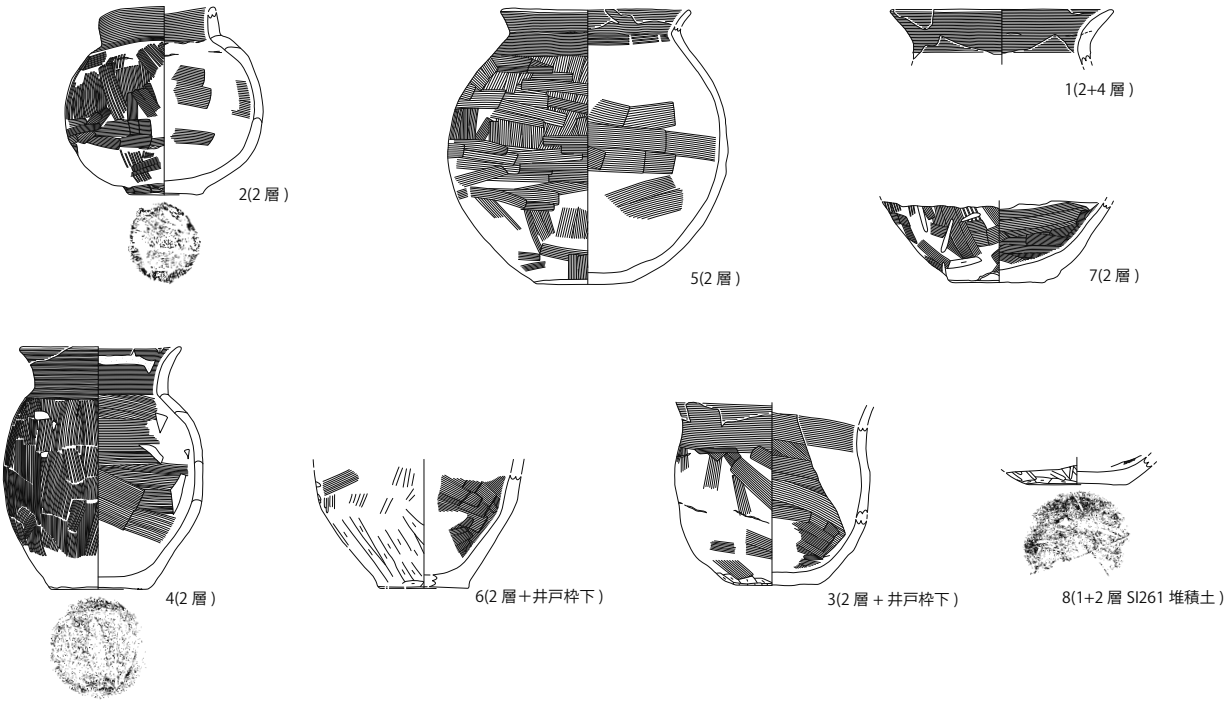
今次調査では、これまで西台畑遺跡、長町駅東遺跡においてはほぼ確認例が無い、郡山官衙期の井戸跡を 2 基確認した。2 基の井戸跡については、掘り方の形状や井戸枠等の構築方法に加えて、遺物の出土状況にも相違点がみられる。井戸枠の構築方法について鐘方の類型（鐘方 2003）に従えば、SE1 は、円形の掘り方で刳り抜き材と板材を組合わせた挿入式の縦板組型、SE2 は、長方形の掘り方で北寄りの底面に土居桁を有し、横桟を伴う組立て式の方形縦板組型である可能性が考えられる。また 2 基とも廃絶時に井戸枠の抜き取りが行われているが、SE1 では、廃絶後、ほぼ連続して直上に別の施設（SK240）が構築されている。

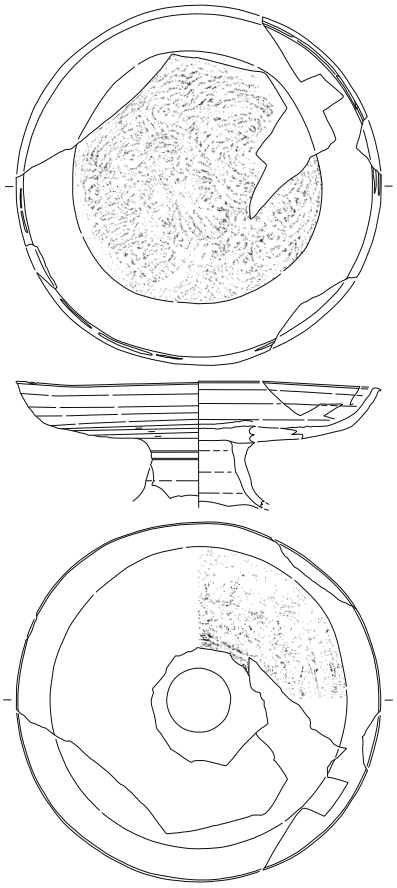
遺物は、SE1 で特徴的な出土状況を示している。井戸枠内の堆積土（2 層）中より、破片資料を含めて最大 16 個体分の小・中型土師器甕と、それらの直上から重さ 15kg を超える大型礫が出土している。甕の残存状態は、完形に近いもの 4 個体、口縁部破片資料 5 個体、口縁～体部上部の破片資料 2 個体、体部下部～底部の破片資料 3 個体である。このような同一器種が複数出土する状況は、土器埋納による井戸の祭祀が行われた可能性を示唆する。同様の状況は、郡山遺跡におけるⅡ期官衙内の井戸跡（SE429）、同じく郡山廃寺内の井戸跡（SE157）でも確認されている。また、完形に近い資料については、主に口縁部を欠損ないし破損しており、意図的な打ち欠きが行われた可能性が高い（特に写真図版 81-1・3 ～ 5）。

鐘方は、井戸の祭祀を井戸構築時の祭祀（1段階）、井戸使用時の祭祀（2段階）、井戸埋め戻し時の祭祀（3段階）の3段階に区分している（鐘方前掲）。SE1井戸枠内の土器は、井戸底の石敷き上面（4層上面）から2層上面の大型礫まで、層厚14～20cmの間に折り重なって出土している。これが、井戸使用開始から廃絶までの間で特定の一時期に集中的に堆積したのか、時間幅をもって少しずつ堆積したのか断定は難しいが、現状では、鐘方氏の1段階と3段階の両段階に祭祀が行われた可能性を考えたい。その場合、折り重なりの最上位から出土した第94図2の小型甕は、大型礫とともに3段階の祭祀に伴う可能性がある。また、SE1の2層中から出土した口縁部の小片と、SK240の堆積土中から出土した他の大部分の破片とが接合した須恵器高坏（第95図9）の存在についても、3段階の祭祀に関わる可能性がある。

SE1 から出土した注目される遺物として、粘板岩製の有孔石製品がある。完形の状態で、井戸枠内から土器とともに出土しており、井戸の祭祀に関わる可能性も考えられる。用途については、前面を研磨しており砥石とも考えられるが、通常、砥石には凝灰岩や砂岩が多用される事と、特に使用痕跡が無いことから可能性は低い。第 133 図に、近年、郡山遺跡および西台畑遺跡で出土した郡山官衙期に帰属する有孔石製品を掲載した。また、関連資料として宮城県名取市清水遺跡の出土資料もあわせて提示した。これらの時期については、1 ～ 3 は郡山官衙期に帰属する資料である。4 については、出土状況が不明で判断は困難だが古代の遺物である可能性が高い。

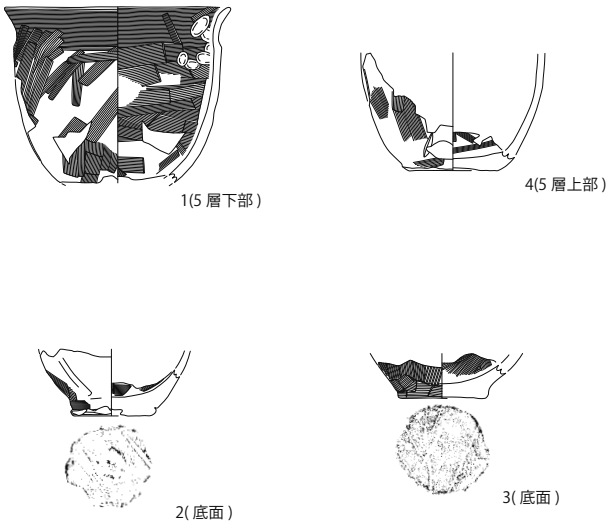
SE1 出土土器





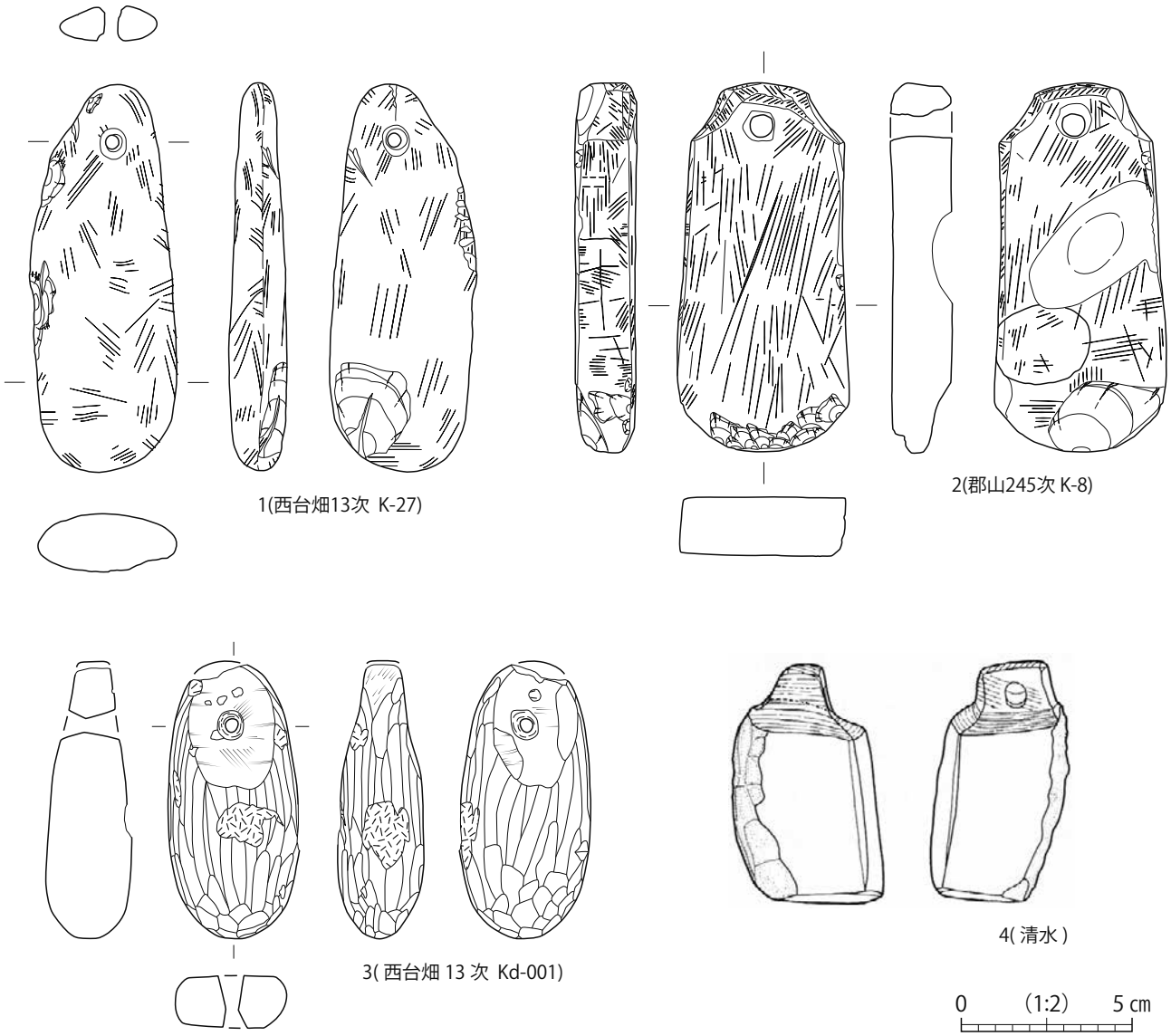
9(2 層 +SK240・2 層 +SK240・4 層)

SE2 出土土器



0 (1:6) 20 cm

第 132 図　井戸跡出土土器集成



図版番号	遺跡名	出土遺構	層位	法量 (cm)			重量 (g)	石材	文献	写真図版
				全長	幅	厚さ				
1	西台畑遺跡 13 次	SE1 井戸跡	井戸底石敷上面	11.3	4.3	1.7	107.0	粘板岩	本書	82-1
2	郡山遺跡第 245 次	SX2338 性格不明遺構	堆積土 1 層	10.7	5.0	1.7	74.5	凝灰岩	仙台市教育委員会2016c	82-3
3	西台畑遺跡 3 次	SI42 竪穴住居跡	周溝堆積土	8.1	3.8	2.5	65.8	凝灰岩	仙台市教育委員会2011a	82-2
4	清水遺跡	不明	不明	6.9	4.2	―	―	石英安山岩	宮城県教育委員会1981	―

第 133 図　西台畑遺跡第 13 次調査出土　有孔石製品と関連資料

全体的に形態的類似性は低いものの、1 ～ 3 の外形については、上部がややすぼまり中～下部に最大幅をもつ点に共通性がみられる。また 2 ～ 4 については有孔部周辺に意図的な加工が施されている。特に 4 は、有孔部に鈕状の作り出しがみられる。2 は、上部両肩に弱い抉りをもつものの明確な鈕状の作り出しはみられない。3 は、表裏で有孔部周辺が平坦に研磨され、有孔部での厚さを減じた状態となっている。なお、1・2 には、側方および下方からの研磨面より新しい剥離面が複数みられるが、全体的な形態に大きな変化はない。

4 点とも孔は紐通し穴と考えられ、2 には紐擦れ痕が観察される（写真図版 82）。穿孔方法は、1･3 は回転穿孔で、2 は孔の壁面に線状の切削痕が数条みられることから、刃部を有する狭長な工具による穿孔と考えられる。

これらの用途については、帰属時期と出土した遺跡の性格を考慮し、一つの検討すべき解釈として権衡資料（棹秤の錘）の可能性を指摘したい。これまで宮城県以北において、古代権衡資料の出土例は知られてこなかったが、福島県域では会津を中心とした関連資料の蓄積がある（菅原 2012）。今後は、他の地域との比較により時期的・地域的な形態変異とその歴史的な背景について、広く検討していく必要があろう。

引用・参考文献

吾妻俊典　2004　「多賀城とその周辺におけるロクロ土師器の普及開始年代」『宮城考古学』第 6 号　宮城県考古学会 pp.187-196

宇野隆夫　1982　「井戸考」『史林』65-5 pp.1-39（『考古資料にみる古代と中世の歴史と社会』1989 真陽社 所収）

加藤道男　1983　「宮城県における土師器研究の現状」『考古学論叢』　芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会 pp.277-329

加藤道男　1989　「仙台湾周辺の製塩遺跡」『東北歴史資料館研究紀要』第 15 巻 東北歴史資料館 pp.1-44

鐘方正樹　2003　『ものが語る歴史 8　井戸の考古学』同成社

菊池佳子　1994　「多賀城以前の陸奥国と須恵器」『歴史』第 82 号　東北史学会 pp.18-36

工藤信一郎　2010　「長町駅東遺跡・西台畑遺跡の集落について」『宮城考古学』第 12 号　宮城県考古学会国士舘大学考古学会 pp.39-58

櫻井友梓　2015　「多賀城と城下の井戸」『宮城考古学』第 17 号　宮城県考古学会 pp.117-134

佐藤敏幸　2006　「東北地方における 7 世紀から 8 世紀前半の土器研究史－関東系土師器研究の現状と新たな研究視点の模索－」『宮城考古学』第 8 号　宮城県考古学会 pp.123-144

佐藤敏幸・大久保弥生　2017　「陸奥における古墳時代後期から奈良時代の高坏（1）－宮城県のスカシ付高坏を中心に－『宮城考古学』第 19 号　宮城県考古学会 pp.89-106

菅原祥夫　2012　「石のおもりと土のおもり－古代権衡の地方普及をめぐって－」『福島県文化財センター白河館研究紀要』福島県文化振興事業団福島県文化財センター白河館 pp.23-32

仙台市教育委員会　2005　『郡山遺跡発掘調査報告書―総括編―』仙台市文化財調査報告書第 283 集

仙台市教育委員会　2007　『長町駅東遺跡第 4 次調査』仙台市文化財調査報告書第 315 集

仙台市教育委員会　2008　『長町駅東遺跡第 1・2 次調査』仙台市文化財調査報告書第 324 集

仙台市教育委員会　2008　「西台畑遺跡第 6 次」『南小泉遺跡他発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 326 集

仙台市教育委員会　2009　『長町駅東遺跡第 3 次調査』仙台市文化財調査報告書第 340 集

仙台市教育委員会　2010a　『郡山遺跡第 144 次調査』仙台市文化財調査報告書第 358 集

仙台市教育委員会　2010b　『西台畑遺跡第 1・2 次調査』仙台市文化財調査報告書第 359 集

仙台市教育委員会　2011a　『西台畑遺跡第 3 次調査』仙台市文化財調査報告書第 388 集

仙台市教育委員会　2011b　『郡山遺跡第 200 次調査』仙台市文化財調査報告書第 391 集

仙台市教育委員会　2013a　『西台畑遺跡第 8 次調査』仙台市文化財調査報告書第 409 集

仙台市教育委員会　2013b　『西台畑遺跡第 4・5・7 次調査』仙台市文化財調査報告書第 411 集

仙台市教育委員会　2013c　『郡山遺跡第 167・180・196 次調査』仙台市文化財調査報告書第 412 集

仙台市教育委員会　2014　「西台畑遺跡第 10 次」『川内 C 遺跡ほか』仙台市文化財調査報告書第 427 集

仙台市教育委員会　2015　『西台畑遺跡第 12 次調査』仙台市文化財調査報告書第 433 集

仙台市教育委員会　2016a　『西台畑遺跡第 9 次調査』仙台市文化財調査報告書第 441 集

仙台市教育委員会　2016b　『郡山遺跡第 243 次調査・西台畑遺跡第 11 次調査』仙台市文化財調査報告書第 442 集

仙台市教育委員会　2016c　「郡山遺跡第 245 次」『仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告Ⅱ』仙台市文化財調査報告書第 448 集 pp.88-113

高橋　透　2013　「東北地方における古代の塩の生産と流通－陸奥湾から太平洋沿岸地域を中心に－」『第 16 回古代官衙・集落研究会報告書　塩の生産・流通と官衙・集落』奈良文化財研究所研究報告第 12 冊　独立行政法人　国立文化財機構　奈良文化財研究所編 pp.81-111

東北古代土器研究会　2005　『東北古代土器集成―古墳後期～奈良・集落編―』＜宮城＞　研究報告 2

東北古代土器研究会　2008　『東北古代土器集成―須恵器・窯跡編』< 陸奥 >　研究報告 3

宮城県教育委員会　1981　「(1) 清水遺跡」『東北新幹線関係遺跡調査報告書Ⅴ』宮城県文化財調査報告書第 77 集

村田晃一　2002　「7 世紀集落研究の視点」『宮城考古学』第 6 号　宮城県考古学会 pp.49-71

村田晃一　2007　「ｖ．宮城県中部から南部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』東北学院大学文学部 pp.119-163

埋蔵文化財研究会　2013　『続・井戸再考－古墳・飛鳥時代の井戸－』発表要旨集・資料集　第 62 回埋蔵文化財研究集会

渡邊理伊知　2015　「城柵遺跡における鉄鏃について」『宮城考古学』第 17 号　宮城県考古学会 pp.99-116

写　真　図　版

1. 調査区より郡山Ⅱ期官衙政庁（矢印部分）を望む

2. 調査区全景（南西から）

写真図版１　調査区全景

1．調査区東側　全景（南西から）

2．調査区東側　南部（南西から）

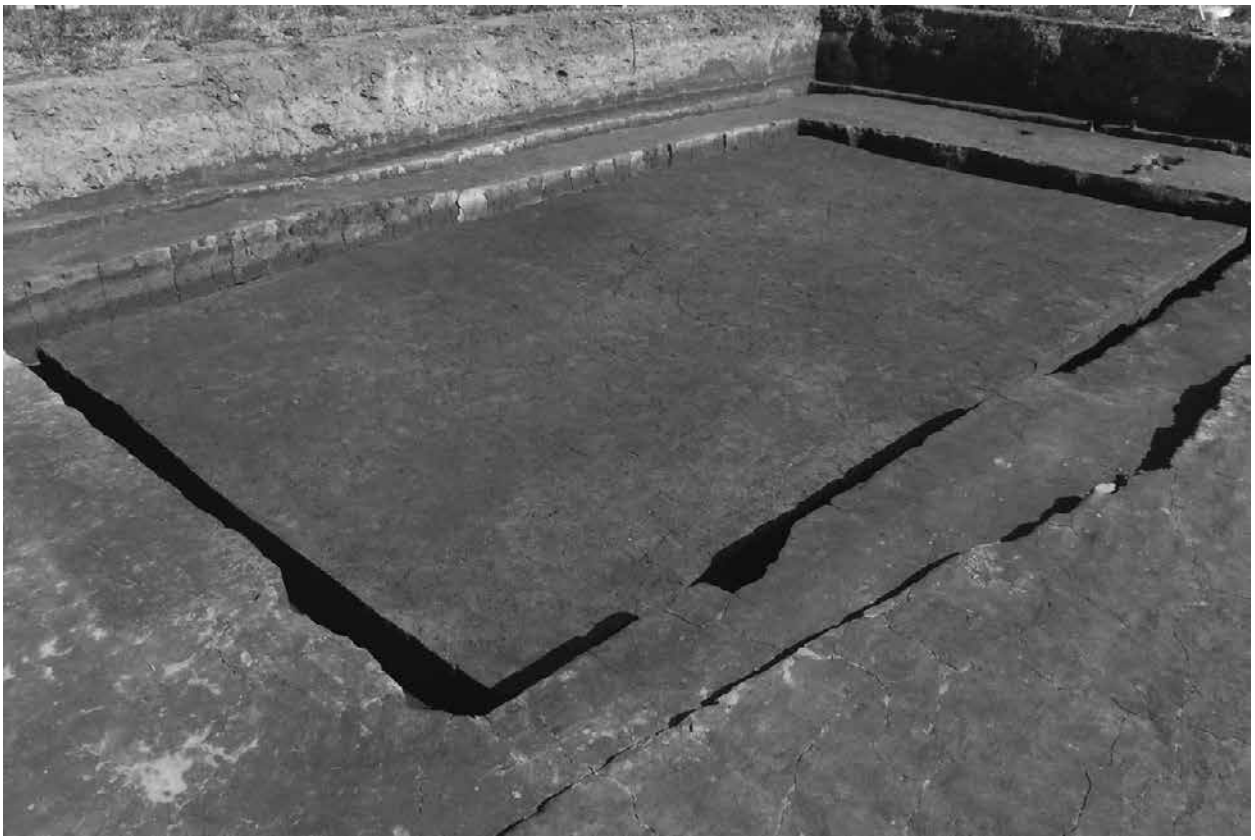
写真図版 2　調査区東側　全景

1. 調査区北壁（南西から）

2. 調査区東壁（南西から）

写真図版 3　基本層（1）

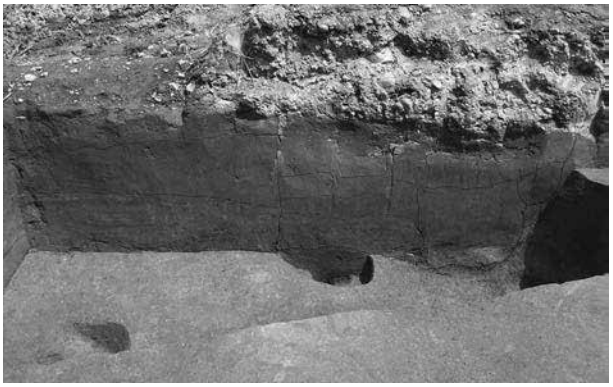
1. 調査区北壁（南西から）



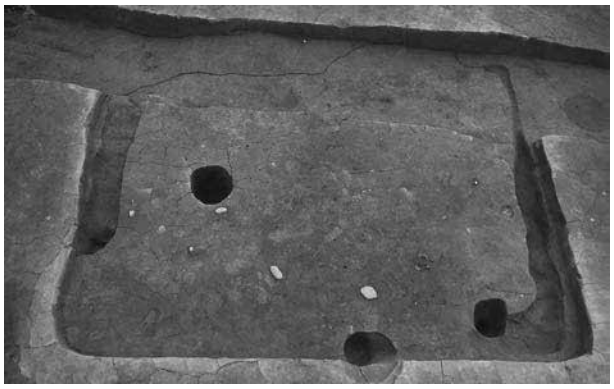
2. 下層調査区 A 区Ⅶa 層上面検出（南西から）

写真図版 4　基本層（2）・下層調査

1. SI256 床面完掘（南から）

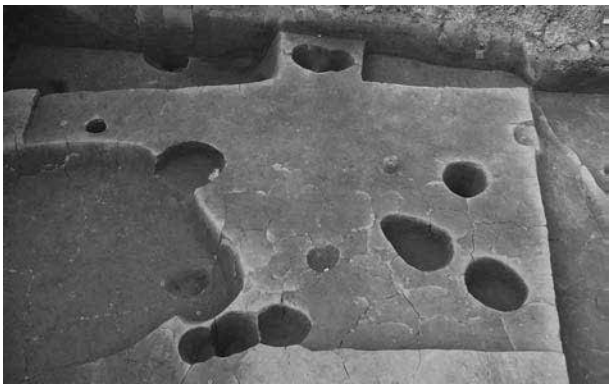


2. SI256 断面（南から）

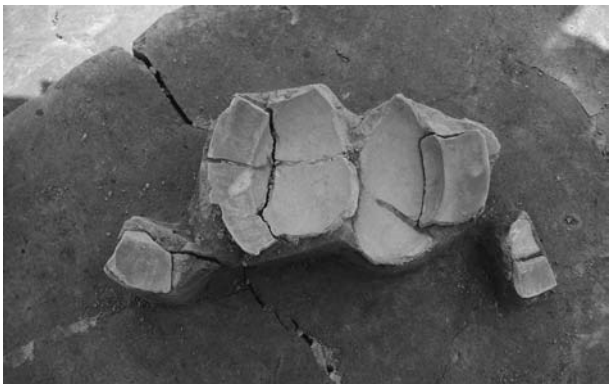


3. SI257 床面完掘（西から）

4. SI257 掘り方完掘（西から）



5. SI258 床面完掘（南から）



6. SI258 遺物（C-13）出土状況（北西から）

7. SI259 床面検出（南から）

8. SI259 断面（東から）

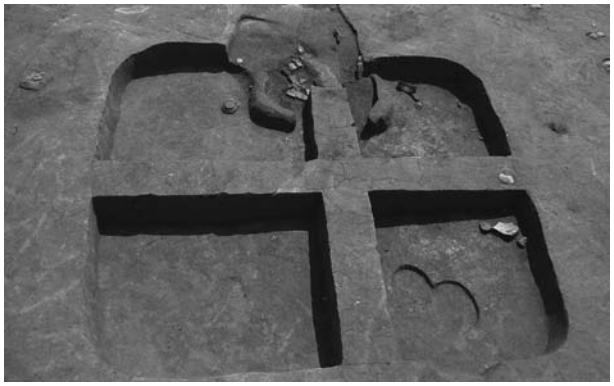
写真図版 5　SI256～259

1. カマド（西から）

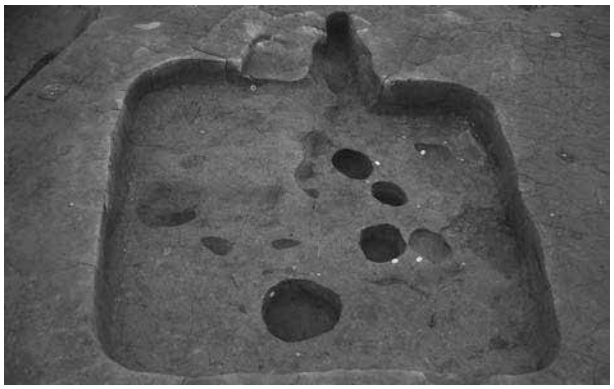
2. カマド断面（西から）

3. カマド 遺物（C-27）出土状況（西から）

4. 床面遺物（C-23）出土状況（西から）


5. 堆積土断面（西から）（2）

6. 堆積土断面（南から）


7. 掘り方完掘（西から）

8. 作業風景（南西から）

写真図版 6　SI261

1. 新床面完堀（南東から）

2. 新床面完堀（東から）

3. 新床面カマド（南東から）

4. 新床面カマド断面（南東から）

5. P113 断面（南東から）

6. P183 完掘（北東から）

7. P183 底面（北東から）

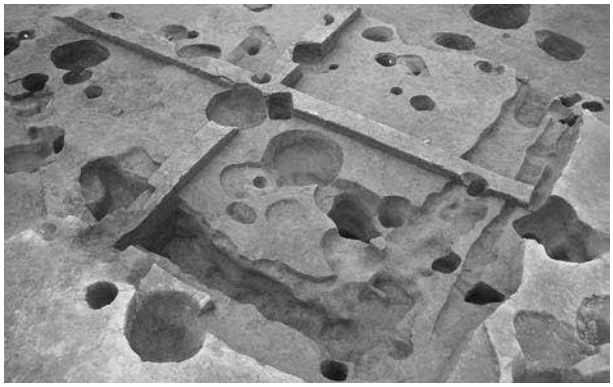
8. P226 完掘（南から）

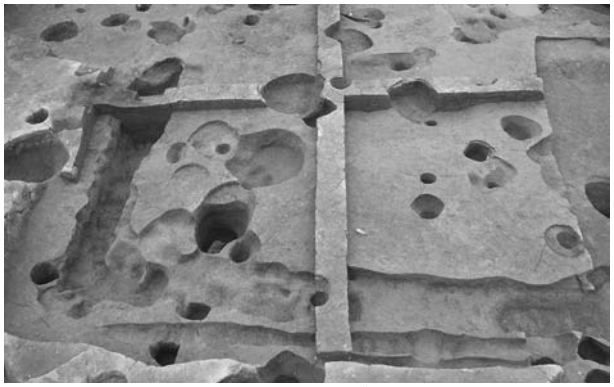
写真図版 7　SI262（1）

1. 新床面遺物（C-36）出土状況

2. 新床面遺物（E-6）出土状況

3. 新床面遺物（K-6）出土状況


4. 旧床面遺構（西から）


5. 旧床面遺構（南西から）

6. SD138 断面（南西から）

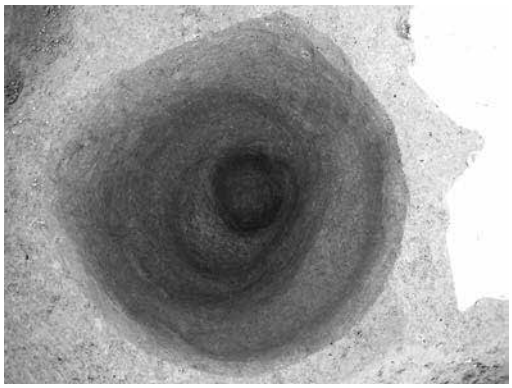
7. SD138 断面（南西から）

8. SD138 断面（北西から）

写真図版 8　SI262（2）

1. P13 断面（北東から）

2. P282 完掘（南東から）


3. P339 完掘（南東から）

4. 掘り方完掘（南東から）

5. 掘り方断面（南から）

6. 掘り方断面（南西から）

7. 掘り方断面（南東から）

8. 作業風景（南東から）

写真図版 9　SI262（3）

1. 床面完掘（東から）2

2. 堆積土断面（南東から）

3. 周溝断面（東から）

4. 掘り方検出（東から）

5. 掘り方底面掘削痕（東から）

6. 掘り方断面（南東から）

写真図版 10　SI263

1. 床面検出（南東から）

2. カマドA（南東から）

3. カマドA断面（南西から）

4. カマドA・B（南東から）

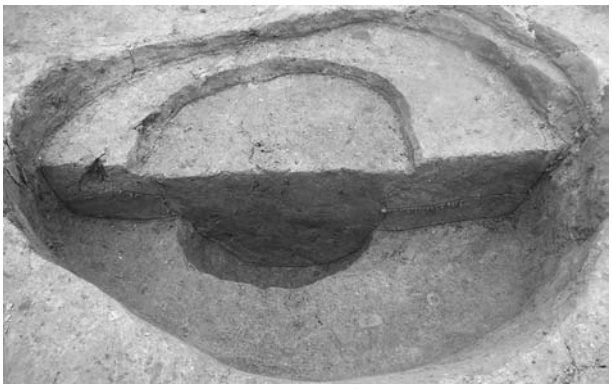
5. 床面遺物（C-66・67）出土状況（東から）

6. 床面遺物（C-65）出土状況（東から）

7. 床面遺物（C-62・63）出土状況（南東から）

8. 堆積土断面（南東から）

写真図版 11　SI264（1）


1. P72 断面（南から）

2. P74 断面（南から）

3. P77 断面（南から）

4. P174 断面

5. P73 断面（西から）

6. P117 断面（南から）

7. 掘り方完掘（南東から）

8. 作業風景（南から）

写真図版 12　SI264（2）

1. 床面検出（南東から）

2. カマド検出（西から）

3. カマドA断面（西から）

4. カマドB・C完掘（南西から）

5. 周溝断面（南西から）

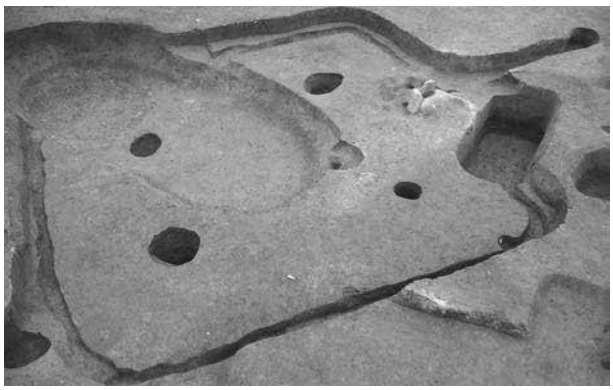
6. 堆積土断面（南西から）

7. 掘り方完掘（南西から）

8. 掘り方断面（南西から）

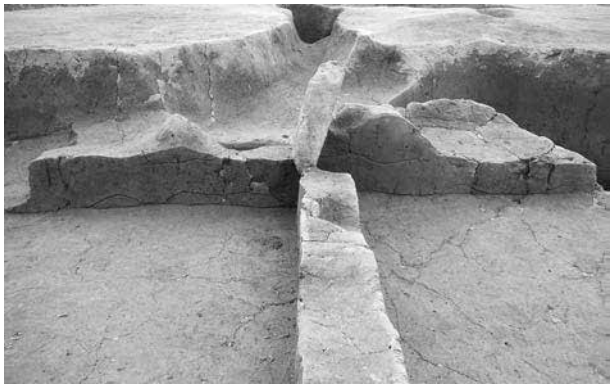
写真図版 13　SI265

1. 床面完掘（南西から）


2. 床面完掘（南から）

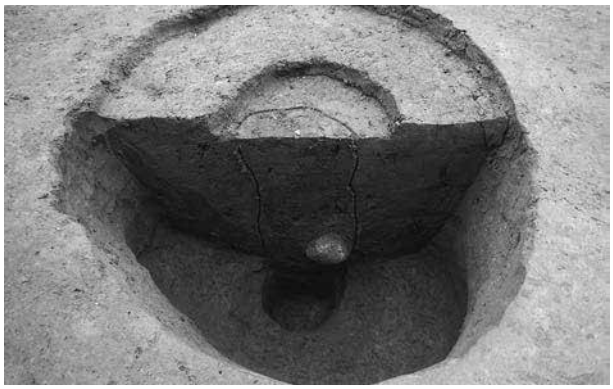
3. カマド 遺物出土状況（南西から）

4. カマド 遺物出土状況（上が北東）


5. カマド断面（南西から）

6. P329 断面（南西から）

7. P331 断面（南から）


8. P335 断面（南西から）

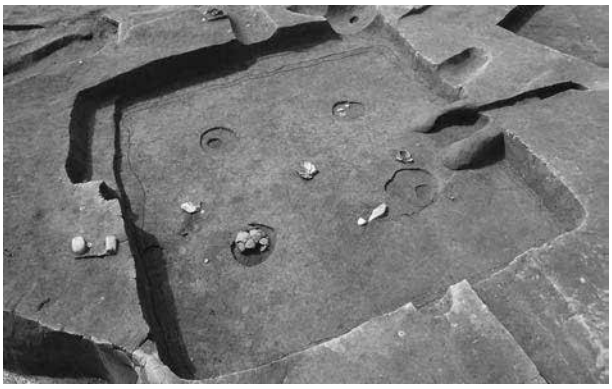
写真図版 14　SI266

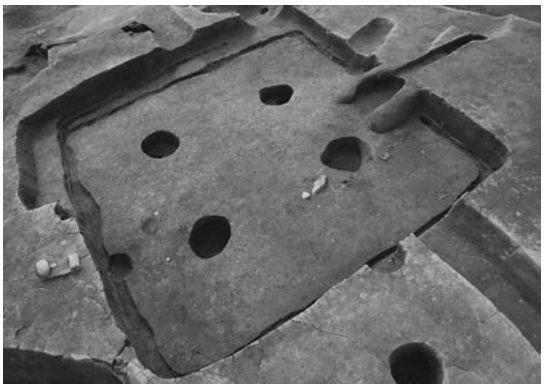
1.SI267 床面全景（西から）

2.SI267 床面炭化物（西から）

3.SI267 床面遺物（C-86）出土状況（西から）

4.SI267 掘り方断面（西から）

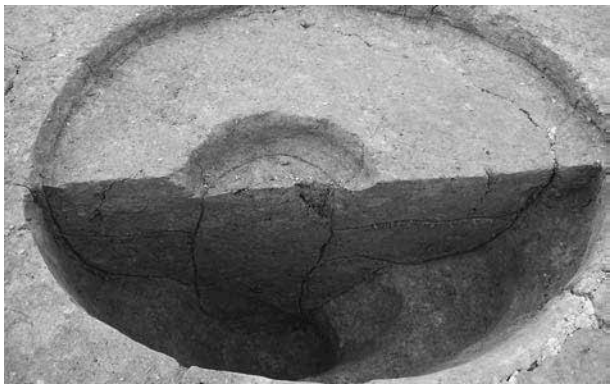

5.SI268 床面検出（北東から）


6.SI268 床面完掘（北東から）

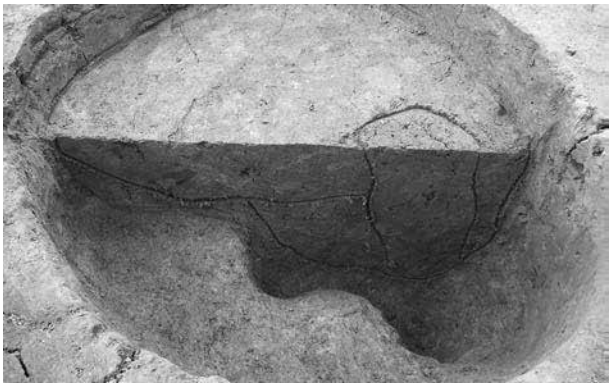
7.SI268 カマド（南東から）

8.SI268 カマド断面（南東から）

写真図版 15　SI267・268（1）


1. P337 断面（東から）

2. P338（南西から）


3. P340（南東から）

4. P414（東から）

5. 床面遺物（C-91）出土状況（南東から）

6. 堆積土断面（南から）

7. 掘り方完掘（南東から）

8. 掘り方断面（北西から）

写真図版 16　SI268（2）

1. 床面完掘（東から）

2. 床面完掘（北東から）

3. P514 底面（北西から）

4. P535 断面（南西から）

5. 堆積土・掘り方断面（北東から）

6. 堆積土・掘り方断面（東から）

7. 堆積土・掘り方断面（北東から）

8. 掘り方完掘（東から）

写真図版 17　SI269

1. 床面完掘（南東から）

2. カマド（南東から）

3. カマド（北東から）

4. カマド断面（東から）

5. 煙道 遺物（C-120）出土状況（東から）

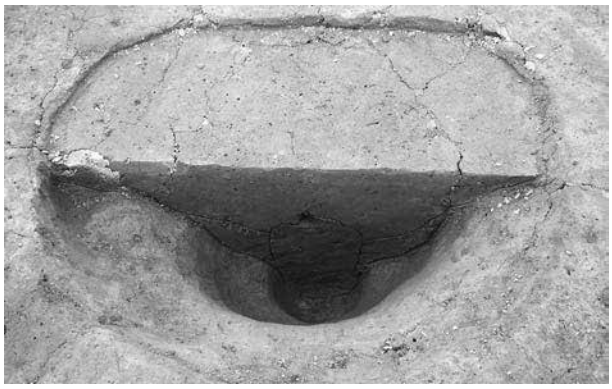
6. P433 断面（南から）

7. 堆積土・掘り方断面（南西から）

8. 掘り方完掘（南東から）

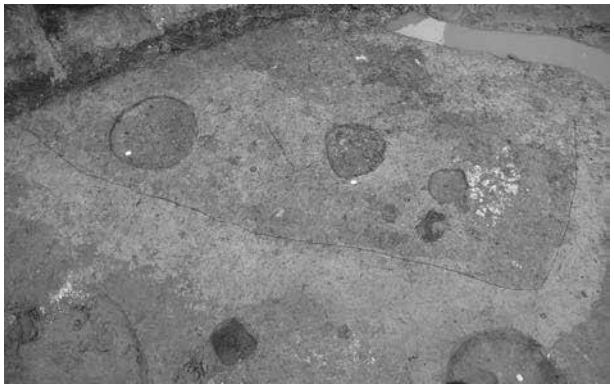
写真図版 18　SI270

1. SI272 床面完掘（南から）


2. SI272 P453 断面（南から）

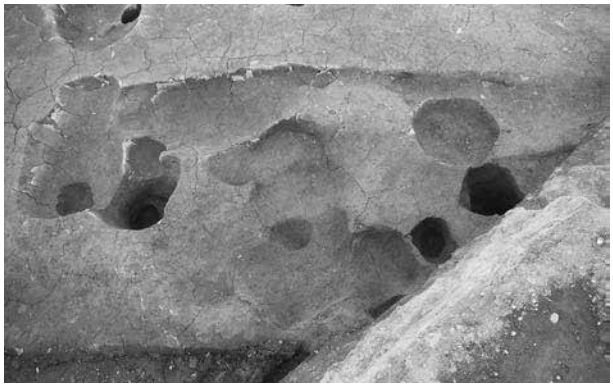
3. SI272 堆積土断面（南から）

4. SI272 掘り方完掘（東から）


5. SI273 掘り方検出（北東から）

6. SI273 遺構完掘（南西から）

7. SI273 P385 断面（南から）


8. SI273 掘り方完掘（南西から）

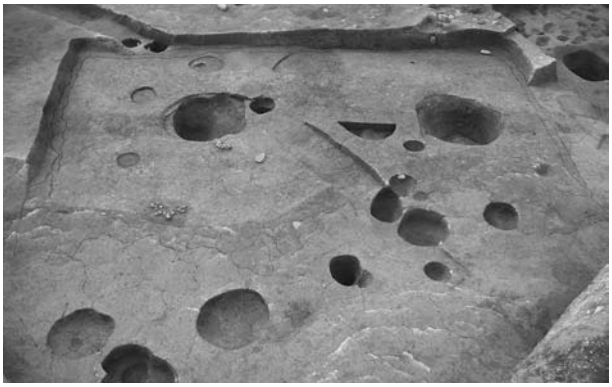
写真図版 19　SI272・273

1. SI274 床面完掘（南から）

2. SI274 床面遺物（C-126）出土状況（北西から）

3. SI274 堆積土断面（西から）

4. SI274 掘り方完掘（南から）


5. SI275 床面検出（南東から）

6. SI275 床面完掘（南東から）

7. SI275 床面完掘（東から）

8. SI275 南側拡張部掘り方検出（南東から）

写真図版 20　SI274・275（1）

1．P45 底面（北東から）

2．P110 断面（南東から）

3．P110 底面（南東から）

4．P122 断面（南西から）

5．P227 断面（ 東から ）

6．P227 柱痕跡（東から）

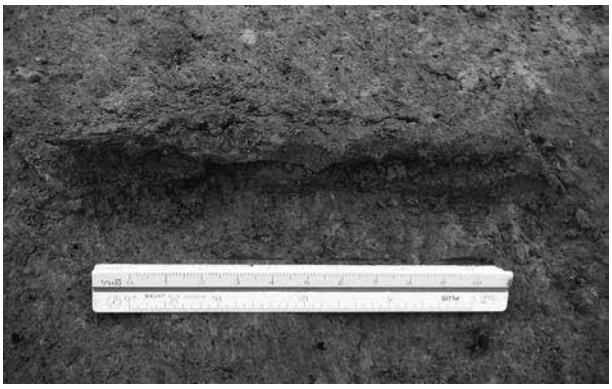
7．P111・119・120 断面（南西から）

8．SK232 断面（南西から）

写真図版 21　SI275（2）

1．西壁周溝断面（南東から）

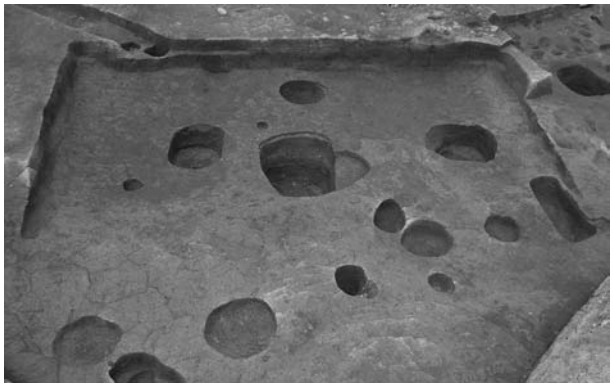
2．床面遺物（C-135・138）出土状況（北西から）



3．床面遺物（N-7）出土状況

4．堆積土断面西側（南東から）

5．堆積土断面（南西から）



6．掘り方完掘（南東から）

7．掘り方完掘（南東から）

8．掘り方完掘（東から）

写真図版 22　SI275（3）

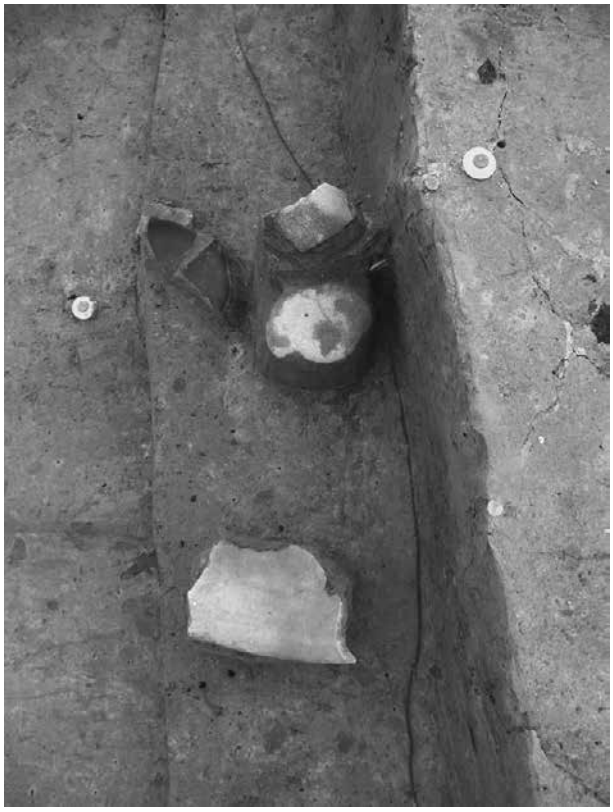
1．SI276 床面完掘（西から）

2．SI276 掘り方完掘（西から）

3．SI276 周溝断面（東から）

4．SI276 堆積土断面（東から）

5．SI277 床面完掘（西から）

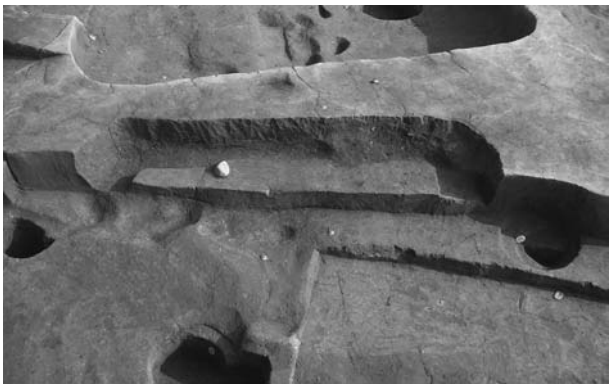


6．SI277 堆積土遺物出土状況（西から）

写真図版 23　SI276・277

1．SI278 遺構検出（北から）

2．床面検出（北から）


3．床面完掘（北から）

4．掘り方完掘（北から）

5．床面検出（南から）SI279

6．床面完掘（南から）

7．カマド断面（南から）

8．カマド断面（西から）

写真図版 24　SI278・279（1）

1. P528 断面（東から）

2. P550 断面（南から）

3. P555 断面（西から）

4. P556 断面（南西から）

5. 堆積土断面（北西から）

6. 堆積土断面（南から）

7. 掘り方完掘（東から）

8. 掘り方断面（南西から）

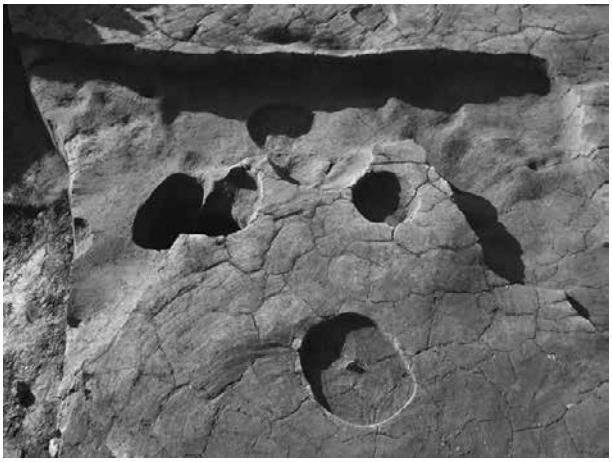
写真図版 25　SI279（2）

1.SI280 掘り方完掘（南東から）

2.SI280 掘り方断面（南西から）

3.SI281 遺構検出（南から）

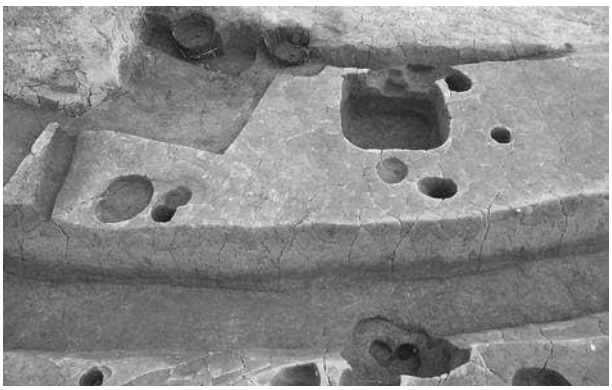
4.SI281 掘り方完掘（南から）

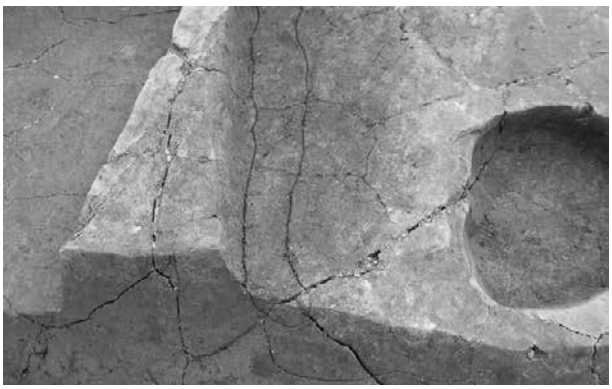


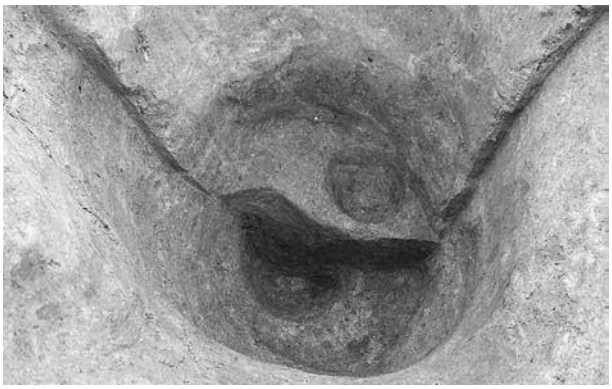
5.SI281 掘り方完掘（南東から）

6.SI281 掘り方断面（南西から）

写真図版 26　SI280・281


1.SI282 床面完掘（北から）


2.SI282 掘り方断面（北から）


3. SI282 P539 断面（南から）

4. SI282 P540・541 断面（北から）

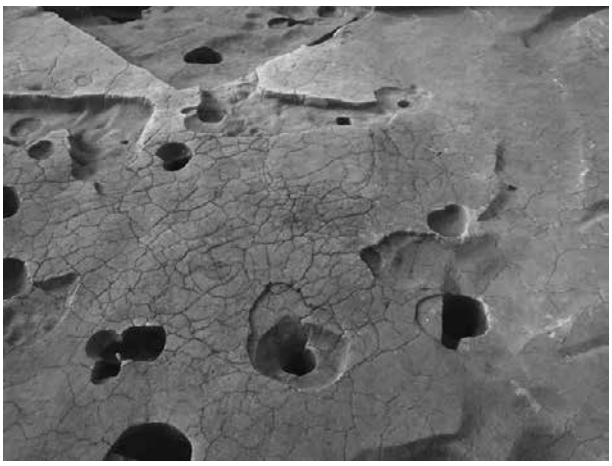
5.SI283 煙道断面（東から）

6.SI283 掘り方完掘（南西から）

7.SI283 掘り方完掘（南西から）

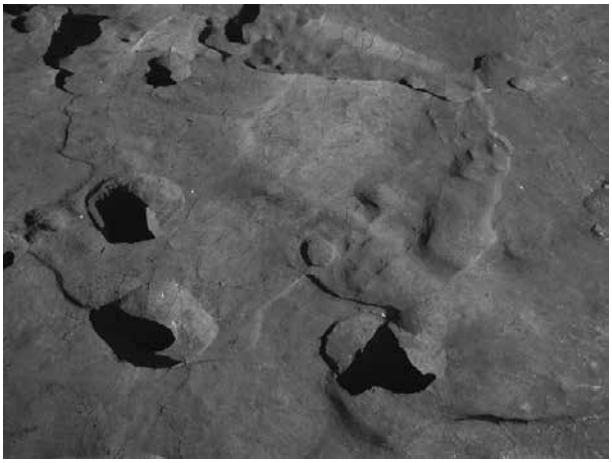
8.SI283 掘り方断面（南から）

写真図版 27　SI282・283


1. 掘り方検出（東から）

2. P500 断面（南西から）

3. SI569,571 断面（西から）


4. 掘り方完掘全景（東から）

5. 掘り方完掘全景（南東から）

6. 掘り方断面（北西から）

写真図版 28　SI284

1. 全景（南西から）

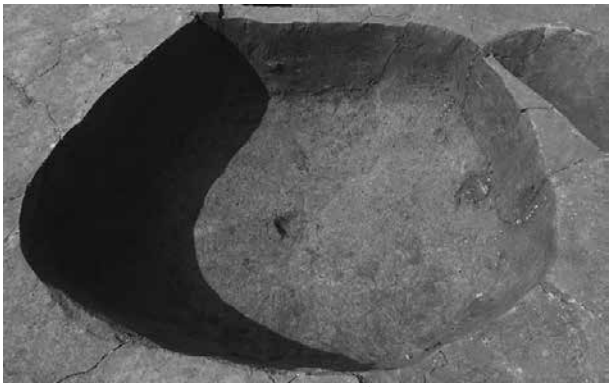
2. 全景（南西から）

写真図版 29　SB1（1）

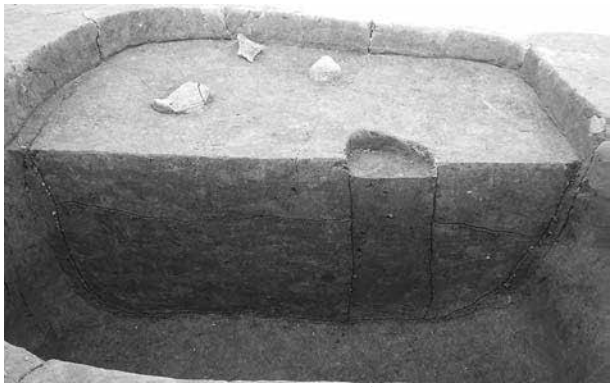
1. SK225 断面（西から）

2. SK225 柱痕跡検出（東から）

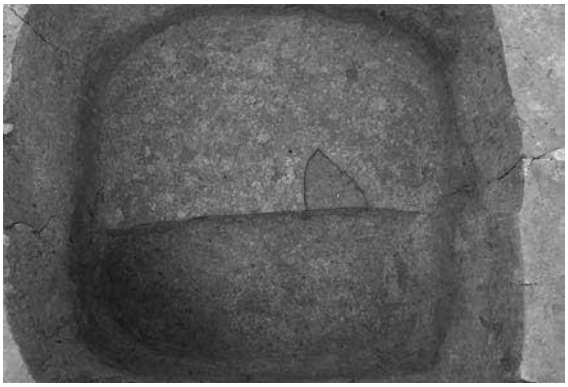
3. SK230 断面（南から）



4. SK230 完掘（南から）



5. SK252 断面（南から）

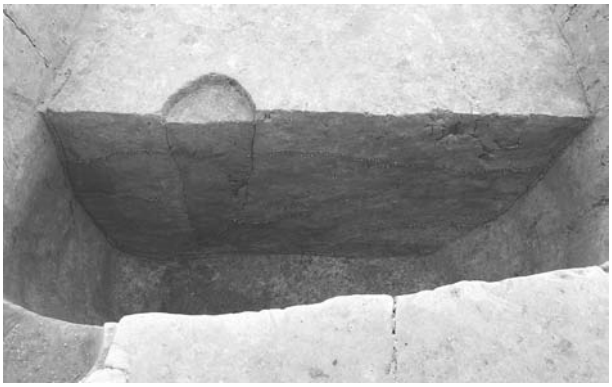


6. SK252 柱痕跡（上が北）

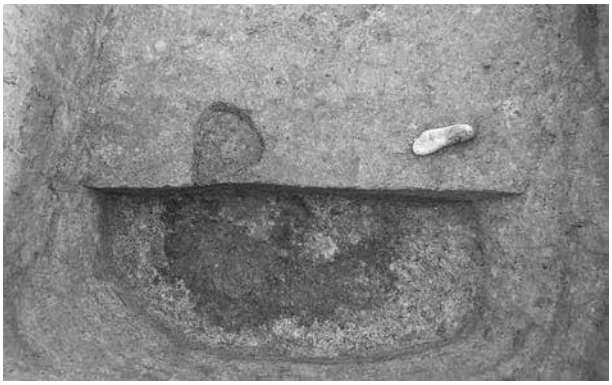
7. SK231 断面（北から）

8. SK231 完掘（北から）

写真図版 30　SB1（2）



1. SK253 断面（南から）



2. SK253 柱痕跡（上が北）

3. SK254 断面（南から）

4. SK254 柱痕跡（上が北）

5. SK254 柱痕跡（上が北）

6. SK255 検出（南から）

7. SK255 断面（南から）

8. SK255 完掘（南から）

写真図版 31　SB1（3）

1. 全景（南から）

2. 全景（東から）

3. SK234 断面（南から）

4. SK234 底面（南から）

5. SK234 完掘（南から）

6. SK237 断面（南から）

7. SK237 底面（南から）

8. SK237 底面（南から）

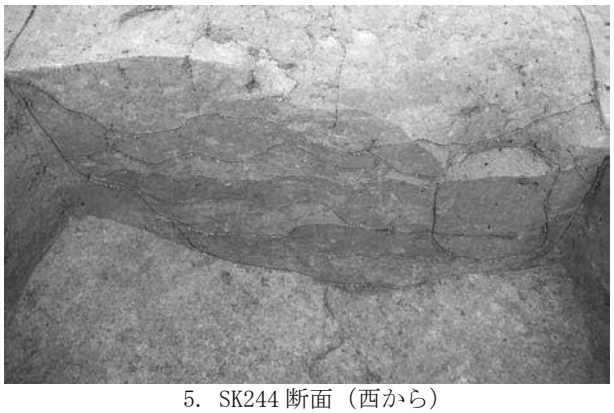
写真図版 32　SB2（1）

1. SK239 断面（北から）

2. SK239 断面（南西から）

3. SK239 底面（北から）

4. SK244 断面（西から）


5. SK244 断面（西から）

6. SK244 底面（西から）

7. SK244 底面（西から）

8. SK244 完掘（西から）

写真図版 33　SB2（2）

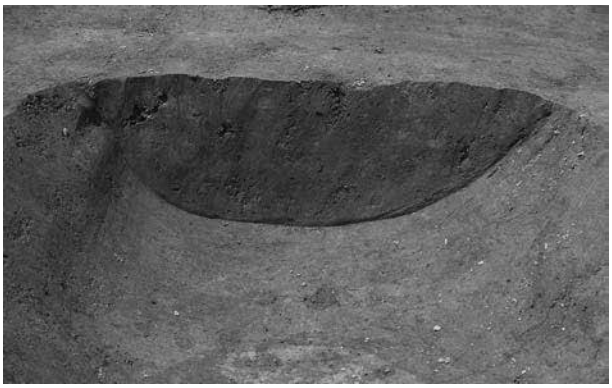
1. SD132 西側全景（西から）

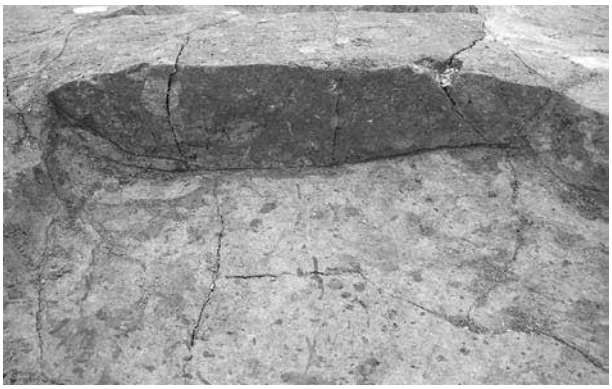
2. SD132 断面（西から）

3. SD132・153 断面（西から）

4. SD123 断面（南から）

5. SD126 断面（北東から）

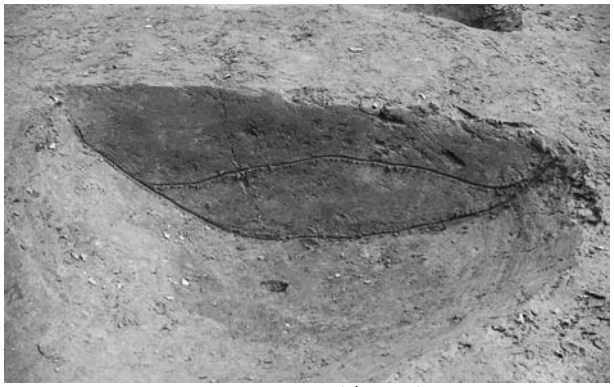

6. SD128 断面（東から）


7. SD129 断面（東から）

8. SD131 断面（南から）

写真図版 34　SD（1）

1. SD130 断面（南から）


2. SD130 断面（南から）

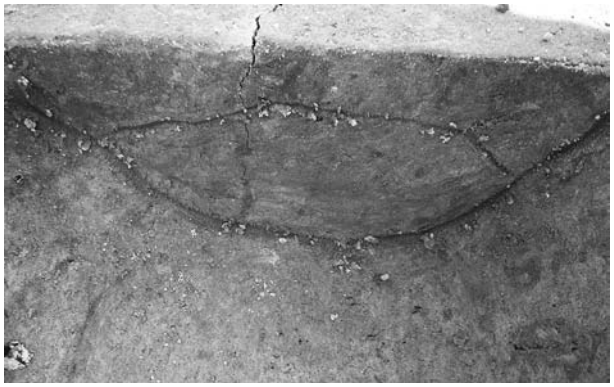
3. SD133 完掘（南から）

4. SD133 断面（北東から）

5. SD134 完掘（北から）

6. SD134 断面（北から）

7. SD136 断面（南東から）


8. SD137 断面（北西から）

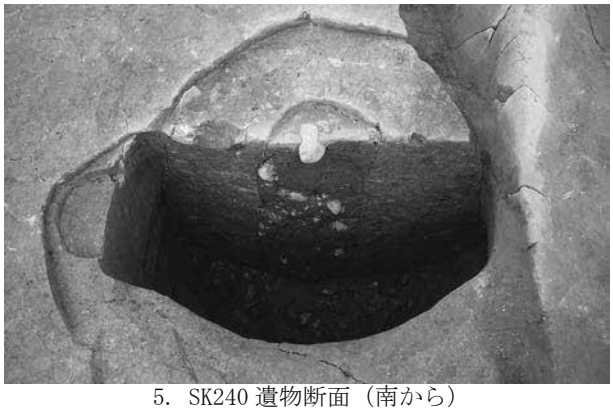
写真図版 35　SD（2）

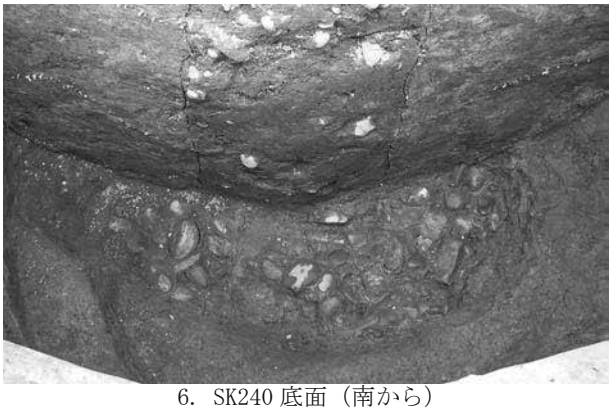
1.SK240 確認（SI264 内）（南東から）

2.SK240 上部断面（南から）

3. SK240 遺物（E-84）出土状況（南東から）

4. SK240 遺物（E-84）出土状況（南東から）

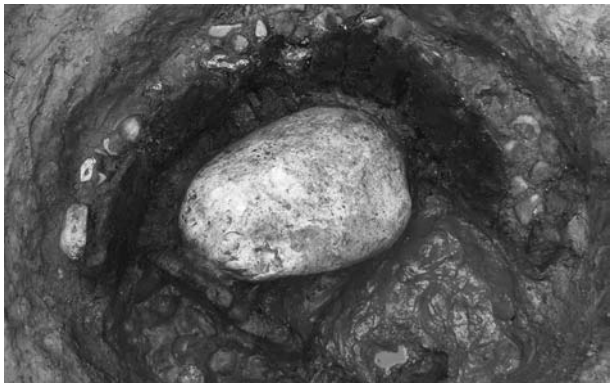

5. SK240 遺物断面（南から）


6. SK240 底面（南から）

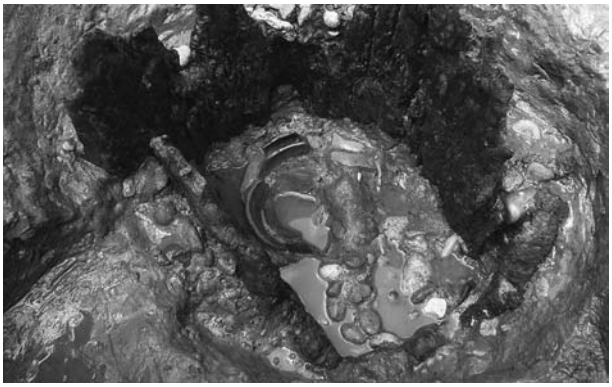
7. SE1 断面（南から）

8. SE1 遺物（C-170）出土状況（南西から）

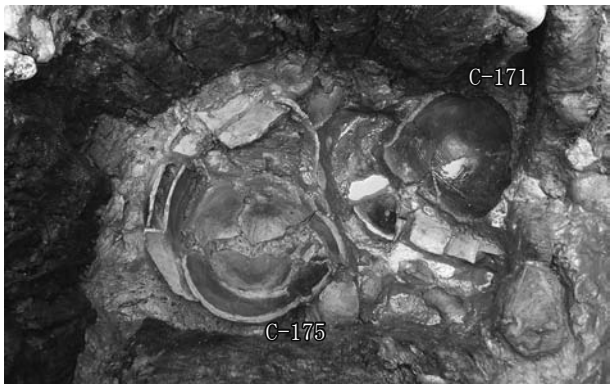
写真図版 36　SK240・SE1（1）



1. 大型（K-29）礫出土状況（南から）



2. 大型礫取上げ直後（南から）



3. 土器出土状況①(南から)

4. 土器出土状況②(南から)

5. 底面（南から）

6. 井戸枠下の土器（C-171）（南から）

7. 井戸枠下の土器（C-171）（南から）

8. 井戸枠下の石敷層（南から）

写真図版 37　SE1（2）

1. 半裁状況（上が北）

2. 井戸枠撤去断面図（南から）

3. 掘り方断面（南から）

4. 掘り方断面（南から）

5. 井戸枠撤去状況（南から）

6. 完掘（上が北）

7. 土器（C-170）の取り上げ

8. 作業状況

写真図版 38　SE1（3）

1. 検出状況（北から）

2. 検出状況（北から）

3. 検出状況（北から）

4. 断面

5. 断面

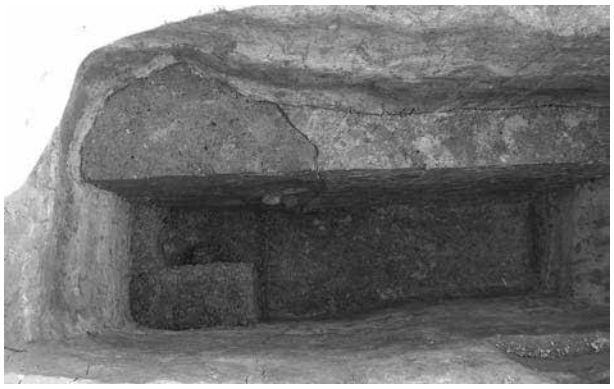
6. 断面

7. 断面

8. 断面

写真図版 39　SE2（1）

1. 断面（北西から）



2. 堆積土確認（西から）

3. 堆積土断面（西から）

4. 板材出土状況（西から）

5. 土居桁検出（西から）

6. 土居桁検出（南から）

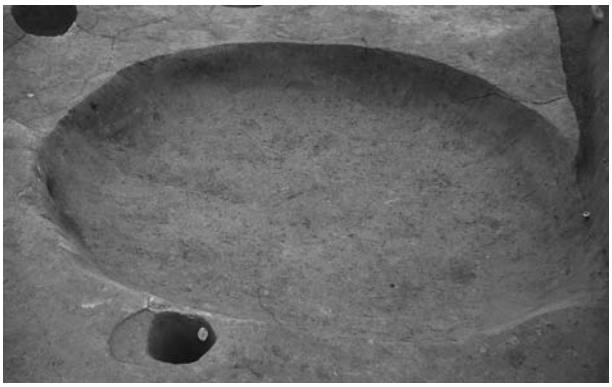
7. 土居桁検出（西から）

8. 完掘（西から）

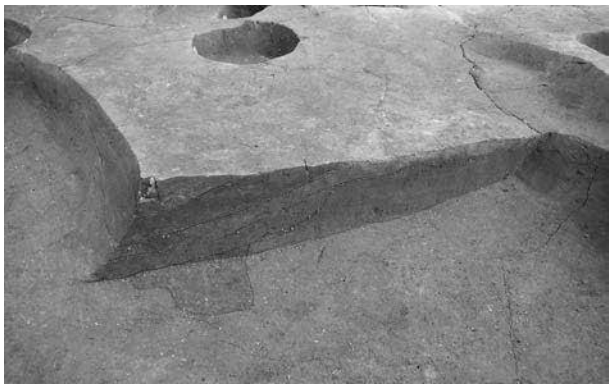
写真図版 40　SE2（2）

1. SK266 完掘（西から）

2. SK228 断面（南から）

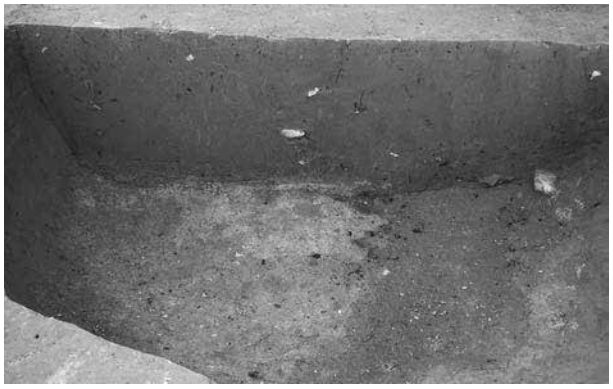


3. SK229 完掘（北から）

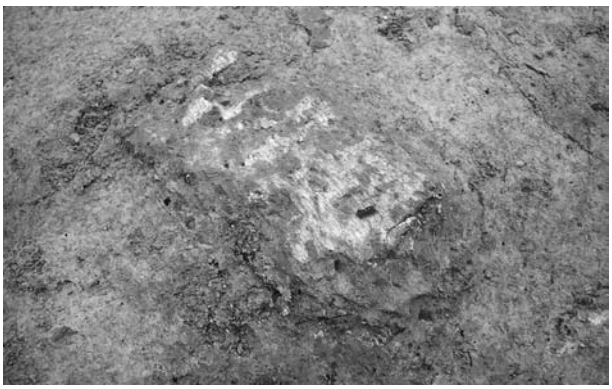


4. SK233 断面（西から）

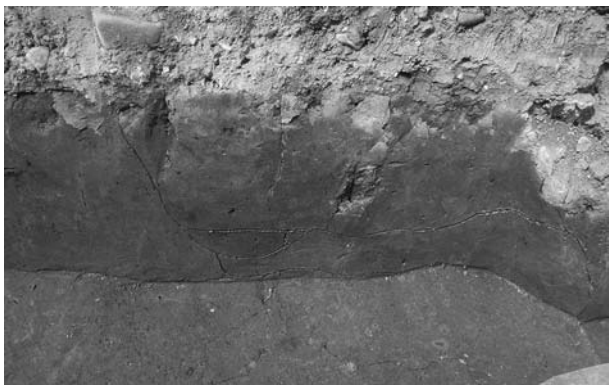
5. SK236 完掘（南西から）



6. SK236 断面（北西から）

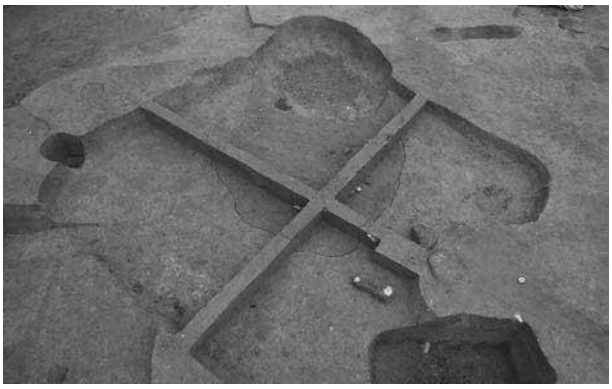


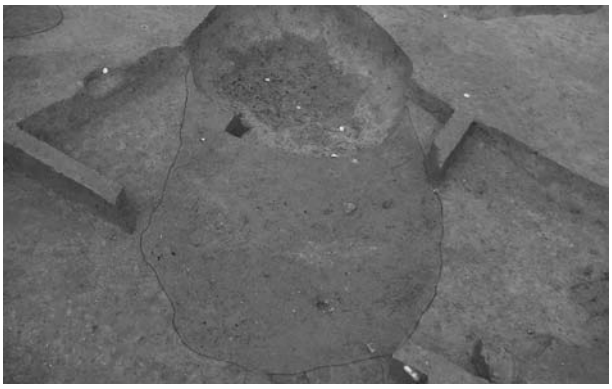
7. SK236 底面の白色物質（北西から）



8. SK238 断面（南から）

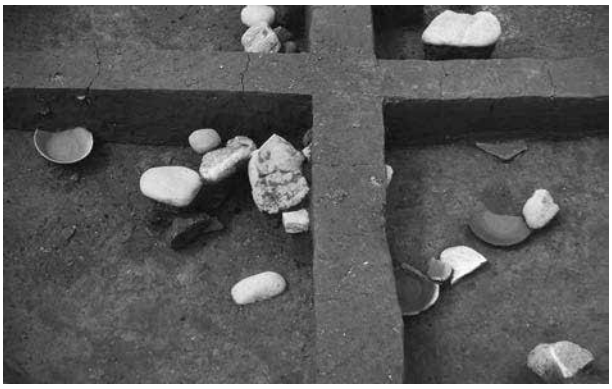
写真図版 41　SK(1)


1. SK241 検出（南東から）


2. SK241 検出（南東から）

3. SK241 断面（西から）

4. 遺物出土状況（南西から）


5. 遺物出土状況（東から）

6. 遺物出土状況（北西から）

7. 遺物出土状況（南東から）

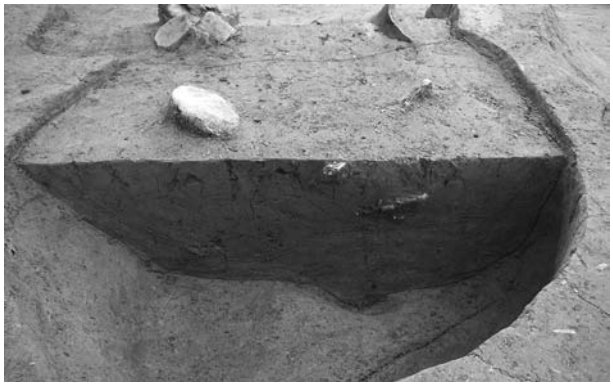
8. 完掘（南から）

写真図版 42　SK(2)

1. P91 断面（北東から）(2)

2. P239 断面（南西から）

3. P248 断面（南から）



4. P297 断面（北から）

5. P299 断面（南から）

6. P299 土器（C-199）出土状況（南から）

7. P320（南から）

8. P416 断面（南から）

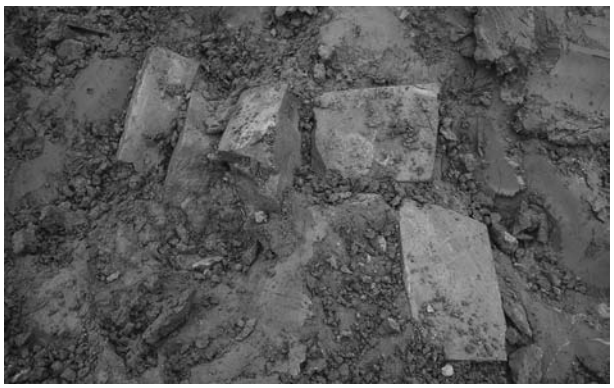
写真図版 43　ﾋﾟｯﾄ

1. SK249・250 便槽遺構（北から）

2. SK249 便槽遺構断面（北から）

3. SK249 便槽遺構（北から）

4. SK250 便槽遺構（北から）



5. 西区赤レンガ出土状況（東から）

6. 作業風景（西から）

7. 作業風景（西から）

8. 作業風景（南から）

写真図版 44　その他の遺構他

1
第 13 図 1

2
第 13 図 2

3
第 13 図 3

4
第 15 図 1

5
第 15 図 2

6
第 15 図 3

7
第 15 図 4

8
第 15 図 5

9
第 15 図 7

10
第 15 図 6

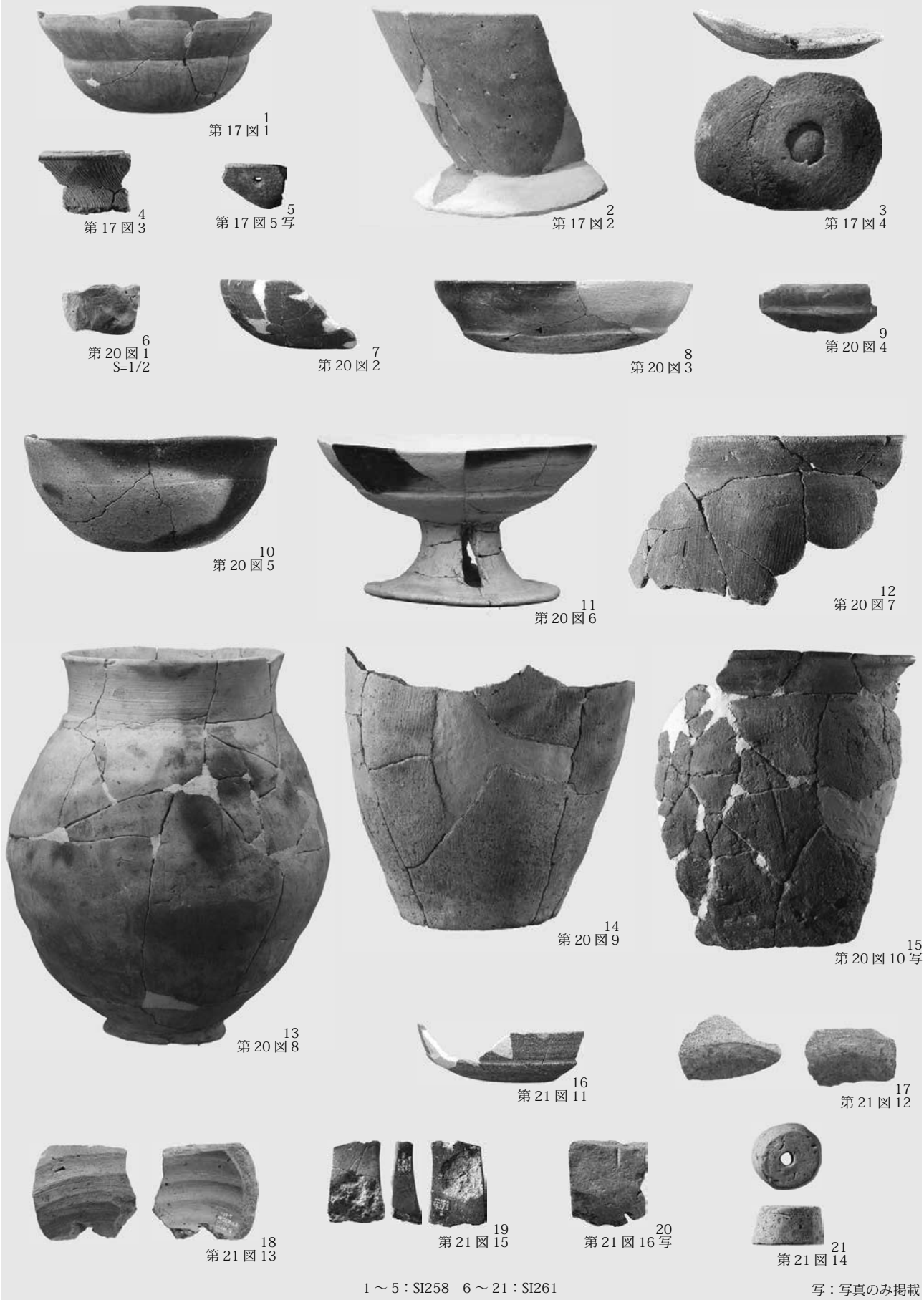
11
第 15 図 8

12
第 15 図 9

13
第 15 図 10

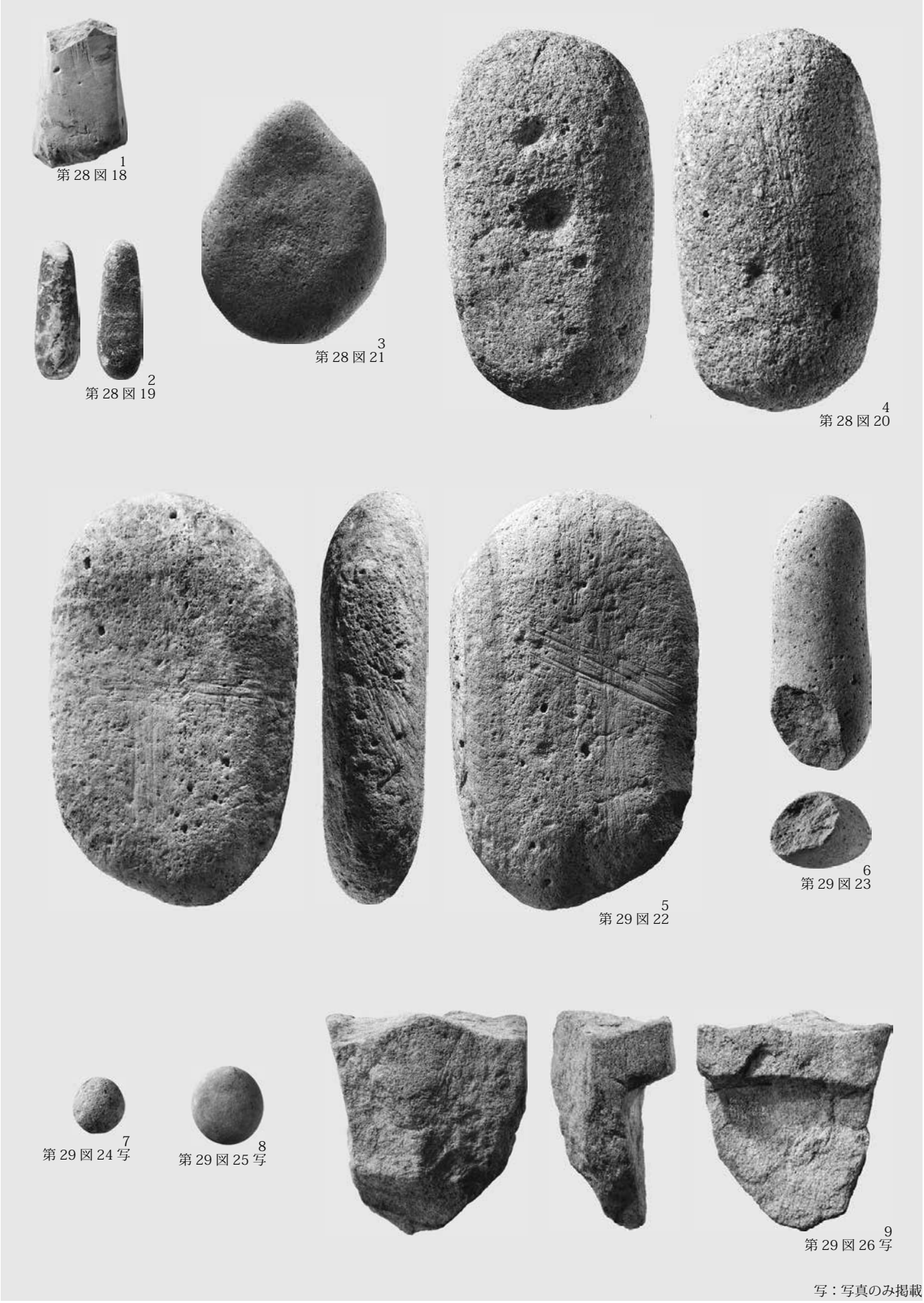
1 ～ 3：SI256　4 ～ 13：SI257

写真図版 45　SI256・257 竪穴住居跡出土遺物　S=1/3

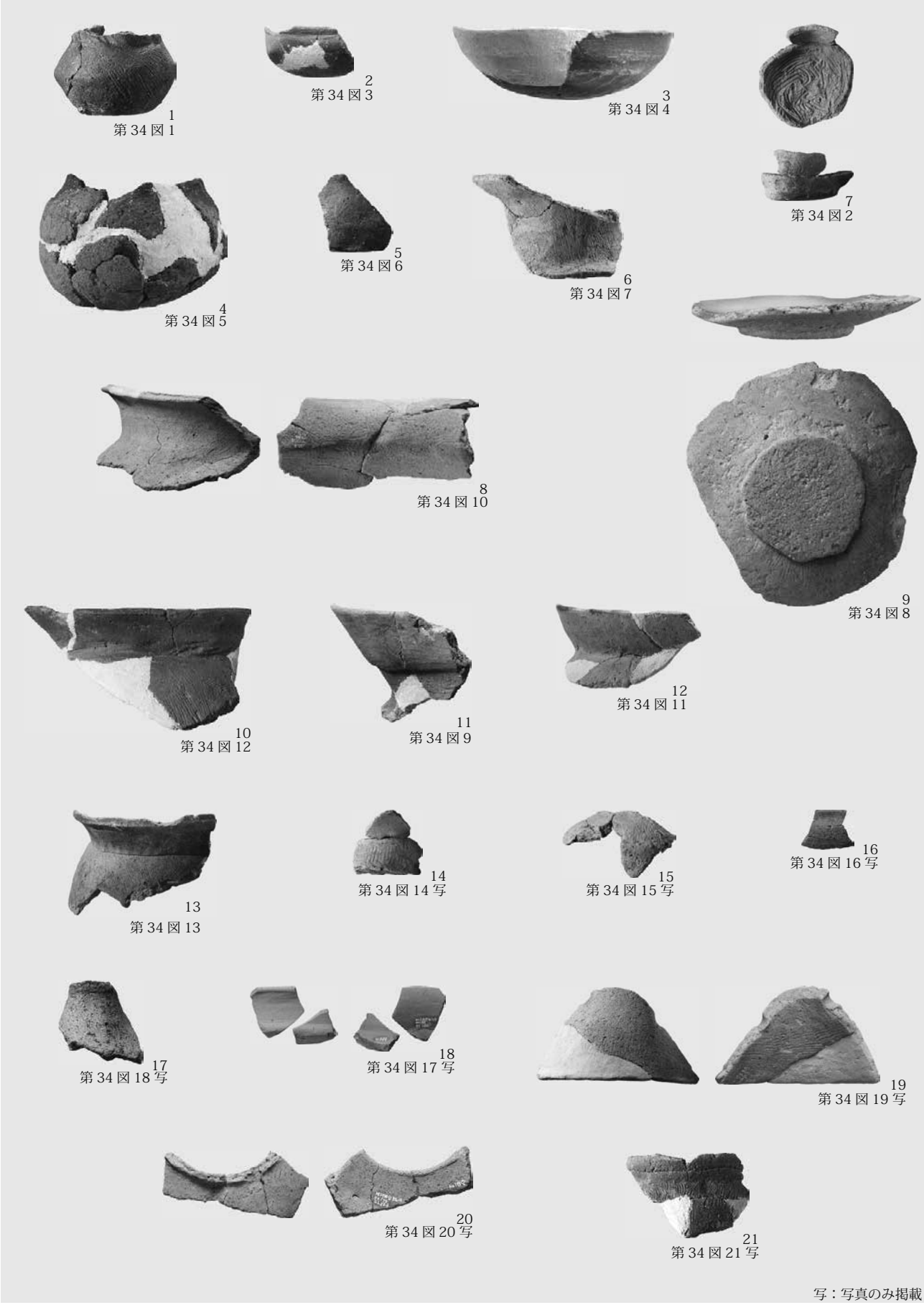


写真図版 46　SI258・261 竪穴住居跡出土遺物　S=1/3

写真図版 47　SI262 竪穴住居跡出土遺物 (1)　S=1/3



写真図版 48　SI262 竪穴住居跡出土遺物 (2)　S=1/3



写真図版 49　SI264 竪穴住居跡出土遺物 (1)　S=1/3

1
第 34 図 22 写

2
第 34 図 23 写

3
第 35 図 24

4
第 35 図 26

5
第 35 図 25

6
第 35 図 28

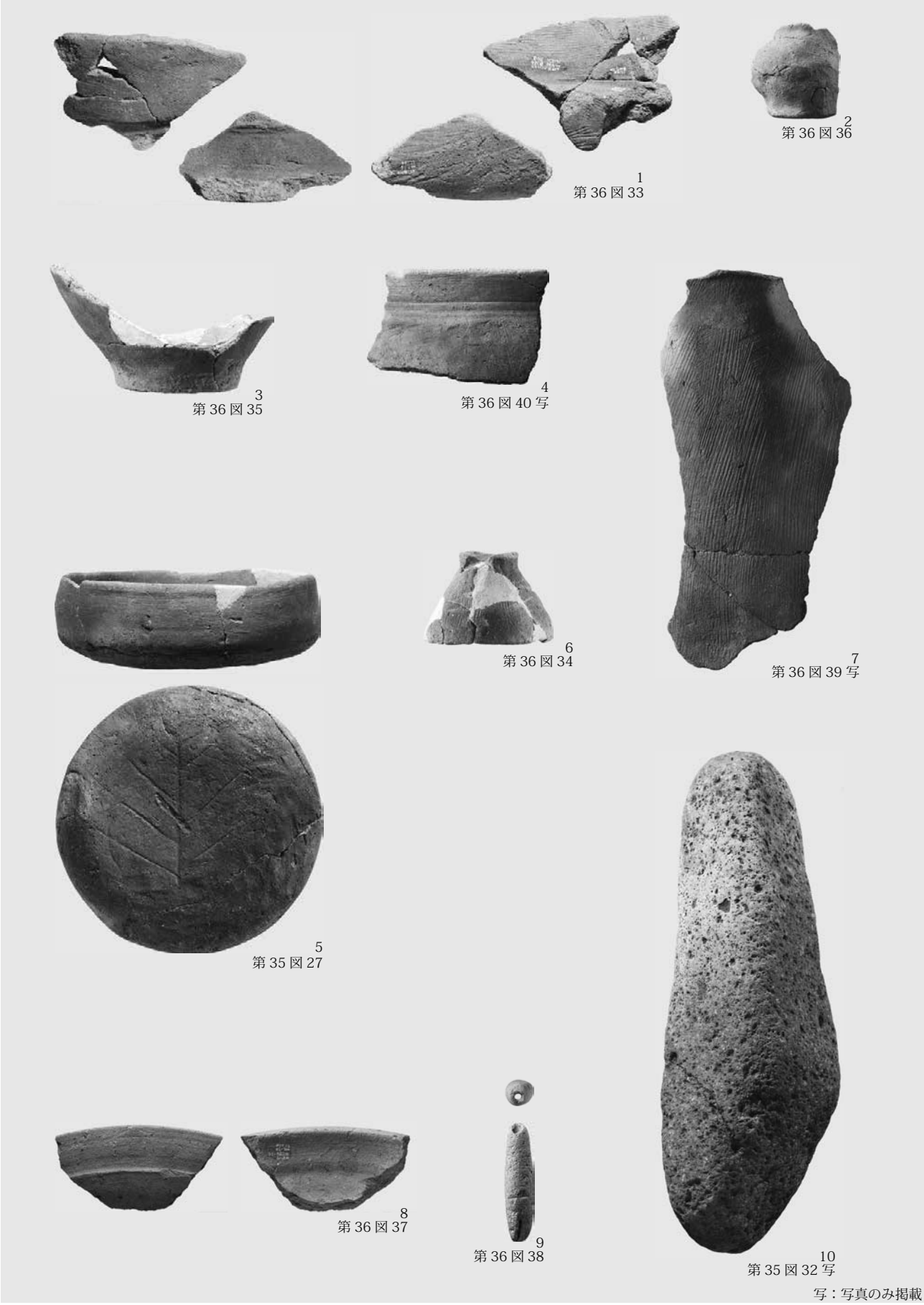
7
第 35 図 29

8
第 35 図 30

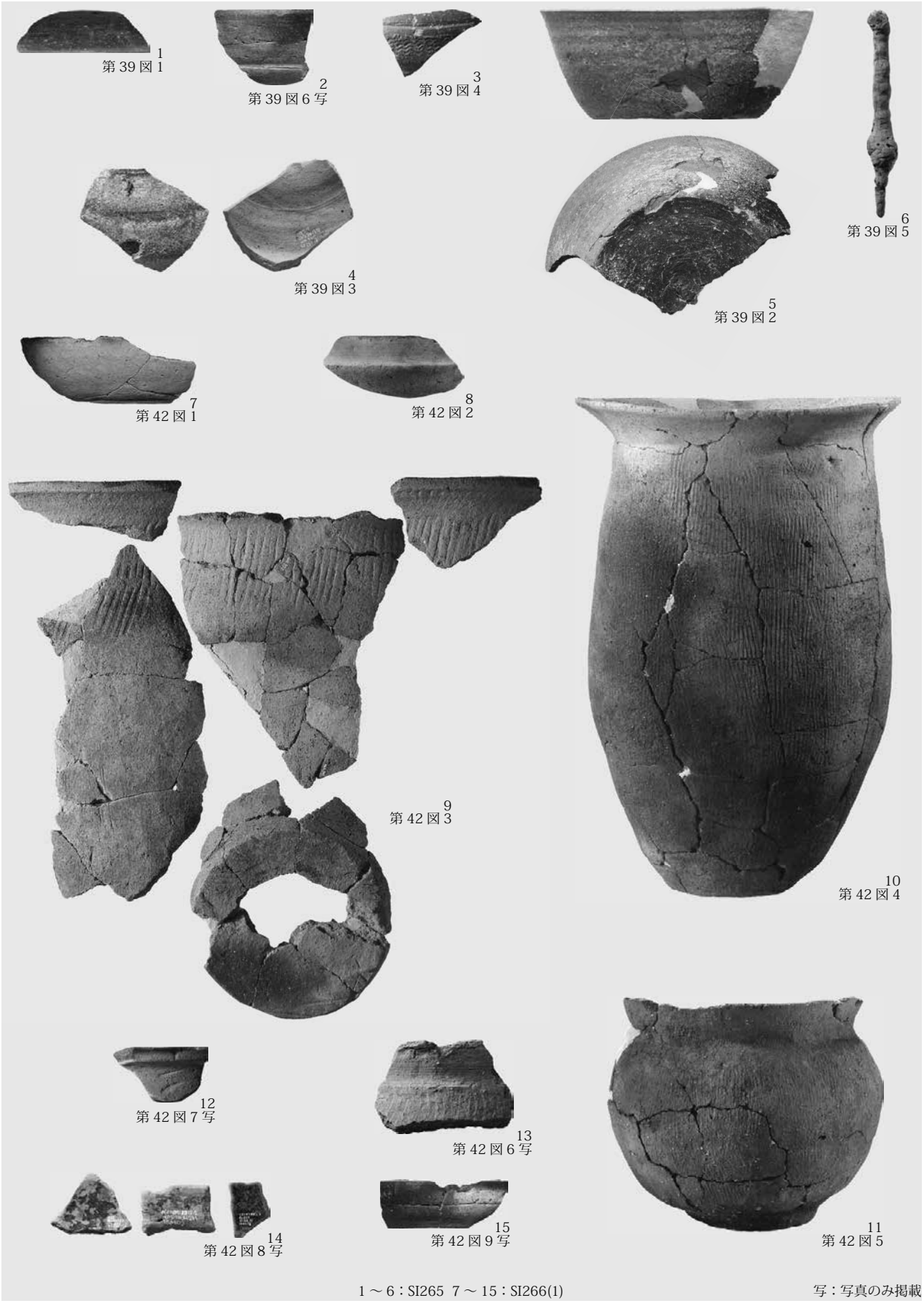
9
第 35 図 31

写：写真のみ掲載

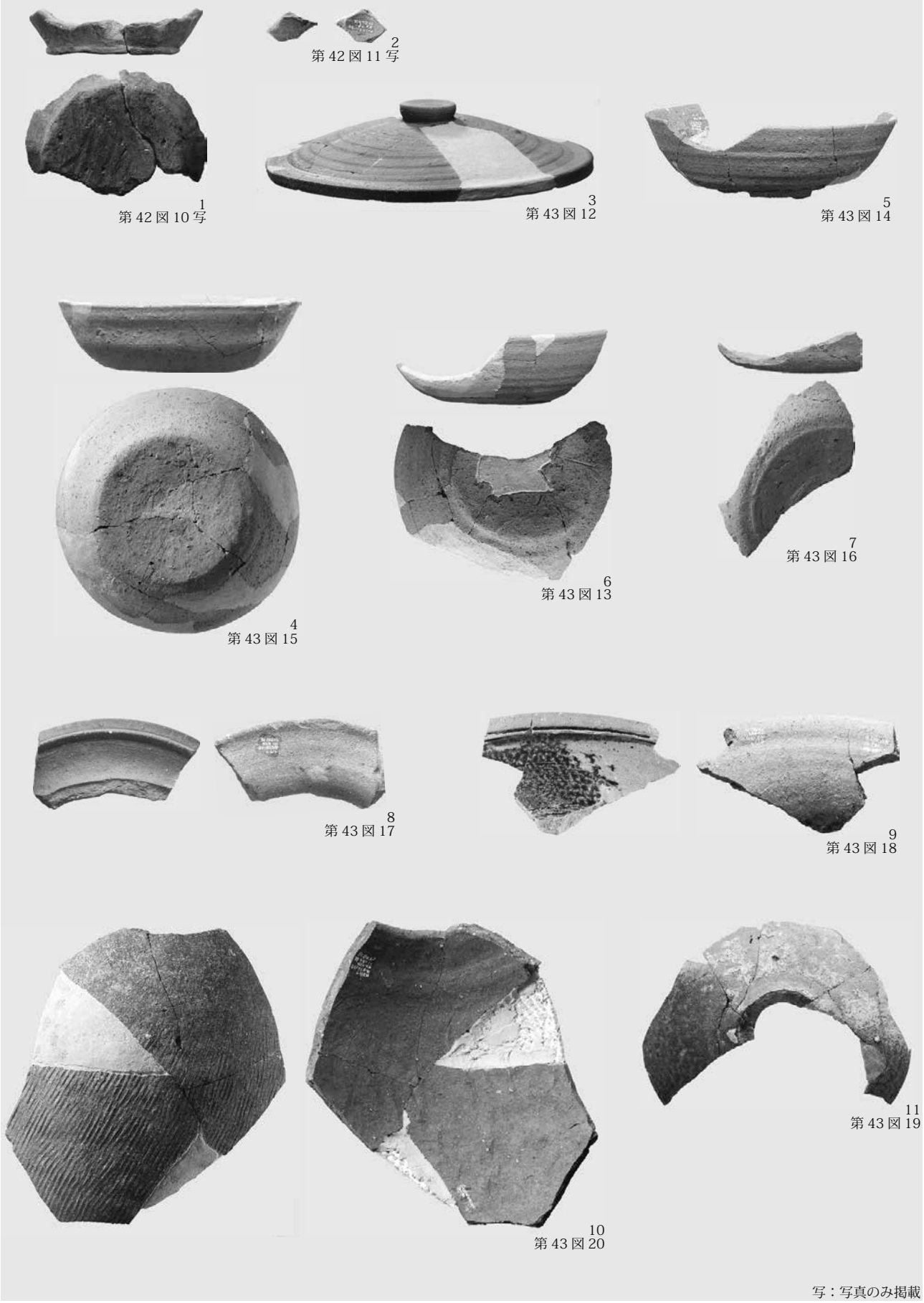
写真図版 50　SI264 竪穴住居跡出土遺物 (2)　S=1/3



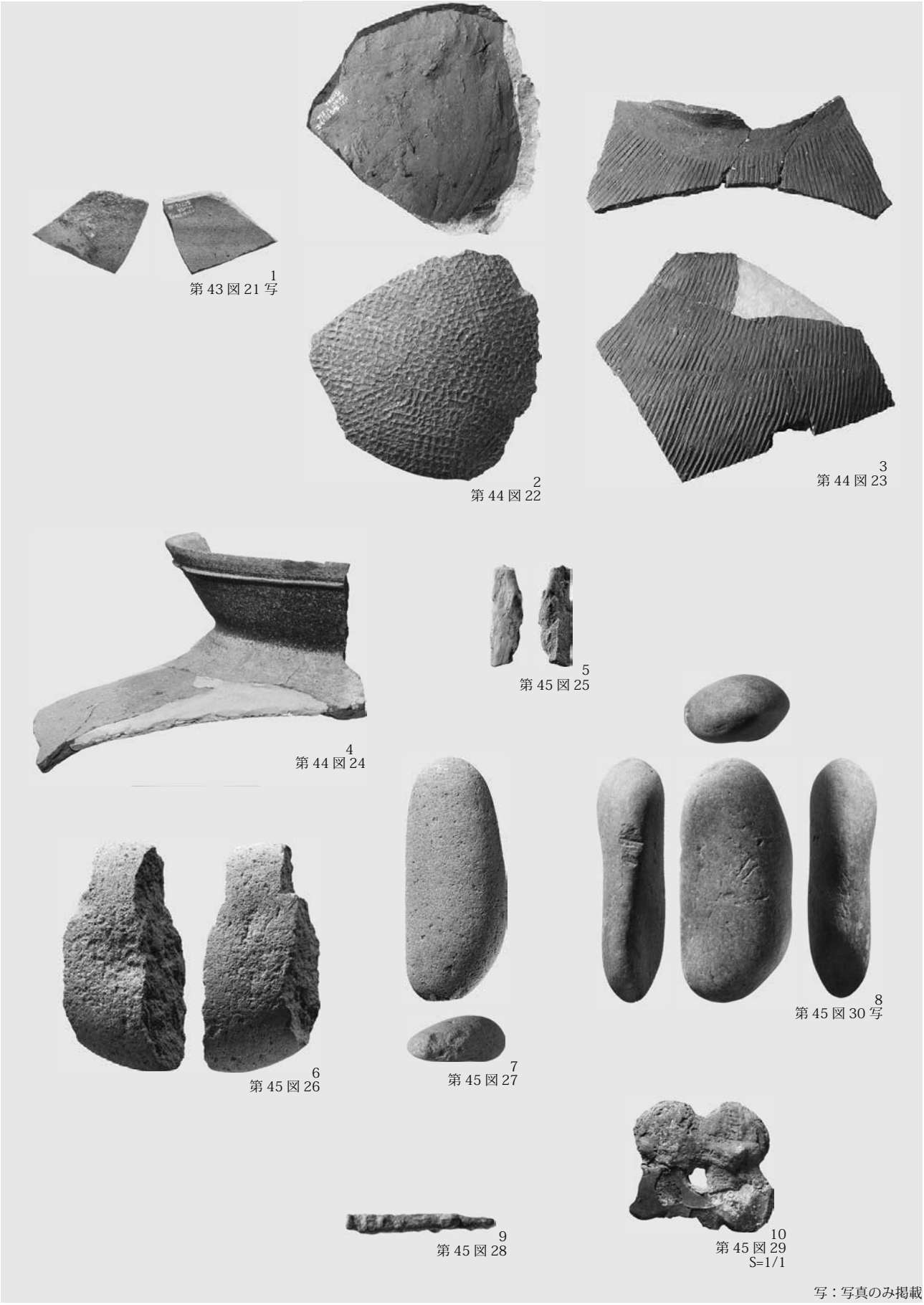
写真図版 51　SI264 竪穴住居跡出土遺物 (3)　S=1/3



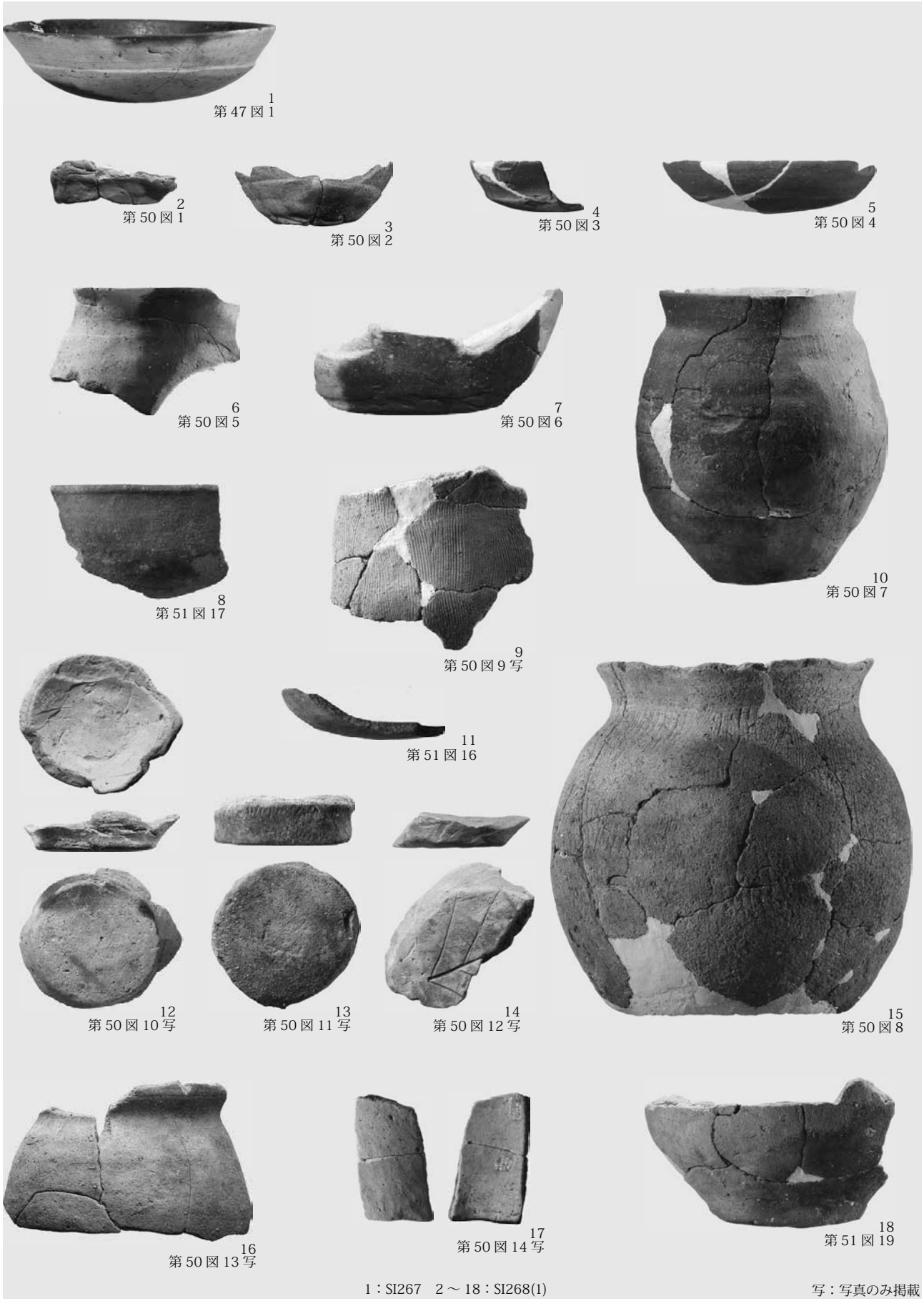
写真図版 52　SI265 竪穴住居跡・SI266 竪穴住居跡出土遺物 (1)　S=1/3



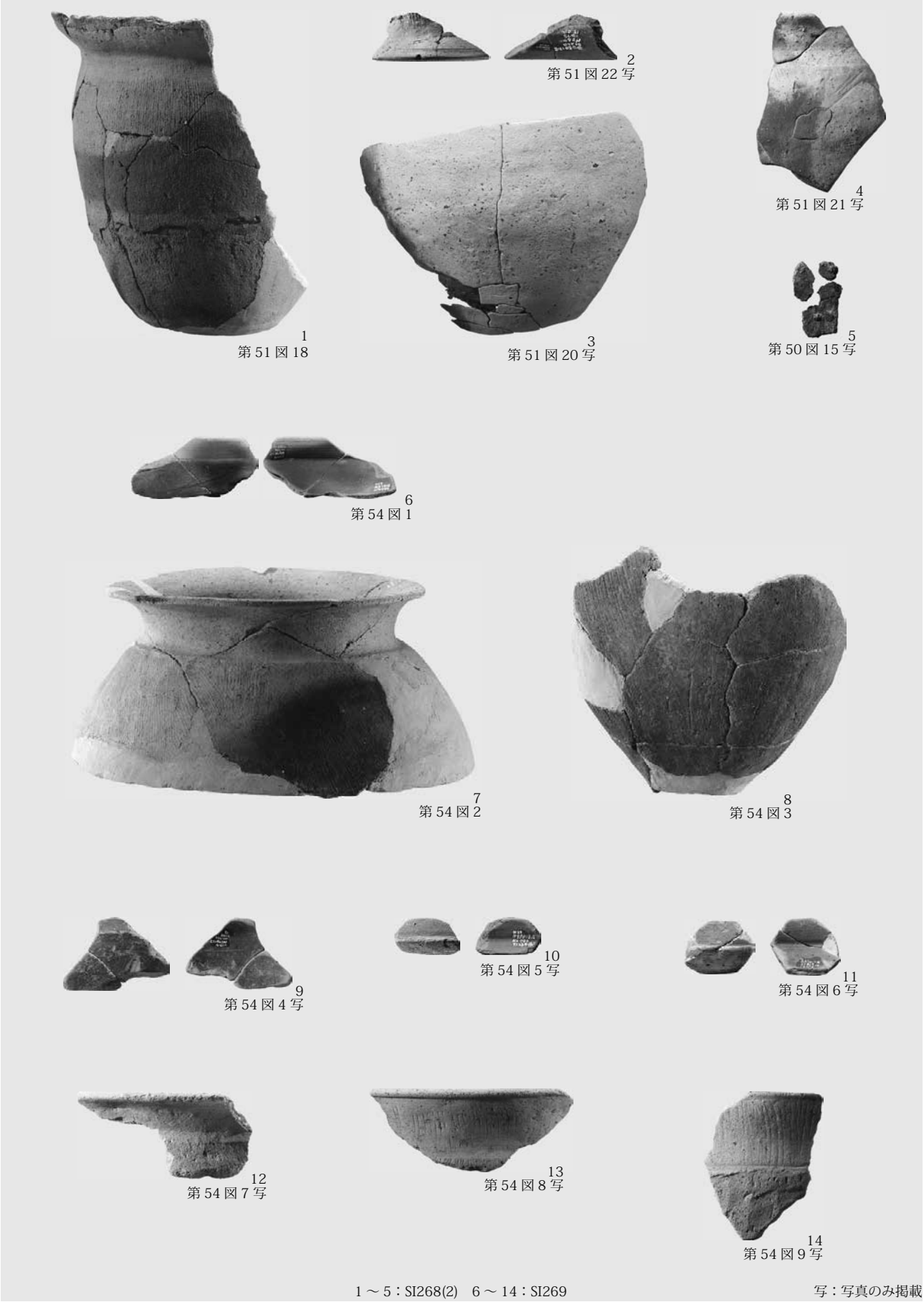
写真図版 53　SI266 竪穴住居跡出土遺物 (2)　S=1/3



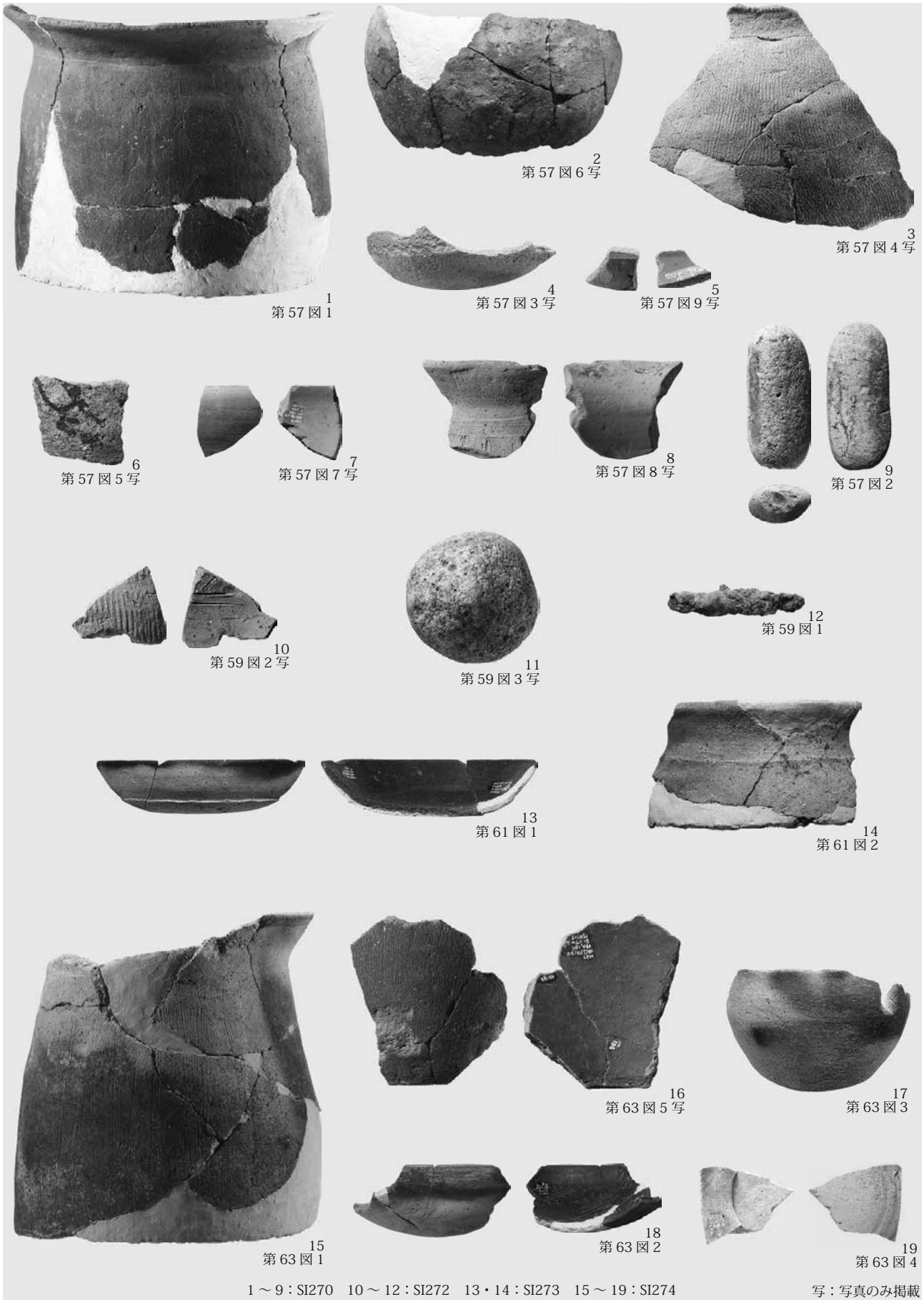
写真図版 54　SI266 竪穴住居跡出土遺物 (3)　S=1/3



写真図版 55　SI267 竪穴住居跡出土遺物・SI268 竪穴住居跡出土遺物 (1)　S=1/3

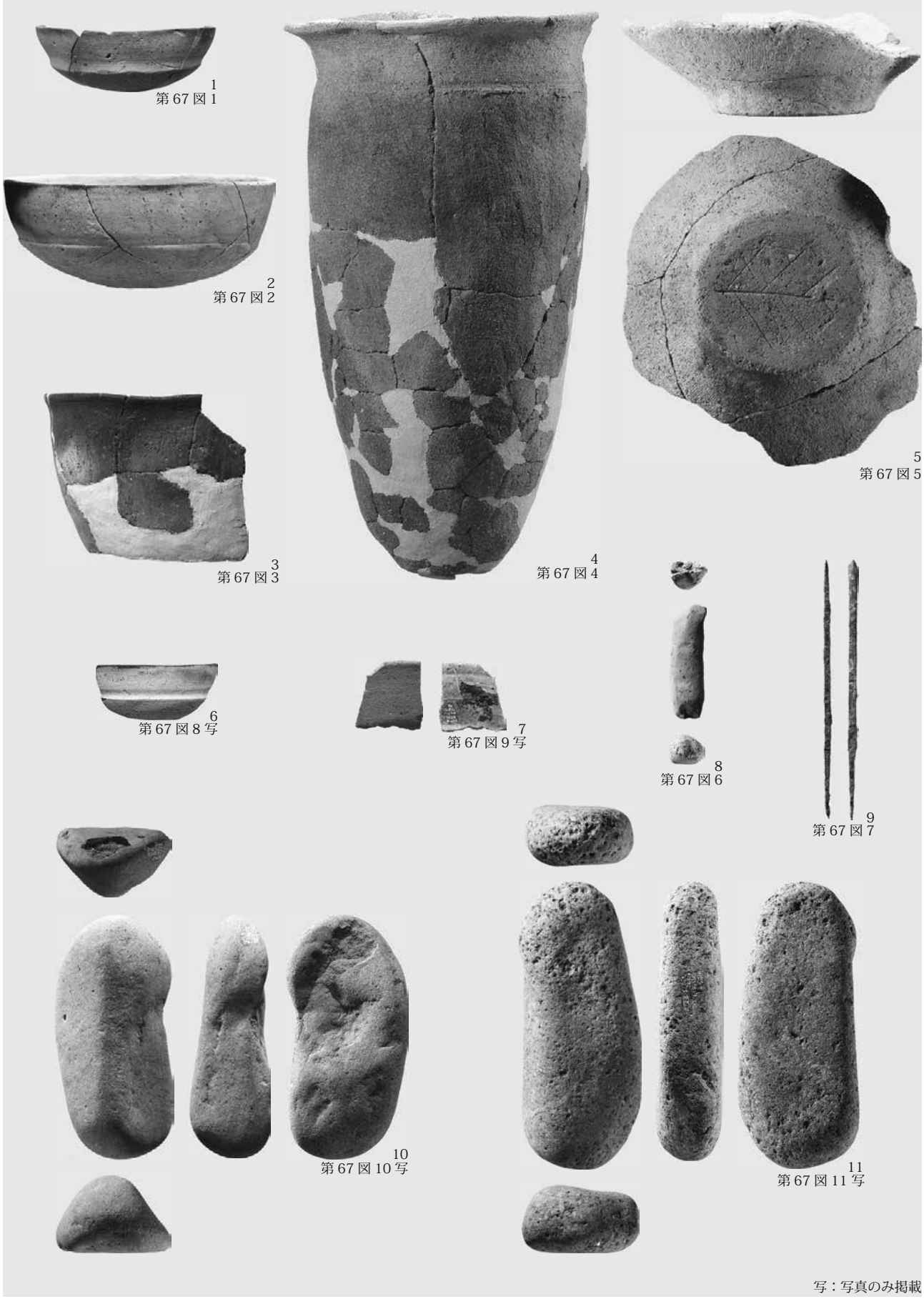


写真図版 56　SI268 竪穴住居跡出土遺物 (2)・SI269 竪穴住居跡出土遺物　S=1/3

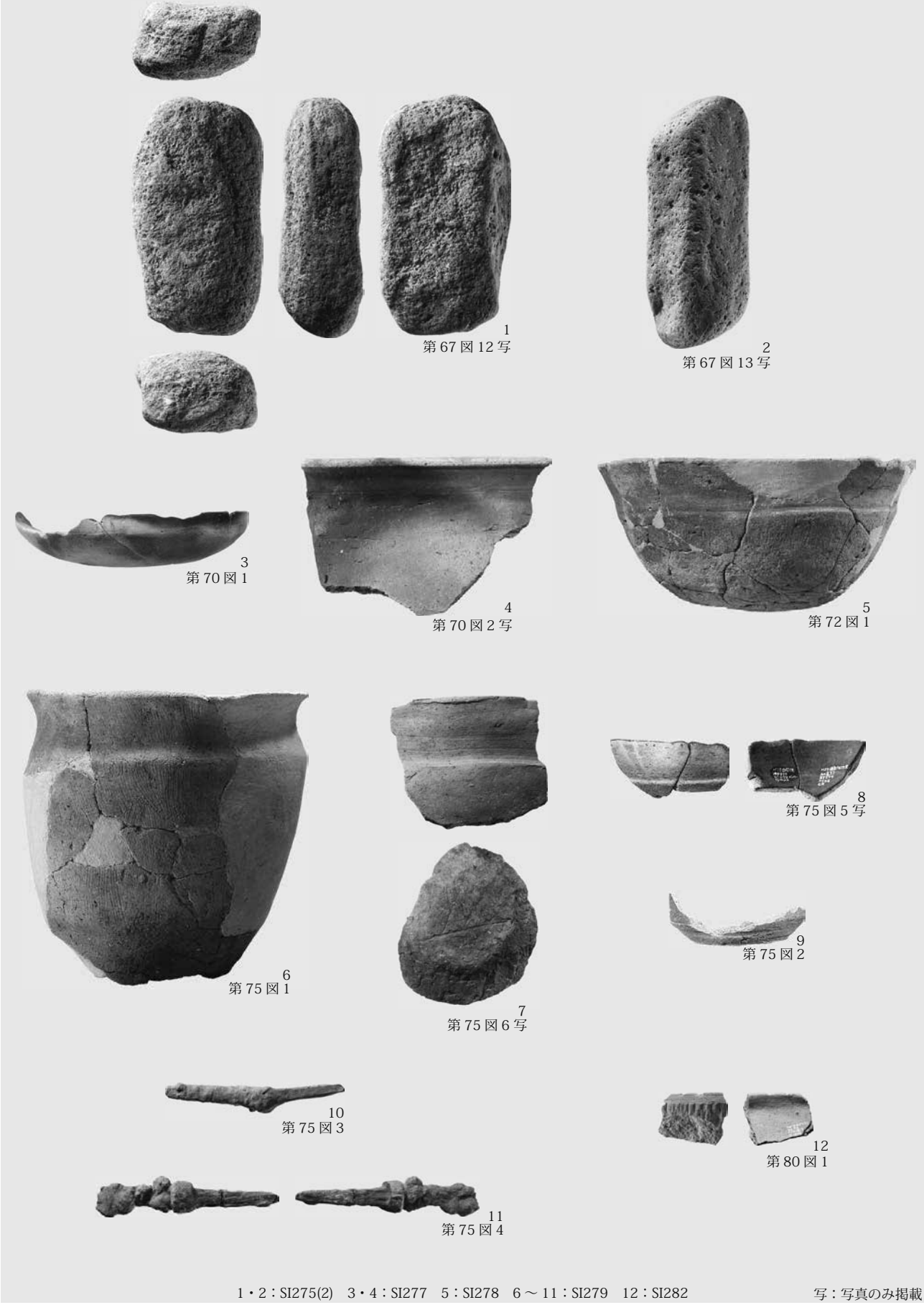


1～9：SI270　10～12：SI272　13・14：SI273　15～19：SI274　　写：写真のみ掲載

写真図版 57　SI270・272～274 竪穴住居跡出土遺物　S=1/3

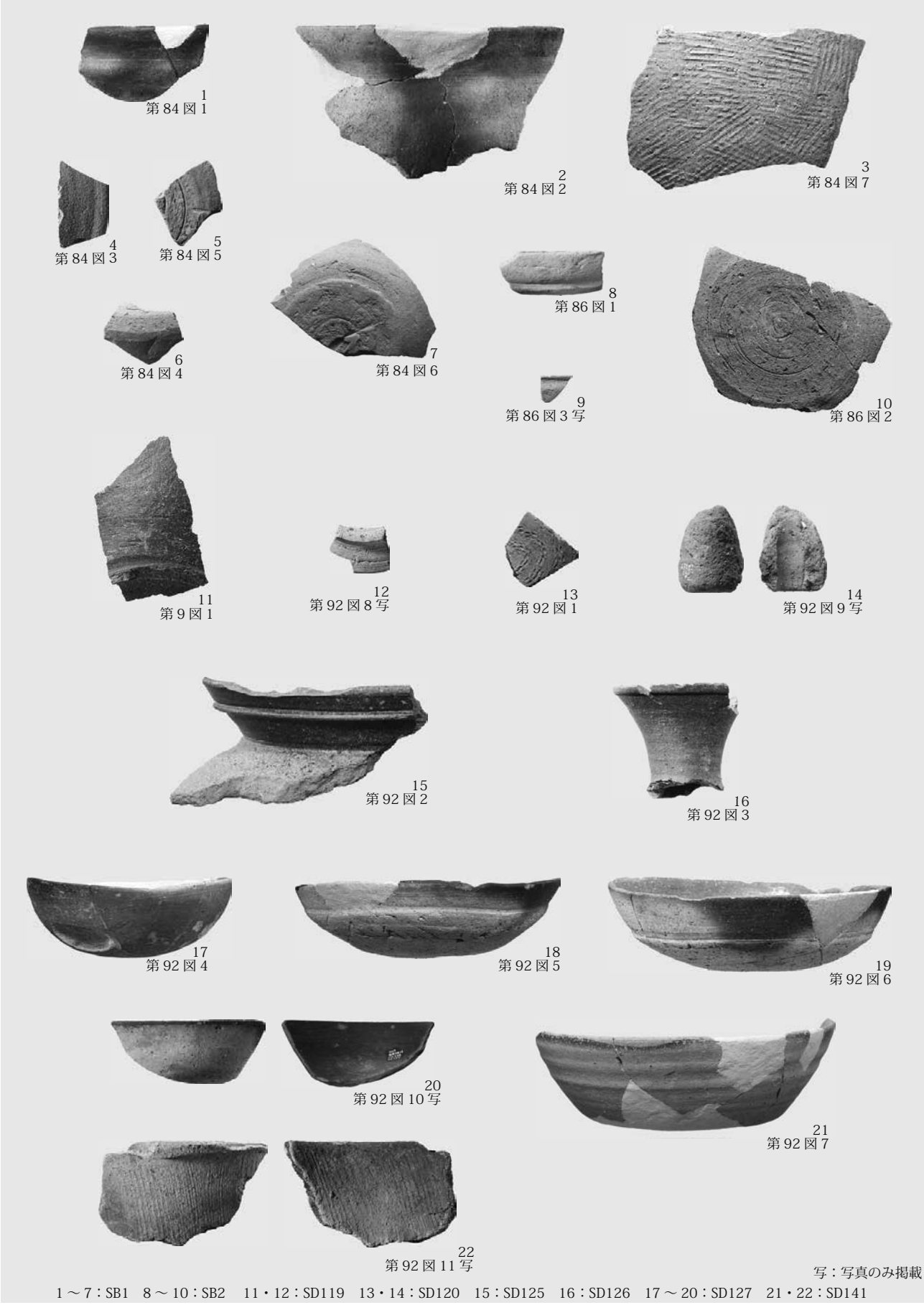


写真図版 58　SI275 竪穴住居跡出土遺物 (1)　S=1/3



1・2：SI275(2)　3・4：SI277　5：SI278　6～11：SI279　12：SI282　　写：写真のみ掲載

写真図版 59　SI275(2)・277～279・282 竪穴住居跡出土遺物　S=1/3

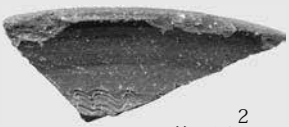


写：写真のみ掲載

1～7：SB1　8～10：SB2　11・12：SD119　13・14：SD120　15：SD125　16：SD126　17～20：SD127　21・22：SD141

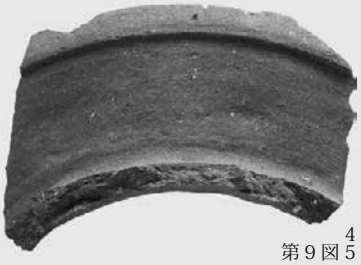
写真図版 60　掘立柱建物跡出土遺物　溝跡出土遺物　S=1/3

1
第９図２



2
第９図３

3
第９図４



4
第９図５

5
第９図 11 写

6
第９図６

7
第９図７

8
第９図８

9
第９図９

10
第９図 10

11
第９図 12 写

12
第９図 13 写
S=1/1

1 ～ 12：SD132　　写：写真のみ掲載

写真図版 61　SD132 溝跡出土遺物　S=1/3

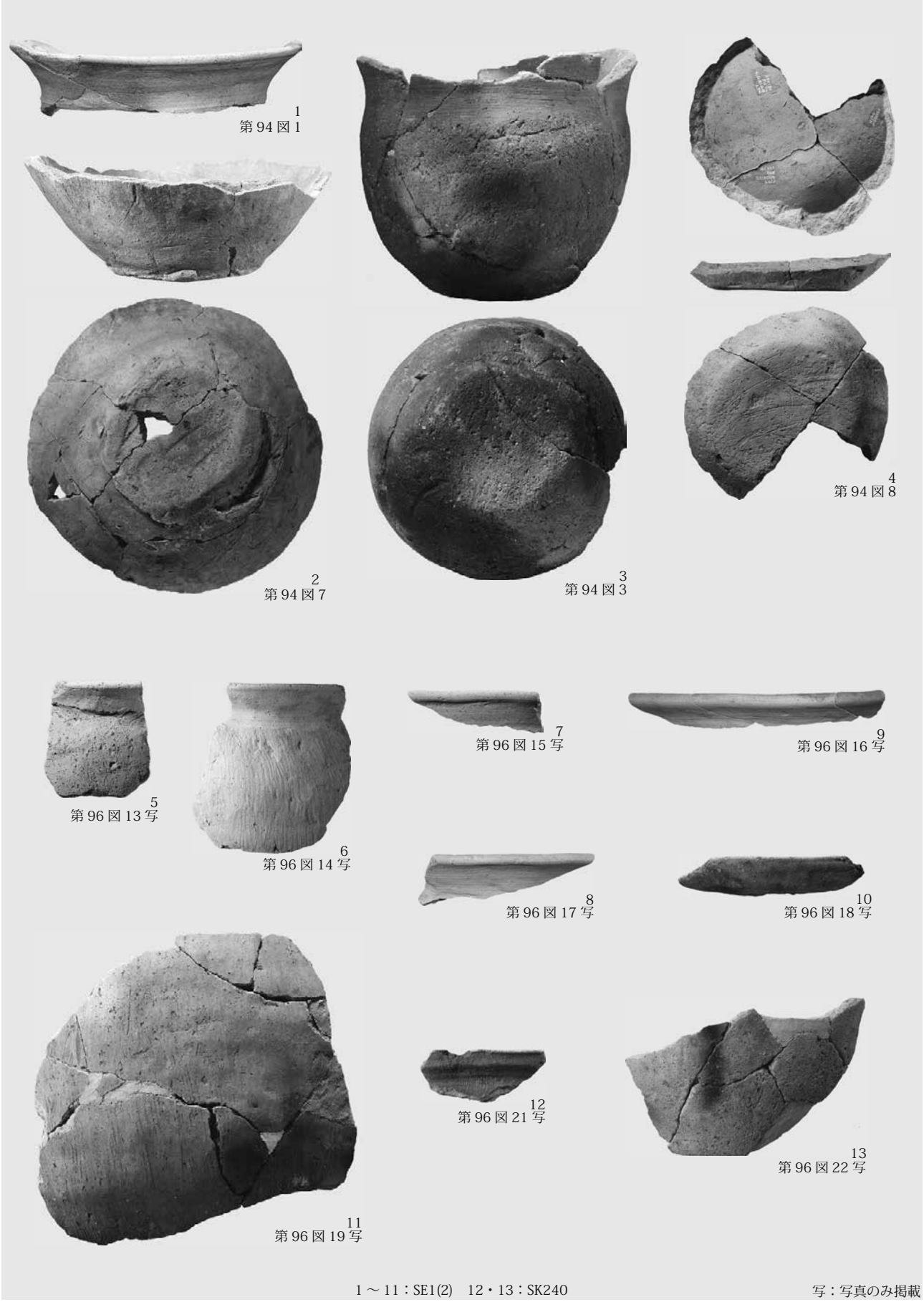
1
第 94 図 4

2
第 94 図 6

3
第 94 図 2

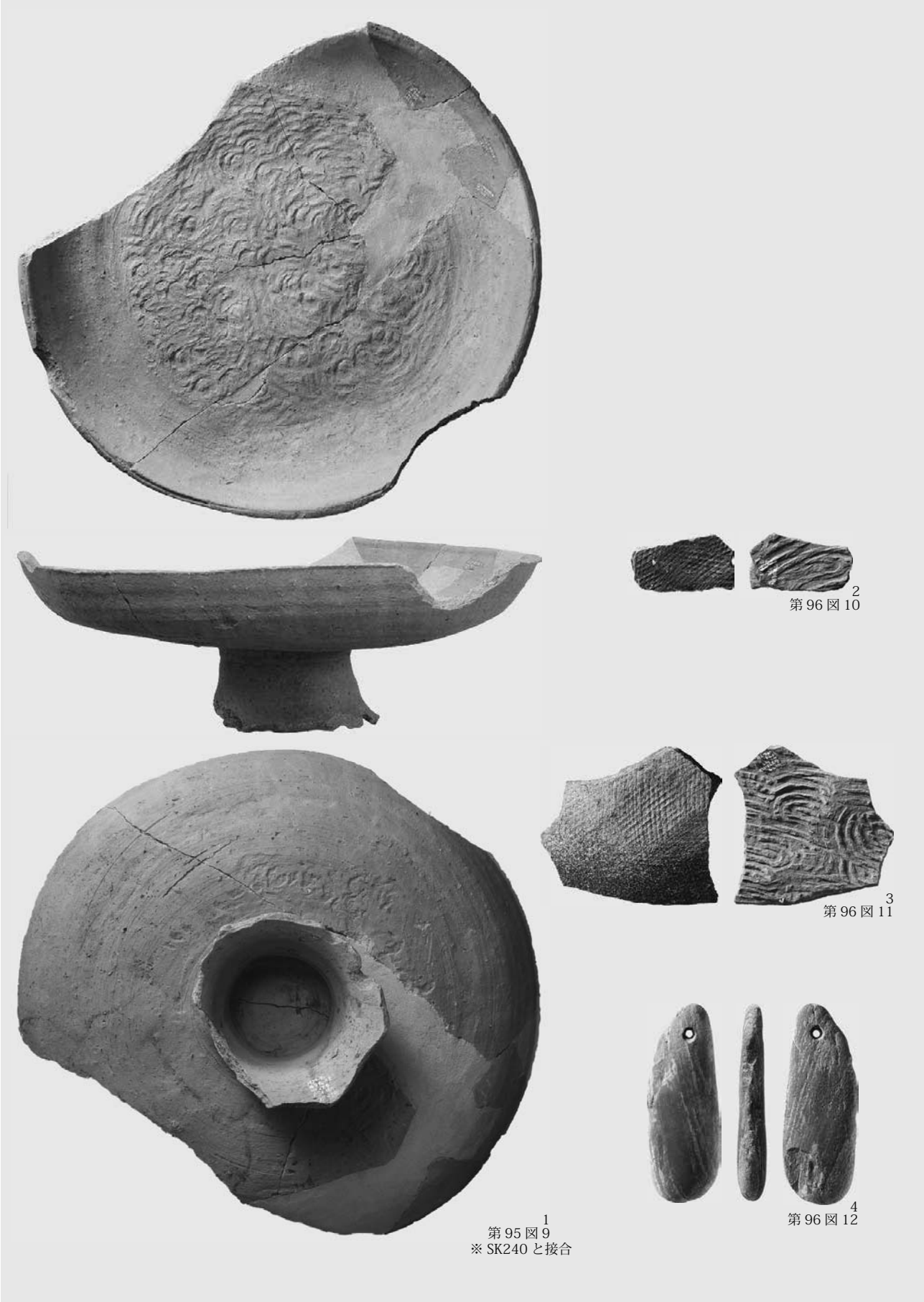
4
第 94 図 5

写真図版 62　　SE1 井戸跡出土遺物 (1)　S=1/3

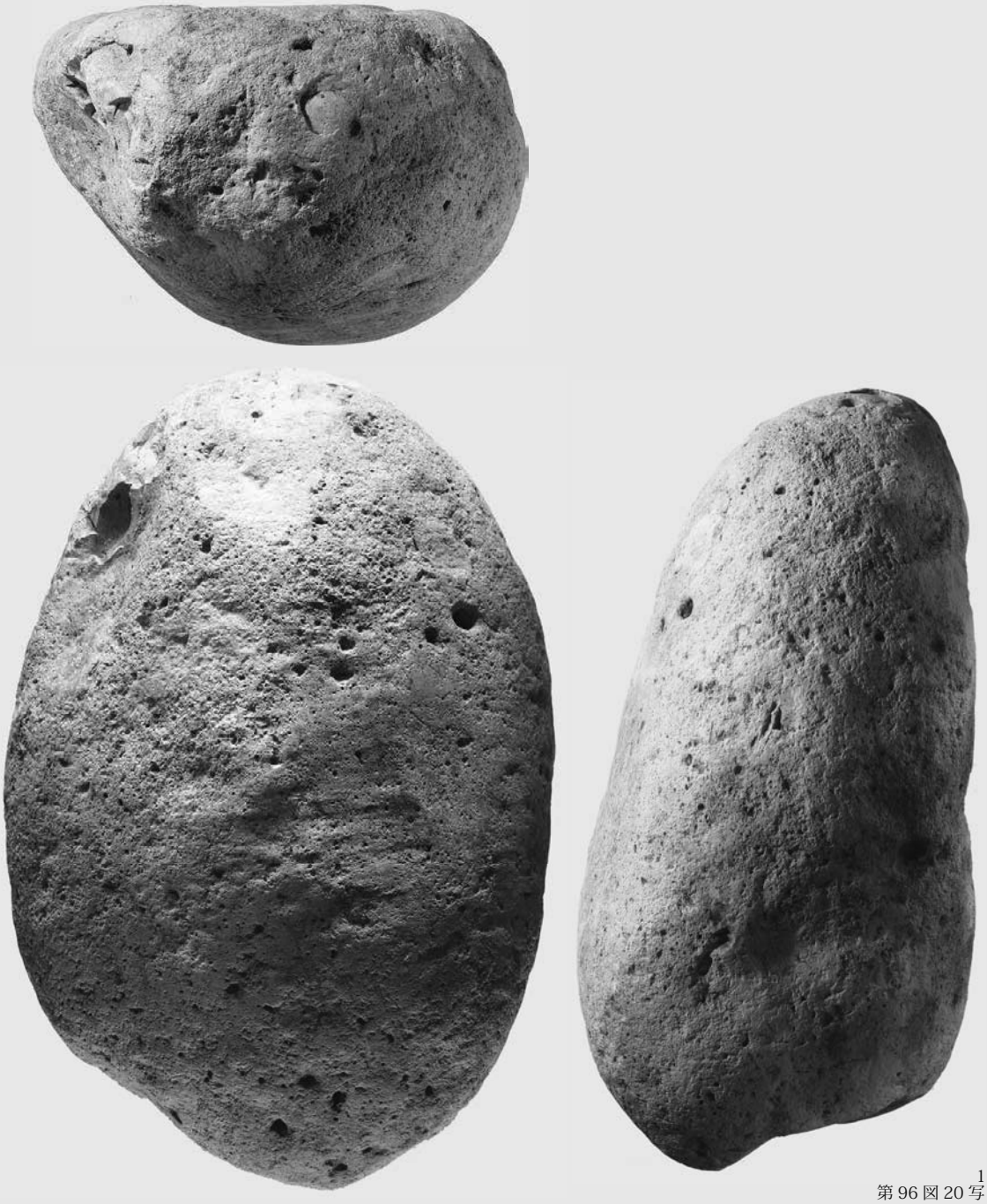


1 ～ 11：SE1(2)　12・13：SK240　　写：写真のみ掲載

写真図版 63　SE1 井戸跡出土遺物 (2)・SK240 土坑出土遺物　S=1/3



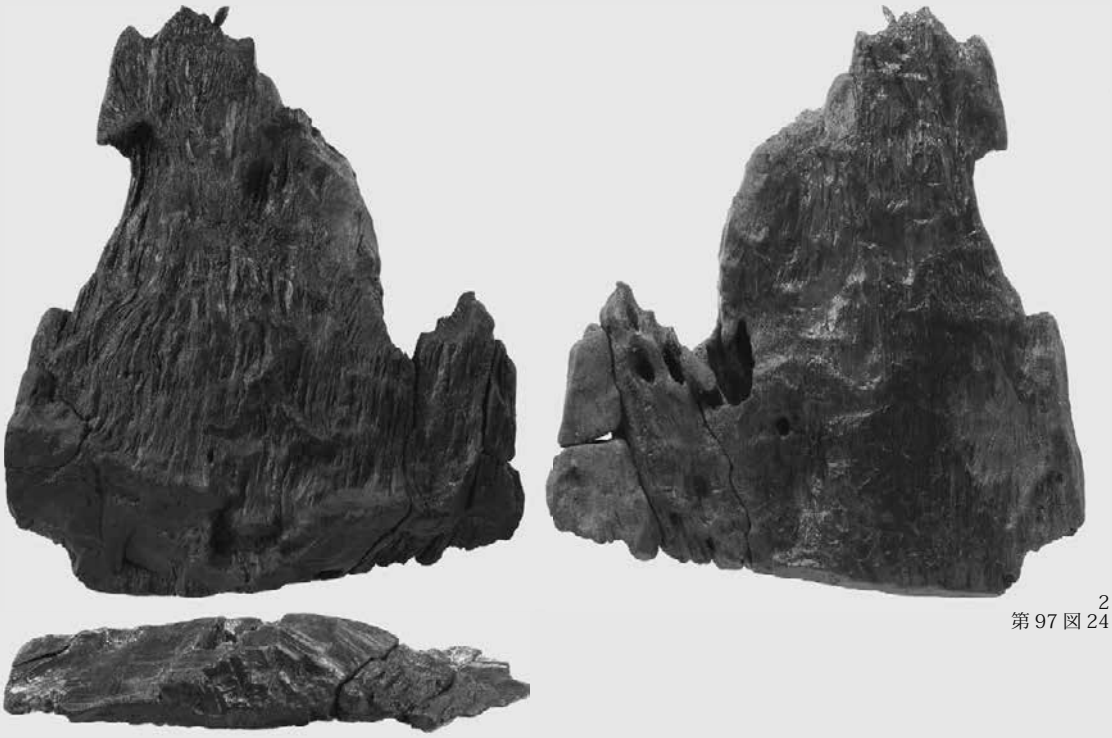
写真図版 64　SE1 井戸跡出土遺物 (3)　S=1/3



写：写真のみ掲載

写真図版 65　SE1 井戸跡出土遺物 (4)　S=1/3

1
第 97 図 23



2
第 97 図 24

写真図版 66　SE1 井戸跡出土遺物 (5)　S=1/6

1
第 98 図 25

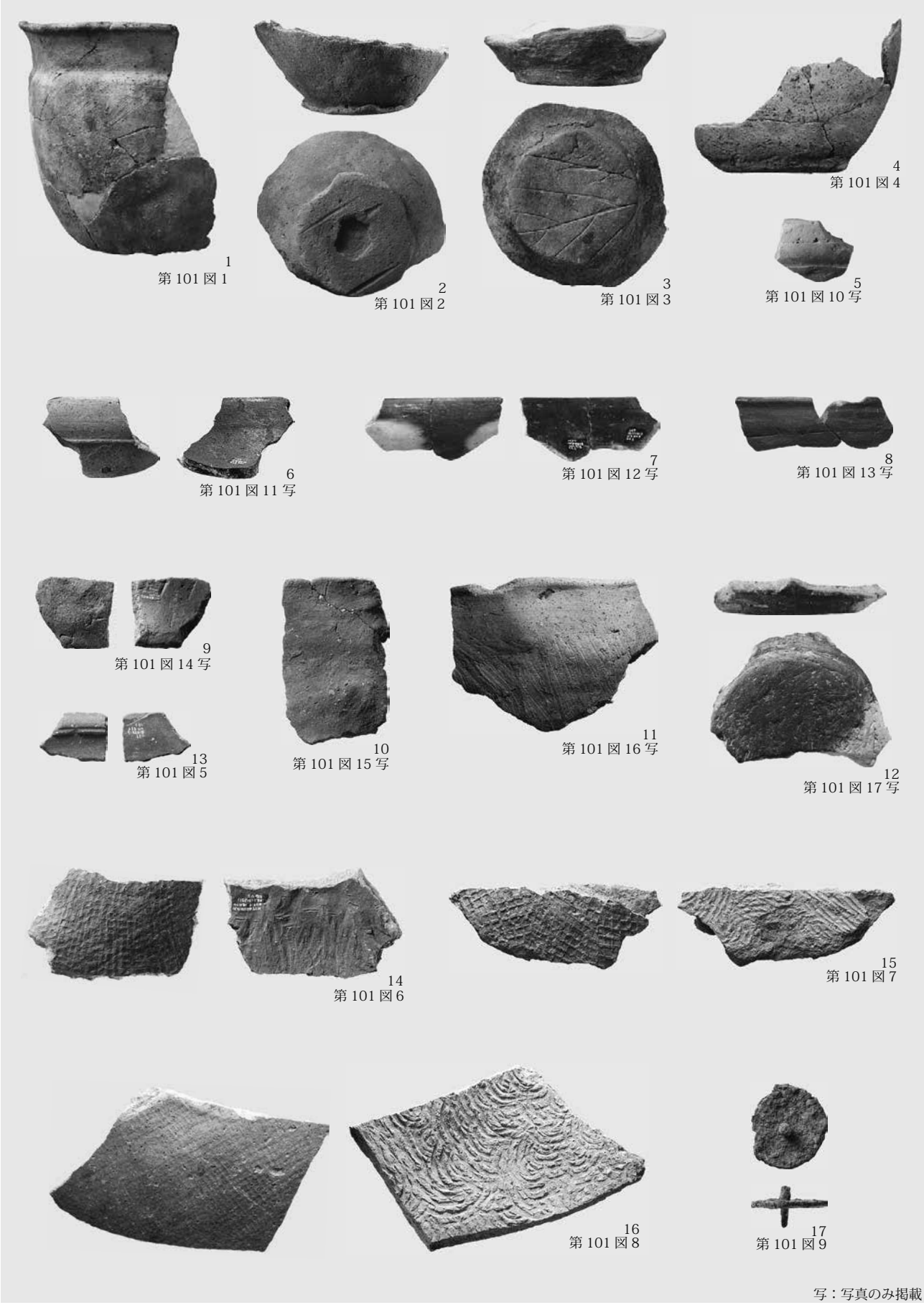
2
第 99 図 26

写真図版 67　SE1 井戸跡出土遺物 (6)　S=1/6

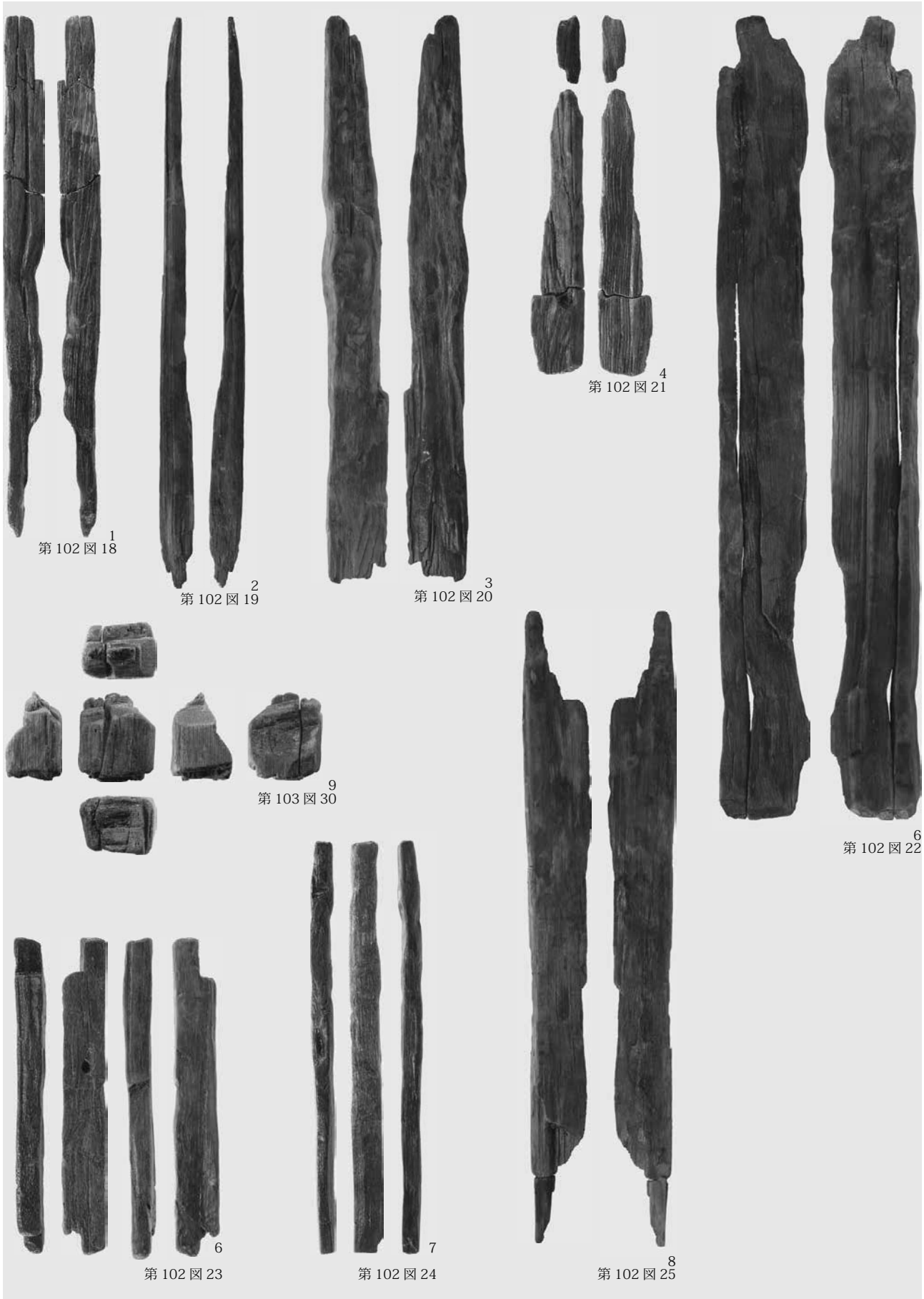
第 98 図 25・第 99 図 26 1

第 98 図 25・第 99 図 26 2

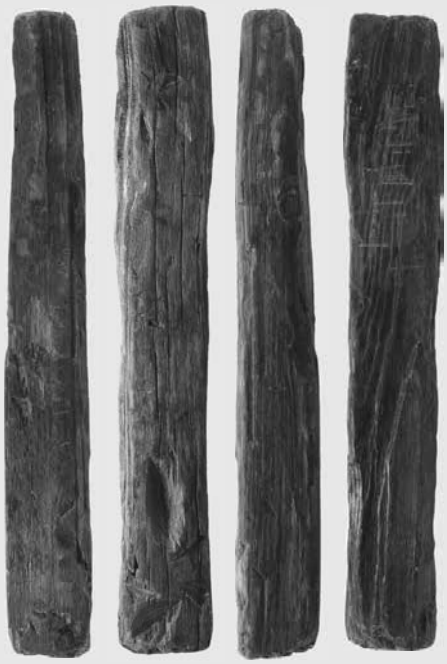
写真図版 68　SE1 井戸跡出土遺物 (7)　S=1/6



写真図版 69　SE2 井戸跡出土遺物 (1)　S=1/3



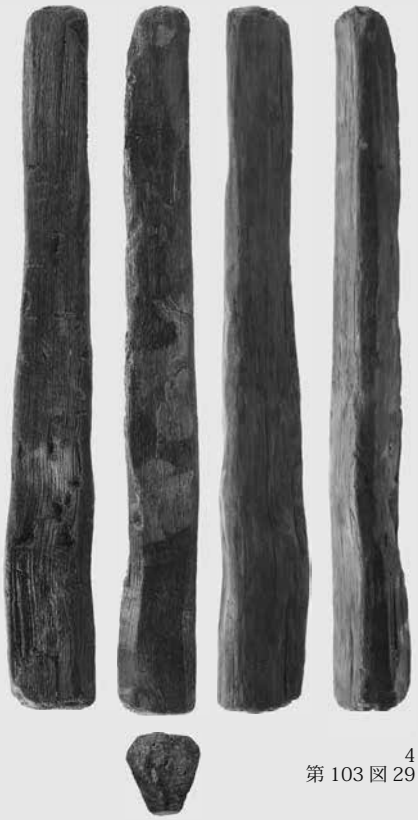
写真図版 70　SE2 井戸跡出土遺物 (2)　S=1/6



1
第 103 図 26

2
第 103 図 27

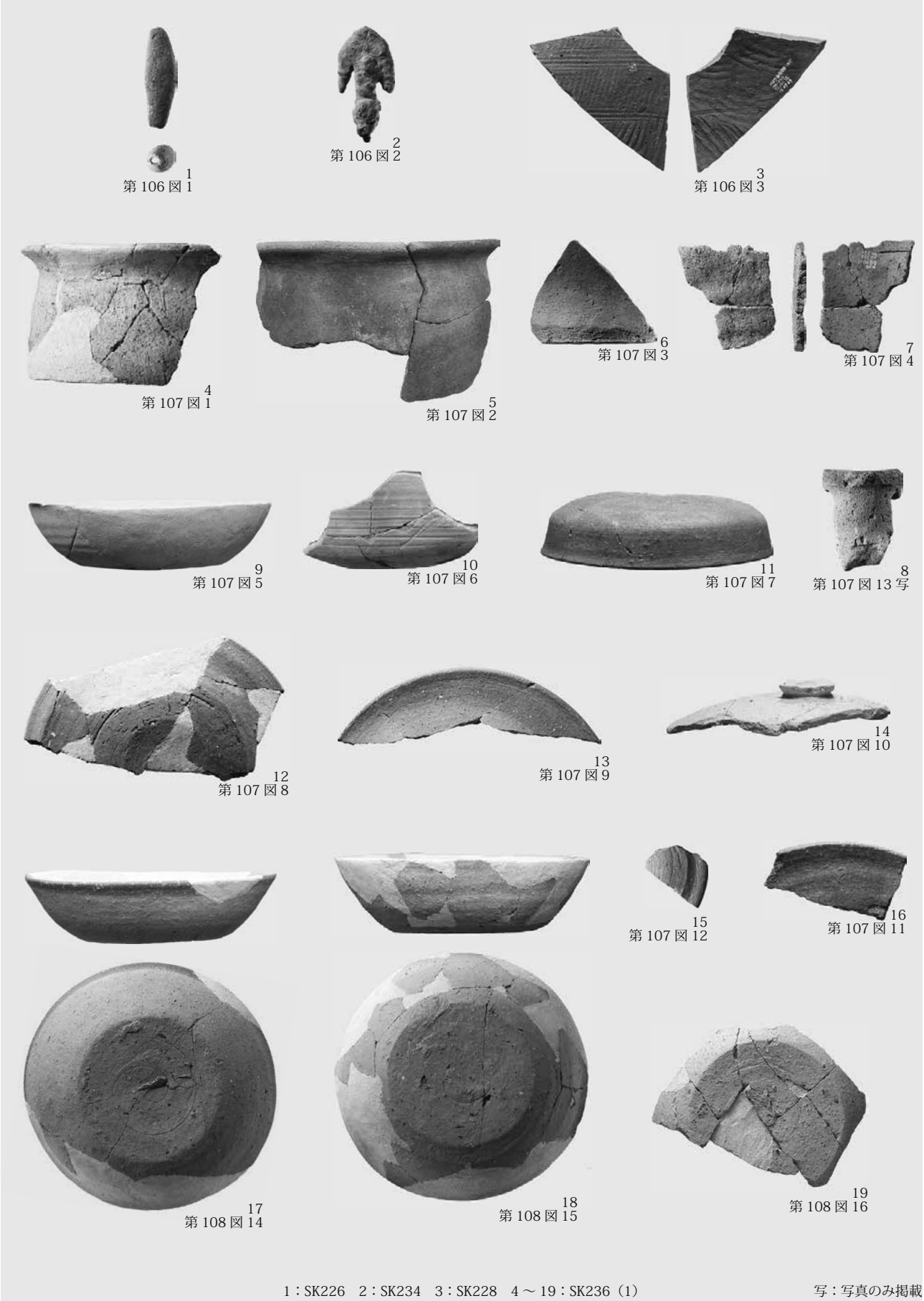
3
第 103 図 28



4
第 103 図 29

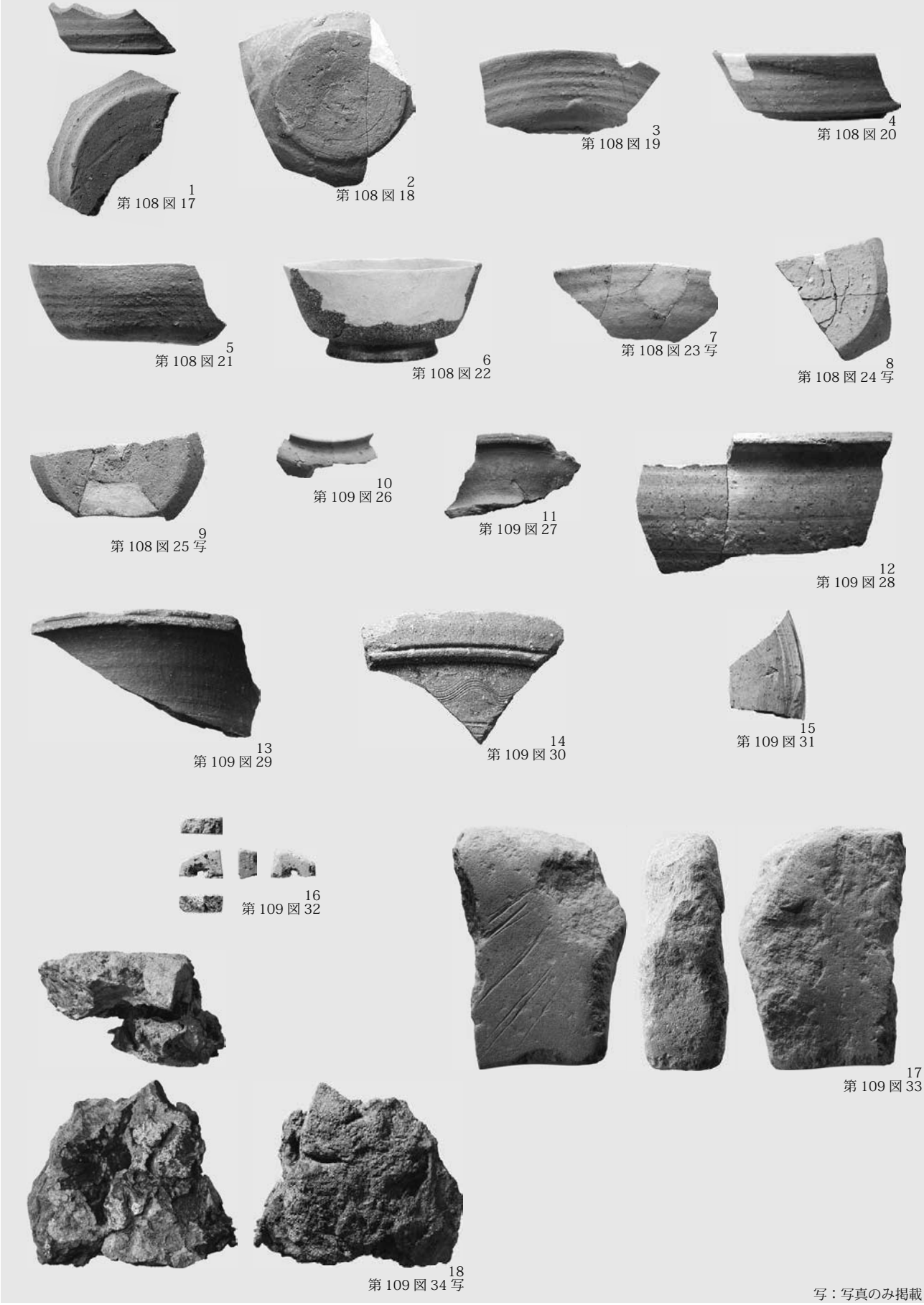
写：写真のみ掲載

写真図版 71　SE2 井戸跡出土遺物 (3)　S=1/6

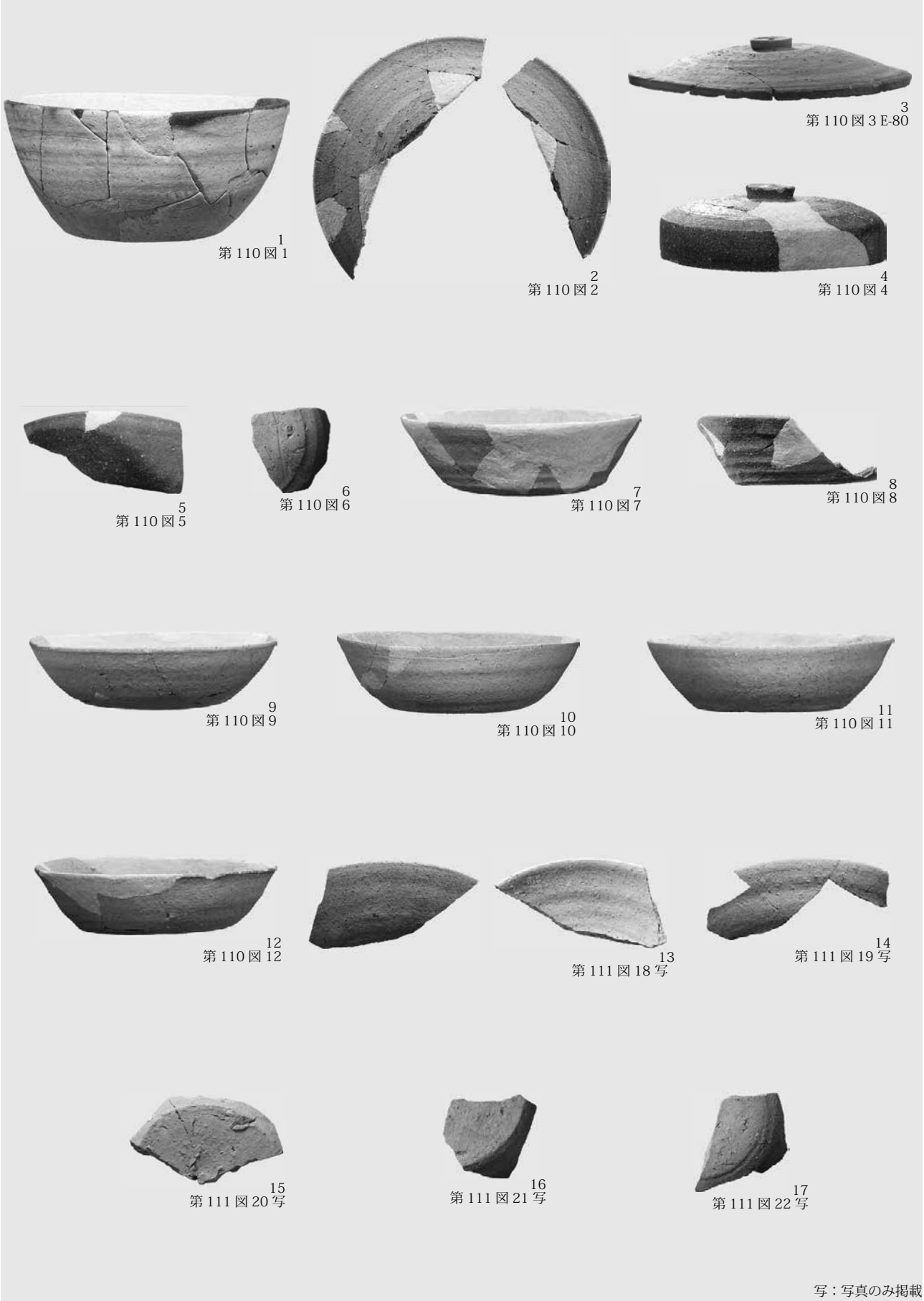


1：SK226　2：SK234　3：SK228　4 ～ 19：SK236（1）　　写：写真のみ掲載

写真図版 72　SK236(1) 他 土坑出土遺物　S=1/3



写真図版 73　SK236 土坑出土遺物 (2)　S=1/3



写真図版 74　SK241 土坑出土遺物 (1)　S=1/3

1
第 110 図 13

2
第 111 図 14

3
第 111 図 15

4
第 111 図 16

5
第 111 図 24 写

6
第 111 図 17

7
第 111 図 23 写

8
第 111 図 25 写
S=1/1

写：写真のみ掲載

写真図版 75　SK241 土坑出土遺物 (2)　S=1/3

1
第 123 図 1

2
第 123 図 2

3
第 123 図 3

4
第 123 図 4

5
第 123 図 5

6
第 123 図 13 写

7
第 123 図 14 写

8
第 123 図 11 写

9
第 123 図 6

10
第 123 図 7

13
第 123 図 10

11
第 123 図 9

12
第 123 図 8

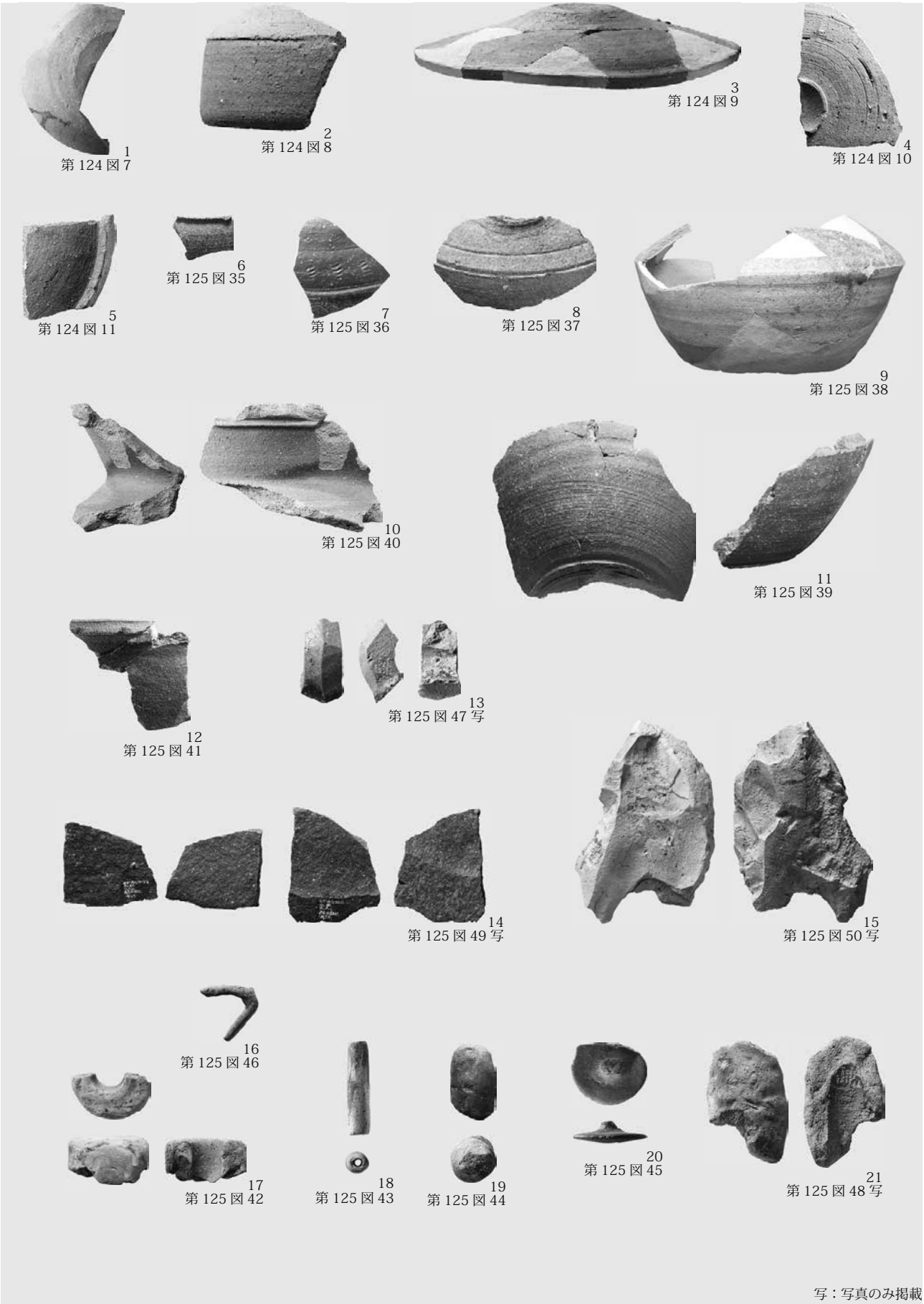
14
第 123 図 12 写

写：写真のみ掲載

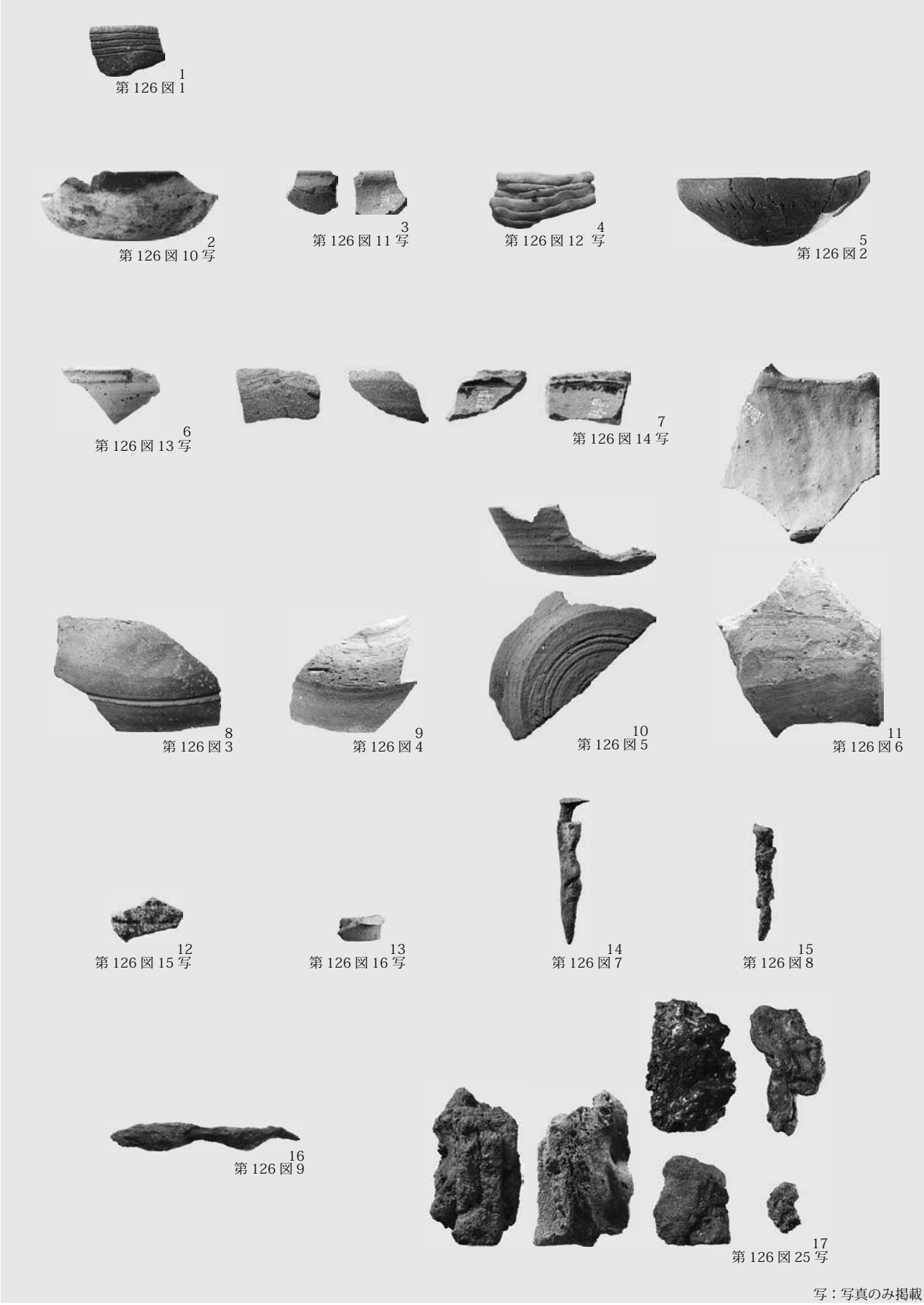
1:P11 2:P217 3:P297 4:P239 5:P299 6:P235 7:P493 8:P4 9:P320 10:P113 11:P248 12:P91 13:P425 14:P217

写真図版 76　ピット出土遺物　S=1/3

写真図版 77　遺構検出面・精査出土遺物 (1)　S=1/3



写真図版 78　遺構検出面・精査出土遺物 (2)　S=1/3



写真図版 79　攪乱出土遺物 (1)　S=1/3

1
第 126 図 17 写

2
第 126 図 20 写

3
第 126 図 18 写

4
第 126 図 19 写

5
第 126 図 23 写

6
第 126 図 21 写

7
第 126 図 22 写

8
第 126 図 24 写

写：写真のみ掲載

写真図版 80　攪乱出土遺物 (2)　S=1/3

1. 甕（C-170） 破損状況 外面

2. 甕（C-172） 破損状況 内面

3. 甕（C-171） 口縁部欠損状況

4. 甕（C-172） 口縁部欠損状況

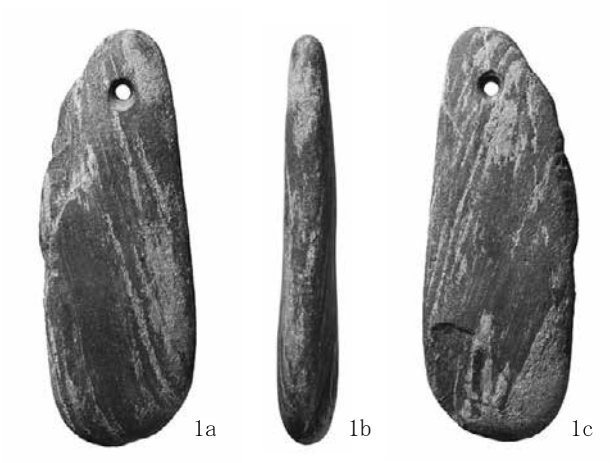
5. 甕（C-173） 口縁部欠損状況

6. ロクロ土師器坏（D-3） 内面の摩滅痕、線状痕

左の白枠部分を拡大

7. 坏（C-86） 内面の摩滅痕、線状痕等（使用痕の可能性あり）

写真図版 81 出土土師器にみられる痕跡　　1-5:SE1,6:SK241,7:SI267



西台畑遺跡第 13 次調査（K-27）

西台畑遺跡第 3 次調査（Kd-001）

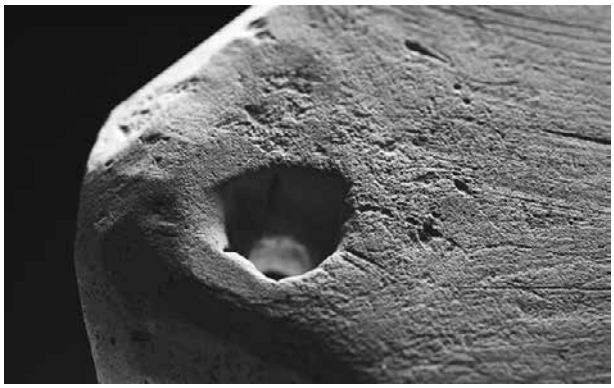
郡山遺跡第 245 次調査（K-8）　　1 ～ 3：S＝約 1/2

1a 拡大

1c 拡大

2a 拡大

2c 拡大



3a 拡大　紐擦れ痕

3c 拡大　紐擦れ痕

写真図版 82　有孔石製品にみられる痕跡

報　告　書　抄　録

ふりがな	にしだいばたけいせきだいじゅうさんじちょうさ
書名	西台畑遺跡第13次調査
副書名	－仙台市あすと長町26街区・集合住宅建設に伴う発掘調査報告書－
巻次	
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第467集
編著者名	鈴木隆、吉田慎太郎、吉川純子
編集機関	仙台市教育委員会
所在地	〒980-0011　仙台市青葉区上杉一丁目5番12号　上杉分庁舎　TEL 022-214-8839
発行年月日	2018（平成30）年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村 04100 北緯	コード 市町村 01033 東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
西台畑遺跡（にしだいばたけいせき）	宮城県（みやぎけん）　仙台市（せんだいし）太白区（たいはくく）あすと長（なが）町（まち）4丁目（ちょうめ）3	38°13′16″	140°53′19″	2017.5.19～2017.11.7	1,660㎡	仙台市あすと長町26街区・集合住宅建設に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西台畑遺跡	包含地 居住域	弥生時代 古墳時代～奈良時代 平安時代 中世・近世	竪穴住居跡、掘立柱建物跡、井戸跡 土坑 溝跡	弥生土器 土師器、須恵器、金属製品、製塩土器、植物遺存体 陶器	・古墳時代前期の集落を確認 ・郡山官衙Ⅰ・Ⅱ期官衙関連集落を確認 ・郡山官衙期の井戸跡を確認

要約	弥生土器はカクランから1点のみ出土した。 古墳時代前期の竪穴住居跡1軒を確認し、本遺跡における当該期の集落域が明らかとなった。古墳時代後期～奈良時代初頭の郡山官衙期を主体とする竪穴住居跡26軒を確認した他、当該期の井戸跡2基を確認した。その他掘立柱建物跡を2棟確認した。また、平安時代の土坑からは土師器、須恵器、金属製品とともに製塩土器が出土した。

仙台市文化財調査報告書 第467集

西台畑遺跡第13次調査

－仙台市あすと長町26街区・集合住宅建設に伴う発掘調査報告書－

２０１８年３月

発行　仙台市教育委員会
仙台市青葉区上杉一丁目5番12号上杉分庁舎
電話　022(214)8839（文化財課）

印刷　株式会社仙台紙工印刷
宮城県仙台市宮城野区苦竹3丁目1-14
電話　022(231)2245